

国立大学入試改善調査研究報告書

昭和 52 年 3 月

国立大学協会
入試改善調査委員会

目 次

○まえがき	5
I 序 論	7
1. 我が国の高等教育の現状	7
2. 大学入学者選抜の意義	7
3. 大学入学者選抜方法	8
○入試改善調査委員会の組織および各種委員会名簿	14
○昭和51年度国立大学入試改善調査研究実施事業計画書	18
II 「国立大学共通第一次試験実施による大学入学者選抜方法の改善」に関する調査研究等の経緯	21
1. 調査研究の経緯	21
2. 今後の予定等	26
3. その他	26
III 「国立大学共通第一次試験実施による大学入学者選抜方法の改善」の概要	27
1. 趣 旨	27
2. 国立大学共通第一次試験の実施機関	27
3. 共通第一次試験の実施方法等	29
4. 第二次試験等	35
5. 共通第一次試験と第二次試験（案）	37
6. 大学入試センター研究部の研究内容（試案）	38
IV 共通第一次試験構想に関する大学および高等学校側等の意見	40
1. 大学側の意見	40
2. 高等学校側の意見	41
3. 公立大学協会との懇談	42
4. その他	43
V 実施方法等に関する調査研究	45
1. アンケート調査の集計結果	45
2. 残された問題の検討	52

3. 要望事項についての再検討	61
4. 各大学における第二次試験のあり方等に関する検討	67
1) 第二次学力検査の学部別平均科目数調	69
2) 各大学における第二次試験のあり方等の検討経過に関する調査結果（中間報告）	70
5. 各国立大学受験者収容可能数調	77
6. 昭和54年度共通第一次試験受験者数予測	78
VI 昭和51年度共通第一次試験実地研究	80
1. 実地研究の主な経過	84
2. 昭和51年度試験問題実地研究実施計画	86
3. 昭和51年度国立大学共通第一次試験実地研究実施要項	91
4. 共通第一次試験実地研究科目別平均点一覧	94
5. 受験者に対するアンケート調査集計について	95
6. 実地研究を実施した48大学試験実施委員会からの実施報告要約	98
VII 各科目別研究専門委員会における調査研究報告	106
1. 問題作成等に関する調査研究の経過	107
2. 国語研究専門委員会報告	116
3. 数学研究専門委員会報告	121
4. 倫理・社会研究専門委員会報告	126
5. 政治・経済研究専門委員会報告	131
6. 日本史研究専門委員会報告	135
7. 世界史研究専門委員会報告	138
8. 地理研究専門委員会報告	143
9. 基礎理科学研究専門委員会報告	150
10. 物理研究専門委員会報告	157
11. 化学研究専門委員会報告	160
12. 生物研究専門委員会報告	166
13. 地学研究専門委員会報告	170
14. 英語研究専門委員会報告	174
VIII コンピューターに関する調査研究の概要	180

1. コンピューター専門委員会報告	180
2. OMRと電子計算組織の選定	192
IX 結 語	201
資 料	
1. 国立学校設置法及び国立養護教諭養成所設置法の一部を改正する法律（抜すい）	207
2. 国立学校設置法規則の1部を改正する省令及び大学入試センター組織運営規則（抜すい）	207
3. 大学入試センターの機構（昭和52年度）	211
4. 昭和52年度大学入試センター予算	212
5. 「国立大学入試改善調査研究報告書（昭和50年3月）」についてのアンケート（照会）	213
6. 国立大学共通第一次試験について（報告）	216
7. 国立大学共通第一次試験構想説明会の開催について（依頼）	218
8. 国立大学共通第一次試験実施に関する意見の学内集約について（依頼）	220
9. 各大学における第二次試験のあり方等に関する調査について（依頼）	222
10. 公立大学の国立大学共通第一次試験成績資料の提供方依頼について（公立大学協会）	232
11. 各大学における第二次試験のあり方等に関する検討について（通知）	233
12. 国立大学共通第一次試験に関するアンケート調査（依頼）	235
13. 共通第一次試験実施に係る受験者収容可能数調査について（依頼）	237
14. 昭和51年度国立大学共通第一次試験の実地研究についてのお願い	239
15. 受験申込書	241
16. 受験申込者名簿	242
17. 受 験 票	243
18. 受験者の心得	244
19. 監督者要領	247
20. 試験調査表	252
21. 実地研究実施についての注意事項	253
22. 受験者に対するアンケート調査票	259
23. 試験実施大学報告書作成について（依頼）	260
24. 大学入学者選抜方法の改善について	263
25. 国立大学入学者選抜期日の一元化について	270

26. 全国共通第一次試験に関するまとめ	272
27. 国立大学入試期一本化に関する参考資料	278
28. 大学進学状況	286
29. 高等教育の規模等の推移	287
30. 高等教育の計画的整備について	288
31. 昭和52年度大学入学者選抜実施要項について（通知）	303
32. 進学適性検査・能研テストの実施経過について	323
33. 高等学校学習指導要領抜粋	326
34. 米国、英国における大学入学者選抜方式と統一テスト実施機関の概要について	345
35. 科目別度数分布図	354
36. 科目別正答率一覧	369
37. 解答別件数表	370
38. 選択科目状況表	371
39. 昭和50年度国立大学共通第一次試験（実地研究）と昭和51年度大学入学試験との成績の 相関図	378
40. 米国におけるテスト結果の一覧	383
41. 米国大学テスト協会（ACT）の共通入試テストの申込用紙	387
○昭和51年度国立大学共通第一次試験実地研究試験問題	403

まえがき

大学進学希望者は、急激に増加し、該当年令人口の半数にも達しつつあるが、一方、大学の収容力に限界があるため、大学入学者選抜の現状は、特定の大学・学部志願者が集中する激しい入学競争や、学力検査偏重、高等学校教育の目標や内容を逸脱したいわゆる難問奇問が出題されている等多くの複雑な問題があり、大学教育はもとより、高等学校以下の教育にまで重大な影響を及ぼしている。

これらの諸問題を解決するためには、学歴偏重、有名校偏重の社会的風潮の是正や、国公立各大学の特色ある充実を図るなどの努力が必要であるが、もとより入学者選抜方法そのものの改善が、その第一歩として重要である。

国立大学協会は、その設置以来、このような見地から、大学入学者選抜方法の改善について、第2常置委員会において検討を続けてきたが、その改善の方策として、受験生に全国共通の第一次試験を課し、各大学・学部等がその性格に応じて第二次試験を行うことが、諸種の選抜方式を比較検討した結果、入学者選抜方法の改善に資するのではないかという論議がなされ、昭和45年以来、その具体的な調査研究に着手したのである。

この共通第一次試験方式について、入試調査特別委員会、入試改善調査委員会及び各種専門委員会を設置し、昭和48～51年度にわたり、文部省から調査研究経費の交付を受け、3回にわたる高等学校生徒を対象とした実地研究、国立大学に対する数回にわたる、アンケート調査による意見集約、高等学校側等からの意見聴取を行う等の調査研究を行ってきた。

この結果、昭和51年6月の国大協総会において、「共通第一次試験方式の実施が大学入試の改善に資するもの」と判断し、同年11月の総会において、「国立大学入学者選抜期日の一元化」とともに、共通第一次試験の実施による大学入学者選抜方法の改善は、昭和54年度入学者選抜から実施可能である」との結論を得、文部大臣にその実施方を要望したのである。

今後は、その実施と大学入学者選抜に関し調査研究を行う「大学入試センター」と文部省、各国立大学が、共通第一次試験の実施を推進することとなるが、国大協は、「大学入試センター」と協力し、よりよい大学入学者選抜方法の改善をめざし、調査研究を続けていくが、ここに、数年にわたる共通第一次試験実施による大学入学者選抜方法の改善に関する調査研究の結果をとりまとめ、報告する次第である。

この調査報告書は、国立大学入試改善調査研究報告書としては、昭和49年3月（中間報告）50年3月、51年3月に刊行したのに引続く4回目であるが、過去における詳細な調査研究の経過は、既刊の

報告書にゆずり、共通第一次試験の構想及び諸種の分析資料、参考資料を中心に構成し、諸方面の参考に供することとした。

この調査研究を行ってきた第2常置委員会、入試調査特別委員会ならびに入試改善調査委員会の各委員及び各専門委員会委員の多年にわたるご尽力に敬意を表するとともに、この調査研究に当って、調査研究経費を交付された文部省、有益なご意見ご示唆をいただいた全国高等学校長協会等の高等学校側、大学基準協会、公立大学協会、私立大学団体、日本教職員組合等各方面からのご協力に対して、深く感謝の意を表するものである。

なお、国大協においては、先に述べた各大学における特色ある充実に関する検討が、大学入学者選抜方法の改善の調査研究と並行して行われており、「大学格差問題特別委員会」が鋭意検討を続けている。

I 序 論

1. 我が国の高等教育の現状

我が国の高等教育は、第一次世界大戦後から拡張に転じ、第二次世界大戦後の約30年間に急激な量的拡大が行われ、現在は質的充実期にあるが、大学等への進学希望はなお増加の傾向にある。

すなわち、明治年間における高等教育段階の該当人口当りの在学率は1%以下の約4万人であったが、大正14年度には2.5%に上昇し、在学者数は約13万人と増加した。昭和30年度に至ると大学・短大等への進学率は10.3%となり、在学者数約70万人となったが、その後の20年間は、著しく伸長し、昭和51年度には、大学・短大への進学率は実に38.6%（大学27.3%，短大11.3%）に達し、約60万人が入学し、在学者数は約210万人をかぞえるに至った。これは、該当年令人口10人のうちの4人が、大学・短大へ進学していることであり、専修学校及び専門学校を含めて、中等段階以後教育（Post-Secondary Education）として考えると、実に該当年令人口の半数が在学している。

これらの高等教育の量的拡大と大学進学率の上昇傾向は、必然的に大学の機能と構造の変化をもたらし、いわゆる「大学の大衆化」をひきおこした。この主な要因は、戦後における経済の高度成長と高学歴修得者に対する社会的需要の増大等と、該当年令人口の90%以上が在学する後期中等教育の普遍化の圧力によるものと考えられる。

また、これらの要因を背景にして、学校教育制度に基づく正規の学校を卒業していなければ、社会的地位の決定に際して、不利となる社会的慣行がひきおこしている学校教育中心主義と、高学歴修得者の増加に伴って、著名な大学の卒業資格が、すべてに優先するという学歴主義から、特定の大学・学部等に入学志願者が集中する等の「受験戦争」といわれる現象を生じている。

2. 大学入学者選抜の意義

義務教育段階以後の教育段階、特に高等教育段階においては、その教育課程の専門化が進むにつれて、当該教育機関は、教育水準の質的維持と教育体系の整序性の維持のために、教育段階の接点において、下級教育段階における教育効果を測定することによって、あるいは、入学後の不断の教育効果を測定することによって、特定の教育課程の履修に必要な能力と適性を具備した最適の条件を有する被教育者を「選抜する」必要が生ずる。

他方、被教育者にとっては、能力・適性に応じて、すべての者に教育の機会が均等に与えられるべき

であるとの原則に立って、教育段階の接続点で、その能力・適性が十分発揮できるような上級教育機関の教育課程に「選抜される」もしくは「振り分けられる」ことを常に期待しているといえよう。

しかし、教育機関自身では、教育する人材の質量を決定するすべての機能を持っていない。社会全体の動向と関連して、これが決定される政策的要素をも含んでいるので、被教育者の「振り分けられる」期待に対して、教育機関が独自に理想的にこたえることは、非常に困難である。

現実の問題として、大学が社会の要請にも対応し、また基礎的な教育研究の水準の維持を目的として、学部段階の教育課程における学生の質量を定めている以上、すべての入学志望者の「振り分けられる」期待に応ずることは困難であり、大学が「選抜する」機能を発揮しなければ、大学における教育研究の水準を維持することはもちろん、社会の要請に対応した資質ある人材を養成することができない。

したがって、大学入学者の選抜は、基本的には、入学志願者の高等学校における主として必修科目による基礎的な学習の達成の程度を評価することによって、大学教育に必要な基礎的能力・適性を判定するとともに高等学校における個人の適性・能力に応じて選択した選択科目による学習の達成の程度を検査することによって、志望する大学・学部の目的、特色、専門分野等に応じて重視される能力・適性の程度を判定するなど、学力検査の成績、調査書の内容、実技検査の成績、面接の結果、小論文の評価等の多元的な資料によって、入学定員を考慮しつつ、当該大学・学部の教育により適する者を決定するために実施されるものである。

同時に大学入学者の選抜は、高等学校教育と大学教育とを関連づける重要な教育的業務であるので、単に大学の立場だけで考えるべきものではなく、高等学校以下の教育の正常な発展を阻害することなく、むしろこれを助長するよう十分配慮するとともに、選抜の方法とその結果が公正かつ妥当なものとして、志願者はもとより社会一般の信頼を受けるよう実施されるべきものである。

3. 大学入学者選抜方法の検討

先に述べた大学入学者選抜の意義に基づいて、その改善を検討する基本的条件として、

- ① 入学者の選抜は、大学の責任において行うこと
- ② その選抜は、学力検査の成績のみによって行うことなく、可能なかぎりの多元的な検査等の成績・結果及び資料によって、公正かつ客観的に、入学志願者の適正・能力を判定し得る妥当な方法によること。
- ③ 選抜が、下級学校の教育を歪めることなく、その教育を助長するものであること。

- ④ 選抜が、青少年の進路決定という見地から、社会的影響を持つことに留意し、単に大学の立場だけで考えるべきものでないこと。
 - ⑤ 選抜は、時間的に能率的であること。
 - ⑥ 入学者の選抜方法の改善の検討にあたって、理想論を終始することなく、現状を改善しつつ、本来の姿に近ずけるための具体性をもったものでなければならないこと。
- 等があげられよう。

これらの基本的条件を念頭におき、国立大学協会においては、協会設置以来、第2常置委員会において入学者選抜方法の改善について検討を行ってきた。その際、各大学が学部・学科の性格に応じて第二次試験を行うことを前提とするならば、受験生全体に全国共通の第一次試験を課することは入学者選抜方法の改善に資するのではないかという論議がなされた。

大学入学制度の根本的な改革は本質的には、わが国の教育制度そのものの改革と相俟って考慮されなければならないものであろう。

しかし、教育制度や大学そのものの改革は長い年月をかけて、慎重に検討していかなければならないと思われる。それにも拘らず、大学入学試験の改善は今日現実の緊急な問題として社会からの強い要望がある。

わが国の大学入学志望者は年とともにその数を増し、それに対応して大学の規模や数も増大してきた。しかもなお志願者の数は大学の収容能力をはるかに上廻っているのが現状である。従って大学入学者は何等かの選抜試験によって判定しなければならない実情にある。

このような現状のもとで、最近受験のための競争が激化し、いたずらに入学試験対策に追われ、高等学校がしだいに受験予備校化するおそれがあるという問題がおこってきた。

このため本来の高等学校教育が強い歪みを受けつつあるのではないかという憂慮すべき事態を将来するに至った。

共通第一次試験は高校における一般的学習の達成の程度を評価することに力点をおいた国立大学入学のための学力試験である。それに各大学で行う第二次試験を各大学の学部乃至は学科に対する適性評価ならびに総合力や思考力の判定に資する試験として行うことによって、適切な入学者選抜を行おうとするものである。

すなわち、

1. 共通第一次試験の問題は国立大学の教官によって作成されるが、それは多数教官によって衆知をあつめて出題することになる。従って、

- (1) 高校教育をそこなうような問題を避けることができ、その結果として、
- (2) 従来批判されたような不適當な問題やいわゆる難問奇問はなくなり、或いは
- (3) 受験技術的な問題もなくなるであろう。つまり、大学入試が高等学校を予備校化するきらいがあるというそしりをまぬかれ得ることになると思われる。また、

2. この共通第一次試験は高校教育における学習の達成程度を評価することに目標をおいているので、その出題範囲は一般的には高校教育における必修教科・科目に対応することになろう。

従って、問題の適正化と共に、高校における平素の学習による実力を問うこととなり、極度に歪められた受験準備に左右されることは少なくなろうと思われる。更に、

3. 各大学の学部もしくは学科における適性資質の判定を目標とする第二次試験の出題範囲は高校教育における選択教科・科目に対応することになると考えられる。

これらのことから、

- (1) 従来の「一発勝負」に対する危惧は少なくなり、また、
- (2) 基礎的な学力試験と受験生が志向する専門分野にふさわしい試験との2本建になっているため、従来の入学試験に比して、

大学教育に対する適正評価をよりの確にする可能性が高いであろうと考えられる。

以上のように、共通第一次試験と第二次試験とを組合わせた入試方式は、高等学校教育の正常化に多少なりとも寄与することになるであろうと思われる。そもそも高校教育は広い教養と、将来生徒が志向する分野で発展していくための素地をつくるものであるとするならば、大学入学試験は高校における学習の達成度を客観的に評価し、さらに大学における各専門教育への適正を的確に判断するためのものであるべきであろう。

しかし、従来の大学入学試験についてはかなりの批判もあり、かつ反省もなされてきている。すなわち、

- (1) 1回の選抜試験によって入学の適否を判定することについて、いわゆる「一発勝負」という批判のあること。また、
- (2) 現在の入試における教科・科目の設定やその評価のあり方は受験生の適性の的確な判定には必ずしも適切なものではあるまいという意見のあること。またこれに関連して、
- (3) 総合力や思考力等を判定する上で必ずしも妥当なものではないという批判のあること。更にまた、
- (4) 試験出題が高校程度をこえたり、高校教育から遊離してはいないかという疑問や、いわゆる難

間奇問に対する大きな批判のあることなどが挙げられる。

そして、これらのことも一因となって、いわゆる「受験地獄」を激化させていると思われることは否むことができないであろう。

一方、最近、高等学校ではその教育の本旨を生かすことを目的として、大幅にカリキュラムを改変し、生徒の多様化に対応した選択制をとり入れた。そして昭和51年度からは新カリキュラムで履修した生徒を卒業させることとなった。

大学の入学試験制度も、この新しい機運に対応し、あわせて従来の弊害を改善する必要があるように思われた。入試改善調査委員会は、選抜試験を行うことは避けることができないという現状判断を前提として、共通第一次試験について鋭意検討を重ねてきた。その結果、全国立大学の共通第一次試験と各大学が学部もしくは学科の特質に応じて行う第二次試験とを組合せる入学試験方式は、

- (1) 多少とも高等学校における教育の正常化に寄与し、
- (2) 入試問題の適切化ならびに「一発勝負」による判定の是正に資することができ、受験生に対して適正な客観的判定をすることになるのではないかと判断するに至った。

なお、共通第一次試験と共に第二次試験を課することは、受験生に対して二重の負担となり、この意味から「受験地獄」の解消に資するところがないであろうという批判があり得る。しかし、

- (1) 「一発勝負」を避けること、また
- (2) 正常な高校教育という基礎にたつて、よりの確な選抜試験を行う。

という趣旨からすると、止むを得ない負担と考えられる。また、物理的にはまさに二重の負担をかけることにはなるが、この負担は従来の入学試験によってもたらされた「受験地獄」とは本質的に異なるものであらうと思われる。

一方、この入試方式はそれぞれの大学にとって、つぎのような影響があると考えられる。

(1) 共通第一次試験は統一的集中処理で行われることは上述した。これに対応して各大学が独自に行う第二次試験ではその出題教科・科目を従来とくらべて少なくすることが考えられるので、出題や採点関係等についてはむしろその負担が軽減される方向を辿ることが予想される。しかし、

(2) 共通第一次試験と第二次試験との2度の試験業務を行うことになるので、その点では明らかに負担が加重されるようになる。更に、

(3) 二つの試験期日を設定するために、大学の研究教育に少なからぬ影響を与えることが考えられる。

大学側にとって不都合なこれらの問題は避けることはできないが、大学入学試験を改善しようとい

う基礎にたつて、国立大学が協同して適正な共通の入学試験を行うのであるという立場からこれをとらえる必要がおこるであろうと思われる。

共通第一次試験は国立大学の受験志願者全員を対象とすることになるが、その数は現状においても40万をくだらないであろうと想定される。

従つてこれら多量の試験業務を処理するためには当然にコンピューターによる処理を考えなければならない。

本委員会はこのことのために多くの検討を重ねることとなった。

1. 多量の試験業務を処理するため、入試実施機関の組織と機能ならびに実施方策等の入試実施機構は従来とは著るしく態様が異なってくることが予想される。

このため、本委員会に「実施方法等調査専門委員会」を設けて検討を重ねてきたが、ようやくその成案を得た。その内容は以下この報告書に記述されることになる。

2. 一方、40万を想定する受験者の答案処理は、従来のままの設問方式ならびに採点処理方式では到底これに対応することはできない。いきおい、設問方式や解答方式はコンピューター処理に耐えるものでなければならない。しかも、共通第一次試験は高校教育における学習の達成程度を評価するという趣旨にたつているので、これにふさわしい問題でなければならない。

このような重要課題を調査研究するために、本委員会に「科目別研究専門委員会」が設置された。これは国立大学の専門教官によって構成されることとしたが、上記のような目的にそう問題作成について鋭意研究が積み重ねられてきた。

3. 共通第一次試験の試験業務をコンピューター処理によるためには、コンピューターを駆使するための専門的知識と技術とが必要になる。更に、設問方式や解答方式を検討する上で、上記科目別研究専門委員会からの要請に対してコンピューター処理を如何にすべきかの研究も必要である。

これらの問題を検討するため、本委員会に「コンピューター専門委員会」が設置され、当該諸問題についての調査研究が行われた。

各種専門委員会において調査研究してきたことから、実地研究によって具体性のあるものとしてかなりの成果を挙げることができた。これらについて報告書に記述されている。

高校教育における学習の達成程度を評価するという一般的な要請に対し、適切な出題をすることは可能である。しかし、多量処理をするためには客観テストによらざるを得ないので、そこに一つの問題が提起された。この研究においてはマークシート方式を採用したが、つぎのようないくつかの問題を摘記することができよう。

(1) 客観的テストとはいっても、従来のいわゆる〇×式の域を脱することはできる。すなわち、出題に対する的確な読解力、内容に対する理解力、あるいは思考過程をよりの確に判定する点ではかなり前進することができた。また、

(2) 具体的事項についていえば、例えば数学、物理その他における計算問題や自然科学系における図式等について、その出題の可能性をかなりに高めることができた。しかし、これらについても限度のあることは否めない。また、

(3) 国語や外国語はもとより、他の教科・科目についても、記述的解答や一般的にいて総合力、思考力を評価することは十分にはできないことを認めざるを得ない。

以上のような問題については今後もなおその解決のために研究を重ねる必要を感じるが、他方、共通第一次試験と各大学独自の第二次試験とを組合わせて相互に補完するという配慮が必要になるであろうと思われる。

入試改善調査委員会の組織および各種委員会名簿

入試改善調査委員会の組織

入試改善調査委員会は具体的研究を行うため下記の専門委員会を設けて共通第一次試験についての調査研究を行った。

(1) 入試改善調査委員会

入試改善調査委員会は調査研究の総括的機関として下記各専門委員会の業務の連絡調整を図りつつ全般的な作業の推進に努めた。

なお、実地研究を行うために48大学に実施委員会を組織してその実施に当たったが、実施に至る過程において本委員会ならびに各専門委員会との連絡会議を十分に行い、実施について遺漏のないことを期した。

(2) 実施方法等調査専門委員会

委員16名をもって構成し、共通第一次試験を実施する場合の実施方法等具体的諸問題について調査研究を行う。

(3) 科目別研究専門委員会

標準問題の作成に関する調査研究をするため、国語（現代国語・古典Ⅰ甲）、社会（倫理・社会、政治・経済、日本史、世界史、地理A・地理B）、数学（数学一般・数学Ⅰ）、理科（基礎理科、物理Ⅰ、化学Ⅰ、生物Ⅰ、地学Ⅰ）、外国語（英語B）の5教科16科目について各科目ごとに科目別研究専門委員会を設けた。各専門委員会はおよそ10名の委員を以て構成し、標準問題の作成、電子計算機により処理可能な問題形式等について調査研究を行った。

全科目に共通の基本方針の検討と科目間の調整等のため、各科目別研究専門委員会の委員長による連絡会議をもち、あるいは他の専門委員会または入試改善調査委員会との合同会議をもつなど全体的調整に遺漏のないことを期した。

(4) コンピューター専門委員会

コンピューター処理に関する専門的な調査研究を行うため委員17名（内12名は各科目別研究専門委員会の委員1名ずつ）をもって構成された。調査研究の進行中、科目別研究専門委員会ならびに実施方法等調査専門委員会等との連携に意を用いた。

各種委員会名簿

入試改善調査委員会委員名簿

	氏名	大学名	備考
委員長	岡本道雄	京 都 大	(小委員)
副委員長	加藤陸奥雄	東 北 大	(小委員)
副委員長	若槻哲雄	大 阪 大	(小委員)
委員	松本秋男	北見工大	
委員	惟子康雄	弘 前 大	
委員	市古宙三	お茶の水大	
委員	林健太郎	東 京 大	
委員	湊秀雄	東 京 大	(小委員)
委員	小野周	東 京 大	(小委員)
委員	川上正光	東京工業大	
委員	小山正一	東京商船大	
委員	川村亮	東京農工大	(小委員)
委員	桜場周吉	静 岡 大	
委員	丸井文男	名古屋大	(小委員)
委員	佐野幸吉	名古屋工大	
委員	三上美樹	三 重 大	
委員	永田雅宣	京 都 大	(小委員)
委員	増尾富士雄	京都工織大	
委員	細川藤次	神 戸 大	(小委員)
委員	片山嘉雄	岡 山 大	
委員	飯島宗一	広 島 大	
委員	圓藤真一	香 川 大	
委員	河原一男	長 崎 大	
委員	岳中典男	熊 本 大	
委員	蟹江松雄	鹿 児 島 大	

実施方法等調査専門委員会委員名簿

○印 学長委員

	氏名	大学名	備考
委員長	加藤陸奥雄	東 北 大	○(小委員)
委員	松本秋男	北見工大	○
委員	惟子康雄	弘 前 大	
委員	湊秀雄	東 京 大	(小委員)
委員	小野周	東 京 大	(小委員)
委員	清水留三郎	東 京 大	
委員	川村亮	東京農工大	(小委員)
委員	竹村松男	金 沢 大	
委員	丸井文男	処古屋大	(小委員)
委員	三上美樹	三 重 大	○
委員	永田雅宣	京 都 大	(小委員)
委員	秋田宗平	京都工織大	
委員	細川藤次	神 戸 大	(小委員)
委員	片山嘉雅	岡 山 大	
委員	上垣内孝彦	広 島 大	
委員	河原一男	長 崎 大	
委員	具島兼三郎	長 崎 大	○

科目別研究専門委員会委員名簿

教科	科目	氏名	大学名	備考
国語	現代国語 古典	今井源衛	九州大学	
数学	数学一般	戸田宏	京都大学	
社会	倫理・社会	阿部正雄	奈良教育大学	
	政治・経済	林周二	東京大学	
	日本史	佐藤進一	名古屋大学	
	世界史	久村因	名古屋大学	
	地理A 地理B	岩本政教	熊本大学	
理科	基礎理科	永野為武	东北大学	
	物理	鈴木保正	新潟大学	
	化学	野村祐次郎	東京大学	
	生物	山田真弓	北海道大学	
	地学	岩生周一	千葉大学	
外国語	英語	榎井迪夫	広島大学	

試験実施委員会委員名簿一覧

大 学 名	委 員 長	委 員		委 員 (事務担当)	
北 海 道 大 学	藤 目 清 一 郎	魚 住 悟	大 朝 雄 二	浅 野 好 司	入 学 主 幹
北 海 道 教 育 大 学 (函 館)	舟 越 芳 男	小 名 禊 郎	中 川 正 正	堤 淳	事 務 課 長
室 蘭 工 業 大 学	菊 地 千 之	吉 田 正 夫	本 田 孝 二	長 嶺 勲	教 学 生 課 長
小 樽 商 科 大 学	麻 田 四 郎	武 本 昌 三	沼 田 久	堀 越 保	学 生 課 長
带 広 畜 産 大 学	大 畑 荘 一	佐 藤 栄 蔵	瀬 戸 幸 三	入 谷 誠	学 生 課 長
旭 川 医 科 大 学	下 田 晶 久	笹 森 秀 雄	星 野 了 介	高 木 幸 雄	学 生 課 長
北 見 工 業 大 学	梅 沢 利 二	棟 徹 夫	清 水 昭 典	高 坂 洋	教 务 課 長
弘 前 大 学	秋 月 観 映	椎 子 康 雄	高 松 亨 明	宮 永 吉 一	入 学 主 幹
岩 手 大 学	大 川 将 将	佐々木 達 夫	鬼 沢 貞 貞	須 藤 穉 義	入 学 生 課 長
東 北 大 学	渡 利 千 波	若 林 博 博	尾 形 五 郎	横 田 芳 太郎	入 学 主 幹
秋 田 大 学	綿 貫 勤	佐 藤 怜 井	上 利 夫	横 田 芳 太郎	入 学 生 課 長
山 形 大 学	竹 内 芳 男	藤 田 寛 海	花 屋 馨	本 間 幸 雄	学 生 課 長
福 島 大 学	鏡 道 夫	吉 田 俊 博	町 田 俊 彦	正 法 地 幹 雄	学 生 課 長
茨 城 大 学	岡 本 茂	野 口 元 大	中 村 啓 二	渡 部 和 夫	学 生 課 長
宇 都 宮 大 学	若 林 荘 一	龟 山 弘	相 馬 恒 一	長 谷 川 泰 造	学 生 課 長
群 馬 大 学	内 田 元 彦	宮 崎 晴 夫	猪 熊 猛 之	宮 沢 典 雄	学 生 課 長
千 葉 大 学	竹 内 長 士	吉 田 規 男	青 木 孝 悦	早 沢 正 美	入 学 主 幹
東 京 大 学	早 島 鏡 正	大 規 磐 男	志 村 博 康	堀 津 省 二	入 学 主 幹
一 橋 大 学	田 島 壮 幸	竹 下 守 夫	藤 岡 貞 彦	市 川 一 茂	入 学 主 幹
新 潟 大 学	村 川 新 十 郎	今 井 道 児	田 中 謙 輔	木 村 茂 文	学 生 部 次 長
富 山 大 学	岩 渕 富 治	田 中 専 一 郎	広 岡 脩 二	藤 丸 博 文	学 生 部 次 長
金 沢 大 学	竹 村 松 男	松 山 昇	岩 佐 幹 三	山 田 幸 造	学 生 課 長
福 井 大 学	中 峠 哲 朗	川 端 哲 雄	加 納 源 太郎	久 保 田 時 男	学 生 課 長
山 梨 大 学	加 藤 国 雄	西 宮 克 彦	荻 原 能 男	兔 東 保 之 助	学 生 課 長
信 州 大 学	中 川 大 倫	横 井 政 時	上 田 五 雨	奥 村 公 司	学 生 課 長
岐 阜 大 学	石 原 正 也	片 岡 敏 雄	中 井 幹 幹	梶 本 眞 蔵	学 生 課 長
静 岡 大 学	市 川 常 男	大 久 保 泰 甫	坂 井 崇 三	菊 地 包 健	学 生 課 長
名 古 屋 大 学	田 浦 武 雄	大 久 保 泰 甫	福 井 崇 三	大 山 下 修 司	入 学 主 幹
三 重 大 学	吉 田 克 己	赤 塚 章 雄	大 河 平 行	大 山 下 修 司	入 学 主 幹
滋 賀 大 学	村 田 昇	本 郷 次 雄	吉 井 典 章	鈴 木 佳 彦	学 生 課 長
京 都 大 学	岡 田 壽 太 郎	木 下 圭 三	福 島 徳 寿 郎	金 子 健 一	入 学 主 幹
大 阪 大 学	上 原 喜 八 郎	水 野 克 彦	西 田 俊 夫	荒 木 満 徳	入 学 主 幹
神 戸 大 学	松 田 和 久	新 保 博	溝 口 史 郎	飯 田 達 雄	入 学 主 幹
奈 良 教 育 大 学	坂 野 口 梶	木 村 博 一	市 川 米 太	田 中 健 健	教 务 課 長
和 歌 山 大 学	浅 野 一 敞	松 尾 靖 男	加 藤 林 幸 毅	村 松 哲 彦	学 生 課 長
鳥 取 大 学	佐 藤 栄 義	宮 本 順 吉	栗 北 山 幸 男	横 田 静 三 寿	学 生 課 長
岡 山 大 学	福 田 襄 之 介	岩 佐 順 吉	北 山 幸 男	横 田 静 三 寿	入 学 主 幹
広 島 大 学	竹 山 晴 夫	上 垣 内 孝 彦	冲 原 豊 典	豊 松 隆 之 人	入 学 主 幹
山 口 大 学	村 上 允 英	山 本 泰 敏	木 藤 正 健	麻 生 泰 人	入 学 主 幹
香 川 大 学	石 川 俊 夫	妻 鳥 敏 彦	井 原 健 雄	古 賀 純 二	入 学 主 幹
愛 媛 大 学	浅 田 泰 次	西 泰 英	牧 野 修 二	堀 井 誉 立	学 生 課 長
高 知 大 学	浅 藤 修 策	野 町 幸 男	上 森 千 秋	影 井 吉 夫	学 生 課 長
九 州 大 学	深 友 町 郁 彌	河 野 晴 通	上 森 千 秋	佐々木 輝 雄	入 学 主 幹
長 崎 大 学	友 岡 学 一	川 崎 昭 雄	河 上 西 啓 祐	原 須 磨 麿	入 学 主 幹
熊 本 大 学	佐 藤 昭 一	西 岡 昭 雄	上 西 啓 祐	原 須 磨 麿	入 学 主 幹
官 崎 大 学	遠 藤 尚	原 田 雅 登	隈 江 月 晴	山 元 省 亘	学 生 部 次 長
鹿 児 島 大 学	平 田 好 成	篠 原 優	西 山 昭 徳	弘 津 章 市	学 生 課 長
琉 球 大 学	山 里 栄 昭	大 城 武	与 儀 憲	上 原 正 功	学 生 課 長

昭和51年度国立大学入試改善調査研究実施 事業計画書

昭和51年度においては、従来の入試改善調査委員会および附属専門委員会を存置して、昭和48、49年度に引き続きそれぞれの担当事項について更に検討を進め、次の諸点に重点を置いて調査研究を行う。

- ① 昭和49、50年度にまとめられた「国立大学入試改善調査研究報告書」について、説明会の開催、アンケート調査等により、全国立大学にその趣旨を伝え、意見を求める。
- ② 高等学校関係者に対しても報告書の趣旨の周知を図り、広く意見を求める。
- ③ 上記の意見等により、専門的、技術的問題や「試験問題実地研究」を含め、再検討を必要とする問題の調査研究を行う。
- ④ 国立大学共通第一次試験の実施機関である国立大学入試センター（仮称）についての調査研究を行う。
- ⑤ 以上の調査研究を基礎として、国立大学共通第一次試験についての国立大学協会の意見をとりまとめる。

実施計画

1 国立大学共通第一次試験の実施に関する調査研究

- (1) 入試改善調査委員会を設け、各専門委員会の調査研究と緊密な連携のもとに国立大学共通第一次試験実施に関する総括的調査研究を行う。

入試改善調査委員会は、委員25人をもって構成する。

- (2) 実施方法等調査専門委員会を設け、国立大学共通第一次試験を実施する場合の実施方法等具体的諸問題について調査研究を行う。

実施方法等調査専門委員会は、委員16人をもって構成する。

2 標準問題の作成等に関する調査研究

- (1) 国語、社会、数学、理科および外国語の5教科16科目について、13の科目別研究専門委員会を設け、標準問題の作成、問題の妥当性について分析、研究を行うとともに、電子計算機により処理可能な新問題形式等の調査研究を行う。

科目別研究専門委員会は16科目につき、13の委員会を次の大学に置く。

[16科目の科目名および設置大学]

(国 語)	現代国語, 古典 I 甲	(九 州 大 学)
(社 会)	倫 理 ・ 社 会	(奈良教育大学)
	政 治 ・ 経 済	(東 京 大 学)
	日 本 史	(名 古 屋 大 学)
	世 界 史	(名 古 屋 大 学)
	地 理 A, 地 理 B	(熊 本 大 学)
(数 学)	数学一般, 数学 I	(京 都 大 学)
(理 科)	基 礎 理 科	(東 北 大 学)
	物 理 I	(新 潟 大 学)
	化 学 I	(東 京 大 学)
	生 物 I	(北 海 道 大 学)
	地 学 I	(千 葉 大 学)
(外国語)	英 語 B	(広 島 大 学)

各科目別研究専門委員会は、委員約10人をもって構成する。

科目別研究専門委員会の委員長は、当該専門委員会を置く大学の教官をもって充てる。

- (2) 科目別研究専門委員会委員長連絡会議を設け、標準問題の形式、内容、程度等について全科目共通の基本方針を検討するとともに、科目間の調整等を行う。

科目別研究専門委員会委員長連絡会議は、科目別研究専門委員会の委員長13人をもって構成する。

- (3) コンピューター専門委員会を設け、科目別研究専門委員会その他の委員会と連携をとり、国立大学共通第一次試験の試験問線について電子計算機を試験的に使用し、大量処理方式等の検討を行う。

コンピューター専門委員会は、委員18人（内13人は各科目別研究専門委員会の委員1人をもって充てる。）をもって構成する。

3 試験問題実地研究調査

実施方法等調査専門委員会が実施主体となり、全国約50試験場、計約12,000人の高校生につき、科目別研究専門委員会作成の試験問題につき実地試験を行い、その結果にもとづき、各専門委員会はそれぞれの担当事項について更に検討を進める。

4 報告書の作成等

国立大学共通第一次試験の実施に関する調査研究および標準問題の作成等に関する調査研究の結果について報告書を作成し、関係方面に配布する。

5 事業は昭和51年4月から昭和52年3月までの間に実施する。

なお、昭和51年度においては、東京大学に付設された国立大学入試改善調査施設が、全国立大学の協力を得て上記事業の事務を担当する。また、事業に要する経費は、国立学校特別会計により配賦を受けた関係大学において支出する。

Ⅱ 「国立大学共通第一次試験実施による大学入学者選抜方法の改善」に関する調査研究等の経緯

Ⅰ. 調査研究の経緯

- (1) 国立大学協会の第二常置委員会は、入学試験等の諸問題について連絡協議を行う委員会であるが、この委員会において、昭和44年11月に、東京大学入試制度調査委員会委員長等の出席を求め、東京大学の「入試制度をめぐる問題点」(44. 10. 1)の説明を受け、その中で述べている「入試の一目的である高校課程の学力をテストするという側面については、たとえば、大学人（および場合によっては、高校側の参加を得て）による統一テストで十分所期の目的を達成でき、統一テストが入試の負担の軽減に役立てば、それだけ各大学はキメの細かい選抜を行い得る」ことに関し、意見交換を行った。また、第二常置委員会は、11月末に各大学に「入学試験改善に関するアンケート」の照会を行った。
- (2) 昭和45年2月に、第二常置委員会と東京大学入試制度調査委員会が懇談し、また6月には、「統一テスト」について意見交換を行った。昭和45年7月～11月にかけて、数回にわたる第二常置委員会で、全国立大学共通第一次試験について、基本的な意見の交換、問題点の指摘が行われた。その過程で、「現行入試制度の欠陥」「入試の本質」、「入学者決定方式の諸類型（全員入学方式、抽せん入学方式、推せん方式、調査書方式、学力テスト方式（競争試験）、学力テスト方式（資格適性試験）、併用方式、学力テスト（資格適性試験）＋抽せん方式、学力テスト（競争試験）＋抽せん方式、抽せん＋学力テスト（競争試験）方式、学力テスト調査書併用方式、面接との併用方式）」の検討等、現行入試制度改善の具体策が協議されたが、大学入学者選抜は、大学教育の一環であるとの見地から、国立大学が共同で行う、全国立大学共通第一次試験議と各大学がその特性に応じた適性能力を判定する第二次試験との組合せによる入試の改善策が有力な意見となった。
- (3) 昭和45年11月の総会において、全国共通第一次試験の実施の可否について討議し、その調査研究のための調査委員会設置のアンケートを各大学に照会することを決定し、昭和46年2月に、第二常置委員会がこの集計を報告したが15大学中62大学の賛成で、昭和46年2月に「入試調査特別委員会」が設置され、本格的な調査研究を開始した。昭和47年9月、入試調査特別委員会は、それまでの検討結果を整理して、「全国共通第一次試験に関するまとめ」として公表し、各国立大学の意見を求め、その結果、昭和47年秋の総会において、共通第一次試験実施の可否を決する

には、更に具体的な調査研究を継続する必要があると決定した。

- (4) 昭和48年4月、「入試改善調査委員会」を設置して、新しい調査研究体制のもとに、具体的な調査研究を開始し、昭和49年3月、昭和48年度における調査研究結果を「国立大学入試改善調査研究報告書—中間報告・昭和48年度—」として公表した。昭和49年度においても調査研究を継続し、昭和49年11月には、高校3年生約3,000人を対象とし、全国7地区において、国立大学の協力を得て、共通第一次試験問題の実施研究を実施した。昭和50年3月、入試改善調査委員会は、昭和48、49両年度の調査研究結果を「国立大学入試改善調査研究報告書」として公表し、同年6月、各国立大学にアンケート調査を行い、約70%の「改善に資する」とする意見を得た。
- (5) 昭和50年度における調査研究は、これまでにおける調査研究の成果の上に立って、関係国立大学の協力のもとに、調査研究の趣旨の普及、残された問題点の検討を行い、昭和50年11月には、高校3年生約5,000人を対象に、全国7地区14会場で、国立大学の協力のもとに、実地研究を実施した。また、同年秋の総会において、調査研究を推進するため「国立大学入試改善調査施設」を、昭和51年度に特定大学に附設するよう文部省に要請した。
- (6) 文部省は、大学入学者選抜方法の改善を図るため、国立大学協会の調査研究の推進を援助することとし、昭和48年度、昭和49年度、昭和50年度と3か年にわたり毎年約5千万円の経費を計上し、また、昭和51年度においては、国立大学協会の要請を受けて、全国共同利用の「国立大学入試改善調査施設（人員10人、事業費112,936千円）」を東京大学に附置して、より具体的な準備調査を進めることとした。
- (7) 昭和51年3月、入試改善調査委員会は、昭和50年度の調査研究の結果を、昭和50年3月の報告書と補完的関係になる「国立大学入試改善調査研究報告書」として公表し、同年4月には、各国立大学に対しアンケート調査を行い、その結果、76%の大学から「改善に資する」との意見を得た。（51. 6. 30付国入改第51号で各国立大学長宛送付）
- (8) このような調査研究の成果をふまえ、昭和51年6月22日開催の第58回総会において、次のような国立大学協会としての方針を決定した。

[大学入試改善に関する意見]

国立大学協会は、共通第一次試験が大学入試の改善に資するものと判断する。

しかし、この共通第一次試験を実施することについては、種々重要な問題が残されているので、これらの問題について今後文部省とも協議し、慎重に検討した上で、国立大学協会の方針を決定したい。

（昭和51年6月22日、国立大学協会第58回総会承認）

その際に（国立大学入学者選抜期日の一元化）についても国立大学共通第一次試験による大学入学者選抜とあわせて同時に実施することが望ましいこととした。

- (9) 昭和51年10月に、高校生約10,000人を対象とした実地研究を、国立大学48校の協力のもとに実施した。
- (10) その後、入試改善調査委員会をはじめ各種専門委員会において、アンケート調査の回答に付された各国立大学の意見と要望、公私立大学、高等学校等の関係者の意見と要望等を勘案しながら、残された問題について細部にわたり検討を行い、文部省とも再三にわたり連絡協議を行った。その結果、国立大学共通第一次試験の実施機関の組織・機構及び各大学の実施組織の整備、試験問題の作成・印刷・保管・輸送の方法、共通第一次試験の実施期日の想定、試験実施に関する諸問題の処理、答案の機械読取ミスの防止、試行テストの実施等の諸問題について解決策あるいは解決への見通しを得ることができた。

これらを各大学長に報告し、国立大学共通第一次試験による大学入学者選抜の実施に関する意見の学内集約を依頼した。（51. 12. 3付国入改第93号で各国立大学長宛依頼）

- (11) 文部省は、国大協が国立大学共通第一次試験実施による大学入学者選抜の改善に関する方針を決定することに対応して、「大学入試センター（仮称）」の設置と実施準備に必要な人員の配置及び所要の経費の計上、各大学における実施組織の整備等の昭和52年度概算要求を行っている。
- (12) これらの経緯により、昭和51年11月17～18日開催の第59回総会において、各大学の意見を集約した結果、次のとおり、「国立大学共通第一次試験実施による大学入学者選抜方法の改善は、国立大学共通第一次試験に係る所要の諸施策が行われ、残された諸問題が解決される見通しを得るに至ったので、入学者選抜期日の一元化とともに、昭和54年度大学入学者選抜から実施可能である」との判断に達した。

国立大学共通第一次試験実施による大学入学者 選抜方法の改善に関する意見

国立大学協会は、昭和45年から調査研究を続けてきた国立大学共通第一次試験実施による大学入学者選抜方法の改善について、本第59回総会において次の結論に達した。

前総会において、大学入学者選抜の改善に資するものと認めた国立大学共通第一次試験実施による大学入学者選抜方法の改善は、その後、残された問題点の検討と、その実施に対して必要な諸施策の具体化について、文部省とも協議を行った結果、それらの実現に対する見通しを得たので、昭和54年度大学入学者選抜から実施可能であると考えた。

本方法は国立大学共通の第一次試験と、各大学が独自に行う第二次試験とからなるものである。共通第一次試験では、全国的に共通で適切な問題を課することによって、高等学校における学習の達成度を評価し、各大学がその特性に応じ、自主的に行う第二次試験は、共通第一次試験の趣旨と方法に対応しつつ、各大学・学部への入学志願者の能力と適性を検することを主眼とする。

この共通第一次試験の実施のために設置される「大学入試センター(仮称)」は、国立大学の意志を十分に反映し得る共同で利用する機関であり、各大学と協同して共通第一次試験の円滑な実施にあたりるとともに、大学入学者選抜に関する継続的な研究を行うものである。

各大学においては、本方法による大学入学者選抜に関する諸施策が講ぜられるとともに、第二次試験のあり方について、それぞれ、各大学は早急に自主的な検討をすすめ、当協会においても、この点について連絡調査にあたる。

また、さきに当協会は「入学者選抜期日の一元化」を可としてきたが、これも国立大学共通第一次試験実施による大学入学者選抜と同時に行われることが望ましい。

なお、共通第一次試験の実施に関する諸問題については、引き続き文部省と連絡協議することとする。

(昭和51年11月18日 国立大学協会第59回総会承認)

また、11月18日に国大協会長から文部大臣に対し、国立大学共通第一次試験実施による大学入学者選抜方法の改善を、入学者選抜期日の一元化とともに、実現するよう、次の要望書を提出した。

国立大学共通第一次試験実施による大学入学者 選抜方法の改善について(要望)

当協会は、昭和45年以来、国立大学における入学者選抜方法の改善について調査研究を行ってきましたが、さきの第58回総会において、「国立大学共通第一次試験による大学入学者選抜が、現行の大学入学者選抜の改善に資する」との判断をしました。

本第59回総会において、「国立大学共通第一次試験実施による大学入学者選抜方法の改善は、国立大学共通第一次試験に係る所要の諸施策が行われ、残された諸問題が解決される見通しを得るに至ったので、入学者選抜期日の一元化とともに、昭和54年度大学入学者選抜から実施可能である」との判断に達しました。

つきましては、当協会の調査研究の趣旨に即し、周到的準備と万全な実施計画によって、これらの改善が実現されるよう所要の施策を早急に講ぜられるとともに、当面、昭和52年度においては、国立大学が共同で利用する機関として国立大学全体の意志を反映し得る機構を持った「大学入試センター(仮称)」を設置し、その整備と必要な人員の配置を行い、大規模な試行テストの実施等実施準備に関

し、所要の経費を計上され、各大学における実施組織の整備を凶られること等を強く要望します。

なお、国立大学共通第一次試験の実施に関する諸問題について、今後とも引き続き連絡協議をいたしたいと存じます。

(注) 「国立大学共通第一次試験実施による大学入学者選抜方法の改善」の趣旨

現行の学力検査の方式を、全国的に共通で適切な試験問題を課することによって、高等学校における一般的学習の達成度を客観的に評価する国立大学共通第一次試験と、この共通第一次試験の趣旨と方法に対応しつつ、各大学が自主的に、学部・学科の特性に応じて重視される能力と適性を検査する第二次試験とを組合せる方式に改め、これらの成績、大学が必要に応じて実施する面接等の結果及び調査書その他大学が必要と認める資料等を合理的に総合して、入学志願者の能力と適性を判定する方法に改善し、あわせて入学者選抜期日の一元化を図ることにより、大学入学志願者に対して適切な方法でより綿密な判定を行い、ひいては高等学校教育の正常化に寄与しようとするものである。

- (13) これに伴い共通第一次試験に対応する各大学が独自に行う第二次試験のあり方を、大学入学希望者、高等学校関係者等に明示することが急務であるので、各大学においては、第二次試験の実施教科・科目等及びその実施方法等について、共通第一次試験の趣旨を尊重し、その性格を十分に理解した上で、昭和52年夏までに公表することを目途として、早急に検討を行い、国大協においても、この点についての各大学の検討の過程又は結果を連絡調査することとなった。(V-4の項参照)

この第二次試験のあり方は、各大学・学部が自主的に決定すべきものではあるが、その検討にあたっては、①出題は共通第一次試験に課されていない科目に限ることが望ましいこと。同一科目の出題を行う場合には、記述力、考察力、表現力等のテストを論文形式で行うなどの配慮が必要であること、②入試全般の観点から、大学側、受験生側がともに負担増にならないよう、できるだけ科目数、出題量を少なくすることが望ましいこと、③可能であれば面接とあわせて口頭による試問をも加え、特定大学では面接を行い、第二次試験は実技のみで十分な場合も考えられること、④共通第一次試験の成績と第二次試験（必要に応じて行われる実技検査を含む）の成績とを適正に総合して、学力検査の成績とし、必要に応じて行われる面接、小論文の結果及び調査書等とともに判定の資料とすること、⑤共通第一次試験による予備選抜は原則として行わないこと、入学志願者が極度に多く、そのために十分綿密な第二次試験が行い得ない大学・学部において止むを得ず予備選抜を行う場合は、入学定員の少くとも3倍程度の数は第二次試験を受験できるよう配慮すること等を示した「第二次試験のガイドライン」の趣旨に十分留意すべきである。

〔参考〕 第二次試験の科目数に関し、大学入試改善会議では、最低必要な1～2科目に限るのが望ましいという意見が大勢を占め、全国高校長協会、全国普通科高校長協会等は、1～2科目に限るべきだと強く要望している。なお、3教科3科目が適当であるとの個人的意見が国立大学教官の中に多いといわれている。他面、一般的な意見として、1科目にしぼるべきだとの強い主張もある。

2. 今後の予定等

- (1) 文部省は、国大協からの大学入学者選抜方法の改善に関する要望をうけて、すみやかに国立大学共通第一次試験実施による昭和54年度大学入学者選抜実施要項の原案を大学入試改善会議に諮るなど検討を行う。
- (2) 国大協は引き続き、国立大学共通第一次試験実施に係る諸問題に関して、文部省と連絡協議を行う。
- (3) 文部省は、昭和52年度政府予算案決定後（昭和52年1月頃）に、昭和54年度大学入学者選抜から国立大学共通第一次試験実施による大学入学者選抜を実施することを予告し、昭和52年度予算成立後（昭和52年5月末頃）に、昭和54年度以降の国立大学における大学入学者選抜の実施要項を公表する計画であり、各大学が、第二次試験の実施教科・科目等及びその実施方法等について、昭和52年夏（7月末）までに公表することを期待している。
- (4) 大学入試センターは昭和52年5月に設置が計画され、国立大学共通第一次試験の実施準備を行うとともに、昭和52年冬に、高等学校3年生等約8万人を対象とした大規模な試行テストを実施する計画である。
(資料の3、4参照)

3. その他

- (1) この国立大学共通第一次試験に関し、全国高等学校長協会からは、その実施について、協力の表明と実施の推進の要望が行われており、また、先に公立大学協会からは統一試験の趣旨からみて国公立大学一体としての参加が望ましいが、国公立大学統一実施が困難であれば、少なくとも公立大学が将来これに参加できるよう配慮されたい旨の要望が行われた。
- (2) 12月7日の公立大学協会臨時総会において、昭和54年度入学者選抜から公立大学入学者判定の際に国立大学共通第一次試験の成績資料を利用したい旨の申入れがあった。これは、公立大学入学者志望者が国立大学共通第一次試験を受験することであるが、国大協としては、試験場の確保、試験監督者の増員等の面で充分の協力が得られることを前提に、これを承認することとしているが、具体的な実施については、大学入試センターと文部省に委ねることとした。

Ⅲ 「国立大学共通第一次試験実施による大学入学者選抜方法の改善」 の概要

1. 趣 旨

現行の大学入学者選抜については、大学入学志願者の増加と、学歴偏重、特定大学への入学志向等の社会的風潮とを背景に、その選抜方法をはじめとして多くの問題があり、我が国の教育全体に重大な影響を及ぼしている。

これらの解決策の一環として、国立大学における入学者選抜方法について、「現行の学力検査の方式を、全国的に共通で適切な試験問題を課することによって、高等学校における一般的学習の達成度を客観的に評価する国立大学共通第一次試験と、この共通第一次試験の趣旨と方法に対応しつつ、各大学が自主的に学部・学科の特性に応じて重視される能力と適性を検査する第二次試験とを組合せる方式に改め、これらの成績、大学が必要に応じて実施する面接等の結果及び調査書その他大学が必要と認める資料等を合理的に総合して、入学志願者の能力と適性を判定する方法」に改善し、あわせて入学者選抜期日の一元化を図ることにより、大学入学志願者に対して適切な方法でより綿密な判定を行い、ひいては高等学校教育の正常化に寄与しようとするものである。

2. 国立大学共通第一次試験の実施機関

- (1) 共通第一次試験は、国立大学の入学者選抜の一部として、全国立大学が協同して実施するものであるため、国立大学全体の意志を十分に反映し得る組織を持つ、国立大学が共同で利用する国立の機関（大学入試センター〔仮称〕）を設置する。この大学入試センターは、各大学と協同して問題作成、採点その他一括して処理することが適当な業務を行い大学入学者選抜に関する継続的な研究を行う。また、国立大学以外の大学の入学者選抜に協力することができる。

大学入試センター（仮称）の設置計画

- ① 設置年月：昭和52年
- ② 性格：国立大学が共同で利用する国立の機関。所要の法令等の整備を行う。
- ③ 機構（全体計画）：管理部（2課制）、事業部（2課制）、研究部（情報処理、追跡、評価、試験方法、試験制度の5部門）
- ④ 人員：全体計画約120人（うち教官約20人）を年次計画で整備充実。

直接共通第一次試験に係る人員は、その実施までに配置を計画。

- ⑤ 各種委員会：評議会、運営委員会等と教科専門委員会（16科目別問題作成部会をもつ。）、実施方法専門委員会等を置く。
- (2) 大学入試センターと協同して、共通第一次試験の実施にあたるため、各大学に、当該大学の学長を委員長とする試験実施委員会を設ける。またその実施のため、事務処理体制の整備を図る。
- (3) 共通第一次試験の実施に関して、大学入試センターと各大学試験実施委員会との間で連絡協議を行うため、各大学試験実施委員長会議、各大学試験実施担当者会議（いずれも大学入試センター招集）を設ける。

(4) 大学入試センター（仮称）研究部の研究内容（試案）

研究部は各部門の協力の下に大学入試の改善に関する調査研究を実施するものであるが、各部門のおおよその研究内容は次のとおりである。

① 情報処理部門

(ア) 大学入試（とくに共通第一次試験）の情報処理に関する研究

(イ) 他の研究部門に対する情報処理面での協力研究

(注) 事業部情報処理課はこの部門と協力してシステムの開発・改善を行うとともに、研究部門の研究に対し、プログラム作成、電算操作等により協力を行う。

② 追跡部門

(ア) 大学入試（とくに共通第一次試験）の成績の追跡に関する研究

(イ) 試験問題の項目間、科目間、教科間の相関分析の研究

(ウ) 大学入試の成績と受験生の出身地域、経済状況との相関関係の研究

(エ) 追跡（相関分析等）の研究成果を中心にして評価部門と協力し、共通第一次の妥当性、客観性等を研究

③ 評価部門

(ア) 共通第一次試験問題の内容の評価に関する研究

(イ) 学力試験の標準化に関する研究

(ウ) 能力の本質に関する研究

(エ) 問題と高校教育課程、大学教育との関連に関する研究

④ 試験方法部門

(ア) 大学入試の本質に関する基礎的研究、試験方法の変遷に関する研究

- (イ) 共通第一次試験方式と一般入試方式との関連に関する方法論的研究
- (ウ) 大学入試の標準的方法に関する研究
- (エ) 諸外国の大学入試の試験方法の比較研究，他の試験と大学入試，大学内試験との方法論の研究

⑤ 試験制度部門

- (ア) 試験制度の史的研究
- (イ) 大学入学者選抜制度の改善と教育課程の改訂等，教育制度改革との関連に関する研究
- (ウ) 諸外国における大学入試制度の比較研究

3. 共通第一次試験の実施方法等

- (1) 試験の教科・科目：高校の普通科，職業科等を問わず平等の機会を与えるため，高校における必修科目の範囲内（ただし外国語は，大学入学の要件として受験させる）で，次のとおり受験させる。

国語＝現代国語，古典Ⅰ甲を合わせて1科目

社会＝倫理・社会，政治・経済，日本史，世界史，地理A，地理Bから2科目を試験場で選択，ただし，地理Aと地理Bを選択して，2科目とすることはできない。

数学＝数学一般（履習者に限り，受験申込の際に選択）又は数学Ⅰの1科目

理科＝基礎理科1科目（履習者に限り，受験申込の際に選択）又は物理Ⅰ，化学Ⅰ，生物Ⅰ，地学Ⅰから2科目を試験場で選択

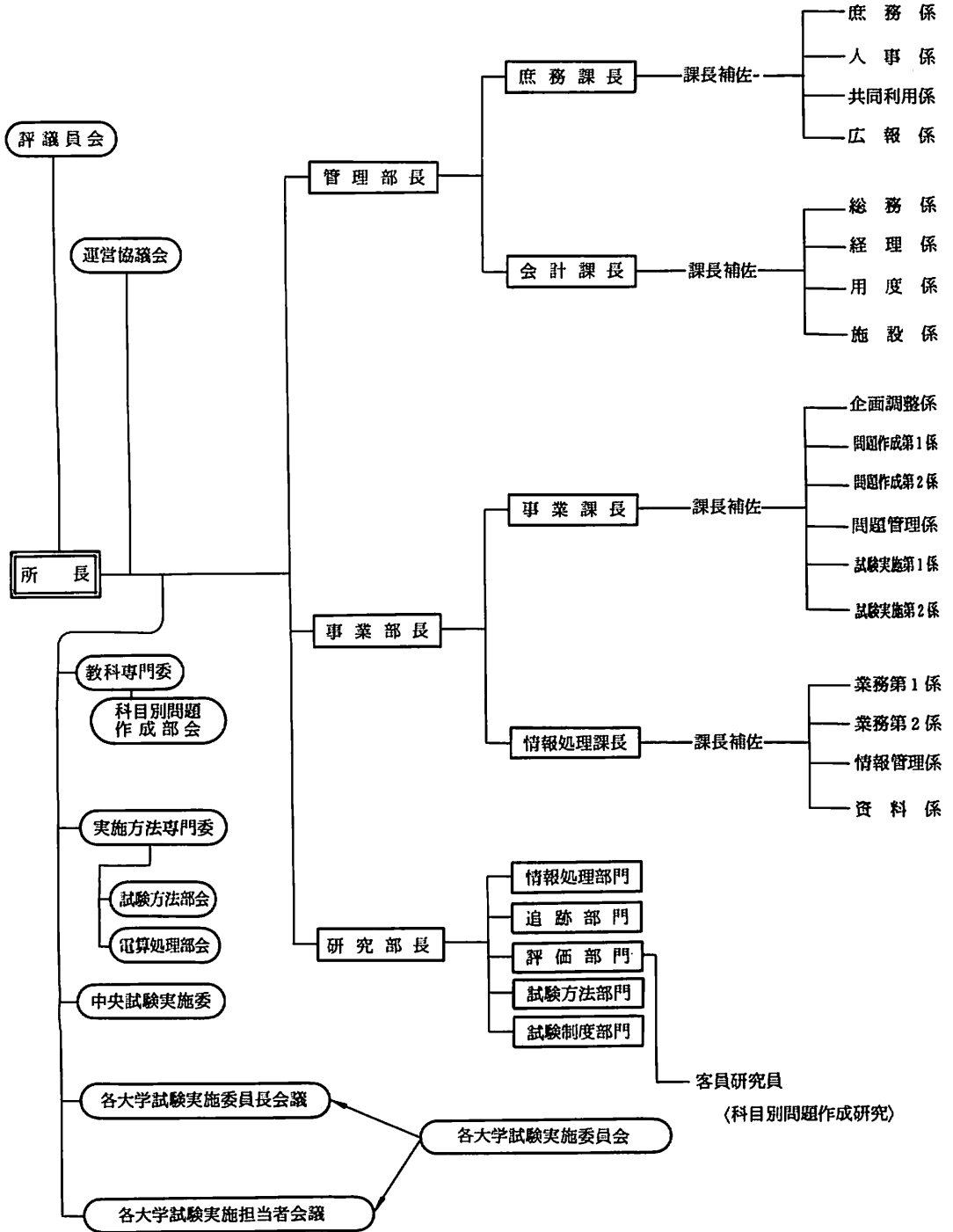
外国語＝英語A（履修者に限る），英語B，独語，仏語から1科目を受験申込の際に選択

なお，職業科目については，各大学の第二次試験において，各大学・学部の特徴に応じて配慮することを適当としている。

- (2) 出題形式・方法：多数の受験生を対象とし，短期間に採点処理を行う必要があるため，客観テスト形式とする。解答はマークシート方法とし，採点集計は電算機で処理する。
- (3) 出題：国立大学教官で構成する教科専門委員会が行い，文科系，理科系の区別をしない。共通第一次試験実施期日と高等学校における学習進度との関連から，出題範囲の調整を行う。教科専門委員会の委員は，任期2～3年，毎年一部交代とし，固定化をさける。
- (4) 試験期日：12月下旬を想定。「社会」について高等学校における学習進度との関連から，出題の調整が必要。

① 「国立大学入試改善調査研究報告書（昭和51年3月）」に基づき，各国立大学に共通第一次試験

(5) 大学入試センター(仮称)機構図(案)



の実施時期につき、本年6月にアンケート調査した結果、上位3案は次の通りであった。

	実 施 時 期	実 施 可 能	何 と か 実 施 可 能	実 施 不 可 能	記 入 し
E 案	第一次試験：2月末～3月，第二次試験：3月下旬	49	15	12	2
A 案	第一次試験：1月下旬の土，日，第二次試験：3月	24	38	13	3
D 案	第一次試験：冬 休 み 中，第二次試験：3月	13	32	31	2

(他の4案について、実施可能とするものは、各案につき2～3であった。)

- ② 上記のようにE案の賛成が最も多く、次いでA案が、さらにD案が実施可能または何とか実施可能と回答があったが、E案については、多くの否定的意見も付されていた。

すなわち (ア) 第一次試験と第二次試験との間が短かすぎる。

特に再試験，追試験等の実施に支障がある。

(イ) 第二次試験の採点期間が短かすぎる。

(ウ) 私立大学の入試スケジュールに混乱を及ぼさぬこと。

などの意見であったので、これに基づき、実施時期を繰上げる方向で再検討することとなった。

- ③ 実施時期について、アンケート調査の回答意見のほか、文部省、各国立大学入試事務担当者、私立大学団体等の意見を要約すると次の通りであった。

(ア) 私立大学の1月下旬から開始される入試スケジュールに混乱を及ぼさぬこと。

(イ) 私立大学との関連，国立大学の入学時期との関連から，第二次試験を3月上旬に行い，その合格者発表を3月20日までにを行うこと。

(ウ) 一期校二期校一元化の関連から，受験生が共通第一次試験後，その成績を自己判断した後に，志望する大学へ出願できる機会を確保すること。

(エ) 第二次試験の出願から試験日までの間31～36日間を要すること。第二次試験実施後，合格者発表まで15日間を要すること。

(オ) 国立大学のみでは試験室が不足するので，学外の公私立大学，高等学校の施設を借用しなければならない関係から，共通第一次試験を土，日曜日に実施するとしても，その準備に前日又は，土曜日午前中が必要であること。

(カ) 積雪等の気象条件は，12月，1月が2月よりも影響が少いこと。

(キ) 追試験の実施（共通第一次試験後，早くて2週間後に実施可能），答案の収集・読取り，機械採点，各大学の成績請求，報告等の処理期間は，万全を期し，第二次試験前53～55日間を要すること。

④ 上記の意見等を勘案し、実施時期について再検討を行った結果、次の意見が最も有力であったが、高校の教育課程の進捗状況を配慮しなければならない。

「12月下旬に共通第一次試験を実施し、おおよそ2週間後にその追試験を行い、各国立大学の第二次試験を3月上旬（現行の一期校の試験日前後）に実施して、3月20日までに合格者発表を行い、4月上旬に入学せしめるのが適当であると考える。」

〔参考〕 日程を逆算すると次の通りである。

(ア) 4月上旬入学

(イ) 3月20日までに第二次試験合格者発表

(ウ) 15日前までに第二次試験終了（3月上旬、現行一期校試験日の前後）

(エ) 第二次試験31日目前から第二次試験募集（2月1日前後）

(オ) 共通第一次試験処理期間は、第二次試験日前53～55日間が必要（共通第一次試験日は、1月上旬の2日間）

(カ) 共通第一次試験の追試験は約2週間後（1月中旬の終り）

なお、1月上旬の土、日曜日は、試験場準備、問題の輸送保管、試験監督要員の確保、等の点で困難であるとの意見が強い。

なお、試験日数は2日間を適当とし、1教科90～120分とする。

(5) 本改善の実施：共通第一次試験実施による大学入学者選抜方法の改善は、昭和54年度国立大学入学者選抜から実施を計画し、その際に、従来の一校二期校の区別を廃し、入学者選抜期日は一元化する。

(6) 出願・受験手続等

① 文部省は大学入学者選抜実施要項を各大学、都道府県教育委員会等に通知する。（4月）

② 大学入試センターは、各大学、高等学校等に対し、国立大学の入学者選抜実施要項に関する説明会を各地区で開催する。（4～5月）

③ 各国立大学は、第二次試験の実施教科・科目等及びその実施方法等、実技検査、面接等の有無と内容、予備選抜の有無等を公表する。（6～7月）

④ 大学入試センターは、共通第一次試験の実施要項、受験申込書等を高等学校等に配布する。（7～8月）

⑤ 国立大学入学志願者は、原則として出身高等学校を經由して、受験申込書、入学検定料（その額及び納入方法は検討中）及び必要書類をとりそろえ、所定期間内に大学入試センターに提出す

る。過年度卒業者についても、出身高等学校を經由して受験申込みを行う。出身高等学校は、過年度卒業の入学志願者を含めた受験申込者名簿をあわせて大学入試センターに提出する。(9月)

○受験申込資格は、学校教育法第56条に定める大学入学資格を有する者（見込みを含む）で、国立大学に入学を志望する者とする。

○大学入学資格検定試験合格者、外国で12年の教育を受けた者等は、直接大学入試センターに受験申込書等を提出する。

受験申込の際に第一志望、第二志望の大学・学部等あらかじめ選択する「数学一般」「基礎理科」「外国語の種類」の科目名等を記入する。

身体障害者については、受験に際しての配慮事項、過年度卒業者等は、受験希望地等もあわせて記入する。

⑥ 大学入試センターは、受験番号、試験場（原則として出身高等学校に最寄りの国立大学が設定する試験場）を決定し、受験票、第二次試験受験申込カード1組、その他資料等を受験生に直接郵送する。(11月)

⑦ 大学入試センターは、受験生の志望大学・学部等を調査整理し、第一志望、第二志望の別、各大学・学部等別に、それぞれ志望者数を公表する。(12月中)

⑧ 共通第一次試験受験（12月下旬）

⑨ 病気、交通事故等で共通第一次試験を受験できなかった受験生には、追試験を行う。(共通第一次試験後の2週間後。1月20日以前。)

○追試験場：あらかじめ指定した各地区各2大学

○追試験受験資格：共通第一次試験前にすでに病気の者（受験中に病気となった者は除く。）又は自己の責任でない交通事故等の災害にあった者。

○申込方法：共通第一次試験直後の所定期間内（1～2日）に、追試験場となっている大学に、本人又は代理者が、診断書、事故証明書等とともに受験票を提出して申込みこととし、申込みを受けた各大学は、全国统一基準により審査の上受験を許可する。

⑩ 共通第一次試験及び同追試験の終了後、試験問題の正解例を公表する。また採点集計が終了次第、各大学への出題以前に、科目別の全国平均点を公表する。(2月1日以前)

⑪ 受験生は、所定の期間内に、第二次試験の受験願書、第二次試験申込カード等、必要書類を志望大学に提出する。(2月1日ごろ～2月10日ごろ)

○第二次試験の受験願書等は各大学が配布（12月～1月）

○受験生は、共通第一次試験の成績を、公表される正解例及び全国平均点並びに配点（問題紙に記載）により自己判断し、12月中旬に公表されている各大学・学部・学科等の志望者数を参考にして、さきに届出た第一志望、第二志望の大学の中から第二次試験を受験する志望大学を決定する。（止むを得ない場合に限り変更することが出来る。）第二次試験の受験申込みは1大学に限るものとする。

- ⑫ 各大学は、大学入試センターに、受験生から提出された第二次試験申込カードに基づき、共通第一次試験の成績を請求し、その報告を受ける。
- ⑬ 第二次試験の受験申込みが募集定員に比して極度に多い大学で、止む得ず予備選抜を行う場合は、共通第一次試験の成績、調査書等により、予備選抜を行い、その結果を受験生に通知する。この場合、少くとも募集定員の3倍程度の数の受験生は、第二次試験を受験できるようにする。（第二次試験の8日前まで）
- ⑭ 第二次試験を志望大学で受験（3月3日ごろ、試験日数は志望大学の決定による。）
- ⑮ 各大学は、共通第一次試験と第二次試験の成績、必要に応じて行われる面接、小論文等の結果、調査書その他大学が必要と認める資料等により、合格者を決定し発表する。（3月20日まで）

(7) 試験場：

- ① 出身高等学校に最も近い国立大学が開設する試験場で受験することを原則とするが、1地区で受験生が非常に多い場合は、近接地区の試験場への割り振りもある程度あり得る。
 - ② 国立大学を試験場とすることを原則とするが、地区によっては、当該大学の施設のみでは試験室が不足する場合は、公私立大学、高等学校等の施設を使用することもある。
 - ③ 過年度卒業の受験生は、出身高等学校の所在地又は居住地、大学入学資格検定合格者及び外国で教育を受けた者等は居住地に最も近い国立大学が開設する試験場で受験する。
- (8) 身体障害者の受験：目の不自由な受験生に対しては、共通第一次試験問題を点訳し、通常の試験監督者以外に介助者を付する。他の身体障害者に対しても通常の試験監督者以外に介助者を付する。身体障害者の試験場は、設備及び介助者の関係から、地区内で1～2カ所に特定することもある。
- (9) 試験実施大学と大学入試センターとの一斉連絡方法：電話ファックスを各大学及び大学入試センターに各大学の数を設置し、各大学と1対1で対応し、臨時電話と併用して、問題の訂正等の緊急連絡を行う。
- (10) 試験問題の印刷・保管・輸送、答案の返送：①試験問題及び解答用紙は、大学入試問題の印刷に

経験の深い機関で印刷製造する。

常時数組の現物の試験問題等を一定の場所に保管し、電子機器を併用した24時間警備を行う。また、印刷・保管中の事故・災害を考慮し、試験問題等の紙型を別途保管する。

- ② 機密漏洩防止と輸送中の事故等の対策のため、保管している試験問題等のうちから、当該年度に使用する試験問題等の選択は、輸送準備の直前に行うこととし、予備を含め2組を選定する。
- ③ 試験問題等の発送は原則として試験日の10日前に到着するように実施し、事故発生の際は、他の1組を急送する。試験問題等の輸送と答案の返送は、日本銀行券の輸送に準じた警備態勢で行う。

(11) 採点処理：

- ① 答案のマークシートは、米国製で、読取り速度が速く、信頼度の高いマークシート読取り専用機を使用し、3回読取らせ、読取りミスの防止を図る。
 - ② 全般的な情報処理を行う国産の大型電算機は、新機種を採用を避け、現行の安定した実績のある機種を使用し、万全を期する。
- (12) 再試験：一地区又は全国的な天災地変等のため、所定の期日に共通第一次試験が実施できなかった場合、その災害等の規模により、全国的又は地区的に再試験を実施する。ただし、その実施期日は必ずしも特定できない。
- (13) 高等学校側の意見反映：共通第一次試験全般についての意見交換のための連絡協議会と、試験問題の評価、高等学校の授業との関連について科目ごとに意見を交換するための委員会を大学入試センターの機構内に設置する。
- (14) 試行テストの実施：大学入試センターの事業として、国立大学を試験場とし、共通第一次試験とはほぼ同様の方法で実施する予定であり、ある特定地区は、共通第一次試験を受験すると予想される受験生の数で、他の地区は、その1/4～1/5の規模で実施することを計画している。

○対象：高等学校3年生等 8万人

○実施時期：昭和52年冬

4. 第二次試験等

共通第一次試験の趣旨と方法に対応しつつ、各大学が自主的に、学部・学科の特性に応じて重視される能力と適性を検査する第二次試験のあり方は、各大学において、昭和52年夏までに公表することを目的に、早急に検討を行うこととし、その間、国立大学協会が、各大学の第二次試験のあり方につ

いて、連絡調査し、必要な情報を各大学に提供することとなっている。

この第二次試験の実施教科・科目等及びその実施方法等と共通第一次試験の成績の利用等は、各大学・学部が自主的に決定すべきものではあるが、今までの調査研究の結果、次のような「第二次試験のガイドライン」等が、その決定にあたって十分に留意すべき事項として示されている。

(1) 第二次試験の出題

- ① 第二次試験の出題に当っては、共通第一次試験に課せられていない必要科目に限ることが望ましい。また、同一科目の出題を行う場合には、記述力、考察力、表現力のテストを論文形式で行うなどの配慮が必要である。
- ② 入試全般の観点から、負担増（大学側、受験生側とも）とならないよう、できるだけ科目数、出題量を少なくすることが望ましい。
- ③ 可能であれば、面接とあわせて口頭試問をも加える。一部特殊な大学では、面接を行い、第二次試験は実技検査のみで十分な場合も考えられる。

(2) 共通第一次試験の成績の利用

合格、不合格の判定に当っては、共通第一次試験の成績と第二次学力検査の成績とを適正に総合して学力検査の成績とし、必要に応じて行われる実技検査、面接、小論文の結果及び調査書等とともに判定の資料として利用する。

(3) 特別の選抜方法

① 推薦入学方式

原則として第二次の学力検査を免除するが、大学の学部・学科の特性に応じて共通第一次試験を免除することもできる。

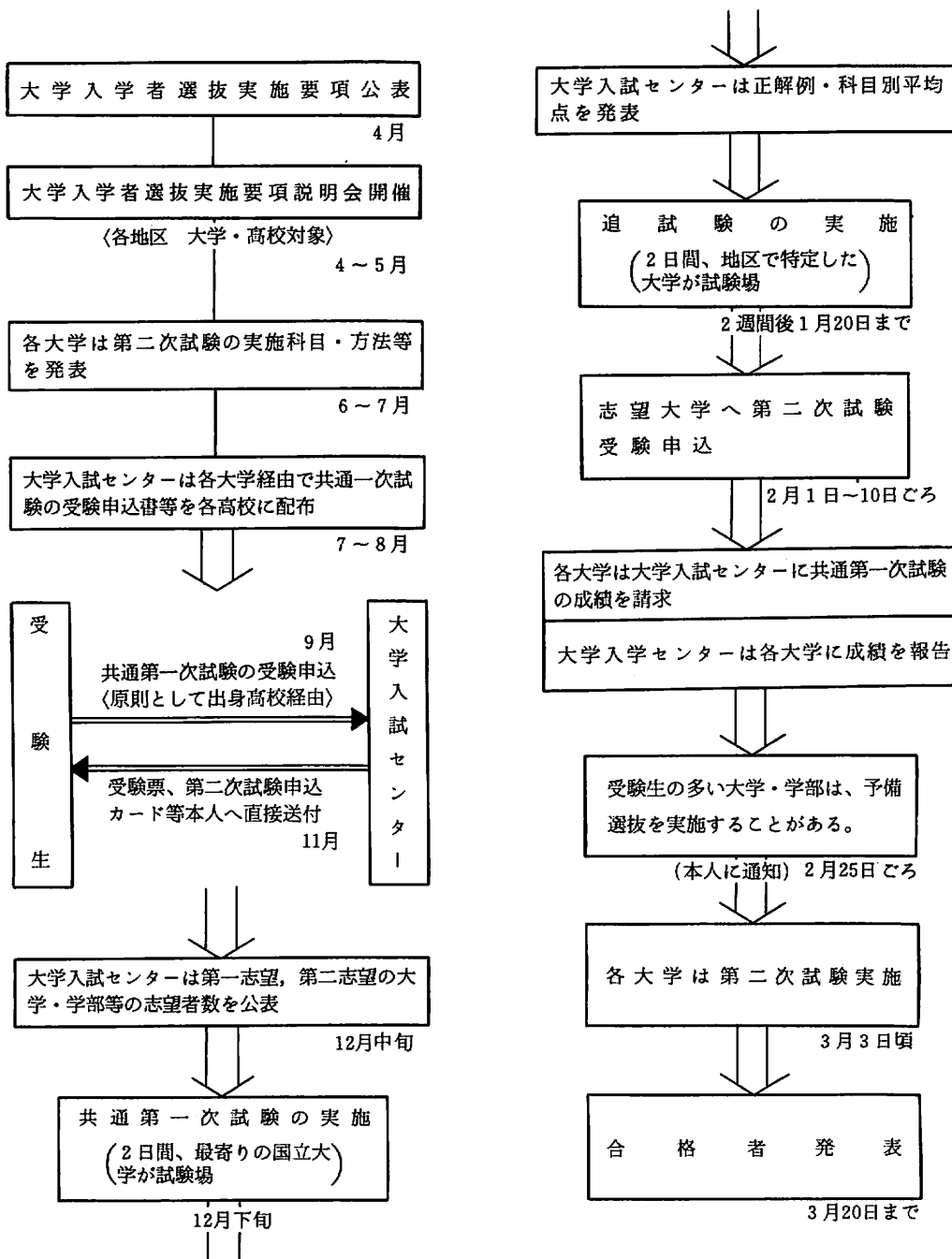
② 第二次募集方式

入学定員の一部を留保し、各大学が合格者を発表した後に、第二次の募集をすることができる。この場合、出願資格は、共通第一次試験を受験し、かつ、国立大学に合格しなかった者とする。

③ 予備選抜方式

共通第一次試験の成績によるいわゆる予備選抜は、原則として行わない。受験生の数が極度に多く、そのため十分綿密な第二次試験が行い得ないような大学・学部においては、この方法を取ることもやむを得ないであろうが、この場合においても、入学定員の少くとも3倍程度の数は第二次試験を受験できるようにする。

5. 共通第一次試験と第二次試験 (案)



6. 大学入試センター研究部の研究内容（試案）

研究部は、各部門の協力の下に、大学入試の改善に関する調査研究を実施するものであるが、各部門のおおよその研究内容は次のとおりである。

(1) 情報処理部門（実験）

1) 大学入試（とくに共通第一次試験）の情報処理に関する研究

- ① 客観テストにおける信頼性（標準誤差等）、妥当性（項目特性、偶然正答確率等）
- ② 採点スペック、採点方法、解答用紙の設計（選択肢の多様化、組合せ解答等）
- ③ 能力の最適測定法等測定方法の高度化（学力、適性、思考力、判断力等）
- ④ 全般的システムの開発研究
- ⑤ その他

2) 他の研究部門に対する情報処理面での協力研究

（注）事業部情報処理課は、この部門と協力して、システムの開発・改善を行うとともに、研究部門の研究に対し、プログラム作成、電算操作等により協力をを行う。

(2) 追跡部門（実験）

1) 大学入試（とくに共通第一次試験）の成績の追跡に関する研究

- ① 共通第一次試験の成績と高校調査書（高校3年間の成績）との相関分析（高校調査書の客観性分析）
- ② 共通第一次試験の成績と各大学第二次試験の成績との相関分析（共通第一次試験の併存的妥当性の分析）
- ③ 共通第一次試験の成績と大学入学後の成績との相関分析（共通第一次試験の予測的妥当性の分析）
- ④ 過年度高卒者と大学入試の成績等との相関分析（進路指導等）
- ⑤ 追跡（相関分析等）の方法論的研究

2) 試験問題の項目間、科目間、教科間の相関分析の研究（バランスの研究等）

3) 大学入試の成績と受験生の出身地域、経済状況等との相関関係の研究（サンプル）

4) 追跡（相関分析等）の研究成果を中心にして評価部門と協力し、共通第一次の妥当性、客観性等を研究

(3) 評価部門（実験）

1) 共通第一次試験問題の内容の評価に関する研究

- ① 問題の項目分析（弁別力係数，正答率，誤答分析，得点分布等）
- ② 問題の因子分析（出題意図の達成度，適切性等）
- ③ 標準得点の和の妥当性分析（得点構造，得点の重み付け，項目得点と能力値等）
- ④ 偶然正答による影響の防止（有効得点の設定と選択肢の改善）
- ⑤ 各項目における困難度と配点の関係（平均点，標準偏差，科目，項目間調整，重み付け点と粗点の関係等）
- ⑥ 各科目間等化における標準尺度（差異ある科目得点の平準化等）
- ⑦ 問題の項目の管理（問題項目のライブラリー等）
- ⑧ その他

2) 学力試験の標準化に関する研究（問題出題水準の維持等）

3) 能力の本質に関する研究（客観テストの限界，思考能力テストの開発等）

4) 問題と高校教育課程，大学教育との関連に関する研究（問題出題範囲，出題量等）

(4) 試験方法部門（非実験）

1) 大学入試の本質に関する基礎的研究，試験方法の変遷に関する研究

2) 共通第一次試験方式と一般入試方式との関連に関する方法論的研究

3) 大学入試の標準的方法に関する研究

- ① 試験方法，環境条件等が平均点に及ぼす影響（受験集団の大きさ，会場，試験日，時間数）
- ② 監督者の能力・責任範囲
- ③ 実施大学の事務処理
- ④ その他

4) 諸外国の大学入試の試験方法の比較研究，他の試験と大学入試，大学内試験との方法論の比較研究，資料の収集・分析

(5) 試験制度部門（非実験）

1) 試験制度の史的研究

2) 大学入学者選抜制度の改善と教育課程の改訂等，教育制度改革との関連に関する研究

3) 諸外国における大学入試制度の比較研究

Ⅳ 共通第一次試験構想に関する大学および高等学校側等の意見

1. 大学側の意見

昭和51年5月11日から21日までの間、全国7地区（北海道・東北・関東甲信越・中部・近畿・中国・九州）において、「国立大学入試改善調査研究報告書（昭和51年3月発行）」及び「同報告書に関するアンケート」の説明会を開催した。そのさい、各国立大学から主として次のような意見があった。

(1) 総括的な意見として

- 第二次試験のあり方によって共通第一次試験の成否がきまる。国大協が積極的にガイドラインを示し、各大学は同系同種の学部間で試験科目が著しく違うことのないよう配慮すべきである。
- 共通第一次試験の概要について、大学自体の責任でもあるが、教官の中にも関心のうすいものもある。実施研究の報告書をはじめ、諸資料を配布して認識を深める必要がある。
- 共通第一次試験の構想とともに大学における教養課程のあり方を研究する必要がある。また、高等学校の学習指導要領との関連も重視する必要がある。
- 共通第一次試験の実施時期を早急に知らせてほしい。また公立大学、私立大学の参加についての明確な見解を示してほしい。

(2) 実施体制について

- 大学入試センターの運営について、各大学の意志が十分反映しうる機構としなければならない。
- 試験問題出題委員に対応する、試験問題批判委員会のようなものを組織する必要はないか。
- 身体障害者の受験に関する特別な委員会を設置する必要があるらう。

(3) 試験実施時期について

- 報告書のE案（第一次を2月末～3月上旬、第二次を3月下旬）は時間的に無理である。成績通知の件、予備選抜のことを考えると実施困難であろう。
- 積雪地帯の1月～3月は輸送事情が悪い。もっと早い時期にできないか。

(4) 試験科目について

- 社会および理科において、科目間の調整ができないか。
- 英語Aのみを履修している職業高校等からの受験者について、英語Bを課するのは酷ではないか。

- 英語Aのみ履修者であっても、大学教育を受けるからには英語Bの実力は必要である。各自の努力でその差を埋めるべきである。

(5) その他

- 共通第一次試験の成績を公表しない理由はどういうことか。
- 各大学への成績通知が第二次試験の5日前では処置に困る。もう少し早くできないか。
- 英語の聴解力テストは各教室の音響効果がまちまちで、受験生にとって公平を欠くことになる。

2. 高等学校側の意見

昭和51年10月23日から11月13日までの間、全国7地区において「国立大学共通第一次試験構想説明会」を開催した。参加者は、高等学校長または進路指導主任であり、国大協側からの説明に引続き質疑応答が行われた。高等学校側の意見の主なものは次のとおりである。

- (1) 共通第一次試験は公立大学の受験生にも適用されるのか、私立大学の参加の可能性はあるのか。

(2) 出願について

- 志願票を高校でとりまとめて入試センターに送ってほしい、とのことだが、過年度卒業生も同様に取扱わねばならないのか。
- 入試センターで発行する受験票等は高校を経由しないで直接個人宛に送ってほしい。
- 志願票に志望大学を2校書かせることになっているが、アンケート方式なのか。
- 一期校・二期校が一本化されるとチャンスが一度しかなくなる。そこで予備選抜されれば、もうその年は国立大学が受験できなくなってしまう。再出願するチャンスを与えてほしい。

(3) 共通第一次試験の科目について。

- 文科系と理科系を分けて試験を実施してほしい。
- 職業高校では英語Bを履習していない。英語Aのみ履修者については英語Aをぜひ外国語の科目として入れてほしい。
- 5教科5科目はぜひ実施してほしい。
- 英語の聴解力テストについて、必要性はあるが、技術的には困難だ。放送設備や試験室の大小によって受験生が同じ条件で受験できない。
- 科目間で試験問題の難易度の調整をしてほしい。
- 出題が教科書の範囲を越えないようにしてほしい。

(4) 第二次試験について

- 各大学の第二次試験の内容公表は何時頃か。
- 第二次試験の内容について、国大協のガイドラインを厳重に守るよう強制してほしい。
- 第二次試験の科目は1～2科目にしてほしい。科目数が多いのでは受験生にとって負担増になる。
- 難問奇問にならないと約束できるのか。

(5) その他

- 受験生の自己判断の材料にするため、第一次試験の成績を高校・個人にも通知してほしい。
- 共通第一次試験の実施時期が冬休み中ということであるが、出題範囲をどうするのか。
- 高校の調査書をもっと活用してほしい。
- 共通第一次試験と各大学の第二次試験の配点の比率はどのようなのか。

3. 公立大学協会との懇談

- 昭和51年5月8日、公立大学協会の総会において、国大協の調査研究についての資料を配布討議が行われた。
- 同年7月8日。公立大学協会の共通第一次試験に関する説明会において、国大協の調査研究の概要を説明、質疑応答が行われた。公立大学関係者から、国立大学の実施時期と合わせて参加したい旨の積極的な意見が多かった。
- 同年12月7日、公立大学協会会長から国立大学協会会長に対し、「公立大学の国立大学共通第一次試験成績資料の提供方依頼について」という申し入れがあった。(各種資料の項参照)
- 昭和52年1月5日、公立大学の国立大学共通第一次試験参加に関する検討事項打合せ会（第一回）が行われた。

検討事項として

- (1) 公立大学の参加について実際上の手続は、公立大学全体として行うこととなるか、又は、公立大学（或いは各公立大学設置者）毎に行うこととなるか。
 - (2) 全公立大学が参加することとなるか、一部の公立大学が抜けることも考えられるか。
 - (3) 公立大学に入学を志願しようとする者は、国立大学共通第一次試験受験時点では、まだ公立大学とは特別な関係を生じていないが、これらの者をどう位置づけるか。
- (4) 実施上の諸問題について。
- 受験の手続はどのようなか。
 - 国立大学共通第一次試験の実施について、協力はどの程度可能か。

- 各公立大学の入学志願者に対する国立大学共通第一次試験受験の周知方法、時期をどうするか。
 - 成績資料等の提供時期、内容及び提供を受けた成績資料の取扱い（総合判定、成績非公表等）等は、公立大学の場合も、国立大学と同様の方針で取扱うことが可能か。
- (5) この問題に関しては、各公立大学は設置者との協議を必要としようが、どのような状況か。
- 同年2月22日、公立大学32校から学長等関係者77名が集り、国立大学共通第一次試験利用に関する会議が行われた。

協議事項として

- (1) 公立大学が加わった場合、名称は「国公立大学共通第一次試験」ということになるか。(国立大学は「出願」公立大学は「志望」である。現段階では名称にこだわらない。)
- (2) 成績資料を利用するためには、公立大学としては、国立大学共通第一次試験を実質的に公立大学の共通第一次試験として取扱うこととする。
- (3) 試験場の確保、監督者の提供について、公立大学はできるだけ協力する。
- (4) 成績資料の利用に関するとりきめは、大学入試センターと各公立大学とで行う。
- (5) 成績資料の取扱い（総合判定、成績非公表等）は国立大学の場合と同様でよい。第二次試験については国大協のガイドラインを尊重しつつ各大学で決定する。
- (6) 受験料の取扱いについては、今後も検討する必要がある。
- (7) 公立大学志願者も共通第一次試験を受験することになる。ということを公大協として発表した。第二次試験の科目等も国立大学と時期を合せて公表したい。
- (8) 大学入試センターとの取りきめの主体の問題、その他について設置者と協議する。
- (9) 公立大学志望者の集計・公表は必要であろう。

なお、公立大学協会の今後の予定として、4月27・28日に入試制度委員会を開催、5月10日の公立大学協会総会で中間報告、7月に結論を出す。と公立大学協会長から発言があった。

4. その他

(1) 全国高等学校長協会等との懇談

高等学校側とは昭和52年10月23日～11月13日までの間全国7ブロックでの共通第一次試験構想説明会を開催したほか、全国高等学校長協会と懇談会（6月4日、10月27日、12月2日）を行い意見聴取の機会をえた。その際出された主な意見は次のとおりである。

- ① 国公立大学の入試期日の一本化を希望する。
- ② 科目別の平均，最高，最低だけでも高校側へ知らせてほしい。
- ③ 共通第一次試験だから文科，理科を別けない方がよい。
- ④ 英語Aでも受けられるという形だけとっておいてほしい。二次試験で英語Bが出て落されてもやむを得ない。
- ⑤ 予備選抜をしないように指導してほしい。
- ⑥ 共通第一次試験に重点をおいてほしい。
- ⑦ 12月下旬に実施する場合には教科課程の末修の問題があり，出題の際配慮願いたい。

(2) 日本教職員組合（大学部）との懇談

今年度における日教組との話し合いは昭和51年6月4日，7月29日，11月10日，昭和52年3月12日の4回の機会を得，日教組側から次のような要望があった。

- ① 共通第一次試験の構想については，その適否についてまで議論があり，日本の教育の基本に関する大きな問題でもあり，慎重に進めるべきである。また，高校や公私立大学とも関係があり，広く関係者の意見をきく必要がある。
- ② 大学入試の改善は，学歴偏重社会の是正，大学格差の是正を図ることが根本であり，単に入学試験の技術的な面を考えるだけでは真の改善にはならない大学進学希望者を入学させるに必要な大学数をふやすこと，大学格差を解消することが重要である。
- ③ 入試改善については各大学にあっても可能な限りの改善の努力をしてほしい。

V 実施方法等に関する調査研究

I. アンケート調査の集計結果

I 入試改善調査委員会では昭和48年度以来共通第一次試験の調査研究に対する実施上の諸問題について検討し、毎年報告書としてまとめ重要事項についてアンケート調査をしてきた。本年度についても昭和51年4月5日付各国立大学に対し「国立大学入試改善調査研究報告書（昭和51年3月）」について第4回目のアンケート調査をした。

その集計結果については下記のとおりである。

II アンケート回答の集計

問1) 入試センターの管理運営のあり方については、昭和50年3月報告書（P. 20）および昭和51年3月報告書（P. 21）に述べられてありますが、さらにお気づきの点があればご意見をお示しください。

回答の傾向を集約し、意見の多い順から並べると以下の如くとなる。

1 入試センターに各大学の意志が十分反映する組織を	30
2 運営委員会、評議員会、各種専門委員会の選出母体に関すること	19
3 入試センターと大学それぞれの責任と分担について	19
4 入試センターにおける各委員会の性格、権限の明確化	10
5 入試センターのみならず、対応する大学または地区組織の強化	9
6 委員の分布が偏在することを警戒したもの	7
7 選出された委員の身分、任期、性格に関するもの	6
8 このシステム（センター・大学を含め）の経費、手当に関するもの	5
9 入試センターの独立性（文部省、特定大学からの）	5
10 入試センターの機構の積極的改変	5
11 入試センターと地区または大学との連絡方法	4
12 委員となった大学教官の負担軽減（母体大学の）	4
13 試験問題その他に対する高校意見の反映	4
14 研究部（評価）と専門委員会の関係	2
15 この制度への参加の任意性	1

この他 ① 特に意見なし（賛成）とするもの

47

（大学として……15，学部として……32）

② 反対，疑問，否定的なもの

7

国立大学全体の意志が十分に反映する組織でなければならないという趣旨の回答が，各種委員会の選出母体の性格などに言及しながら上位を占めた。

また，入試センターと大学との責任分担を明確にするとともに，センターに対応する各大学の実施組織の充実，強化が肝要であることが指摘された。

問2）実施時期の再検討の結果について下記の欄にご回答ください。（51年3月報告書P. 23参照）

	可	否	理	由
A 案				
B 案				
C 案				
D 案				
E 案				
F 案				
G 案				

「可否」欄は { 1. 実施可能。
2. 無理はあろうが，何とか実施可能と見込まれる。
3. 実施可能とは思われない。

に従って数字でお答えください。

上記以外のご意見がありましたらお示しください。

（各案についての付帯意見の主なもの）

A案について

- 賛成意見として，高校への影響が少ない。大学の学年歴の変更が少なくすむ。

B案について

- 否定的意見として，気候条件がよくない，出題範囲が制限される。
夏休みを利用した計画に支障がある。夏休み中に出勤を要請するのはよくない。

C案について

- 賛成意見として，気候条件がよい。
- 否定的意見として，出題範囲が制限される。大学教官の研究，学会，大学院入試等に障害がある。

回答の分類

実施時期	実施の可能性	実施可能	何とか実施可能	実施不可能	記入なし
A案：共通一次を1月下旬の土・日曜日，各大学の二次を3月実施		24	38	13	3
B案：一次を夏休みの終りに，各大学の二次を3月実施		2	17	55	4
C案：一次を10月中旬実施，各大学の二次を3月実施		2	19	54	3
D案：一次を冬休み中に，各大学の二次を3月実施		13	32	31	2
E案：一次を2月末～3月初旬，各大学の二次を3月下旬に		49	15	12	2
F案：一次を2月末～3月初旬，各大学の二次を4月下旬に		2	19	53	4
G案：共通一次を6月に実施，各大学の二次を7月に実施		1	4	69	4

D案について

- 否定的意見として，郵便事情，交通事情の悪い時期である。
地域によっては気候条件が悪い。学会等で教官が多忙である。
冬休み中の出勤要請は困る。

E案について

- 賛成意見として，入試期が一元化されると試験期間が短く，受験生にとって有利である。
- 否定的意見として，一次と二次との間が短かすぎる。
特に再試験，追試験，予備選抜などの実施に支障がある。
二次試験の採点期間も短かすぎる。私立大学の入試シーズンである。
新年度の準備，大学の業務，学会等のための多忙である。
交通の混雑する時期である。地域によっては気候が悪い。

F案について

- 否定的意見として，5月入学はよくない。カリキュラムにも問題がある。学年初めは多忙。学会の開催に支障がある。
一次と二次との間が短かすぎる。再試験，追試験の実施に支障がある。私立大学入試との関連で問題がある。教育実習の時期にあたる。
この他，新しい提案として1月中旬，2月中旬という案もあった。

(入試改善調査委員会の意見)

上記のように、E案に賛成が最も多く、次いでA案が、さらにD案が実施可能または何とか実施可能と回答された。

これに基づき、E案を基礎として、A案、D案および新提案も考慮して、実施時期をくりあげる必要があろうということで意見が一致した。

問3) 昭和51年3月報告書に記した「第二次試験のガイドラインについて」(P. 26)に関連してご意見があればお示しください。

回答の分類

	大学単位での回答	学部別に回答
A 賛成である。適切である。同意する。	28.2%	30.0%
B 異論なし、理解した。可能である。	16.7%	20.0%
C 特に意見なし	21.8%	20.0%
上記のように肯定的なものだけで	66.7%	70.0%
D 賛否の意見が明確でないもの	11.5%	14.0%
E 賛否の表現がないもの	12.8%	12.0%
F 目下検討中である	3.8%	2.0%
G 回答をさしひかえる	3.8%	0%

特に極端な否定論がなかった。なおDの回答には賛成のものも含まれているが、意志表示が明らかでないためA～C欄に入れなかった。

問4) 共通第一次試験の実地研究について出題数が多過ぎはしないかとの意見もあります。51年3月報告書をご検討のうえ、問題の難易のほか時間に対する配分量の関係などについてご意見があればお聞かせください。

回答について

全般的に、今回の実地研究の試験問題に対しては、この程度が量質ともに適当であるという意見が多かった。

なお、細かい設問別の意見については、種々問題があるため、今後とも研究を続ける必要があると考えられるので、その旨を科目別研究専門委員会に伝えることとした。

若干数であるが、各教科とも試験時間を短縮することを検討すべきであるとの意見があった。

(大学別4, 学部1)

細かい意見の分類

	問 題 量				問 題 の 質				そ の 他	
	多すぎる		少なすぎる		難 しい		易 しい		大 学 別	学 部 別
	大学別	学部別	大学別	学部別	大学別	学部別	大学別	学部別		
全 般	5	1			1	1			社会の量が多い 2 科目によって量が多い 1 理科は過密である 2 量を多くせよ 1 量を多過ぎないよう 1 科目間の難易の差が心配 11 理科・社会を1科目に 1 科目数を少く 1 出題範囲を広げる 1 数学一般廃止 3 基礎理科廃止 1	科目間の難易が心配 1 数学一般廃止 1 理系・文系の区別せよ 1
国 語	8	1			2	0	3	0	詩の出題に疑問 3 更に工夫が必要 1 設問別意見あり 1	
社	倫理・社会	4	1						倫・社の問題配分を注意 2 この科目廃止 2	
	政治・経済	8	0			4	1		基礎理論が少ない 1 経済の問題配分悪い 1 この科目廃止 1 設問別意見あり 1	
会	日 本 史	2	1			2	0		出題にかたよりあり 3 暗記重点のきらいあり 2 易しい問題を除く 1	
	世 界 史	9	1			5	0		問題に疑点あり 1 去年より質低下、細かい問題あり 1 現代を出題せよ 2 解答箇所を60位にせよ 1	
	地 理	7	0			2	0		出題にかたよりあり 1	人文地理多く、自然地理少ない 1
数 学	3	0	2	0	2	0	1	1	マークシート方式では無理 4 出題範囲を広げよ 2	出題範囲を広げよ 1
理	物 理	2	0	0	1	1	0		出題に制約あり 1 時間が少ない 1	
	化 学	5	1			2	0		出題の種がつきる 1 化学Ⅰの範囲を研究せよ 3 時間が少ない 2	時間が少ない 1
科	生 物	7	0			2	0		問題別意見あり 時間が少ない 1	時間が少ない 1
	地 学	1	1	1	0			2	0	時間が少ない 1
英 語	4	0	0	1					本番でhearingは無理 5 不適当な問あり (問Ⅰ(26), Ⅱ(6)) 1 hearingをせよ 1	

また、理科、社会において、科目間の難易の調整について具体的検討をする必要があるとされた。

問5) 共通第一次試験実施にあたっては、入試センターの組織・機構、各大学における入試事務組織の整備・充実、居住地受験の具体的処理、事故処理問題、身体障害者問題等今後具体的に調査研究すべきことが残されておりますが、これらの問題が適切に処理できた場合、共通第一次試験方式は大学入試問題の改善に資すると考えられますが、ご意見をお示してください。

なお、その他検討すべきお気付のことがあればお示してください。

この集計に当っては、学部・部局別に回答された12大学89部局の意見を大学当りに換算し、大学別の意見に算入した。

例えば5部局ある大学で、3部局がA意見、2部局がB意見であった場合、5分の3をA意見の校数に換算した。

Dの「現状では疑問である」という意見の中には、賛成と反対の両論があり、昨年のように一概に否定的意見とみることができない。

さらに、Hの全く反対という意見は2学部のみで全体の0.4%に止まった。

なお、比率の中には「回答を差控える」という2大学を含めず算出した。

(付帯意見)

回答の分類

	大学数	比率%
A：設問の条件が満たされれば、大学入試の改善に資すると考える。	25.5	31.9
B：更にいくつかの条件付きで、大学入試の改善に資すると考える。	16.0	20.0
C：現行よりもある程度は、大学入試の改善に資すると考える。	19.3	24.1
以上を賛成意見とすると 小計	60.8	76.0
D：現状では疑問である。	10.1	12.7
E：賛否決しがたい。	2.1	2.6
F：保 留	4.8	6.0
G：意見なし	1.9	2.3
H：反 対	0.3	0.4
小計	19.2	24.0
I：回答をさしひかえる。	2	
合 計	82大学	

B, Cについての条件または要望事項の主なもの

- 1 出題の内容の一層の適正化
- 2 機密漏洩の防止
- 3 事故処理の慎重の対策
- 4 出題問題のミスのないように
- 5 マークリーダーの読みとりのミスの処理の適正化
- 6 第二次試験との組合せ如何による。
- 7 入試期の一元化の実施
- 8 大学入試事務の予算, 定員の充実, 整備が緊要
- 9 大学側の負担の軽減化
(二重の負担増にならないように)
- 10 実施研究を地区に集中し, 技術的な細部を更に検討すること

(入試改善調査委員会の意見)

1～5は昨年度の実地研究における試験問題, または技術的問題であり, 6以下についても大学の入試体制の整備を含め, 当然処置してゆかねばならぬ問題である。しかし, 国大協のみで解決できる問題を超えており, 文部省との交渉, 協議が必要である。

D以下についての疑問点または指摘事項の主なもの

- 1 この方法の改善のみでは根本解決にならない。
- 2 大学間格差の是正が緊要
- 3 入試のみをかえても, 受験地獄は解消にならない。
- 4 受験生に二重の負担をかけることになる疑念がある。
- 5 大学の自主性がそこなわれるおそれがある——中央統制化
- 6 まだ不明な点が多いので慎重にしてほしい。時期尚早である。
- 7 実現の法的根拠を明確にしてほしい。
- 8 設問の条件が, 適切に処理出来たらということで結論が出ないままに統計的に処理するのは問題である。

(入試改善調査委員会の意見)

1—3の「共通一次試験のみでは大学の入試改善にならぬ」という意見については, 当然のことであって, 報告書にもふれてあるので, 反対の根拠にはならない。

7の「実現の法的根拠を明確にしてほしい」という意見には重要な問題を含んでいる。すなわち、法的な拘束がなければ、当該大学に入学を志望しているとは限らない受験生の試験監督を、当該大学の教官に対して学長が業務命令を出す権限があるのか、また、共通第一次試験方式を採用する、しない、の自由裁量権が各大学にあるのではないかと、ということである。現行の「大学入学者選抜試験実地要項」は大学長の通達であり、法的根拠が不明確のいままで、いわばガイドラインの形をとっている。しかし、各大学は概ねこれに準拠して入試を実施しており、習慣化している。共通第一次試験も、国立大学の自主的発意で実施するのであり、各大学のコンセンストになれば、法令で規定する必要はないのではないかと、との意見があったが、現実の実施の際には、法的な根拠に基く通知等の措置が必要であろうとされた。

特定大学から、共通第一次と二次とを連続して入学を志望する大学で行い、一次試験の問題は全国共通とし、電算機を分散してこれを処理してはどうか、という提案があることが披露された。

この提案を検討した結果、予備選抜が不可能であること、一次試験の結果処理を入試センターで行うことになれば、時間的に困難なこと、等が挙げられたが、今後の研究課題とすることとした。

2. 残された問題の検討

さる6月開催の第58回総会において、「大学入試改善に関する意見」の賛同を得たが、その際に、国立大学共通第一次試験を実施することについては、種々重要な問題が残されているので、これらの問題について今後文部省とも協議し、慎重に検討することとなった。残された種々の問題については、6月総会后、入試改善調査委員会及び実施方法等調査専門委員会等を開催し、検討を行うとともに、昭和52年度概算要求に係わる重要な問題については、当協会関係者と文部省幹部とが直接に連絡協議し、事務的、技術的問題については、国立大学入試改善調査施設が文部省と具体的協議を行い、いずれも、上記の委員会ならびに理事会に、その内容を報告した。

これらの問題の検討は、アンケート調査の回答に付された意見及び要望事項の主なもの、国立大学入試事務担当者の意見、高等学校側の意見、私立大学の意見等を勘案しながら、「国立大学入試改善調査研究報告書」(昭49～51)の趣旨に即し、具体的に行ったが、その結果は次のとおりである。

国立大学入試改善調査研究における「残された問題」の検討について

51. 9. 30

残された問題点	検 討 結 果	国大協報告書の検討事項 アンケート調査回答の意見・ 要望事項等
<p>1 国立大学共通第一次試験の実施機関の組織・機構</p> <p>(1) 機構・組織</p> <p>(2) 人員</p> <p>(3) 運営方法、各種委員会</p>	<p>1. 名称：大学入試センター（仮称）</p> <p>2. 性格：独立の国立大学共同利用機関 所要の法令等の整備を行い、昭和52年4月に創設を予定。</p> <p>3. 機構：管理部……庶務課，会計課の2課制 （全体計画）事業部……事業課，情報処理課の2課制 研究部……情報処理，追跡，評価（以上実験），試験方法，試験制度の5部門</p> <p>4. 人員：全体計画128人（うち教官23人）を年次計画で整備充実する。直接本試験にかかる人員は本試験実施までに配置を計画，このほか科目別問題作成の連絡調整にあたる客員研究員16人の配置を計画</p> <p>5. 運営 管理運営の方法等については，共通第一次試験実施の法令的根拠の検討結果によって，さらに検討する。</p> <p>(1) 評議会……重要事項を審議するため，国立大学長等の委員で組織する。</p> <p>(2) 運営委員会……所長の諮問に応ずるため，センター職員，専門委員会委員長，国立大学教官等の委員で組織する。</p> <p>(3) 所員会……所長の求めに応じ，心要な事項について連絡し調整するため，所長，各部課長，研究部各部門教授等で組織する。</p> <p>(4) 専門委員会……教科専門委員会と実施方法専門委員会をおくことを計画</p> <p>① 教科専門委員会……16科目別問題作成部会長（16人）で組織し，試験問題作成の基本方針の策定，教科・科目間の調整等について調査審議する。</p> <p>○16科目別問題作成部会は，それぞれ約15人の出題・選定委員（合計約240人）で組織し，委員に国立大学教官等を委嘱し，任期は2～3年，毎年半数又は1/3交替とする。各部会は科目別に試験問題の作成等にあたる。</p>	<p>㊦ 入試センターは独立機関か，国立大学付置か</p> <p>㊧ 文部省・特定大学からの独立性</p> <p>㊦ 研究部…3部門（コンピューター処理，追跡，評価）</p> <p>㊦ 108人（うち教官23人）</p> <p>㊦㊧各大学の意志の十分な反映</p> <p>㊧ 入試センターにおける各委員会の性格，権限の明確化</p> <p>㊦ 科目別の教科専門委員会及びコンピューター専門委員会，実施方法等調査専門委員会をおく。</p> <p>㊦ 教科専門委は科目別に約10人毎年半数交替</p>

残された問題点	検 討 結 果	国大協報告書の検討事項 アンケート調査回答の意見・ 要望事項等
<p>2 各大学の 実施組織の整備 等</p> <p>(1) 組織・人 員</p> <p>(2) 実施経費</p> <p>(3) センター との連絡調 整</p> <p>(4) センター との一斉連 絡方法</p>	<p>㊦の場合、各教科・科目間の調整の場がなく、かつ、試験問題全般に関する基本方針を策定することができない。]</p> <p>② 実施方法専門委員会…共通第一次試験の実施方法及び情報処理に関する専門的 事項を調査審議するため、試験方法部会、情報処理部会からそれぞれ若干名の委 員で組織する。</p> <p>○各部会は約10人（計約20人）の委員で組織し、各部会の調査審議内容に関連のあ る国立大学教官、関連する部課長及び研究部教官で組織する。</p> <p>外部委嘱委員の任期は2～3年、毎年半数又は1/3交替とする。</p> <p>1. 各大学試験実施委員会：各大学における共通第一次試験の実施にあたるため、当該 大学の学長を委員長とし、10人程度の委員で構成する。</p> <p>2. 人員の整備……入学主幹等の配置計画に基づき、未配置大学に所要人員（約120人） を年次計画で配置、本試験の実施までに各大学1人以上が配置されるよう文部省にお いて計画之中である。</p> <p>3. 予算の充実：試験監督、試験実施、準備、警備、身障者介助等の超勤手当、盲人等 身障者受験経費、諸会議出席旅費、備品費、試験場借料、電話ファックス常設経費、 成積請求カードパンチ料、問題保管等経費、燃料費、賃金等の試験実施に必要な経費 の計上を文部省において計画之中である。</p> <p>4. 各大学試験実施委員長会議（センター招集）：各大学長により試験実施に関し連絡 協議を行う。</p> <p>5. 各大学試験実施担当者会議（センター招集）：各大学試験実施委員2人によりセン ターと試験実施について連絡打合せを行う。</p> <p>各大学に電々公社の電話ファックスを常設し、センターには2～3台を常設し、試験 実施の時期には、電々公社の特別措置により大学数分を臨時に架設して、各大学と1対 1で対応し、問題訂正等を約6分で電送する。他に臨時電話も架設する。</p>	<p>㊦ 教科・科目間の難易度 の調整</p> <p>㊦㊧各大学の実施機関の整 備、人員 ・予算の充実、入試セン ターと大学の連絡、責任 分担</p> <p>㊦ 各大学の意志の十分な 反映</p> <p>㊦㊧ センターとの連絡調整</p>

残された問題点	検 討 結 果	国大協報告書の検討事項 アンケート調査回答の意見・ 要望事項等
<p>(5) センターと大学の責任分担と共通第一次試験の法令的根拠</p> <p>3 試験問題の作成・印刷保管等</p> <p>(1) 試験問題の作成</p> <p>(2) 出題の範囲</p> <p>(3) 試験問題等の印刷・保管</p>	<p>センターと大学の責任分担は報告書の通り、おおよそ各地区の共通第一次試験の実施にあたっては各国立大学長の責任によって、試験実施委員会がその実施にあたるが、共通第一次試験の実施の法令的根拠の検討とからみ、併せて文部省と国大協とで引続き連絡協議する。</p> <p>試験問題の作成、印刷・保管等は、教科専門委員会科目別問題作成部会、客員研究員事業部事業課が分担してこれにあたることを計画</p> <p>1 試験問題の作成は科目別問題作成部会が行い、その作成期間は3～4ヵ月が必要であろう。</p> <p>2 試験問題作成の連絡調整は当該科目の客員研究員がこれにあたる。客員研究員は研究部評価部門に所属し、自動的に問題作成部会に加わるものとする。国立大学教授が併任するものとし、その任期は2～3年とする。</p> <p>3 試験問題作成基準、教科・科目間の難易度調整等は教科専門委員会あたり、必要によっては、運営委員会、評議員会の検討協議事項とする。</p> <p>4 国大協における試験問題研究の成果は、センターにおける試験問題作成に十分反映させなければならないが、その具体的方法については検討中である。</p> <p>5 試験問題作成に高校側の意見をなんらかの形で反映させることについては検討中である。</p> <p>職業高校長協会等から提出された「英語Aをも試験科目とし、高校におけるこの履修者に限定して受験させ、英語Bの履修者には英語Bを試験科目とする」との要請は、英語の科目別研究専門委員会等で慎重に検討中である。</p> <p>1 試験問題等の印刷は、印刷過程の管理、機密漏洩防止の見地から、大学入試問題に経験の深い、政府印刷機関が設備等を増設して、これにあたることを計画している。1年度分に必要な試験問題の印刷製造には約1年を要する。</p> <p>2 試験問題等の保管は、センターの責任において、常時数組の現物の試験問題等を一定の場所に保管し、ガードマンによる常駐24時間警備、電子機器を利用した防犯・防</p>	<p>㊦ 大学とセンターとの責任分担</p> <p>㊧ 試験実施の法的根拠の明確化</p> <p>㊨ 研究部（評価）と専門委員会の関係</p> <p>㊩ 科目間の難易度の調整</p> <p>㊪ 出題量、内容の一層の適正化</p> <p>㊫ 出題ミスの防止</p> <p>㊬ 問題作成の責任の所在</p> <p>㊭ 高校側の意見の反映</p> <p>全国農業高校長協会等職業高校長協会連名の「英語A」の科目を職業高校出身者に対して特設せよとの要請（51. 7. 23）</p> <p>㊮ 問題印刷過程の管理</p> <p>㊯ 機密漏洩の防止</p>

残された問題点	検 討 結 果	国大協報告書の検討事項 アンケート調査回答の意見・ 要望事項等
<p>(4) 試験問題等の輸送、答案の返送</p> <p>4 共通第一次試験の実施時期の想定</p>	<p>災害備, 所轄警察署との有線連絡等の組合せによる警備を計画している。保管場所, 警備担当社等は公表しない。</p> <p>3 試験問題等の印刷・保管中の災害, 事故等を考慮し, 試験問題等の紙型等の印刷原版を別途に保管する。</p> <p>1 機密漏洩防止及び輸送中の事故等の対策のために, ストックしている試験問題等のうちから, 当該年度に使用する試験問題等の選択は, 輸送準備の直前に行うこととし, 予備を含めて2組選定する。</p> <p>2 試験問題等の発送は原則として試験日の10日前に到着するように実施し, 輸送中等の事故のため, その試験問題等が使用できなくなったときは, 予備の試験問題等を急送する。</p> <p>3 試験問題等の輸送・答案等の返送は, 大手輸送業者に委託し, 日銀券の輸送に準じた警備態勢により, 主として国鉄急行コンテナ便, 航空貨物便を使用する。非常の場合は, 政府機関に輸送・返送を要請することを考慮する。</p> <p>4 各大学における試験場間の試験問題の輸送・答案の返送, 保管については, 警備経費の計上を計画している。</p> <p>1 アンケート調査回答によれば共通第一次試験を2月末～3月上旬に第二次試験を3月下旬に実施するE案を適当とするものが多く, 次いでA案(第一次を1月下旬, 第二次を3月), D案(第一次を冬休み, 第二次を3月)が多い回答であったが, E案には多くの否定的意見があった。このため, 上記3案を考慮してE案より実施時期を繰上げる必要があるとされていた。</p> <p>2 実施時期については, アンケート調査回答意見のほか, 文部省, 一部の大学, 高校私立大学団体等の意見を要約すると次の通りであった。</p> <p>① 私立大学の1月下旬から開始する入試スケジュールに混乱を及ぼさぬこと。</p> <p>② 私立大学との関連, 国立大学の入学時期との関連から第二次試験を3月上旬に行い, その合格者発表を3月20日までに行うこと。</p>	<p>㊦㊧ 事故対策</p> <p>㊦ 共通第一次試験を2月末～3月上旬, 第二次試験を3月下旬(E案)</p> <p>㊦ 第一次試験の時期はおそくとも第二次試験の1か月前までに実施が適当</p> <p>㊧ E案に対する意見</p> <p>① 第一次と二次の間が短かすぎる</p>

残された問題点	検 討 結 果	国大協報告書の検討事項 アンケート調査回答の意見・ 要望事項等
	<p>③ 一期校二期校一元化の関連から、受験生が共通第一次試験後、その成績を自己判断した後に、志望する各大学へ出願できる機会を確保すること。</p> <p>④ 第二次試験の出願から試験日まで31～36日間を要すること、第二次試験実施日から合格者発表まで15日間を要すること。</p> <p>⑤ 試験室を学外で借用することから、第一次試験を土、日曜日に実施するとしても、その準備に金曜日の作業が必要なこと。</p> <p>⑥ 積雪等の気象条件は12月、1月が2月よりも影響が少いこと。</p> <p>⑦ 追試験の実施、答案の読取り、機械採点、各大学の成績請求、報告等の処理期間は万全を期し、第二次試験前53～55日間を要すること。</p> <p>3 このため、再検討した実施時期は次の通りの意見が最も有力であるが、高校の教育課程の進捗状況を勘案しなければならないので、高校側に意見を求めることが必須の要件として残されている。</p> <p>「冬休み中（年末の12月20日以後、高校が冬休みで、大学が年末年始の特別休暇前12月27日以前が望ましい）に共通第一次試験を実施し、各大学の第二次試験を3月上旬に実施して、3月20日までに合格者発表を行い、4月上旬に入学せしめるのが適当であると考える」</p> <p>【参考】</p> <p>(1) 日程を逆算すると次の通りである。</p> <p>① 3月20日までに第二次試験合格者発表</p> <p>② 15日前までに第二次試験を終了（現行一期校試験日の前後、3月上旬）</p> <p>③ 第二次試験前31日目から第二次試験募集（2月1日前後）</p> <p>④ 共通第一次試験処理期間は第二次試験日前53～55日間が必要（共通第一次試験は1月上旬）したがって、共通第一次試験の実施日は、1月上旬の土、日曜日となるが、試験場準備、年末年始の特別休暇直後の試験監督要員確保の困難性から不適當であるとの意見が強い。</p>	<p>② 二次試験の採点期間が短かすぎる</p> <p>③ 私立大学の入学シーズンである</p> <p>④ 気象条件が悪い （私立大学）私大のスケジュールを混乱させぬこと （実施大学）①第二次試験の募集が31～36日間が必要</p> <p>② 試験場の準備日がない</p> <p>③ 気象条件は12月、1月、2月の順で影響が少い （高校側）第一次試験後、志望大学へ出願する機会の確保</p>

残された問題点	検 討 結 果	国大協報告書の検討事項 アンケート調査回答の意見・ 要望事項等
<p>5 試験の実施に関する諸問題</p> <p>(1) 試験場・試験監督者</p> <p>(2) 居住地受験</p> <p>(3) 身障者受験</p> <p>(4) 入学検定料</p> <p>(5) 成績の公表</p> <p>(6) 大学からの成績請求及び報告</p>	<p>(2) 実施時期の問題を含め、高校側の意見を聴取するため、10月23日～11月13日の間全国7地区で、高校関係者に対し、説明会を行う予定である。</p> <p>1 受験生数は40～50万人と予測されるので、9,000～10,000室の試験室を必要とするが、各大学では6,000室確保できるのみで、3,000～4,000室は、公私立大学、高校等の学外施設を借用しなければならない。共通第一次試験の時期にもよるが試験日は土、日曜日となる。(冬休み中に実施となれば週日でよい)</p> <p>2 近接地区試験場への割り振りも学外施設の借用とからめて個々に検討する必要がある。</p> <p>1 居住地受験の原則による、受験生の試験場への割り振りは、行政地域の区分によるが、これによると、交通不便となる地区は、行政地域の区分にこだわらず、もよりの試験場で受験させる。</p> <p>2 過年度卒業者、大学入学資格検定合格者、外国で12年の教育を修了した者等の居住地受験を考慮しつつ、出身高校の所在地による受験生の試験場割り振りの方法を検討中であり、過去3ヵ年の大学志願者数を高校別に調査する予定である。</p> <p>1 盲人受験生に対しては、センターで試験問題の点訳を行い、試験場では、通常の試験監督者のほか、介助者に公立盲学校の教員を加えて監督を行う。その他の身障者に対しても介助者を配置する計画である。</p> <p>2 いずれの場合も特定の試験室を設定し、受験せしめ、必要な備品等を整備する計画である。</p> <p>入学検定料の額及びその徴収方法は文部省で検討中である。</p> <p>高校側等から要請のある共通第一次試験の成績の公表は行わないが、「正解例の公表問題」については検討中である。</p> <p>1 各大学からセンターへの成績請求は、「第二次試験受験申込みカード」を受験生から提出させ、各大学がとりまとめ、センターへ送付する方法で考えられていたが、多量の各大学からの成績請求を短期間にカードにパンチする委託先が東京にないので、</p>	<p>㊦ 地区によっては試験場が不足するので近接地区へ割り振り</p> <p>㊦ 居住地受験の具体的な処理</p> <p>㊦ 身障者受験問題</p>

残された問題点	検 討 結 果	国大協報告書の検討事項 アンケート調査回答の意見・ 要望事項等
<p>(7) その他</p> <p>6 マークリーダーの答案読取ミス等</p> <p>7 試行テストの実施</p>	<p>各大学において所在地のパンチ業者等に委託してパンチカード又は磁気テープの形式でセンターに成績請求することとする。この経費を計上することを計画している。</p> <p>2 センターからの各大学への成績報告もなるべくパンチカード、磁気テープの形式により行う計画。</p> <p>1 解答用紙にあらかじめ受験番号を印刷すること、英語の聴解力テストを実施すること、社会・理科の教科においては、受験科目を試験場を選択させるため、結果的に未使用の解答用紙が多量に発生すること等について、センター、実施大学双方とも実施上技術的に困難が多いので再検討中である。</p> <p>1 国産の光学マークシート読取り装置(OMR)より、マークの濃淡比較機能(4段階)を有する精度の高い、かつ、読取り速度の速い米国製OMRを使用し、処理時間を十分確保し、答案を3回読取らせて、2回読取り結果が合致したものをマークしたものと判断して、読取りミスの防止を図る。(この米国製OMRは米国内のほとんどのマークシート方式によるテストに使用されている信頼度の高いテスト専用機である。)</p> <p>2 米国製OMR使用の結果、マークする形は、マークしやすく、かつ消しやすい楕円形となるので消しミスによる読取りミスが防止できる。</p> <p>3 一般的な情報処理を行う国産の大型電算機は、新機種種の採用を避け、現行のいわゆる「枯れた」機種を使用し、万全を期する。</p> <p>4 電算機等は52年6月末に導入を図り、早期に要員の訓練、プログラム作成、テストランを実施する計画である。</p> <p>1 大学入試センターの事業として、全国立大学を試験場とし、共通第一次試験と全く同様の方法で実施する予定であり、ある特定地区は、共通第一次試験するとなると予想される受験生の数で、地の地区は、その1/4～1/5の規模で実施することを計画している。</p> <p>対 象：高校3年生等10万人 実施時期：52年秋～冬</p>	<p>(実施大学) 実施に多くの困難がある。</p> <p>㊦ マークリーダーの読取りミスの処理の適正化</p> <p>㊧ マークリーダーの読取りミス対策</p> <p>㊦ 実施研究を地区に集中し、技術的細部をさらに検討すること。</p>

残された問題点	検 討 結 果	国大協報告書の検討事項 アンケート調査回答の意見・ 要望事項等
	<p>2 この試行テストの目的は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 40～50万人の共通第一次試験の模擬演習。 ② 実地研究未経験大学の体験。 ③ 共通第一次試験の実施計画，要員の訓練，システム，電算機・OMRの調整，事故対策等について，センター，各大学双方が点検・修正を行い，万全を期すこと。 	

3. 要望事項についての再検討

第59回総会（昭和51年11月17～18日）以降、実施方法等調査専門委員会、入試改善調査委員会、理事会、文部省との連絡協議等を開催し、共通第一次学力試験の実施に伴う昭和54年度以降の国立大学入学者選抜方法について協議を行ったが、衆議院・参議院の各文教委員会等からの要望事項について、上記の委員会等において検討した結果は次の通りです。

1) 共通第一次学力試験の実施時期について

- ① 共通第一次学力試験の実施時期の設定にあたっては、従来12月下旬から1月上旬の間の冬休み中とせざるを得ないとされていたが、国立大学、高校団体、私立大学団体、文部省等の意見を勘案しながら、次の要件を満たす時期としては、実施期日を12月20日～28日の間の2日間とすることが適切である。
 - ㊦ 1月下旬から開始される私立大学の入試スケジュールに混乱を及ぼさぬこと。
 - ㊧ 私立大学との関連、国立大学の入学時期との関連から、第二次試験を3月上旬に行い、その合格者発表を3月20までに行うこと。
 - ㊨ 共通第一次学力試験実施に当っては、国立大学の施設のみによるのではなく外部の施設を借用する必要があることから、冬休み期間とすること。
 - ㊩ 北海道、東北、北陸、山陰地方における積雪等の気象条件は、冬期のうち、12月が最も良好であること。
 - ㊪ 受験生の答案の輸送、読取り、機械採点、各大学からの成績請求、各大学への成績報告、追試験の実施等のため、共通第一次学力試験から各大学の第二次試験までの間に約55日間を要すること。追試験の準備は、共通第一次学力試験後、追試験受験資格の認定、試験問題の輸送、実施準備等のため、約2週間を要すること。
 - ㊫ 第二次試験の終了後、採点、入学者の合否判定等のため、合格者発表まで約17日間を要し、さらに新年度の準備のため、入学期日までに約15日を要すること。
- ② 12月下旬の実施は、共通第一次学力試験の出題科目の大部分が、低学年で履修を終了している必修科目から出題されるので、高等学校の教育の流れを阻害することはないと考える。しかし、「社会」の一部においては履修を終わっていないので、その出題範囲を、第3学年第2学期までの履修状況を勘案して調整することが必要である。調査書の内容及び第二次の学力検査の成績等も総合的に入学者判定の資料となるので、第3学年での選択科目の履修を放棄させることにはなら

ないと考える。

- ③ 高等学校における教育課程の終了後の3月下旬に、共通第一次学力試験を実施することはどうかとの意見があるが、大学における新学年度準備を含めて、入学期は約3カ月遅れて6月下旬から7月上旬の間となり、大学の教育課程を完了できないおそれがあるので、当面大学のコンセンサスを得る見込みがないこと、また国公立大学が合格者発表の期日を現行の期日より大幅に遅らせることについて、私立大学の入学者選抜に著しい影響を及ぼすおそれがあるので、その実現は非常に困難であるとした。
- ④ 上記に関連して国立大学の入学時期を9月にすることはどうかという意見があるが、国立大学としては何等支障がなく、むしろ望ましいとする考えもあるが、社会的影響が大きいので、長期的展望に立って、今後検討する必要がある。
- ⑤ 12月下旬の実施は、試験処理に万全を期した計画によるものであるため、今後、実施の経験を積むことによって、試験処理期間の短縮が検討されることとなろう。

2) 職業科高等学校卒業者に対する英語の取扱いについて

共通第一次学力試験の外国語の教科に「英語A」を新設することとし、職業科高等学校、普通科高等学校定時制課程等の卒業者で、在学中に「英語A」を履修した者に限り、この科目を選択して解答することができるものとする。これは既に「数学一般」「基礎理科」につきそれを履修した者のみに選択解答させることとしたことに対応するものである。

3) 第二次募集方式について

従来行われている合格者又は入学者が入学定員に満たない場合に行う再募集のほか、「入学定員の一部をあらかじめ留保しておき、各大学の合格者発表後に、共通第一次学力試験を受験しているものを対象として、第二次募集を行うこともできる方式」を実施することについて、各方面から検討せよとの要望があったが、つぎのようなことで対処することとした。

- ① 全国立大学が画一的に実施すべきものではなく、推薦入学方式と同様に、各大学の自主的判断によって行う特別の選抜方法の一つであること。
- ② 各大学が第二次学力検査等の実施教科・科目及び選抜方法等を公表する6月～7月に、あらかじめ、この方式の特別の選抜方法を実施することを明示して、第二次募集を行う場合以外に、あらかじめ入学定員の一部を留保せずに、合格者発表後にも、この方式が実施できるようにすること。

この場合は、募集、出願受付、検査、採点、合否判定等に必要試験実施処理等は当該大学が

行うものとする。

- ③ 第二次募集の出願に当たり、各国立大学に合格した者が出願し、異常の事態となることを防ぐため、共通第一次学力試験を受験した者で、かつ各国立大学に合格しなかった者にかぎる等の要件を加える必要がある。以上の要件の下に実施できるよう規定するのが望ましい。
- 4) 第二次の学力検査の実施教科・科目数と二段階選抜（予備選抜）について第二次の学力検査の実施教科・科目数を極めて少ないものとし、予備選抜を行わないことについて、国大協として強力に働きかけを行うべしとする要望が各方面からなされているが、これに関し次のように対処することとした。
- ㊦ 共通第一次学力試験は、国立大学が共同して、大学入学志願者に対して実施するものであり、各大学が必要に応じて行う第二次の学力検査及び面接、実技検査、小論文等は、共通第一次学力試験を補完するとともに、各大学の学部・学科等の特性に応じた適性・能力を、高校の選択科目を中心として出題して評価するものであるので、この第二次の学力検査等の実施教科・科目及び実施方法ならびに選抜方法は、大学が自主的な判断に基づいて決定すべきものであること。
- ㊧ しかしながら、「第二次試験のあり方」の検討経過に関する調査の中間的回答の集計整理のまとめを概観すると、若干の問題があるように思われることにかんがみ、共通第一次学力試験の趣旨に即し、受験生の負担が過重にならぬよう、各大学の第二次の学力検査の出題教科・科目の数を必要な最少限にすること及び二段階選抜（予備選抜）は原則として行わないが、入学志願者が入学定員を極度に上回る場合にのみ実施することができること等の「第二次試験のガイドライン」の趣旨が、十分生かされるよう、この趣旨の周知徹底を図ることとする。

なお、共通第一次学力試験の成績により第一段階の選抜を行い、その合格者について、さらに第二次の学力検査の成績による第二段階の選抜を実施し、これの合格者に対して、面接を行って最終的な合格者を決定する三段階選抜の方式の検討を求める大学があったことを付記する。

5) 共通第一次学力試験の教科・科目数について

共通第一次学力試験が、5教科6～7科目（「現代国語」と「古典Ⅰ甲」をあわせて1科目としているので、学習指導要領の科目数に換算すると7～8科目となる）を出題することは過重であり、かつ、生徒の個性を没却させるおそれがあるとの意見があるが、

- ① 共通第一次学力試験の5教科6～7科目の出題は、「国語」「数学」の各教科各1科目、「社会」「理科」の各教科各2科目の高校における必修科目に、大学教育の要件として履修すべき「外国語」の1科目を加え、高校における基礎的な学習の達成の程度を評価するものであるので、この科目

数を減じると、高等学校における必修科目の完全履修に影響を及ぼし、かえって高校教育の正常な発展の障害となるおそれがある。

- ② 高校における教育は、主として低学年において基礎的な学習を行わせるため、必修科目を課し、高学年に進むに従って、生徒が各自の適性に応じ、その選択科目を選択履修することとなっているので、必修科目を共通第一次試験に出題することは妥当であると考ええる。
- ③ 生徒の個性・適性・能力は第二次の学力検査等において判定することになるが、各大学が学部・学科等の特性に応じた入学志願者の適性・能力を検査する第二次の学力検査の出題科目は、高校において生徒がその適性に応じて選択した科目に対応するものと考えられるので、この科目数は必要な最少限に止めるべきである。

なお、この第二次学力検査の科目数については、「第二次試験のガイドライン」において、過重負担にならないよう必要な最少限に止めることを示している。

6) 公立大学協会の共通第一次学力試験の資料利用について

12月7日付で公立大学協会から共通第一次学力試験の成績利用について申入れがあったが、実質的には公立大学志望者が共通第一次学力試験を受験することである。これに関しては、試験場の確保、試験監督者の増員等につき、応分の協力が行われることを前提に、その参加については異存のないことを理事会で了承し、6月総会で追認を受けることとなった。基本的には大学入試センターが処理すべき事項であるので、その設置をまって、公立大学協会に回答することとなった。

[参考]

1) 各種委員会の開催等

51年11月24日 コンピューター専門委員会

12月3日 実施方法等調査専門委員会小委員会

52年1月26日 実施方法等調査専門委員会、同小委員会

2月23日 理事会

科目別研究専門委員長会議

3月7日 文部省との連絡協議

3月12日 実施方法等調査専門委員会小委員会

新自由クラブとの懇談

3月16日 衆議院文教委員会に岡本道雄入試改善調査委員会委員長が国大協を代表し参考人として出席

- 3月22日 コンピューター専門委員会
- 3月23日 衆議院文教委員会で国立学校設置法及び国立養護教諭養成所設置法の一部を改正する法律案（大学入試センターの設置を含む）を付帯決議を付して全会一致で可決
衆議院文教委員会に入試問題に関する小委員会が設置される
- 3月25日 衆議院本会議で国立学校設置法及び国立養護教諭養成所設置法の一部を改正する法律案（大学入試センター設置を含む）を全会一致で可決し、参議院へ送付
- 4月6日 衆議院文教委員会入試問題に関する小委員会に加藤陸奥雄入試改善調査委員会副委員長，若槻哲雄第二常置委員会委員長，飯島宗一第六常置委員会委員長，湊秀雄入試改善調査委員会委員が参考人として出席
- 4月12日 参議院文教委員会に加藤陸奥雄入試改善調査委員会副委員長が参考人として出席
科目別研究専門委員連絡会議
実施方法等調査専門委員会
- 13日 実施方法等調査専門委員会
入試改善調査委員会
理事会
- 14日 参議院文教委員会に湊秀雄入試改善調査委員会委員が参考人として出席
- 20日 日教組が「共通一次及び二次試験について」要請書を提出
- 21日 参議院文教委員会で国立学校設置法及び国立養護教諭養成所設置法の一部を改正する法律案を付帯決議を付して全会一致で可決
- 22日 衆議院文教委員会入試問題に関する小委員会に加藤陸奥雄入試改善調査委員会副委員長が参考人として出席
参議員本会議で国立学校設置法及び国立養護教諭養成所設置法の一部を改正する法律案修正案を全会一致で可決し、衆議院に回付し、衆議院本会議で同修正案を可決、成立（5月初に公布の予定）
- 5月初 大学入試センター設置予定（東京教育大学農学部構内）

2) 国立学校設置法及び国立養護教諭養成所設置法の一部を改正する法律（抜すい）
（国立学校設置法の一部改正）

第1条 国立学校設置法（昭和24年法律第150号）の一部を次のように改正する。

第3章の3の次に次の1章を加える。

第3章の4 大学入試センター

（大学入試センター）

第9条の5 国立大学の入学者の選抜に関し、共通第一次学力試験の問題の作成及び採点その他一括して処理することが適当な義務を行うとともに、大学の入学者の改善に関する調査研究を行う機関として、大学入試センターを置く。

2 大学入試センターは、国立大学以外の大学の要請に応じて、当該大学の入学者の選抜に関する業務の実施に協力することができる。

3 大学入試センターは、東京都に置く。

4 第1項の共通第一次学力試験に関し必要な事項は、文部省令で定める。

附 則

（施行期日）

1 この法律は、公布の日から施行する。

（教育公務員特例法の一部改正）

4 教育公務員特例法（昭和24年法律第1号）の一部を次のように改正する。

第22条中「第3章の3に規定する機関の長及び」を「第3章の3及び第3章の4に規定する機関の長（同法第9条の4第2項に規定する研究所の長を含む。）並びに」に、「もっぱら」を「専ら」に改める。

3）衆参両院文教委員会の付帯決議

国立学校設置法及び国立養護教諭養成所設置法の一部を改正する法律案に対する付帯決議

（衆議院文教委員会、昭和52年3月23日）

政府は、大学入試の改善が今日の国民的な課題となっていることにかんがみ、大学の立場を尊重しながら、国民各層の要請に応じて、その解決に最大限の努力をすべきである。

大学入試センターの具体的な組織、運営およびその事業内容等については、入試問題に関する本委員会が今後も行う審議の結果が十分生かされるよう努めるべきである。

右決議する。

（参議院文教委員会、昭和52年4月21日）

最近における入試準備教育の過熱状況を是正し、学校教育の正常化を図るためには、政府及び関

係者において学歴偏重の打破，大学間格差の是正，各大学における特色ある教育の充実等について具体的施策が一層推進されなければならない。

また，当面の課題である国立大学の入試制度の改善に当たっては，大学の自主性を尊重して適正に行われることはもとよりであるが，左記の事項についてなお慎重な配慮がなされることを要望する。

1. 国立大学共通第一次学力試験については，いわゆる客観テストの短所・限界を除去するよう不断の調査研究と改善に努めるとともに，その予備選抜への利用は極力避け，有効かつ適切な利用に努めること。
2. 各大学が行う第二次試験については，受験生の過重な負担とならないよう調査書の活用を図るとともに，学力検査の科目の減少に努めること。
3. 受験生の第二志望をできるだけ生かす方途を考慮すること。
4. 職業高校（課程）の卒業者が不利にならないよう第二次学力試験における代替科目の設定，推薦入学制度の活用等に努めること。
5. 大学入試センターの運営については，高校関係者等広く世論が反映できるような組織を作るとともに，試験の円滑な実施を図るため入試センター及び各国立大学の入試の実施に関する体制の整備に努めること。
6. この入試制度の改善措置については，その実施結果を踏まえた見直しのため，適当な時期に国会に報告すること。

なお，私立大学における入試制度の改善の努力を期待するとともに，政府及び教育関係者は予想される業者テスト等の弊害の除去に格段の努力を払うべきである。

右決議する。

（注）「各大学における第二次試験のあり方等に関する検討について」は昭和52年4月26日付，国入改第38号で各国立大学長宛送付済（V—4項参照）

4. 各大学における第二次試験のあり方等に関する検討

先の第59回総会の決定により，各大学における第二次試験のあり方等の検討経過について連絡調査を行うため，これに関する調査を実施し，調査対象の82大学すべてから回答を得た。この回答を，同系同種の学部等ごとにとりまとめ，若干の集計整理を行ったが，その結果は次のとおりである。

各大学がその学部・学科等の目的、性格、その他の特性に応じて、入学志願者の適性・能力を検査する第二次試験のあり方については、国会における大学入試センターの設置等のための国立学校設置法改正案（昭和52年4月22日可決成立）の審議の過程でも、これに関する関心は非常に高く、又全国高等学校長協会の要望等、各関係方面からの意見も多く、社会的な注目を集めていた。

52年4月13日開催の入試改善調査委員会及び理事会において、これらの社会的な関心を考慮しつつ、標記の調査のとりまとめを検討したが、第二次学力検査の教科・科目の数、予備選抜（二段階選抜）の実施等に関し、若干の問題があるように思われるので、各大学に対して「第二次試験のガイドライン」の趣旨を十分生かして再検討されるよう要請することとなった。

特に、各大学が必要に応じて行う第二次の学力検査で課する教科・科目の数は、各大学が自主的に決定する事項であるが、共通第一次学力試験が入学志願者の高等学校における基礎的な学習の達成の程度を評価するため、主として必修科目5教科6～7科目を通算約10時間にわたって課することとしていること及び各大学が行う第二次の学力検査の教科・科目が、主として高等学校の選択科目から課され、共通第一次学力試験の成績と第二次学力検査の成績とを合理的に総合して学力検査の成績とすることなどに十分留意され、入学志願者に対して過重な負担を強制することのないよう、又高等学校教育の正常な発展に障害とならないよう、必要な最少限の数にとどめることに格段の配慮を要請した。

又、各大学における予備選抜の実施については、多元的な資料によって入学者を判定しようとする今回の改善措置の趣旨に即し、「第二次試験のガイドライン」に示すように予備選抜は原則として実施しないものであること及びその実施は止むを得ざる例外的措置であることならびに入学者選抜期日が一元化されることに十分留意し、大学が自主的に決定する事項ではあるが、安易に予備選抜の実施を決定することのないよう格別の配慮を願うこととした。

1) 第二次学力検査の学部別平均科目数調

82大学のうち、全学で検附中の3大学を除き79大学の学部別・平均科目数については、次表に示すとおりである。

○ 人文社会系

学 部 名	試験科目の分布の範囲	平均科目数	備 考
教 養	2 科目	2.0 科目	
文 理	2 科目	2.0 "	
教 育	2 科目～3 科目	2.8 "	
教 員 養 成	0～4 科目	1.7 "	
文 学	2 科目～3 科目	2.7 "	
外 国 語	1 科目～2 科目	1.5 "	
人 文	0～3 科目	1.9 "	
法 文	1 科目～2 科目	1.2 "	
法 学	0～3 科目	2.5 "	
政 経	0～3 科目	1.5 "	
経 済	1 科目～3 科目	2.3 "	
経 営	3 科目	3.0 "	
商 学	2 科目	2.0 "	
合 計	0～4 科目	2.0 科目	

○ 自然科学系

学 部 名	試験科目の分布の範囲	平均科目数	備 考
理 学	1 科目～5 科目	2.4 科目	
工 学	0～4 科目	2.7 "	
理 工	1 科目～2 科目	1.5 "	
農 学	0～4 科目	2.4 "	
水 産	1 科目～3 科目	2.0 "	
畜産・獣医	2 科目～3 科目	2.5 "	
薬 学	2 科目～4 科目	3.2 "	
合 計	0～5 科目	2.5 科目	

注1. 本表中、「0科目」とは、第二次学力試験を課さない(面接、小論文、実技を課する)場合をいう。

2. 本表での科目数はいわゆる「試験科目」として表示してある。たとえば数ⅡB、数Ⅲの2科目あわせて課する場合においても1科目としている。

○ 医学・歯学系

学 部 名	試験科目の分布の範囲	平均科目数	備 考
医 学	0～4 科目	2.8 科目	
歯 学	1 科目～4 科目	2.9 "	
合 計	0～4 科目	2.8 科目	

○ 家 政

学 部 名	試験科目の分布の範囲	平均科目数	備 考
家 政	0～2 科目	1.3 科目	

○ そ の 他

学 部 名	試験科目の分布の範囲	平均科目数	備 考
総合科学	2 科目～3 科目	2.7 科目	
保健			
商 船(2)			

2) 各大学における第二次試験のあり方等の検討経過に関する調査結果（中間報告）

I この調査の目的は、各大学における第二次試験のあり方の検討を促進するため、各大学・学部における第二次試験のあり方、共通第一次試験の利用方法及び予備選抜等について、検討の過程及び一応の結果等を調査し、同系同種の大学・学部ごとにとりまとめ、各大学に配布し、この検討の参考資料とするとともに、各大学間の意見交換を授助するものである。

なお、必要があれば本調査を再度実施する。

(1) 調査事項

- 1) 第二次学力検査の教科・科目について
- 2) 第二次学力検査以外の選抜方法について
- 3) 代替科目について
- 4) 共通第一次学力試験の成績の利用法について
- 5) 合格者決定にあたって学内での第二次志望等の取扱いについて
- 6) 予備選抜について

(2) 調査対象大学

国立82大学（東京教育大学および新設5大学を除く。）

II 集計方法

1. 「各大学が行う第二次の学力検査の教科・科目について」

本表は、国立82大学について、同系同種の学部単位による教科・科目の類型（例：2教科2科目）等について集計・整理した。なお、学部内で意見が分れた場合は、次のように集計した。

同一学部内で、学科別に意見が異なった場合には、次のような方法で「学部単位」に換算し、集計した。

（例—1）3学科構成の学部において	意向	類型	換	算	学部数
2学科が2教科から2科目を課す	(7)	2科目	$\frac{2}{3}$ ……	0.66	0.7
1学科が2教科から3科目を課す	(9)	3科目	$\frac{1}{3}$ ……	0.33	0.3

(例—2) 教員養成系の学部において

小学校教員養成課程	1教科から2科目を課す	(6)	2科目	$\frac{1}{3}$ ……0.33	0.3
			(1教科)		
中学校教員養成課程	国語専攻は2教科から3科目を課す	(9)	3科目	$\frac{1}{5}$ ……0.16	0.2
			(2教科)		
中学校教員養成課程	数学専攻は2教科から2科目を課す	(7)	2科目	$\frac{1}{5}$ ……0.16	0.2
			(2教科)		
養護学校教員養成課程	1教科・1科目を課す	(2)	1科目	$\frac{1}{3}$ ……0.33	0.3
			(1教科)		

2. 「学力検査以外の選抜方法について」～6. 「予備選抜について」

これらの集計にあたっては、各項目の回答を、意見ごとに大学単位でまとめることとした。

1. 各大学が行う第二次の学力検査の教科・科目について

項 番 号	系 別 学 部 %	3 大 学 (全 学 共 通) 2 大 学 2 学 部 1 大 学 5 学 群	7 9 大 学 合 計		7 9 大 学 (学 部 別) 内 訳												
			人 文 社 会 系														
					小 計		教 養		文 理		教 育		教 員 養 成		文 学		
			学 部 数	%	学 部 数	%	学 部 数	%	学 部 数	%	学 部 数	%	学 部 数	%	学 部 数	%	
(1)	第二次学力検査を課さない(出題:小論文) 大技を課する		9.0	3.2	4.0	3.6						1.7	3.6				
(2)	" 1 科 目 を 課 す る (1 教 科 从 ち)		24.7	8.8	15.8	14.2						10.4	22.1				
(3)	" " (2 教 科 从 ち)		3.8	1.4	1.5	1.4						1.0	2.1				
(4)	" " (3 教 科 从 ち)		1.5	0.5	1.0	0.9						1.0	2.1				
(5)	" " (5 教 科 从 ち)		0.2	0.1	0.2	0.2						0.2	0.4				
小 計			39.2	14.0	22.5	20.3						14.3	30.4				
(6)	第二次学力検査に 2 科目を課する(1 教科から)		3.2	1.1	1.3	1.2						1.0	2.1				
(7)	" " (2 教科から)		72.9	26.0	29.1	26.2	1.0	100	2.0	50.0	1.0	20.0	12.1	25.8	3.0	33.4	
(8)	" " (3 教科から)		1.5	0.6	1.0	0.9											
小 計			77.6	27.7	31.4	28.3	1.0	100	2.0	50.0	1.0	20.0	13.1	27.9	3.0	33.4	
(9)	第二次学力検査に 3 科目を課する(2 教科から)		31.0	11.1	0.7	0.6						0.7	1.5				
(10)	" " (3 教科から)		36.8	13.1	22.2	20.0					3.0	60.0	3.7	8.0	4.0	44.4	
小 計			67.8	24.2	22.9	20.6					3.0	60.0	4.4	9.4	4.0	44.4	
(11)	第二次学力検査に 4 科目を課する(2 教科から)		2.2	0.8													
(12)	" " (3 教科から)		23.0	8.2													
(13)	" " (4 教科から)		0.7	0.3	0.2	0.2						0.2	0.4				
小 計			25.9	9.3	0.2	0.2						0.2	0.4				
(14)	第二次学力検査に 5 科目を課する(4 教科から)		0.5	0.2													
(15)	検 討 中	2.7	69.0	24.6	34.0	30.6			2.0	50.0	1.0	20.0	1.5	31.9	2.0	22.2	
合 計			2.7	280.0	100.0	111.0	100.0	1.0	100.0	4.0	100.0	5.0	100.0	47.0	100.0	9.0	100.0

(注) 本表での科目数はいわゆる「試験科目」として表示してある。たとえば、数Ⅱ-B、数Ⅲの併せて2科目を課する場合においても1科目としている。

項 番 号	79 大学 (学部別) 内 訳																						
	人 文 社 会 系 (2)														自 然 科 学 系								
	外 国 語		人 文		法 文		法 学		政 経		経 済		経 営		商 学		小 計		理 学		工 学		
	学部数	%	学部数	%	学部数	%	学部数	%	学部数	%	学部数	%	学部数	%	学部数	%	学部数	%	学部数	%	学部数	%	学部数
(1)			1.0	14.3	0.9	15.0			0.5	50.0							2.7	2.2			1.7	3.7	
(2)	1.0	50.0	1.0	14.3	0.3	5.0	1.0	14.2			2.0	11.1					8.5	7.0	2.5	10.0	1.5	3.3	
(3)					0.3	5.0											1.5	1.2			1.5	3.3	
(4)																	0.5	0.4					
(5)																							
小計	1.0	50.0	2.0	28.6	1.5	25.0	1.0	14.2	0.5	50.0	2.0	11.1					13.2	10.8	2.5	10.0	4.7	10.2	
(6)					0.5	8.3											1.9	1.6					
(7)	1.0	50.0	3.0	42.9	1.0	16.7					5.0	27.8					34.8	28.5	13.2	52.8	11.0	23.9	
(8)															1.0	50.0	0.5	0.4					
小計	1.0	50.0	3.0	42.9	1.5	25.0					5.0	27.8			1.0	50.0	3.72	30.4	13.2	52.8	11.0	23.9	
(9)																	23.3	19.1	2.0	8.0	11.5	25.0	
00			2.0	28.5			3.0	42.8	0.5	50.0	5.0	27.8	1.0	50.0			4.6	3.8			1.6	3.5	
小計			2.0	28.5			3.0	42.8	0.5	50.0	5.0	27.8	1.0	50.0			27.9	22.9	2.0	8.0	13.1	28.5	
01																	2.2	1.9			0.2	0.4	
02																	16.0	13.1	3.0	12.0	9.0	19.6	
03																	0.5	0.4	0.5	2.0			
小計																	18.7	15.4	3.5	14.0	9.2	20.0	
04																	0.5	0.4	0.5	2.0			
05					3.0	50.0	3.0	42.8			6.0	33.3	1.0	50.0	1.0	50.0	24.5	20.1	3.3	13.2	8.0	17.4	
計	2.0	100.0	7.0	100.0	6.0	100.0	7.0	100.0	1.0	100.0	18.0	100.0	2.0	100.0	2.0	100.0	122.0	100.0	25.0	100.0	46.0	100.0	

項 番 号	79 大学 (学部別) 内訳																				備 考 ← 総合科学・ 芸術・音楽・ 保健・商船(2)
	自然科学系 (2)										医学歯学系						家 政		そ の 他		
	甲 工		農 学		水 産		畜 産 獣 医		薬 学		小 計		医 学		歯 学		家 政		そ の 他		
	学部数	%	学部数	%	学部数	%	学部数	%	学部数	%	学部数	%	学部数	%	学部数	%	学部数	%	学部数	%	
(1)			1.0	3.5							2.0	5.4	2.0	6.3			0.3	8.3			
(2)	1.0	500	2.5	8.6	1.0	20.0											0.3	8.3			
(3)										0.5	1.4			0.5	10.0	0.3	8.3				
(4)			0.5	1.7																	
(5)																					
小計	1.0	500	4.0	13.8	1.0	20.0					2.5	6.8	2.0	6.3	0.5	10.0	1.0	25.0			
(6)			1.9	6.6																	
(7)	1.0	500	5.0	17.3	2.0	40.0	1.0	33.3	1.5	12.5	6.0	16.2	5.5	17.2	0.5	10.0	1.0	25.0	2.0	33.3	
(8)			0.5	1.7																	
小計	1.0	500	7.4	25.6	2.0	40.0	1.0	33.3	1.5	12.5	6.0	16.2	5.5	17.2	0.5	10.0	1.0	25.0	2.0	33.3	
(9)			5.4	18.3	1.0	20.0	1.0	33.3	2.5	20.8	7.0	18.9	6.0	18.7	1.0	20.0					
(10)			1.0	3.5					2.0	16.7	8.0	21.6	6.0	18.7	2.0	40.0			2.0	33.3	
小計			6.4	21.8	1.0	20.0	1.0	33.3	4.5	37.5	15.0	40.5	12.0	37.5	3.0	60.0			2.0	33.3	
(11)			1.0	3.5					1.0	8.3											
(12)			2.0	6.9					2.0	16.7	7.0	18.9	6.0	18.7	1.0	20.0					
(13)																					
小計			3.0	10.4					3.0	25.0	7.0	18.9	6.0	18.7	1.0	20.0					
(14)																					
(15)			8.2	28.4	1.0	20.0	1.0	33.4	3.0	25.0	6.5	17.6	6.5	20.3			2.0	50.0	2.0	33.3	
計	20	1000	29.0	100.0	5.0	100.0	3.0	100.0	12.0	100.0	37.0	100.0	32.0	100.0	5.0	100.0	4.0	100.0	6.0	100.0	

2. 学力検査以外の選抜方法について

○ 面接について

(1)	第二次学力検査に面接を課することを予定している。	4大学	4.9%	}	面接を課する予定	18大学	22.0%
(2)	" " 一部の学部で課することを予定している。	5大学	6.1%				
(3)	" " 一部の学部学科で課することを予定している。	9大学	11.0%				
(4)	" " 課するかどうかについて検討している。	21大学			検討中	21大学	25.6%
(5)	" " 課することを予定していない。	43大学			課さない	43大学	52.4%
		計	82大学				100.0%

○ 実技について

(1)	第二次学力検査に実技を課する(一部の学部学科で課することを含む)ことを予定している。	23大学	28.0%	}	実技を課する	38大学	46.3%
(2)	" " 課するが、その方法等については未定である。	5大学	6.1%				
(3)	" " 課する方向で検討している。	10大学	12.2%				
(4)	" " 課するかどうか検討している。	3大学			検討中	3大学	3.7%
(5)	" " 課さない。	41大学			課さない	41大学	50.0%
		計	82大学				100.0%

○ 小論文について

(1)	第二次学力検査に小論文を課する(一部の学部・学科で課することを含む)ことを予定している。	21大学	25.6%	}	小論文を課する	51大学	62.2%
(2)	" " 課する方向で検討している。(特定の学部・学科に)	30大学	36.6%				
(3)	" " 課することを予定していない。	31大学					
		計	82大学				100.0%

3. 代替科目について

(1)	第二次学力検査に代替科目を課することを予定している。	7大学	8.5%	課する
(2)	" " 課するかどうか検討している。	15大学	18.3%	検討中
(3)	" " 課さない。	60大学	73.2%	課さない
		計	82大学	100.0%

1. 共通第一次学力試験の成績の利用法について

(1) 共通第一次学力試験 10 : 各大学の第二次学力検査 8, 5 : 5 等の比率をつける。	29 大学	35.4 %	}	共通第一次を重視	61 大学	74.4 %
(2) 共通第一次学力試験の成績を単純加算する。	1 大学	1.2 %				
(3) " の成績を重視する。	14 大学	17.1 %				
(4) 共通第一次学力試験と第二次学力検査の成績を総合判定する。	17 大学	20.7 %				
(5) " の成績を加味する。	3 大学	3.6 %	}	第二次を重視	7 大学	8.6 %
(6) 第二次学力試験の成績を重視する。	4 大学	4.9 %				
(7) 検 討 中	14 大学	17.1 %	検討中	14 大学	17.1 %	
計		82 大学				100.0 %

5. 合格者決定にあたって学内での第二志望等の取扱いについて

(1) 学部間で第二志望等の取扱いを行う。	な し		}	行 う	53 大学	64.7 %
(2) 学部内で第二志望等の取扱いを行う。	14 大学	17.1 %				
(3) " " 一部の学部で行う	26 大学	31.7 %				
(4) " " 一部の学部・学科で行うことを予定	13 大学	15.9 %				
(5) 学部間あるいは学部内で、第二志望等の取扱いを行うかどうか検討している。	13 大学		検討中	13 大学	15.8 %	
(6) " " " 行わない。	16 大学		行わない	16 大学	19.5 %	
計		82 大学				100.0 %

6. 予備選抜について

○ 実施大学について

(1) 予備選抜を全学的に実施することを予定している。	11 大学	13.4 %	}	実施予定	38 大学	46.3 %
(2) " 一部の学部において実施(一部検討中の学部を含む)を予定している。	27 大学	32.9 %				
(3) " 全学的に実施予定で検討している。	4 大学	4.9 %	}	実施予定で検討	11 大学	13.4 %
(4) " 一部の学部・学科において実施予定で検討している。	7 大学	7.5 %				
(5) " 予定していない。	33 大学		実施を予定していない	33 大学	40.3 %	
計		82 大学				100.0 %

5. 各国立大学受験者収容可能数調

共通第一次試験受験者は46万名に及ぶことが予測され、国立大学の施設以外の私立大学、高等学校等を試験場として確保する必要もあるが前提となる国立大学の収容可能数を調査し、約33万名が可能であることが判明した。なお、この場合の数は通常の授業座席でなく、一定間隔をとったいわゆる「試験座席」として集計した。

北海道	7,472	東京学芸	1,857	豊橋技科		徳島	4,445
北海教育	6,308	東京農工	2,301	愛知教育	4,950	香川	4,570
室蘭工業	1,844	東京芸術	680	名古屋工	4,412	愛媛	7,520
小樽商科	1,300	東京教育		三重	4,467	高知	3,270
帯広畜産	778	東京工業	3,377	滋賀	1,968	高知医科	
旭川医科	245	東京商船	989	滋賀医科	450	福岡教育	3,011
北見工業	1,336	東京水産	1,294	京都	7,820	九州	6,230
弘前	3,986	お茶の水	1,176	京都教育	3,060	九州芸工	811
岩手	5,465	電気通信	2,521	京都工芸	2,104	九州工業	2,620
東北	7,209	一橋	4,112	大阪	8,087	佐賀	3,520
宮城教育	1,550	横浜国立	4,744	大阪外語	1,395	佐賀医科	
秋田	2,928	新潟	11,052	大阪教育	13,036	長崎	5,154
山形	5,663	長岡技科		神戸	7,583	熊本	7,016
福島	2,499	富山	5,485	神戸商船	1,130	大分	3,615
茨城	5,861	富山医薬	914	奈良教育	2,030	大分医科	
筑波	4,710	金沢	6,221	奈良女子	1,374	宮崎	4,380
宇都宮	3,280	福井	2,410	和歌山	2,000	宮崎医科	412
群馬	3,727	山梨	2,713	鳥取	2,314	鹿児島	6,993
埼玉	2,391	信州	7,315	島根	3,890	琉球	1,350
千葉	11,010	岐阜	4,075	島根医科	402		
東京	9,105	静岡	6,207	岡山	5,973		
東京医歯	926	浜松医科	410	広島	13,116		
東京外語	2,006	名古屋	7,378	山口	5,390	計	330,698

6. 54年度共通第一次試験受験者数予測

試験場の確保、試験問題の印刷等実施上の基礎となる受験者数を高校卒業者数、大学志願者数、国立大学志願者数および大学入学該当年令人口等から推算し、昭和54年度の受験者数を46万名と推測した。

51. 1. 6

卒業年月日	高校卒業者数	大学志願者数(A)			国立大学志願者数			大学志願者中の国立大学志願者割合	該当年令人口(B)	(A) / (B)	備考
		合計	現役	浪人	合計	現役	浪人				
50. 3	1,325,968	640,220	457,363	186,346	257,586	177,457	80,129	40.23	159	40.3	
51. 3	1,352,500	650,063	459,489	190,574	263,140	181,193	81,947	40.48	155	41.9	
		(715,068)	(503,877)		(282,063)	(191,740)		(39.45)			
52. 3		709,013	497,822	211,272	279,686	189,363	90,874	39.45	163	43.4	(予測)
		(724,280)	(510,826)		(285,190)	(193,924)		(39.38)			
53. 3		714,447	500,993	213,623	281,517	190,251	91,816	39.40	159	44.9	(予測)
		(730,278)	(518,072)		(287,624)	(196,493)		(39.39)			
54. 3		712,203	499,997	212,639	281,208	190,077	91,686	39.48	157	45.4	(予測)

(注) 52年3月以降の()欄は52年3月以降卒業予定者のある新設校分を含む。

年度	大学志願者数(A)			大学入学者数(B)	倍率(A) / (B)	国立大学入学志願者数(C)	国立大学入学者数(D)	倍率(C) / (D)	公立大学入学者数(E)	公立大学志願者数(予測)(F) (F=E× $\frac{C}{D}$)	備考
	合計	現役	浪人								
45	538,861	360,175	178,686	333,037	1.62						
46	542,485	368,610	173,875	357,821	1.52						
47	550,275	383,498	166,777	376,147	1.46						
48	578,146	406,799	171,347	389,560	1.48						
49	601,759	433,080	168,679	407,528	1.48						
50	640,220	456,936	182,796	423,942	1.51	257,586	75,479	3.41	10,673	36,395	
51	650,063	459,489	190,574	420,616	1.55	263,140	76,537	3.44	10,479	36,048	
平均					(1.52)						

1 54年度共通第一次試験受験者数予測

国立大学入学志願者数 281,208人
 公立大学入学志願者数 36,395人
 国立大学受験未確定者数 142,441人
 合計 460,044人

(注1) 浪人含む大学進学率は51年現在27.3%を適用。

(注2) 公立大学入学志願者数は50年度の公立大学入学者数に国立大学の51年度の倍率を乗じたものであるが、一部国立大学受験者と重複していると考えられる。

(注3) 国立大学受験未確定者数は大学志願者の20%を見込んだ。(この数は国立大学入学者数の約50%に当る。)

2 入学者と入学志願者との傾向

- (1) 45～51年度の実績によれば大学入学志願者数は大学入学者数の約1.55倍である。
- (2) 50～51年度の実績によれば国立大学入学志願者数は国立大学入学者の約3.44倍である。
- (3) 50～51年度の実績によれば大学志願者数に占める国立大学志願者数の割合は約40%である。

注 45～51年度の大学志願者数及び大学入学者数並びに高校卒業者数は「学校基本調査報告書」による。国立大学入学志願者数及び52年3月以降のすべての数値は各高等学校に対するアンケート調査(51. 12. 25)の分析予測による。

VI 共通第一次試験の实地研究

国立大学協会入試改善調査委員会の調査研究の事業のうち重要な要素をしめる「試験問題实地研究」は、昨年に引続き、本年度は昭和50年10月10、11の両日、全国48大学を試験場として実施された。従来の実施方法等調査専門委員会、コンピューター専門委員会、科目別研究専門委員会で研究された成果を实地に試みたものである。本年度は対象者を11,690人、試験場を48と昨年度より大幅に増したことにより、印刷方式、輸送方法、電算処理方法等を変え、実際の共通第一次試験を想定しての研究を行った。

i 経 過

本年度の入試改善調査研究の事業に要する経費は、国立学校特別会計に計上され、国立大学入試改善調査施設ならびに試験実施大学に配賦され、その予算執行に当たった。

まず、入試改善調査委員会が昭和51年度事業計画を立案し、実施方法等調査専門委員会、コンピューター専門委員会、科目別研究専門委員会が構成され、それぞれの担当に基づいて事業の具体的な検討が進められた。

昭和51年4月30日入試改善調査委員会と実施方法等調査専門委員会の合同会議が開かれ、事業計画について協議が行われた。引続いて実施方法等調査専門委員会小委員会と科目別研究専門委員会との合同委員会で事業計画についての説明が行われ、实地研究に使用すべき試験問題の作成が始った。この实地研究実施計画は参考資料として掲載してあるが、大綱は、

1. 高校3年生約12,000名を対象とし、全国約50試験場で実施する。
2. 試験科目は5教科16科目につき行い、各科目別研究専門委員会の作成した試験問題を用いる。
試験時間は、1教科2時間以内とする。
3. 試験実施日は、昭和51年10月10、11日の2日間とする。
4. 各試験場における試験業務は、試験実施大学に設けられる試験実施委員会が主体となって行う。
5. 試験実施委員会の構成は4名（うち1名は試験実施委員長、1名は事務担当）とする。
6. 実施方法等調査専門委員会はコンピューター専門委員会と共催のもとに6月中旬に第1回、9月下旬に第2回の試験実施委員長会議を開催し、試験実施業務について協議を行う。
7. 各大学試験実施委員会は、受験申込書を高校ごとにとりまとめ、7月25日までに実施方法等調査専門委員会に送付する。

等である。これに基づき、全国7地区の世話大学の仲介で各国立大学と接衝し、48の試験実施大学予定校が決り、これを実施方法等調査専門委員会が承認した。受験予定者数は試験実施大学の規模に応じ1大学あたり100人～400人を割当てることとした。

各試験実施大学は昭和51年6月1日をもって試験実施委員会を組織し、6月中旬から各都道府県教育委員会等を通じて各高等学校に対し、受験者の募集について依頼を始めた。高等学校に於て校内の体育祭、文化祭などの行事と重って、参加困難な向きもあったが、国立大学共通第一次試験の実施時期も近づき、関心を示す高校も多く、地区によっては1校当たり2～3名しか割当てられぬところもあった。受験申込みは7月20日までに各試験実施大学あて高校単位に申込ませ、7月25日に実施方法等調査専門委員会あて送付させた。参加高校は920校、受験申込者11,690名とほぼ予定した人数となった。ついで9月11日に、受験票を、受験者心得と同封して受験者あて送付した。

科目別研究専門委員会はコンピューター専門委員会と協力して試験問題および解答用紙の原稿を作成し、7月31日の実施方法等調査専門委員会小委員会との合同会議に提出した。ただちに編集が行われ、8月3日には印刷を発注した。なお、本年度は、試験問題印刷に経験の深い大蔵省印刷局に印刷を依頼した。

ii 試験の実施

各試験実施委員会は受験者数の確定に伴い、試験場を決定し、実施方法等調査専門委員会に報告した。これに基づいて試験問題、解答用紙の発注部数を確定し、試験実施に係る諸資料の作成、準備にとりかかった。6月2日に各大学試験実施委員長・実施方法等調査専門委員会小委員会の合同会議が開かれ、本年度の实地研究試験についての協議が行われた。この資料として「解答用紙記入上の注意」「アンケート調査票」など、受験者への配布資料、試験実施委員会へは「監督者要領」「試験調査表」等を配付し説明した。9月20日試験問題の印刷が完了、同22～24日に各試験実施大学あて小型コンテナをもって発送した。各試験実施大学の試験実施委員会は24～28日の間に受領し、所定の日までに試験問題、解答用紙の分封作業を行った。

以上の準備のうえ、10月10、11日の両日、試験が行われた。時間割は下記のとおりである。

試験時間割

事 項	10月10日（日）			10月11日（月）	
	国 語	数 学	社 会	理 科	英 語
○試験室入室	9：00	12：20	14：55	9：00	12：05
○問題冊子，解答用紙の配付，受験の説明	9：15	12：25	15：00	9：05	12：10
○試験開始	9：30	12：30	15：10	9：15	12：15
○社会，理科の選択しない科目の解答用紙回収			16：10	10：15	
○時間内退出の許可	10：30	13：30	選択しない解答用紙回収後		許可しない
○英語の聴解力テスト					13：30
○試験終了	11：30	14：30	17：10	11：15	13：55
○アンケート調査	（昼食）	（休憩）		（昼食）	14：00

iii 採点および集計について

採点は，各科目別研究専門委員会から提出された採点基準にしたがってマークリーダーを用いて採点し集計を行った。科目毎の受験者数，偏差，平均，最高，最低については参考資料「科目別平均点一覧」として掲載した。また，採点に関する各種の統計資料として，科目別度数分布図，解答別件数表，科目別正答率一覧，などを作成し，「資料」として掲載した。

今回の実地研究に対して協力のあった高等学校あてには，「高校個人別科目別成績表」，「科目別平均点一覧」を各試験実施大学試験実施委員会を通じて送達し，併せて高等学校側への謝意を表した。

iv 受験者に対するアンケート調査

本年度の実地研究に際し，受験生側の意見を求め，参考資料とするためアンケート調査を配布し記入させて回収した。回収率は英語の試験受験者全員 9,310通で 100%である。

これについては「VI-5」に詳細を載せたので参照されたい。

v 各試験実施大学の報告

試験実施大学からの報告は，その数が48校と多いため，実施方法等調査専門委員会では協議の結果，アンケート方式で回答してもらうこととした。試験実施後，各大学へ依頼し，回答を得たものを要約して「VI-6 48大学実施委員会からの実施報告要約」として集録した。

なお、各試験実施大学ごとの各教科別出席者数は次のとおりである。

教科別出席者数調

試験実施大学	受験申込者数	国語	数学	社会	理科	英語
北海道大学	406	344	340	336	323	323
北海道教育大学函館分校	100	83	83	83	73	72
室蘭工業大学	100	77	77	77	70	70
小樽商科大学	100	86	85	85	77	77
帯広畜産大学	100	81	79	78	76	76
旭川医科大学	100	75	73	72	62	62
北見工業大学	103	56	53	52	43	44
弘前大学	300	264	260	257	242	241
岩手大学	200	170	165	167	169	171
東北大学	414	354	354	354	346	346
秋田大学	200	152	151	148	137	138
山形大学	193	166	165	164	159	159
福島大学	200	176	175	173	168	168
茨城大学	220	167	165	165	158	158
宇都宮大学	200	192	192	192	189	187
群馬大学	199	168	168	167	159	159
千葉大学	291	254	253	252	244	245
東京大学	404	369	367	363	353	356
一橋大学	296	238	241	240	225	225
新潟大学	201	172	172	172	160	160
富山大学	200	193	193	193	191	191
金沢大学	295	258	257	252	253	256
福井大学	56	37	32	32	28	28
山梨大学	200	171	172	169	154	148
信州大学	208	136	134	129	124	123
岐阜大学	200	183	181	181	177	176
静岡大学	198	188	188	188	186	186
名古屋大学	399	365	364	364	358	359
三重大学	220	185	185	185	174	174
滋賀大学	199	170	170	170	167	167
京都大学	399	282	278	276	274	275
大阪大学	399	325	322	321	313	312
神戸大学	390	350	353	350	347	346
奈良教育大学	190	148	148	147	138	138
和歌山大学	200	171	169	168	163	164
鳥取大学	200	185	185	185	178	178
岡山大学	400	375	374	374	365	363
広島大学	400	283	280	279	267	269
山口大学	191	159	157	154	142	142
香川大学	295	253	252	249	239	236
愛媛大学	200	167	167	162	154	154
高知大学	200	177	177	177	166	166
九州大学	423	319	319	317	294	297
長崎大学	300	266	265	265	250	245
熊本大学	301	263	260	259	252	252
宮崎大学	200	165	164	164	156	155
鹿児島大学	300	284	284	284	274	274
琉球大学	200	118	112	109	100	99
合計	11,690	9,820 (84.00%)	9,760 (83.49%)	9,700 (82.98%)	9,317 (79.70%)	9,310 (79.64%)

1. 実地研究の主な経過

- 4月初旬 実施大学・受験者割当数の決定、依頼
- 初旬 各科目別研究専門委員会委員長の選出依頼（各委員長は委員を人選）
- 13日 今年度使用 OMR として日本電気 NEAC 240P-1 B を選定
- 30日 各科目別研究専門委員会の構成、実施要項の承認（入改調委会と実施方法委会との合同会議）
- 30日 試験問題作成の基本方針協議（実施方法委会と各科目別委員長との合同会議）
- 5月14日 マークシートの基本設計および処理方針の協議（コンピュータ委員長）
- 6月2日 各大学試験実施委員会委員長を招集し、方針および分担を協議（第1回実施委員長会議）
- 上旬 各試験実施委員会委員を委嘱（教官委員3名、事務官委員1名）
- 中旬 各試験実施委員会から教育委員会・高校宛受験者募集を依頼（合計11,700名・48大学——400名・10大学、300名・7大学、200名・25大学、100名・6大学）
- 30日 理科各科目の出題調整会議（関係科目委員長）を開催し、科目間の類似問題の回避、難易度、基礎理科と他の科目のバランス等を協議
- 7月12日 社会各科目の出題調整会議を開催
- 20日 各試験実施委員会は受験申込書を取りまとめ当施設へ返送（合計11,690名・920校——普通校862校、農業校7校、工業校29校、商業校20校、盲学校2校）
- 下旬 各試験実施委員会は使用試験室および、その割当人数を当施設へ報告。また試験当日の受信・発信の専用電話2本を電々公社に架設申請
- 31日 各科目別委員長から試験問題およびマークシートの原稿を受領
- 8月2日 受験申込書のコンピュータ入力開始（全データ入力後、試験室・受験者割付けデータ入力）
- 2日 試験問題・マークシートの印刷発注（マークシートの印刷は科目を区別して、セピアほか計6色とした）
- 14日 同上の初校を各科目別委員長に依頼（郵送）
- 27日 同上の校正済み原稿を受領（郵送）
- 下旬 志願者マスターを固め、受験者名簿・受験票・試験調査表等の作表
- 下旬 マークシートに試験場・受験番号・科目コードのプレマークを開始
- 9月3日 試験問題・マークシートの再校・責了（各科目委員長が出張校正）
- 地理の地形図の原稿がセピア刷りのため、等高線等が不鮮明な製版となり、フィルターを

用い再製版

- 11日 受験票・受験者心得発送
宛先不明等で戻って来たのは11,690通中、53件、その殆んどが受験者本人のカナ記入の誤り（宛先不完全 43件 転居先不明10件）
- 16日 監督者要領等各試験実施委員会宛発送
- 17日 採点基準（正解スペック）用マークシートを各科目別委員会のコンピュータ委員宛発送
- 20日 試験問題およびプレマーク済みマークシートの印刷完了
- 21日 各科目別委員長宛試験問題を送付し、事前検閲を依頼
- 21日 プレマーク済みマークシートの試験場別仕分け
- 22日 第2回実施委員長会議を開催し、実施上の最終的打合せ
- 22日 試験問題・マークシートを各試験実施委員会宛日通品川支店から発送
22日特急便 北海道・九州地区（早着25日、最終着28日）
23日特急便 沖縄をのぞく、その他（早着24日、最終着28日）
- 25日 25日航空便 沖縄地区（当日着）
- 28日 問題訂正（地学・数学一般・地理）を各実施委員会宛発送
地理は責了のさい、地形図を再製版するとしたが、なお不十分のため別刷りとした。他のほとんどは校正ミス
- 下旬 各試験実施委員長は試験監督者を委嘱（受験者25名につき1名）
- 10月上旬 各試験実施委員会は試験問題・マークシートを試験室単位に分封、その他実施準備
- 10月10日・11日 実地研究試験
実施方法小委員が中央試験本部（当施設）に詰め試験実施を続轄、また各科目別委員長は問題訂正の対応のため該当科目の試験中に本部待機
〔出席状況〕悪天候の北海道の一部、中間試験を直後に控えた琉球地区は欠席者が目立ったが 他は昨年の出席率（77～80％）に比し良好（80～84％）
〔問題訂正〕地理の地形図がなお不完全のため、不明確地点を補正するよう各試験実施委員会に電話連絡（1大学当り所要時間7分）
〔その他〕(1) 社会・理科は、それぞれ2科目選択のところ1科目分のみの解答をした者があった。いずれも事後連絡のため、答案の当施設宛返送のさいその旨を明確にするよう指示（社会14名、理科2名）

- (2) マークシートの折れ、汚れ等による予備シートとの交換使用は計23枚
- 12日 各試験実施委員会は答案マークシート・試験調査表等を当施設宛返送
- 15日 採点スベック（正解シート）をOMRで読取り，採点テープを作成
- 21～29日 答案の読取り（マークシート総数：5教科15科目計66，817枚×3回読取り）
- 11月 5日 採点テープにより採点開始
- 18日 採点結果作表
- 24日 試験結果の分析（コンピュータ小委員会）
- 12月上旬 各試験実施委員会へ試験結果を送付（高校別個人成績・科目別平均点一覧等）
- 上旬 各科目別小委員長へ試験結果を送付（科目別平均点一覧・得点席数分布・解答別件数表等）
- 3日 実地研究試験総括（実施方法委員会）
- 中旬 各試験実施委員会は参加校に成績結果を通知

2. 昭和51年度試験問題実地研究実施計画

昭和51年 4月30日

入試改善調査委員会

昭和51年度における入試改善調査研究に関する試験問題実地研究は，本計画の定めるところによりこれを実施する。

1 （実施担当委員会）

試験問題実地研究（以下「実地研究」という。）の実施は，実施方法等調査専門委員会が主体となり，各科目別研究専門委員会およびコンピューター専門委員会と協同のもとに行う。

2 （実施研究の教科・科目）

実地研究は，昭和51年度の現高校3年生を対象とし，5教科16科目につき行い，各科目別研究専門委員会の作成した試験問題を用いる。

試験は，1教科2時間以内とする。

3 （実地研究の試験期日）

実地研究の試験実施の期日は，昭和51年10月10日および11日の2日間において行う。

4 （実地研究の実施と受験者数）

実地研究の試験は，全国約50試験場，計約12,000名の高校生について行う。

5 (実地研究の実施)

実地研究の各試験場における試験業務は、試験場大学に設けられる試験実施委員会が主体となつて行う

6 (試験実施委員会)

各試験場大学に、その試験場において行う試験の企画・実施等の主務を担当する試験実施委員会を置く。試験実施委員会の構成は、委員約4名(うち1名は試験実施委員長、1名は事務担当)と、試験場大学において選考し、6月1日付をもって実施方法等調査専門委員会の委員長がこれを委嘱する。

7 (試験実施委員長会議)

実施方法等調査専門委員会は、コンピューター専門委員会と共催のもとに、6月中旬に第1回、9月下旬に第2回の試験実施委員長会議を開催し、試験業務の実施その他について協議打合わせを行う。

8 (受験者の募集)

実施研究の試験を受験する高校生は、各試験実施委員会が当該地域の教育委員会および高等学校の協力を得て7月20日までに募集する。

9 (受験申込書の提出)

各試験実施委員会は、受験予定者が確定したのちに、受験者の在学する高等学校を經由し所定の受験申込書を7月20日までに提出させ、これを高等学校別に取りまとめ、7月25日までに国立大学入試改善調査施設内実施方法等調査専門委員会に送付するものとする。

10 (受験者への受験票送付)

コンピューター専門委員会は、提出された受験申込書を処理して受験票等を9月下旬に各受験者に送付するものとする。

11 (教育委員会または高等学校への依頼)

各試験実施委員会は、前項8および9について、教育委員会又は高等学校に依頼する場合は「実地研究実施要項」を添えて6月中旬以降それぞれ依頼するものとする。

前項の「実地研究実施要項」は、5月20日までに原稿を作成し、6月10日までに印刷を完了するものとする。

12 (試験問題およびマークシートの原稿作成と送達)

各科目別研究専門委員会は、実地研究の試験問題およびマークシートの原稿を作成し、7月31日

に委員（1名）が出張し、国立大学入試改善調査施設内実施方法等調査専門委員会およびコンピューター専門委員会にこれを送達するものとする。

13 （試験問題およびマークシートの校正・印刷）

実施方法等調査専門委員会およびコンピューター専門委員会は、前項により送達を受けた試験問題およびマークシートの校正と印刷とを各科目別研究専門委員会の協力を得て行うものとする。この場合試験問題等は秘扱いとし、それぞれ確実な業者に印刷を依頼し9月15日までに印刷を完了するものとする。

14 （試験問題の採点基準の作成・報告）

各科目別研究専門委員会は、試験問題の採点基準を作成し、9月20日までにマークシートに記入して国立大学入試改善調査施設内コンピューター専門委員会に報告するものとする。

15 （受験者の手引・監督者要領の作成・送達）

実施方法等調査専門委員会は、コンピューター専門委員会と協議し、受験者の手引き・監督者要領を作成し、所要部数を9月15日までに印刷の上、各試験実施委員会に送達するものとする。

16 （試験問題・マークシートの送達）

実施方法等調査専門委員会およびコンピューター専門委員会は、印刷した試験問題およびマークシートを各試験場の受験者数、試験室数等に応じた分封数表および分封袋をそえて各試験実施委員長宛に運送便をもって9月20日までに送達するものとする。

17 （試験問題・マークシートの分封）

各試験実施委員会は、試験前日までに、送達された試験問題・マークシートを、分封数表にもとづき試験室ごとに分封袋に封入するものとする。

18 （試験室の割当て）

実地研究の試験室の割当ては、各試験場大学が7月末日までに決定し、実施方法等調査専門委員会に報告するものとする。

19 （試験監督者）

試験監督者は、原則として受験者50名当たり2名とし、9月下旬までに各試験実施委員長がこれを委嘱する。

20 （解答マークシートの送達）

各試験実施委員長は、実地研究の試験を完了したときは、直ちに解答マークシートを厳封し、これを国立大学入試改善調査施設内コンピューター専門委員会宛に運送便をもって10月12日に発送す

るものとする。

21 (解答マークシートのコンピューター処理)

コンピューター専門委員会は、前項により送達された解答マークシートについてコンピューター処理を行い、11月20日までに受験者別・科目別等に採点を整理し、さらに必要事項毎に結果を整理するものとする。

22 (報告書)

実施方法等調査専門委員会は、コンピューター専門委員会・各科目別研究専門委員会および各試験実施委員会の報告にもとづき「試験問題実地研究報告書」を取りまとめ、12月末日までに入試改善調査委員会にこれを報告するものとする。

試験問題実地研究の日程

1	地区世話大学の依頼	4月5日
2	各試験実施委員会委員の委嘱	6月1日
3	「実地研究実施要項」原稿締切	5月20日
4	「実地研究実施要項」印刷完了	6月10日
5	試験実施委員長会議第1回開催	6月上旬
6	教育委員会・高校への受験者募集依頼	6月中旬以降
7	試験問題・マークシートの原稿作成送達	7月31日
8	受験者募集	7月20日まで
9	受験申込書の各試験実施委員会への提出期限	7月20日
10	受験申込書の国立大学入試改善調査施設への送付期限	7月25日
11	受験者への受験票送付	9月下旬
12	各試験場の試験室決定の期限	7月末日まで
13	採点基準（科目別委作成）送達	9月20日
14	受験者の手引・監督者要領の印刷完了	9月15日
15	試験問題・マークシートの印刷完了	9月15日
16	試験問題・マークシートの送達期限	9月20日
17	試験実施委員長会議第2回開催	9月下旬
18	試験問題・マークシートの分封期限	10月9日
19	試験監督者の委嘱	9月下旬まで
20	試験期日	10月10日・11日
21	解答マークシートの返送	10月12日（発送）
22	解答のコンピューター処理期限	11月20日
23	報告書作成期限	12月10日

3. 昭和51年度国立大学共通第一次試験実地研究実施要項

国立大学協会
入試改善調査委員会

国立大学共通第一次試験の実地研究のための試験は、全国48国立大学のご協力のもとに共通の問題を用いて一斉に行います。現在、高等学校3年に在学する高校生約12,000名を対象として実施する計画です。

試験実施大学および受験申込先：裏面参照

受験申込：高等学校を通じて所定の試験実施大学宛に7月20日までに申し込んでください。

試験日時

10月10日（日）	9：00～9：15	試験室入室
	9：15～9：30	受験の説明
	9：30～11：30頃	試験
	12：30～17：00頃	試験（教科間に30分休憩）
10月11日（月）	9：00～9：15	試験室入室
	9：15～13：30頃	試験（教科間に30分休憩）

受験票および受験案内は、昭和51年9月上旬までに直接受験者に送付します。

出題：5教科 16科目

解答：5教科 8科目（基礎理科選択者の場合は、5教科7科目）（文科・理科共通）

国語：現代国語、古典Ⅰ甲

社会：倫理・社会

政治・経済

日本史

世界史

地理Aまたは地理B

} 試験場で2科目選択

数学：数学一般 } あらかじめ届け出た1科目選択

数学Ⅰ

}（ただし、数学一般を選択する者は高等学校においてこれを履修した者に限る）

理科：基礎理科

物理Ⅰ

} 基礎理科1科目選択又はその他の4科目から試験場で2科目を選択

化学I } (ただし、基礎理科を選択する者は高等学校においてこれを履修した者に限る
 生物I } またあらかじめ届け出ること)
 地学I }

外国語：英語B

備 考

- 1 各科目とも出題の範囲は高校3年の9月末の段階を考慮いたしますが、高校によって進度のちがいがあり得ますので履修範囲内で解答されて結構です。
- 2 全科目ともコンピューターによって採点等の処理を行うため解答用紙はマークシートを使用いたします。その方法等の詳細に関しては第1日目の試験開始前に時間をとって説明いたします。
- 3 今回の試験は実地研究でありますので、各受験者の科目別得点を、採点処理が出来次第、ご参考に資するため、当該高等学校あてにお知らせいたします。

試験実地研究実施本部 国立大学入試改善調査施設

〒 153 東京都目黒区駒場 2-19-1

TEL 03-465-3947~9

試験実施委員会			連絡先	
北海道大学	〒060	札幌市北区北8条西5丁目	庶務部入学主幹	011(711)2111
北海道教育大学函館分校	〒040	函館市八幡町1-2	教育学部函館分校事務長	0138(41)1121
室蘭工業大学	〒050	室蘭市水元町27-1	学生部教務課長	0143(44)4181
小樽商科大学	〒047	小樽市緑3-5-21	学生部学生課長	0134(23)1101
帯広畜産大学	〒080	帯広市稲田町2-11	学生部学生課長	0155(48)5111
旭川医科大学	〒071-01	旭川市神楽町神楽岡3-11	事務局学生課長	0166(65)2111
北見工業大学	〒090	北見市公園町165	学生部教務課長	0157(24)7786
弘前大学	〒036	弘前市文京町1	学生部入学主幹	0172(36)2111
岩手大学	〒020	盛岡市上田3-18-8	学生部学生課長	0196(23)5171
東北大学	〒980	仙台市片平2-1-1	庶務部入学主幹	0222(27)6200
秋田大学	〒010	秋田市手形学園町1-1	学生部学生課長	0188(33)5261
山形大学	〒990	山形市小白川町1-4-12	学生部学生課長	0236(31)1421
福島大学	〒960	福島市浜田町12-23	学生部学生課長	0245(34)2141
茨城大学	〒310	水戸市文京2-1-1	学生部学生課長	0292(26)1621
宇都宮大学	〒320	宇都宮市峰町350	学生部学生課長	0286(36)1515
群馬大学	〒371	前橋市荒牧町1375	学生部学生課長	0272(32)1611
千葉大学	〒280	千葉市弥生町1-33	学生部入学主幹	0472(51)1111
東京大学	〒113	文京区本郷7-3-1	庶務部入学主幹	03(812)2111
一橋大学	〒186	国立市中2-1	学生部入学主幹	0425(72)1101
新潟大学	〒950-21	新潟市五十嵐2の町8050	学生部学生課長	0252(62)6098
富山大学	〒930	富山市五福3190	学生部学生課長	0764(41)1271

試験実施委員会			連絡先	
金沢大学	〒920	金沢市丸の内1-1	学生部学生課長	0762(62)4281
福井大学	〒910	福井市文京3-9-1	学生部学生課長	0776(23)0500
山梨大学	〒400	甲府市武田4-4-37	学生部学生課長	0552(52)1111
信州大学	〒390	松本市旭3-1-1	学生部学生課長	0263(35)4600
岐阜大学	〒504	各務原市那加門前町	学生部学生課長	0583(82)1201
静岡大学	〒422	静岡市大谷836	学生部学生課長	0542(37)1111
名古屋大学	〒464	名古屋市千種区不老町	学生部入学主幹	052(71)5111
三重大学	〒514	津市上浜町1515	学生部学生課長	0592(32)1211
滋賀大学	〒522	彦根市馬場1-1-1	学生部学生課長	07492(2)5600
京都大学	〒606	京都市左京区吉田本町	学生部入学主幹	075(751)2111
大阪大学	〒530	大阪市北区常安町36	庶務部入学主幹	06(443)5061
神戸大学	〒657	神戸市灘区六甲台町1-1	学生部入学主幹	078(881)1212
奈良教育大学	〒630	奈良市高畑町	学生部教務課長	0742(26)1101
和歌山大学	〒641	和歌山市関戸278	学生部学生課長	0734(22)6122
鳥取大学	〒680	鳥取市湖山町1-1	学生部学生課長	0857(28)0321
岡山大学	〒700	岡山市津島中3-1-1	学生部入学主幹	0862(52)1111
広島大学	〒730	広島市東千田町1-1-89	学生部入学主幹	0822(41)1221
山口大学	〒753	山口市大字吉田1677	学生部学生課長	08392(2)6111
香川大学	〒760	高松市幸町1-1	学生部入学主幹	0878(61)4141
愛媛大学	〒790	松山市道後樋又10-13	学生部学生課長	0899(41)7111
高知大学	〒780	高知市朝倉1000	学生部学生課長	0888(44)0111
九州大学	〒812	福岡市東区箱崎6-10-1	学生部入学主幹	092(641)1101
長崎大学	〒850	長崎市文教町1-14	学生部入学主幹	0958(47)1111
熊本大学	〒860	熊本市黒髪2-40-1	学生部入学主幹	0963(44)2111
宮崎大学	〒880	宮崎市船塚2-185	学生部学生課長	0985(23)4462
鹿児島大学	〒890	鹿児島市郡元1-21-24	学生部学生課長	0992(54)7141
琉球大学	〒903	那覇市首里当ノ蔵町3-1	学生部学生課長	0988(34)0101

4. 昭和51年度国立大学共通第一次試験実地研究科目別平均点一覧

S. 51. 11. 24

科 目	偏 差	平 均	最 高	最 低	受 験 者 数
国 語	24.46	111.82 (55.91)	182 (91)	25 (13)	9,819
数 学 一 般	44.00	99.47 (49.74)	200 (100)	9 (5)	99
数 学 I	41.34	100.61 (50.31)	200 (100)	0	9,661
倫 理 ・ 社 会	12.28	60.62	96	0	2,111
政 治 ・ 経 済	13.34	57.83	96	0	2,937
日 本 史	13.61	43.18	90	0	6,324
世 界 史	13.86	52.13	91	0	5,743
地 理 A	14.30	57.94	95	0	1,341
地 理 B	17.08	48.38	95	0	930
社 会 6 科 目	24.76	102.44	185	30	9,686
基 礎 理 科	21.64	68.30 (34.15)	129 (65)	30 (15)	90
物 理	23.20	56.02	100	0	4,989
化 学	19.99	45.54	100	0	7,461
生 物	13.32	43.96	94	0	4,277
地 学	15.01	46.25	100	0	1,725
理 科 5 科 目	34.05	95.89	200	11	9,315
英 語	35.38	122.59 (61.30)	200 (100)	19 (10)	9,310
全 科 目 合 計	125.08	534.88	890	159	9,166

国語，数学一般，数学 I，基礎理科，英語は200点満点，他は100点満点である。なお，()は200点満点を100点満点に換算したもの。

5. 受験者に対するアンケート調査集計について

第2日目の試験（英語）終了後、受験者に対し、試験問題、解答時間・解答用紙（マークシート）に関すること等について、前年度同様、マークシート方式による無記名によるアンケート調査を行った。（受験者のアンケート調査集計参照）。またアンケート用紙の下欄部分に感想記入欄を設け自由に気付いたことを記入させたそのうち特に「試験問題の難易」「感想欄」についてまとめると次のとおりである。

1. 各科目の試験問題特に「問題の難易」の記入欄について。

試験問題の難易について、15科目のうち“難しい”と回答した科目は数学一般、倫理・社会、政治・経済、世界史、地理A、地理B、基礎理科、物理、化学、生物、英語の11科目であり、これらのうち特に基礎理科63%（前年度81%）、世界史43%（前年度53%）の2科目は受験者が難しいとしている。しかし、基礎理科は受験者が少数（90名）であること、内容が自然科学全般にわたるという特質もあり、一概に判断できない。また世界史については授業進捗の関係で近代・現代を学習していない受験者が多かったことが推定されよう。

一方、前年度よりなお“難しい”とした者の数値が高くなったものは国語・数学Ⅰ・日本史・地学の4科目であるが、日本史は前年度約38%が本年度59%、国語は前年度8%が30%といずれも20%増となった。日本史は世界史と同じ理由によるものであろうが、国語については科目別研究専門委員会の報告書にあるように、意図的に若干のレベルアップを試みたこと等の理由による。

2. 感想記入欄の回答

アンケート回答者約9200名のうち感想記入のあった者は約1/4の2000名（複数項目の記入を含む）である。さまざまな意見を項目別に大別し、多い順に列挙すると次のとおりとなる。

① 試験問題に関すること	1,023（件）
② 解答用紙記入等に関すること	645
③ 試験の進行等に関すること	191
④ 聴解カテストに関すること	194
⑤ その他	18

計 2,071

また上記項目に関係なく、目立った具体的な意見は次のとおりである。

- | | |
|-----------------------------|----------|
| ① 解答用紙がマークに記入しにくい。 | 約 480(件) |
| ② 出題内容は基本的事項を素材としてよく練られている。 | 約 240 |
| ③ 社会・理科を各1科目にしてほしい。 | 約 200 |
| ④ 聴解力テストの条件がととのっていない。 | 約 180 |
| ⑤ 休憩がながすぎる。 | 約 100 |
| ⑥ 科目間の難易差がある。とくに社会に目立つ。 | 約 80 |

「マークしにくい」という意見については、受験者の不慣れもあるが、実地研究の目的の一つに国産の光学マークシート読取装置のチェックということで年度ごとに機種を変えたが、機種に応じたヨコ4mm×タテ1mmの横長のマーク欄であり、枠内に正確にマークすることはかなり神経を使うであろうことは当初から予測していたものである。これについては機種の変更によって解決しうる。

「出題内容が良い」という回答が第2位となったが、問題点・改善点の指摘が普通なはずのこのような形式でのアンケートで評価が高いということは、科目間の難易度調整等の問題を残しているものこれまでの科目別研究専門委員会の努力がほぼ結実したとみるべきであろう。

「社会・理科を各1科目に」という意見は共通第一次試験が高校における基礎的な学習の達成度を必修科目の範囲で評価するものであり、ひいては高校教育の正常化を助けるという側面を考えれば、科目数を減らすことは適当ではない。

「英語の聴解力テスト」については試験室における音響条件の均一化を確保することは困難であるからである。

受験生に対するアンケート調査集計

S. 51.11.24

科目	問題の文章はわかりやすいか			問題はむずかしいか			解答の時間			解答用紙のデザイン			解答用紙の色		
	難しい	普通	易しい	難しい	普通	易しい	長い	普通	短い	良い	普通	悪い	見やすい	普通	見にくい
国語 (9819)	24.0%	64.2%	11.8%	29.8%	60.6%	9.7%	18.6%	66.9%	14.5%	34.0%	54.9%	11.1%	40.3%	54.2%	5.5%
数学一般 (99)	19.8%	56.5%	23.7%	37.1%	41.9%	21.0%	12.8%	66.2%	21.1%	32.0%	56.6%	11.4%	35.9%	55.8%	3.3%
数学Ⅰ (9661)	14.7%	62.0%	23.3%	33.5%	45.5%	21.0%	15.8%	67.8%	16.4%	31.5%	57.4%	11.1%	38.0%	56.6%	5.4%
倫理・社会 (2111)	12.7%	62.2%	25.1%	13.3%	54.2%	32.5%	37.8%	56.8%	5.4%	33.2%	55.8%	11.0%	39.4%	48.1%	12.5%
政治・経済 (2937)	16.5%	57.1%	18.5%	22.6%	56.3%	21.1%	35.2%	58.3%	6.5%	30.7%	59.3%	10.0%	33.2%	46.2%	20.6%
日本史 (6324)	25.0%	62.7%	12.3%	58.5%	35.9%	5.6%	27.3%	62.9%	9.8%	31.5%	59.1%	9.4%	38.0%	53.7%	8.3%
世界史 (5743)	16.9%	68.8%	14.3%	43.2%	48.2%	8.6%	28.1%	61.0%	10.9%	32.2%	58.3%	9.6%	38.9%	51.7%	9.4%
地理A (1341)	23.1%	61.4%	15.5%	28.1%	54.7%	17.2%	26.7%	62.2%	11.1%	32.4%	57.1%	10.6%	39.6%	52.4%	8.0%
地理B (930)	29.6%	57.1%	13.2%	35.9%	48.2%	15.9%	23.0%	57.0%	20.0%	34.3%	53.4%	12.3%	38.2%	52.9%	3.0%
基礎理科 (90)	45.0%	47.0%	8.0%	63.3%	31.6%	4.1%	20.4%	58.3%	21.4%	25.8%	60.0%	14.2%	26.2%	54.0%	19.8%
物理 (4989)	14.2%	64.9%	20.9%	26.4%	49.5%	24.2%	23.9%	64.9%	11.1%	31.2%	58.2%	10.6%	36.9%	55.4%	7.7%
化学 (7461)	14.7%	69.6%	15.7%	33.1%	51.8%	15.1%	27.0%	65.1%	7.9%	31.4%	59.3%	9.3%	36.4%	56.6%	7.0%
生物 (4277)	8.1%	71.2%	20.6%	19.6%	59.4%	21.0%	34.2%	62.1%	3.1%	31.5%	59.8%	8.6%	38.3%	54.6%	7.1%
地学 (1725)	11.4%	71.6%	17.0%	30.2%	55.5%	14.3%	37.6%	57.9%	4.5%	31.4%	58.9%	9.7%	39.7%	52.9%	7.4%
英語 (9310)	18.8%	61.8%	19.4%	31.3%	51.4%	17.3%	10.3%	58.1%	31.6%	29.8%	59.9%	10.3%	36.1%	58.3%	5.7%

6. 実地研究を実施した48大学試験実施委員会からの実施報告要約

(各事項の末尾の数は報告大学数である)

(1) 「受験者の心得」の内容について

1 試験場関係

- ① 試験場の到着時刻をもう少し早め、あらかじめ掲示等を見させたほうがよい。(2)
- ② 試験前日に下見をさせるべきである。(4)
- ③ 試験場案内はもっと具体的な道順を示したほうがよい。(2)

2 受験票

- ① 受験票の携帯を忘れた場合は監督者に申し出ることとしているが試験本部とすべきである。(4)

3 筆記用具等

- ① 机上に置いてよいものが不明確である。(4)
- ② シャープペンシルは使用させないほうがよい。(8)
- ③ 受験者の心得・監督者要領・受験票での表示が一致していない。(8)

受験者の心得 (HB黒色鉛筆または黒色シャープペンシル)

監督者要領 (HB黒色鉛筆)

受験票 (HB鉛筆)

- ④ 消しゴムはプラスチック製がよく消えるので限定したほうがよい。(2)

4 解答用紙 (マークシート)

- ① マーク塗りつぶしの方法 (鉛筆の濃さ、太さ等) をあらかじめ注意したほうがよい。(5)
- ② シートを折りまげないようあらかじめ注意したほうがよい。(2)

5 昼食

- ① 休日の関係で食堂が開いてないこともあり、昼食の持参を更に徹底させる必要がある。(2)

6 時間内退室

- ① 答案整理に支障をきたさないよう、時間内退室を認めないほうがよい。(6)

7 その他

- ① 弱視者に拡大鏡の使用を認めたほうがよい。(1)

(2) 「問題冊子」及び「解答用紙」の輸送について

1 輸送について

- ① 答案用紙の引取り連絡が事前打合せと相違した。
- ② 正式の責任ある輸送引受書を発送するシステムにすべきである。(3)
- ③ 祝祭日、体日の配達は行わないよう配慮すべきである。(1)
- ④ 支店の所在地、責任者等を事前に大学に通知すべきである。(1)

2 封印について

- ① 封印のパッキングに刻印がないのがあった。(2)
- ② 「封印」の方法に工夫が必要である。(3)

3 コンテナの大きさについて

- ① 組立式コンテナは完全なものを使用すべきである。(2)
- ② M7コンテナは大きすぎて不便、M4が望しい。(1)

4 ダンボールの大きさについて

マークシートの返送は解答袋に入れた上、ダンボールに収めることになっているが、解答用紙袋のマチの関係でダンボールに収納しにくかった。(13)

5 その他

- ① 試験終了から調査施設への答案返送までの時間にゆとりがほしい。(1)
- ② 調査施設から試験問題の到着は試験日の2週間前としてほしい。(1)
- ③ 問題冊子袋、解答用紙袋は試験問題より早めに送ってほしい。(1)

(3) 「問題冊子」の印刷、紙質、活字の大きさ等について

1 印刷及び活字の大きさについて

- ① 活字の大きさ(9ポ)を本文10ポにすべきである。(6)
- ② 地形図の印刷について十分な配慮が必要である。(13)
- ③ 印刷が全般的に薄い。(1)
- ④ 計算用紙を問題冊子の必要な場所に入れるか切り離させるべきである。(3)
- ⑤ 解答用紙控は各設問の次に設けるべきである。(1)
- ⑥ 解答用紙控の記入欄をもっと大きくしたほうがよい。(1)

2 紙質について

- ① 紙が薄いので、裏面の印刷が透けてみえる。(2)

3 その他

- ① 数学 I，数学一般を別冊子に分けた方がよい。(1)
- ② 数学 I，数学一般を入れかえて印刷すべきである。(3)
- ③ 基礎理科の問題冊子は他の科目の解答者のヒントになる場合もあり別冊にすべきである。(1)

(4) 「解答用紙」の大きさ、色等について




1 解答用紙の大きさ

- ① 用紙が大きすぎるため折れ易い。A 4 版位が適当である。(26)
- ② 横長で使用するならば、現在のサイズ (B 4 版) でもよい。(1)

2 印刷の色について

- ① 政治・経済，基礎理科の色 (橙) は見にくい。(14)
- ② 印刷の色が薄いため見にくい。(5)

3 解答欄について

- ① 解答欄が小さすぎる。(2)
- ②  形より  形か、 形の方がマークしやすい。(2)

4 その他

- ① 解答欄の記号が [ア][イ] ……のように [] がついていると見づらい。(1)

(5) 「試験時間」の長・短及び休憩時間等について

1 試験時間の長・短について

- ① ながすぎる，せめて 1 教科 90～100 分位にすべきである。(26)
- ② 英語は時間がたりない。とくに問題 IV，V の英文がながすぎる。(1)
- ③ 第 1 日と第 2 日の試験開始時間を統一すべきである。(1)
- ④ 選択科目はその日の最後にもってくるべきである。(1)
- ⑤ 問題冊子，解答用紙配布時間が短かすぎる。(5)
- ⑥ 盲人が受験した場合の点訳時間，解答時間等を考え，もっと短縮すべきである。(1)

2 休憩時間について

- ① 受験者入場後15分の待機は長すぎる。(2)
- ② 教科と教科の時間が短すぎる。(1)
- ③ 実施時刻を昼食時に基準を合わせるべき。(1)
- ④ 昼時の休憩時間は短い。(6)

(6) 中央本部と各試験場本部との「連絡体制」について

1 電話ファックスの設置について

- ① 中央本部と各試験場本部との間の連絡体制をファックス等で整備すること。(9)
- ② 試験場が分散している場合も考慮すること。(4)

2 電話連絡について

- ① 本部架設の臨時電話の設置時間は試験当日まででよいのか明確にしてほしい。(1)
- ② 中央本部に各大学毎の専用受信電話を配置してほしい。(2)
- ③ 試験当日の連絡は、電話だけでは不十分である。(1)
- ④ 電話による訂正は避けた方がよい。(1)
- ⑤ 受験者数、欠席者数等の報告はあらかじめ指示された時刻がよい。(1)
- ⑥ 電話での地図の修正は難点がある。(1)
- ⑦ 中央本部と大学間の連絡担当責任者を明確にしてほしい。(1)

(7) 「監督者要領の内容」について

1 全般的について

- ① 前年度版のように、重複事項があっても、教科ごとに順序をおった方が受験者への指示もれも防げるし、監督者も気楽である。(14)
- ② 試験時間等統一的なもの以外は各大学にまかせたほうがよい。(4)
- ③ 受験者に対する教示はゴジにし、脱落がないよう配慮すべきである。(2)

2 監督者の入室について

- ① 受験者より早く入室する必要はない。各大学の事情にまかせてもよい。(3)

3 時間内退室

- ① 答案整理、数確認、退室後の問題訂正等もありうるので、中途退室は認めるべきでない。(4)

4 その他

- ① 受験番号のマーク記入は試験時間内または、時間外に行うのか明確でない。(2)
- ② 試験終了後の問題冊子の「持帰り可」の指示は、受験者心得にはあっても監督者要領にはなかった。(3)

(8) 「試験調査表」について

1 記入方法について

- ① チェックの仕方は、欠席者について×印または斜線、選択科目については○印を記入すべき。(1)
- ② 国語、英語については受験科目欄への○印は不要である。(2)
- ③ 記入を試験室で行うのは困難であり試験室では枚数の確認のみとし、調査表への記入は、回収後別室で行ってもよいのではないか。(2)
- ④ 答案整理法の工夫が必要である。調査表に○を付す必要があるか。(2)
- ⑤ 選択科目は現行では終了時点でなければ選択の実態が把握できない。(1)
- ⑥ 出、欠、どちらかを調査すればよい。(2)

2 形式（様式）等について

- ① 欠席者数、各科目の答案回収数、監督者署名等の欄を設けた方がよい。(5)
- ② 科目ごとの縦計が点線であるが実線にしてほしい。(1)
- ③ 調査表の受験番号については、数字とアルファベットの間にハイフンを入れ読みやすくすべきである。(1)

3 その他

- ① 試験場ごとに2部必要である。(1)
- ② できれば、教科・科目名を漢字で印刷してほしい。(1)
- ③ 紙質を上質110k程度で、1試験室1枚にまとめてほしい。(1)
- ④ 部数を科目の数だけを用意すべきである。(1)

(9) 「聴解力テスト」について

1 実施上困難である。(4)

(理由)

- ① 受験者が多く、同一の状態での実施は困難である。

- ② 公平な条件作りが無理と思われる。
- ③ 試験場の構造，再生器が異なる場合，音声の平衡がとりがたい。
- ④ 雨天の場合とか，飛行機の爆音，隣室の音声为重なり厳密な試験が行えない。
- ⑤ テープレコーダーの機種により音質に差がある。
- ⑥ 高校での学習状況が同一かどうか問題がある。
- ⑦ 突発的な停電，機器の故障，機器の操作誤りなど事故発生が考えられる。

2 可能である。(2)

(理由)

- ① 実施すべきであるが同一条件の設定に配慮する必要あり。
- ② NHKラジオ放送を利用する。その場合放送施設等の整備を必要とする。

3 その他 (1)

- ① カセット・コーダーを使用したので良好であった。

(10) 「社会，理科」の解答用紙は試験場において，未選択分を回収廃棄する方法をとっているが，共通の様式に改めるよう検討することについて。

1 共通の様式に賛成である。(4)

(理由)

- ① 科目毎の答案配付，回収は極めて煩雑である。
- ② 科目が多いので，回収時に区別がつきにくい。
- ③ 現行は不経済である。
- ④ 不用マークシートの試験中回収は不適當である。

2 その他

- ① 受験生へ持ち帰らせて廃棄させるべきである。
- ② 十分検討すべきである。

(11) 予め解答用紙に受験番号を印刷することについて。

1 予め印刷の必要がない。(3)

(理由)

- ① 配付ミス、負担が軽減される。
 - ② 試験室の構造によっては配付が困難である。
- 2 現行のままでよい。(4)
- ① 後処理で必要ならプレプリントすべきである。
- (12) その他 (2)
- 1 選択科目について
 - ① 社会、理科の選択は、事前に届出制にすべきである。
 - ② 社会、理科の選択科目で指定科目を受験していない場合の措置を明確にすべきである。
 - 2 解答用紙袋について
 - ① 解答用紙袋が両側ひだ（マチ）付き封筒のため、解答用紙が少ない場合は折れ曲がる恐れがある。(1)
 - ② 解答用紙袋に数学一般、基礎理科選択者の番号を記入する欄を設けると便利である。(1)
 - ③ 選択科目欄並びに分封欄の科目表示順が異っており、記入の順番を統一してほしい。(1)
 - ④ 返送用解答用紙袋には、少数の答案を入れる場合もあるので折り目線を入れてほしい。(1)
 - ⑤ 解答用紙袋はもう少しマチの幅を広くし、1教科1袋にすべきである。(1)
 - 3 試験問題について
 - ① 応用能力をみる問題であってほしい。(1)
 - ② 各科目の問題の量、内容にアンバランスがある。(例、国語、社会、理科) (1)
 - ③ 選択肢が2つだけというような問題はできるだけさけたほうがよい。(1)
 - ④ 社会、理科において、科目間の平均点に差異があり、調整について配慮されたい。(2)
 - ⑤ 新、旧のかなづかいが混然としているので、新かなづかいに統一すべきである。
 - ⑥ 外国人教師を採用している高校が少い以上、吹込者が外国人だと不公平という一面を生じる。
 - ⑦ 数学Ⅰの問題Ⅳ、確率の問題で投票を問題の中味にとっては、現実的な意味から良くないので、カード、サイコロなどの内容にすべきである。(1)
 - 4 解答用紙について
 - ① 受験番号末尾のアルファベットを見誤る可能性があるため数字とアルファベットを分離すべきである。(例、1 I, 0 C) 0004I : 0004 : I
 - ② 氏名欄の表示はカタカナのみ書かせるには、「氏名」→「シメイ」の方がよい。(2)

- ③ 受験生が記入する受験番号がたて書きとなっているが間違いやすい。(1)

5 予算設備等について

- ① 旅費の配分が少ない。(1)
- ② 謝金だけでなく超勤手当も配分してほしい。(3)
- ③ 人員の配置, 試験問題等の保管場所の設置, 体育館使用の場合の施設整備が必要である。(2)
- ④ 女子専用トイレの設置が必要である。(1)
- ⑤ 試験場の確保等の計画が大きいので, 早期に受験者数の予測調査をしてほしい。(3)

6 実施期日について

- ① 試験実施日は休暇中が望しい。(1)
- ② 構想では12月下旬～1月初旬であるが, 予備選択の利用, 後処理時間の確保, 第二次試験実施準備等の配慮から本実施は12月下旬(20～25日位)が望しい。(1)

7 その他

- ① 各検査室の収容人員は実施委員会に一任すべきである。(1)
- ② 試行テストは本番に近いかたちで行うべきである。(2)
- ③ 成績は受験生に通知し, その通知表を第2次試験出願時に添付するよう検討してほしい。(1)
- ④ 受験生に対する試験時間の合図は3回程度振鈴すべきである。(入室, 開始, 終了)(1)
- ⑤ 試験問題の訂正表については, 遠隔地の場合を考慮し余裕をもって送達すべきである。(1)

Ⅶ 各科目別研究専門委員会における調査研究報告

本年度の科目別研究専門委員会は、昨年までの研究成果を参考にしながら問題作成にあたった。出題方法および採点型式はおおよそ昨年度のものを踏襲した。試験問題は、昭和51年10月10、11両日実施された実地研究に使用されたものであり、参考資料「国立大学共通第一次試験実地研究試験問題」として掲載してある。

各委員会の組織は、昨年同様1科目1委員会を原則としたが、国語（現代国語・古典Ⅰ甲）、地理（A・B）はそれぞれ一つの委員会をお願いした。また本年度は、委員会を置く大学を大幅に入れかえた。すなわち、国語：九州大学、数学：京都大学、倫理・社会：奈良教育大学、政治・経済：東京大学、日本史：名古屋大学、世界史：名古屋大学、地理：熊本大学、基礎理科：東北大学、物理：新潟大学、化学：東京大学、生物：北海道大学、地学：千葉大学、英語：広島大学の13委員会である。各委員会の構成は、1委員会10名を標準として組織し、うち1名がコンピューター担当としてコンピューター委員会の委員を兼ねることも昨年同様であるが、委員会の担当科目の特殊事情により、10名を超える委員会もあった。国語（現代国語・古典Ⅰ甲）、地理（地理A・地理B）、世界史（東洋史・西洋史）数学（数学Ⅰ・教学一般）等である。それぞれの委員会の委員長は、ほとんどが新任であったこと、各委員会とも委員を大幅に交替したのが本年度の特徴である。これは、昨年度が委員交替期であったが、高等学校におけるカリキュラムの変更によって、委員交替を1年延期した故である。

また、問題点の一つであった科目間の難易度の調整については、理科は6月30日東京において、社会は7月12日京都において、それぞれ委員長が試験問題の原稿を持ち寄り、昨年度のデータを参考にしながら協議された。

以下各委員からの報告を掲載したが、委員会開催の日程を省略するなど、若干、様式を統一することとした。

1. 問題作成等に関する調査研究の経過

国立大学共通第一次試験の構想に関して相当長期にわたり調査研究を行って来た現状においては、共通第一次試験は高等学校における学習の達成度を広く評価することを目的とし、さらに引き続き行われる各大学独自の第二次試験では各大学、学部乃至は学科に対する適性評価ならびに総合力や思考力の判定を行うことを目的として国立大学の入学者選抜を行い、現行よりさらに適切な方法を行うことによって、大学入試の改善に資することを目標とするものである。そのため、共通第一次試験の出題教科・科目は、高等学校における必修科目に限ること、ただし外国語に関しては大学入学後の大学教育の面よりの必要性により一ヶ国語を課すること、また現行の高等学校の授業内容において、主として社会、理科にみられるように大幅な選択性が取り入れられている現状に合致させるようその出題科目を必修科目全搬にわたること、さらに社会、理科に関しては試験場においてそれぞれ任意に二科目を選択受験することとするが、その理由は受験生に各自の好む科目による受験をさせることと、引き続き行われる各大学の第二次試験におけるその出題科目数及び出題量の負担軽減に直接結びつき得ること即ち第二次試験のガイドラインの一項目とも関連するよう配慮されていることである。

ただし、最初に国立大学協会第二常置委員会において、国立大学共通第一次試験を行うことを考慮した時点においてはこのような内容とは幾分相違しており、今後多岐にわたる高等学校の授業内容に対処して大学入試問題を作成するに当たっての共同出題の形式が想定されていたようである。その後設置された「入試調査特別委員会」が昭和47年9月に報告した「全国共通第一次試験に関するまとめ」においてはその概念的な問題点に重点が置かれ、具体的な問題点に関しては今後の調査研究にまつものとされた。その具体的な方法については、昭和48年度に文部省より交付された事業経費を受けての「入試改善調査委員会」の設置により調査研究が行われることとなり、その後事業推進の形態にはいく分の変更も行われたが4年間にわたり研究が続行された。その間に行われた経過につき年度をおって概要を述べる。

(1) 昭和48年度

初年度の昭和48年度は、この研究の具体的な問題に取りかかった年度である。ことにその基礎的な問題点に主力をつくした。即ちその受験者は、少なくとも30万人を想定しなければならない事によって、その採点方法として解答用紙にマークシートを使用したコンピューター方式による採点を行わざるを得ないことである。その結果として、その出題形式としては客観式テストを行うことを推進する必然

性を明かにした。このことは引き続き検討の内容として、客観テストの本質、特性とその限界、客観テストの採点のコンピューター処理の実状の2点につき、国内外の諸情勢を根拠として検討することを必要とした。これらの観点を考察の問題点として、当初は12科目の出題を行ったが各科目間において予め検討した際の大略の傾向として次のような関連性が想定された。即ち第一に国語と外国語の間の類似性があげられたがその一部には数学に関しても関連性が考えられること、第二点として社会における科目相互間の関連性と理科の科目間の関連性が強く認められた。またこれらと併せ、社会の解答法と国語の解答に関する基礎的な考え方、数学の一部と物理の解答の一部分での類似性・関連性がとりあげられることとなった。作業としてこの様な諸点を根拠に置いてまず採点のコンピューター化を基本とした標準問題の作成研究に取りかかったが、その場合に、その時点において客観テスト方式の第一次入学試験を行っている大学の出題内容方式の検討、客観テスト方式として広く研究の行われていた、いわゆる能検テストの出題内容の検討、さらに客観テストの限界と、これに関連して大学入学後の大学における教育の適性を検査する場合に必要とされる問題点とそのテストの方法などにつき検討を行うことを問題点として提起した。

このようにして研究を行い作業を行って試験的に作成した標準問題に関しては、マークリーダー、コンピューター採点のテストをも含み若干名の仮想受験生への試験実施と、高校教育に実際に携わる高等学校の専門の教師にその試験問題の内容の検討を依頼するモニター制度を導入して検討を行った。これらの結果に関しては研究の終了時に各科目毎に今後の研究の問題点を含め次に示す諸項目にわたり取りまとめを行った。すなわち

(1) 出題に関して

(ア) 採点のコンピューター化への考慮

(イ) 既存の問題の改変を行った場合

(ウ) 新問題作成を行った場合

(エ) 出題にあたっての問題点

(2) 作られた問題の内容に関して

(ア) 出題の意図

(イ) コンピューター化による出題範囲の限度

(ウ) コンピューター化のための出題に関する特別の配慮の必要性

(エ) 今回の問題の難易度

出題者の意見

モニターの見解

- (3) 出題を行った結果よりみた共通第一次試験の意義
 - (ア) 共通第一次試験において受験生の学力を試験し得る限度
 - (イ) 共通第一次試験に対する要望
- (4) 出題委員会構成に関する問題点
- (5) 出題面における共通第一次試験の利点
- (6) 出題面における共通第一次試験の難点
- (7) 出題に関しての今後の問題点
- (8) モニターの意見

このような観点について検討を行った過程において次のような研究調査が行われた。即ち、この共通第一次試験の形式が客観テスト方式であるので、第一にこの形式のテストとして我が国において相当に研究実績を持つ能力検定テスト（能検テスト）の問題を検討した。その結果は客観テストとしては十分検討が行われておりこの方法において十分であり、その点においてこれ以上の研究を行うことは必要としないであろう。さらに出題を検討するにあたり、参考資料とされていた第一次入学試験問題を検討した結果もその形式を大幅に改変する必要もないようである。むしろ共通第一次試験が行われる場合の出題に当っては出題に当って使用する問題の文章など、問題の表現の文章などを現在の高校生である受験生が理解しやすい様工夫することに努力することと、マークシート形式の解答用紙の採用によって、従来考えられていた○×形式の採点により、より綿密な採点が可能となるのでこれに合致する出題、採点の研究を検討することなど、技術面の研究も行うこととなった。その結果は相当程度にまで、読解力、理解力のテストをも可能であることが明らかになった。

以下出題に関してまとめると次のようになる。

採点のコンピューター化への考慮

国語においては客観テストにおいて国語学力をどの程度評価し得るかという点につき、また英語においては従来英語の試験において行っている英文和訳と英作文と同等な評価を機械処理方式で可能とするにはどのような問題を作成すればよいかなどを討議の主目的とした。また国語においては、最近記述式の出題方式が重視されつつある傾向をもとにして、客観テストとして代表的な能研テストの問題文に即して記述式の設問を試作して、選択肢による設問と比較検討した結果次のような点が明らかとなった。a. 問題によっては設問の作り方によって選択肢による方法でもほぼ読解力をみる事も出来る。b. 問題によって選択肢として解答が与えられるために受験生の主体的な思考の過程を見る

ことが出来ない憾みがある。c. 国語教育において基礎学力の重要な原点とされている漢字の正確な書写能力を試し得ない。d. 表現力を的確に評価し得ない。

などの点が明らかにされた。

数学においては共通第一次試験では入試の一部として例えば基本的事項を一通り理解しているかどうかの判定を行うこととして実施する。その結果各大学がそれぞれの特色に応じて独自に行う記述式の第二次試験においては従来行われていた試験のある程度の軽減を期待している立場もある。ただしその場合数学の試験において従来行われている数、式、図形などに基づいて着想力、思考力、創造力などの素質も併せ判定する立場よりすれば計算機による採点では、a. 式で答えさせる問題、b. 図示させる（グラフを描かせる）問題、c. 証明問題、d. パラメーターの分類をして答える必要のある問題などははじめない設問となり、数学における発見的創造力や系統的な論証力の判定に適した問題の出題には非常に困難性のあることが指摘された。その結果共通第一次試験と第二次試験の双方を受験生に課す場合それぞれの関係を慎重に考慮しないと二様の試験に対する受験技術が発達し、受験生の負担過重さらに高等教育をみだす原因を作ることもあり得るとして問題点を示している。

社会の一部の科目においてはコンピューター処理における出題を検討するにあたりあらためてa. 歴史学における知識とその整理、判断、b. 高校における世界史学習とは何か、c. 共通第一次試験実施のメリットなども討議している。

理科において生物に関してはコンピューター化を行うにあたり、a. 線形グラフの読みとり、b. 色の識別、c. 図形の読みとり、d. 選択肢法の可否範囲、e. 減点法の可能か否か、f. 用語文章の読みとり、などの点に関しコンピューター専門委員会の意見を求めた上出題を行っている。その結果は論述式の設問形式を除き大部分がコンピューター処理方式化することが可能であるとの結果を得ている。またコンピューター処理によった場合物理においてはグラフを用いる解答は大体において無理であり、さらに化学においては重要な解答となる化学式を書かせる出題が不可能であることを明らかにした。

各科目別研究専門委員会においてはそれぞれ独自の事情の下に検討を行いつつコンピューター処理による問題の作成を行った。

既存の問題の改変を行った場合

それぞれの科目別研究専門委員会において「標準問題」を作成するにあたり、すでに各大学で入試問題として出題された問題、問題集に収録された問題、能研テストの問題などの既存の問題をコンピューター採点に適する方式に改変して行った場合いかなる問題点が明らかにされたかを述べる。

数学においては既存の記述式の幾つかの問題をマークシート式の解答による問題に改変したが、その場合次のような点を改変した。a. 計算能力を見る問題では解答の数字の桁数を簡易化する。b. グラフの図示を必要とする問題では解答を格子点を数えさせる方式に変え且つ解答の有限領域に制限を付した。また検討を行った結果次のような諸点も明らかにされた。a. パラメーターの分類を行う問題においては設問に長い文章が必要でありその読解力を考査することともなり数学の出題としては適しないであろう。b. 解答を多肢選択の形式にせざるを得ない場合解答のヒントを与えることとなり面白くない場合がある。c. 証明問題において要求される直観力、総合力、創造力、系統的な論証力などの検査が困難である。またマークシート方式ではケヤレスミスによる誤りと本質的な誤りとの差が明らかにされない。また採点にあたって一つの間に対しオールオアナッシングとなる欠点をもつことも明らかである。

社会の政治・経済、世界史、地理においては既存の記述式の問題を主として選択肢を与えての「穴埋め」方式を採用する客観テストに改変することを行った。その結果次のような問題点が明らかにされた。この方式の問題では採点にあたっては「もっともふさわしいもの」を選ばせて「満点かゼロ」の結果を出すこととなるが、社会の一部例えば政治・経済などの科目では「イエスカノー」と簡単に言えない問題が多く「最適」と「次善」の相違点の配慮も必要となる。その結果は出題にあたり「最適」と「次善」の判定基準の明確な問題の作成も必要である。またこの形式の問題においては選択肢を与える結果問題がかなり易くなるばかりでなく、出題意図もかなりそこなわれる場合もあるとしている。地理においてはその科目の解答に必要な白地図への位置の記入につき工夫を行い、例えば白地図に方眼（メッシュ）をかけてその縦横の記号により答えさせる方式を考慮したが必ずしも好ましいとは言えないとの結論しか得られなく、マークシート形式の一つの困難な点が明らかにされた。

物理においては専門委員の属する大学で過去数年間に出题された問題の中より、力学、熱学、電磁気などの分野にわたり比較的良いと思われる問題をコンピューターで採点可能な形に改変した。問題は3問の出题で解答時間1時間が適当である、と考えられた。

地学においてもすでに出题された大学入試問題25問中より10間を選び、コンピューター処理上困難なものも検討し、それより6間を選定してコンピューター処理可能なよう改変した。

新問題作成を行った場合

前項に述べたように一部の科目では既成の問題のコンピューター化を行ったが、また一部の科目では新たに「標準問題」の作成を行った。後者の科目における問題作成にあたっての問題点を示す。

英語においては放送を聞いて答える新しい形式の問題を含めて表現力、読解力を試す問題を作るよう努力した。具体的には語い、用法、文型など基礎的な学力を見るように考慮し、その内容は易より難へ配列し、且つ問題数を多くする。ただしその難易度として一応70～80%の通過率を想定し、テスト所要時間は2時間として出題が行われた。

数学においては前項に示した検討結果をもとにして、出題範囲を数学Ⅰに限定して全体のバランスを考慮して標準問題を作成した。

政治・経済についてはこの科目を暗記科目化させないようにし、思考力、判断力をテストし得るよう配慮して新問題の作成を行った。

生物においては問題作成にあたり、高等学校新指導要領における生物Ⅰおよび生物Ⅱの内容の調査研究ならびに高等学校における実態調査も行ってその資料とした。

出題にあたっての問題点

前項2と3において述べたように既存問題のコンピューター採点方式に対する改変と新問題の作成を行った結果、各科目それぞれに出題にあたっての問題点が明らかにされた。以下その問題点を整理して示す。

国語においては理想とする記述式問題と客観テストの一つである能研テスト問題との比較を行い(Ⅶ—1)に示す4つの問題点を明らかにした。ついで英語においては英語学力は受験生に英語を書かせることが最も良い方法であるのでこれをコンピューター処理形式にするにあたって如何にすべきかに課題がしぼられるものと結論された。そしてこれらの点を考慮して新しく作成した4問題については総合的に聴く、話す、読む、書くの4能力を顕在的に試してみることも可能であるとの結論に達した。

数学においては5問2時間の解答時間により、オムニバス形式の基本的な設問、図形的なもの、計算力をみるもの、平易なもの、若干難しいものなどをおり込んだ出題が可能となった。

政治・経済においてはコンピューター方式の出題においてはその解答を行うにあたり受験生の解答の技術上のルールは出来るだけ簡単なものとなることが望ましいとの配慮も導き出された。

日本史においては難点として、理解力、判断力、思考力、創造力をみるのに適切である記述式問題の出題が不可能であるため、単なる歴史的事実についての記憶を問うことに傾き易い結果となった。また高等学校3年次の学習の範囲と時期を考慮して共通第一次試験実施の時期には慎重な配慮が必要であるとしているが、これは社会・理科について特に考える必要があろう。

地理においては文章で理解力を書かせて論理的思考能力を試す方式が全く不可能であること、更に

術語や地名を文字で解答させることも不可能であり、結局、いくつかの選択肢を設けてその中から選ばせる形式とならざるを得ないとの結論である。その結果は問題が易しくなるおそれを生ぜざるを得ない。

物理においては次のような点が指摘された。a. 各設問は互いに独立で且つ選択肢の数を多くすべきである。b. 解答の思考過程をチェックするため、解答間の相関によって点数を与えるような工夫も必要であろう。c. 選択肢の中にはあり得べき誤答ばかりでなくあり得べからざる誤答も含ませる必要がある。などの問題点もあげられている。

化学については、出題の意図の明確な把握、選択肢は5肢以上を必要とするが、無意味な選択肢は避けるべきであること、化学実験上不可能な問題の出題を避けること、単なる計算問題としての出題の可否、化学をよりよく理解させる問題など多くの問題点を指摘している。またこの共通第一次試験を予備選抜に使用するのか、第二次試験と組合せるかによる出題内容の検討の必要性も考慮の必要性にあげている。

次いで生物に関しては、前にも述べたように論述式の設問以外はその大部分が出題可能であるとの結論を示している。

(2) 昭和49年度

昭和49年度の調査研究の主体は、前年度基礎的な調査研究を行った内容を基にして、11月23、24の両日にわたり新たに作成した問題を用いて実地研究を行ったことである。この場合は全国7地区7大学に試験場を設定して高等学校3年の在学学生3,500名により次に示す5教科、12科目の試験を、マークシート解答用紙、コンピューター採点により実施を行った。またその出題問題は各科目ともに、昭和50年3月に公表した国立大学協会入試改善調査委員会の「国立大学入試改善調査研究報告書」とし、それぞれの科目の科目別研究専門委員会の出題意図、採点結果の検討をも含め発表を行っている。

昭和49年度実地試験出題教科・科目を示すと次の通りである。

国語……………現代国語， 古典

社会……………倫理・社会， 政治・経済， 日本史， 世界史， 地理

数学……………数学Ⅰ

理科……………物理， 化学， 生物， 地学

外国語……………英語

各科目別に科目別研究専門委員会を構成したが、それぞれおよそ10名の委員により構成された。な

お受験生は、社会と理科においては試験場において任意にそれぞれ2科目を選択受験することとした。

(3) 昭和50年度

昭和50年度における調査研究にあたっては、出題方法、採点方法などの詳細はほぼ前年度までの状況を踏襲することにより進め、前年と同じく11月23、24の両日にわたり、全国14試験場において、高校三年在学学生5,000名を対象として実地試験を行った。ただし、その年度に特に新規に行われたことは、高等学校における授業の指導要領が新方式のものとなつたためにその出題科目とその範囲を大幅に変更した上、問題作成を行つたことが特徴である。その教科・科目範囲などは次に示す通りであり、さらにその出題の内容、各科目別専門委員に、おける出題意図、採点結果などは、昭和51年3月に発表した国立大学協会入試改善調査委員会の「国立大学入試改善調査研究報告書」として公表されたところである。

試験の教科・科目は高校の普通科、職業科等を問わず平等の機会を与えるため、高校における必修科目の範囲内（ただし外国語は、大学入学の要件として受験させる）で、次のとおり受験させる。

国語＝現代国語、古典Ⅰ甲を合わせて1科目

社会＝倫理・社会、政治・経済、日本史、世界史、地理A、地理Bから2科目を試験場で選択、

ただし、地理Aと地理Bを選択して、2科目とすることはできない。

数学＝数学一般（履習者に限り、受験申込の際に選択）又は数学Ⅰの1科目

理科＝基礎理科1科目（履習者に限り、受験申込の際に選択）又は物理Ⅰ、化学Ⅰ、生物Ⅰ、地学Ⅰから2科目を試験場で選択

外国語＝英語B、独語、仏語から1科目を受験申込の際に選択

なお、職業科目については、各大学の第二次試験において、各大学・学部の特徴に応じて配慮することを適当としており、共通第一次試験の出題においてはそれらの科目にかえて、数学一般および基礎理科を出題するを定めている。数学および理科において職業高校出身の受験校の中で数学または理科においてこれらの科目を履修した場合には受験申込によってこれらの科目の受験を行うこととしてある。

また今年度の出題にあたっては、科目別に13の科目別研究専門委員会を設置し、各委員数約10名の委員により作業を行った。なおこの場合数学一般と数学Ⅰおよび地理Aと地理Bの出題はそれぞれ一つの委員会により出題を行つたがその場合は構成委員数に若干の増員を行つた委員会もある。

(4) 昭和51年度

昭和51年度においては実地試験を中心にして、出題、採点は全く前年度と同様にして、10月10、11日両日に高校3年在学生約12,000名を対象とし、全国48大学に試験場を設定してその試験を行った。出題教科・科目およびその範囲も全く前年度と同一であり、またこれは実際に昭和54年度国立大学入学選抜の一環として共通第一次試験が実施される場合ともほとんど同一（外国語に独語、仏語が取りこ入れられることをのぞき）の形態において行われたものである。また全国的な規模で行われたとはその受験生も前年に比較して多数であることなどもあり、ある程度の受験生の試験の成績などに関しても統計的な検討も可能であると考えてこの方面の研究調査を行ったがその一部については資料中に付して参考としたことである。また使用した問題の内容などについても前回二回の実地研究の報告と同じくこの報告書中に印刷公表を行っている。（詳細については、「Ⅵの実地研究」を参照）

昭和48年度のマークシート方式による解答様式に対する共通第一次試験の出題の調査研究に始まり、本年度は4回目の出題である。その間、各科目毎にそれぞれの科目の内容、特性に応じつつ改良を加えてきたが、その大様はほぼ初年度において確立されたものである。ただしその後は実地試験の結果を検討し、これを次回の出題の研究資料とすることおよび一部の委員の交代による新しい意見の導入などにより漸時改善が進められ、新しい設問形式なども取り入れられてきている。次にその一部を記し、調査研究の記録とする。

(1) 国語、英語および一部の社会の科目において要求されている読解力・理解力・思考過程の解明および表現力などを見るような出題形式につき研究を続行してきたが、次第にその方法に関しても進歩がみられ、国語においては書き取りに代る形式の考案なども行われた。また、英語については試験的にテープレコーダーを用いた聴解力テストを行い、客観テストの弊を補ってきたが、なおこの方法に関しては実施上多大の困難を伴うことも指摘されている。

(2) マークシートの形式と出題方法の改善の結果、簡単な数式、計算結果を数字により解答する形式（選択肢を予めあたえないで）、簡単なグラフ、グラフ以外の解答図、図形を予めマークシートに印刷してその上の特定の位置を明示する方法、正答の偶然性をなくするための複合選抜方式、誤答に対する減点方式、中間点数を含む配点法など、より綿密な採点方法の採用も行いうるようになった。

(3) 社会・理科における教科内の各科目間の問題の難易、平均点の共通性などに関しても、また科目間での出題内容の調整などに関して研究が進められた。

2. 国語研究専門委員会報告

〔I〕 問題作成の方針

過去3年間のテストは、主としてコンピューターによる出題・採点という新方式の技術的検討に主眼があった。またこれが将来国立大学の入試に採用されるか否かも全く不明で、世間の関心も少かった。しかるに本年は、技術面での課題はすでにほぼ解決されている上に、それを基礎として、国大協・文部省の積極的姿勢がはっきりしてきたので、社会的関心も急速にたかまっている。本番の昭和54年も間近で、受験生も多数となり、新段階を迎えたといえる。

以上の事実に鑑みて、本年は特に以下の様な点を重視した。

(イ) 文部省の高等学校教科書指導要領にいう現国、古典のレベルや単元数とうまく調和し得るか。ことに、統一テストに関しては、古典については古典Ⅰ甲（2単元）によると明示されているが、はたして、古典Ⅰ甲の線を守りながら適切な問題が作成できるか否か。

(ロ) 出題数と、右の指導要領にいう現国7単元・古典2単元の規定とをどのように調和できるか。

(ハ) 本テストは高校における学習達成度を見るのがたてまえではあるが、実質的には大学の選抜試験として利用される事も明らかであって、難問奇問によって、高校生の受験体制に重圧を加えることを避けようとするあまり、過度に平易な問題に墮しては、国立大学の側から入試としての有効性を疑われる結果になりはしないか。その点にも留意しないと、各大学で一次試験よりも難解な問題を重ねて二次試験に課するという不本意な結果を招きかねないであろう。

そのため、われわれは、

(1) 出題数を、従来の現国3題・古文2題・漢文2題の方式を改めて、現国3題（120点）、古文1題（40点）、漢文1題（40点）という形にした。

(2) 古文・漢文の問題数を減らした代りに、1題の問題をやや長いものにして、多様な設問が試みられるようにした。

(3) 1題当りの小問数も昨年度までは大体5～6であったが、本年度は7～8とし、これによって、昨年度までの問題と総設問数では大差ないようにした。

(4) 古典の出題については、現在受験生の大部分は古典Ⅰ乙（5単位）を学習しており、古典Ⅰ甲の線におさえて出題するのはかなり困難である事は、昨年度の報告書にも述べられている。ことに上

記の見地からも、本年度はむしろ実質的にはⅠ甲とⅠ乙との中間を狙うのを妥当と考えた。

〔Ⅱ〕 本年度の問題の内容

Ⅰは河上徹太郎“芸術における伝統について”から出題した。芸術論であるが、それが単なる主観的作業ではなく、伝統によって裏づけられたものであることを述べたもので、論旨自体多少逆説的でひねったものとの印象を与えるかもしれないが、先入観を持たずに素直に読めば、難解ではない。設問のうち、

(1)は漢字の書き取りに代るもので、表記力を見る上での新方式といえよう。

(2)(3)(5)は文脈に即した読解力を見るもの。

(6)文全体の要旨の把握力を見るもの。

(4)は熟語についての正確な知識の有無を見るもの。

テストの結果によると、(2)(3)は平易、(4)は普通、(5)はやや難しかったようで、受験生全体の平均は40点満点中22.54点で、入試選抜という効用からすれば、妥当な線であろう。ほぼ予想通りの成績であった。

Ⅱも評論で、人間論というべきもの。霜山徳爾“人間の限界”から採った。発想は心理学者らしいユニークなもので、人間が“立つ”ことの意味が、人間を生み出した大地との関係において、比喩的に巧妙に述べられている。やや特異な内容と、また設問に空欄が多かったこともあって、難解ではないかとの懸念があったが、結果は逆にむしろ受験成績は良好であった。ただ、Ⅰと合せて、相似た様式の論説が重なったのは、好ましいことではなく、大問の中1題は随想ないし韻文を採るべきであったと反省している。設問のうち、

(1)(2)は論旨・構文の大体を理解しているか否かを見るもの。

(3)(4)(5)は文脈に即した読解力を見るもの。

(6)は全文の要旨の把握力を見るもの。

この中(3)が平均6.71(8点満点)であるのを最高とし、最低は(1)の平均5(10点満点)であり、全体としては40点満点中27.68平均で、妥当な線であろう。

Ⅲは小説で、田山花袋“田舎教師”から採った。受験生の想像力・感受性・言葉についての正しい理解力を見ようとした。設問のうち、

(1)の接続詞を選ぶ問題は難解だったようで、平均0.48(3点満点)であった。

(2)(3)文学的鑑賞力を見るためのもので、普通の成績であった。

(5)基礎的な文学史の知識の問題で、良好の成績であった。

(4)は文脈に即した読解力の問題であるが、6点満点中平均1.23点で不良である。

全体としては、40点満点中16.79点で、現国3題中の最低である。小説が論説よりも成績が悪いとは、予想外であった。

Ⅳは古文で、大和物語“芦刈”の段である。この段は三省堂刊の高等国語Ⅰ乙に教材として出ているが、Ⅰ甲の範囲内であるという建前を守る以上、教科書所出の有無に拘わる必要はないと考えた。該教科書を使用している受験生の受験成績を調査して、これを用いなかった受験生との成績の差を調査するのも、今後の参考資料となり得るであろう。厳密に云えば、この古文が古典Ⅰ甲の範囲内に収まるものとは云いきれないが、さりとて古典Ⅰ乙とするには平易な文章であり、上記の趣旨からすれば、現状では妥当な線と考える。やや長文を出して、受験生の通読力も見ようとした。設問のうち、

(1)登場人物が同一人物か否かをたずねるもの。長文の脈絡を辿って読み進め得るか否かを見た。成績は概して良好であった。

(3)(6)文章、語義に即した正確な読解力を求めるもので、共に5点満中各0.4点、1.6点と点数は悪い。

(2)は、内容の理解力に絡みながら、係結の法則を知っているか否かを検したもの。5点満点中1.05と予想外に悪い成績であった。古文に関する基礎的な知識の欠如を思わせる。

(4)は“そよとも”がかけことばであることに気づかない者が多く、正解は半数に足りない。これも前項と同様のことがいえよう。

(8)は初歩的な文学史の知識の問題で、この問題の中ではもっとも正解が多く、4点満点中、平均2.91点である。単なる暗記物的な知識として覚えているのであろうか。

Ⅳは全体としては、40点満点中平均16.79点で、Ⅰ～Ⅴの中で最低の成績である。作成に当っては、6割～7割の点数を予想していたので、あらためて古文に関する高校生の学力の不足を思い知らされた。

Ⅴは漢文。“史記”商君列伝から採った。これも他と同様に比較的長文を出題し、設問数を増加して、多角的に学力を検べようとした。選択肢も特に各小問6箇として、漢文の問題の解答にありがちな当てずっぽうの答案、まぐれ当りを除くようにした。

(1)は文脈に即した文字の意味の正しい把握ができるか否かを見たもの。成績良好。

(2)(3)(4)(6)(7)は内容の理解と総括的な把握力を見たもの。成績概して良好。(8)は文学史。有名な事項ではあるが、成績も概して良好であった。

(5)は訓読の力を見た。これは4点満点中平均1.41点で、Ⅴの中では最低である。

Vは全体としては40点満点中24.85点で、ほぼ良好の成績であり、一般に高校生の漢文の学力はかなり劣るといわれているので、むしろ予想に反した好成绩という印象を得た。

以上I～Vを通じて、総計としては、200点満点中平均112点、偏差値24.46である。昨年度は偏差値は24.75で変わらないが、平均点は124点で本年よりもかなり高い。本年はそれだけ難しかったことは否定できない。これをどう考えるかは、前記Ⅱ(イ)(ロ)(ハ)と関連して十分に検討する必要がある。一次試験の大義名分が、高校生の学習達成度を見ることと、その受験勉強の重荷を軽減することにあるとすれば、一方で大学側が選抜試験としての有効性を求めているという事実との調和を何処に求めるべきか。60～65点というのは、いちおう常識的な平均点の目安かもしれないが、こうした複雑な課題に対応するためには、さらに十分の用意をととのえて事にのぞむべきであろう。

その他、気付いた点の若干を記せば、

(a) 受験生は、いちおうの知識量は有しているが、基礎的な読みの力に欠けている。今後その点の勉学を促すような出題を試みるべきであろう。

(b) マークシートの記入には、受験生はあまりとまどった気配はないらしい。出版社にも近來コンピューターによる入試テストを行っている所もあり、おいおい馴れてきているのであろうか。

(c) 現代国語の学力はいちおう認められるが、古典の力ははなはだ貧弱である。

(d) “受験生に対するアンケート調査集計”によれば、“問題の文章は分りやすいか”、“問題はむづかしいか”“解答の時間”の3種の質問に対して、普通と答えた者の数は、それぞれ64パーセント、61パーセント、67パーセントであり、昨年度と大差がない。また“難かしすぎる”と“易しすぎる”の分布は均衡を保っているが、この点、昨年度は、“易しすぎる”の方に傾いていた。受験生の印象も、昨年度に比すれば、難しいと感じた者が増えてはいるが、全体としては、難易双方が平均化していることは、問題として妥当であったことの一証といえよう。

〔Ⅲ〕 今後の出題に留意すべき点

(1) 小問の選択肢の中、正解一つにのみ点を与え、他はすべて0点としたが、これは正解への近似度に依じて、たとえば1, 0, -1などの点差を与える方が、より合理的であろう。

(2) 現代国語は、前述の如く、三題はそれぞれちがったジャンルのものを出すべきであった。今年の出題はやや偏したきらいがある。

(3) 古文は、さらに平易な問題を出した方がよいかもしれない。

(4) 問題数および時間(120分)は、変更する必要はない。

〔Ⅳ〕 本年度の問題についての反響と意見

テスト実施と共に、有力新聞紙はそろって大々的に報道、問題も全文を掲げ、解答も併載するものが多かった。多くは概して好評であったが、部分的には、ⅠⅡが類似の傾向にあることを不可とし、また内容的にひねった問題で難解であるとか、Ⅳが古典Ⅰ甲としては難しいが、Ⅰ乙としては易しいものである、などの評があった。しかし、“入試改善にならぬ難問——国立大学共通模擬テストの国語——”なる大見出しのもとに、各紙解答に不一致のものが数個所ある事を根拠として批判を加えたものもあった。今後は年を逐って、この種の記事が増加するであろうが、関係者としては、極力謙虚にそうした批判にも耳を傾けて善処すべきであろう。また、その他国大協事務局に直接個人名義で、問題文の用語等について批判した投書もあった。これに対しては、今後の参考資料として、礼状を送附した。しかし、その他一般には好評であり、殊に高校教師、大学教官などの間では、概してはその過度に平易に陥らざることの故に好評であったかの印象を受けている。

〔Ⅴ〕 その他

本年度のテスト実施については、本委員会の運営上種々の困難を感じた。特に以下に記す事項については、今後事態を改善されるよう切望する。

(1) 問題作成期間について

本年は問題作成に着手したのが6月初め、その提出が7月末日で、正味50日足らずであった。前期委員の報告書にも、問題作成期間としては「3～4ヶ月が必要」と述べられているが、通常各国立大学とも、入試問題作成に最低3ヶ月をかけるのは常識である。ましてや、統一テストの社会的責任ないし世間の関心は、従来各大学入試問題の比ではなく、その上各委員は居住地を遠く異にしているので、土・日曜以外に会合を持つ事は難かしい。50日足らずの間に3分科会、総会合計わずか9回で問題文を搜し出し、検討し、練り上げることは至難のわざであり、各分科会とも2～3回の会合でその作業を済ませ、全体会議にかけて調整、修正すること2回、以上で万事完了というのは、危険きわまりなく、まさに薄氷を踏む感があった。その上、毎回の会議は午後8～9時に及び、各委員はもとより世話役の事務官の苦勞も甚大であった。そもそも、はじめから下半期の連休日をテスト実施日と決めた上で、そこから遡ってスケジュールを立てるという安易な方法と、年度頭初における委員任命手続きの遅延とがこの結果を招き、矛盾が専門委員の上にしわ寄せされた感がある。この点、事務局の根本的な考慮を促したい。

3. 数学研究専門委員会報告

本年度委員会では、数学の出題範囲は数学Ⅰまたは数学一般とするという既定方針の下に問題作成及び結果の検討をしたが、前年度委員会の指摘したマークシート方式による採点および出題範囲の狭さに起因する難点の解消は至難であることが認められる。他方、マークシート方式で論証能力をテストすることは本質的に不可能と見られる。これらの難点を解消する意味において、理科系学部志望者に対してはもちろん文科系学部等の志望者に対しても、論証を主とする数学の試験を各大学における第二次試験において課すことが望ましい。

Ⅰ 各問題の出題意図

数学Ⅰの問題は6問（Ⅰ～Ⅵ）よりなり、Ⅰは3つの小問からなるオムニバス形式で、Ⅱは2円の共通部分の面積、Ⅲは写像、Ⅳは確率、Ⅴはベクトル、Ⅵは指数関数より出題した。

Ⅰは他問題の補足的な意味において、1)は三角関数に関して基礎的計算能力を見ること、2)と3)は放物線の性質の理解度を見ることを主眼とした。

Ⅱは式で与えられた2つの円の共通部分の面積を求めさせる問題であるが、1)において2円の交点を求めるための連立方程式を解く能力、2)においては幾何学的理解度と算術的計算能力を見る問題である。

Ⅲは写像とその合成の概念の理解度を見るため、平面における2つの写像を与えその合成写像について、1)で1点の像、2)で不動点、3)で直線の像を求めさせた。

Ⅳは公式のあてはめでは解けない確率の問題であり、確率の理解と場合の数の的確な限定との能力を見る問題となっている。

Ⅴは三角形の外心をベクトルを用いて求めさせる問題であり、1)で一辺と直交する同じ長さのベクトル、2)で辺の垂直二等分線、3)で交点としての外心をそれぞれベクトルで表示することを要求し、幾何学的概念のベクトルによる理解を見るためのものである。

Ⅵは指数関数についての式が、恒等式であるか方程式であるかを判別させ、方程式についてはその解の個数を答えさせた。指数関数の理解度を見ることができる。方程式については、式計算でも、ぐらふによる方法でも解けるようにした。

数学一般の問題は4問の必修問題（Ⅰ～Ⅳ）と4問中2問の選択問題（Ⅴ～Ⅷ）よりなり、Ⅰは3つの小問からなるオムニバス形式、Ⅱは2円の共通部分の面積、Ⅲは放物線の接線、Ⅳは確率、Ⅴは条

件式と集合，Ⅵは行列，Ⅶは線形計画法，Ⅷは流れ図よりの出題である。

Ⅳは数学ⅠのⅣと全く同じ問題，Ⅰの1)およびⅡも本質的には対応する数学Ⅰにおける問題と同じである。これらは数学Ⅰと数学一般の出題レベルを近づけるとともに，結果の比較にも役立てようとする意味がある。

Ⅰの2)は約数の数を，Ⅰの3)は部分集合の個数の範囲を求めさせる問題で，基礎的思考力を見ることが出来る。

Ⅲの1)は2つの放物線上に与えた点の接線を求めさせ，2)は接線の交点のy座標の最大値を求めさせる問題で，微分法の初歩の理解度を知るためのものである。

Ⅴはある条件で与えられる集合を論理的思考で定めうる能力を見る問題であり，1)で集合を与えてそれを定める条件を求めさせ，2)で1つの条件で定まる集合を図示させた。

Ⅵは行列に関する基礎的知識と演算能力を見る問題であり，1)は1次方程式の，2)と3)は2次方程式の解法に帰着される。

Ⅶは線形計画法の応用問題であり，これを理解しかつ図を的確に書いて解いているかを見ることが出来る。

Ⅷは流れ図によるプログラミングの理解を見るため，段階を追ってのくり返しが正確に出来るかどうかを判定する問題とした。

今回の問題は，数学Ⅰ，数学一般とも全般にわたって標準的な問題を揃え，特異な能力を必要としないよう意図して作った。

2 出題形式についての今回の試み

今回の出題形式の特徴は次の3つに分けることができる。

- 1) 選択肢による解答を避け，解答そのものをマークシート上で識別できるようにした。
- 2) 数字の外に文字を解答欄に加え，文字を含む式等を解答できるようにした。
- 3) 数学Ⅰと数学一般双方に共通なあるいは類似な問題を増した。

なお印刷の都合上，数学Ⅰと数学一般とを同一の冊子にまとめた。このため急遽問題の一部手直しを行った部分に出題ミスを生じ，試験実施時に問題訂正を行った。

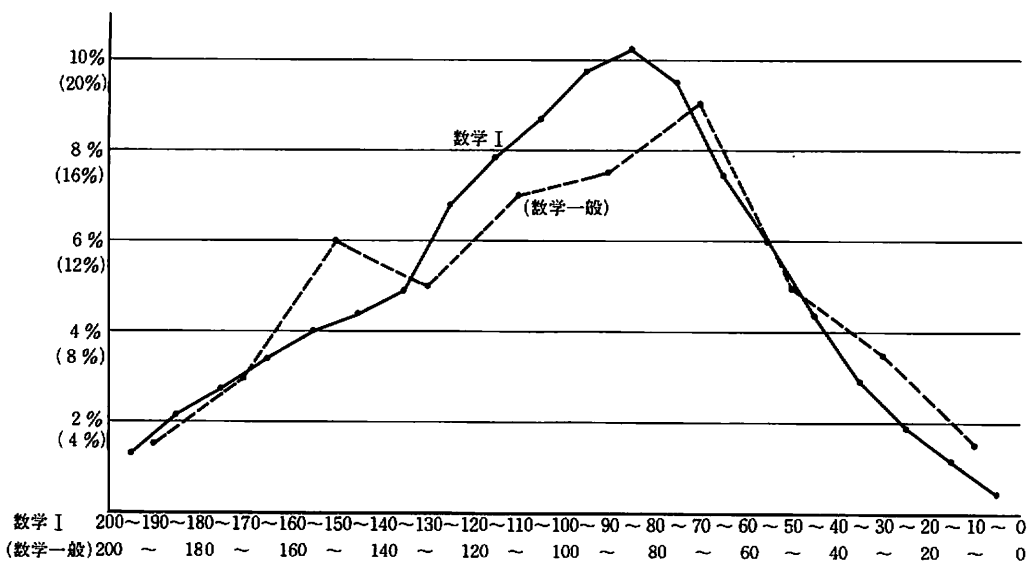
1)は選択肢番号の取り違い等についての受験者の心理的負担の軽減と，場当りの解答を少なくする効果を期待できる。実際に選択肢で解答させたのは，数学一般の問題Ⅴ，1)のみであるが，この場合でも選択肢番号は解答を連想しうる数値にとつてある。

2)は1)と関連している。数学 I の問題 V では文字を含む解答をいくつかの例より選ばせるのではなく、問題中にある文字を選ばせて式を構成させるようにした。この場合式の形を指定しなければならないこととあまり複雑な答を要求できないという制約がある。数学 I の問題 VI では恒等式となる場合を記号 A (all) で答えさせた。なお数学一般の問題 V, ii) では解答図をマークシート上に表示させたが、この場合の採点は各行毎の減点法とした。

3)について、前年度も数学 I と数学一般に共通の 1 問題があった。本年度は確率の問題 IV を同一のものとし、II の面積の問題、I の 1) の三角関数の問題は数学 I の問題を数学一般向きに書き直し本質的には同じ問題を用いた。これによって、数学 I と数学一般の受験者の能力の相対的な比較検討を可能にしようとしたものである。

3 出題意図と解答結果

総合得点の分布は下のグラフのような統計的にバランスのとれた結果となっている。これは標準的な問題を揃えたことに一因があろう。数学一般では受験者数が少ないので多少の凹凸は止むをえないと考える。



数学Ⅰと数学一般との平均点に差は殆どないが、数学一般は数学Ⅰに比して若干問題が易しい一方出題範囲が広いという条件等を考慮して、現在程度かあるいは数学一般の出題レベルを若干数学Ⅰに近づけるのがよいと思われる。

各問題および総計の平均点を下表に示す。

問題番号		I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	総計	受験者総数
数学Ⅰ	平均点/満点	17.3/35	13.3/30	25.0/30	5.6/30	18.1/35	21.3/40	/	/	100.6/200	9,660
数学一般	平均点/満点	19.8/35	10.8/30	23.0/35	4.4/30	13.3/35	22.1/35	19.3/35	4.6/35	99.5/200	99
	問題選択者数	/	/	/	/	46	94	69	17		

問題Ⅰの1)の正解率は数学Ⅰで66%，数学一般で60%であった。難易度に大した差はないと思われる。公式の憶えちがいや単純な計算ミスによって誤答がでたと思われる。

問題Ⅰの2), 3)の正解率はそれぞれ数学Ⅰで78%，20%，数学一般で59%，54%であった。特に数学ⅠのⅠ, 3)においては、求められた範囲の半分しか考慮していない者が20%， y が整数であることを失念したものが16%程度あった。

問題Ⅱの1), 2)の正解率は数学Ⅰ80%，22%，数学一般71%，18%，1)は形式的には2元2次連立方程式を解くことになるが、容易に2次方程式の解法に導かれる。教科書の本文にも類似のものが見られる故か成績はよかった。2)は1)によって題意が十分確かめられれば、中学校程度の問題であるが、このような幾何学的算術の問題は高校生にとって苦手であるように見受けられる。

数学Ⅰの問題Ⅲはよくできており、例えば合成 gof を fog ととり違える者は殆どなかった。微分法の初歩的段階である数学一般の問題Ⅲでは単純な計算である1), 2)は共に7割台の正解率であったが、最大最小問題の融合された3)では5割台に成績が落ちた。

共通問題の問題Ⅳは成績が悪かった。原因は既知の公式をあてはめられない問題の故と思われる。中学生に課すればよりよい成績を得られるとも考えられる。なお、3)は1), 2)より導かせるつもりであったがその正解率は1), 2)のその約半分であった。

数学Ⅰの問題Ⅴは文字を含む解答を要求した。1), 2)の正解率は7割前後であったが、3)では解答者数が2割強減少し、正解率は3割台となっている。文字による解答に障害は見られないが、文字を含む係数をもつベクトルの計算に難しさがあった様である。

数学Ⅰの問題Ⅵでは、恒等式を正解とする3), 5)は7割台、解の数が0, 1である1), 3)は6割台の正解率であったが、解の数が2, 3である4), 6)ではそれぞれ37%，17%の正解率であった。特に6)は4)と5)の結果より直ちに導かれることを見逃した者が多い。

選択問題である数学一般のⅤ～Ⅶでは定まった方式によって解答し得るⅥ、Ⅶの成績はよかったが、論理的理解を要するⅤ、Ⅶの成績は悪かった。特にⅦは過去に選択されたことのない、我々にとって未経験の選択分野であるという意味で興味があったが、この問題のみ最高得点は満点でなく25であった。Ⅶの分野については、問題をもう少し簡単にするとともに中間段階での設問を増す必要がある。なお選択問題の3問以上に回答した者が相当数に上ったことは将来の問題点となる可能性がある。

一般的に見て、論理的思考を要する問題の成績が悪く、また中学校数学での十分な基礎づけを要する問題についても受験生の学力不足がうかがわれる。当然のことながら、単純な暗記およびあてはめで解ける問題の成績は非常によい。

4 出題範囲についての注意点

数学一般の出題範囲は多少浅い面もあるが、数学ⅡA、応用数学の一部を含み範囲は広く、また選択問題を作る必要性から、出題は平均的に分布することとなり、あまり問題はないと思われる。ただし、国公立大学入試の現状から見る限り、一般数学より出題の必要性は非常に少ない。また、3にのべたように選択問題の取り扱いには注意を要する。

数学Ⅰは数学Ⅱ、Ⅲに接続するものとして構成されており、その範囲内に限定して出題することは中途半端であり、出題の類型化、固定化をまねき、将来出題材料の涸渇による難問の出題や受験対策の高校教育の弊害をまねくおそれのあることは前委員会の指摘にもある通りである。これらの点については将来の出題において十分考慮されるべきものではあるが、対策として次の様な提案もあった。

- 1) 出題範囲を中学数学教育の範囲まで考慮に入れ、論理的思考を要する出題をふやす。
- 2) 数学ⅠU(数学ⅡA∩数学ⅡB)を出題範囲として一本化する。
- 3) 数学Ⅰ∩数学一般の範囲で共通問題を、数学ⅡA∩数学ⅡB、応用数学、数学一般(あるいは数学Ⅰ)のそれぞれの範囲で選べるような選択問題を課する。

なお、将来新課程へのスムーズな移行についての考慮もこれらに関して必要となろう。

5 本年度の問題についての反響意見

本委員会としては特に際立った反響意見をえていない。出題はほぼ標準的なものであり、一部では易しい様に受取られているようであるが、結果は必ずしもそうではない。また論証に関する判定能力の不足は当然のこととして受取られているようである。

4. 倫理・社会研究専門委員会報告

Ⅰ 各問題の出題意図

倫理・社会の出題にあたって、まづ問題になったことは、倫理と社会の出題量のうち配分比をどのようにするか、ということであった。大多数の高校教科書では、社会関係が3分の1、倫理関係が3分の2程の割合で編纂されているが、社会関係の中には青年心理学の領域もふくまれているので、結局社会関係三題、倫理関係四題を出題することにした。

全体の出題の方針としては、高校の学習領域内で、基本的な問題を取りあげ、単なる暗記力よりも理解力、考える力を験めすことに重点を置いた。各出題者は、この基本方針にそって出題したが、ほぼ所期の目的に叶ったように思う。

次に、各問題の出題意図であるが、問Ⅰは、前近代社会と近代社会の特質の比較、前者から後者への移行過程にみられる社会関係の変化、現代社会での官僚制機構の特徴、およびそこに現れる弊害等を多角的に考えさせることをねらいとしている。

問Ⅱは、現代社会の複雑な社会過程の展開を理解する場合に必要な基礎知識の習得を要求するところに出题意図がある。したがって、現代社会の特質を表わす工業化、都市化、情報化といった用語を単に断片的に記憶するのではなく、これらの用語がどのような意味で使われ、現代社会のどのような局面を示しているのかという、社会過程の脈絡に沿った理解の必要を要求している。

問Ⅲは、現代青年の意識の特徴を、社会の変化と関連して理解している程度を見るために出題した。

問Ⅳは、最初に述べたように、平素から倫理・社会の問題を自分で考えるように努める生徒なら容易に解ける問題を工夫する必要があるという考えにたって、東西の「思想の源流」を問うことを試みている。

問Ⅴは、「自由」の種別をその思想的背景との関連において弁別する問題である。倫理社会思想の歴史的発展のなかで、自由論は種々の形態をとってきたが、自由の種々相をできる限り網羅的に取り上げて的確に区別し理解しているかどうかを試することをねらいとしている。そのさい人口に膾炙している思想家のまとまった短い文章を数種類羅列することによって、受験者に、それらの読解を通して、それぞれに最もふさわしい仕方で対応する自由の形態を指摘することを求めている。

問Ⅵは、快楽の質的差異についての出題である。ベンタムに代表されるイギリスの功利主義倫理思想において、快、不快の感情に質的差別を主張したJ. Sミルを説問の対象にしている。

問Ⅶは、日本の倫理思想に関する設問である。鎌倉仏教に限ったのは、日本倫理思想すべてに互る問題、例えば、神道、儒教、明治以後の思想すべてを網羅した問題もありうるであろうが、一部に限定した問題も可能と考えて、試みに出題してみた。その方が考えさせ、掘り下げられる問題となるのではあるまいか。鎌倉仏教に限定した上で、世界の三大宗教や、ルターの思想など、日本以外の思想にも関連づけてみた。このような試み（「思想の源流」）の問題、問Ⅶのような拡がりを持つ問題を、東洋・日本の思想にも試みる必要があるだろう。

2 出題形式についての今回の試み

出題形式は、できるだけ高校の教科内容を反映できるようにし、いたずらに複雑に流れたり無用の混乱を起こすことがないように配慮した。形式自体は、昭和50年度のそれと大きく変わっていないが、問Ⅲにおいて、従来、文章形式の出題が多かったので、表を加味した問題を作成し、同時に問題量ができる限り少くすることを試みた。

問題形式が完成法、選択法をとる場合については、あいまいに理解されがちな用語の意味を正しく識別して理解しているかどうかを試することができるように選択肢や用語の選び方に注意した。

なお、昭和50年度の報告書に示されている「論理的な思考力、総合的判断力をみることのできる出題の考案」・「立体的・構造的な設問の形式」等の問題作成上の重要な課題については、上述の理解の正確さや識別力などの判別問題と関連して、出題技術上、たとえば、選択肢の単式解答の形式のほかに連鎖・複式の解答の形式を考案するなどの工夫がいっそう必要であると思われる。

3 出題意図と解答結果

倫理・社会全体の平均点は、60.62で「入試の成績」として考えれば、妥当な結果であろう。試験後のアンケートでは、「問題はやさしい」と答えた者と「普通」と答えた者の合計は70%を越えている。とくに「易しい」とする者32.5%は社会科6科目のうちでも顕著な比率であって、6科目の平均値からすると2倍以上の数字であるから、このカテゴリーへの回答比率が低く(5.6%),かつ「普通」とする者(35.9%)をも含めて約40%の値を示している。日本史との間で難易度についての対比検討を要するであろう。この点の検討は「文章のかわりやすさ」(25.1%)「解答時間の長さ」(37.8%)とも考えあわせなければならないが、度数分布図も考えあわせてみて、総じて、他の科目よりも問題が易しかったということは否定できない。ただ、倫理・社会それ自体としてみると出題の難易度もほぼ当をえており、格別に易しかったとは考えられない。問題中、問Ⅱと問Ⅶにおいて平均点がやや低かったが、こ

れは必ずしも問題がむづかしかったためではなく、問Ⅱは、選択肢が多くしてあったこと、問Ⅶの場合は、仏教の問題で、受験生に期待した程のなじみがなかったことによると考えられる。

全体として、倫理・社会の教科内容は他の学科と比較して、常識的に知られていることから、日常的に見聞しがちな内容を含んでおり、そのためにポピュラリティの高い内容は答えられるが少し正確さを要求すると意外にあいまいな理解が暴露されるということを発見できた。

各問題別にみると、問Ⅰは、社会の分野の基本的な問題として、内容面で日常経験する具体的な例を与え、その中から官僚制の弊害を指摘させるよう考案したものである。けっして無理な問題ではないと考えていたが平均が100点満点に換算して74.5であるから予想どおりの成績結果が出ている。

問Ⅱ(14点満点)の平均点6.85は100点満点に換算すれば48.93であり各大問の平均点としては問Ⅶについて低く、また倫理・社会全体の平均点60.62に比較しても低く出ている。問Ⅱの文章は比較的短く無理な出題とは思われないが、小問数7に対して空欄を埋めるべき選択肢を14、つまり2倍与えたことが、解答にばらつきを生じさせ平均点の低さとなって表われたものと思われる。しかし、選択肢は、基本的に重要な用語ばかりであり、したがって、これらの用語の意味と出題内容を十分理解することが受験生に対して望まれる。とくに小問dの都市化(2点満点で平均点1.22)と小問eの原子化(0.16)小問fの情報化(1.85)と小問gの脱工業化(0.97)のように、小問dとe、小問fとgは相互に関係があるにもかかわらず、用語が関連的に理解されていないためにdとe、fとgの平均点の開きが大きく、知識としてのまとまりと的確さを欠く傾向が見受けられる。

問Ⅲは、解答結果から見て、出題意図が受験者に十分理解されたと考えられる。ただし、小問b. c. e. fはいずれも90%以上の正解比率であるからこの点からすると、問題の練り方が足らず、問題の中にヒントがありすぎて、易しすぎる問題であったように思われる。従って、受験者の優劣を計る尺度としては不適切だったと考えられる。

問Ⅳは、思想の源流を尋ねるかなり拮がりのある問題であるが、解答結果からみて、問題の趣旨は理解されたものとする。なお、小問Ⅰの正解率が低いのは、受験生にとって、ややむづかしかったのではないかと思われる。

問Ⅴについて解答結果を検討しながら出題の意図をふりかえってみると、この設問において、東洋と西洋との区別が不明確であること、近世のみならず現代にも跨ったこと、そして、自由の種々相の歴史的体系的把握に欠けていること、等が反省されなければならないと思われる。解答結果についてであるが、だいたい予想していた線に落ち着いたと思う。倫理・社会の平均点と総合点の比率を基準にして考えると、問Ⅴの平均点と総合点の比率はややそれを上回っていることから判断すると、この

設問はあるいは易きに過ぎたのではないかとの懸念もないわけではない。しかし、今回の受験生が、全受験生の一部、しかも学力において恐らく平均以上と思われる一部にすぎないことを勘案すると、この程度の設問でよかったのではないかと考える。

問Ⅵは、解答結果からみて、受験者にとって難解すぎることも平易すぎることもなく、だいたい普通程度であったことが分る。

問Ⅶについては、まずA—問1—aはよい結果を得ている。bは、アの「断食などの苦行や、禅定によって解脱する点」の「禅定」「解脱」という言葉で禅宗と考えたのであろうが、シャカが苦行を捨てたこと、バラモン教が苦行・禅定を尊んだことを理解していれば（教科書には指導してあるはず）出来る問題である。cは、よい結果をえている。問Ⅱは、ア、「自力・他力を越えて、ひたすら座禅に励む」の「座禅に励む」で、すぐさま禅宗と考えたのであろうが、単なる文字づらだけでなく、考えてほしい問題だった。自力・他力の意味が分っていれば解答可能のはず。「聖道門」も既習のはず。問3—dはア・イの問題文に多少あいまいさがあったことを反省する。e—オは論外であるが、イの問題文はあいまいだった。fは意図に叶っている。B—問1は「『……』」と「師は言われた」の師とだれにとるか、問4との関連で考えさせたかった。オは論外だが

栄西——道元——懷非 }
法然——親鸞——唯円 }

の2通りのなかでたとえ『歎異抄』を知らなくても「往生」といえば浄土教思想を思い浮かべるのが当然と思ったからである。問2および問4は、問1を道元ととった生徒たちは、問2では、「打坐」を、問4では、「栄西」を選ぶことになったようであるが、今後、こうした連鎖的な問題の配点はよく考慮すべきであろう。

4 出題範囲についての注意点

出題範囲は、高校における実際の履習の範囲を逸脱しないよう留意しなければならない。大学が個別に出題する場合と異なり統一試験の趣旨からみて、この点は十分に注意を払うべき点であろう。国立大学共通第一次試験の実施時期は、おおむね、12月下旬から1月上旬の間に行われると考えた場合、倫理・社会は、ほとんど高校二年次に履習させているので出題範囲については、さほど問題はないと思うが、第三年次に履習している高校がある場合は、出題範囲を調整する必要があるであろう。

次に、分野別にみると、倫理については、東洋思想、東洋倫理の問題をどのように出題の中に組み入れるかを、さらに検討する必要がある。社会については、各教科書に取り上げられている内容を網羅した出題を考える必要はないと思うが、逆に狭い範囲について専門度を計るような小刻みの出題は

さけるべきだと考えられる。現代社会の特質に関する基礎的な知識の総合力の判定が必要であり、そのため、現代社会の諸現象について、できるだけ多角的に問題を取り上げ、相互の関係を問う出題が望ましいと考える。

なお、本年は、青年の意識（心理）に関する問題を取りあげ、教科書が取り扱っている内容にっ
そう、そのように留意した。

5 本年度の問題についての反響意見

とくにない。

6 その他

とくにない。

5. 政治・経済研究専門委員会報告

第1章 本年度専門委員会の成立経過と問題作成方針

本年度（昭和51年度）は、実験の4年目にあたる。この年度にさいし、他の多くの出題科目にあつては、世話大学すなわち事務局をおく大学を変更々新するところがあったが、わが「政治・経済」科目の場合は、本委員会が当初発足いらいの異動頻りであったことも考慮に入れ、本年度は昨年度と出題委員人事をほとんど入れかえることなく実験に臨んだ。すなわち出題委員長をはじめ8名の委員が残留し、新規交代による参加者は2名だけ。あわせて10名で出題をおこなった。

後述するように、本年度の出題は、前年度に較べて、万事旨く順調に行つたが、その主たる理由原因は、上述のように出題委員の大部分が経験者たりしことに負うものであって、今後本番などの実施にさいして出題委員の輪番交代などの必要を考慮するとき、つねに今回のように、円滑に委員会が始動そして機能しうるとは限らないことを、関係者は十分に理解しておくことが必要であろう。ことに「政治・経済」科目の場合は、他のいわゆる受験科目（英語、国語、数学、日本史など）の場合と異り、全国各大学とも、出題経験者が少いので、なおさらそのことが痛感されるのである。

本年度の出題計画は、昨年の経験に十分な反省を加えることからまず出発した。すなわち昨年度の実験においては、わが「政治・経済」科目の受験者成績全体は、他の「社会」諸科目の受験者成績にくらべて、(1)平均得点が有意に低く、かつ(2)得点の標準偏差値が有意に小さい、という結果をえた。2のことについてわれわれは、かなり突っ込んで検討を重さねたが、ともあれ結果的に今年度は「政治・経済」科目は、問題全体を昨年にくらべて易しくするとともに、標準偏差値つまり得点のバラツキが、やや拡大するよう考慮をはらった。問題の全体の長さも、昨年は17ページに及んだのを、今年度分は13ページにおさえた。

このようにした結果は、出題問題全体としてはおおむね（出題を個々にながめるとき反省すべきこともある）受験者の点数成績に関するかぎり、望ましい所期の結果をえた。すなわち受験者得点の平均点ならびにその標準偏差値を、ほぼ他の「社会」諸科目のそれに一致せしめることに成功した。仮りに今後、今回と同じ試験時間内（すなわち60分）で答案を作成せしめるとすれば、全体として概ね今回の程度の難易度と長さの出題をすることが、まずは妥当であろうと考える次第である。（あるいは、教科全体の考え方として、各科目がそろって、もう少し受験者層に平易な方向へ出題内容をシフトさせることとも考えられてよいかもしれない。なぜなら本番と異なるこの種の実験にさいしては、どちら

かといえは受験に自信のある、換言すれば平均よりは成績のよい、学生が応試しているとも考えられるからである。)

多くの受験生にとって、「社会」の諸科目は、しばしばいわゆる“暗記もの”としての扱いをうけているようであるが、われわれ出題委員会の出題努力は、これを単なる暗記ものたらしめない科目として高校内で授業されることに向けられていることはしばしば言明している通りである。すなわちわれわれ専門委員会は、(昨年度の本報告書にも記したように)「政治・経済科目の出題に当っては、受験生の側が、憲法、政治、経済、労働、国際などの諸現象についての体系的な理解をもち、あるいは基本的な認識に達しているならば、それとの理論的な斉合性ないし歴史的な首尾一貫性において、よく判断ないし推論することで、満点ならずとも十分に合格点水準に達する正解答を導きうるような設問を選定する」ことに努力を斜注した。高校の政経科目は、上述のような現象についての断片的な知識の切りりや、トピックスの百科辞典的な羅列として教授せらるべきでなく、体系的、斉合的な思考訓練の場が提供されることを願っている。受験参考書によらずとも、教科書内容と、あるべき授業と、政治・経済問題への日常的な関心の持続と、で十分によい得点に達しうるような出題こそ望ましい、とわれわれは考えている。

高校での「政治・経済」は、いっばんに法と政治、経済、労働と社会、国際のようなタテワリの各領域で教授せられるのを常とするが、出題にさいしては、これを横断的にヨコワリ的に設問だてすることで、受験生の知識の頑健さを試すこと、また論理上・事項記述上の概念を各種の統計数字やグラフ上にあらわされている事実と結びつけて理解させ判断させることなども、そのためにはきわめて必要な措置と考えている。

なお、われわれ出題委員会は、委員会として高校の教師諸氏の意見を徴することは行っていないが、これまでも機会あるごとに、教育現場の声や意見をただすことに努力してきましたし、今後とも大いに批判や意見を歓迎したい次第である。

第2章 各問題ごとの出題意図と結果

つぎに、今回出題の各問題ごとの出題意図その他について記しておく。

第I問は、法治主義を中心テーマにしたもので、昨年の基本的人権の問題、一昨年の民主制の問題の系統を襲うものである。今回の出題にさいしては、基礎的な知識の習程度のテストもさることながら、大学に入り学問的な文章に接するにさいして最も重要と思われる、与えられた文章の文意を正確に読みとり、そこから推論して一定の帰結を行うという作業を受験者がどの程度にこなすのかのテ

ストをその主たる眼目とした。そのために素材として基本的な内容をもった文章を、完全な形で与え、この文章の内容に関して若干の設問をおこなうことにしたが、そのさい設問の数を減して、考える時間を多くあたえ、“考えて答えさせる”テストとなるよう心掛けた。と同時に他方ではある程度は“暗記もの”としてでも一定の点数までは取得できるよう、設問相互のあいだで、難易のバランスがとれるようにも配慮した。(このことは、われわれが、本科目を“暗記もの”として受験者にうけとられることを許しているというより、現に“暗記もの”として受けいれられている実態があるとすれば、それをフォローしてみたい、という実験的観点がこのさいやや入っていると考えて貰いたい。)法知主義を中心テーマとする本文の設問の一部には、内容的にやや高校修了段階では難にすぎると思われるものもあったが、これらの間についても、思いのほか正解者は多くあった。

第Ⅱ問は、国際問題の理解にとって最も基本と思われることを列挙してたずねようとするものである。ただきわめてベーシックなことでありながらも出題者が予想したほどの成績点を得なかった。このことは「政治・経済」のなかで、この部分が理解しにくいということよりも、教科書などでもたいていは最後部に書かれ、この部分に関し受験生が十分に勉強せず、教師側も取扱いを粗略しているためではないかと思われる。あるいは、一見あまりに日常的なトピックスなので、甘くみているのではないかという解釈も成りたつ。10個ある小問のうち、原理的なことを問うている各設問の場合は回答の正解率が高いのに対し、実際的なし事実的なことを問うている設問に関しては正解率がきわめて低いのが特徴的であって、この点などから考えると、政経の受験生は、日本史、世界史などの受験生にくらべて、安易な学習態度にあるのではないかと判断せられる。

第Ⅲ問は、どの教科書にも登場する用語、術語について、その正しい内容を受験者が知っているかどうかを、ためそうという問題である。数学や自然科学の場合には、学生も術語や用語について、正確な定義を知ることが当然心要と考えるのに対し、政治・経済などではいろんな、術語をただ漠然と不正確に頭に入れて、それで何となく判ったような気になる場合が少くない。例えば「第一次産業とか「国民所得」とかの言葉の正確な定義をつかんでほしい、と考えて、このような形式の問題を作成してみた。本来ならば、術語だけあげて、その定義を書かせたいところであるが、マークリーダー方式では、しょせん叶わず、このような次善のテストしかできないことである。しかしこれでも「産業別組合」という言葉は、誰でも知っているようでも、その正しい内容は、45%（ないしそれ以下の割合）の者しか正しく掴んでいないことが判るのである。この種の問題は、その意味では、毎回幾つか課してもよいものである。

第Ⅳ問は、経済、金融、労働などに関する問題である。すなわち経済のメカニズム、金融や財政の

機構やしきみ、制度に関する基本的な理解があるかどうかを問うている。昨年度には、事実面から尋ねたのを、今年は理論的に問うてみただけである。事実面にそくして尋ねることは重要と考えるが、統計表をのせるとページ数を取り、また受験者側は時間を食われるという難点があるが、この点はこんごの工夫にまらたいと考える。内容の難易度に関しては概ね予想通りであった。

6. 日本史研究専門委員会報告

1 各問題の出題意図

〔Ⅰ〕 古代～近世にわたる政治・法制・外交などの領域での基本的な事項について、年代・人物・事項などの総合的な理解を試問することを目的とした。

〔Ⅱ〕 いわゆる資料問題であって、(A)～(D)の4問から成るが、(A)については、(1)史料に基いて歴史を考える能力を見る。この場合、有名な史料を出題すると、史料そのものが暗記の対象にされてしまうことを考慮して、あまり知られていない史料を素材として、その読解力をもテストする。(2)中世の政治・法制に関する基本的な知識の習得度を見る。以上の二点を意図して出題した。

(B)(C)については、(1)史料の内容を吟味するとともに、複数の歴史的事項を相互に関連させて理解する力を見る。(2)近世の農業・地方産業についての基本的な理解度を見る。以上の二点を意図して出題した。

(D)については、史料に即して、資本主義発達史についての理解度を見ようとした。

〔Ⅲ〕 近・現代史の基本的事項についての理解度を見ようとする問題である。とくに、高等学校における学習の進捗と試験期日を勘案し、近・現代史の分野にまで授業が十分進んでいないことも考慮して、義務教育課程で学習済みの基礎的な事項の理解度を見ることに主眼を置いた(15問中、14問は中学校の社会科教科書に載っている事柄である)。

〔Ⅳ〕 古代・中世の庶民生活をうかがわせる文学作品・遺物・宗教活動等によって、文化史全体の流れの理解力と、同時代的把握の能力を見ようとした。

2 出題形式についての今回の試み

〔Ⅰ〕は文章の誤りを指摘させる形式であるが、指摘すべき箇所について誤解を生じないように配慮して、各文章とも年代・人名・事項などの下に4カ所のアンダーラインを引き、それぞれの部位に符号〔ア～エ〕を施し、誤りのある箇所は各符号をマークさせ、又、全く誤りのない文章については、符号(オ)をマークさせることとした。

〔Ⅲ〕はとくに新しい出題形式ではないが、選択肢の配列に当って、基本的な知識、時期的な前後関係(歴史的な理解)、日本と国際的な出来ごととの関係、また女性史や農業問題など分野別の理解等々がたしかめられるよう、各問ごとに配慮した。

〔Ⅳ〕では、出題意図に即して、文化史関係で25という多数の選択肢を用意した。偶然性を避けるための一つの試みである。

3 出題意図と解答結果

受験生を対象に実施したアンケートの結果によれば、解答の時間については、長い……27.3%、普通……62.9%、短い……9.8%で、昨年度の短い（時間不足の訴え）が長い（時間が余った）を上廻ったのに比すれば好転というべく、解答用紙のデザインについて、良い……31.5%、普通……59.1%、悪い……9.4%、又、解答用紙の色について、見やすい……38.0%、普通……53.7%、見にくい……8.3%で、大体他の科目の数値の平均に近く、受験生に支持されたと言ってよいであろう。しかし、問題の文章のわかりやすいかについては、難しい……25.0%、普通……62.7%、易しい……12.3%となって、社会科関係科目中、難しい順で第3位であり問題はむずかしいかについては、難しい……58.5%、普通……35.9%、易しい……5.6%となって、全科目中、難しい順で第2位であって、芳しからぬ結果を示している。そして、科目別平均点一覧によれば、日本史の平均は43.18（100点満点）であって、100点満点科目中の最低、又、偏差値は13.61で、全般的に好ましからぬ結果に終わった。

問題の文章のわかり難いというアンケート結果については、反省改善の必要があると思われるが、問題そのものの難しいというアンケート結果、及び解答成績の結果は、必ずしも日本史の問題全体が難問であったからではない。すなわち、Ⅰ、ⅡのA・B・C、Ⅳの各平均点はそれほど低くはないが、ⅡのDとⅢすなわち近・現代史の問題の成績が著しく低く、そのことが日本史の平均点を引き下げているのである。このような近・現代史の不成績は恐らく、今年度の試験期日が昨年度よりも一ヶ月半も早く、従って高等学校での授業の進度が近・現代史に達しなかったことに起因すると考えられる。とすれば、12月もしくは1月実施が予想される本番のテストに於ては、上記の障害はある程度除かれるはずである。他面、すでに前年度の報告書に於て指摘されたように、高等学校の授業進度に合わせて、近・現代史関係の出題を手控えるべきかは、なお慎重な考慮を必要とする問題である。Ⅲはそのような授業進度を考慮して、既修の中学校の社会科教科の中から出題することを試みたわけであるが、なおかつその結果は上記の通りであった。問題の難易、出題形式等について一層の検討が必要であるとしても近・現代史からの出題は基本方針として今後も堅持されるべきであるというのが、本委員会のほぼ一致した見解である。

個別的には、Ⅱの間(4)において、(エ)と誤答し、同じく間(5)において、(ア)と誤答した者が多かったのは、建武式目を建武新政と関連づけているからと思われる、同じく間(6)において、(ア)と誤答した者の多

かったのは、ここで問われている秀吉の法令を刀狩令と速断したからと思われ、又Ⅳの間○の(5)を(カ)（竹取物語）と誤答した（正解はシ——文正草子）のは、御伽草子——おとぎばなし——かぐや姫——竹取物語という誤った連想によるものと思われ、何れも歴史を暗記物とする誤った学習態度のあらわれと見てよいであろう。

4 出題範囲についての注意点

(1) 統一テストの実施期日と高等学校の学習の進度との関係が、出題に当って留意されなければならないとしても、義務教育課程での学習内容からでも、問題作成は十分可能であり、場合によっては、そうする必要のあることを、一つの試みとして提示した（問Ⅲの場合）。

(2) 問Ⅱのような、いわゆる史料問題については、出題の史料が高等学校の教科書に載っているかどうか、出題の難易にかかわって、問題にされることがあるけれども、もとよりこの種の出題形式においては、史料そのものの理解や記憶の程度を問うことが目的ではないから、そのような批判は当たらない。多くの教科書に載っている史料を使用すると、受験生が歴史的理解によってではなく、史料そのものの記憶に頼って解答する場合が少なくないことを考えると、むしろ、余り知られていない史料を用いた方がよい。今回の出題には、そのような考慮が払われている。

5 本年度の問題についての反響意見

日本史の出題、とくに史料問題の近・現代関係について、難問であるという意見を、一部の委員が耳にしている。

6 その他

(1) 出題について検討、反省を加えるために、平均点その他得点に関する資料は、小問別のものも作成、配布してほしい。

(2) 出題の校正について、もう一校あった方がよいという意見が、一部の委員から出されている。

(3) 国大協において、本年度も含めてこれまで実地研究試験に関係した専門委員に、本番の出題を依頼する意向があるやに仄聞するが、すでにその氏名が公表されている従来の専門委員が、本番の出題に関係することには、種々疑義があると考えられる。慎重に考慮されたい。

7. 世界史研究専門委員会報告

はじめに

本委員会は、本年度の実施方法等調査専門委員会主催による実施研究のための問題作成を主課題として出発したが、その際、過去の実施テストと関連させて、出題量、その分野等を研究し、コンピューター処理を前提とした問題の作成改善に取りくんだ。

本年度の本委員会は、従来と同様、大学における東洋史学・西洋史学の両分野の担当教官から選んだが、昨年までは、大阪大学文学部から委員長を選出し、従って、大阪大学入学主幹室が事務を担当して、大阪、京都、兵庫、奈良、滋賀の各府県に存在する国立大学から委員を順次に出してきたのに対し、今年度は、名古屋大学教養部から委員長を選出し、名古屋大学入学主幹室が事務を担当、富山、石川、岐阜、三重、愛知、静岡の各県にある国立大学より委員を選出して、いわば、中部地区を中心とする委員会構成に移行させ、将来の出題委員交替のテストをも試みてみた。もちろん、近畿地区の各大学からも、これまでの経験者5名が参加し、コンピューター委員も昨年に引きつづいて留任した。

作業日程・諸会議開催状況は下記のとおりであるが、中部・近畿地区から広く委員を選出したこともあって、経費が不足がちとなり、委員会開催の回数・日時等を縮小せざるをえなかった。なお、5科目とは社会科の倫理・社会、政治・経済、地理Aおよび地理Bをさす。

1 各問題の出題意図

改めていうまでもないが、高校生の学習達成度をみるという共通第一次テストの趣旨からして、あまり奇をてらった問題は避け、基本的な歴史事実を問う平易な出題に心がけ、このため、少くとも、解答を求めるところについては、一、二の教科書に例外的に出てくるようなものは極力排除して、大部分の教科書に記載されているようなものから選ぶこととし、また、時代や地域についても、できる限り、広い範囲にわたるようにすることなどを、事前に確認しあって作業に入り、事実、作業中も、しばしば教科書に当り、記述がなされているかどうか、どの程度に記述されているかなどを確かめながら問題を作成した。

Ⅰ 問題Ⅰは、西洋古代史に関するもので、ローマ史を中心に作成した。この場合、ローマ史そのものに関する設問に限らず、周辺との諸関係にも意を向け、とくにBにおいては、とかく見のがされがちである東方との関係に重点をおき、ローマの発展が、どのような世界情勢の中でなされてきたか

を問うた。

ロ 問題Ⅱは、前5世紀から漢代にいたる、中国古代史の基本的な問題である。A、Bともに、それらをどれだけ正確に把握しているかをみることを目的としているものであるが、A、Bの間で、設問の形式を変えてみた。

ハ 問題Ⅲは、西洋中世史に関する問題である。他の問題が具体的な事実を問うことが多いのに対し、この問題は、高校生が封建制度・荘園制度・中世都市などの、比較的に概念語とみられるものをどれだけ正確に理解しているかを問うたものである。5つの問いのうち、4つは西ヨーロッパに関するものであるが、1つだけ、東ローマ帝国について問うたものをいれてみた。

ニ 問題Ⅳはアメリカ史を中心とする出題で、19世紀のはじめまでを扱っている。中心になったのは、いうまでもなく、アメリカ合衆国の独立運動以後に関する問いであるが、アメリカ合衆国の独立、発展がヨーロッパ世界との関連において考えられなければならないことを、問題作成の上でも考慮して、両者の有機的関連性を、できるだけきいてみるように心がけ、(3)においては、反って、ナポレオン戦争に主題をおき、これがアメリカ合衆国に与えた影響を問う形になっている。

ホ 問題Ⅴは明末から清初にかけての時代をあつかったのであるが、中国に対するイギリス、フランス、ロシアの圧迫をとりあげ、東南アジアや北方国境地方を問題とした。中国とイギリスの貿易関係から武力衝突、フランスの同調によるヴェトナム領有、ロシアによる侵略といったことが全体を貫くテーマとなり、貿易、経済問題を比較的多くした。

2 出題形式についての今回の試み

世界史では、従来、大問4題をくりかえしてきたのであるが、今回は大問の数を5題としてみた。可能な限り、全時代にわたり、地域・国をとりあげ、政治・経済・文化・社会・諸関係を問おうとすれば、大問の数が多くなる方が便利である。一方、印刷された形での問題のページ数、すなわち、受験生が読まなければならない分量でいえば、一昨年が11ページ、昨年が15ページであるのに対して、本年はその中間の13ページ（いずれも、大問のあとに余白があるから、それがそのまま、活字数の増減を正確に反映するものではないが、ほぼ傾向が分るといえるであろう）であり、マークする個所は、一昨年の40、昨年の71に対して、本年は62であるから、1時間の試験と考えれば、大体において、1分間に1つのマークをすることになり、一昨年と昨年の中間にあり、昨年と比較すれば、量において減ったといえるのである。ただ、大問の主題について、受験生が考えながら解答し、それを終えて、質の異なるつぎの大問に移らなければならないことを考慮すれば、単にマーク個所などの数量の減少

が実質的な減少となっているかどうかは、別の問題としなければならないであろう。これらマーク個所、問題量、大問数などは、われわれが、文字通りテストとして、意図的に増減してきたのであるが、「受験生に対するアンケート」からみれば、昨年は解答時間について、「普通」としたものと、「短い」としたものが、ほぼ同数に近かったのに対して、本年のそれは、「普通」としたものが3,312人(61.0%)であるのに対し、「短い」としたものは589人(10.9%)で、これが「長い」とした1,527人(28.1%)よりも大きく下まわっていることなどは、参考になる点であるといえるであろう。

なお、ⅠのB、問(7)は、昨年度の問題のⅣのA、問(3)と実質上、大差のないものである。ほとんど同一の問題を出した場合に、その結果がどのように現われるかをテストする意味で試みてみた次第である。また、本年度は昨年度と比較して、全体に選択肢の数を少なくし、平均4.8コの選択肢とした。選択肢の数も、受験生に時間的余裕をもたせるかどうかの一要素となるであろう。

3 出題意図と解答結果

問題は基礎的なものから選んだので、われわれは、問題全体としては平易であると考えていた。しかし結果からみれば、最高点が91で、世界史の全受験者5,743人の平均点が52.13という数字は、予想よりやや低かった。ただ、他の科目と比較した場合には、大体において均衡のとれた数字であり、10月はじめという実施時期を考え、実際の受験生の勉強進度をそれに加えて判断するならば、本年度程度の問題のレベルでも、いわゆる本番の際には、もう5点程度、平均点が上がることが予想され、平均点を60点程度にするねらいからは、そんなにはなれているものではなかったといえるであろう。昨年の平均点50.77と比べれば、若干ながら、問題を易しくした結果が現実となってあらわれてきているともいえる。

大問別にみれば、ⅤとⅠの成績が悪い。これはローマ史、中国史といったものを、そのもの自身として、単独で出題したのでなく、他との関係で出題した場合に対する受験生の弱さを示しているであろう。西洋中世史の概念的なものを、単独に近い形で問うたⅢの成績がよかったのも、これと同一の観点からいうことができる。昨年とほとんど同一の問題を出してみたⅠのB、問(7)の成績は、この問題に含まれている2問ともできていなければ点を与えないとしたことも手伝って、成績は悪かった。

社会科の他の科目と比べれば、世界史にもっとも近いと思われる日本史を例にとると、最高点は日本史が90.0偏差が日本史の13.61、世界史が13.86で、非常に近い数が示されているが、平均点では、日本史が43.18で、かなりの差がでている。倫理・社会の平均点60.62から日本史のそれまで、かなり

のひらきがでていることも気になるところであろう。

4 出題範囲についての注意点

本年度の出題にあたって、厳密な年代等の申し合わせはしなかったが、10月初旬のテスト日を考慮して、大体において、19世紀の半ころをもって出題下限とした。テストの実施時期によって、多少の差はあるが、例年、出題の年代的下限を設けてきた。

歴史の教科書は例外なく、古い時代から書きはじめて、新しい時代に及んできているし、多くの授業は教科書の配列に従って進められている。この点から、もし、いわゆる「本番」の実施時期が12月末～1月初めとなるのであれば、形式的には、高校3年の第3学期に習う予定になっている部分についての出題は不可能となってくる。3年生の3学期に当るのは、現代史であろうから、共通第一次入試の問題には現代史からは出題できないことになり、現代史を重視する最近の傾向からいって、かなり重要問題になってくるし、高校の学習、受験生の勉強態度にも影響するところが少なくないであろう。

一方、現実的にそれを割り切れば、教科書を終りまで教える高校教育は、むしろまれであり、また、1月、2月ごろに入試を実施している私立大学では、現に現代史からの出題がみられて、大きな混乱はない。実際の教科書をもても、それぞれの編集方針に従って、例えばインターナショナルな労働組織ができた19世紀でそれをとり上げ、その部分で、その現代までの変遷を記述したりしているのもあって、テスト実施時の12月末に、なん年まで、あるいはどの事件までが終っているというように、明確な区切りをつけることは困難である。

いずれにしても、この問題は、早急に明確な決定をみる必要がある。他の教科で大した問題にならないのだとするならば、せめて日本史と世界史の間で話合っておくべきであろう。ただ、もし共通第一次入試では、現代史から出題しないと決定すれば、第2次試験に歴史を課するところでは、現代史からの出題が多くなることが予想され、受験生に一種の対策を予知させるようになるであろうことも併せて考えておく必要がある。

5 本年度の問題についての反響意見

「受験生に対するアンケート」によれば、問題の文章は「普通」と「易しい」を合せると83.1%で、ほとんど問題はなく、解答用紙のデザインについても「普通」と「良い」の合計が90.6%に達している。また、解答用紙の色も「普通」と「見やすい」で90.6%に及んでいる。ただ、われわれが直接にきいた受験生——従って限定された数——の多くは、問題は易しいとしながら、時間に追われたと答

えていたが、「アンケート」によれば、「難しい」としたものが43.2%もあり、時間については「短い」としたのが、僅か10.9%にすぎなかったのが意外であった。

問題については、一般に良問であるとの声をきいたが、反面では、あまりにも整いすぎていて面白くないといった意味の意見もあった。

6 その他

今後、出題作業をはじめとして、共通第一次入試のすべての作業を「入試センター」に、全国から集っていくとすれば、科目内の難易調整はある程度つけうるようになるであろうから、本年のように、その内部での不均衡は避けられる。そのためにも、その連絡調整を日程の中に組みこむ必要があるだろう。

「入試センター」に各地から出題委員をはじめ、各委員が集って作業することになれば、各大学の授業、日程などを十分に考慮して、無理のないスケジュールをつくっておかなければならない。

8. 地理研究専門委員会報告

報告書作成について（依頼）の科目別研究専門委員会報告書事項に従って実地研究の調査結果を報告するが、地理A（出題総数5問）のⅠ、Ⅱの問題と地理B（出題総数5問）のⅠ、Ⅱの問題とは同じなので、下述の報告中では、地理Aおよび地理BのⅠを〔共Ⅰ〕、同様にⅡを〔共Ⅱ〕とした。また地理AのⅢ、ⅣおよびⅤを〔AⅢ〕、〔AⅣ〕および〔AⅤ〕として、地理BのⅢ、ⅣおよびⅤを〔BⅢ〕、〔BⅣ〕および〔BⅤ〕としてそれぞれ表示する。さらに中間以下では実地研究試験問題用紙の問題番号とコンピューター解答シートの番号とが読み換えられているので、この関係は、つぎのような要領で表示した。たとえば、実地研究試験問題用紙の問題番号〔共Ⅱ〕－〔1〕－(1)、〔共Ⅱ〕－〔1〕－(3)、〔共Ⅱ〕－〔2〕－(1)および〔共Ⅱ〕－〔2〕－(3)は、コンピューター解答シートの番号では、〔共Ⅱ〕－01、〔共Ⅱ〕－03、〔共Ⅱ〕－06および〔共Ⅱ〕－08でそれぞれ表示した。

Ⅰ 各問題の出題意図

○〔共Ⅰ〕は、土地の起伏や高度分布のほかにも多数の地表面上の自然、人工物の分布状態を示している地形図の読み方をためす。これにより、野外調査・見学などの際に直接触れる具体的な事象に対する考察力の有無をたしかめる。

○〔共Ⅱ〕－〔1〕〔共Ⅱ〕－01～05〕は、日本と世界との結びつきかたとその変化を貿易統計から読みとらせる。これにより、世界の地域構成の形成にはたす日本の役割を具体的に把握する能力をたしかめる。

○〔共Ⅱ〕－〔2〕〔共Ⅱ〕－06～10〕は、世界の諸地域の産業・経済の現状と動向を偏在性の強い鉱産資源の分布と絡めてどのように理解しているかをみる。これにより、地域認識の多様さに対応しうる能力の多少をみる。

○〔AⅢ〕－〔1〕〔AⅢ〕－01～05〕は、小縮尺地図、海陸の分布、特定地域の自然条件、工業の立地などに潜む恒常的な性格を地理学習の基礎事項としてとらえ、それぞれをチェックさせることによって、基礎学習の徹底ぶりをたしかめる。

○〔AⅢ〕－〔2〕〔AⅢ〕－06～10〕は、世界および日本の総人口の地域的な動向をチェックさせることによって、現代社会の直面している人口問題に対してどの程度まで地理的な理解・探究心を有しているか否かをたしかめる。

○〔AⅣ〕は、世界における牧羊地域の展開とその分布地域を介して、牧羊を支えている地域の

自然条件、歴史的・社会的諸条件をさぐらせる。これにより、類型化された世界の農牧業地域を具体的にときほぐして理解する能力の有無をたしかめる。

○〔AⅤ〕は、環境を構成する諸要素間の不均衡性の発生が人間の生活に無視できない悪影響を与えはじめていることを具体的に示し、それらの成立を因果関係的視角から分析する能力の有無をたしかめる。

○〔BⅢ〕は、世界の諸地域個々の複合状態を地域的個性におきかえて把握させる。これにより、地域的個性あるいは地域による差異を的確に理解し、相互に比較する能力の有無をたしかめる。

○〔BⅣ〕は、世界の地域構成の基本単位になっている諸国家を領域の形状・首都の位置から把握し、それをもとに地誌的諸事項を整理・体系化する能力の有無をたしかめる。

○〔BⅤ〕—〔1〕〔〔BⅤ〕—01～05〕は、南アジア各地の地誌的諸事項を整理させることによって、世界の諸地域の中で位置づけられるモンスーンアジア、さらにその中における南アジアというように諸地域を具体的に体系化してとらえる能力の有無をたしかめる。

○〔BⅤ〕—〔2〕〔〔BⅤ〕—06～10〕は、地球時代に重要な役割をもつアラスカの地域的機能を明確に理解させる。世界の諸地域個々はかなりの可変性を帯びており、動態的な認識を必要としている。

2 出題形式についての今回の試み

○〔共Ⅰ〕では、平面である地形図をどの程度まで立体的に読みこなせるか否かをためすために、読図に必要な基礎的な内容をもった場所の国土地理院発行の五万分乃一地形図がそのまま転載されている。

○〔共Ⅱ〕—〔1〕〔〔共Ⅱ〕—01～05〕では、統計資料をどの程度まで読みこなせるか否かをためすために、日本の貿易の年次別・輸出入別品目類構成、および日本の貿易の年次別・地域別動向が第1表・第2表として掲載されている。

○〔共Ⅱ〕—〔2〕〔〔共Ⅱ〕—06～10〕では、偏在性の強い鉱産資源の卓越した開発地域をおおまかに把握するために、この開発地域を領有している国の首都の位置が緯経度を用いて文章中に明記されている。

○〔AⅢ〕—〔1〕〔〔AⅢ〕—01～05〕では、地理学習に必要な基本的な性格を有する諸事項の確認をみるために、確認を望む箇所は文章中で空白となっている。

○〔AⅢ〕—〔2〕〔〔AⅢ〕—06～10〕では、主観的な探究心による問題解決の対応姿勢をみる

ために、解題に際しては、数値的理解だけでなくその理解を具体的な事項におきかえて、あわせて質的な理解も深めさせる。

○〔AⅣ〕では、類型化された世界の農牧業地域の理解度の精緻さを求めているために、世界の牧羊地域についての要約文の主要な箇所の内容吟味を行なっている。

○〔AⅤ〕では、科学技術の急速な発展に伴う環境改変の実態についての理解度を求めているため、公害・災害に中心をおいている。

○〔BⅢ〕では、地域的個性の中に包含されている個性の複合状態化を把握するために、わざわざ誤文を挿入し、これを検索させる。

○〔BⅣ〕では、列挙された地誌的諸事項を類別することを求めているために、掲載されている国家領域の形状、首都の位置、さらに内陸性、島しょ性をおろした国境線などのある略図はそのヒントとなっている。

○〔BⅤ〕—〔1〕〔BⅤ〕—01～05〕では、多様な地域的個性を有する南アジアを図示された位置から、より具体的なものとして把握させる。

○〔BⅤ〕—〔2〕〔BⅤ〕—06～10〕では、設定された地域の地誌的諸事項の理解を深めるために、その地域の境域ならびに環境などを素描させる。

3 出題意図と解答結果

○〔共Ⅰ〕…中間の性格からして、〔1〕・〔2〕と〔3〕～〔5〕とに大別される。前者は等高線をていねいに読みとれば必然的に正解にたどりつくが、後者は図式規程についての知識を必要としており、この点で前者よりやや難しいものとなっている。前者と後者との正解率の差はここにあるといえるが、後者の〔3〕・〔4〕と〔5〕との間の正解率の差は何によるものか不明。おそらく読図指導の不徹底さによるものと思われる。

○〔共Ⅱ〕—〔1〕〔共Ⅱ〕—01～05〕…いずれも統計表をていねいに読めば解答が得られるといいきってよいほど平易な問題であるが、若干の予備知識があるか否かで、01～03・05と04とに大別される。とくに、前者の正解は統計表中にあり、正解率の大差はおそらく統計表を読みとる能力の著しい欠如によるものと考えられる。また04は、ヨーロッパにおけるEC秩序の抬頭とその勢力確立を背景にした問題だけに、地理学習の一つの支柱である主題的な探究に対する的確なる指導が望まれる。

○〔共Ⅱ〕—〔2〕〔共Ⅱ〕—06～10〕…開発途上国の国民経済の基盤はかなりの類似性を有しているだけに、緯度による首都の位置表示が大きなヒントになっている。正解率は緯度による位

正 解 率

地 理 A

地 理 B

大問		階級%			0 ~ 2020 ~ 4040 ~ 6060 ~ 8080 ~ 100				
		小問	中問	大問	未 満上	未 満上	未 満上	未 満上	未 満上
[共Ⅰ] … 一つ 2点	[1]								80.2
	[2]								78.9
	[3]							55.7	
	[4]						45.8		
	[5]				28.7				
[共Ⅱ] … 一つ 3点	[1]	01							89.7
		02	19.7						
		03						57.5	
		04				35.4			
		05							90.7
	[2]	06						55.5	
		07		26.9					
		08			34.8				
		09			31.2				
		10							71.9
[AⅢ] … 一つ 3点	[1]	01				48.3			
		02					50.1		
		03						56.9	
		04							61.3
		05				38.1			
	[2]	06							91.5
		07							97.0
		08					46.7		
		09		29.3					
		10		24.8					
[AⅣ] … 一つ 2点	[1]	[1]							86.3
		[2]							73.7
		[3]					59.0		
		[4]							80.1
		[5]						57.6	
		[6]		46.4					
		[7]			64.7				
		[8]			53.1				
		[9]					60.9		
		[10]						68.1	
[AⅤ] … 一つ 2点	[1]							64.6	
	[2]								93.5
	[3]								89.3
	[4]								71.1
	[5]				45.4				

大問		階級%			0 ~ 2020 ~ 4040 ~ 6060 ~ 8080 ~ 100				
		小問	中問	大問	未 満上	未 満上	未 満上	未 満上	未 満上
[共Ⅰ] … 一つ 2点	[1]								79.7
	[2]								77.0
	[3]							47.2	
	[4]							43.4	
	[5]				26.8				
[共Ⅱ] … 一つ 3点	[1]	01							89.7
		02				22.4			
		03							55.1
		04						40.4	
		05							95.6
	[2]	06							52.7
		07		27.4					
		08			35.8				
		09			33.7				
		10							70.9
[BⅢ] … 一つ 3点	[1]					23.7			
	[2]						30.0		
	[3]								78.7
	[4]				7.9				
	[5]				9.2				
[BⅣ] … 一つ 3点	[1]								64.9
	[2]								80.8
	[3]							54.5	
	[4]							51.0	
	[5]								61.7
[BⅤ] … 一つ 3点	[1]	01							59.5
		02							50.5
		03							69.4
		04					39.1		
		05							71.5
	[2]	06							60.9
		07		23.8					
		08		27.2					
		09		10.9					
		10							33.6

置把握の未習得ぶりを露呈させている。06, 10の正解率が07~09よりも多少よいのは、これらの短文の中に、該当国名を連想させるような状況説明があったためと思われる。

○ [AⅢ] - [1] [AⅢ] - 01~05} …地理学習の基礎事項であり、しかも恒常的な性格の強い

地理事項であるにもかかわらず、その平均正解率（55%）が予想外に悪いのは地理学習における個性偏重の弊害であるように思われる。

○ [AⅢ]—[2] {[AⅢ]—06~10} …小問の性格からして、06・07, 08, 09・10の三つに大別される。06・07は地理学習の基礎事項であり、08は数値的理解の比較結果、そして09・10はその比較結果を具体的な事項におきかえたものである。正解率からみても09・10のおきかえに伴う理解の貧弱さがめだつ。

○ [AⅣ] …特定の農牧業地域の世界における展開状況を概述した問題であっただけに中間の10題の平均正解率は64%とかなり高いものとなっている。また正解率の最高と最低の較差も約40で、中間個々の正解率のばらつき度合も望ましいものとなっている。

○ [AⅤ] …環境保全についての関心が極めて高揚している時期でもあるので、その平均正解率は約73%と高率を呈している。しかし、その較差は50に近い値を示していることから窺えるように中間個々の出来、不出来の差がめだつ。これは、[1]～[4] が国内の災害・公害に焦点を合わせているのに対し、[5] だけが災害防止の方策の具体例から逆にその目的を問うているという設問形式の違いによるものと思われる。

○ [BⅢ] …地域的個性の複合状態的理解の貧困さが極めてめだつただけでなく、地理学習における地域単位の取扱いのかたよりが実在しているように思われるふしがある。すなわち[3]のカナダに関する理解度が正解率約79%で示されるのに対し、[1]のエジプト、[2]のブラジル、[4]のタイ、[5]のスウェーデンなどに関する理解が最高で正解率30%となっているのが、その根拠である。

○ [BⅣ] …列挙された地誌的諸事項がすでに第1次的な類別を終えているうえ、ヒントとなる略図があるため、地理学習の基礎をへたものであれば、正解を導びきだすことは容易であろう。平均正解率の約63%は問題の平易さに比すればやや低い、その正解率のばらつき度合は望ましいものであるといえよう。

○ [BⅤ]—[1] {[BⅤ]—01~05} …地理学習における地図帳利用が徹底したものとなっていれば、[BⅣ]同様、地理学習の基礎をへたものであれば、正解を導びきだすことは容易であろう。平均正解率の約58%は問題の平易さに比すればやや低い。地図上での位置確認をおこたらぬ地理学習が望まれる。

○ [BⅤ]—[2] {[BⅤ]—06~10} …設定された地域の境域、環境などの素描の意義がなんであるか、それをこの問題は自問せねばならないように思われる。地理学習でアラスカを取扱うばあい何が教授されるべきかが問題である。いままであまり取扱われていないという新鮮味だけでは、意

表をつかれた感をまねがれないのではなかろうか、06の正解率約61%に比して07～10のものがあまりにも低いのは地理学習における地域単位の取扱いのかたよりも含めた意味での上述の問題点をあらわしているように思われる。

4 出題範囲についての注意点

{共Ⅰ}・{共Ⅱ}, {AⅢ}～{AⅤ}, {BⅢ}～{BⅤ}の8問は、いずれも教科書の中にその出題をおいているといえる。この点を文部省(1972)による「高等学校学習指導要領解説(社会編)」の中で位置づけてみると下記のようなになる。

{共Ⅰ}…「生活と地理」の「地図とその利用」

{共Ⅱ}—{1}{共Ⅱ}—01～05}…「国家と世界」の「世界と日本」

{共Ⅱ}—{2}{共Ⅱ}—06～10}…「資源と産業」の「鉱工業」

{AⅢ}—{1}{AⅢ}—01～05}…「生活と地理」の「地図とその利用」

「居住と環境」の「人間と自然環境」

「資源と産業」の「鉱工業」

「国家と世界」の「国土の開発と保全」

{AⅢ}—{2}{AⅢ}—06～10}…「居住と環境」の「世界の人口」

{AⅣ}…「資源と産業」の「農牧・林・水産業」

{AⅤ}…「国家と世界」の「国土の開発と保全」

{BⅢ}…「世界の諸地域」の「自然環境の特色」・「住民と人口」・「産業・経済の現状と動向」

{BⅣ}…「世界の諸地域」の「位置・領域と歴史的背景」・「自然環境の特色」

{BⅤ}—{1}{BⅤ}—01～05}…「世界の諸地域」の「南アジア」

{BⅤ}—{2}{BⅤ}—06～10}…「世界の諸地域」の「北極圏(アラスカ)」

このような配慮のもとに地名術語などは教科書・地図帳に掲載されているものだけを採用した。

5 本年度の問題についての反響意見

受験生に対するアンケート調査集計によれば、地理A・Bとも「問題の文章が難しい」部類の科目に入っているようであるが、これはおそらく{AⅤ}の説明文のことではないかと推察される。一般的には、高等学校で正常な教育を受けている者にとっては、総体的に妥当な問題であったとの反響を得ている。

6 その他

大問数ともに5題であったが、採点単位となった小問数は異なっていた。すなわち、地理Aは40問、地理Bは35問で、それぞれ100点満点となっていた。共通問題(2題・15問・40点)分を除けば、地理Aでは3題・25問・60点、地理Bでは3題・20問・60点となっている。このため、地理Aと地理Bとの間に難易的な差異があってはならないという出題者の意図が水泡にきした結果となった。地理A(58点)と地理B(48点)との平均点における10点の差は、この採点単位となった小問数の差に主としてよるものと考えられる。

9. 基礎理科研究専門委員会報告

本委員会は、科目別研究専門委員会委員長連絡会議・実施方法等調査専門委員会小委員会合同会議（昭和51年4月30日）の決定に従い、昨年度とほぼ同じ委員構成（コンピューター委員は交代）で発足し、昨年度の実地研究試験問題の検討結果をふまえて、本年度の実地研究試験問題を作成し、科目間調整のための理科・数学科目別研究専門委員会委員長連絡会議（昭和51年6月30日）における理科5科目の出題に関する共通理解に基づいて問題の選定と改作を行い、問題の最終原稿を完成するとともに、解答用紙および採点基準書を作成し、かつ解答結果の分析調査等の作業を行った。

I 問題の出題意図

1 出題の基本方針

上記の理科・数学科目別研究専門委員会委員長連絡会議における理科5科目の出題に関する共通理解に従い、次のような基本方針のもとに試験問題の作成を行った。

(1) 共通第一次試験の目的は高等学校における学習達成度を評価することにあるもので、このため「高等学校学習指導要領」中、理科の目標に準拠し、かつ基礎理科の目標・内容面の特質に即した問題内容とする。また、必要に応じて中学校の教科内容を加味する。

(2) (1)の基本線を堅持し、共通第一次試験が高校教育の正常化に資し、かつ第二次試験の参考資料となりうるよう、とくに配慮する。

(3) 出題範囲は「指導要領」中の基礎理科の内容全般とし、「指導要領」の内容配分に応じ、かつ(1)に準拠した問題構成とする。

(4) 問題の素材は、基礎理科の特質に即応し、かつ特定の教科書に偏しない自然事象または実験室事象とし、教科書にある基礎事項・基本法則または普段の学習で解答できるような設問内容とする。

(5) 出題形式については、コンピューターの性能を最大限に活用し、客観テストの弊害を可能な限り除去できるよう、選択肢については内容を吟味し、また数を増加するほか、とくに記述式テストに近い数値や学術用語の表示、現象の発生順に配列等の設問を導入し、出題形式面で多様化を試みるよう努める。

(6) 問題の難易度は出題内容のほか問題数と関連するが、出題内容についてはとくに(1)～(5)を重視し、問題数については昨年度よりも減少する方向で出題し、試験実施日の時点で、全国平均得点率60%を想定する。なお、この点に関しては、昨年度に行った福島県立B校（基礎理科非履修校）のテ

ストの結果を参考にする。

(7) 問題の構成は、大問9以下となるよう小問との間に中間を配し、また必要に応じて小問には枝問を置き、小問数は30前後（昨年度は39）とする。

(8) 採点基準については、小問間や枝問間または小問と枝問との間で問題内容に応じて配点の比重をかえるほか、設問の内容や出題形式、評価規準に即応して、セットで採点、問題の相関をみて採点等の様式を導入する。

2 試験問題等

上記の出題方針に則し、大問6、中間13、小問30（枝問を含めて57）の問題構成とし、設問の内容に応じて解答用紙および採点基準書を作成した。

3 各問題の出題意図

(1) 問題Ⅰ

太陽光のはたらきとエネルギーの変換に関する問題である。Aは、地球全体のエネルギー収支について、実験データ（図）をあたえて、基礎学力ならびに科学的思考力、計算力、創造力等を評価する「地学」と「物理」の融合問題である。Bは、光合成を素材とし、科学的思考力や計算力を評価する「生物」と「物理」の融合問題である。Cは、エネルギーの変換を対象とし、科学的思考力や計算力を評価する「物理」、「化学」、「生物」、「地学」の融合設問である。数値表示3問を配した。

(2) 問題Ⅱ

物質の構造と反応に関する基本的な問題である。Aは、ダイヤモンドと黒鉛を素材とし、物質の構造についての知識の正確さを学術用語の表示で評価し、また両者の相互変換の実験を通して科学的思考力を評価する。Bは、水素とヨウ素からヨウ化水素が生成する化学反応について、図をあたえて、知識の広さと科学的思考力を評価する。1小問は枝問について相関採点とした。

(3) 問題Ⅲ

万有引力と惑星の運動に関する問題である。Aは、物体の落下現象について、科学的思考力と計算力を評価する。Bは、太陽系惑星の公転について、基礎事項・基本法則の理解力や応用力および計算力を評価する「地学」と「物理」の融合問題である。数値表示2問、順序に配列1問を配した。

(4) 問題Ⅳ

地球の進化に関する問題である。Aは、地球上の地質現象について、知識の深さと正確さを総合的に評価する。Bは、地球の歴史について、文章と実験データ（図）をあたえて、科学的思考力を評価する「地学」と「物理」の融合問題であり、5問は学術用語表示の設問とした。

(5) 問題V

生物の生活活動に関する問題である。Aは、細胞膜のはたらきについて、知識の深さと科学的思考力を評価し、Bは、ヘモグロビンと酸素等の結合様式について、実験データ(図)と文章とをあたえて、科学的思考力や実験方法の体得度等を評価する。

(6) 問題VI

生命の起原と生物進化に関する問題である。Aは、生物体の重要な構成物質について、知識の深さと理解力を評価する「生物」、「物理」、「化学」の融合問題である。Bは、生物進化について、有性生殖(性現象)の意義に対する理解力を評価する。

(7) 総合

自然事象または実験室事象を素材とし、基礎的事項や基本的法則に関する知識の深さと正確さを評価するとともに、それらを用いて事象をどのように解析または総合し、かつ他の事象に応用できるかの科学的思考力や科学的方法の理解力・実践力の評価を主眼とし、とくに基礎理科の特質である自然の総合的理解を評価することを、高校における学習達成度評価の第1要件とする。

4 出題形式についての今回の試み

「学習指導要領」に準拠し、かつ公正に受験者の学習達成度が評価できるよう、昨年度同様に次の諸点に配慮した。

(1) 選択肢をあたえた設問は、小問数30中22で73.3%(昨年度は66.7%)で、選択肢の数は2～13であるが、選択肢の少ない設問については、内容面で工夫をこらすほか、正(O)、誤(X)以外に判定不能(Δ)の選択肢を置く等の措置を講じた。

(2) 現行入試で重視している選択肢のない計算、グラフ表示、記述式等の設問類似の問題は、小問数で8の26.7%(昨年度は33.7%)で、そのうち数値表示が5、学術用語表示が2、順序に配列が1である。

II 出題意図と解答結果

全国受験者90名(昨年度30名)の成績(表および図参照)をみると、得点率(%；100点満点換算値)は、平均34.42(昨年度22.8)で想定60を大きく下まわり、最高65(昨年度33)、最低15(昨年度14)、標準偏差11(昨年度10)で、度数分布図は低得点部寄りに頂点をもつ非対象型分布を示す。また、極度の高位得点者や低位得点者はいない。昨年度に比し、平均および最高が著しく上昇したが、これは受験者数や対象校の増加と問題数の削減に起因するものであろう。大問別の平均得点率は27.5～50.2

(昨年度0.0～61.4),小問別のそれは2.2～82.2(昨年度0.0～83.3),小問別の最高は1小問を除き100(昨年度100は79.5%)の結果は,上記の推測を裏づけるとともに設問内容の妥当性を示すものである。出題形式の面では,選択肢の種類や数と得点率との間には相関はないが,数値表示,学術用語表示,順序に配列の設問は昨年同様に得点率は低い。また,相関採点も得点率は低い。設問内容の面では,厳密な科学的思考力を評価する設問はその得点率が著しく低い。なお,融合問題と単一領域の問題との得点率の間には明瞭な差はみられないが,これは高校理科教育における基礎理科学習の定着を示すものとみることができるとも知れない。

表 全国受験者(90名)の設問別成績

問 題			得点率(%)				問 題			得点率(%)			
			偏差	平均	最高	最低				偏差	平均	最高	最低
I	(1)	(a)・(b)	48.8	42.2	100	0	III	(7)		35.0	14.4	100	0
	(2)		47.8	35.4	100	0		小 計		17.3	18.9	85.7	0
	(3)		25.8	50.0	100	0		IV	(1)	(a)～(e)	20.8	44.0	100
	(4)	(a)・(b)	36.2	15.4	100	0	(2)		(a)～(e)	21.0	20.8	80	0
	(5)		44.2	26.6	100	0	(3)		(a)	31.0	11.0	100	0
	(6)	(a)～(e)	17.9	82.2	100	20	(3)		(b)	48.7	38.7	100	0
	(7)	(a)・(b)	30.6	29.4	100	0	小 計		15.9	33.6	70	0	
	小 計		20.9	43.5	98	4	II	(1)		44.2	26.6	100	0
(1)		44.2	26.6	100	0	V		(1)		49.4	43.2	100	0
(2)	(a)・(b)	32.5	21.6	100	0			(2)	①～⑤	24.9	56.8	100	0
(3)		46.2	68.4	100	0			(3)	ア～オ	23.8	46.8	100	0
(4)	(a)・(b)	17.8	3.2	100	0	小 計		18.5	50.2	92	0		
(5)	(a)	48.8	40.0	100	0	VI		(1)		47.0	33.2	100	0
(5)	(b)	45.8	30.0	100	0			(2)		40.0	20.0	100	0
(6)	(a)・(b)	26.6	7.6	100	0		(3)		48.8	40.0	100	0	
小 計		18.4	27.5	75	0		(4)		43.6	32.6	100	0	
小 計		18.4	27.5	75	0	小 計		22.0	31.5	100	0		
III	(1)	(a)	45.0	28.5	100	0	合 計		10.8	34.4	64.5	15	
	(1)	(b)	42.7	24.3	100	0	[参考] 理科 (1または2科目) (選択)			17.0	47.9	100	5.5
	(2)	(c)	45.0	28.5	100	0							
	(2)	(d)	43.5	25.5	100	0							
	(2)	(e)	38.0	17.7	100	0							
	(3)	(f)・(g)	37.0	16.7	100	0							
	(4)		45.8	30.0	100	0							
	(5)		14.6	2.2	100	0							
(6)		37.2	16.6	100	0								

注 得点率は各設問の配点に対する得点の百分率(%)を示す。

表 全国受験者（90名）の得点（100点満点換算値）度数分布図

ジュケンシヤスウ	サイコウ	ダイ1	チュウオウ	ダイ3	サイテイ	ヘイキン		
90	65	40	32	28	15	34.42		
ニンズウ	ヒリツ	テンスウ	ヒリツ	1	2	3	4	5
				1 2 3 4 5 6 7 8 9 0	1 2 3 4 5 6 7 8 9 0	1 2 3 4 5 6 7 8 9 0	1 2 3 4 5 6 7 8 9 0	1 2 3 4 5 6 7 8 9 0
		96-100						
		91- 95						
		86- 90						
		81- 85						
		76- 80						
		71- 75						
		66- 70						
2	2.22	61- 65	**					
3	3.33	56- 60	***					
7	7.78	51- 55	*****					
3	3.33	46- 50	***					
6	6.67	41- 45	*****					
14	15.56	36- 40	*****					
16	17.78	31- 35	*****					
20	22.22	26- 30	*****					
13	14.44	21- 25	*****					
5	5.56	16- 20	*****					
1	1.11	11- 15	*					
		6- 10						
		0- 5						

Ⅲ 出題範囲についての注意点

- 1 教科目内容の全般にわたる出題措置は、「学習指導要領」の教育目標を正しく生かす意味で高校理科教育の正常化に連がるし、また受験生の学習達成度を公正に評価するためにも好ましいものと考ええる。
- 2 問題の素材として特定の教科書に偏しないものを選ぶ措置も、1と同じ趣旨で好ましいもの考える。
- 3 出題上必要に応じて中学校の教科内容を加味することは、現行の積み重ね学習体系を尊重する上にも必要な措置と考える。

Ⅳ 本年度の問題についての反響意見

- 1 一部大学教官
昨年同様に基礎理科の特質に即した出題内容を高く評価したい。また、理科の他の4科目の問題よりも難度が高いし、よく工夫されている。
- 2 一部高校教諭
基礎理科の目標と内容を尊重した出題方針に替成である。問題を通して基礎理科の教育指針を学ぶ

ことができる。

3 受験者（90名）

アンケート調査結果によると、問題の文章については普通が47.0%、難しいが45.0%、問題内容については難しいが63.3%、普通が31.6%、解答時間については普通が58.3%、短いと長いがそれぞれ21.4%、20.4%、解答用紙についてはデザインが普通が60%、色が普通が54.0%であった。

V その他——今後の問題点

1 「解答用紙の理科5科目間の様式統一化（試案）」について

試案に示された経費面ならびに試験監督者の労働上の問題点の解消の趣旨、および統一化にとともなう出題方針の調整の可能性の点で統一化に替成であるが、後者についての理科5科目間の慎重な論議が第1要件となろう。従って、本委員会でも重視している出題形式の多様化は教科目標に即した学習達成度の評価を意図したものであるだけに、それを生かす配慮をとくに要請したい。

2 試験時間の短縮について

この問題は、出題方針や問題の内容と深くかかわるもので、高校理科教育の目標に即した学習達成度の評価を主眼とするならば、極度の時間短縮は問題を残すことになろう。1教科当り90～100分が短縮の限度と考えられる。なお、この問題は第二次試験の科目数や日数とも関連するもので、第二次試験に対する各大学の対応のしかたと平行して考慮されるべきものである。

3 平均点等の調整について

この問題を考えるばあいの先行要件は、1でふれた理科5科目間の出題方針の統一化である。これが果され、かつそれに基づく試験問題による成績評価であれば、平均点の調整措置は必要ではない。問題の難易度の調整は出題方針の統一化においてのみ可能である。従って、結果である平均点は第二義的なものであろう。

4 その他理科5科目間の調整事項について

- (1) 問題の番号や配列記号の統一化の措置は、5教科全体に必要であろう。
- (2) 物理量や物理量の大きさをあらわす記号や活字の統一化ならびに各種単位記号と活字の統一化の措置は理科5科目に必須のものとする。

5 その他本委員会の要望事項について

- (1) 理科5科目間の上記事項等に関する調整をより活発に行うことを重ねて要望したい。
- (2) 基礎理科の選択を履修者のみに限定せず、非履修者にも開放すべきであるとする。

(3) 委員会構成メンバーの年度更新による大量交代は、出題方針の理解等の面で大きな混乱を招くおそれがある。本番実施まで慎重な配慮を要請したい。

(4) 科目別委員は試験実施日に各大学実施本部詰めとする措置が望ましいと考える。

6 第二次試験の在り方について

共通第一次試験および各大学独自の第二次試験は、その目的は異なるが、対象である受験者は同一である。受験者は「学習指導要領」に則して教育されているとする観点から、両者の試験問題の出題基準はいずれも「学習指導要領」に準拠すべきであること、受験者の学習内容に即応して決定されるべきものであろう。その上に立って、各試験の目的にかなった出題措置が講じられるべきものとする。

10. 物理研究専門委員会報告

1 出題の意図

高校で履修した物理Ⅰについて受験生の到達度を評価するのが目的であるから、基本的な概念や法則を正しく理解しているかどうかを全般にわたって広く問うことにした。すなわち、物理Ⅰ全体を

- 1 運動と力
- 2 力学的エネルギー・熱と仕事
- 3 振動・波動・音
- 4 電界・電子と原子・放射線

の4分野に分け、各分野から一題ずつ計4問題を選んだ。解答時間が60分であることを考えると、従来のように三題程度が適当と思われるが、今回は前述の趣旨に沿って出題数を増やすことにした。その代り各問題の難易度を勘案して、所定の時間内に解答できるように配慮した。このため特に第Ⅱ問熱と仕事ではすべての教科書に取り上げられている基本的項目をそのまま問うという極めて易しい内容にした。同時にこのような問題に対する正答率が何パーセントになるか、調査しておくことも必要であると考えたのである。

2 出題形式について

従来行なわれてきた一つの主要項目をいろいろな面から、小問に細分して試問するという方法で、記述式とほとんど変わらない成績評価が可能であると考えられる。したがって、今回も基本的には同じ方法がとられたが、第Ⅳ問では解答を出す途中の考察段階を調べるという新しい試みがなされ、そのため二つの箇所をマークする解答欄が設けられた。

3 出題の意図と解答結果

まず全体として平均が60点となるよう問題の内容を選んだのであるが、実施の結果は56.02であるから、大体予想通りの結果であったと言って差し支えない。また評点の分布は正規分布とは大分違っており、偏差が大きく中央がなだらかな形となった。一次テストの性格から考えて、評点は零点から満点まで各段階にわたって広く分布することが好ましいと判断されるが、今回の結果はこの点から見ても満足すべきものと思われる。

次に各問題の解答率をみると、二三の問題を除けば、正解の比率が極めて大きく、その他すべての選択肢があまり大きな差のない比率で選ばれている。結局選ばれなかった選択肢は皆無であった。なお有意の誤答と考えられる特に選択比率の大きな選択肢が幾つかあったが、これらはすべて公式や法則の内容を正確に理解していないための誤答であった。例えば問Ⅰ(4)では高さ h で水平速度 u_0 を持った小球が地面に達したときの速度を求めているが、これに対し、 $v_0 = 0$ の垂直落下のときの速度 $\sqrt{2gh}$ を選んだ者が非常に多い。また同じく(5)ではこの小球が地面ではねかえるとき受ける力積量を尋ねたが、このときは垂直方向の運動量の変化を考えなければならないのに $2m\sqrt{2gh+v_0^2}$ とした者が多い。さらに問Ⅳ(A)で直列接続のコンデンサーについて、それぞれのコンデンサーにかかる電圧を問うたが、電圧が容量に比例しているように理解している者が多かった。選択肢を作るときにはこのような結果を全く予想していなかったが、実施の経験を積み重ねると、事前に選択比率の予想がある程度可能になるものと思われる。

なお第Ⅱ問の正答率は予想していたほど高くなかった。また第Ⅳ問最後の極めて簡単な数値計算のできが意外に悪い。多分代数式の計算の途中で数値を入れたため、その後の処理が混乱したためと思われる。

4 出題範囲について

一次テストの趣意から、出題は一応物理Ⅰの範囲で、すべての高校生が履習している内容に限定するよう心掛けた。しかしこの条件を厳格に守ることは実際にはなかなか難しい問題である。第一の問題点は物理ⅠとⅡとの区分けが分野別でなく、多分に人為的になされているため、内容に変化を持たせようとすると、Ⅱの範囲に入る恐れがあることである。第二は物理Ⅰの内容と言っても、教科書によって記述内容が相当違っている。したがって、これらの共通内容だけを出題範囲にすると問題がすぐ種ぎれになることである。第Ⅱ問はこの方針に従って作成したもので、熱と仕事の分野ではこの種の問題以外のものは、ほとんど作れないことが判明した。しかし一方、物理的思考力をためすためには試問の形に多様性を持たす必要があるので、出題範囲について、次のことを提言しておく。

1 出題の範囲は上述のように論理的に縮小させるべきものではなく、いくつかの教科書で記載のない事項でも、それが基本的項目であったり、あるいは学習の結果、当然到達しなければならない内容であるならば出題の範囲に含めてもよい。例えば第Ⅳ問Bは、その内容がどの教科書でも直接説明されていないが、学習の発展的内容と考えられる問題である。現に正答率は高く8割から低くとも5割に達している。

2 物理Ⅰの内容として取り上げられていないが、既に中学課程で履修している知識も含めて試問する問題を作ることも考えられる。そうすると、抵抗とコンデンサーを組み合わせた回路の問題が出せることになるが、物理Ⅱとの関係があるので、なお検討の必要がある。

5 本年度の問題についての反響意見

一部の高校の物理担当者の意見を聞いただけであるが、それによると、第Ⅳ問は物理Ⅰの範囲を超えているのではないかという見解であった。

もしこのテストを制度化して長期にわたって継続し、しかも所期の目的を達成しようとするならば、教育現場からの意見を汲みあげる適当な方法を考える必要がある。

6 その他

試験時間は現行の60分が科目の性質から考えて適当な長さであると考えられる。また受験生のアンケートからみても、長すぎて負担になっているとは思われない。しかし、時間の短縮が実施面からどうしても必要なものなら、それを受け入れてもよいという意見もある。

II. 化学研究専門委員会報告

1 まえがき

今年度は全面的に委員が交替し、新しい10名のメンバー（ただし内2名は、研究の継続性の必要から留任をお願いした）で、前年度までの委員会の調査研究作業を引き継いだ。

まず、従来の研究成果を検討し、また昨年度の問題についての各大学のアンケートや受験生の成績結果などを参考にし、数回の委員会の審議を経て問題作成作業を終了した。以下、問題作成とその結果について報告し、今後の問題点を考察するための資料としたい。

2 各問題の出題意図

現行の学習指導要領化学Iは物理化学偏重であるという考え方が、大学の先生方にも高校の先生方にもある。以前の指導要領化学A・Bと比較する場合、そのような考え方も、あるいは否定できないかもしれないが、高等学校の化学の内容を、物理化学・無機化学・有機化学……などの立場で考えることが、そもそも間違っているのである。現行指導要領の目標は、そのような分類から脱却して、探究の過程を通して統合的に物質や現象を取り上げようとしているのであり、物質軽視とか、実験軽視とかいう見方は当たっていない。化学教育の現場におけるこのような理解を育成するためにも、現行指導要領の目標にそった問題を作成することに努力した。昨年度の報告書に、「化学では実験を経験することが非常に大切であるという観点を強調した出題を試みた」と記されているが、本年度もそのような方針は変えなかった。しかし、たとえば物質の性質を生徒が実験を通して体験した（経験による）知識なのか、単なる暗記による知識なのかを識別するような出題は、極めて難しい。

I 問1 この問題も、いろいろな物質を取り扱ったことのある生徒なら、極めてやさしいはずである。あるいは、物質が保存されている状態を観察するだけでもよい。ペーパースタディーに終始するような化学の学習を排除しようというのが、この問題の出題意図である。

問2 硫酸銅五水和物を加熱すると簡単に白色の無水硫酸銅になるように生徒は考えているかもしれないが、いいかげんに加熱すると白色にはならないで、黒ずんでくる。これは、一度でも実験したことのある生徒なら、必ず経験することであり、そこで、「なぜだろう」という疑問を提出して考察していくのが、探究の過程である。

教科書には、そこまで書いてないものが多いからといって、この出題は範囲を逸脱していると判断

するのは、指導要領の目標を理解していないからであろう。

問3 実験と、その結果についての考察を正しく関連させて理解しているかを試す問題。

問4 記述の正誤を判断させることは、判断の理由まで考えることを要求している。すなわち、理由なしに判断を下すことはできないので、単なる知識の有無を問うているのではないことになる。化学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を正しく理解しているかどうか、それを活用して考察する能力があるかどうかを試すことを意図した。

問5 酸化還元についての理解度、考察能力を試す。

問6 ボイル・シャルルの法則と分圧の取り扱い方を、実験操作と関連させて考えさせる。指導要領には、「実験の計画、データの解釈、操作的定義などの科学の方法を習得させるようにする」という記述がある。単なるペーパースタディーではなく、実際に実験を行なう場合には、どうしてもこの種のことを考察しなければならないことがある。化学に、受身の学習から能動の学習への転換を計るという化学教育的ねらいがある。

問7 電池のしくみについての理解度、考察能力を試す。

問8 問6について述べたように、指導要領で取り上げている「データの解釈」の能力を試す問題。教育の現場では、しばしば手取り早いという能率主義から、はじめに原理・法則を説明して、それによって現象を理解させるという指導方法がよくとられるが、このような演繹的方法は探究の過程とは逆方向であり、創造的な能力を育てることにはならない。この問題は高校における正しい化学教育を育成することも意図している。

問9 指導要領に、「観察や実験を行ない、推論、仮説の設定、モデルの形成、検証などにより、科学の方法を習得させる」というような意味の記述がある。この問題では、実在気体の物性についての推論、仮説の設定、モデルの形成などの例を挙げ、それぞれについての正誤を判断する能力を試している。

II 問1 データの活用能力を試す。たとえば「化学便覧」などのデータブックには、生成熱のデータはあるが、燃焼熱のデータはない。基礎データからいろいろなデータが求められるわけであるが、それには基礎データの意味を理解していることが前提となる。

問2 昨年度の問題についての意見に、有機化合物をもっと取り入れるようにという声がかかなり多かったことを考慮し、有機化合物の物性について出題し、その反響を見ることを意図した。有機化合物の構造と反応についての系統的な学習は化学Ⅰの範囲を逸脱するので、取り上げる物質については、かなり慎重にしたつもりである。

Ⅲ 問1～3 中和滴定という化学の基礎実験を、型にはまった計算問題の形式ではなく、食用酢の中の酸の濃度を求めるという目的を設定して、実験の計画、操作的定義、データの処理などの能力を試す問題。単なる知識を要求しているのではなく、生徒が実際に自分で実験を行なうときの操作や手順に対する理解度を要求している。

3 出題形式についての今回の試み

Iの問1～9は、化学Iの範囲内でなるべく広範囲に小問形式で出題し、6肢の中から1肢を選ばせる単純選択形式をとった。ただし問4と問6は、4～7種の事項の正誤を2つずつ組み合わせた6肢の中から、正・正の組み合わせを選択させる複合選択形式をとった。これは正答の偶然性を小さくする目的であり、出題形式としては単純選択よりも優れていると思われる。

Ⅱの問1は、答の数値をマークシート上に表示する形式で、正答の偶然性は全く排除できる。

問2は小問(i)～(iii)のおのおのにつき、選択肢の中から2つずつを選ばせる形式を試みた。はじめは、1つの正答につき2点ずつ、1つの誤答につき-1点ずつ(減点法)とし、おのおの小問の最低点を0とする(マイナスにしない)方針を検討したが、コンピュータの採点指示カードが膨大になり、ほとんど不可能なことが判明したので、減点法は断念した。

Ⅲは、1つのテーマを設定して、いろいろな角度から設問する形式をとった。

4 出題意図と解答結果

昨年度の成績結果が、他の科目に比べて、比較的良かったことから、問題がやや難かしかったのではないかという反省のもとに、問題作成については、すなおな、やさしい問題を作成するように努力した。そのため平均点は100点満点中45.5点(最高得点100点、最低得点0点)であり、昨年度に比べてかなり改善されたが、まだ比較的低い水準にある。なお、化学受験者数は7,461名で、全受験生の約8割が化学を選択したことになる。

以下、各問について解答結果を検討してみよう。正答率は、全答案の中で正しく解答したものの百分率を示し、カッコ内には、誤答の上位から2番目までを、誤答肢の記号とともに百分率で示した。

I 各問正解7点ずつ

問1 正解D 正答率36.6% (B15.9%, F14.7%),平均点2.55

正答率は50%を越えるであろうと予想していたが、意外に低い。化学ではもっと物質について知らなければならない。高校の化学教育が、指導要領の外面的部分に振り回されて、本当の目標を理解

していないのではないだろうか。それにしても、金属ナトリウムを水の中に保存しなければならない(F)と答えた者が14.7%もいたとは、どういうことであろうか。

問2 正解A 正答率9.5% (B41.5%, C 27.1%), 平均点0.66

このような低い正答率になろうとは、全く予想していなかった。この問題の出題意図についてはすでに述べたが、高等学校の化学の授業では実験をほんの付け足し程度にしかやっていないのではないかと疑っても見たくなる。

問3 正解C 正答率85.5% (E7.2%, F2.2%), 平均率5.97

酸素の発生は中学校からやっているのだから、このような高い正答率になったのであろう。しかし、「無色・無臭で、空気の密度とあまり変わらない気体を発生するのはどれか」というような問い方をしたら、正答率は案外低かったかもしれない。

問4 正解D 正答率21.3% (E40.5%, C11.8%), 平均点1.48

この問題は、i-ivの記述の1つ1つの正誤が正しく判断できないと正解が得られないので、正答の偶然性はかなり排除されるはずである。正答率が余り高くないのは、そのためであろう。EやCを選んだ者が多かったのは「(iv)純水のpHの値は一定で、温度が変わっても変化しない」を正しいと誤認した者が多かったためと思われる。

問5 正解E 正答率48.3% (B20.9%, C18.1%), 平均点3.35

だいたい予想通りの結果であった。酸化還元の問題は、受験生にとって山なのであろう。ともかく、このようなペーパースタディーはよくできる。

問6 正解C 正答率44.4% (D17.4%, E13.9%), 平均点3.10

正答率はもっと低くなるのではないかと心配したが、まずまずの出来であった。単純なボイル・シャルルの計算問題にしたなら、ずっと正答率は上がるであろう。なお、今年度の問題について、計算問題が少なすぎるという不満が高校側の意見の中にあつたことを付記しておこう。

問7 正解B 正答率59.1% (E14.1%, D9.2%), 平均点4.08

一応妥当な結果と思われる。誤答Eは、選択肢Eの記述内容がやや難かしかつたためであろうか。

問8 正解E 正答率35.2% (C19.1%, D12.6%), 平均点2.44

平衡移動の法則に関する典型的な問題で、もっと正答率が高くてよいはずである。やはり高校では、データからある規則性ないし法則を帰納的に導き出すような考え方はやっていないのであろうか。指導要領の目標を、もっと研究して努力して欲しいと思った。

問9 正解F 正答率58.5% (C13.7%, E11.3%) 平均点4.05

現行の新指導要領の内容に新しく入ってきた項目で、どの程度理解されているか興味があったが、満足すべき正答率が得られた。

Ⅱ 問1は正解7点、問2は正解10点(正答1つにつき2点ずつ)、問1, 2の合計平均点8.26

問1 正解〔1〕〔9〕〔2〕 正答率〔1〕71.6%,〔9〕55.3%,〔2〕57.2%であるが、これは3つとも正答のときのみ7点となる。平均点3.57

妥当な結果と思われる。

問2 (i) 正解B 正答率32.1%; D 正答率62.4% (C14.1%, E13.9%),平均点1.58

(ii) 正解A 正答率65.8% (F43.4%, E27.4%),平均点0.60

(iii) 正解C 正答率49.8%; G 正答率79.8% (A7.2%, F6.5%) 平均点2.50

だいたいよい成績であったが、溶解性というような実験に関連した物性の問題になると、正答率は低くなる。

Ⅲ 正解20点、平均点9.57点。問1はa~e各2点ずつ、正解合計10点、問2は正解3点、問3は正解7点。

問1 a 正解③ 正答率73.7% (②7.3%, ④6.3%); b 正解② 正答率56.5% (③17.1%, ①13.6%); c 正解⑭ 正答率47.9% (⑩34.0%, ⑨9.2%); d 正解⑨ 正答率52.2% (⑫20.8%, ⑮9.2%); e 正解④ 正答率67.5% (⑤21.2%, ⑥8.0%), a~eの合計平均点5.90

問2 正解キ 正答率50.1% (ウ16.5%, ク6.1%) 平均点1.50

問3 正解F 正答率31.0% (D24.7%, E10.2%) 平均点2.16

高校では代表的な実験である中和滴定に関する問題だけに、いずれの正答率も高い。この程度の出題が、共通第一次試験としては標準的なもののように思える。

5 出題範囲についての注意点

学習指導要領の目標にそって高校の化学教育が正常に行なわれるように、というのが出題に当たったの基本的態度であり、できれば共通第一次試験を通して高校教育のあり方を正すというところまでもっていきたいと願っている。また、今後もこの方針は変えないつもりである。

6 本年度の問題についての反響意見

高校の教官21名について、(1) 問題量、難易度、出題範囲など全般的な意見、(2) 各問題についての具体的な意見、(3) 全国共通第一次試験についての意見や希望、の3項目について意見を求めた。(1)

については、ほとんど大部分が適当と答えたが、化学量論の計算問題が少い(4名)、有機化合物の反応が少い(3名)などの意見もあった。(2)については、I問(1)(2)が難かしいという意見がかなり多かった。今後の問題作成上参考になった点も多かったが、高校の教官の中には、このような試験問題を化学教育の一貫として把えないで、受験技術としてしか把えていない傾向が見られるのは遺憾である。たとえば、I問1、問2やII問2は、知識だけを要求しているので不適当な問題であるというような意見があったが、出題者の意図と高校教官の受けとり方に大きな断絶があることを痛感し、いまさらながら驚かされると同時に失望を感じざるを得なかった。化学教育を放棄して、受験対策的なペーパースタディーに終始しているのは、ごく一部の教官であると信じている。(3)については、さまざまな意見や希望が寄せられたが、まだ共通第一次試験の目的や目標が正しく理解されていないことが痛感された。しかし、今後の問題点として十分検討に値する意見も多く、大いに参考になった。

12. 生物研究専門委員会報告

本委員会は他の科目別研究専門委員会と同様、昨年までとは大幅に委員が替った。10名の委員のうち昨年までの委員は2名のみで、委員長を含めたあとの8名は新たな委員であった。新委員の1人はコンピューター委員も担当した。

I 問題の出題意図など

問題の出題に当っては昨年までの基本方針をほぼ踏襲した。昨年度の「生物」の平均得点が38.39点(100点満点)であったことを参考に、今回は60点の平均得点を目標として出題した(結果は43.96点)。出題内容は教科のある部分にかたよらないようにし、また少数の教科書にのみ扱われているようなことも除くようにした。

1 問題 I

細胞の構造と機能に関する最も基礎的な事柄を正しく理解しているかどうかを問うたものである。細胞構造を電顕レベルで捕えているか否か、特に機能面での細胞分化を構造分化と一体化した形で理解しているかどうかを知ろうとした。

2 問題 II

主として遺伝についての基本的な学習到達度を知ろうとしたものである。Aは主に遺伝学の進歩に貢献した歴史上の人物の名を、またB・Cは何れも遺伝の法則性の理解度を試したものである。

3 問題 III

生物体にみられる恒常性の維持に重要な役割を果しているホルモンと神経について問うたものである。Aはそれぞれのホルモンが具体的生物現象と如何に関係づけて理解しているかを知ろうとした。すなわち関係するホルモンの名称とそれを生産する器官・組織とを有機的にとらえているか否かを見るため、組み合わせで正解でなければ誤り、という採点方法をとることとした。Bについては神経細胞膜の電気的活動についての本質を正しく理解しているかどうかをたしかめようとした。理解があいまいであれば直ちに成績に反映するように類似した記述の正誤を判定させる形式をとり、またアークについては誤答に対して減点を行うことにした(合計点マイナスは0点)。

4 問題 IV

生命の連続性としての発生および生殖に関する問題である。Aはどの教科書にもよく出ているウニの発生のしくみについて実験の意図と結果の理解をどの程度に正しくなし得るかを試そうとした。ま

たそのために必要な発生現象の全般的理解の程度も知ることができるのではないかと期待した。Bも教科書によく出ている種々の植物群の生活史と世代交代についてであり、有性世代・無性世代また単相・複相の正しい理解を知ろうとした。

II 解答結果

上記のように本年度は平均得点60点を目標に出題したが、結果は43.96点で目標をかなり下回った。「生物」を選択した者の総数は4,277名で、理科の中での生物選択率は46.36%であり、昨年約36%よりかなり多かった。各大問ごとの得点は下記の如くであった。

問	満点	最高	平均	最低	偏差
I	20	20	14.92	0	3.97
II	20	20	9.63	0	5.21
III	30	30	6.17	0	5.26
IV	30	28	13.23	0	4.05
(全体)	100	94	43.96	0	13.32

この表より明らかなようにIの得点が高いのに比べてIIIの得点がきわめて低い。これには種々の理由があろうと思われるが、比較的単純な○×式の問題の成績がよく、正しい理解と思考力を要する問題は反対に成績がよくない、ということも示しているのではないと思われる。

1 問題 I

上表のようにこの問題の得点は高かった。各構造体の名称は中学で履修済のものもあり、全般によくできていたが、わずかながら電顕的構造についての理解の低さが目についた(リボソーム、葉緑体、ゴルジ体など)。また機能面の設問になると正解はかなり減り、特に酸素呼吸、光合成の働きそのものについて理解不十分の者は得点できなかつたことを示している。

2 問題 II

Aの人名を問う部分は下の語群中に人名が列記されているにもかかわらず、やや成績は悪かった。またBの比など数値を入れさせる部分はややよくできているが、しかし F_2 分離比はわかるのに(平均得点率51.3%)、 F_1 配偶子の分離比はわからない者が多い(同36.0%)のは、依然として理解ぬきの暗記型勉強が行われていることを示しているのではないと思われる。

3 問題 III

これはきわめて成績が悪かった。Aについては設問アを除いて正解がいちじるしく少い。これは上記のように組合せで採点という方法によるものかと思われる。また設問オを除いてホルモンの名称ではなく生産する器官・組織についての誤りが多いこと、またアセチルコリン・アドレナリン対交感神経・副交感神経の関係についての正しい理解が乏しいことが目についた。ホルモンについては教科書によって多少その取扱いに差がみられるので、そのことも成績に影響しているかとも思われる。Bについては、神経活動の大きさについての「全か無かの法則」についてのカークの設定の成績がいちじるしく悪く、受験者の2/3近くがこの点の理解不足であることを示している。あらかじめこのことを予想してほぼ同一内容のこれら3問を設け、もしある程度の理解があれば正解に気づくよう配慮したが結果はよくなかった。これは高校での生物の教育の仕方にも関係のあることかもしれない。

4 問題Ⅳ

Aについてはこの実験の解釈の眼目ともいえる設問カに正解者が少いことに注目される。一方設問ウ、エ、とくにクに正解者が多いのは通り一べんの正常発生については理解している者が多いことを示しており、また設問オ、キのようにオルガネラのレベルでの考察を要求されると解答が分散する結果となっている。Bについては設問f、gの成績が悪いのではないかと予想していたがその通りの結果であった。植物の生殖と生活史についての各教科書の取扱いにはかなりの差があるが、B全体として思ったより成績が悪くなかったのは、この種のことは受験参考書などでよくとりあげられているためと、設問が単純であったためではないかと思われる。

Ⅲ 出題範囲について

今回の出題に当っては「生物Ⅰ」の教科内容にまんべんなくわたるよう配慮された。しかし試験である以上結果的に多少のかたよりができて致し方ないものと思われる。また十数種の現行教科書を参考にし、選択肢の語群なども大多数の教科書にのっているもののみを用いるようにした。

Ⅳ 本年度の問題に対する反響意見

これについては当委員会として特に組織的な調査は行っていない。ただ試験直後に受験生を対象に行ったアンケート調査の結果によれば、問題の文章については易しい20.6%、普通71.2%、難しい8.1%、問題そのものについては易しい21.0%、普通59.4%、難しい19.6%、解答時間については長い34.2%、普通62.1%、短い3.7%、また解答用紙についてはデザインが良い31.5%、普通59.8%、悪い8.6%、色は良い38.3%、普通54.6%、見にくい7.1%であった。この結果からすれば、これらの諸点につ

いてはおおむね適当ではなかったかと思われる。

次に個々の委員が耳にし、また委員の目にふれたもののいくつかのうちの一部を挙げると次の通りである。

○ 問題ⅣBの選択肢にある「栄養体」という語は教科書には余りみられず、適当ではないのではないか。(高校一教官)

○ 前年度とくらべると素直な問題であり、出題技術にこりすぎたという感は少い。(大学一教官)

○ 本年度の解答法は平易で単純なものが多い。昨年にくらべ小問の数が多いが、全般に素直なふつうの問題ばかりである。一般に基礎的事項についての知識を試そうという傾向が強かったといえる。そのため全般的にやや新鮮味が足りない。ⅢBについては、このようなことを高校でどこまで深く学習しているか疑問である。(螢雪時代増刊所載 昭和51年12月7日発行)

○ 前年度と比較すると基礎的・標準的で、高校レベルからみても妥当な出題である。科学的思考力をみる問題も含まれているが、主に基礎的概念の知識理解に重点がおかれている。共通第一次テストとしてはおおむね妥当である。(週刊朝日昭和51年10月22日号所載)。

○ 全体的に基本的な知識と応用力をためすもので全分野にわたる標準的な問題である。ⅢAはホルモンの名称と作用を正確に推論しなければならない良問である。ⅣAは教科書によっては必ずしも詳しく扱われておらず、その点出題のしかたにやや妥当性を欠く。

(別冊高校コース所載 昭和51年12月10日発行)

V その他

○ 本年度はほとんどの委員が新任であり、委員長も交代したため、不馴れのための混乱が多少みられた。本番移行を前にして委員の交代については慎重な配慮が望ましい。また限られた予算のため、委員一同が直接会合する機会がきわめて少く、この点遺憾であった。委員が一地区にかたよることの是非と共に十分考慮を要することと思われる。

○ 問Ⅰの細胞模式図の印刷仕上りが余り鮮明でなかった(特に中央の核の部分)。校正刷の時は良かったのだが高速印刷機を用いて良質紙に印刷したためこのようになったという。今後原図作画の際には注意が必要かと思われる。

○ 理科5科目間の平均点を近づけることは望ましいことではあろうが、余り極端な差でなければ多少の不平均は致し方ないことではなかろうか。

13. 地学研究専門委員会報告

1 各問題の出題意図

全般的配慮として、岩石・鉱物、地史・地質、地物・気象、天文からなるべく万遍なく出題するように努めた。また、問題Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの総てを通じ、基礎的原理・概念に関する理解度、推理能力、思考能力を問うことに重点を置いた。

問題Ⅰについては、火成岩、堆積岩、変成岩に関して、それらの基本的な性質を知っているかどうか、それらの岩石はどのようにしてできたかの理解度をテストし、かつ、教科書で説明されている事からについて、実物の鉱物・岩石標本を観察しながら、正しい理解を進めているかどうかを併せて問うた。

問題Ⅱについては、地層の堆積、侵蝕、地殻の変動、火成岩の貫入、変成作用などに関しての最も基本的な理解の程度、および野外で見られる層序関係から、地層の新旧、地質現象、前後関係を判断する能力をテストしようと試みた。問題中にある岩石名、示準化石名は、高校地学での知識としては無理のないものと考えた。

問題Ⅲについては、地震波の傳播に関する最も基礎的な理解度、地磁気概念、回転する地球上での流体の動きを地球に対して相対的に取扱うことに由来する効果についての理解の程度をテストした。

問題Ⅳ—1、6では、それぞれ正しいもの、および正しくないもの一つずつ選ばせることも意図している。受験生のうちには、正しいもの、あるいは正しくないものが、それぞれ二つ以上あるかも知れないと考えるものがあり得るが、これは理解の曖昧さ、あるいは理解に達していないことに依るからである。

2 出題形式についての今回の試み

新しい出題形式は採らなかったが、次の点は特に留意した。

- (1) 判り易い設問の形式
- (2) 選択肢数の適正
- (3) 事物の実験室内外での観察結果にもとづく判断、観測データの読み方などを問う形式

例えば、問題Ⅰでは、個々の岩石名ごとの化学組成、鉱物組成、組織の説明などは多分に暗記的な知識として学習されているので、なるべく岩石名を問題中に出すことを避けた。すなわち、4種の岩

石の肉眼的特徴を記し、それにもとづいて、岩石中の鉱物に対し期待される性質、それぞれの岩石中に含まれている鉱物のでき方などを選択肢から選ばせた。

問題Ⅱでは、地質断面図の読解力を通じて、1に述べた基本的理解度を問うた。因に、高校地学教育では地殻の一部の断面から、その部分での過去の記録を読みとることを学習させている。この問題の解答では、単に暗記による知識量は必要でない。

問題Ⅲでは、地震記録を用い、かつ常識として地震の震央距離とP～S時間との関係を示す数値も問うた。

3 出題意図と解答結果

大まかに言えば、大体予期された解答結果を得た。高校地学がカバーする範囲が非常に広いし、岩石・鉱物、地殻・地質、地物・気象、天文の各分野を通じて統一的な理解が高校生に対して必ずしも十分に与えられていると許りは考えられない現状では、他科目に較べて平均点がどれ程か低いのは止むを得ない。あるいは当然のことかも知れない。しかし、解答結果から見ると、問題によっては難易の差が大き過ぎたかも知れない。もっと根本的には、各問によって代表される地学の各分野毎に、高校生の理解の程度と理解の質とに差があるのかも知れない。

問題Ⅰについては、全体としては大体予期通り理解度をテストすることができた。しかし、Ⅰ-4は成績が悪い。その理由は、(1)火成岩中の斜長石の組成の特徴について記述していない教科書のあること、(2)記述されていても系統的でないこと、(3)相平衡の概念を記述中に入れねばならず、高校生にとって理解が無理かも知れないこと、などにある。

問題Ⅱについては大体予期通り。ただし、詳細で、より意味のある検討のためには資料が不足である。

問題Ⅲについては出題意図はほぼ充されたが、Ⅲ-4-Aは易しく、Bは難しかったように見える。出題者の一部には、より高い正解率を期待し、あるいは問題が易し過ぎたという意見もある。

問題Ⅳについては、前年度と同じく基本的な概念、公式の適用、推理が不十分で、予期したよりも結果が悪い。特に単純な推理能力、および当然持っているべき高校以下程度の基礎的数学（特に幾何学と思われる）上の応用能力の欠除があると思われる。

何れにしても、他科目に較べて平均点の低いことは事実であって、これを高校の地学教育（教科書の内容を含めて）の何らかの困難さに帰すべきか、地学受験生の平均の質の差に帰すべきか、問題の不適切さに帰すべきかは今後の検討課題となるであろう。

4 出題範囲についての注意点

次の2点に特に留意した。すなわち、

- (1) 大部分の教科書に記述してある内容の範囲に留めた。しかし、この点を過度に押し進めると、適切な出題を困難にするので、各問毎にこの点の扱いについてある程度の幅を生じた。
- (2) 1に述べた通り、極めて基本的な理解度を問う範囲に留めた。

5 本年度の問題についての反響意見

外部からの反響意見はまだ聴いていない。しかし、「受験生に対するアンケート調査集計」、および「点数統計」の2つの資料による限り、出題の内容は大まかに見てそれ程不都合はなかったのではないと思われる。

6 その他——おもに地学出題担当者からの意見

(1) 点数が低いもの(例：Ⅰ-4，Ⅱ-2，Ⅱ-4，Ⅲ-3-B)に代表される地学分野については、現在の高校教科書の平均の内容を適正あるいは不変と見做し、問題が難し過ぎた、または不適切であったとの感想を持つ出題担当者と、高校教育(教科書の内容を含む)の内容に疑問を持つ出題担当者がある。

(2) 出題範囲を教科書に記述してある範囲に局限することが、適切な出題を非常に困難にしていると考えられる出題担当者が少なくない。

(3) 出題形式については、例えば次のような意見がある。

問題Ⅱ-1 (例)

等術的に起り得る組み合わせは6通りであるので、このうち5通りだけ示す不自然さを避けた方がよいかも知れぬ。したがって例えば、

古い	a	b	c
次に古い	a	b	c
新しい	a	b	c

とする。

問題Ⅱ-3 (例)

組み合わせは非常に多いので、例えば、

地質現象の起った順序 ↓	1	A	B	C	D	E
	2	A	B	C	D	E
	3	A	B	C	D	E
	4	A	B	C	D	E
	5	A	B	C	D	E

(4) 地学についても、より論理的思考を要求する形式の問題を増やすことを考えて見たい。

(5) 地学全体として問題と解答の形式を各小問を通じ、もっと統一して各種の煩雑を避けた方がよい。

(6) 解答の時間が問題数に対し、長過ぎたかも知れない。「受験生に対するアンケート調査集計」によると、このように判断される。しかし、仮に問題数が今少し多かつたとすれば、平均点は今少し低くなったであろう。

(7) 地学の受験者数が他科目に比し少ない。これは多分、高校における地学教育（教科書の内容も含め）の在り方に原因があるように感じられる。

14. 英語研究専門委員会報告

本年度は、昭和51年6月4日に第1回専門委員会を開催して以来、担当領域の小委員会を含めて、計5回の会合により、実地研究用の試験問題を作成した。

以下、科目別研究専門委員会報告事項に従って、概要の報告を行う。

1 各問題の出題意図

本年（昭和51年）度における問題作成の基本方針としては、昭和48年度にサンプルとして作成した問題にしたがって作成した昭和49年度および昭和50年度の問題の形式・内容を再検討した結果、ほぼそれを踏襲することとし、①高校における英語教育を乱さぬよう、難解な語を避け、できる限り4技能が見られるように努めたこと、②平易で広範囲にわたる内容の問題を数多く出題すること、③易から難へと配列し、70%前後の通過率を想定すること、④偶然性をできるだけ排除すること、などは前年度と同様である。本年度、配点は従来通り200点であるが、所要時間を100分とし（昭和48年度：100分、昭和49年度：100分、昭和50年度：120分）、それともなって、問題の量を昨年度よりやや少なくしたことが、全般的な特徴である。

以下、各問題について、それぞれの出題意図を記しておく。

〔I〕 基礎的な用法に関する問題（30問、各2点、計60点）：できる限り広い範囲にわたって基礎的と思われる用法に関する理解度を見ようとした。空所に補充すべき語を品詞別に見ると、名詞6、形容詞5、動詞5、前置詞5、であり、その他、句7、文法2、であり、昨年度の、名詞4、形容詞5、動詞5、前置詞5、句6、文法5、と比べると、いわゆる文法的な問題が少なくなっている、と言ってよい。

〔II〕〔III〕 表現力に関する問題（〔II〕〔III〕それぞれ、6問、計12問、各5点、計60点）：文字を書かせないで、客観テスト形式により、表現力を見ることは極めて困難であるが、こうした制約の下での出題形式として、昨年度と同様の整序問題とした。その中、〔II〕は、与えられた英文に対する同じ意味をもつ英文を構成させるもので、〔III〕は、与えられた英文に応じた対話を構成させるものであり、いずれも、昨年度の方式を踏襲し、与えられた英文に対する文を2つ準備し、その2つの文のカッコ内に任意に配した5つの語または語群を並べかえて指示に適した文を構成するとき、3番目と5番目にくるものを示させることにより表現力を見ようとした。また、その2つの文のいずれを選んだかを示す必要はない、としたが、それは、並べかえる語または語群のいずれが3番目および5番目にく

るかによって、2つの文のいずれを選んだかが分るように配慮しておいたからである。

〔IV〕〔V〕 読解力に関する問題（〔IV〕〔V〕それぞれ、6問、計12問、計5点、計60点）：読解力を見るためテスト用素材を準備し、内容および出題形式等を検討し、また、難解な語を避けるために何箇所か書き換えを行った。本年度は2問出題したが、〔IV〕は、英文のパラグラフ（約400語）を読み、日本語による問いに答えるもの（アメリカにおける森が生成される過程を題材とする）、〔V〕は、英文のパラグラフ（約330語）を読み、英語による問いに答えるもの（専門家も一般人も必要であるとの論説を題材とする）、であった。なお、昨年度は、約300語、約220語、および約390語から成る3問であったので、量的には約140語ほど少なくなったことになる。

〔VI〕 聴解力に関する問題（10問、各2点、計20点）：本問は言うまでもなく、音声による聞きとりの力を見ようとしたものであり、昨年度と同様、過大な記憶力に頼る必要がなく、また、各問が独立していること、などの条件を勘案して、短いパラグラフを聞き、そのパラグラフの終わりにつけた問いに対する答として適切なものを、4つの短文の中から選ばせるという方法をとった。また、今回は、問いに対する答を問題用紙に印刷しておき、その中から選ぶという形式にしたので、昨年度よりはずっと易しくなっていると考えられる。そして、各問は、約20秒ほどのパラグラフを2度聞き、それにつづく約15秒間の空白の間に問いに対してもっとも適した答を選び、解答用紙に記入するというものであった。パラグラフの内容と問いとの関係からすると、(1)～(5)は、多少のちがいはあっても、問いに対する答が聞いたパラグラフの中にそのまま含まれており、非常に易しい問題であろう、と予想した。また、(6)(7)は、やさしい計算をした上で答を出すものであり、(8)(9)(10)は、常識を働かせた上で判断して解答することを求める問題と言ってよく、やや難かしいであろう、と考えた。各問の2度繰り返し聞く時間は、(1)42秒、(2)37秒、(3)39秒、(4)42秒、(5)50秒、(6)25秒、(7)48秒、(8)42秒、(9)42秒、(10)41秒であり、それぞれの空白約15秒および指示と例題を含め、全所要時間は、昨年度より短い12分であった。

録音テープの作成にあたっては、吹込者とか施設の問題があったが、昨年度と同様、英語の部分は、広島市在住のカナダ人女性に依頼した。将来の希望としては、英語、日本語、いずれの部分も、標準的なことばを話すことのできる専門のアナウンサーに依頼すべきである、と考える。また、施設については、できる限り高性能のマイクロフォンと、秀れた録音器を準備し、広島大学内の録音室において録音し、また、編集を行った。編集にあたっては、昨年度と同様、プロフェッショナル・テープ（5吋）2本に同時に録音し、その中の1本を中心に、雑音とか不要の音声の入った部分を切り取り、あるいは、交換するなどし、さらに1,000ヘルツの信号音を入れてオリジナルテープを作成した。オ

リジナルテープは、オープンテープを用い、フルトラックで19cm/secの速度とした。テープの構成については、実地研究の試験担当者に対する説明用テープの部分（4分10秒）につづいて「聞きとりのテスト」(12分)を入れ、1本のテープとした。そして、今回は、このオリジナルテープと、音声をそのまま文字化した「スクリプト」を添付し、他の問題とともに、入試改善調査委員会に送付し、英語研究専門委員会ではカセットテープへのコピーはしなかった。

今回の実地研究においても、昨年度と同様、多くの場合、カセットテープレコーダーが使用されたようであるが、一般に小型のテープレコーダーは音声出力が小さいこと、機械により再生速度が必ずしも一定していないこと、などから、できる限り放送施設のある会場を利用することが望まれる。また、公共の放送施設、たとえば、NHKの放送などが利用できれば、受験者各自が持参する携帯ラジオによって受信しイヤフォンで聞くという方法で、実施することが可能となるかもしれない。この他、当然のことであるが、難聴者に対する方策、騒音や停電等、不測の事態に対処する方策、なども配慮しておく必要がある。

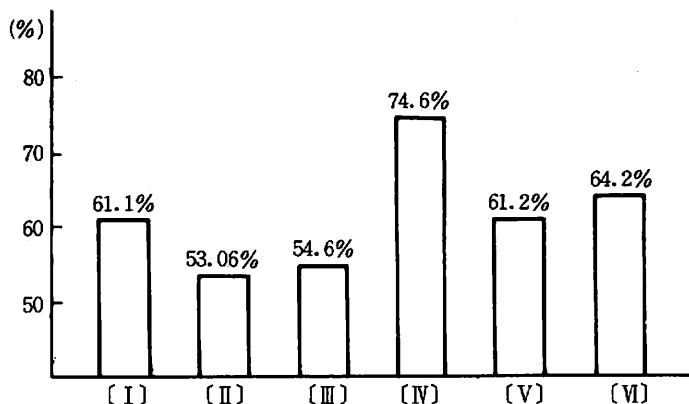
2 出題形式についての今回の試み

今回新しく試みた出題形式は、〔VI〕聴解力に関する問題に見られる。

すなわち、従来は、問いもそれに対する答もすべて音声で与え、聞いた選択肢の中から選ぶという形式であったが、これ以外の形式の開発を志向し、また、たとえば、公共放送等を利用する場合、問いも答も試験の実施時と同時に一般に公開されることになり、それにとまなう危惧の念も一部にあったことから、今回は、問いの部分を音声で与え、答の部分はあらかじめ問題用紙に印刷しておく、という形式をとった。

3 出題意図と解答結果

1) 総点200点に対して、9,310名の受験者の得点平均は、122.59点であり、また、偏差35.38、最高200、最低19であった。これらの数値から、通過率61.29%であり、昨年度の通過率55.95%と比べると、今回はやや易しいと言えるが、一昨年度の65.0%よりは低く、まずまず妥当な問題であったと言ってよいであろう。偏差が35.38であったということは、得点が正規分布したと仮定して、受験者の3分の2が、87.21～157.97の間に得点したことを示しているが、最高200、最低19、という数値から（昨年度は、最高195、最低27）、上限の弁別ができておらず、やはり、易しい問題であったと言えるであろう。次に、各問の平均点をパーセントにして比較してみる。



以上の比較から、大ざっぱな見方かもしれないが、[II][III]の表現力に関する問題が最も難しく、[IV]読解力に関する問題（日本語による問いに答えるもの）が最も易しかった、と言える。

2) 各問ごとの考察

[I] 基礎的な用法に関する問題（30問，60点）：平均36.66，偏差10.78，最高60，最低0。昨年度の通過率57.4%と比べると，本年度は61.1%なので，昨年度よりやや易しくなっている。最も易しかったのは，(18)He was proud ___ himself for having done so well. (for, in, of, to) (平均1.84, 正答率92.0%)であり，最も難しかったのは，(16)I know you can ___ him for transportation. (apply for, make up, rely on, tear along) (平均0.84, 正答率42.0%で，多くは，make up, を選んだようである)。また，30問のうち，平均1.00（通過率50%）以下のものは12問であり，本問はほぼ難易半ばする問題であったと言ってよいであろう。

[II][III] 表現力に関する問題

[II] （6問，30点）——平均15.92，偏差8.12，最高30，最低0。

[III] （6問，30点）——平均16.38，偏差7.16，最高30，最低0。

[II][III]の通過率はいずれも，53.06%，54.60%で，ほぼ同程度の難しさであったと言ってよく，その中でも[II]では，(1)が最も易しく（平均4.13），(2)が最も難しく（平均1.45），また，[III]では，(1)が最も易しく（平均3.81），(6)が最も難しかった（平均2.21）。

[IV][V] 読解力に関する問題

[IV] （6問，30点）——平均22.38，偏差6.60，最高30，最低0。

[V] （6問，30点）——平均18.38，偏差8.83，最高30，最低0。

[IV][V]の通過率は、それぞれ、74.6%、61.2%で、[IV]は、全問題中、最も易しかった。しかし、昨年度のそれぞれに該当する81.8%、62.6%と59.2%（昨年度[V]にあたる問題は2篇であった）とを比較すると、英語による設問の問題は昨年並みとしても、日本語による設問の問題は、昨年度よりもやや難しかった、と言ってよいであろう。[IV]では、(2)ストロブまつやアメリカつがに共通する生態的特徴として正しいのはどれか、に対するものが最も易しく（平均4.40、正答率88%）、(4)ストロブまつやアメリカつがの勝利が決定的となるのはどの時期か、に対するものが最も難しかった（平均2.58、正答率51.6%）ようである。

[V]では、(4)Any organization needs につづく語群を選ぶものが最も易しく（平均3.98、正答率79.6%）、(6)A man's first job につづく語群を選ぶものが最も難しかった（平均2.44、正答率48.8%）ようである。

[VI] 聴解力に関する問題（10問、20点）——平均12.84、偏差4.23、最高20、最低0。

答の部分の問題用紙に印刷して示すという形式を予定した当初から、従来通りの題材とか内容であれば、易しくなることが予想されていたが、ほぼその通りであったと言ってよい。たとえば、(2)とか(1)は、それぞれ、平均1.86（正答率93%）、1.81（正答率90.5%）、など、平均1.00（正答率50%）を越えるものが10問中、7問もあり、最も難しかったのは、(4)の平均0.66（正答率33%）であったことから明らかである。

なお、聞こえぐあいについては、よく聞こえた——55.8%、やや聞こえにくかった——27.7%、聞こえにくかった——5.7%であり、昨年度のそれぞれ、53.5%、19.1%、7.4%と比べると、本年度の方が聞こえやすかったと言えよう。もっとも、20%以上が聞こえにくかった、と報告している会場が3か所もあったのはいささか残念である。

4 出題範囲についての注意点

英語問題の場合、構造に関する領域については特に注意すべき点はない、と言ってよいが、語いについては大いなる配慮が必要となる。基本方針として、難語を避けることを掲げているが、それとともに、610の中学必修語に加えて、高等学校においては、2,400語ないし3,600語（英語Bの場合）を、それぞれ習得することになっていることから、語いの出題にあたっては、3,010語ないし4,210語の範囲内にとどめる必要がある。このように、語い数については規準が明確であるが、語いの頻出度については必ずしも明らかではなく、特に使用頻度の少ない語いは数多く、全国の高等学校において同一の4,210語が習得されているとは思われない現状にあっては、多様な語義をはじめ、成句・熟語等

を含めて、規制することは不可能であり、場合によっては、何らかの方法によって（たとえば、高等学校側との協議，等によって），出題範囲を明らかにする試みが必要になるかもしれない。

5 本年度の問題についての反響意見

新聞等に見られた意見に関する限りでは，おおむね妥当なものとして好評であった，と言ってよい。

なお，受験生に対するアンケート調査の結果は，次のとおりであった。

(1) 問題の文章はわかりやすいか。	難しい	18.8%	普通61.8%	易しい	19.4%
(2) 問題はむずかしいか。	難しい	31.3%	普通51.4%	易しい	17.3%
(3) 解答の時間。	長い	10.3%	普通58.1%	短い	31.6%
(4) 解答用紙のデザイン。	良い	29.8%	普通59.9%	悪い	10.3%
(5) 解答用紙の色。	見やすい	36.1%	普通58.3%	見にくい	5.7%

6 その他

今後とも，基礎的用法，表現力，読解力および聴解力，を見ることのできるような出題方針を堅持すべきである，と考える。特に，「聞きとりのテスト」は，是非，実施されるよう要望したい。また，英字を書かせることによって，表現力が評価できるような方法が開発されることを期待したい。さらに，問題構成の段階において，英語を母国語とする，しかるべき外国人を委員に加えることが望ましい，という意見があった。

Ⅷ コンピューターに関する調査研究の概要

1. コンピューター専門委員会報告

(1) 実地研究情報処理の基本方針

コンピューター専門委員会は、昭和48～51年度の4か年間にわたり、国立大学共通第一次試験に関する情報処理方式について調査研究を行った。専門委員会は、情報処理に関連する5人の固定的な委員と、解答用紙の設計等にあたるため、各科目別研究専門委員会から選出された12名の委員とで、構成されたが、処理方式の調査研究は、主として5人の固定的な委員による小委員会が、これにあたった。

国立大学共通第一次試験の情報処理に関する実地研究の基本方針は、各年度における調査研究の結果によって、若干の変更が行われたが、次のように策定した。

- 1) 情報処理は、大学入試センター（仮称）で、一括処理すること。
- 2) 試験方式が客観式テストであることに対応し、解答用紙はマークシートを用い、正解欄にマークさせた答案を光学マークシート読取装置で、読みとり機械採点を行うこと。
- 3) 科目別研究専門委員会の意向を可能なかぎり尊重して、採点スペックを作成すること。
- 4) 実地研究の情報処理は、民間電算センターに委託して行うが、大学入試センター（仮称）には、光学マークシート読取装置と電子計算組織を設置すること。これらの機種の設定については、国立大学入試改善調査施設で調査研究を行うこと。
- 5) 共通第一次試験の受験者数は40～50万人と見込むこと。

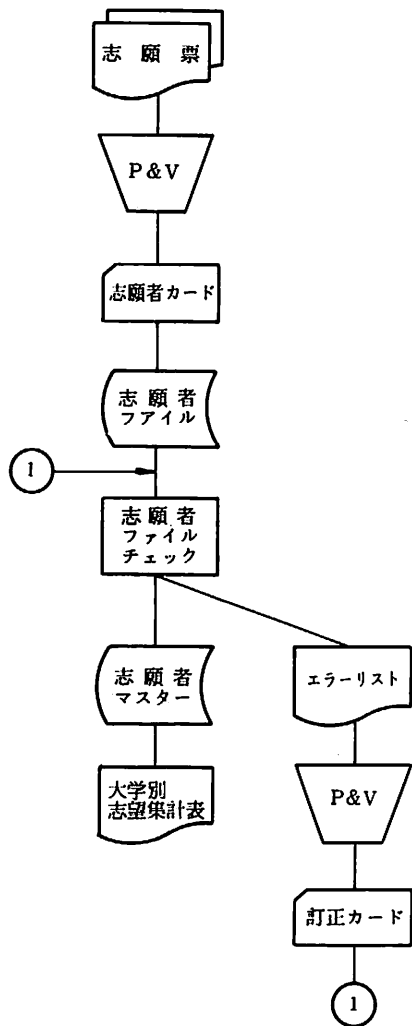
(2) 情報処理システムの概要

共通第一次試験の情報処理システムは、おおよそ、次の5サブシステムからなるが、詳細は、「共通第一次試験情報処理フロー」

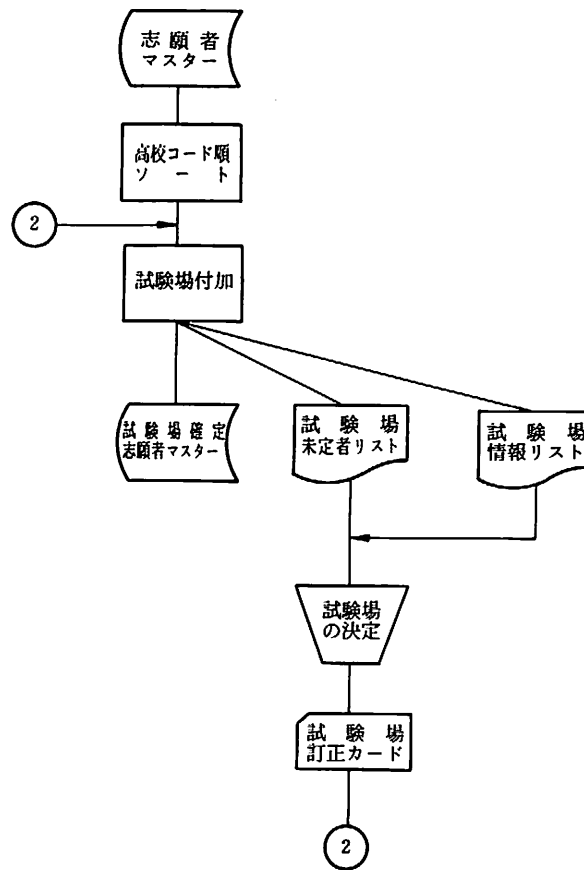
- 1) 志願票（受験申込み）等の処理、大学別志望の集計
- 2) 試験場割当ての処理
- 3) 受験番号の付与、受験生に関する諸情報の処理
- 4) 答案の読取り、正解の入力等の処理
- 5) 採点処理
- 6) 各大学への成績報告、諸統計・資料作成等の処理

共通第一次試験情報処理フロー

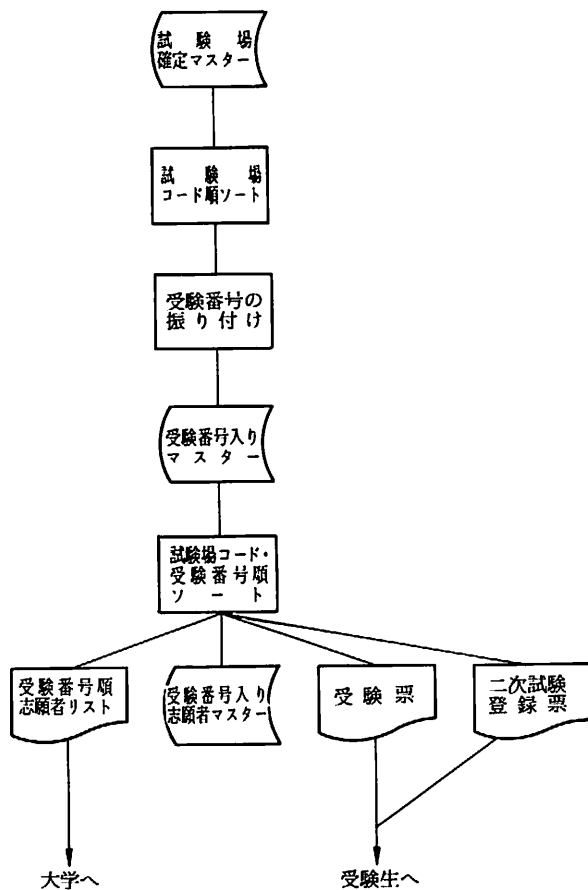
(1) 志願票の入力



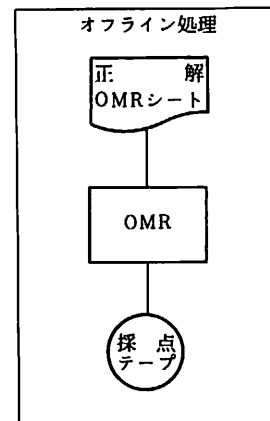
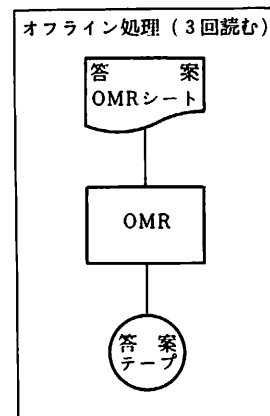
(2) 試験場の割当て



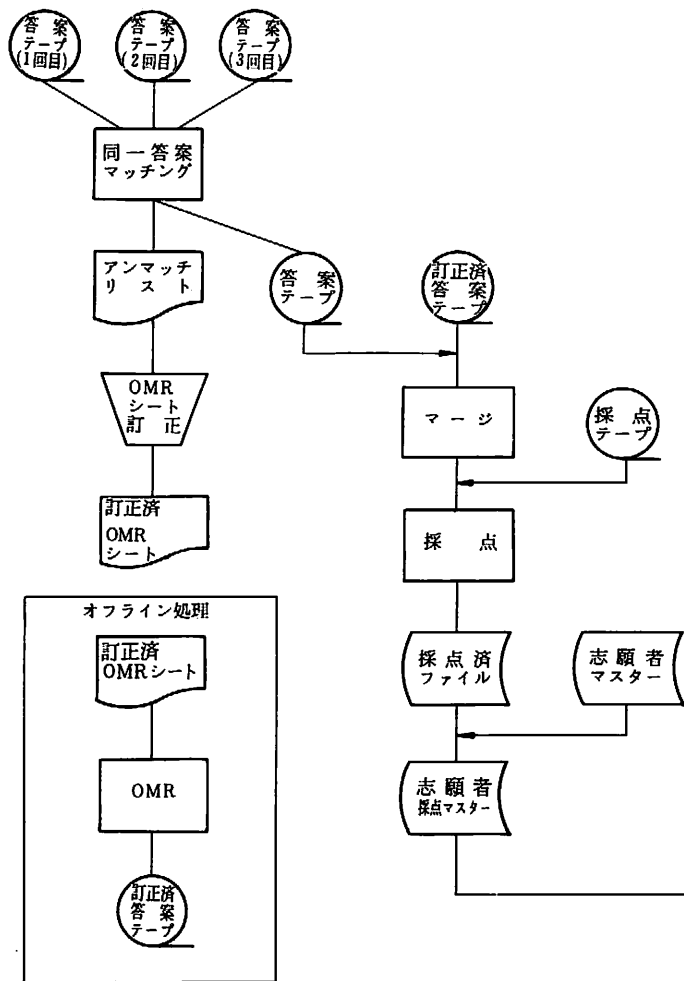
(3) 受験番号の付与



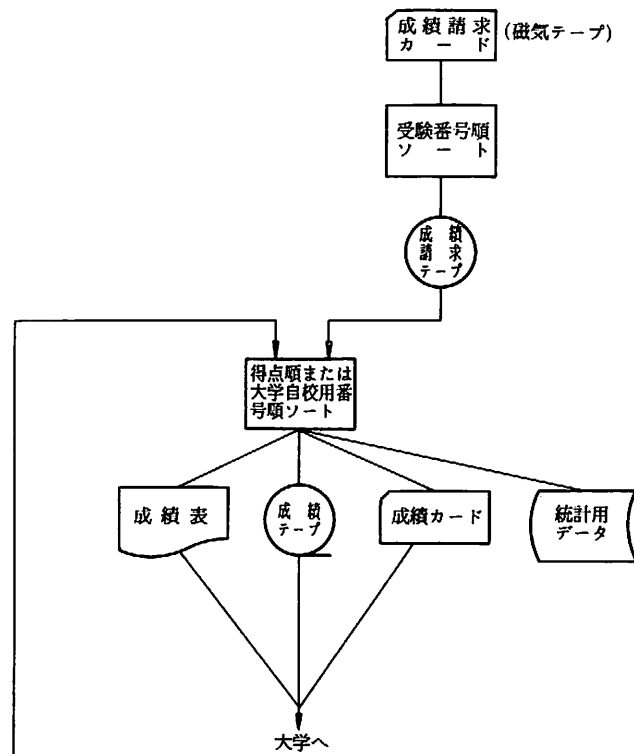
(4) 答案の読取り及び正解の入力



(5) 採点処理



(6) 各大学への成績報告と諸統計の出力



(3) 昭和48～50年度の調査研究

1) 昭和48年度

全般的な情報処理のシステム設計を行い、約100人を対象に、実地研究の予備実験を行った。光学マークシート読取り装置(OMR)は、民間電算センターが所有しているDIGITEK100をそのまま使用したが、読取り速度が遅く、検討を要することとなった。

また、科目別研究専門委員会の広範な採点要請にこたえられるよう採点スペックの調査研究を行った。

2) 昭和49年度

全国7地区(7大学)において、約3,000人の高等学校3年生を対象に実地研究を行ったが、本専門委員会は、実施方法等調査専門委員会小委員会と協力して、実地研究の細部にわたって検討し、志願票の設計を行い、一方各科目別研究専門委員会と協力して、問題のとりまとめと印刷、解答用紙の設計と印刷、正解の入力、採点等を行った。

本年度においても、OMRはDIGITEK100を使用した。答案15,614枚を2回読むのに約30時間を要し、1分間に17枚の速度であった。(公称速度1分間40枚)加えて2回の読取りの照合の結果は訂正の必要のある答案が約10%あり、これは主としてダブルマークによるものであったが、これの訂正に40人時を要した。

3) 昭和50年度

全国7地区14大学で、約5,000人の高等学校3年生を対象に実地研究を行ったが、本専門委員会の本年度の主な検討事項は ①OMRによる答案の読取り実績 ②各大学からの成績請求方式の変更 ③正解入力方式の改善等であった。

OMRによる答案の読取り実績

本年度は、昨年度の実績から考えて、読取り速度に問題があること、また採点スペックに制限があることなどから、DIGITEK100に代えて、国産のTOSBAC OCR-Vを試用することとした。OCR-Vは、マークと光電式文字を読取る機能を有しているため、次のことを新しくこころみた。

- (ア) OCR-Vはマークをビット・パターンで読取ることが可能なため、採点に関しては、マークシートの設計がかなり自由になり、ダブル・マーク、ノーマーク等を使用する採点が可能となった。
- (イ) OCR-Vは、OMRとしての機能のほか、OCRとしての機能も持っているため、解答用紙に、受験者の受験番号を、ラインプリンターで、マークとともに数字でプレプリントし、これを読取

らせることを試みた。しかし、数字のラインプリンター出力をOCRがよく読取れなかった。

本年度の処理すべき答案は7科目分で27,911枚であったが、読取りの信頼性を確保するため、答案を2回読取らせ（同一機）結果を比較した。OCR—Vのオペレーションも昨年度同様、民間電算センターに委託して実施したが、その結果、読取り結果が一致しなかった答案が522枚あり、答案枚数の1.9%にあたる。しかし、一答案に設定されているマーク欄は70～80欄であるので、マーク数にすれば、0.03%の読取りミスである。この一致しなかった答案は目で確認することにより、読取り結果を修正した。その原因は主として、答案を修正するときに、消し残したもの、消しゴムの残渣等であった。

今回は、2回の読取りに17時間45分を要したので、1分間60枚の読取り速度であった。（公称1分間250枚）

(4) 昭和51年度の調査研究

本年度は全国48大学で約12,000人（受験者約10,000人）の高等学校3年生を対象に実地研究が行われ、ほぼ調査研究の最終年度と考えられたので、処理システム全般について検討を加えた。

1) 受験申込と試験場割当

① 高校コードと整理番号

受験申込書の形式の改善を行い、パンチの便宜から、漢字で記入する欄と、カタカナで記入する欄とを分離した。また、受験申込書に出身高校で、高校コード（府県コード2桁＋一連番号4桁で、文部省が学校基本調査で使用しているもの）と、その高校内個人整理番号を記入させた。このため、高校コード表を配布した。

② 試験場割当方法

従来、試験場の割当は、受験生の住所の郵便番号をキイにして割当をしていたが、今回の実地研究参加の高校は約1,000校となり、郵便番号では、行政区域が異っても同番の地区が100か所以上もあるため、高校コードをキイにして試験場割当を行った。

③ 受験番号の簡略化

従来、10桁（試験場番号3桁＋試験場ごとの通し番号6桁＋チェックディジット1桁(A～J)）であったが、

試験場コード 3桁

・ 受験番号 4桁＋チェックディジット1桁(A～J) ……法 (Modulus)11

とし、試験場コードは、答案を読取る際にオーバーハングで入力することとし、受験生が解答用紙に記入する受験番号は5桁とするように改善した。

2) 受験票の改善

受験申込書、受験者名簿等とリンクさせるため、受験票に、高校コードと高校整理番号を出力することとし、また、試験場コードと受験番号を分離して出力することとした。

従来、受験票はタテ型であったが、これは受験生が机上に置く場合に不便なので、ヨコ型にすることを検討したが、時間的制約があったので、従前通りとした。

受験票は、受験生個人に郵送したが、約50通が送達不能で、返送されてきた。その主なものは、受験生本人の住所記入ミスであったので、出身高校に送付し、送達を依頼した。しかし、1通は1か月後（試験日後）に送達されたとの報告があったが、点検の結果住所に誤りはなかった。

3) OMRと解答用紙

① OMR

本年度はNEAC N240P—1Bを使用することとし、そのオペレーションも、その製作者である日本電気の三田工場で実施することとした。このため、実地研究の情報処理の委託先は、OMRによる読取り（3回）及び磁気テープ作成は、日本電気情報サービス、機械採点、その他の情報処理は、従来から委託していた日本電子計算があたることとなった。

NEAC N240P—1Bは毎分250枚の読取速度であるが、実用速度は100枚/分、シートの大きさはB4でマークポジションは36（よこ）×75（たて）であり、各6ビットずつの6個の記入エリアごとにマークの濃淡比較機能を有するが、ビットモードで使用する場合はこの機能は働かない。

② 解答用紙

解答用紙のマークシートは、次のように設計した。

(ア) プレプリント部分

用紙の左上……受験番号 5桁

用紙の右上……試験場コード 3桁

用紙の下段75行目……試験場コード、受験番号をバイナリーモード（2進法）によりマーク印刷

(イ) 受験生記入部分

用紙の左上……受験番号記入欄、氏名記入欄（カタカナ）

用紙の右上……受験番号マーク欄

- (ウ) 採点指示欄……受験番号マーク欄の上段に5行を付加し、受験番号マーク欄とあわせて使用。
- (エ) 教科・科目指示欄
- (オ) 解答マーク欄……マーク最大数2,232個。
- (カ) 右側のマーク欄以外……解答科目名、注意事項、マーク濃淡の標準表示等に使用。
- (キ) ドロップアウトカラー……セピアを基本色とし、合計6色を使用。

③ 答案の読取り実績

Ⓐ 読取り日時・場所	第0回	10月21日(木)	9時30分	} 日本電気三田工場 マシンルーム
	第1回	10月26日(火)	10時	
	第2回	10月28日(木)	10時	
	第3回	10月29日(金)	10時	

Ⓑ 使用機種 NEAC 240P—1B

Ⓒ 読取りシート数

国語	数学一般	数学I	倫・社	政経	日本史	世界史	地理A	地理B	基礎理科	物理	化学	生物	地学	英語	合計
9819	99	9661	2111	2937	6324	5743	1341	930	90	4989	7461	4277	1725	9310	66817

- Ⓓ 読取り経過
- | | | | |
|-----|--------|--------|--------------------|
| 第1回 | 稼働13時間 | ジャム19枚 | (注) ジャム:jam)フィールドの |
| 第2回 | 11 | 6 | 途中でシートが破損する |
| 第3回 | 10 | 9 | こと。 |

マークシートの読込みは、当初、10月21日、26日、28日の3回を予定していたが、10月21日は始動3時間後にセンサーの不調から、26ビット目の読取りが不安定となり、エラーが続出、その修復に長時間を費した結果、その使用を断念し、別のリーダーを用いた。読直しが午後5時からのため、全科目の読取りは翌朝の6時に及び、しかも読取りの件数が、試験調査表から割出した数と計23枚の差異を生じた。これはジャムの際のシートが読込んだ結果のシートか否かの区別が不明確であったことによる。そのためこの部分のプログラム修正の上、10月26日にあらためて読直すこととし、これを第一回、10月28日、29日を第2回、第3回とした。

〔第1回10月26日〕読取り時間およびリーダーの安定度を比較するため、2台を同時に使用することとしたが、前回不調となったリーダーが始動2時間後、再び使用不能となり、事実上1台の稼働となり、全科目の読取りは深夜に及んだ。

〔第2回10月28日、第3回10月29日〕2台のリーダーを使用し、おおむね順調に読んだ。

⑤ 読取り結果

(i) マークシートにバイナリーでプレプリントした試験場コード及び受験番号について、エラーを生じた。

(a) バイナリー部分の印刷ぶれと思われるもの 5件

(b) ジャムのため更新したシートの記入もれ 1件

(ii) 3回の読取の結果、1回ないし2回バイナリー部分に不一致があった。

(a) 汚損によるもの 5件

(b) 左右の印刷ぶれによるもの 2件

(c) ジャムのため更新したシートの記入ミスによるもの 1件

(iii) 受験番号のマーク記入なし、マークミス等があった。

(a) 受験者のマーク記入なし 46件（同一人の重複が多い）

(b) 受験者のマークミス 260件（受験番号の冒頭の0もしくは、末尾チェックディジットのマークなしが多い）

この場合プログラム上で、ミスとしないよう処理することが可能である。

(c) 3回のうち、1ないし2回読取りの時は、バイナリーでプレプリントしてある受験番号と一致したが、他の1ないし2回は主としてダブルマークとして検出され、エラーとなっているもの 100件

しかし、この場合は、正常に受験番号が読取られている。

	第 1 日									第 2 日					合 計	
	午前	午 後								午 前				午後		
	国語	数学一般	数学 I	倫・社	政経	日本史	世界史	地理 A	地理 B	基礎理科	物理	化学	生物	地学	英語	
マークなし	12	9	0	3	1	5	1	0	1	0	4	3	3	0	4	46
マークミス	59	38	0	6	6	31	23	6	6	0	9	25	17	2	32	260
読取エラー	9 ⁽ⁱ⁾	17	1	9	3	16	9	5	4	0	3	9	1	1	13 ⁽ⁱⁱ⁾	100

() 内は科目マークの読取りエラーで内数

(iv) 数学一般のV～VII間については4問中2問を選択する方式であるが、3問以上を解答した者が16名あり、これの処置は成績の上位2問を採用し、他は解答しないものとみなした。

⑥ その他留意点

(i) 各試験場からの答案枚数をチェックするためには紙数計数器を必要とすること。

(ii) ジャムの原因ともなったシートの折れを防止するには、紙袋よりもビニール袋が有効であ

ること。

(iii) 試験調査表は各試験室単位に作表しているが、このほか、試験場としての総表を用意し、欠席者数および答案枚数の確認に用いること。

(iv) マークシートに試験場コード及び受験番号をあらかじめ、ラインプリンターでマーク印刷することは、受験生が40万～50万人となると、この印刷には毎分20枚程度の速度でラインプリンター5台を並行して稼働させても278日（1日6時間稼働）を要し、かつ、そのマークシート（約10,000千枚）の試験実施大学別の仕訳け作業は、200千枚のマークシートに142人/時を要した実績よりすれば、30人×36日を要する。また、試験実施大学での配布処理に苦情が多かった。このため、今回は、受験生に受験番号をマークさせて、あらかじめ、バイナリーで印刷しておいた受験番号と比較した結果が、㊦の(iii)である。(i)のマークなしは、実際の試験では、さらに少なくなるであろうし、また少くするよう努力しなければならない。(ii)のマークミスについては、受験番号の冒頭の0の欠をプログラムで修正することができる。また(iii)については、主として、ダブルマークが原因であるので濃淡比較機能をもつOMRを用いれば、その数は大幅に少くすることができるであろう。

(v) N240P-1BのOMRでは、実用毎分100枚程度の読取り速度なので、処理日数を20日間としても、 $\frac{45万人 \times 7科目 \times 3回読取り}{1日6時間 \times 毎分100枚 \times 20日} = 14台$ を要することになり、また、実地研究の読取りの結果は、2台使用したそれぞれの感度に差があり、不安定であったこと。

④ マークシートの処理日程等

⑤ 社会、理科の未解答用紙及び欠席者の解答用紙の取扱いと試験調査表

社会、理科の教科における未選択科目の解答用紙は莫大な数にのぼり、加えて欠席者の解答用紙も少なくないので、これを返送する手間が大きく、あまり意味がないので、試験実施大学で、採点処理が終了するまで保管せしめた。

また、従来は欠席調査表のみであったのを、試験調査表を記入せしめることとし、試験実施大学及び施設の答案枚数確認に使用した。

さらに、社会・理科の解答用紙の数が多く、その上未使用となるものが受験者1人当たり6枚にもなるので、社会・理科の各教科でそれぞれ統一形式の解答用紙の設計が望まれる。

4) 答案（マークシート）処理日程等

① 答案処理内容、委託会社、業務分担、使用機器

(ア) 答案マークシート読取り、磁気テープ作成等：日本電気情報サービスKK(NEC)

使用機器 ㉔システム分析，設計等：日本電気，NEAC2200—500(大型電算システム)

㉕マークシート読取り等 (i)光学マーク読取装置 (OMR)：日本電気N240P—1 B

(ii)結合電算システム：日本電気 NEAC2200—250

(イ) 機械採点，成績作成，諸統計資料作成：日本電子計算KK(JIP)

使用機器 パローズ4700 (大型電算システム)

② 答案処理内容及び日程

	事 項	N E C		J I P		処 理 内 容
		引渡	納入	引渡	納入	
1	システム分析・設計・プログラミング・点検	8/2	10/18			OMR読取り，磁気テープ読込みシステムの完成(機械採点等のシステムはJIPが昨年完成分を補正)
2	解答用紙等(マークシート)の印刷	8/2	9/14			原稿引渡し，校正，ドロップアウトカラー，チェック，印刷(約21万枚，トッパン・ムーアKK印刷)
3	解答用紙プレマーク用テープ作成			8/20	9/10	受験番号を予め，解答用紙にプレプリントするためのテープ
4	解答用紙プレマーク作業	9/10	9/20			JIP作成のテープによりラインプリンターでプレマーク作業
5	解答用紙等発送，答案受領，仕分け作業					発送仕分け9/20～23，発送9/24～25，受領10/15，仕分け10/15～18
6	採点基準(正解)マークシート，点検			10/12	10/15	手作業による論理チェック
7	採点基準マークシート OMR読取り	10/15	10/21			採点基準テープの作成 JIPフォーマットへの変換
8	採点基準テープの点検			10/21	10/27	電算システムによるチェック
9	答案OMR読取りテープ作成(答案引渡し，返還)	10/18	11/5			答案マークシートをOMRで3回読取り答案テープ作成，JIPフォーマットに変換(アンケート調査を含む)約8万枚×3回読取り
10	答案テープ照合編集，機械採点及び成績等諸資料の作成，磁気テープの納入			11/5	11/20	3回読取りテープから2回合致したマーク読取り結果を1本のテープに編集し，採点基準テープと照合して，採点し，成績マスターテープを作成，アンケート調査集計分析設問別平均点一覧，個人別高校別成績表，解答別件数表，成績度数分布等諸資料作成
11	成績等諸資料の大学への報告					11/20～25，大学別にとりまとめ発送11/30以降大学より高校へ

5) 正解及び採点法の入力

正解は採点の指示とともに各設問の採点単位ごとに、マークシートにより入力する。詳細にわたる説明は省略するが、以下に述べるような採点法を含むものである。

- (ア) 多肢選択の設問で、1 選択肢にかぎらず複数の選択肢が正解の場合にも加点する。
- (イ) 多肢選択の設問のグループを 1 採点単位とし、各設問がすべて正解の場合に加点する。
- (ウ) 多肢選択の設問のグループを 1 採点単位とし、正解の組合せを求め、組合せが正解であれば満点、組合せのうち、正しいものがあれば、一部加点する。
- (エ) 多肢選択の設問を組合せ、A 問が正解でなければ、B 問の解答を採点しない。
- (オ) 誤解答については減点し、各設問内容の小問の点数が負となるときは 0 点とする。

これらの採点法は正解マークシートを採点することにより、点検を行っている。

6) 統計資料の作成

統計資料のうちの主なるものは次の通りである。

- (ア) 受験申込チェックリスト
- (イ) 受験申込マスター訂正リスト
- (ウ) 試験場チェックリスト(1), (2)
- (エ) 試験場セットチェックリスト
- (オ) 受験番号セットエラーリスト
- ※(カ) 高校コードリスト
- (キ) 受験者住所エラーリスト
- (ク) 試験場別受験者一覧
- (ケ) 実施大学別受験者名簿
- ※(コ) 試験調査表
- ※(カ) 受験票
- (シ) 実施大学別試験室割当表
- (ス) 受験番号テープ作成チェックリスト
- (セ) OMRコンバートエラーリスト
- (ソ) OMRコンバートスペックリスト
- (タ) OMRペアチェックリスト
- (チ) 欠席ビットセットエラーリスト

(ツ) OMR プリコンバードエラーリスト

(テ) マスター充足チェックリスト

(ト) 高校別個人別科目別成績表

※(ケ) 設問別平均点一覧 (科目別平均点一覧)

(ニ) 英語聞きとり調査

※(ヌ) アンケート調査集計表 (VI-5項参照)

※(ネ) 解答別件数表 (資料の37参照)

※(ノ) 科目別点数度数分布 (資料の35参照)

※(ハ) 選択科目別状況表 (資料の38参照)

※印の統計、資料については本報告書に記載してある。

(7) 昭和54年度共通第1次試験受験者の予測

昭和51年12月24日締切りで、全国高等学校及び特殊学校高等部約5000校に対し、アンケート調査を行った。回収数約2000校で、予測分析を行ったが、その結果は、「VI-5」の項で説明している。

2. OMR と電子計算組織の選定

大学入試センターに設置すべきOMRと電子計算組織の機種選定については、国立大学入試改善調査施設があたり、その結果を51年11月24日のコンピューター専門委員会小委員会に報告し、承認を得た。その報告の内容は次のとおりである。

(1) OMR (光学マークシート読取り装置)

大量の答案(45万人×7科目×3回読取り=945万枚)の答案を正確迅速に読取って採点することは、共通第一次試験の成否を左右する重要な問題であるので、慎重に検討した結果、米国製ウエスチングハウスW2300OMRシステムが最適であると判断した。

米国においては、マークシート方式による客観式テストが多くの教育分野で行われ、大学共通入試もこれにより年間900万件以上が処理されている状況であって、これらのテスト用マークシートを専用に読取る光学マークシート読取り装置が早くから開発されており、このウエスチングハウス・ラーニング社製のW2300システムは、多くの特許を有する信頼性の高い安定したOMRで、米国の殆どのマークシート処理に使用されている。その代表的使用機関としては、米国内では、米国大学テスト協会、米国教育テストサービス、米国陸軍等があり、さらに英国、オーストラリア、メキシコでも共通テスト等に使用されている。その特色は、国産機が片面のマークシートを1分間に60~100枚(実用)を読取るに比して、W2300はマークシートの両面を同時に1分間400~

600枚（実用、実枚数200～300枚）読取ることができ、かつマークの濃淡を4段階に識別して読取ることができる。また、W2300に使用するマークシートの形はA4判に近いが、そのマークの形は、国産機の長方形に比して、フットボール型であって、受験生が記入しやすく、かつ、訂正しやすいし、濃淡比較機能を有するため、消ゴムの消し残りによるエラーを大幅に少なくすることができる。

W2300の機器構成は次のとおりであるが、ウエスチングハウス・ラーニング社からW301スキャナーのみを輸入し、国産の横河ヒューレットパッカード社製ミニコン、ディスプレイ、磁気テープ装置等の制御装置と国内某社で結合組立てを行い、W2300システムとして納入されることとなる。

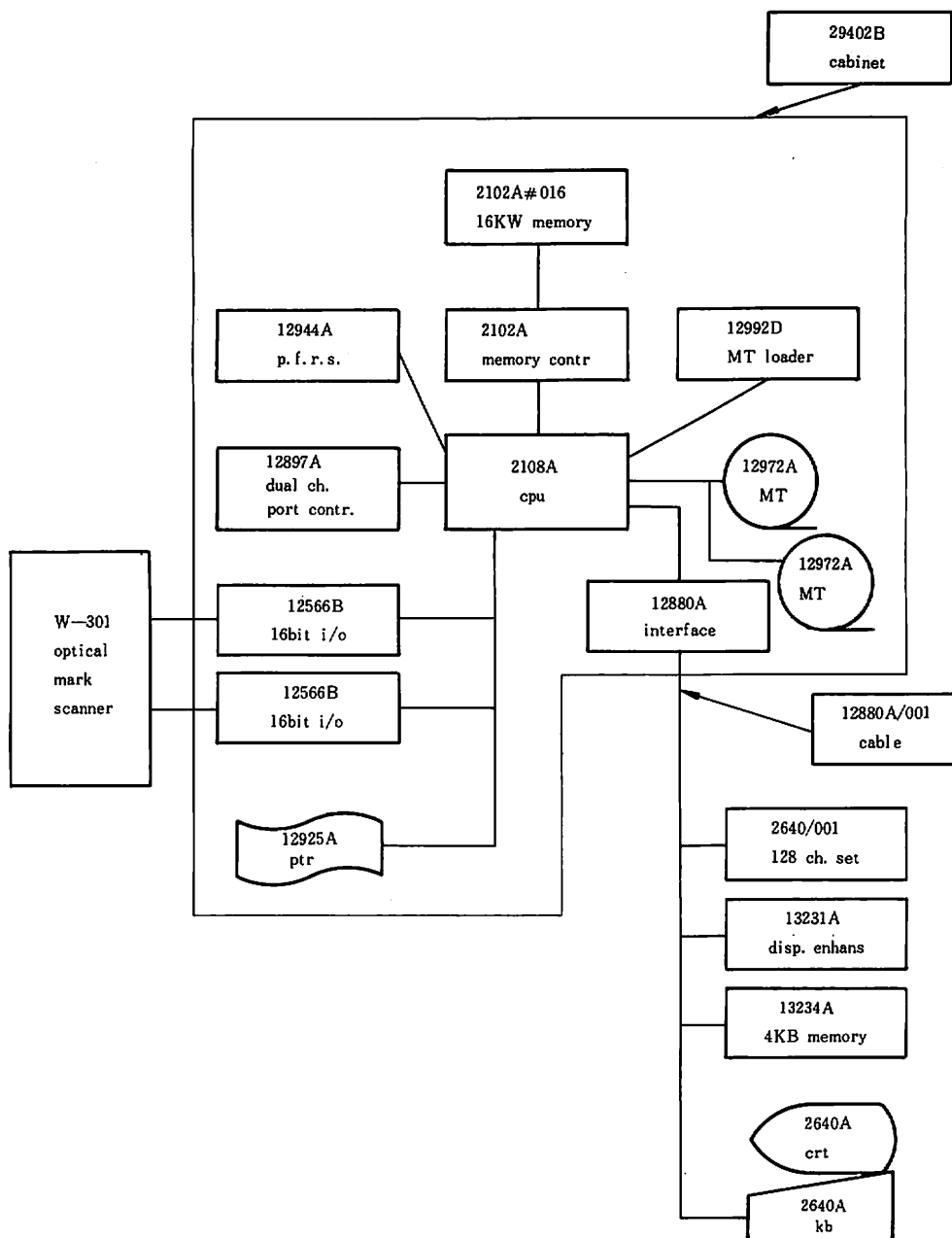
W2300システムの読取りに対する信頼性については、1975年春に米国大学テスト協会が読取りミス点検を行った結果、152,675のマークを読取らせた際に、読取りミスは1マークもなかったと報告している。

W2300システムの必要数は、

$$\frac{45\text{万人} \times 7\text{科目} \times 3\text{回読取り}}{1\text{日} 8\text{時間} \times \text{毎分} 200\text{枚} \times 20\text{日}} \doteq 5\text{台} \quad \text{である。}$$

（1日当りの勤務時間は10時間）

W-2300 光学マークシート読取り装置構成図



Optical Mark Scanner	W301	1
System Controll Sub-System		
CPU	2108A	1
Memory system	2102A	1
16kW Memory	2102A #016	1
Power Fairure Recovery System	12944A	1
Dual Channel Port Controller	12897A	1
16 Bit I/O Card	12566B	2
Magnetic Tape Sub-System(1600bpi/45ips)	12972A	2
MT Loader Rom	12992D	1
CRT Display Console	2640A	1
128 Character Set	2640A #001	1
Display Enhancement	13231A	1
4 k byte Memory	13234A	1
Interface for 2640A	12880A	1
Cable	12880A #001	1
Paper Tape Reader Sub-System	12925A	1
Cabinet	29402B	1

W-301型スキャナの主な性能

A 読取速度	最大18,000枚/時	両面シートでは最大36,000頁/時
B ドキュメント寸法	8 3/4" × 11"	
C データマークポジション	40×61	2,440ポジション/頁
	両面シートでは4,880ポジション/シート	
D 筆記用具	HB鉛筆	
E インプットホッパ容量	1,000枚	
F アウトプットホッパ容量	1,000枚	
G マーク読取方式	反射光検出方式 ダークマーク/ライトマーク識別機能(4段階)	
H チェック機能	SELF-CHECKING DOUBLE FEED	

[別紙]

光学マークシート読取装置一覧

項目	製作社	ウエスチングハウス (米国)	東 芝	富 士 通	日 立	日 本 電 気	I B M (米国)	N C S (米国)	オプスキャン (米国)	ディジティック
機種 (型番)		W2300	OCR-V	F6351D	H8258	N240-P1	IBM3881	Sentry70	オプスキャン 100	ディジティック 100
処理 速度 枚/分	カタログ	延600 (両面)	200~250	200~250	100~150	200~250	80	100	40	40
	実用	延400 (両面)	50~60			60~100				10
総マーク数		3,538 (片面) 7,076 (両面)	3,288	1,584	1,560	3,456	1,160		2,928	2,928
シート寸法 (最大)		222×279mm	364×364	216×305	220×300	257×364	222×279	279×431	222×279	222×279
読取方法		両面同時読取り 4段階濃淡比較	片面読取り	片面読取り	片面読取り	片面読取り 濃淡比較	片面読取り	片面読取り	片面読取り	片面読取り
制御装置		ヒューレット・ パッカード 16KWミニコン テープ装置 コンソール (国産)	ORDIS (4KC)ミニ コン テープ装置 コンソール	U-200 (8KW) ミニコン テープ装置 コンソール	H8150 (24KB) 中型機に連結	N2200-50 又は75の中型機 に連結	IBM370 シリーズ又は IBM1400に連結	IBM370 シリーズ連結	IBM370 シリーズ連結	パローズ 3500 に連結
1日の処理枚 数 (5時間)		60,000枚 (片面) 120,000ページ (両面)	18,000枚	18,000枚		30,000枚				
備 考		マークシート方 式によるテスト 専用機 米国内34カ所 英国オーストラ リア等で使用	昭和50年度実地 研究に使用			昭和51年度実地 研究に使用				昭和48, 49年度 実施研究に使用

(2) 電子計算組織

大学入試センターの業務に使用する電子計算組織としては、次の要件が必要であろう。

- (i) 大量のデータを短期間に正確迅速に処理する必要があるため、安定性が高く、障害に対する万全の対策があること。従って、これまでに十分な実績をもつ事務用の在来機種であること。
- (ii) 導入を計画している OMR（ウェスティングハウス W2300 システム）から出力される磁気テープの記録型式との適合が容易であり、また技術的サポートが提供されうること。
- (iii) 各国立大学とのデータの互換性があること。
- (iv) 大容量の補助記憶装置と多数の入出力装置の場合、プログラムの作成及び運用面等で、十分大学入試センター業務に適合すること。

これらの条件により、各社から提案された、HITAC—8700、NEAC・ACOS 500、FACOM 230—58 等について比較検討した結果、次のとおり、FACOM230—58（富士通）を最適機種と判断した。

(i) 大学入試センター業務への適応性及び安定性

○FACOM230—58　すでに 100 以上の銀行、電力会社・商社等で使用され、ソフト・ハードウェアともに安定している実績がある。

○HITAC 8700　主として科学技術計算用に使用されている。

○NEAC・ACOS500　51年7月に稼動を開始した機種である。

(ii) OMR との関係等

○FACOM230—58, HITAC8700

W2300 OMR システムから出力される磁気テープ（IBMタイプ）を変換せずに処理可能である。なお、富士通とW2300システムの結合組立を行う国内某社とは業務提携を行っているので、一体的な技術・保守のサポートが期待できる。

○他の機種

磁気テープの変換作業が必要であって、作業量、処理期間が増大する。

(iii) 各大学とのデータ互換性

○各大学からの成績請求及び各大学への成績報告は、可能なかぎり磁気テープを媒体として行うことが迅速・正確性の点から望ましいので、国立大学の電算機の約44%を占めているファコムを、採用するのは、データの互換性の面から最適といえる。

(iv) その他

○将来、業務量の増大に対処して上位機種に転換する場合に、ファコム、ハイタック関係は運用システムをほとんど修正せずに移行できるが、エイコス関係は、上位機種に変更する場合は、システムを改編する必要がある。

○FACOM230—58は全面的なIC化により、最もコンパクトな設計で、設置場所の占有面積が少なくてすみ、また消費電力も少い。

○FACOM230—58の周辺機器のシステムは、大量処理に適した配置が可能であり、その性能（アクセスタイム等）も適している。

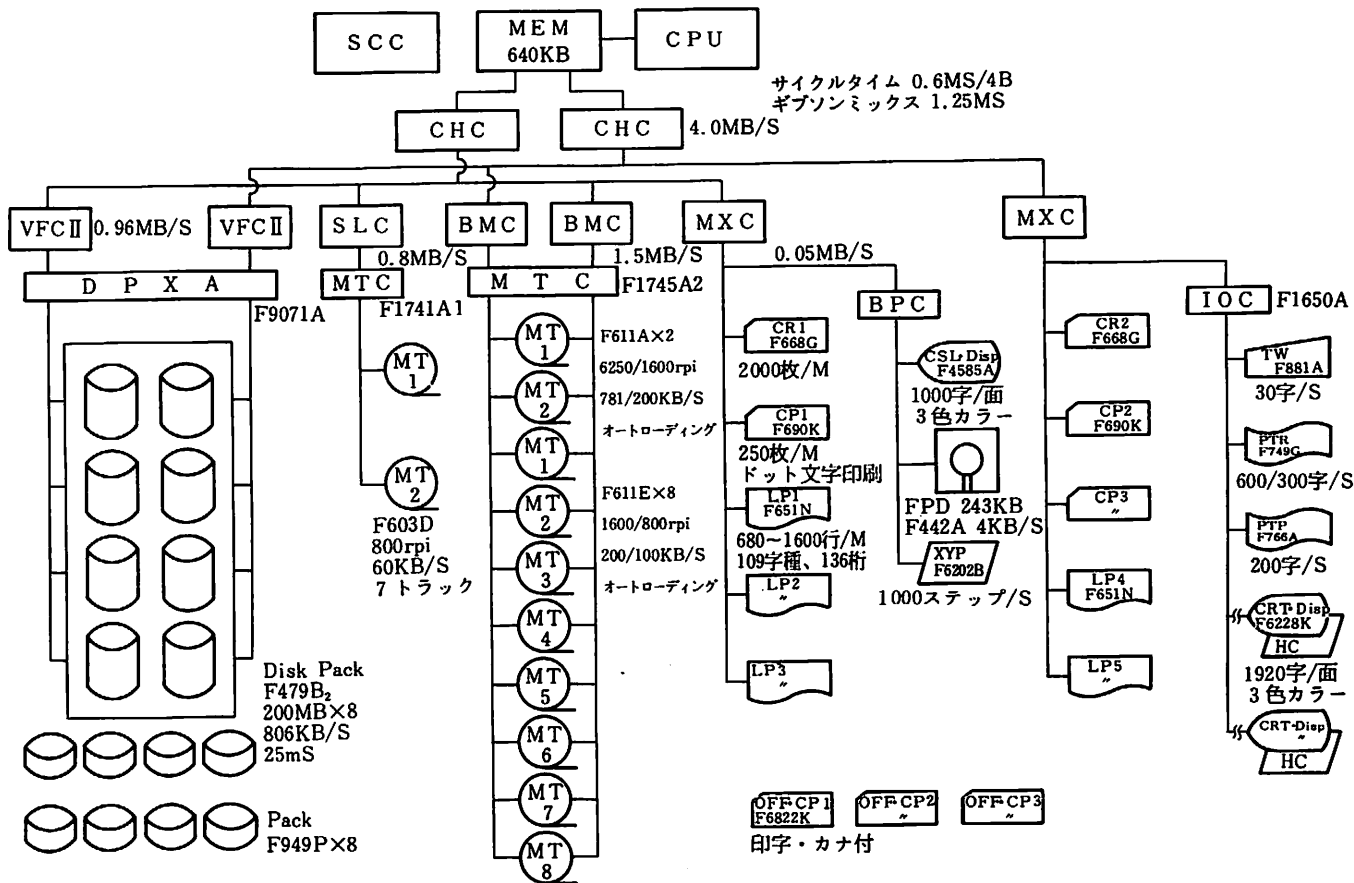
○FACOM230—58の機器構成は次のとおりである。

(3) 答案等処理日数

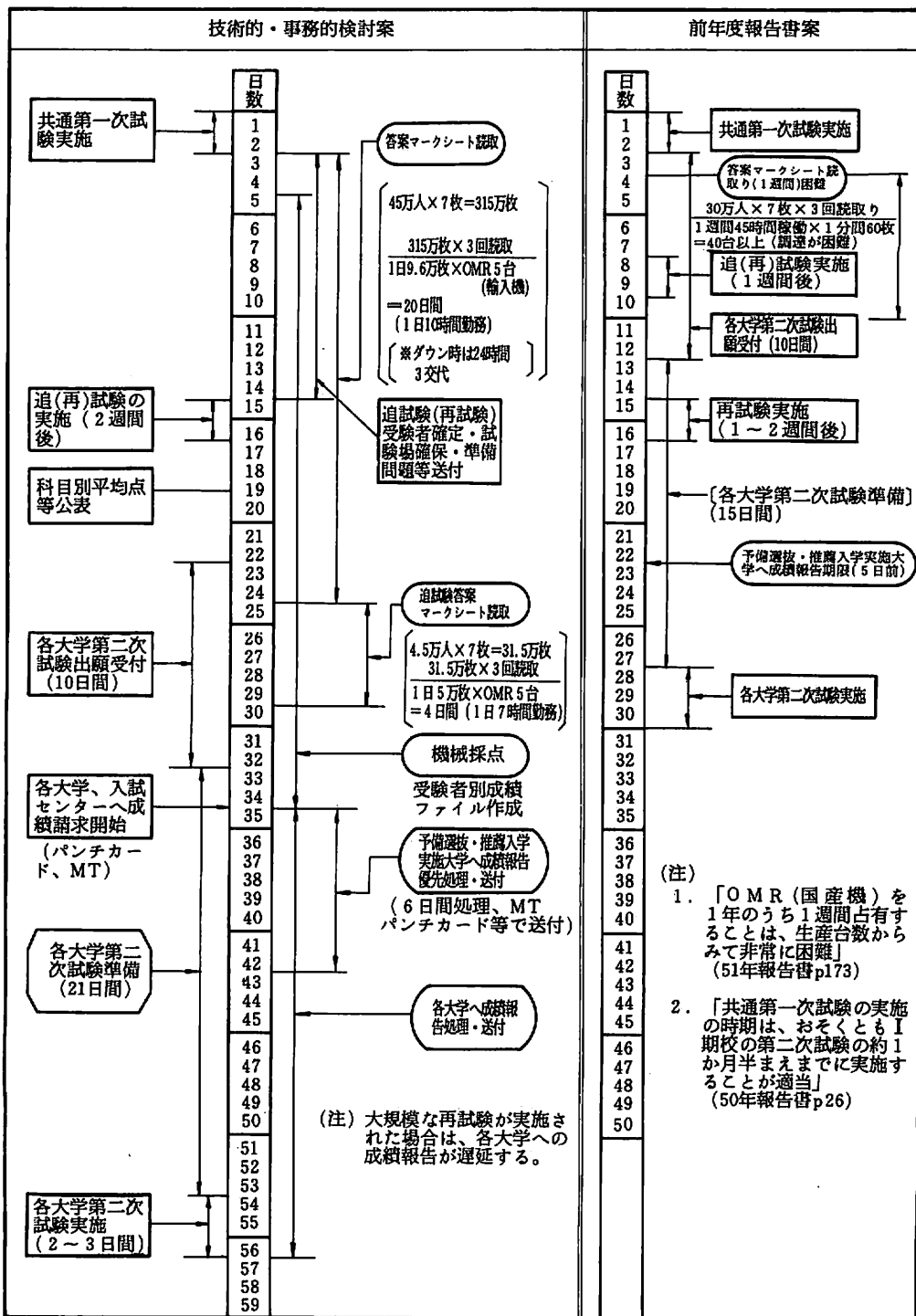
昭和50年度の報告書においては、共通第一次試験後、答案処理、追試験の実施、各大学の成績請求、各大学への成績報告等の処理を行う、各大学の第二次試験までの間を27日間で十分とみていた。しかし、各大学の実状と、国立大学入試改善調査施設における事務的、技術的検討により、次のとおり、共通第一次試験後、各大学の第二次試験までの間は53～55日間必要であることが明らかになった(201ページ参照)。

システム構成図

FACOM 230-58 SYSTEM



答案等、処理日程 (案)



IX 結 語

国立大学協会が、昭和45年以来、具体的に大学入学者選抜方法の改善に関する調査研究に着手してから、6年の年月を経て、昭和51年11月の第59回総会で、「国立大学共通第一次試験の実施による大学入学者選抜方法の改善は、入学者選抜期日の一元化とともに、昭和54年度入学者選抜から実施可能である」との意見の一致をみたことによって、この調査研究の成果が認められた。

高等教育機関への入学者選抜は、明治以来、一時的に総合選抜制が実施された時期があったが、各機関が独自に実施する学力検査の成績に重点をおいて入学者を決定する方式によって実施されてきた。戦後における、進学適性検査（昭和22年度～29年度）、能力開発研究所テスト（昭和38年度～43年度）とも、大学が自身の問題として発想したものでなく、また大学が主体的に参加したものでなかったためあって、概して大学の協力が消極的であったこと、大学・高校をはじめ社会的にも理解が不十分であったことなどから、十分に定着しなかった。

昭和40年代前半の大学紛争を契機として、大学改革の気運が高まり、その一環として、大学入学試験制度の改革が提唱された。戦後における高度経済成長による社会的な人材需要と、後期中等教育の普遍化等に支えられた大学進学希望者の急激な増加と将来にわたる増加傾向のため、大学は、好むと好まざるとにかかわらず、その機能と構造の変革を余儀なくされ、いわゆる「大学の大衆化」時代となった。この事態の下において、各国公私立大学間の歴史的、財政的、設備的、さらには教育研究陣容の充実の差と、学歴を偏重する社会的風潮から、特定の大学・学部等に入学志願者が集中し、激的な競争を伴った、いわゆる「受験地獄」の事態を生じた。大学の入学者選抜が、大学教育の第一歩であり、高等学校教育段階と大学教育段階とを関連づける重要な教育的業務であるとの見地から、大学人として、この現状を放置すべきではないという気運が醸成され、我が国の教育史上、初めて大学人による入学者試験制度の改革が提唱されたのであった。

大学入学試験制度の改革は、大学入学者選抜方法の改善のみで、十分と云えるものではなく、その根本的な改革としては、学歴偏重、有名校集中等の社会的風潮の是正と、各国公私立大学の特色ある充実整備があわせて実施されなければならないことはもちろんであるが、その第一歩として、現状を少しでも改善し、ひいては高等学校以下の教育を正常化するためには、大学人として直ちに着手可能な大学入学者選抜方法の改善のための調査研究が実施されたのである。又、大学入学者の80%を収容する私立大学の入試もあわせて改善されなければならないとの意見もあるが、設置者を同じくする国大協がパイロット・プロジェクトとして、この調査研究に取組み、その成果を判断して、私立大学が共

通第一次試験方式について参加の可能性を検討することが妥当であろうとの考え方であり、もとより、国公私立大学を通じた入学者選抜方法の改善が望ましいと考えている。

大学入学者選抜は、学力検査、調査書、その他入学志願者の適性・能力を判定し得る資料等によって合理的に総合して行うことを目標にしているが、現状では、ほとんど学力検査の成績を中心として判定が行われ、しかもその学力検査は極度に多い入学志願者を短期間に選抜するため、高等学校の教育内容を逸脱したり、範囲を超えたいわゆる難問奇問が出題され、入学志願者を受験技術的な学習にかりたて、高等学校教育にも少なからぬ影響を与えている問題点が指摘されていた。この学力検査偏重によって生じている弊害を改善するため、国大協は、昭和44年度に、第二常置委員会において、諸外国の大学入学者選抜方法の現状、定着はしなかったが研究成果を残した能研テストの再検討、全員入学方式、抽せん入学方式、学力検査入学方式、推薦入学方式、これらの併用方式等の考えられる入学者選抜方法の比較検討、高等学校教育との関連、入学志願者の負担問題等を詳細に調査研究を行い、「衆知を集めて適切な試験問題を作成して、全国共通の学力検査を実施することによって、入学志願者の高等学校における一般的かつ基礎的な学習の達成の程度を評価し、これと各大学が学部学科等の特色等に基づいて実施する第二次試験等の結果等とを合理的に総合して判定することにより、適切な選抜が可能となり、ひいては高等学校教育の正常化に資すること」が、大学入学者選抜方法の改善に役立つとの結論に達し、この共通第一次学力試験構想の実現の可能性について、調査研究に着手したのであった。

調査研究報告書の「国立大学共通第一次学力試験実施による大学入学者選抜方法の改善」の概要、で述べた改善策が、第59回総会で、その実施についての意見を一致を得られるまでの6カ年の間に、全大学のコンセンサスを得るための5回に及びアンケート調査による意思確認とそのための説明会及び意見交換、高等学校3年生延2万人を対象とし、延69大学の協力を得て実施した3回の試験実地研究、客観式テストのための標準問題作成のための国立大学教官延4千人の調査研究、約100人に達する専門委員等が、年間十数回にわたって行った実施方法、精報処理等の調査研究、全国高等学校長協会との再三にわたる意見交換及び各年全国七地区で行った高等学校教員等に対する説明会と意見聴取、日本教職員組合との懇談等が行われたのである。

この調査研究には、文部省は、4か年間に約2億8千万円の調査研究経費を計上し、欧米における共通テストの実施状況調査のために、2回にわたり、国大協の関係委員等7人を海外派遣するなどの援助を行ったが、特に国大協の要請にこたえて、文部省が、共通第一次学力試験の実地研究の実施を含む準備調査と大学入試センターの設置準備調査等を目的とした「国立大学入試改善調査施設」(教官を含

む定員10人)を全国共同利用施設として、東京大学に付置し、国大協の調査研究の事務を処理させたことは、構想の具体化に大きな促進要因となった。

第59回総会において、共通第一次学力試験実施による大学入学者選抜方法の改善の成否は、「第二次試験のあり方」にかかっているとの見地から、先の調査研究報告書で示した「第二次試験のガイドライン」(本書36ページ参照)の趣旨に十分留意すべきであり、大学が自主的に決定すべきことではあるが、第二次の学力検査の科目数、予備選抜の実施等について国大協として、さらに数的基準を示して、各国立大学にその実行を求めるべきであるとの意見も多くあったため、52年3月末現在で、各国立大学における「第二次試験のあり方」の検討経過をとりまとめ、同系同種の学部等に集計整理を行い、各国立大学にこれをフィードバックして、「第二次試験のあり方」を、共通第一次学力試験の実施の趣旨を十分理解し、「第二次試験のガイドライン」の趣旨に十分留意して、促進されるよう要請したのである。

国大協は、共通第一次学力試験の実施による大学入学者選抜方法の改善の実現方を第59回直後、文部大臣に要請し、文部省との連絡協議を重ねてきたが、文部省は、昭和52年度政府予算に12億9千万円と定員28人の「大学入試センター」関係経費等を計上し、国立学校設置法を改正し、「大学入試センター」の設置を行った。この大学入試センターは、昭和52年5月初に設置されるが、全体構想の第1年度分が措置されており、国立大学の入学者選抜に関し、共通第一次学力試験の問題作成及び採点その他一括して処理することが適当な業務を行うとともに、大学入学者の選抜方法の改善に関する調査研究を行う機関であって、また国立大学以外の大学の要請に応じて、当該大学入学者の選抜に関する業務の実施に協力することができるものである。(国立学校設置法第9条の5)共通第一次学力試験については、各国立大学が大学入試センターと協力して、国立大学に入学を志願する者の高等学校の段階における一般的かつ基礎的な学習の達成の程度を判定することを主たる目的として、同一の期日に同一の試験問題により共同して実施するものとした。(国立学校設置法施行規則、第48条)

共通第一次学力試験実施による大学入学者選抜方法の改善に関しては、全国高等学校長協会をはじめとする高等学校側、日本教職員組合及び大学入試センターの設置等のための国立学校設置法及び国立養護教諭養成所設置法の一部を改正する法律案の審議を行った衆議院文教委員会、同委員会入試問題に関する小委員会、参議院文教委員会等から、多くの批判と要望が出され、国会には、延8人の国大協代表が参考人として出席し、これについて説明を行った。

これらの批判と要望については、入試改善調査委員会と理事会において再検討を行ったが、その主なものを列挙すると次のとおりである。(再検討の内容は、本書40ページ参照)

- ① 共通第一次学力試験については、客観式のテストの短所・限界を除去するよう大学入試センターの研究部門において継続的に調査研究をすべきである。
- ② 共通第一次学力試験による予備選抜を極力避け、共通第一次学力試験を有効かつ適切に利用すべきである。
- ③ 各大学が行う第二次試験の実施教科・科目の数については、共通第一次学力試験の成績と調査書の内容その他の検査等の資料との総合判定を行う趣旨から、受験生の過重な負担とならぬよう、その科目数の減少に努めるべきである。
- ④ 入学者選抜期日の一元化に伴い、受験生の第二志望をできるだけ生かす方途を考慮すべきである。
- ⑤ 職業高校の卒業者が不利にならないよう第二次の学力検査における代替科目の設定推薦入学制度の活用等に努めるべきである。
- ⑥ 大学入試センターの運営については、高等学校関係者等広く世論が反映できるような組織を作るべきこと。
- ⑦ 共通第一次学力試験の円滑な実施を図るため、大学入試センター及び各国立大学の入試の実施に関する体制の整備に努めるべきこと。
- ⑧ 共通第一次学力試験の12月下旬の実施は、高等学校教育に大きな影響を与えるので、可能なかぎり、遅らすこと。
- ⑨ 共通第一次学力試験で課する5教科6～7科目は過重であり、5教科5科目にすべきこと。

これらについては、国大協での検討よりも、実施の経験の過程で大学入試センターにおいて、事業計画策定又は調査研究の際に考慮し、検討すべきことも含まれているが、「第二次試験のあり方」に関連する、第二次の学力検査の実施教科の数及び予備選抜の実施等については、先に述べたとおり、共通第一次学力試験実施による大学入学者選抜方法の改善の成否がかつているので、「第二次試験のガイドライン」の趣旨に再度留意し、科目数を必要最少限に止めるよう、又、予備選抜を、安易に実施しないよう各国立大学に要請した。(本書〇〇ページ参照)

以上述べてきたとおり、共通第一次学力試験による大学入試方法の改善は、昭和54年度入学者選抜から実施される。この具体的な実施要項等は、52年5月末あるいは6月初に、大学入試改善会議（文部省）から試案が公表された後に確定するであろう。また共通第一次試験の実施に関する細目は、その後大学入試センターが公表し、6月～7月末までには、各大学が必要に応じて行う第二次試験の学力検査の実施教科・科目及びその方法、実技検査、小論文、面接の有無ならびに推薦入学等の特別の選抜方法について公表することとなっている。

国大協としては、この調査研究の終了にあたり、国大協設置以来の大事業に、終始協力された各国立大学及び大蔵省印刷局、有益な御批判、御要望をいただいた全国高等学校長協会をはじめとする高等学校側、公立大学協会、私立大学団体、日本教職員組合等の教職員団体、調査研究に大きな援助をいただいた文部省、大学入試センターの設置に関して熱意をもって審議された衆参両院の文教委員会に、重ねて謝意を表するとともに、若干の要望を申し上げ結語とする。

各国立大学に対しては、「第二次試験のあり方」が、社会的な注目をあび、共通第一次学力試験の実施による大学入学者選抜方法の改善の成否が、これにかかっていることにかんがみ、共通第一次学力試験の趣旨に即し、さらに「第二次試験のガイドライン」の趣旨に十分留意して、学部・学科等における専門教育の立場に固執することなく、一般教育における学習効果をも考慮して、入学志願者の過重な負担とならないよう、又高等学校教育の正常な発展を阻害することのないよう、第二次の学力検査で課する教科・科目数を必要最少限に止めことに格別の配慮をお願いする。

又、各国立大学における予備選抜（二段階選抜）の実施についても、多元的な資料によって入学者を決定しようとする改善措置の趣旨に即し、予備選抜は原則として行わないものであること、その実施は止む得ない場合に行う例外措置であること、入学者選抜期日が一元化されること等に十分留意され、安易に予備選抜を行わないよう格段の配慮を願うものである。

さらに、共通第一次学力試験の実施にあたっては、国大協総会で、6か年の調査研究の成果の上に立って、大学が自主的にその実施を決定したことであるので、大学入試センターと協力し、万全な体制で、その実施にあたられることを希望するものである。

大学入試センターに対しては、国大協における調査研究の成果と検討課題を継承し、共通第一次学力試験の実施に、各国立大学と協力して万全を期せられるとともに、大学入試の調査研究を推進され、その成果を各大学に普及されるよう期待する。また、大学入試センターの運営に関しては、各国立大学の意思を十分に反映するよう努められ、さらに高等学校関係者等の意見を反映させるよう要望する。

文部省に対しては、設置者の立場から、新方式による大学入学者選抜の円滑な実施のために、大学入試センターと各国立大学の入学者選抜に関する経費、人員の充実整備に格段の配慮を願うものである。

共通第一次学力試験の科目数、実施期日、第二次募集等について、種々の御要望をいただいている高等学校側に対しては、大学入試センターが、その実施の過程と経験によって、修正できる事項については、検討することとしているので、今後とも有益な御意見をいただき、少しでも御要望の線に

添うよう努める考えである。

公立大学協会は、共通第一次試験の成績資料の利用による参加を決定したが、国大協はこの決定に対し、賛意を表し、公立大学側の応分の協力を前提に、国立大学の協力体制を、とることとした。これを契機に教育研究の分野においても一層の提携・協力が促進されることを期待している。

いずれにしても、大学入学者選抜方法の改善は、一朝一夕に効果が挙げられるものではなく、長い年月をかけて定着すべきものであって、その間においては、試行錯誤的な事であろうが、大学、入学志願者、高等学校のそれぞれのおかれている立場を十分に勘案して、実施していかねばならないので、新しい方式に、対しても過熱的の反応を示し、不必要な対策に奔走することなく、冷静に、この大学入学の選抜方法の改善を見守っていただき、我が国の高等教育のあるべき姿との関連において、有益な御意見等を賜わるよう関係各方面にお願いしたい。

資 料

1. 国立学校設置法及び国立養護教諭養成所設置法の一部を改正する法律（抜すい）

（国立学校設置法の一部改正）（52. 5. 2）

第1条 国立学校設置法（昭和24年法律第150号）の一部を次のように改正する。

第3章の3の次に次の1章を加える。

第3章の4 大学入試センター

（大学入試センター）

第9条の5 国立大学の入学者の選抜に関し、共通第一次学力試験の問題の作成及び採点その他一括して処理することが適当な業務を行うとともに、大学の入学者の選抜方法の改善に関する調査研究を行う機関として、大学入試センターを置く。

2 大学入試センターは、国立大学以外の大学の要請に応じて、当該大学の入学者の選抜に関する業務の実施に協力することができる。

3 大学入試センターは、東京都に置く。

4 第1項の共通第一次学力試験に関し必要な事項は、文部省令で定める。

附 則

（施行期日）

1 この法律は、公布の日から施行する。

（教育公務員特例法の一部改正）

4 教育公務員特例法（昭和24年法律第1号）の一部を次のように改正する。

第22条中「第3章の3に規定する機関の長及び」を「第3章の3及び第3章の4に規定する機関の長（同法第9条の4第2項に規定する研究所の長を含む。）並びに」に、「もっぱら」を「専ら」に改める。

2. 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令及び大学入試センター組織運営規則（抜すい）

国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令（52. 5. 2）

第5章 大学入試センター

（大学入試センター）

第47条 大学入試センターに置かれる職の種類並びに大学入試センターの組織及び運営の細目については、大学入試センター組織運営規則（昭和52年文部省令第20号）の定めるところによる。

(共通第一次学力試験)

第48条 国立学校設置法第9条の5第1項の共通第一次学力試験は、各国立大学が大学入試センターと協力して、国立大学に入学を志願する者の高等学校の段階における一般的かつ基礎的な学習の達成の程度を判定することを主たる目的として、同一の期日に同一の試験問題により、共同して実施するものとする。

大学入試センター組織運営規則(省令20号52. 5. 2)

(職員の種類)

第1条 大学入試センター(以下「センター」という。)に、次の職員を置く。

- 一 所長
- 二 教授
- 三 助教授
- 四 事務職員
- 五 技術職員

- 2 所長は、センターの業務を掌理する。
- 3 教授は、研究に従事する。
- 4 助教授は、教授の職務を助ける。
- 5 事務職員は、庶務、会計等の事務に従事する。
- 6 技術職員は、技術に関する職務に従事する。

(内部組織)

第2条 センターに、次の二部を置く。

- 一 管理・事業部
- 二 研究部

(管理・事業部)

第3条 管理・事業部においては、庶務、会計及び施設等並びに共通第一次学力試験の実施等に関する事務を処理する。

- 2 管理・事業部に、その所掌事務を分掌させるため、文部大臣が別に定めるところにより、課を置く。
- 3 管理・事業部及び課に、それぞれ部長及び課長を置き、事務職員又は技術職員をもって充てる。

- 4 部長は、所長の命を受け、部の事務を掌理する。
- 5 課長は、上司の命を受け、課の事務を処理する。

(研究部)

第4条 研究部においては、大学の入学者の選抜方法の改善に関する調査研究を行う。

2 研究部に、次の三研究部を置く。

- 一 情報処理研究部門
- 二 追跡研究部門
- 三 評価研究部門

3 研究部に部長を置き、教授をもって充てる。

4 部長は、所長の命を受け、部の事務を掌理する。

(評議員)

第5条 センターに評議員15人以内を置く。

2 評議員は、センターの事業計画その他の管理運営に関する重要事項について、所長に助言する。

3 評議員は、国立大学の学長その他の学識経験のある者のうちから、所長の推薦を受けて、文部大臣が任命する。

4 評議員は、非常勤とする。

5 評議員の任期その他評議員に関し必要な事項は、別に文部大臣が定める。

(運営協議員)

第6条 センターに運営協議員21人以内を置く。

2 運営協議員は、共通第一次学力試験の実施計画に関する事項その他のセンターの運営に関する事項で所長が必要と認めるものについて、所長の諮問に応じる。

3 運営協議員は、センターの教授及び助教授並びに国立大学の学長及び教員その他の学識経験のある者のうちから、所長の推薦を受けて、文部大臣が任命する。

4 運営協議員は、非常勤とする。

5 運営協議員の任期その他運営協議員に関し必要な事項は、別に文部大臣が定める。

(専門委員)

第7条 センターに、別に定める定数の範囲内で、専門委員を置く。

2 専門委員は、所長の定めるところにより、共通第一次学力試験に関し、実施方法の検討、試験問題の作成その他の専門的事項を処理する。

- 3 専門委員は、センターの教授及び助教授並びに国立大学の教員のうちから、所長が任命する。
- 4 専門委員は、非常勤とする。
- 5 専門委員の任期その他専門委員に関し必要な事項は、別に所長が定める。

附 則

この省令は、公布の日から施行する。

教育公務員特例法施行令第3条の2の規定に基づく大学入試センターの所長等の選考の手続に関する省令（省令22号52. 5. 2）

（趣旨）

第1条 大学入試センター（以下「センター」という。）の長及びその職員のうち専ら研究に従事する者に関する教育公務員特例法施行令（昭和24年政令第6号）第3条の2において準用する教育公務員特例法（昭和24年法律第1号）の第4条第1項の選考の手続については、この省令の定めるところによる。

（所長の選考の手続）

第2条 センターの所長の採用の選考は、大学入試センター組織運営規則（昭和52年文部省令第20号。以下「規則」という。）第5条第1項に規定する評議員で構成する会議が推薦（当該推薦に当たっては、規則第6条第1項に規定する運営協議員（以下「運営協議員」という。）で構成する会議の意見を聴くものとする。）をした者について行うものとする。

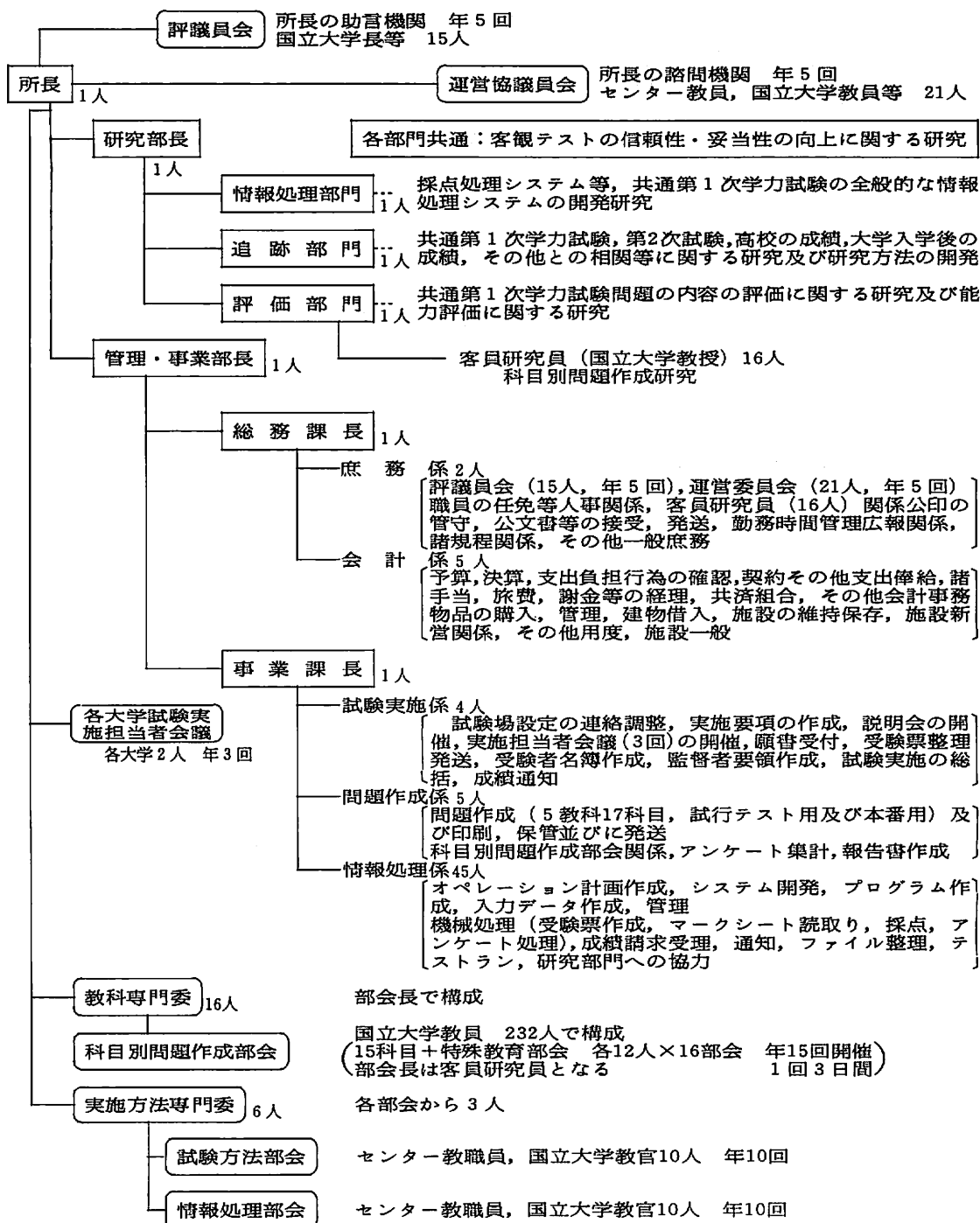
（教授及び助教授の選考の手続）

第3条 センターの教授及び助教授の採用及び昇任の選考は、センターの所長が推薦（当該推薦に当たっては、運営協議員で構成する会議の議を経るものとする。）をした者について行うものとする。

附 則

この省令は、公布の日から施行する。

3. 大学入試センターの機構 (昭和52年度)



4. 昭和52年度大学入試センター予算

区 分	金 額	備 考
1. 管理運営等経費	千円 470,021	1. 定員 28人（教官4人，その他24人） 95,125 2. 電子計算機等経費 277,957 （電子計算機，マークリーダー（2台，米国製）の導入） 3. その他 96,939 （運営事務費，客員研究員経費，設備費，建物借上経費）
2. 試行テストの実施	385,868	（8万人対象，国立80大学実施） 1. 試験問題，解答用紙，実施要項等の印刷，輸送経費 171,397 2. 試験実施経費 214,471 （委員会，試験監督，一斉連絡経費，試験場経費等）
3. 本試験の実施準備	261,030	1. 試験問題印刷 256,335 2. 広報 4,695
4. 共通的事項	176,122	1. 試験問題作成 137,808 2. その他 38,314 （説明会，問題警備，報告書等）
計	1,293,041	

5. 「国立大学入試改善調査研究報告書」についてのアンケート（照会）

国入試改第1号

昭和51年4月5日

各 国 立 大 学 長 殿

国立大学協会

入試改善調査委員会

委員長 岡 本 道 雄

国立大学協会では、昭和48年以来、国立大学共通第一次試験についての調査検討を重ねてまいりましたが、昭和48、49、50年度の3か年度において、入試改善調査委員会および附属各専門委員会を設置して鋭意調査研究を行ってまいりました。その結果を、昨年おとどけいたしました「国立大学入試改善調査研究報告書」(昭和50年3月)と今回おとどけする「国立大学入試改善調査研究報告書」(昭和51年3月)として、とりまとめました。特に本年の報告書では、昨年の報告書の中で問題とされていたいくつかの点を研究し、その一部を解決してまいりました。

しかし、この報告書で述べているとおり、将来、これを実施するとした場合においては、現在でもなおかなり検討すべき問題が残されております。そのため、昭和51年度においても従来の委員会を存置してさらに調査研究を継続することにしており、あわせて全国立大学の意見を集約し、国立大学協会としての意見をとりまとめることとしております。

このため本年もさらに報告書(昭和51年3月)についてのアンケート調査をお願いいたすこととなりました。なお、報告書およびアンケートに関する説明会を5月中旬頃に開催することとしております。

つきましては、報告書をご参照のうえ、貴学のご意見をご回答いただきたく、きたる6月10日(木)までにご回答(30部)をご送付くださるようお願い申し上げます。

国立大学入試改善調査研究報告書に関するアンケートについて（依頼）

「国立大学入試改善調査研究報告書」(昭和50年3月)においてまとめました結果に関しては、すでに昨年9月30日にご提出いただいたアンケートにおいて各国立大学のご意見をご報告いただきました。その結果、現在研究中の国立大学共通第一次試験は大学側からみた場合従来より適切な入学者選抜が可能であり、また、受験生側からみた場合も「一発勝負」の従来の欠点をより緩和することができるとする意見が、全国立大学の65～70%であるとしてとりまとめられました。

さらに、そのアンケートでは、共通第一次試験の入学者選抜にあたっての利用方法、各大学で独自に行われる第二次試験のあり方、第一次・第二次試験の成績の入学者選抜に当たっての組み合わせ方、出題の内容、共通第一次試験の時期などいくつかの点についてもご意見をいただきました。

また、一方高等学校その他各方面からも多くの意見を聞きつつ検討を続けてまいりましたが、これらの結果は、今回おとどけする「国立大学入試改善調査研究報告書」(昭和51年3月)としてとりまとめました。

さらにまた国立大学協会が、昭和49年・50年度にわたって実施した実地研究の結果については、特に出題の内容などについて、高等学校側からも相当の評価を得ており、共通第一次試験の実施が高等学校の教育の正常化および国立大学の入学試験の改善に資するものと期待されております。

もちろん、未解決の問題点もいくつか残されており、それらの解決についてもさらに検討を続ける予定であります。今までの検討結果および今後の方針に関し、アンケート調査をさせて頂きたいと思っておりますので、お手数ながら昭和50年3月の報告書と昭和51年3月の報告書の内容を併せて検討のうえご回答いただきたくお願い申し上げます。

質 問 調 査 項 目

大学名 ()

できるだけ貴大学としての一本化したご意見をまとめていただければ幸いです。項目によっては学部ごとのご意見でも結構です。

問1) 入試センターの管理運営のあり方については、昭和50年3月報告書(P. 20)および昭和51年3月報告書(P. 21)に述べられてありますが、さらにお気づきの点があればご意見をお示し

ください。

問2) 実地時期の再検討の結果について下記の欄にご回答ください。(51年3月報告書P. 23参照)

	可	否	理	由
A 案				
B 案				
C 案				
D 案				
E 案				
F 案				
G 案				

「可否」欄は

- 1. 実施可能。
- 2. 無理はあろうが、何とか実施可能と見込まれる。
- 3. 実施可能とは思われない。

に従って数字でお答えください。

上記以外のご意見がありましたらお示してください。

問3) 昭和51年3月報告書に記した「第二次試験のガイドラインについて」(P. 26)に関連してご意見があればお示してください。

問4) 共通第一次試験の実地研究について出題数が多過ぎはしないかとの意見もあります。51年3月報告書をご検討のうえ、問題の難易のほか時間に対する配分量の関係などについてご意見があればお聞かせください。

問5) 共通第一次試験実施にあたっては、入試センターの組織・機構、各大学における入試事務組織の整備・充実、居住地受験の具体的処理、事故処理問題、身体障害者問題等今後具体的に調査研究すべきことが残されておりますが、これらの問題が適切に処理できた場合、共通第一次試験方式は大学入試問題の改善に資すると考えられますが、ご意見をお示してください。

なお、その他検討すべきお気付のことがあればお示してください。

6. 国立大学共通第一次試験について（報告）

国入改第65号

昭和51年8月20日

各 国 立 大 学 長 殿

国立大学協会

入試改善調査委員会

委員長 岡 本 道 雄

去る6月開催の第58回総会において、各位のご賛同を得て、「国立大学共通第一次試験に関する意見」が承認され、当協会としては、引続いて国立大学共通第一次試験を実施するについての種々の問題を文部省とも協議し、検討することになりました。

これらの種々の問題のうち、国立大学共通第一次試験に関する昭和52年度概算要求の内容については、第58回総会后、文部省と数回にわたり連絡協議会を開催し検討しましたので、その概要を下記の通りお知らせいたします。

追って詳細は来る11月開催の第59回総会の際にご報告いたします。

記

1 国立大学協会と文部省との連絡協議会

(1) 日 時 第1回6月25日、第2回7月8日、第3回7月29日

(2) 参会者

(国大協側) 林会長、岡本入試改善調査委員長、相磯、加藤両副委員長、若槻第2、飯島第6
両常置委員長、湊国立大学入試改善調査施設長

(文部省側) 木田事務次官、井内官房長、佐野大学局長、吉田審議官、阿部大学課長

(3) 連絡協議内容

(ア) 国立大学協会の検討結果及び総会の意見について

(イ) 今後の連絡協議日程について

(ウ) 昭和52年度概算要求の内容について

(エ) その他

2 国立大学共通第一次試験に係る昭和52年度概算要求の概要

別紙の通り

なお、文部省との連絡協議の内容及び概算要求の内容については、去る7月26日及び8月19日開催の理事会に報告し、了承を得ました。またその他の検討課題については、入試改善調査委員会において、それぞれ検討中でありますので申添えます。

別 紙

国立大学共通第一次試験に係る昭和52年度概算要求の概要

1 大学入試センター（仮称）の設置

- (1) 性格：国立大学共同利用機関
- (2) 機構・所要人員：管理部（2課），事業部（2課），研究部（5部門）の3部制，128人（うち教官23人）を52～54年度の3カ年計画で完成
- (3) 施設：当面，東京教育大学の施設を利用（東京教育大学農学部跡地の一部に新営を予定）
- (4) 設備：大型電算機，光学マークシート読取機（外国製機種），その他事業用設備を導入整備
- (5) 昭和52年度の事業
 - (ア) 試行テストの実施，高校3年生等10万人を対象とし，全国立大学を試験場にして実施
 - (イ) 本試験の実施準備，試験問題の作成，印刷，保管等
- (6) 昭和52年度の概算要求額 約31億円
 - (内 訳)
 - ① 大学入試センター（仮称）の管理運営及び事業の実施に要する経費 23億円
 - ② ①に係る52年度国庫債務負担行為53年度歳出化額 4億円
 - ③ 施設整備費 4億円

2 各大学の実施体制の整備

入学主幹等の配置計画に基づき，所要人員を52～54年度の3カ年計画で整備

7. 国立大学共通第一次試験構想説明会の開催について（依頼）

国入改第77号の2

昭和51年10月1日

各都道府県教育委員会

教 育 長 殿

国立大学協会

入試改善調査委員会

委員長 岡 本 道 雄

国立大学協会においては、国立大学の入試改善を目的として昭和48年以来調査研究を続けてまいりましたが、本年6月の総会において「共通第一次試験は国立大学の入試改善に資する」との意見が出されました。しかしなお、残された種々の問題について鋭意検討中であります。

このたび、下記により国立大学共通第一次試験構想説明会を開催し、別添資料をもとに説明を行いますとともに、高等学校関係者のご意見を伺いたいと存じます。

については趣旨ご了承のうえ、貴管内より関係者の参会についてお取計らいくださるようご依頼いたします。

なお、資料は貴管内公立高等学校相当分をお送りいたしますので、配布方重ねてお願い申し上げます。

追って、私立高等学校関係については都道府県知事あてご依頼いたしましたので念の為申し添えます。

国立大学共通第一次試験構想説明会日程及び説明者

地区	日時	会場	説明者
九州	10月23日(土) 14時～17時	九州大学工学部本館大講義室 福岡市東区箱崎6-10-1	入試改善調査委員会関係委員 岡本道雄(京都大学長) 具島兼三郎(長崎大学長) 湊秀雄(東京大学教授)
北海道	10月29日(金) 9時～12時	石狩会館 札幌市中央区北4条西5丁目1	加藤陸奥雄(東北大学長) 松本秋雄(北見工業大学長) 湊秀雄(東京大学教授)
中部・北陸	11月6日(土) 14時～17時	名古屋大学豊田講堂 名古屋市千種区不老町	岡本道雄(京都大学長) 湊秀雄(東京大学教授) 丸井文男(名古屋大学教授)
東北	11月9日(火) 9時～12時	宮城県労働福祉会館 仙台市上杉1-5-13	加藤陸奥雄(東北大学長) 湊秀雄(東京大学教授) 帷子康雄(弘前大学教授)
関東甲信越	11月11日(木) 14時～17時	オリンピック記念青少年総合センター 渋谷区代々木神園町	加藤陸奥雄(東北大学長) 湊秀雄(東京大学教授) 清水留三郎(東京大学教授)
中国・四国	11月12日(金) 14時～17時	広島大学教育学部大講義室 広島市東千田町1-1-89	飯島宗一(広島大学長) 湊秀雄(東京大学教授) 上垣内孝彦(広島大学教授)
近畿	11月13日(土) 14時～17時	大阪大学講堂 大阪市北区中之島	若槻哲雄(大阪大学長) 三上美樹(三重大学長) 湊秀雄(東京大学教授)

(注) 収容数に余裕があれば、報道関係者の傍聴は差支えない。

8. 国立大学共通第一次試験実施に関する意見の学内集約について（依頼）

国入改第76号

昭和51年10月1日

各 国 立 大 学 長 殿

国立大学協会

入試改善調査委員会

委員長 岡 本 道 雄

このことについては、さる6月開催の第58回総会において、「大学入試改善に関する意見」の御賛同を得ましたが、その際に、国立大学共通第一次試験を実施することについては、種々重要な問題が残されているので、これらの問題について今後文部省とも協議し、慎重に検討することとなりました。

さらに、これらの検討の経過を各大学に御報告申し上げ、各大学におかれては、共通第一次試験実施に関する学内意見を集約し、きたる11月開催の第59回総会において、大学としての意向を表明され、これにより共通第一次試験実施に関する当協会の方針を決定することが了承されました。

残された種々の問題については、6月総会后、入試改善調査委員会及び実施方法等調査専門委員会等を開催し、検討を行うとともに、昭和52年度概算要求に係わる重要な問題については、当協会関係者と文部省幹部とが直接に連絡協議し、事務的、技術的問題については、国立大学入試改善調査施設が文部省と具体的協議を行い、いずれも、上記の委員会ならびに理事会に、その内容を報告し、御承認をいただけてきました。

これらの問題の検討は、アンケート調査の回答に付された意見及び要望事項の主なもの、国立大学入試事務担当者の意見、高等学校側の意見、私立大学の意見等を勘案しながら、「国立大学入試改善調査研究報告書」(昭49～51)の趣旨に即し、具体的に行いましたが、その結果を別添のとおり「国立大学入試改善調査研究における残された問題の検討について」にとりまとめましたので、他の参考資料とともに御報告申し上げます。

すでに「国立大学共通第一次試験は昭和54年春から実施が決定された」かのような報道がありますが、もとより、当協会は国立大学の入試改善の見地から、諸問題を十分に検討し、共通第一次試験の実施に関する方針を決定するものであります。しかしながら、高等学校側の関係者は言うに及ばず、社会全般からも、共通第一次試験の実施に関する11月総会の方針決定が、我が国の教育の全般の正常化に係わる重要な問題として、注目されているのも事実であります。

これらの社会情勢の中にあって、当協会としては、きたる11月総会において、共通第一次試験の実施に関する方針を決定する社会的責務を負わされている形となっておりますので、別添の資料を参考にし、学内において十分に協議をつくされ、11月総会における方針決定にあたり、大学としての御意向を表明されるよう、重ねてお願い申し上げます。

なお、文部省は、当協会での残された問題の検討ならびに連絡協議等の結果をふまえて、国立大学共通第一次試験に関する昭和52年度概算要求を大蔵省に提出いたしました。

この概算要求の概要及び当協会と文部省との連絡協議の概要につきましては、すでに8月20日付け国入改第65号「国立大学共通第一次試験について」で御報告いたしました。

別添資料

- 1 国立大学入試改善調査研究における残された問題の検討について
- 2 国立大学共通第一次試験に係る昭和52年度概算要求の概要
- 3 国立大学共通第一次試験に関する調査研究等の経緯
- 4 国立大学共通第一次試験の概要について

9. 各大学における第二次試験のあり方等に関する調査について（依頼）

国入改第93号

昭和51年12月3日

各国立大学長 殿

国立大学協会

入試改善調査委員会

委員長 岡本道雄

すでに御存知のように、当協会第59回総会において「国立大学共通第一次試験実施による大学入学者選抜方法の改善は、国立大学共通第一次試験に係る所要の諸施策が行われ、残された諸問題が解決される見通しを得るに至ったので、入学者選抜期日の一元化とともに、昭和54年度大学入学者選抜から実施可能である」との判断に達しました。

この意見を承認するにあたって、この大学入学者選抜方法の改善の成否は、共通第一次試験の趣旨と方法に対応しつつ、各大学がその学部・学科の特性に応じて自主的に行う第二次試験のあり方にかかっているとの観点から、第二次試験のあり方をめぐり熱心な協議が行われました。その結果、第二次試験のあり方と共通第一次試験の成績の利用については、各大学がその学部・学科等の特性に応じて早急に自主的に決定すべきものであるが、全国的に同系同種の学部・学科等の間で、それぞれ特色を有しているとはいえ、いちじるしく差異を生ずるような事態は好ましくないとの意見が多く、各大学における第二次試験のあり方等の検討の過程、又は一応の結果等を当委員会が連絡調査し、各大学にその結果を提供して、検討の参考資料にするとともに各大学相互間の意見交換を促進することになりました。

つきましては、これらのことから、各大学における第二次試験のあり方等の検討状況について、別紙の「調査実施要項」により、調査票を作成し、昭和52年3月31日までに回答くださるようお願いいたします。

なお、第二次試験の実施教科・科目等及びその実施方法等は、各大学・学部が早急に自主的に決定すべきものでありますが、その検討にあたっては、

- ① 出題にあたっては共通第一次試験に課せられていない科目に限ることが望ましい。
同一科目の出題を行う場合には記述力、考察力、表現力等のテストを論文形式で行うなどの配慮が必要である。
- ② 入試全般の観点から、大学側と受験生側がともに負担増にならないよう、できるだけ科目数、出題量を少なくすることが望ましい。
- ③ 可能であれば面接等とあわせて口頭による試問をも加える。又、特定大学では面接等を行い、第二次試験は実技検査のみで十分な場合も考えられる。
- ④ 共通第一次試験の成績と第二次試験（必要に応じて行われる実技検査を含む。）の成績とを適正に総合して、学力検査の成績とし、必要に応じて行われる面接、小論文の結果及び調査書等とともに判定の資料とする。
- ⑤ 共通第一次試験による予備選抜は原則として行わない。入学志願者が極度に多く、そのために十分綿密な第二次試験が行い得ない大学において、止むを得ず予備選抜を行う場合でも、入学定員の少くとも3倍程度の数は第二次試験を受験できるよう配慮する。

等を示した、国立大学入試改善調査研究報告書の「第二次試験のガイドライン」を参照のうえ、その趣旨に十分留意されるようお願いいたします。

おって、文部省との連絡協議の結果によりますと、文部省は上記の総会の決定に基づき、高等学校関係者の要望等を勘案して、昭和54年度大学入学者選抜から国立大学における共通第一次試験実施による入学者選抜方法の改善の実現に関し、「大学入学者選抜方法の改善に関する会議（文部省）」に諮り、

- ① 昭和52年度政府予算案決定後（昭和52年1月頃）に国立大学における共通第一次試験の実施を予告することを予定
- ② 昭和52年度予算成立後（昭和52年4月頃）に昭和54年度国立大学における入学者選抜の実施要項を公表する予定
- ③ 昭和52年6～7月末に、各大学が昭和54年度大学入学者選抜における第二次試験の実施教科・科目等及びその実施方法、面接、小論文、実技検査等の有無とその内容、予備選抜の有無とその方法等を公表することを期待

などの予告等を行う意向を持っております。

〔参考〕 第二次試験の科目数に関し、大学入試改善会議では、最低必要な1～2科目に限るのが望ましいという意見が大勢を占め、全国高校長協会、全国普通科高校長協会等は1～2科目に限るべきだと強く要望している。なお、3教科3科目が適当であるとの個人的意見が国立大学教官の中に多いといわれている。他面、一般的な意見として、1科目にしぼるべきだとの強い主張がある。

各大学における第二次試験のあり方等に関する調査実施要項

国立大学協会

入試改善調査委員会

1 調査の趣旨

各大学・学部における第二次試験のあり方及び共通第一次試験の利用方法について、検討の過程及び一応の結果を調査し、同系同種の大学・学部ごとにとりまとめ、その結果を大学名を省略して、各大学に配布し、参考資料とするとともに、各大学間の意見交換を促進し、各大学における第二次試験のあり方の検討を援助しようとするものである。

なお、必要があれば本調査を再度実施する。

2 調査票の提出期限

昭和52年3月31日（必着）

調査事項によっては、検討中で記入できない場合はその事項欄に「検討中」と記入する。

3 調査事項

- (1) 学力検査の教科・科目等について
- (2) 学力検査以外の選抜方法について
- (3) 代替科目について
- (4) 共通第一次試験の成績の利用法について
- (5) 合格者決定にあたっての第2志望等の取扱いについて
- (6) 予備選抜について

4 調査票の処理

昭和52年4月下旬までに、同系同種の大学・学部ごとに集計整理し、各大学に配布する。

5 調査票の提出先及び問合せ先

国立大学入試改善調査施設

〒153 東京都目黒区駒場 2-19-1

TEL 東京03-465-3948～9

調査票記入に当たっての共通の留意事項

- (1) 各表の記入は、特に指定のないかぎり学部を単位として記入して下さい。なお、学部以外の区分により入学者選抜を行った場合で、これを学部単位に直して記入することが困難なときは、当該選抜単位（文類、理類等）を学部準じて取扱って下さい。
- (2) 該当欄に○印を記入する欄において、幾つかの学部が全く同様の状況であった場合は、一括して一欄に記入し、これに該当する学部数を「学部数」欄に記入するとともに、その学部名を「学部」欄に列記して下さい。また同一大学内の全学部が全く同様の状況であった場合には「学部名」欄に学部名に代えて「全学」と記入し、「学部数」の欄には全学部数を記入して下さい。（同一学部内で学科又は課程等により状況が相違した場合には、上記に準じて区分して記入して下さい。）
- (3) 記入欄が不足する場合は、適宜欄を追加して記入して下さい。

大学

1. 学力検査の教科・科目等について

(1) 昭和52年度入学者選抜において

区分 番号	学部 数	学部 名	国 語			社 会					数 学					理 科							外 国 語					備 考			
			出題科目		科目 選択数	選 択 科 目					出 題 科 目					科目 選択数	選 択 科 目							選 択 科 目							
			現・ 国	古 I 甲		古 I 乙	倫 社	政 経	日 本 史	世 界 史	地 理 A	地 理 B	数 学 一 般	数 学 I	数 II A		数 II B	数 III	物 理 I	物 理 II	化 学 I	化 学 II	生 物 I	生 物 II	地 学 I	地 学 II	基 礎 理 科		英 語 A	英 語 B	ド イ ツ
1																															
2																															
3																															
4																															

(2) 共通第一次試験実施時の第二次試験において

区分 番号	学部 数	学部 名	国 語			社 会					数 学					理 科							外 国 語					備 考			
			出題科目		科目 選択数	選 択 科 目					出 題 科 目					科目 選択数	選 択 科 目							選 択 科 目							
			現・ 国	古 I 甲		古 I 乙	倫 社	政 経	日 本 史	世 界 史	地 理 A	地 理 B	数 学 一 般	数 学 I	数 II A		数 II B	数 III	物 理 I	物 理 II	化 学 I	化 学 II	生 物 I	生 物 II	地 学 I	地 学 II	基 礎 理 科		英 語 A	英 語 B	ド イ ツ
1																															
3																															
4																															

- (注) 1. 該当科目の欄に○印を記して下さい。 3. 理科の科目選択方法については、備考欄に記入して下さい。
 2. 「科目選択数」の欄には、何科目選択させるか数を記入して下さい。 (例) [物理 I・II][化学 I・II][]…の中から2個選択。

2. 学力検査以外の選抜方法について

(1) 昭和52年度入学者選抜において

大学

区分番号	学部数	学部名	面接				実 技				小 論 文				備 考
			課さない	課す	課す場合		課さない	課す	課す場合		課さない	課す	課す場合		
					時間	内 容			時間	内 容			時間	字数	
1															
2															
3															
4															
5															
6															

(2) 共通第一次試験実施時の第二次試験において

区分番号	学部数	学部名	面接				実 技				小 論 文				備 考
			課さない	課す	課す場合		課さない	課す	課す場合		課さない	課す	課す場合		
					時間	内 容			時間	内 容			時間	字数	
1															
2															
3															
4															
5															
6															

- (注) 1. 「課さない」、「課す」の欄に○印を記して下さい。
 2. 「課す場合」は、1人当りの所要時間および内容等をできるだけ記入して下さい。

4. 共通第一次試験の成績の利用法について

区分番号	学部数	学部名	学力検査の成績の判定にあたって、共通第一次試験と第二次試験の成績をどのような方法で利用することを検討されておりますか。具体的に記入してください。
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

大学

大学

5. 合格者決定にあたって第2志望等（第2志望・第3志望・第4志望……）の取扱いについて

(1) 昭和52年度の入学者選抜において

区分番号	学部数	学部名	行わない	行 う	行 う 場 合		
					イ、同学部又は 同学群内において	ロ、異なる学部 又は学群等の間で	ハ、そ の 他
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							

(2) 共通第一次試験実施時

区分番号	学部数	学部名	行わない	行 う	行 う 場 合		
					イ、同学部又は 同学群内において	ロ、異なる学部 又は学群等の間で	ハ、そ の 他
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							

- (注) 1. 「行わない」「行う」「行う場合イ、ロ」に○印を記して下さい。
 2. その他の例があれば具体的に記入して下さい。

6. 予備選抜について

(1) 昭和52年度入学者選抜において

区分番号	学部数	学部名	行わない	行う	行 う 場 合							備 考	
					基 準		方 法			発 表 時 期	発 表 方 法		
					定 員 の 倍 率	そ の 他	第 一 次 学 力 検 査	調 査 書 に よ る	第 一 次 学 力 調 査 検 査 と 調 査 書 併 用	そ の 他	第 2 次 学 力 検 査 までの 日 数		掲 示
1											日 前		
2											"		
3											"		
4											"		
5											"		

大学

(2) 共通第一次試験実施時

区分番号	学部数	学部名	行わない	行う	行 う 場 合							備 考	
					基 準		方 法			発 表 時 期	発 表 方 法		
					定 員 の 3 倍 以 上	そ の 他	共 通 第 一 次 試 験 の 成 績 に よ る	共 通 第 一 次 試 験 と 調 査 書 と の 併 用	そ の 他	第 二 次 試 験 実 施 までの 日 数	掲 示		本 通 人 宛 知
1											日 前		
2											"		
3											"		
4											"		
5											"		

(注) 1. 「行わない」、「行う」の欄に○印を記して下さい。

2. 行う場合には具体的に記入して下さい。

調査票記入責任者	所 属 名	連絡先電話番号
----------	-------	---------

10. 公立大学の国立大学共通第一次試験成績資料の提供方依頼について

公大協第54号

昭和51年12月7日

国立大学協会

会長 林 健太郎 殿

公立大学協会

会長 森 川 晃 卿

さきに国立大学協会において決定されました国立大学共通第一次試験について、公立大学はその重要性に鑑み、進行状況を見守るとともに、種々検討をつづけているところでありますが、本日の公立大学協会臨時総会で公立大学としても国立大学共通第一次試験の資料を利用したいという方向を協会として決定いたしました。

ついては、昭和54年度の公立大学入学志願者からその資料の提供をお願いいたしたく、申し入れます。なお、この件について文部大臣にも同趣旨の御依頼をいたしましたので申し添えます。

11. 各大学における第二次試験のあり方等に関する検討について（通知）

国入改第38号

昭和52年4月26日

各国立大学長 殿

国立大学協会入試改善調査委員会

委員長 岡 本 道 雄

各大学における第二次試験のあり方等に関する検討について（通知）

先の第59回総会の決定により、各大学における第二次試験のあり方等の検討経過について連絡調査を行うため、標記に関する調査をお願いしましたところ、調査対象の82大学すべてから回答をいただき、ありがとうございました。早速、提出されました回答を、同系同種の学部等ごとにとりまとめ、若干の集計整理を行いましたので、別添のとおり送付します。

各大学がその学部・学科等の目的、性格、その他の特性に応じて、入学志願者の適性・能力を検査する第二次試験のあり方については、国会における大学入試センターの設置等のための国立学校設置法改正案（昭和52年4月22日可決成立）の審議の過程でも、これに関する関心は非常に高く、又全国高等学校長協会の要望等、各関係方面からの意見も多く、社会的な注目を集めておりますことは、すでに御承知のことと思います。

去る4月13日開催の入試改善調査委員会及び理事会において、これらの社会的な関心を考慮しつつ、標記の調査のとりまとめを検討しましたが、第二次の学力検査の教科・科目の数、予備選抜（二段階選抜）の実施等に関し、若干の問題があるように思われるので、各大学に対して「第二次試験のガイドライン」の趣旨を十分生かして再検討されるよう要請することになりました。

つきましては、共通第一次学力試験の実施による大学入学者選抜方法の改善の成否は、各大学が自主的に決定する第二次試験のあり方にかかっているという観点から、各大学におかれては、「各大学における第二次試験のあり方等に関する調査について」の依頼文（昭和51年12月3日付、国入改第93号…別紙1）を再度参照され、別添の調査結果のとりまとめを参考にされるとともに、「第二次試験のガイドライン」の趣旨に十分留意されて、今後の「第二次試験のあり方」の検討を促進されるよう重ね

てお願いいたします。

特に、各大学が必要に応じて行う第二次の学力検査で課する教科・科目の数は、各大学が自主的に決定する事項ですが、共通第一次学力試験が入学志願者の高等学校における基礎的な学習の達成の程度を評価するため、主として必修科目5教科6～7科目を通算約10時間にわたって課することとしていること及び各大学が行う第二次の学力検査の教科・科目が、主として高等学校の選択科目から課され、共通第一次学力試験の成績と第二次学力検査の成績とを合理的に総合して学力検査の成績とすることなどに十分留意され、入学志願者に対して過重な負担を強制することのないよう、又高等学校教育の正常な発展に障害とならないよう、必要な最少限の数にとどめることに格段の配慮をお願いいたします。

又、各大学における予備選抜の実施については、多元的な資料によって入学者を判定しようとする今回の改善措置の趣旨に即し、「第二次試験のガイドライン」に示すように予備選抜は原則として実施しないものであること及びその実施は止むを得ざる例外的措置であることならびに入学者選抜期日が一元化されることに十分留意され、大学が自主的に決定する事項ではありますが、安易に予備選抜の実施を決定することのないよう格別の配慮をお願いします。

なお、第二次募集方式については、新たに提起されたものでありますが、その国大協における協議結果^(注)(「最近における共通第一次学力試験の検討経過について」昭和52年4月26日付、国入改第37号)を参照され、特別の選抜方法の一つとしてその実施についても検討されるようお願いいたします。

おって、国立大学共通第一次学力試験の実施に伴う昭和54年度以降の国立大学入学者選抜方法については、5月末または6月初に、その要項が公表される予定であります。各大学が行う第二次試験の実施教科・科目の内容及びその方法ならびに特別の選抜方法については、7月末までに公表することとなっておりますので念のため申し添えます。

(注) 「最近における共通第一次学力試験に関する検討経過について」は昭和52年4月26日付、国入改第37号で各国立大学長宛送付済 (V-3項参照)

12. 国立大学共通第一次試験に関するアンケート調査 (依頼)

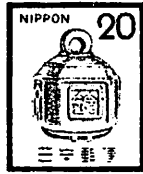
共通第一次試験の受験者数を予測するため、全国の高等学校宛下記内容のアンケート調査を行った。

郵便往復はがき

昭和51年11月30日

各高等学校長殿

国立大学協会・入試改善調査委員会
委員長 岡本道雄



返信

153-□□

目黒区駒場二一九一
東京教育大学農学部構内
国立大学入試改善
調査施設行

国立大学共通第一次試験に関するアンケート調査(依頼)

国立大学共通第一次試験の実施計画の資料とするため、別紙のとおりアンケート調査を行ないますので、下記記載要領のとおりご記入願ひ、12月25日までにご回答頂ければ幸いです。

(記載要領)

都・道・府・県コード → 学校コード

学校基本調査番号…本年度基本調査の番号 039678

- 学校名……〇〇県立と、末尾の高等学校の表示は不要。
- 所在地……〇〇シ 〇〇マチ 15-1 と記入のこと。
- 課程……全日制は1、定時制は2、通信制は3と記入。
- 学科……普通科は1、その他(工・商・農等)は2(2学科以上あれば合計で記入のこと)、盲・ろう・養護学校の高等部は3と記入のこと。

○大学志願者……大学を志願した者の実数。

○国立大学志願者数……上記の内、国立大学の志願者実数。(数字を記入する際、52名の場合 0052 と書くこと)。

○開設科目……表示してある科目を開設している場合、その下の番号を○で囲んで下さい。

○最寄りの国立大学……貴校に近く、交通の便のよい大学をお知らせ下さい。離島などの場合、その大学が試験場となったとき、宿泊を要するときは2を○で囲んで下さい。

◎記入上、不明の点がございましたら

東京03-465-3949 国立大学入試改善調査施設へお問い合わせ下さい。

郵便番号	学校基本調査番号	設置者別		
		国立	公立	私立
		1	2	3

いずれかを○でかこむこと

学校名はカタカナで記入し、濁点・半濁点は1字分とること。
都道府県立と高等学校の表示はしないこと。

学校名										

都道府県は省略し、郡・市・区・町・村の間は1字分あけること。例えば3丁目6番12号の表示は 3-6-12 のように記入すること。

所在地										

13. 共通第一次試験実施に係る受験者収容可能数調査について（依頼）

国入改第98号

昭和52年1月4日

各国立大学

入試担当課長殿

国立大学入試改善調査施設

総主幹 田保橋 彬

当施設におきましては、共通第一次試験実施に係る諸準備を行っておりますが、その一環として各国立大学における当該試験の受験者収容可能数を把握し、試験場設定の際の参考資料としたいので、下記により調査し、別紙様式により昭和52年1月31日までにご回答ください。

記

1. 調査の対象となる施設

(1) 学内の学部・研究所・付属学校等であって、共通第一次試験の試験室として使用しうるもの。
(通常の入試の際に使用していないものも含む)

(2) 調査表は地区・団地毎に別葉で記入すること。

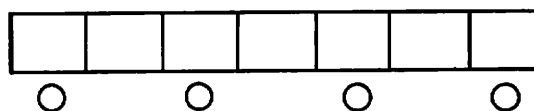
次の室は除外すること。

2. の基準で算出し、収容可能数が30名以下の室、著しい遠隔地で、試験場として使用することが困難な研究所等。

2. 試験室としての受験者収容可能数算定の基準

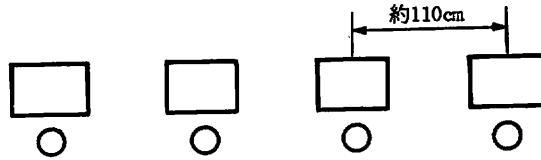
(1) 長机の場合、受験者の座席を1つおきとする。

(例)



(2) 個人机の場合、受験者の座席の中心から中心まで約110cmとする。

(例)



国立大学入試改善調査施設
〒153 東京都目黒区駒場2-19-1
東京教育大学農学部構内
TEL 03-465-3049

◎追って、参考資料として保存したいので、ご回答の際、昭和52年度貴学学部学生募集要領を同封して下さい。

(別紙様式)

大学

地区
団地

共通第一次試験に係る受験者収容可能数調査について (回答)

受験者を収容しうる 教室等の大きさ(A)	室数 (B)	小計 (A) × (B)	備考
人収容			
合	計	名	

14. 昭和51年度国立大学共通第一次試験の実地研究についてのお願い

昭和51年6月1日

国立大学協会

入試改善調査委員会

大学入試制度の根本的な改革は本質的には教育制度そのものの改革と相俟ってはじめて解決されるものではありませんが、教育制度や大学そのものの改革は一朝一夕にその成果を期待できるものではありません。一方入試の改善は今日現実の問題として社会からも強く要望されているところであり、また最近、高等学校では自らの持つ教育の本旨を生かす目的で、そのカリキュラムに大幅な選択制を取入れておられますが大学入試が従来のままではせっかくの改善の趣旨も生かされないと考えます。

国立大学協会では昭和46年以来入試調査特別委員会を設け、かねてよりの懸案であった入試制度の問題点の検討を行ってまいりましたが、共通第一次試験を行うことが多少とも高校教育の正常化、受験生に対する客観的判定、出題の適正化および一発勝負の防止などに役立つであろうという期待を持つに至りました。

共通第一次試験は受験生の高校における学習の達成度を評価することを主眼とする基礎的な学力試験とし、この他に各大学で行うそれぞれの大学・学部・学科等への適性をみる第二次試験と組合せられる性質のものであります。共通第一次試験においては毎年国立大学が衆知を集めて出題できるため、従来ややもすると指摘されることのあった受験生を苦しめるだけの「無理な問題」がなくなることが期待され、従ってより適正な問題が作成できるものと思われれます。

また受験生の立場からしますと従来のような一発勝負ではなく共通第一次試験による基礎的な学力試験と各大学独自に行われる選抜との二本建てになり、従来より、より明確に大学における自己の教育適正が評価されることとなると考えられます。

上記の趣旨に基づき昭和48年に入試改善調査委員会を発足させ、爾来鋭意検討を続けますとともに、この委員会の計画のもとに昭和49、50年度は全国7地区において試験問題実地研究を実施しました。これの実施に当っては関係各方面から多大のご協力をいただき深く感謝いたしております。

これまでの調査研究の結果については、すでにご承知のとおり年度毎に「国立大学入試改善調査研究報告書」をまとめ、関係各方面に配布してご意見を伺っているところでありますが、昭和51年度に

においては、これらのご意見をもとにして、さらに専門的技術的問題や再検討を必要とする問題の調査研究を行うこととしており、また試験問題実地研究も、前年度に引き続き別紙実施要項により実施することにいたしました。

つきましては、別紙実施要項をご高覧の上、これの実施に対して格段のご協力を得たくお願い申し上げます。

15. 受験申込書

昭和51年度国立大学共通第一次試験実地研究受験申込書

国立大学協会入試改善調査委員会

(記入上の注意)

① 同一事項が「漢字等で記入する欄」と「カタカナ等で記入する欄」の2カ所に設けてあるので、いずれも正しく、ていねいに記入すること。
② 太線でかこんでいる部分は高校側が記入するので受験者は記入しないこと。

漢字等で記入する欄				カタカナ等で記入する欄(コンピューター用)			
都道府県	立	高等学校	高校コード	高校名	①	← 左右2ヶ所とも高校側で記入すること。	
				高校整理番号	②	←	
		男 女	性別	姓名	③		④
				性との間は1字分あけること。(記入例) 濁点は1字分とること。	ナカダケンドロウ		④ 男:女 1:2 ← いずれかの数字を○でかこむこと。
昭和	年	月	日生	生年月日	⑤	(記入例) 33年3月29日生れは → 3:3:0:3:2:9	
いずれかを○でかこむ →				数学一般	⑥	選択する 1 ← 数字を○でかこむこと	
いずれかを○でかこむ →				基礎理科	⑦	選択する 1 ← 数字を○でかこむこと	
〒				郵便番号	⑧		
都道府県	市 区	町 村	様方	現住所	都道府県名は記入しないこと。 地番とアルファベット以外はカタカナで記入すること。 区市郡、町村、区町名等の間は1字分あけること。 濁点は1字分とること。		
					(記入例) → ムサシノシキチシヨウシミナミチヨウ 3-3-1:4 サグラダンチ A-6 ミヤカワカスオサマガダ		
				⑨			

高等学校へのお願ひ： 太線でかこんでいる高校コードは文部省の学校基本調査に用いている学校番号を記入してください。また高校整理番号は受験申込者について一連番号を付してください。その場合の記入は001、002、003、……012のようにしてください。

16. 受験申込者名簿

高校名		高校コード					
所在地	〒						
電話	市外局番 局番 番 - () -						

整理番号	姓 名 (カタカナで姓と名の間は1字あけて記入してください)	性 別	備 考
		男 1 女 2	
		男 1 女 2	
		男 1 女 2	
		男 1 女 2	
		男 1 女 2	5
		男 1 女 2	
		男 1 女 2	
		男 1 女 2	
		男 1 女 2	
		男 1 女 2	10
		男 1 女 2	
		男 1 女 2	
		男 1 女 2	
		男 1 女 2	
		男 1 女 2	15
		男 1 女 2	
		男 1 女 2	
		男 1 女 2	
		男 1 女 2	
		男 1 女 2	20

注 意

1. 受験申込者名簿は各人から提出された受験申込書から正しく転記願います。
2. 整理番号欄には各人の受験申込書に付した整理番号と同一のものであるかどうかの確認を願います。
3. 高校コードの記入は文部省の学校基本調査に用いている学校番号を記入願います。
4. 性別は該当する数字を○でかこんでください。

17. 受 験 票

昭和51年度 国立大学共通第一次試験実地研究
国立大学協会

受 験 票

受 験 番 号	0329D
---------	-------

<p>0 6 1 - 0 1</p> <p>ホツカイト^ウ サツホ^{ロシ} シロイシク ホツト^{ウリ} 17チヨウメ ミナミ 1001 フルカワ タカヨシ サマカタ</p> <p>カシキ ナオミ 様</p>
--

試験実施委員会	ホツカイト ^ウ タ ^イ カ ^ク		
試 験 場	ホツカイト ^ウ タ ^イ カ ^ク		
試験場コード	011-1		
出 身 高 校	サツホ ^ロ ケイ ^イ		
高 校 コード	01-5516	整理番号	012

注意事項

1. 当日はこの受験票を必ず持参すること。
2. 当日はHB鉛筆と消しゴムを持参すること。
3. 解答を誤ってマークした場合は消しゴムでていねいに消すこと。
4. 数学一般・基礎理科を選択した場合は、該当欄に*が記入してあるので確かめること。

数 学 一 般	
---------	--

基 礎 理 科	
---------	--

18. 受験者の心得

1 試験期日・試験教科

10月10日（日曜日）、10月11日（月曜日）

国語・社会・数学・理科・外国語の5教科について試験を行います。

2 試験場………試験場については、同封の受験票および「試験場一覧」を参照してください。

3 試験日時

事 項	10月10日（日）			10月11日（月）	
	国 語	数 学	社 会	理 科	英 語
○ 試験室入室	9：00	12：20	14：55	9：00	12：05
○ 問題冊子，解答用紙の配付，受験の説明	9：15	12：25	15：00	9：05	12：10
○ 試験開始	9：30	12：30	15：10	9：15	12：15
○ 社会，理科の選択しない科目の解答用紙回収			16：10	10：15	
○ 時間内退出の許可	10：30	13：30	選択しない解答 用紙回収後		許可し ない
○ 英語の聴解力テスト					13：30
○ 試験終了	11：30	14：30	17：10	11：15	13：55
○ アンケート調査	(昼食)	(休憩)		(昼食)	14：00

- 4 受験者は9時までに試験場に到着して、監督者の指示をうけるようにしてください。
- 5 受験票は試験当日必ず携帯してください。万一受験票を携帯しない場合は、監督者に申し出てその指示をうけてください。また受験に必要なもの以外は持参してはいけません。
- 6 試験室においては、受験票に表示してある受験番号と同一であることを確認の上自分の受験番号の席についてください。ただし、机上の受験番号は末尾のアルファベットを省略してあります。
- 7 試験室にはいったからは、試験の開始前にも、参考書類を見てはいけません。
- 8 受験中は受験票を常に机上に置いてください。
- 9 解答には必ずHBの黒色鉛筆（または黒色シャープペンシル）を使用してください。色鉛筆・ペン・ボールペンなどは使用できません。解答を誤ってマークした場合は、消しゴムでていねいに消してください。
- 10 鉛筆削り用具は使用してもかまいませんが、下敷、定規、コンパス、筆箱などは机上に置いては

いけません。

- 11 時間中の退室は、監督者の指示をうけてください。
- 12 問題冊子は、監督者から試験開始の指示があるまで、絶対に開いてはいけません。
- 13 配付される解答用紙の左上には、あらかじめ受験番号を印刷してあるので、受験票に表示してある自分の受験番号と同一であるかどうかを必ず確認してください。
- 14 社会・理科（基礎理科を除く）はいずれも2科目を試験室において選択し解答してください。
- 15 数学一般、基礎理科については、あらかじめ選択科目として届け出た者のみが解答することになっています。試験室において変更することはできません。
- 16 英語の試験においては、13時30分から聴解力テストを行いますからあらかじめ承知おきください。
- 17 問題冊子の注意事項をよく読んでください。監督者の「やめ」の合図と同時に鉛筆をおき監督者の指示にしたがってください。また監督者の指示があるまで、退室してはいけません。
- 18 解答用紙は絶対に室外に持ち出してはいませんが、問題冊子は持ち帰ってください。
- 19 試験室においては、すべて監督者の指示にしたがってください。

注意 1 問い合わせは高等学校を通じ各試験場大学の試験実施委員会に申し出てください。

2 昼食は各自で用意してください。

3 英語の試験終了後、アンケート調査を行いますのでご協力ください。

試 験 場 一 覧

実施大学	試験場	試験場最寄りの下車駅	試験室案内の掲示場所
北海道大学	法学部	地下鉄南北線「北12条」	文系講義棟入口
北海道教育大学	函館分校	市電「新世橋」または「宮前町」	学生通用口
室蘭工業大学	室蘭工業大	東室蘭駅から道南バス「室蘭工大前」	正門
小樽商科大学	小樽商科大	小樽駅からバス（最上線）「朝日通」	正門
帯広畜産大学	帯広畜産大	帯広駅からバス（畜大農場行）「畜大正門前」	正門
旭川医科大学	旭川医科大	旭川駅から軌道バス（東神楽線）零号停留所	学生玄関
北見工業大学	北見工業大	北見駅から市バス「工大前」	正面
弘前大学	人文学部	弘前駅からバス（松原線）「弘前大前」	人文学部玄関
岩手大学	工学部	盛岡駅からバス（黒石野線）「岩手工事事務所前」	工学部正門
東北大学	農学部	仙台駅から市バス「農学部前」	農学部講義棟入口
秋田大学	教育学部	秋田駅から市バス「秋田大前」	正門，教育学部受付前
山形大学	教養部	山形駅からバス「山大前」	正門掲示板

実施大学	試験場	試験場最寄りの下車駅	試験室案内の掲示場所
福島大学	教育学部	福島駅からバス「福大前」	教育学部正門
茨城大学	教養部	水戸駅からバス「茨大前」	正門
宇都宮大学	教養部	宇都宮駅からバス「宇大前」	正門
群馬大学	教養部	前橋駅から東武バス「自動車教習所前」	正門
千葉大学	教育学部	国電総武線西千葉駅北口	正門及び南門
東京大学	法学部	地下鉄丸の内線「本郷三丁目」	正門掲示板
一橋大学	国立本校	国立駅南口	正門
新潟大学	人文学部	新潟駅からバス「新大正門前」	正門
富山大学	経済学部	市電又はバス「大学前」	正門
金沢大学	教養部	金沢駅からバス「兼六園下」	石川門
福井大学	教育学部	市バス「福井大学前」	正門
山梨大学	工学部	甲府駅北口からバス「大学前」	正門
信州大学	理学部	松本駅からバス「信大前」	正門入口
岐阜大学	教育学部	バス（長良岐大行・おぶさ行）「長良岐大前」	教育学部玄関
静岡大学	教養部	新静岡センターからバス「静岡大前」	教養部掲示板
名古屋大学	経済学部	名古屋駅からバス「名大前」又は地下鉄「本山」	玄関
三重大学	教育学部	近鉄「江戸橋駅」徒歩15分	正門
滋賀大学	経済学部	彦根駅から近江バス「栄町」	正門
	教育学部	石山駅から京阪バス「滋賀大前」	
京都大学	法、経学部	市電又は市バス「東一条」	正門
大阪大学	医学部	梅田阪神百貨店前から市バス（55, 75）「田装橋」 又は地下鉄四ッ橋線「肥後橋」	医学部玄関
	歯学部		歯学部玄関
神戸大学	経営学部	市バス（鶴甲団地行）「神戸大前」	正門
奈良教育大学	教育学部	奈良駅から市内循環バス「高畑町」	正門及び学内掲示場
和歌山大学	経済学部	和歌山駅から「和歌山バス車庫前」	正門
鳥取大学	教養部	鳥取駅からバス「大学前」	正門
岡山大学	教育学部	岡山駅から市バス「岡山東門」	教育学部玄関前
広島大学	教育学部	広島駅から電車、バス（宇品行）で「広大前」	教育学部玄関
山口大学	教養部	小郡駅から市バス（山口行）「湯田温泉」徒歩30分	正門
香川大学	教育学部	高松駅から市内バス西通線西廻り「大学前」	正門
愛媛大学	理学部	松山駅から市電「日赤病院前」	理学部講義棟入口
高知大学	文理学部	朝倉駅から徒歩5分 電車・バス「大学前」	正門
九州大学	文科系学部	博多駅から電車（貝塚行）「九大中門」	中門
長崎大学	教養部	長崎駅から電車「長崎大前」	正門
熊本大学	工学部	交通センターから市バス「熊本大前」	工学部正門
宮崎大学	教育学部	宮崎駅からバス「橋通3丁目」にて乗換え「花殿町」	正門
鹿児島大学	教養部	西鹿児島駅から市バス「法文学部前」	教養部掲示板
琉球大学	教養部	銀バス「琉大入口」	正門守衛室前

(注) 試験場への道順は一例を示したものであり、各自の経路はあらかじめ調べておくこと。

19. 昭和51年度国立大学共通第一次試験実地研究

監督者要領

実施方法等調査専門委員会

- ① 試験実施にあたっては、以下の事項にしたがって進行する。
- ② 英語の聴解力テストに際し、テープレコーダーを操作する職員が配置されていない場合は、その操作をあらかじめ習得する。

試験実施時刻表

	10月10日(日)			10月11日(月)	
	国語	数学	社会	理科	英語
監督者入室	8:50	12:20	14:55	8:50	12:05
受験者入室	9:00	12:20	14:55	9:00	12:05
解答用紙 配付枚数	1	1※	6	4※	1
問題冊子 解答用紙 } 配付	9:15	12:25	15:00	9:05	12:10
試験時間	9:30~11:30	12:30~14:30	15:10~17:10	9:15~11:15	12:15~13:55
	120分	120分	120分	120分	100分
遅刻限度	10:00	13:00	15:40	9:45	12:45
欠席調査	10:00	13:00	15:40	9:45	12:45
選択しない 解答用紙	回収		16:10	10:15	
	回収枚数		4	2	
時間内退室許可	10:30	13:30	選択しない解答用紙回収後		許可しない
残り時間通告	11:20	14:20	17:00	11:05	
終了合図	11:30	14:30	17:10	11:15	13:55

※ 数学および理科の解答用紙配布については3項の(3)、(4)参照のこと。

I 監督者入室

各教科の試験開始前に試験本部から試験問題等を受領する。

	10月10日（日）			10月11日（月）	
	国 語	数 学	社 会	理 科	英 語
監 督 者 入 室	8：50	12：20	14：55	8：50	12：05
受 験 者 入 室	9：00	12：20	14：55	9：00	12：05

2 受験者入室

監督責任者は受験者を着席させ、次の注意を与える。

- ア 受験票の受験番号と同じ席につくこと（ただし、机の上の受験番号は末尾のアルファベットを省略してある旨、知らせる）。
- イ 机の上に受験票を置くこと。
- ウ 机の上には受験票のほか鉛筆（HB）・ナイフ・消しゴム以外を置かないこと。
- エ 解答には必ずHBの黒色鉛筆を使用し、色鉛筆・ペン・ボールペンなどは使用しないこと。
- オ 合図があるまで問題冊子を開かないこと。

3 問題冊子・解答用紙の配付

	国 語	数 学	社 会	理 科	英 語
解 答 用 紙 配 付 枚 数	1	1 ※	6	4 ※	1
問題冊子 解答用紙 } 配布	9：15	12：25	15：00	9：05	12：10

※ 数学および理科の解答用紙配付については(3)、(4)参照

- (1) 解答用紙にはあらかじめ受験番号を印刷してあるので、受験票と照合して配付する。
- (2) 解答用紙に異常があったときは予備のものと交換する。このときは試験調査表の備考欄に「予」と記入し、解答用紙袋の所定欄に受験番号を記入する。なお不用になった解答用紙は×印を付し、問題冊子袋に納める。
- (3) 【数学の解答用紙配付上の注意】数学は数学一般と数学Ⅰのいずれかを選択することになっているが、数学一般は事前に届け出た者に限っており、選択者の有無は試験調査表の科目欄に※印で表示してある。
- (4) 【理科の解答用紙配付上の注意】理科5科目のうち基礎理科は事前に届け出た者に限っており

選択者の有無は試験調査表の科目欄に＊印で表示してある。

(5) 問題冊子および解答用紙配付後に次の注意を与える。

ア 問題冊子の表紙にある注意事項を読むこと。

ただし、最初の試験（国語 9：15～）のみ、監督者が読みあげる。

イ 解答用紙の左上の所定欄に氏名（カタカナ）を、中央部の所定欄には受験番号を記入する。
また右上の所定欄には受験番号を正しくマークすること。

ウ **【社会のみの注意】** 配付した 6 科目 6 枚の解答用紙のうち 2 科目を選択すること。ただし、
地理 A と地理 B を 2 科目として選択しないこと、また試験開始 60 分後に選択しない科目の解答
用紙を回収する。

エ **【理科のみの注意】** 基礎理科選択者は 1 科目で解答用紙 1 枚でよいが、その他の者は基礎理
科以外の 4 科目 4 枚の解答用紙のうち 2 科目を選択すること。また試験開始 60 分後に選択しな
い科目の解答用紙を回収する。

4 試験時間・時間内退室許可時刻・残り時間の通告

試験時間等をあらかじめ知らせる。なお、時間内退室のさいは、答案を直接提出させる。

	国 語	数 学	社 会	理 科	英 語
試 験 時 間	9：30～11：30	12：30～14：30	15：10～17：10	9：15～11：15	12：15～13：55
	120分	120分	120分	120分	100分
時間内退室許可	10：30	13：30	選択しない解答用紙回収後		許可しない
残り時間通告	11：20	14：20	17：00	11：05	

〔英語のみの注意〕 13時30分から15分間聴解力テストを行う旨、あらかじめ通告する。

5 試験開始合図

(1) 振鈴等の合図によって開始するが試験本部の指示がない限り、試験問題についてはいっさい説
明しない。

(2) **【数学の試験開始合図後に注意を与える】**

数学一般、数学Ⅰのそれぞれの問題の冒頭に解答上の特別な注意があるので読むこと。

6 遅刻限度

国 語	数 学	社 会	理 科	英 語
10：00	13：00	15：40	9：45	12：45

試験開始後30分を経過した場合は原則として入室を許可しない。ただし、特別な事情があったときは、試験本部と連絡をとって処置する。

7 欠席調査

国 語	数 学	社 会	理 科	英 語
10：00	13：00	15：40	9：45	12：45

欠席者を調査し、試験調査表に打出してある受験番号を○で囲みその合計を末尾に記入する。欠席者の解答用紙は回収して問題冊子袋に納める。

8 選択しない科目の解答用紙の回収（社会・理科のみ）

	国 語	数 学	社 会	理 科	英 語
回 収			16：10	10：15	
回 収 枚 数			4	2	

選択しない科目の解答用紙を回収し、その枚数を確認した上、問題冊子袋に納める。

（注：試験室の構造上、試験時間中に回収することが困難な場合は終了後でよい）

9 時間内退室許可

国 語	数 学	社 会	理 科	英 語
10：30	13：30	選択しない解答用紙回収後		許可しない

時間内に退室を許可した場合は、受験者本人に答案を直接提出させ、監督者は答案の受験番号と氏名および右上の受験番号マーク欄が正しく記入されているかを確認した上、試験調査表の該当科

目欄に○印を付す。ただし、社会・理科の場合は8項の処理後に退室を認める。また、英語については聴解力テストの関係上、時間内退出を認めない。

10 残り時間通告

国 語	数 学	社 会	理 科	英 語
11:20	14:20	17:00	11:05	

残り時間が10分であることを知らせる。ただし、英語は聴解力テストの関係から知らせない。

11 試験終了の合図

国 語	数 学	社 会	理 科	英 語
11:30	14:30	17:10	11:15	13:55

(1) 振鈴等の合図によってやめさせるが、次の注意を与える。

ア 許可するまでは退出しないこと。

イ 受験番号および氏名の記入を確認し、とくに答案の右上にマークした受験番号が正しいか確認すること。

(2) 監督者は答案を科目毎の番号順に取りそろえ、試験調査表の科目欄に○印を付し、その合計を末尾に記入するとともに、解答用紙袋の所定欄に記入する。回収した答案が過不足ないことを確認したら受験者の退室を許可してよい。ただし、英語の試験を除く。

(3) 【英語の試験終了後のアンケート調査】今回の実地研究についてのアンケート調査を行うので答案回収後にアンケート調査票を配付し、記入させてから退室させる。

(4) 予備解答用紙を使用した場合、その答案を最上部にし、答案は折れないように解答用紙袋に納め、試験本部に引渡す。

21. 実地研究実施についての注意事項

I 試験問題等の発送・返送について

1 試験問題等の送付

- (1) 9月24・25日に各大学向け日通品川支店から発送します。
- (2) 荷姿はM7コンテナ（主として解答用紙用）
M4コンテナ（主として問題冊子用） } となっています。
- (3) この中には試験問題冊子，解答用紙およびそれぞれの分封用封筒，アンケート調査票、英語聞きとりテスト用のテープが入っています。
- (4) 貴大学最寄りの日通支店長経由で定められた責任者が、貴大学の「試験実施委員会事務担当委員」を荷受人としてお届けします。9月28日頃までには到着する予定です。
- (5) 当方で封印したものを確認のうえ，上記荷受人の「印」で受領して下さい。
- (6) 荷物が到着次第国立大学入試改善調査施設あて電話でお知らせください。
- (7) なお，内容確認のうえ「試験問題・解答用紙配布数内訳」の控に受領印を押して当施設あて郵送して下さい。

2 答案等の返送

- (1) 返送していただく内容は
 - イ 答案及びアンケート調査票返送明細書
 - ロ 答案（解答マークシート）
 - ハ 試験調査表
 - ニ アンケート調査票
 - ホ 英語聞きとりテストの予備テープ1本
- (2) M4コンテナ1個に格納して下さい。(その他のコンテナは答案返送の際日通が引取ります。)
- (3) 答案の取扱い
 - イ 試験終了後，科目ごとに答案と試験調査表を照合して下さい。その際、「予備」解答用紙を使用した場合には解答用紙袋に，その受験番号を記入すると同時に，その答案を最上部に重ねることになっていますので，確認して下さい。(監督者要領11-(4))
 - ロ 照合した答案は解答用紙袋に入れたまま，一括してダンボール箱に収めて下さい。

- (4) アンケート調査票は回収後、答案と識別しやすいよう、貴学の封筒に入れ、答案と共にダンボール箱に収めて下さい。
- (5) 試験調査表は、貴学の封筒に入れ、アンケート調査票を入れたダンボールの中に収めて下さい。
- (6) 答案及びアンケート調査票返送明細書、答案、試験調査表、テープ、アンケート調査票をM4コンテナに格納し、パッキングで固定して下さい。
- (7) 10月12日（水）午後2時頃、配送した日通の責任者が引取りにまいります。試験実施委員会事務担当委員立合いのうえ封印して引渡して下さい。（封印用品は問題冊子のコンテナに同封してあります。）
- (8) 輸送料は往復とも一括して当施設が負担し、契約済みです。

II 配付物について

1 試験室割当表

- (1) 試験室ごとに割当てた受験生の数、先頭（FROM）の受験番号と末尾（TO）の受験番号を例挙します。
- (2) 試験室の表示は各大学で報告のあった教室名に代え、01, 02, 03, ……と表示してあります。

2 受験者名簿

- (1) 受験番号、受付番号、氏名、高校名を表示し、試験室ごとに別葉になっています。
- (2) スウ…は数学一般、キソ…は基礎理科の意味です。これらの科目の選択者には*印を付してあります。
- (3) 受付番号は、高校コード・整理番号の連結コードです。
- (4) 受験者を50音順に配列し、これに受験番号を振付けています。

3 試験問題

- (1) 国語・数学・社会・理科・英記の5分冊となっています。配付数は「試験問題・解答用紙配付内訳」によって確認して下さい。
国語・英語は200部単位、数学・理科は100部単位、社会は50部単位で包装してあります。ただし端数は別封包です。
- (2) 「試験室割当表」に従って教科別、試験室別に予備（各室3部）を含めて問題冊子袋に分封して下さい。
- (3) 英語聴解力テスト用のテープについては録音してある説明を聞きながら音量調節など必要な

準備をお願いします。

(試験問題・テープは別途送付)

4 解答用紙

- (1) 折り曲げたりしないよう取扱いに注意して下さい。
- (2) 科目毎に色刷りしてあり、配布数は「試験問題・解答用紙配付数内訳」によって確認して下さい。
- (3) 解答用紙には試験場コード(4桁)と受験番号(5桁)が印刷してあります。ただし、予備解答用紙には3桁の試験場コードのみ印刷してあります。また数学一般と基礎理科は、これらの選択者の分のみ受験番号を印刷してありますので、「試験室割当表」に従って科目別、試験室別に予備を含め解答用紙袋に分封して下さい。
- (4) 数学Iおよび理科4科目(物理・化学・生物・地学)の解答用紙には、数学一般選択者、基礎理科選択者の分も含めて印刷されています。数学一般・基礎理科選択者は他の科目を受験できないことになっているので、これら選択者の他の科目の解答用紙を「試験調査表」によって除外して下さい。
- (5) 試験室当りの予備の解答用紙の数は、国語、数学(数学一般を除く)、英語については各3枚あて、社会、理科(基礎理科を除く)については各2枚あて、数学一般、基礎理科については、その科目選択者のいる試験室にのみ用意し、5名以内は1枚、6名以上は2枚とします。
- (6) 折れたり曲ったり汚れた解答用紙があったときは「予備」と交換して下さい。(「監督者要領」3.(2)参照)

(別途送付)

5 アンケート調査票

- (1) 折り曲げたりしないよう取扱いに注意して下さい。
- (2) 配布数は受験者数に加え、予備として10%ほど送ります。
- (3) 英語の試験終了後に使用するので、予め試験室別に分封し、試験問題とともに試験監督者に渡して下さい。

(別途送付)

6 試験調査表

- (1) 教科別、試験室別に別葉になっています。
- (2) この表は、解答用紙の分封、受験者への解答用紙の配付、欠席者調査、選択科目の表示、答案回収のチェック等に用いるものです。各試験室の監督者に渡して下さい。(「監督者要領」3、

7, 9, 11参照)

(3) 試験本部は、試験了後、回収された答案の確認に用いて下さい。

7. 監督者要領

試験本部用20部、試験監督者用として受験者50名につき4部とします。

8 受験者心得

受験者には、受験票とともに送付してありますが、試験本部用を20部とします。

9 受験票の予備

(1) 試験本部の再発行用として20枚 (㊟と表示してあります。)

(2) 受験票を携帯しない者に対し、身分証明書等によって確認し、「受験者名簿」と照合の上再発行して下さい。

(3) 再発行の際は、受験番号・氏名・試験場コード・高校コード・整理番号(受付番号)・選択科目欄を記入して下さい。受験者の住所・試験実施委員会名・試験場名の記入は要しません。

10 受験番号票

(1) 試験前日までに試験室割当表にしたがって机に貼ってください。

(2) 受験番号の末尾のアルファベットは省略してください。

11 問題冊子袋(黒刷り)

(1) 試験問題の冊子を「試験室割当表」に従って、教科別に予備を含めて分封して下さい。

(2) 1袋当りの封入可能数は、横2段入れの場合、国語・英語は200部、数学は100部、社会・理科は50部程度となっておりますが、この基準での2倍の数の袋を送付します。

(3) 問題冊子袋下欄には数学一般及び基礎理科選択者の受験番号が印刷してありますが、記入を要しません。

(別途送付)

12 解答用紙袋(赤刷り)

(1) 解答用紙を「試験室割当表」「試験調査表」に従って分封して下さい。解答用紙袋の科目欄に封入する解答用紙の科目名を○印で囲んで下さい。

(2) 1袋当りの封入可能数は100~120枚です。

(別途送付)

13 答案及びアンケート調査票返送明細書

答案は解答用紙袋に収めて返送願うことになっておりますが、その際、科目毎の袋数を「答案

及びアンケート調査票返送明細書」に記入して下さい。

注1：全試験終了後、参加高校に配付する試験問題は、参加校数を同封しますが、解答用紙はその分を用意してありませんので、欠席者分の解答用紙を各高校1枚あて（科目は問いません）配付して下さい。

注2：報道関係者から試験問題等の入手希望があった場合は、当日の試験終了後渡すようにして下さい。

Ⅲ 一般的事項

1 掲示について

掲示は、次のことを準備して下さい。

- (1) 試験場表示
- (2) 試験室案内（万一、受験票を携帯しない者は試験本部に申し出る旨の掲示をして下さい）
- (3) その他必要な掲示

2 問題訂正について

- (1) 問題の誤りが事前に判明し、時間的に余裕がある場合は訂正文を速達書留で送付し、電話連絡します。
- (2) 時間的余裕のない場合、試験実施中に問題の訂正の必要が生じた時には電話で指示します。
- (3) 各試験室に対する問題訂正の指示は下記の書式に従って下さい。

昭和 年 月 日

試験監督者 殿

試験実施委員会委員長

() 問題訂正

下記のとおり黒板に書いて訂正して下さい

記

22. 受験者に対するアンケート調査票

アンケート調査

記入上の注意
 ○自分で解答した科目について、該当箇所をぬりつぶすこと。
 ○英語に関しては聴解力テスト以外の内容について答えること。

I 各科目について

項目	科目	問題の文章はわかりやすいか			問題はむずかしいか			解答の時間			解答用紙のデザイン			解答用紙の色		
		難しい	普通	易しい	難しい	普通	易しい	長い	普通	短い	良い	普通	悪い	見やすい	普通	見にくい
	国語	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
数学	数学	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	数学一般	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
社会	日本史	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	世界史	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	地理 A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	地理 B	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	政治・経済	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	倫理・社会	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
理科	物理	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	化学	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	生物	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	地学	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	基礎理科	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	英語	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

II 感想記入欄(気づいたことを記入して下さい)

23. 試験実施大学報告書作成について（依頼）

国入改第91号

昭和51年12月3日

各大学試験実施委員会

委員長 殿

実施方法等調査専門委員会

委員長 加藤 陸奥雄

このたびの実地研究につきましては多大のご協力をいただきありがとうございました。

さて、本年度の報告書作成にあたり、各大学の試験実施委員会の報告を別紙項目によりご回答いただき、項目別に要約して掲載いたしたいので、きたる12月25日（土）までにご回答くださるようお願いいたします。

回答返送先

国立大学入試改善調査施設

〒153 東京都目黒区駒場2丁目19番1号

TEL 03-465-3948～9

（別紙）

大学名 _____

◎ 下記のことについて、項目別にお気付きの点を記入の上ご回答願います。

1 本年度の実地研究について

(1) 「受験者心得」の内容について

(2) 「問題冊子」及び「解答用紙」の輸送について

(3) 「問題冊子」の印刷、紙質、活字の大きさ等について

(4) 「解答用紙」の大きさ、色等について

(5) 「試験時間」の長・短及び休憩時間等について

(6) 「連絡体制」について

(7) 「監督者要領の内容」について

(8) 「試験調査表」について

(9) 「聴解力テスト」の設備上の可否について

(10) 「社会・理科」の解答用紙は試験場において、未選択分を回収廃棄する方式をとっているのですが、共通の様式に改めるよう検討していますが、配付・回収上どうお考えですか。

(11) 予め解答用紙に受験番号を印刷することは技術的にも問題があると思われるがこれについてどうお考えですか。

2 その他（お気付きの点をご記入願います。）

--

24. 大学入学者選抜方法の改善について

—報 告—

昭和46年12月9日 大学入学者選抜方法の改善に関する会議

大学入学者選抜方法の改善に関する会議（以下「改善会議」という。）は、大学入学者選抜の問題がわが国の学校教育全般に重大な影響を及ぼしている現状にかんがみ、昨年7月以来、従来の漸進的改善の成果をふまえつつ長期的展望に立った大学入学者選抜方法の改善について検討を続けてきた。昨年12月には、最終的な結論を得る前に広く関係各方面の意見を求めることとし、それまでの検討結果を整理して「中間発表」として公表した。

その後引き続き中間発表を基礎として、これに対する関係各方面の貴重な意見をじゅうぶんに参考としつつ慎重に審議を重ねてきた。寄せられた多くの意見には考え方にかなりの幅があり、そのすべてを報告に取り入れることは困難であった。しかしながら、意見の趣旨はじゅうぶん尊重し、共通の方向を見いだすことにできるかぎり努力し、ここに最終報告をとりまとめたものである。

大学入学者選抜にかかる問題は、単に選抜方法のあり方のみ起因するものではなく、国公立にわたる大学のあり方や社会的風潮などを背景とするきわめて複雑な問題である。したがって、本報告において提案した方策のみによって、わが国の大学入学者の選抜にかかる諸問題が一挙に解決されるものではない。選抜方法の改善とともに、大学の教育・研究の質的向上を図り、それぞれ特色のある大学教育が行なわれるようにするなど、総合的な努力を積み重ねていくことが肝要である。

本改善会議は、政府が本報告に基づき、大学入学者選抜方法の改善を積極的に推進するよう強く要望するとともに、大学入学者選抜に関係するすべての人々が緊密に協力しつつ、それぞれの立場で改善の努力を払われることを念願するものである。

I. 大学入学者選抜の意義

大学入学者の選抜は、基本的には、入学志願者の高等学校における学習成果の測定評価を通じて、大学教育に必要な基礎的能力・適性と志望する大学・学部目的、特色、専門分野等に応じて重視される能力・適性の程度を判定し、入学定員を考慮しつつ、当該大学・学部の教育により適する者を入学させるために実施されるものである。

同時にそれは、高等学校卒業者をその能力・適性に応じて大学に進学させ、各人の個性に即してその能力・適性のより適切な伸長を期するための教育的業務であり、高等学校教育と大学教育とを関連

づける重要な役割を果たすものである。

したがって、大学入学者の選抜は、単に大学の立場だけで考えられるべきものではない。高等学校教育の正常な発展を助長するようじゅうぶん配慮されるとともに、選抜の方法およびその結果が公正かつ妥当なものとして、志願者はもとより社会一般の信頼を受けるように実施されなければならない。

II. 大学入学者選抜の問題点

わが国における大学入学者選抜の現状には多くの問題があり、大学教育はもとより高等学校以下の教育にまで重大な影響を及ぼしている。

それらの諸問題は、単に選抜の方法の不備によるばかりではなく、少数の特定大学・学部を志向する社会的風潮や、近年における大学進学希望者の増加などを背景として、きわめて複雑な形となって現われているが、それらのうち主なものをあげれば次のとおりである。

1. 特定の大学・学部集中する激しい入学競争について

近年、わが国においても、大学への進学希望者は年々増加している。

これに対応して、大学の拡充と多様化も漸次表現されてきたが、志願者が必ずしも自己の能力・適性に即することなく、少数の特定の大学や学部へ過度に集中する傾向がいぜんとして見受けられる。その結果、いわゆる入試地獄とも称されるような激しい入学競争がいまなお展開されている。

これはまず、わが国の社会に根強く残っているいわゆる有名校偏重ともいふべき風潮によるところが大きいと考えられる。

また、大学の伝統や質的充実度の相違等によって、社会一般の各大学に対する評価に差異があること、大学が教員の人事交流の面、単位の相互認定の面等において閉鎖的であることなどもその原因の一つとなっている。

これらの事情を背景として、高等学校においては、生徒あるいはその父母の特定大学・学部への強い進学希望もあって、教師の進路指導は必ずしもじゅうぶんな成果をあげていないのが実情である。

このようにして、大学全体の収容力は、志願者に比してそれほど不足していないにもかかわらず大量の不合格者を生ずることとなり、毎年十数万人にのぼる青年がいわゆる浪人生活を送っているのが現状である。これらの浪人の存在が、競争をさらに激化させる結果となっており、多数の青年が、やたら有為な時期を基礎的能力の涵養よりも、受験技術の練磨のために費やし、それが社会的にも慣習化していることは重大な問題といわなければならない。

2. 学力検査偏重の選抜について

わが国の大学入学者選抜は、大学自らが行なう学力検査の結果のみを重視して行なわれている場合が多い。これは学力検査の得点順に合格者を決定でき、選抜が容易であること、高等学校長から提出される調査書が必ずしもじゅうぶん信頼されておらず、またそれがじゅうぶんに活用されていないこと、さらに選抜期間が比較的短いことなどの事情によるものと思われる。

国立教育研究所、能力発研究所やいくつかの大学における調査研究によれば、学力検査の結果よりも高等学校在学中の成績のほうが、さらに学力検査のみあるいは調査書のみというような単一の資料によるよりも、これらを含めた各種の資料を多角的、総合的に用いるほうが大学における学業成績をよりよく予測できるという報告が出されている。

大学が行なう学力検査の結果は、志願者の学習面での努力の成果を示す重要な資料の一つではあるが、その得点順のみを重視した選抜は、偶然性に左右されるおそれもあり、真に選抜目的を満たしうる妥当なものといえるかどうか問題である。

3. 高等学校教育等への影響について

大学が行なう学力検査の内容については、近年改善のあとがみられるとはいえ、往々にして高等学校学習指導要領に掲げる各教科・科目の目標や内容を逸脱した問題、あるいは単なる記憶や断片的知識のみを求める問題等がなお見受けられ、これが高等学校の教育をゆがめる一つの原因となっている。

また、高等学校における学力検査に関係のある特定の教科・科目のみが重視される結果、全人的な教育が妨げられがちであり、激しい入学競争による精神的な重圧感とあいまって、生徒の心身の発達に重大な影響を及ぼしている。

大学においても、入学後に留年者や転退学者が増加し、あるいは精神衛生上問題のある学生が増加する傾向がみられることは、まことに憂慮すべき問題といわなければならない。

さらに、中学校以下の教育にも知育偏重の弊をもたらしていることも看過し得ない問題である。

Ⅲ. 大学入学者選抜方法の改善方策

1. 改善の方向

大学入学者の選抜は、その本来の意義をじゅうぶん認識し、妥当性を高め、現状の弊害をできる限り除去することを旨として行なわれなければならない。本改善会議は、これまで調査書の活用の促進や学力検査問題の改善などを中心に漸進的な改善方策を提案してきたが、問題の重要性にかんがみ、この際共通学力検査の新たな実施の検討も含めて、今後の大学入学者選抜方法改善の方向ととるべき諸方策を明らかにし、その推進を図ることが必要と考える。

大学入学者の選抜は、出身高等学校長から提出される調査書、全国的規模で行なわれる共通学力検査の結果、大学が行なう学力検査、実技検査、面接、小論文等の結果および健康診断の結果を多角的に活用することによって、志願者の能力・適性を総合的に判定するという方法が最も望ましいと考えられる。

各大学が実施する具体的な方法については、大学入学者選抜の本来の意義がそこなわれないかぎり必ずしも同一である必要はなく、最もふさわしい人材が得られるよう適切な方法がくふうされてよい。

しかし、一般的に言えば、調査書と共通学力検査の結果により、主として大学教育に必要とされる基礎的な能力・適性の程度を、また大学が行なう学力検査等の結果により、主として大学・学部の目的、特色、専門分野等に応じて重視される能力・適性の程度を、それぞれ判定するようにすることが適切であろう。

各種の選抜資料は、それぞれ異なる長所と短所を備えており、利用の仕方や果たすべき役割にも相違がある。したがって、大学は、これらの資料の特性をじゅうぶんに理解し、当該大学の選抜目的に照らして最も有効かつ適切に活用するよう配慮することが必要である。

また、大学における選抜方法の改善とともに、高等学校においては、その教育目標に応じて生徒の学習成果を公正に評価し、この評価に基づいて生徒の能力・適性に応ずる適切な進路指導を行なうことが必要である。

なお、改善の目標が実現されるようにするためには、大学、高等学校ともに、それぞれ必要な組織の整備を図り、またこの組織を通じて両者の協力関係をいっそう緊密にすることが望ましい。

2. 改善の方策

(1) 調査書の活用について

調査書は、志願者の高等学校在学中の学習成績ならびに性格および行動の特徴など、学力検査だけでは判断しがたい能力・適性を示す総合的な資料であり、入学者選抜のための基礎資料として多角的に活用されるべきものである。

調査書の活用の仕方にはさまざまな方法があるが、一般的には、学力検査の結果等他の資料とともに総合的に利用する方法、出身学校長の推薦に基づき学力検査を免除して合否を判定するいわゆる推薦入学の場合の基礎的資料として利用する方法、学力検査等を綿密に行なう目的で受験者数を限定するために第一次選抜を実施する場合の基礎的資料として利用する方法などが考えられる。

このように、調査書が入学者選抜の基礎資料の一つとして広く利用されるようにするためには、調査書の記載内容の客観性をじゅうぶんに確保し、信頼度をより高めるよう、様式、内容や記載の基準

の改善を図るとともに、作成手続きについても整備する必要がある。

特に、調査書の作成および利用の便を考慮し、従来文章表現を要していた項目については、可能なかぎり記号または段階化し、あるいは選択肢を設けることなどを検討する必要がある。また、調査書に志願者の将来の能力の伸びの予測に役立つ内容を盛り込むことも検討すべきであろう。

さらに、大学における調査書活用の便に資するため、調査書の具体的な利用方法等に関する解説資料の作成を考慮することが望ましい。

(2) 共通学力検査の実施について

大学が入学者の選抜を行なうにあたっては、大学教育に必要とされる基礎的な能力・適性の程度と、個々の大学の目的、特色、専門分野等に応じて重視される能力・適性の程度を、それぞれ判定するための資料を得る必要があることは、さきに述べたとおりである。

このうち、特に大学教育に必要とされる基礎的な能力・適性の程度の判定については、各大学が個々に学力検査を実施するよりも、大学側と高等学校側とが緊密に協力して、志願者の高等学校における学習成果を適切に測定評価する全国的規模の共通学力検査を実施し、その結果を利用するほうがより望ましい結果を得ることができると考えられる。

この方式により、大学および高等学校の関係者の衆知を集めたすぐれた問題を作成することが可能となり、大学に対して志願者の有する能力・適性の程度を示す信頼度の高い資料を提供できるばかりではなく、高等学校における教育の正常な発展に大きく寄与することができよう。

また、大学は、さらに必要に応じて当該大学・学部の目的、特色、専門分野等に応じた学力検査、実技検査、面接、小論文等を課する余裕をも得ることができ、これらの異なる視点からの各種の選抜資料を多角的に活用することによって、従来よりもいっそう妥当な選抜を行なうことができるようになるであろう。

共通学力検査の結果の利用方法については、他の資料と合わせて合否の総合判定のための資料として利用する方法、第一次選抜のための資料の一つとして利用する方法、調査書における学力評価基準の差異を補正するための資料として利用する方法等が考えられるが、どのような利用方法をとるかにについては、各大学が他の選抜資料の取り扱いとの関連をじゅうぶんに考慮して適切に決定することが望ましい。

共通学力検査は、高等学校学習指導要領に準拠しつつ、基礎的理解力と応用的能力をじゅうぶんに検出できるようなものであることが望ましく、高等学校第三学年の生徒（定時制および通信制の課程にあっては、これに相当する学年の生徒）および卒業生（高等学校卒業生と同等以上の学力があると

認められる者を含む。)を対象として実施されることが妥当であろう。

共通学力検査は、大学側と高等学校側との緊密な協力を基礎とすべきであるが、実施機関の形態、実施方法、実施の手順、国の援助のあり方等の具体的な実施方策については、大学、高等学校の関係者および関係諸団体とじゅうぶん協議し、意見の調整を図りつつ早急に準備を進めることが望ましい。

なお、この共通学力検査と現在行なわれている大学入学資格検定との関係や、進学適性を判定するための検査のあり方などについても、今後の課題として研究を進める必要がある。

(3) 大学が行なう学力検査等の改善について

大学・学部の目的、特色、専門分野等にふさわしい人材を選抜するためには、大学においても、当該大学・学部において特に重視される能力・適性の程度をさらに綿密に判定することを主な目的として、学力検査、実技検査、面接、小論文その他特別の検査を実施する必要があるであろう。

このような目的をもって大学が行なう学力検査等は、検査目標を明確にし、調査書や共通学力検査だけではふじゅうぶんな面、たとえば、創造的思考力、表現力等の検査や実技検査に重点を置くなど、出題の形式、内容にもじゅうぶんのくふうを加え、合理的な方法により実施されることが必要である。

また、学力検査の出題教材・科目の種類については、共通学力検査との関連をじゅうぶん考慮して、大学が特に必要と認める教科・科目にとどめるよう配慮することが望ましい。

(4) 大学における入学者選抜事務処理体制の整備について

大学における入学者選抜に関する業務は、従来から、多くの大学では主として年度後半にかかる季節的なものとして取り扱われている。

しかしながら、大学がより妥当な選抜を実施していくためには、高等学校等を通じ、進学希望者に対して大学・学部の概要、教育研究上の特色などについてじゅうぶんな広報活動を行ない、また、選抜結果について追跡調査を行ない、その妥当性を常に吟味し、選抜方法の改善に努めることが必要である。さらに、これらの追跡調査に関連して、大学における教育評価の方法に関する調査研究を行なうことも必要であろう。

このような入学者選抜に関する業務を、教員と密接に協力しつつ適切に遂行するためには、大学に入学者選抜関係事務を専門的に処理する組織（仮称「入学事務部」）を常設し、専門的知識と関係領域の学問に造詣の深い専門職員を配慮する必要がある。

この組織の責任者は、当該大学の入学者選抜に関する基本的針決定に参画し、同時に入学者選抜実施の権限と責任を付与されることが望ましい。

入学事務部を中心とする入学者等についての追跡調査の結果は、当該大学の選抜方法の改善充実に

役立つことはもとより、大学教育の効果測定にも資することができる。さらに、これらの結果を随時高等学校に還元することにより、高等学校の進路指導の参考に供することもできよう。

なお、政府は、入学者選抜に関する専門的な知識を有する職員の研修、養成等について特に配慮する必要がある。

(5) 高等学校における進路指導の充実について

大学入学者選抜にかかる諸問題の改善を期するためには、選抜方法の改善とならんで高等学校における進路指導の充実が大きな役割を果すものと考えられる。

高等学校の現状を見ると、生徒の能力・適性よりも、志望大学の志願倍率の傾向や学力検査実施教科・科目数等による入学の難易度に基づく指導がなされていることもあり、必ずしも適切かつじゅうぶんな進路指導が行なわれているとはいいがたい。

この際、大学における入学事務部の設置に対応して、高等学校に主として進路指導を担当する専門的能力を有する教員を配置し、この両者の密接な協力のもとに進路指導が行なわれるようにすることが望ましい。

これにより、各人の個性に即した能力・適性のより適切な伸長と、いわゆる浪人の減少を期待することができよう。

また、近年増加の傾向にあるといわれる大学入学後の留年、転学、転学部等による混乱を減少させるうえにも役立つであろう。

3. その他改善を要する事項

本改善会議は、上記の改善方策に合わせ、高等学校の職業教育を主とする学科の卒業者の大学進学の問題、国立大学一期・二期制度の問題および国公私立大学入学者選抜期間の問題についても検討したので、ここに付記する。

(1) 高等学校の職業教育を主とする学科の卒業者の大学進学について

高等学校の職業教育を主とする学科の卒業者の大学進学については、普通教育を主とする学科の卒業者に比してきわめて困難な状況にあるが、これらの学科の卒業者についても、その能力・適性に応じて大学に進学する機会が実質的にも確保されなければならない。

そのためには、当面普通教育に関する科目に代えて専門教育に関する科目で受験させる、いわゆる代替科目制度の拡充とその活用をいっそう推進するとともに、適当な大学において、高等学校の職業教育を主とする学科における教育の成果を基礎とする教育過程の開設を図ることについて検討する必要がある。

なお、2—(2)に提案した共通学力検査が実施された場合の職業教育を主とする学科の卒業者の取り扱いについては、さらに検討する必要がある。

(2) 国立大学一期・二期制度について

国立大学一期・二期制度については、志願者の国立大学受験の機会を一回に限定しないという趣旨をじゅうぶんに尊重しつつ、共通学力検査の実施等の選抜方法改善との関連、国立大学協会における審議状況等をもにらみあわせながら、今後なお慎重に検討する必要がある。

(3) 大学入学者の選抜期間について

現行の大学入学者選抜の期間については、高等学校教育の完成が入学者選抜によって妨げられることのないよう、比較的短い期間とされている。

大学が、各種の選抜資料を綿密に検討し、より妥当な選抜を行なうようにするためには、じゅうぶんな時間的余裕をもつことが望ましく、入学者選抜の期間および期日の問題についても、高等学校教育との関連を考慮しつつ、今後慎重に検討する必要がある。

25. 国立大学入学者選抜期日の一元化について

昭和50年3月26日 大学入学者選抜方法の改善に関する会議

本改善会議は、国立大学入学者選抜期日の一元化について、関係各方面の意見を十分考慮しながら慎重に検討を進めてきた結果、次のとおり意見をとりまとめるにいたったので、報告する。

1. 国立大学の入学者選抜は、新制大学発足以来1期校と2期校に分かれて実施されており、本改善会議も国立大学への受験の機会を複数にできるという長所を評価してきたところである。しかしながら、1期校と2期校の区分が20数年の長期にわたってほとんど固定されたまま現在にいたっているため種々問題を生じており、国立大学の大多数も1期・2期制の一元化を求め又はそれを支持するにいたっている。

私立大学の比重の増大等に伴い、志望校の選択について受験生の意識が変化してきたこと、1期校と2期校とで専門分野に大きな差があるため必ずしも受験生の志望を適切に生かすことになっていないこと、更に1期校と2期校に重複して合格する者があることが国立大学において相当数の欠員を生じ、また地元入学者を減少させる要因となっていることなどを考慮すると、国立大学側の意向に反して1期・2期制を継続することは必ずしも適当とは言い難い。

この際、入学者選抜方法の改善を総合的に推進していく中で、国立大学入学者選抜期日を一元化することも一つの適切な方策と考えられよう。

2. しかしながら、国公私立大学を受験する人員のうち約20%（約15万人）の者が1期校と2期校を併願していると推定されており、国立大学の入学者選抜期日の一元化がこれらの受験生、家族及び一般社会に及ぼす影響はかなり大きいと考えられる。また、高等学校の進学指導のあり方にも大きな影響を及ぼすであろう。

従って、一元化を図るに当たっては、受験生がそれぞれの能力・適性に応じて志望を生かせるよう、大学は一元化によって生ずる時間的余裕を生かして一層適正妥当な選抜を行うため更に努力する必要がある。高等学校においては更に進学指導の充実に配慮する必要がある。これらの配慮については、共通学力検査を活用することにより相当の成果を期待できるものと考えられる。

3. 以上の点を考慮すると、選抜期日の一元化は共通学力検査の実施と関連させて行うことが望ましいと考えられるが、共通学力検査は現在なお検討中であるので、現実的な方策としては、選抜期日の一元化について相当の予告期間（昭和53年度大学入学者選抜からの実施を目途とする）を設けることとし、この予告期間との関連において共通学力検査の実施を推進することが適当であろう。

以上の措置を通じて受験生が真に能力・適性に応じた大学選択ができるようにするためには、さきに本改善会議が報告した諸施策を総合的に推進するとともに、それぞれの大学の特色ある発展を図っていくことが基本的に重要であり、この際、政府をはじめ関係者の一層の努力を要請したい。

26. 全国共通第1次試験に関するまとめ

昭和47年9月14日 国立大学協会入試調査特別委員会

入試調査特別委員会は、全国立大学における全国共通第1次試験の可否、方法の検討を目的として発足し、昨年3月10日の第1回以来、18回の委員会、小委員会を開いた。これはこれまでの討議の結果を整理したものである。

1. 全国共通第1次試験の基本構想

(1) 原則として、各大学・各学部の性格に応じた第2次試験を行なうことを前提として、大学の受験生に全国共通の第1次試験を課する。

(2) 共通第1次の試験期は12月または1月頃、試験日数は2、3日程度とする。

期日は各大学で行なう第2次試験期日（1期校3月上旬、2期校3月下旬）を基準として、共通第1次試験の採点、集計、整理、各大学への通知等に要する日数を考えて逆算して決めたものである。

(3) 受験生は、1期校・2期校ともに、共通第1次試験以前に志望大学へ願書を提出する。

(4) 共通第1次試験は少なくとも5教科とする。教科は各大学共通とし、科目指定を行わず、教科内科目は受験生の選択とする。

昭和48年度から高校教育は新教育課程によるので、生徒の取得単位は大幅に選択制になる。したがって、科目指定は1部の受験生を拒むおそれがあるからである。

(5) 出題には低水準の問題から高水準の問題まで含める。各大学には問題番号別の点数まで通知する。大学又は学部の方針によって、自由に問題の全部又は1部を利用できるよう考慮した。

(6) 共通第1次試験は、入学試験の1部であり、なお、その結果を進学指導に利用させるものではないので、試験の結果は志望大学のみ通知し、本人および高校には通知しない。試験の結果を進学指導に利用することは、大学および高校の格差を助長するおそれがあるからである。共通第1次試験で足切りをする場合、共通第1次試験の合格者をなるべく早く公表するとともに本人に通知すべきことは当然である。

(7) 毎年その年の国立大学入学志望者全員に受験させる。

(8) 試験問題の作成および選定には、多くの大学から作成委員および選定委員を選出し、その委員は毎年半数交代として、問題の傾向の固定化を防ぐ。

(9) 予備問題を作成しておき、病欠欠席者および試験実施の際事故の生じた場合の受験生に対して、

期日を改めて追試験を行なう。追試験の点数は原則として最初の試験の点数と同等に扱う。

(10) どの大学の志望者も各居住地地域の試験場で受験できる。

(11) 膨大な数の答案の採点、集計のために、電子計算機を使用しなければならないので、試験は客観テスト（いわゆる〇×式）たらざるを得ないが、今後の研究によって、従来批判されているような客観テスト（〇×式）の欠点が除かれる希望はある。

(12) 共通第1次試験の問題作成、試験実施、採点、集計、成績の送付等のため相当多数の常勤職員を擁する機関、例えば国立大学の共同利用機関あるいは、法人格の民間団体等を必要とする。試験期以外には、試験問題の分析・研究等を行なう。

(13) 共通第1次試験の実施にあたっては、大学・高校の協力を必要とする。

この協力は、共通第1次試験をする際の試験事務、試験監督、試験場確保などを意味する。

(14) 各大学においては、第2次試験に際しての試験科目の減少、場合によっては受験者数の制限（足切り）の行なわれるところもあり、共通第1次試験、第2次試験を合わせても、入学試験に関する労力は現行にくらべ必ずしも増大しないであろう。なお、共通第1次試験の経費は別途まかなう。

(15) 試験実施における事故に対する法的、行政的責任の所在を明らかにしておく。

2. 共通第2次試験結果利用方法

(1) 共通第1次試験の結果は、各大学で行なう第2次試験の結果と組合わせて評価するのを原則とし、組合わせの方法は各大学の自由である。各大学の組合わせの方法は原則として公表しない。

(2) 志願者の非常に多い場合は共通第1次試験の結果で第2次試験の受験生の制限をすることもできる。その場合残った者の合否を第2次試験の結果のみから決めることは、共通第1次試験および第2次試験の組合わせによってはじめて良い評価ができるという趣旨から望ましくない。

(3) 第2次試験を行わず、共通第1次試験の結果のみで合否を決定することもできるが、上記の理由で望ましくない。

(4) 調査書の取り扱いについては、別途に考える。

3. 共通第1次試験を用いる方法の利点

(1) 共通第1次試験および第2次試験の組合わせによって、適切な評価ができる。すなわち、共通第1次試験では主として高校における学習の達成の程度を評価し、第2次試験は主として総合力、思考力等を評価し、さらに専門に対する適性をしらべて、それらを組合わせて評価するからである。

(2) 共通第1次試験の問題は衆知を集めて作成するので、機械的処理をする制約はあっても現行試験問題よりも良い問題ができると考えられる。現行の各大学での問題作成においては、従来出た問題を避けるなどのために自然不適當な問題も出さざるを得なくなり、ひいては受験技術的問題となり、高校を予備校化する結果となり高校教育をゆがめることになっている。共通第1次試験の問題は、1年に1組でよく、問題が作り異く、衆知を集めるので高校教育をそこなうような問題は除かれ、毎年委員が半数交代をすることによって、問題の傾向が固定化することが防がれる。したがって、受験生の高校における平素の学習の実力が表われ、受験準備で左右されにくい試験となり、これに各大学における綿密な第2次試験が加わることによって、現行の入学試験が一発勝負であり、その成績と入学後の成績との相関が低いという欠陥は解消する。なお昭和48年度から、高校の学習課程が多様化しようとしており、その精神を生かした出題は1校のみではさらに困難になる。

(3) 多人数の受験生のある場合、限られた期間内で採点するためには、良い問題を出したくとも出せないで、結局客観テスト(○×式)たらざるを得ないのが現状であるが、共通第1次試験で足切りを行なうこともでき、したがって、綿密な第2次試験を行なうことができる。

(4) 各大学で行なう第2次試験は試験日数、科目数を減ずることができ、大学の立場での出題採点が容易であり、入試の労力も減ずることもできる。

4. 今後の方策

以上調査研究の結果、今後さらに次の諸点について検討する必要がある。

(1) 研 究

(a) 採点に電子計算機が使用でき、しかも従来批判されているような客観テスト(○×式)の欠点を除かれた“良い問題”を作るという研究をしなければならない。

2～3年を目標にこの研究を行なう。

(b) 各教科につき専門委員会を設ける。専門委員会の委員長の属する大学から文部省に研究費を要求し、国立大学協会があっせんする。

(c) 国立大学附置共同利用入試研究センターを設置する。これが設置された場合(b)の専門委員会は、このセンターに属せしめる。

(2) 共通第1次試験の大規模の実施機関については今後さらに検討する。

(3) さしあたり、共通第1次試験を希望する大学が各地区にわたって相当数ある場合には、それらの大学が連合して共通第1次試験を実施する。その場合、出題、採点には当該大学以外の教官が応援す

るよう国立大学協会があっせんする。この場合の出題は、その採点が必ずしも電子計算機にかかるものでなくてもよい。入試費用の従来以上の増加分は当該大学から文部省に要求し、国立大学協会があっせんする。

入試研究センターが設立されていれば、それを通じて他大学教官の応援をうけることができる。

〔附録〕

基本構想により予想される各国立大学ごとの入学試験全体の様態（概要）

「まとめ」1の基本構想にしたがって、全国立大学が第1次試験を共通問題で行なうことになった場合、受験生、高校側および大学の教職員それぞれの立場から見て、大学の入学試験（共通第1次試験、第2次試験を含めて）が、どのような様態のものとなると予想されるかその概要を述べておく必要がある。

〔1〕 受験生の側から見た場合

(1) 出題受験生は、国立大学のうち、その志望する大学に対して、共通第1次試験の前に出願する。

1) 出題期日：概ね12月1日～10日の頃となろう。

2) 出願大学数：現行の1期2期制が続くかぎり、1期校から1大学、2期校から1大学を選んで出願できる。出願手続はそれぞれの大学に対して別個に行なう。

3) 受験票：出願に対して、各大学の第2次試験の受験票と、そのほかに、共通第1次試験の実施機関から共通第1次試験の受験票とが送られてくる。

(2) 受 験

1) 共通第1次試験：居住地またはその近傍の試験場で受験する。

共通第1次試験の教科内科目の細部については現在、未検討である。

2) 第2次試験：志望大学の所在地で受験する。大学によっては、志願者が極端に多数であった場合などに、第2次試験の受験資格を制限（足切り）することがありうる。第2次試験のための日程、その他の通知は、出願した大学からなされる。

(3) 合格通知 特別の事情で第2次試験の受験資格を制限する大学の場合を除き、共通第1次試験の合否は通知（または公表）されない。第2次試験の結果を含めての合格、不合格の発表（または通知）は従来通りである。

(4) そ の 他

1) 共通第1次試験の内容：前述のように細部は未検討であるが、一般的にいて、高校における学習の成果を知るためのもので、平易ではあるが広範囲の内容を含むことになる。多数の受験生の成績を処理する必要から、解答を電算機で処理できるよう工夫がなされた出題となる。しかし、恐らく世間でいわれているような、単純・素朴な形での○×式ではないであろう。

2) 第2次試験の内容：これは各大学または各学部で独自の科目、独自の形式をとることになる。一般的には何ともいえない。しかし、少なくとも、共通第1次試験の教科・科目そのままや、その中の若干について、いくらか程度を高くした内容のものに終ることは稀であろう。特殊な学部では、第2次試験は実技試験だけということもありうる。

〔2〕 高等学校側から見た場合

高等学校の教職員から見た場合、国立大学が共通問題で第1次試験を同一期日に行なっても、出願のための書類作成などの仕事には、ほとんど変化はないであろう。

調査書の作成は、従来通りか、あるいはむしろさらにおそい時期（例えば2月末）になることも考えられる。

公私立大学への併願などに伴う進学指導も従来と大差はないと考えられる。

ただし、国立大学に関しては、従来1期校のなかの複数大学、2期校のなかの複数大学へ一応出願しておき、志願者数などの状況のみて実際の受験大学を決定する、といったことはできなくなるので、その点ではむしろ事務量は減少するといえる。

〔3〕 大学の教官側から見た場合

(1) 共通第1次試験のための労力

1) 出題：全国立大学の教官の中から出題委員を出して委員会を構成して行なうので、各大学からは1～2名程度ということになるろう。

2) 採点：電算機による処理を考えざるを得ないから、採点のための労力は皆無である。

3) 実施：受験生が居住地で受験する方法であるから、必ずしもそれぞれの大学を志望している者だけではないが、しかし、全国立大学の協力による試験であるので、直接の実施担当者は各国立大学の教官が主体となるべきである。実施機関の併任の形で、高校の教官の協力も得て、受験場の設営、管理等をすることも考えられる。

(2) 第2次試験のための労力

1) 出題・採点・第2次試験は、各専門分野への適性を判定することが主たる目的となるから、多くの場合、試験科目の選定、出題、採点、結果の判定等は学部単位で行なわれることになる。教養部の設置されている大学では、教養部教官の応援を求める学部も少なくないこととなる。

2) 実施：大学全体として、すべて同一科目の試験を行なうというのは単科大学の場合が主となるから、実施方法は従来とは異なったものとなる。

3) 合否判定：共通第1次試験の成績の取扱い、第2次試験の成績の取扱い、調査書等の取扱いなど、すべて十分に検討しておく必要があるが、従来の労力に比べて特に増大するとは考えられない。

〔4〕 大学の入試事務担当者側から見た場合

(1) 共通第1次試験のための事務——大略次のような事務が考えられる。

1) 出願の受付：出願を受け、そのコピーを共通第1次試験の実施機関に送付しなければならない。

2) 実施事務：所在地の受験場の確保（もしあれば同じ所在地の他の国立大学と協力して）実施体制の整備、問題用紙の受取りと保管、解答の保管と発送。

3) 共通第1次試験成績の処理：実施本部から送付された成績を、大学または学部の方針に従って、換算または選択集計する。第2次試験の受験制限をする場合には、判定結果に基づく、本人への通知。

(2) 第2次試験のための事務——大学全体としての事務がそのままの形でどれだけ残るかは一般的には決められない。

- 1) 試験問題の印刷等
- 2) 試験場の準備
- 3) 合否判定資料の整備
- 4) 合格者の発表

などは恐らく共通部分として残るであろう。

(3) 共通第1次試験および第2次試験を行なうことに伴う事務上の変化。

1) 調査書の受付：大学への出願の時期（12月頃）に調査書を提出させることには無理があるので、調査書は、共通第1次試験の成績が判明する頃までに提出させればよく、そのため、受験生の出身高校との間に連絡等の事務を別途行なうこととなる。

2) 健康診断の時期等：調査書と同様、診断書の提出は別に行なわなければならないであろう。また、大学で健康診断を実施する場合にも、時期等に検討の要があろう。

27. 国立大学入試期一本化に関する参考資料

昭和49年 4月 国立大学協会入試期特別委員会 第二常置委員会

まえがき

入試期特別委員会、第2常置委員会の合同委員会が昭和48年に行った入試期（Ⅰ期Ⅱ期制）の改善に関するアンケート調査の結果をふまえた委員会報告が、第53回総会において行われた。この総会の席上で多くの大学から入試期一本化の意見が述べられ、早急に結論を出すべきだとする強い発言もあった。合同委員会はこの総会の意向にそって更に検討を進め、再度アンケート調査を行い、次期総会までに何等かの結論に到達するよう努力することを確認した。

本資料は、国立大学の入試期を一本化するについて、在来の2回制と比較しての特徴、長短の諸点を整理したものである。

内容の項目

A. 現行2回制の特徴と問題点

1. 長所及び利点
2. 短所及び問題点

B. 全国1回制の特徴と問題点

1. 長所及び利点
2. 問題点

註 その他の方法について

1. 組み替え2回制
2. 自主選択2回制
3. 完全自主多数回制

A. 現行2回制の特徴と問題点

1. 長所及び利点

1) 現行のⅠ期、Ⅱ期制は、20数年間継続されてきた制度であり、入試業務を国立大学として慣行的に現状のまま維持してゆくことは、消極的な長所といえないこともなかろう。

2) 高校側においては、従来から定着した制度であるし、2回の受験の機会があり、進学指導も、現

状のまま継続することが出来るであろう。

3) 上記の2)のことは、現今の受験生にとっても、2回の受験の機会があるとともに、現状維持という面から受験対策をたてやすいことは否定し得ない。しかし、それ以上の利点は、積極的にみとめにくい。

2. 短所及び問題点

1) 現行のいわゆるⅠ期校、Ⅱ期校においては、法学部をはじめとして、文、教育、理、医、薬、歯学部において、著しい偏りがあること。(附表1)

2) 地域性においても、現行では、Ⅰ期校、Ⅱ期校の大学数が不均衡であること。(附表2)

(附表1)

期別	学部																			
	教養	文	文	人	文	教	教	法	社	法	政	経	経	商	外	理	理	医	歯	薬
期別	養	理	文	文	育	育	育	文	会	経	管	管	管	語	工	工	工	工	工	工
Ⅰ期計	1	①	⑪	2	1	⑦	15	4	1	⑨	1	10	1	1	—	⑱	1	⑱	⑥	①
Ⅱ期計	1	③	—	⑤	—	—	⑫	2	—	—	—	10	1	1	②	7	2	10	1	1
合計	2	4	11	7	1	7	47	6	1	9	1	20	2	2	2	25	3	28	7	12
期別	学部																			
	工	基	電	鋳	農	園	織	獣	畜	水	水	工	芸	美	音	体	家	商	保	人
期別	礎	礎	気	山	芸	維	維	医	産	産	産	芸	工	術	楽	育	政	船	健	間
期別	工	礎	通	山	芸	維	維	医	産	産	産	芸	工	術	楽	育	政	船	健	間
Ⅰ期計	21	1	—	—	16	1	—	1	—	1	④	—	1	1	1	1	②	—	1	1
Ⅱ期計	20	—	1	1	14	—	②	—	1	—	1	—	—	—	—	—	—	②	—	—
合計	41	1	1	1	30	1	2	1	1	1	5	1	1	1	1	1	2	2	1	1

(注) □印はⅠ期、Ⅱ期学部数間に著しく差のある学部を示す。
筑波大学は数に含まない。

(附表2)

地区 別期	地区							
	北海道	東北	関・東 甲・信越	中部	近畿	中・国 四・国	九州	計
Ⅰ期	1	2	10	3	4	5	6	31
Ⅱ期	5	6	13	6	8	4	5	47
計	6	8	23	9	12	9	11	78

(昭和49年3月現在)

3) 全国都道府県に1つ以上の医大または医学部を設置する現状は入試応募学生にある程度の地域性を求め、医師の地方分散を願ってのものと思われるが、Ⅰ期校に比しⅡ期校では受験者の過半数が応募するだけでなく、Ⅱ期校で地元学生の入学の率が甚だしく低下する傾向があり、卒業後は大学設置の趣旨の一つとする地域性に拘らず全国に分散してしまう結果となっている。

4) 大学側の入試業務上、次の2点が主な問題点として指摘することが出来る。

a) 現行制度においては、Ⅱ期校において出願者数に比して、実受験者数のひらきが極めて大きい。

(昭和48年度調査によれば、欠席率平均33.9%、最高64.8%、最低16.5%)

この現象は、最近、例年の傾向であり、試験場の確保や入試準備業務に不合理な点が多い。

なお、また、特定大学や特定学部(主として医科系)においては、この傾向のために、受験生の宿舍の問題も軽視出来ないようである。

b) 現行制度では、合格者のなかから入学辞退者が可成りの数にのぼり、欠員補充など業務上の複雑さを伴っている。これは、Ⅱ期校において、特に顕著であり、また、一部のⅠ期校においても、後述するような受験生の学部選択における現象から、同様な傾向があり、某大学のある学部では、時に3分の1の欠員補充が必要であったということである。

なお、可成りのⅡ期校においては、予め、補欠入学予定者を決めておいても、なお、欠員を定員まで補充出来ないような傾向もあるという。

さらに、入学式における入学者の確定後の欠員補充も、ただ他大学への入学者を補充大学へ移動させる結果となる可能性があり、現行制度のもとでは、国立大学全体としての欠員をうめることの困難が予想される。

(昭和48年4月14日付、文部省より、国民の大学教育に対する要求にこたえるため、国立大学の基本的責務の一つとして補欠入学等の措置により、入学定員どおり、入学者を確保することの配慮の要望がなされたことは周知の通りである)

5) 現在、通称Ⅰ期校、Ⅱ期校と呼称されているが、これは、国立大学として、本質的意義をあらわすものでない。

しかしながら、近年、ややもすると、国立大学間の格差を示すような社会的通念が定着化し、受験生にとっても、或いは、入学後の学生の学習意欲、更に、就職等の将来の社会人としての活動の面においても好ましからざる社会的、心理的影響を与えている。

6) 受験生においては、本来、大学進学に際しての大学の選択、学部或いは、専攻学科等の選択は、本人の能力、適性、家庭事情等の諸条件によってなされるべきであろう。

しかしながら、近年、大学進学率の向上に伴い、ややもすると、特定大学への合格の可能性を主たる選択条件にするため上記の諸条件を無視する傾向がある。

このことは、受験生の側のみならず、高等学校における進学指導に際しても、通例化している現象のようである。

これは、現行のⅠ期校、Ⅱ期校においては、2の1)で述べたように、可成りの学部にいちぢるしい偏りがあるために、ある程度、止むを得ないことかも知れない。

しかしながら、極端な例では、Ⅰ期校では、文科系或いは、理工系で受験し、Ⅱ期校では、理工系或いは医科系（この逆もありうるが）を受験する傾向は、決して少なくないようである。このことは、A-2-4) -b)で指摘したように、大学側の入試業務に種々な影響を与えているのみでなく、学生にとっても、入学した学部、学科が必ずしも、本人の希望に合致したものでない場合が少なくない傾向を生むことになり、入学後の大学における学生生活、学習意欲において、好ましからざる傾向を助長しているとみることが出来る。

7) なお、また、高等学校においても、Ⅰ期校、Ⅱ期校の進学率の優劣をもって、学校そのものが評価される傾向があるとし、進学率を高めることを競うあまり、進学指導等において、現今、社会的にひろく憂慮されているいわゆる受験競争の苛烈化を不当に促進している傾向があることは否定し得ない。

8) 以上6), 7)の条件とも関連し、自己の希望に基づいて進学する大学・学部を自主的に決定するという、高校教育の段階では、すでにきわめて重要だと思える教育要因の軽視が、現行制度のもとではますます助長される。

B. 全国1回制の特徴と問題点

1. 長所及び利点

1) 国立大学全体としては、現行制度にみられるⅠ期校、Ⅱ期校の学部の偏り、地域における大学の偏りは、一切解消される。

2) この1回制が定着すれば、Aで述べたような国立大学におけるⅠ期校、Ⅱ期校といわれるような国立大学間の不当な格差とみられる社会的通念は、漸次、是正、解消されるであろう。

3) 大学側の入試業務上からみると、次の主なる2点が利点として指摘することが出来る。

a) 1回制になれば、A-2-4) -a)で指摘したように従来、ことにⅡ期校の一部の大学或いは、特定学部（医科系）にみられるような志願者数の集中、及び実受験者数とのズレなどは、可成り減少、

或いは解消されることが予想される。例えば、現行制度では、医科系でみると、Ⅰ期校では、例年、5～7倍程度の競争率であるにもかかわらず、Ⅱ期校では、15～30倍程度の競争率を出願締切時に示している。

これは、Ⅰ期校、Ⅱ期校における医学部の偏在もあろうが、受験生の学部選択の非一貫性の一つの現象を示しているともいえよう。

1回制となって異常な競争率が解消され、また、入試期日に余裕を生ずることによって、ただ1回の入試成績のみでなく、各種の資料を充分参考にして、各大学の特色を生かした合理的な合否の判定をすることも実際に可能となってくる。

b) 全国1回制になれば、A-2-4) -b) で述べた欠員補充業務の繁雑さは、大幅に減少することが予想される。私立大学と併願している受験生があるので、ある程度の欠員補充業務はさけられないであろうが、国立大学間では、解消されると考えられる。

即ち、入学定員の充足が現行制度よりもはるかに容易になるであろう。

4) 高等学校及び受験生側からみると、次の2点を指摘することが出来る。

a) 高等学校においては、進学指導に際してA-2-6) で指摘したように、学部選択において、Ⅰ期校、Ⅱ期校ごとに、一貫性のない受験指導を行なうようなことがなくなり、志望の大学、或いは学部、専攻学科の選択の指導がより適正化されることになるであろう。

b) 受験生においても、志望大学、学部の選択に際して、自己の能力、適性、家庭事情を配慮し、従来以上に慎重に検討し、進学コースを自主的に決定するという態度が助長され、現行制度のように、Ⅰ期校、Ⅱ期校で志望学部や学科が異なるような不安定なとまどいも減少し、安定した受験準備がなされることになるであろう。

また、入学後も、A-2-5) で指摘したように、学生生活や学習意欲の面で、不本意な心理的狀態をもちつづけることが減少し、大学側にとっても、教育上好ましい傾向が漸増するであろう。

2. 問題点

1) 大学側において予想されることは、次の4点である。

a) 入試期日は、充分検討の上、2～3年前に予告して、実施されることになろうが、学力試験問題などの印刷業務の集中が考えられる。

b) 次に入試期日の変更される大学があることになるので、試験場の確保など予め関係各方面への折衝の必要があろう。

c) 国立大学のなかには、全国1回制によって、一部の大学で募集定員に満たない場合があるかも

知れず、第二次募集の必要が予想されるが、近年の大学進学率の増加の趨勢からみて、このような事態は、極めて近い将来解消されるものと推察される。

d) また、一部の大学では、入学者の質の一時的低下が心配されるかもしれないが、進学コースの健全且つ自主的選択の見地から考えれば、これを質的低下と一概には言い切るわけにはいかない。むしろ、1—4)—b) のように本人ならびに大学にとって教育上好ましい傾向だといえることができる。

2) 高等学校においては、国立大学の受験生が一時期に集中するので、出願書類などの業務が一時的に集中することが予想される。

3) また、進学指導の面では、さきに述べたように、適正化の傾向が増加すると考えられるが、現行制度と異なるので、数年間は、多少の混乱がみられると思われる。

4) 受験生側にとって、最も大きな問題点としては、国立大学の「受験の機会が1回だけ」になることである。

しかし実際は「2回のチャンス」というみかけにもかかわらず、2回制によって受ける利益は受験生に平等ではない。

国立大学の入学定員総数が一定であり、一つの大学への合格者が他の大学への合格の資格を制限されない限り、学力試験に有利な能力（これを「学力」とよぶことにする）をもつものほど、二つの国立大学に合格できる確率は高くなる。

従って「学力」の高いものは二つの大学に合格してそのいずれかを選択できる自由があたえられる反面、境界線上にある受験者にとっては、そうでなければ本来合格しうる席があったのに、それを奪われることになり、「学力」の低いものにとっては、受験の機会はあたえられても入学の可能性はますます低くなる。しかも「学力」の高いものが二つの大学を受験する数が多いほど一層不利益をうけるという結果になる。

そしてその傾向は、2回制の組み替え案におけるように、Ⅰ期とⅡ期における学部への偏りや、地域の偏りが合理的に配分されればされるほど増大する。

従って、2回制は「学力」の高いものに過度に有利な試験制度であるということになる。

さらにこの欠陥は欠員補充が不完全であればあるほど増大する。こうして、その意図とみかけにもかかわらず、「学力」の高いものに有利な2回制は受験競争の激化をうながす一つの原因となっていると考えられる。

〔註〕 その他の方法について

1. 組み替え 2 回制

この案は、昭和47年1月にアンケート調査を実施したが、過半数の賛成が得られず、現実には不可能であるとして総会で否決されている。

この方法は、現行制度の欠点として A—2—1), 2) に述べたような I 期校, II 期校における学部
の偏より, 地域における大学の偏よりを是正し, 前期, 後期に再配分し, 3 年程度ごとに交代する組
み替え案である。

1) 長所及び利点

a) 国立大学全体としてみると, A—2—1), 2) で述べた学部, 大学の偏よりは, 是正されるので, 現行制度の不合理性は取除かれる。

また, A—2—5) で述べた I 期校, II 期校という国立大学間の格差を示しているようなあやまった社会的通念は, 取除かれるであろう。

b) 受験生の側からみれば, 2 回の受験の機会をもつことが出来るとともに, 大学の選択, 学部, 学科の選択において, 現行制度以上に, 自己の能力や適性或いは, 将来の職業などを考慮して, より
ふさわしい選択を行なうことが可能となるであろう。

また, 前期, 後期に希望学部がほぼ均等に配分されるであろうから, 同程度の大学の同じ学部を受験する機会に恵まれるであろう。

2) 短所及び問題点

この方法は, 大学側の入試業務上において, 現行制度以上の困難が予想される。

受験生にとっては, さきに述べたように, 自己の能力, 適性にふさわしいと思われる同程度の 2 つ
の大学を受験する機会に恵まれることは, 望ましいことであろうが, 大学側にとっては, 両者に合格
しても, 入学の際, 一方の大学を選択するので, 他方は, 欠員補充を行わなければならない。

このことは, さきに述べたように, 現行制度においても, 入試業務上, 大きな困難点になっている
が, 組み替え方法をとる場合は, 国立大学全体が同様な事態にさらされることになる。

即ち, 合格者の入学手続完了まで, 入学者数がわからず, その後の欠員補充業務は, 現行制度以上
に複雑且つ広範囲化することが推察される。

これを防止する方法として, 前期の大学に合格した者は, 後期の大学の受験資格がないとするか或
いは, 後期校に合格しても無効であるという措置が考えられるが, 法的規制或いは, 制度化すること

は、法律的に困難であるとされている。

2. 自主選択2回制

国立大学の入試期日を、前、後期2回に定め、各大学が自主的にいずれかを選択する方法について。

この方法の長所は、受験生が2回の受験の機会をもつという利点を生かしながら、国立大学の自主的な判断によって入試期を決定するという点である。

しかしながら、従来から実施されてきたいくつかの入試期に関するアンケートの結果等から推察されることは、前期に実施する大学の数が大多数を占めることになることである。即ち、全国1回制に近い形態になろう。

従って、後期に入試を実施する大学は、出願者の激増による入試業務上のいくつかの困難点が増加し、それは、現行制度の場合をはるかに上まわることになろう。

3. 完全自主多数回制

国立大学の入試期間（例えば、1カ月間）を定め、その期間内において、各大学が自主的に実施期日を決める方法について

この場合、各大学の入試期日を頻繁に変更することは、望ましくないので、ある程度、各大学が固定化する必要があろうし、また、変更の際にも、少なくとも2年以上の余裕をもって予め公知することになろう。

この方法の長所、利点は、国立大学が自主的に実施期日を決める点、更に、受験生側にとっては、国立大学を受験する機会が現行制度の2回よりも、多くなる可能性を含んでいることである。

しかしながら、このことは、既に述べたように、受験生の大学、学部を選択をより一層不適正化し、受験校の選択を混乱させることになり、現今の受験競争諸現象を国立大学が一層増加させる役割を荷うことにもなりかねないであろう。

なお、大学側においても、合格者のなかから入学辞退者は、不確定要素をますために、現行制度より一層増加することが予想され、欠員補充などの入試業務上の煩雑さは、既に述べたいくつかの方法以上になることはまぬがれないであろう。

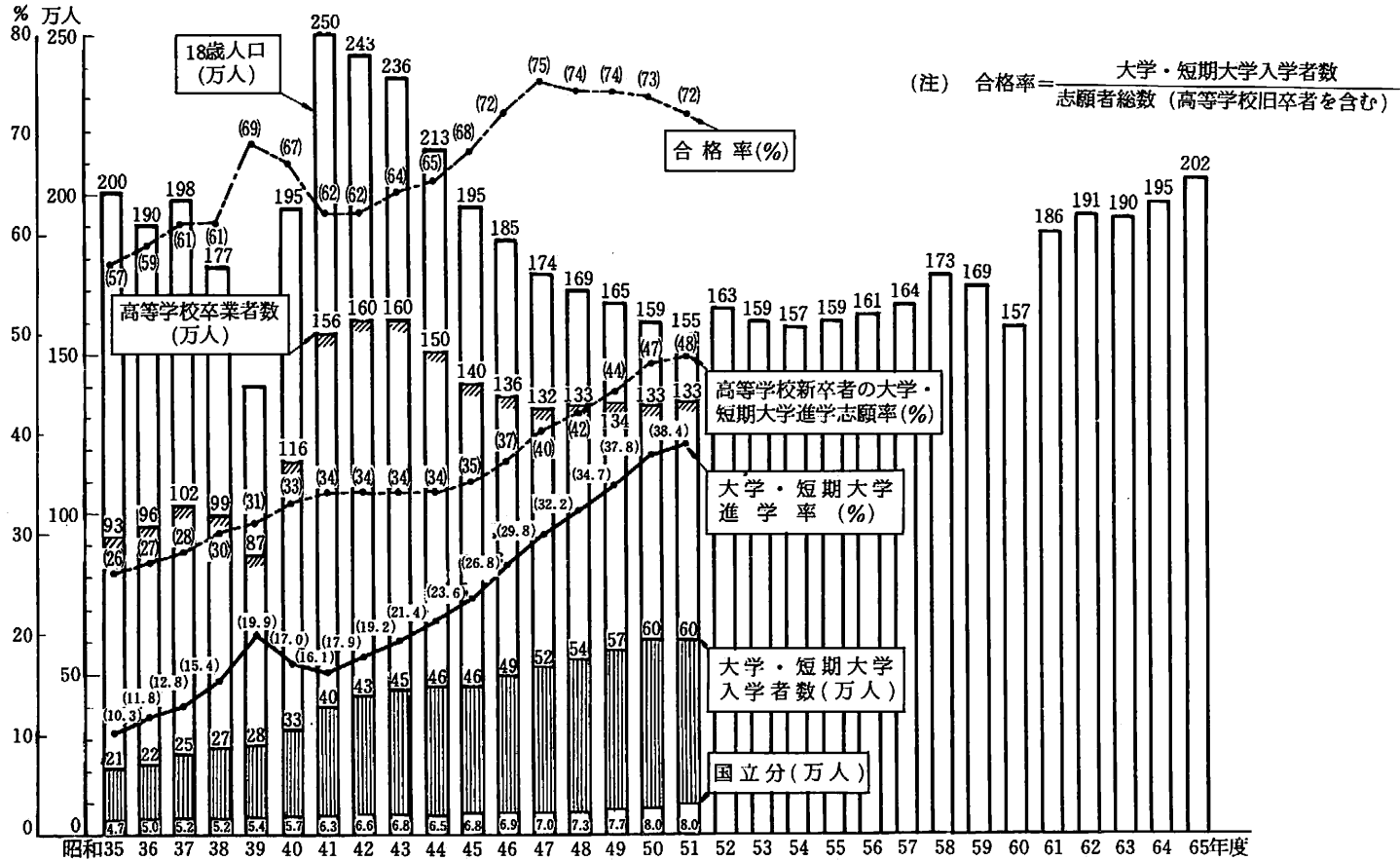
28. 大学進学状況

年 度	高校卒業者数 前年度3月	大 学 入 学 志 願 者			大学入学者	合 格 率	同1年令層対比
		新 卒	浪 人	計			
昭和35年	934	242(26.0)	117	360	205	57.1	10.3
40年	1,160	386(33.3)	108	493	330	67.0	17.0
45年	1,403	486(34.6)	191	677	460	67.9	23.6
46年	1,360	498(36.6)	186	684	494	72.2	26.8
47年	1,319	518(39.8)	177	695	518	74.5	29.8
48年	1,326	554(41.7)	183	737	544	73.9	32.2
49年	1,336	591(44.2)	179	770	572	74.2	34.7
50年	1,327	628(47.3)	194	821	599	72.9	37.8
51年	1,325	632(47.7)	202	834	595	71.4	38.6

年 度	大 学			短 大		
	入学志願者	入 学 者	倍 率	入学志願者	入 学 者	倍 率
昭和35年	794,959	162,922	4.9	87,160	42,318	2.1
40年	1,203,337	249,917	4.8	171,135	80,563	2.1
45年	1,943,207	333,037	5.8	252,699	126,659	2.0
46年	1,952,684	357,821	5.5	264,400	136,392	1.9
47年	1,975,590	376,147	5.3	270,217	141,631	1.9
48年	2,071,285	389,560	5.3	299,565	154,771	1.9
49年	2,320,113	407,528	5.7	329,360	164,077	2.0
50年	2,733,072	423,942	6.4	379,166	174,930	2.2
51年	2,794,518	420,616	6.6	391,669	174,683	2.2

大 学 名	入 学 志 願 者 数	入 学 者 数	倍 率	備 考
東 京 大 学	12,891	3,038	4.2	
京 都 大 学	9,939	2,503	4.0	
東京工業大学	4,165	772	5.4	
一 橋 大 学	6,143	815	7.5	
早 稲 田 大 学	142,262	8,560	13.4	
慶 応 義 塾 大 学	57,359	5,920	9.7	

29. 高等教育の規模等の推移



30. 高等教育の計画的整備について

昭和51年 3月15日

高等教育懇談会

1 我が国の高等教育は、近年、急速な拡大を遂げ、国際的にみても高い普及率を示している。しかしながら、このような高等教育の急速な拡大は、十分な計画性を持って行われたものとはいい難いため、地域配置、専門分野構成その他質的な面で種々の問題やひずみを生じていることも否定できない。

2 高等教育懇談会は、昭和47年度以来、今後における我が国高等教育の拡充整備の長期的なあり方について、このような状況に適切に対処することに重点を置いて検討を重ね、毎年度、その検討結果を取りまとめてきた。昭和50年度においては、これまでの検討結果を踏まえ、その後の社会経済情勢の変化、高等教育関係制度の整備等に留意しつつ、今後の高等教育の計画的整備について検討してきたが、このたび、先に発表した中間報告に寄せられた意見も参考として、別紙のとおり、その結果を取りまとめた。

3 もとより、高等教育の計画的整備を図るに当たっては、著しく普及した高等教育のあり方や学術水準の維持向上の問題等、広く質・量両面にわたる検討が必要である。そのため、高等教育全般について、高等学校教育との関係や高等教育機関の入学者選抜のあり方との関連、さらに高等教育修了者の進路等との関連をも含めて総合的に検討を行い、また、大学院の拡充整備等高等教育及び学術の水準の維持向上、私学の振興助成、高等教育費の負担のあり方等の関連する重要問題について検討を深め、これらについて適切な措置を講ずる必要がある。

本懇談会は、これらの問題についての他の審議会等における検討の状況等を考慮し、当面の高等教育の計画的整備の方向を明らかにしようと努めたものである。

4 このまとめにおいては、専門学校等を含めると18才人口の半ばに達する高等学校卒業後の教育の広がりを考慮し、高等教育を通常の大学等に限らず、放送大学、大学通信教育さらに専門学校等も含めて広く対象とし考察したが、高等教育をめぐる流動的な諸情勢、18才人口の動態、私学の質的充実を図るための私立学校振興助成法に伴う5か年間の新增設の抑制措置等を考慮して、昭和61年度を目標年度としつつ、計画期間を前期（51年度～55年度）と後期（56年度～61年度）に区分し、当面、主として量的側面から前期における計画的整備の方向と内容を明らかにすることとした。

5 この前期の計画においては、特に、高等教育の将来の発展のための基盤整備を図る観点に立って、質的充実を図ることに配慮しつつ、高等教育全体の構造の柔軟化、流動化の必要性を指摘するとともに

に、大学及び短期大学については、大都市への集中を抑制し、原則として、その拡充は地域間の格差や専門分野構成の不均衡の是正と人材の計画的養成に必要なものと定めることとした。

これにより、国公立については、今後において具体的整備を進めるに当たっての方向と目途を示し、また、私立については、定員超過の是正等質的充実の方向と新增設の認可に際し参酌されるべき条件を示そうとしたものである。

6 なお、後期の計画については、前期における整備の状況、社会経済情勢の変化、高等教育に対する国民や社会の需要動向の維移等を考慮して、将来、適当な時期に検討することとした。

7 今後、高等教育機関の拡充整備や関連する諸制度の整備について、このまとめの趣旨が十分に生かされるよう関係各方面において適切な措置が講ぜられることを期待したい。

I 意見のまとめに際し、考慮した諸事項

1 昭和48年度、49年度懇談会の指摘事項に留意すること

(1) 48年度懇談会報告の要旨

今後の高等教育の拡充整備に当たって、長期的な展望の下に高等教育計画を策定する必要があること、この計画においては、高等教育の拡大の間に生じた各種の格差・不均衡の是正を図るため、高等教育の規模、種類、立地等について指標を定め、これを設置認可、助成さらには教育研究条件の整備等についての施策の指針とする必要があること等を指摘し、計画の目標年度（61年度）、規模の目途（進学率40%に対応し得る規模）、地域配置の想定（各ブロックの進学率、収容力の目途）等を示した。

(2) 49年度懇談会報告の要旨

48年度懇談会報告の趣旨を基本的には維持しつつ、高等教育の規模の目途については、放送大学、大学通信教育、高等教育レベルの各種学校をも包含したものととして想定し、計画的に実現すべきもの、自由な進展に委ねるべきもののそれぞれの規模の目途をあらためて設定すべきこと等を指摘するとともに、計画期間を前期と後期に分け、前期においては高等教育の質的充実により重点を置き、後期においては計画的な拡充により重点を置くことが適当であること、50年度中に高等教育計画を策定することを目途に今後の作業を取り進めるものとする等を示した。

2 昭和48年度以降、次に述べるような事態の推移があったが、このことに十分に対応すること

(1) 高等教育の規模、配置等

(7) 48年度懇談会報告では、61年度の進学率40%に対応する高等教育の規模の実現のために、対48年度189,000人の要拡充数（私立103,000人、国公立86,000人）を見込んでいたが、49年度及び50

年度の実績についてみると、従前と同様な規模拡大の傾向をたどり、既に、大学、短期大学及び高等専門学校の入学者において、各年度とも27,000人、2年間の合計54,000人（うち、私立47,000人）の実員増（定員においては49年度13,000人、50年度12,000人、計25,000人増）をみている。

(イ) これにより50年度における大学、短期大学及び高等専門学校への入学者数は、608,000人（進学率38.3%）となった。（48年度入学者数554,000人 進学率32.7%）

なお、国公立対私立の入学者数の比率（17.5%：82.5%）及び大学と短期大学の入学者数の比率（国立95%：5%，公立57%：43%，私立68%：32%）には、この3年間ほとんど変化がない。

(ウ) 49年度、50年度において、進学率はそれぞれ対前年度2.6%、3.0%の上昇をみているが、地域間格差は縮小していない。（48年度では東北ブロック（最低）20%～近畿ブロック（最高）43%、50年度では東北ブロック25%～近畿ブロック50%）

(エ) 地域間の収容力格差は、やや縮小し、収容率は、48年度から50年度までの間に、甲信越・北陸ブロック38%→41%、四国ブロック41%→46%、関東ブロック165%→162%となっている。

(注) 収容率 = $\frac{\text{当該ブロック所在大学等の入学者数}}{\text{当該ブロックからの大学等への進学者数}}$

(オ) 大学の専門分野構成においては、各ブロックを通じ、48年度から50年度までの間に、若干ではあるが人文社会系が増加している。

（例えば、東北ブロックの人文社会系・理工農薬系34%・45%→37%・41%、甲信越・北陸ブロックの人文社会系・理工農薬系16%・55%→21%・53%）

(カ) 48年度から50年度の間に、全国に占める東京都23区、政令指定都市の学校数及び在学者数の割合は、それぞれ、38%→36%、61%→58%となり、大都市への集中は若干緩和された。

(キ) 後記(3)、(イ)、(オ)する私立学校振興助成法及び同法附則による私立学校法の一部改正の施行をひかえ、50年9月末に届出のあった大学学部の学科の新設及び大学、短期大学の定員変更に係る定員増予定数は、約50,000人（49年度9,400人）となった。なお、別途51年度開設予定の大学、短期大学に係る定員増予定数は2,400人である。

(ク) 各種学校の在学者数は、全体としては漸減しているが（48年度1,246,000人→50年度1,205,000人）、高等学校卒業以上を入学資格とするもの（予備校等を除く。）については増加している。（49年度239,000人→50年度279,000人）

なお、高等学校卒業以上を入学資格とする各種学校のうち、修業年限1年以上のものの上学者数は、50年度において251,000人（入学者数は158,000人）となっている。これを分野別にみると、

和洋裁関係73,000人(29%),看護婦等医療関係48,000人(19%),工業・土木関係46,000人(18%),教員養成関係26,000人(10%),その他58,000人(24%)となっている。

上記の入学者数158,000人は、50年度及び55年度についてみると、それぞれ進学率約10%に相当する規模である。

(2) 社会情勢の変化等

(7) 経済情勢の変化

48年度懇談会報告は、高等教育経費試算において、64年度までの経済成長率を年率名目18.6%、実質9.2%と見込んだが、その後、経済情勢は急激に変化し、49年度の経済成長率は、名目17.9%、実質マイナス0.2%の状況にあり、今後、我が国の経済はいわゆる安定成長の状態が続くものと思われる。また、国及び地方公共団体の財政事情も厳しい状況の下にある。

(4) 昭和50年度大学等卒業予定者の就職状況

50年度卒業予定者の就職状況は、目下なお調査中であるが、中小企業からの求人数の増加がある一方、特に大手企業の求人減ないし採用中止がみられ、その状況は、厳しいものとなっている。

(ウ) 高等教育機関への進学該当年令(18才)人口の地域分布

今後の地域間の人口移動が予想されるところではあるが、児童・生徒の地域分布の現状を前提とした場合には、55年度及び61年度における18才人口の地域分布は、次の表のような状況となり、大都市圏における増、その他地域における減の傾向が顕著である。

(単位 千人(%))

地域 \ 年度	48	50	55	61
北海道	98(5.8)	87(5.5)	83(5.2)	90(4.8)
東北	198(11.7)	177(11.2)	155(9.8)	148(8.0)
北関東・甲信越	201(11.9)	183(11.5)	162(10.2)	180(9.6)
京浜・南関東	284(16.8)	275(17.3)	335(21.0)	462(24.8)
北陸	47(2.8)	42(2.7)	41(2.6)	46(2.5)
東海	173(10.2)	168(10.6)	181(11.4)	220(11.8)
京阪神・近畿	223(13.2)	217(13.7)	248(15.6)	320(17.1)
中国	116(6.8)	111(7.0)	103(6.5)	113(6.1)
四国	72(4.2)	67(4.2)	59(3.7)	61(3.3)
九州	281(16.6)	258(16.3)	222(14.0)	223(12.0)
計	1,693(100.0)	1,585(100.0)	1,589(100.0)	1,863(100.0)
(注)	44年度中学校 卒業生数	46年度中学校 卒業生数	49年度中学校 1年生数による	49年度小学校 1年生数による

(エ) 高等学校進学率は、なお上昇しており（48年度89.4％、50年度91.9％）、進学率の地域間格差の縮小（48年度、東京96.9％～岩手79.6％・沖縄74.7％→50年度、東京96.6％～岩手84.6％・沖縄75.1％）、普通科の増加（48年度60.4％→50年度63.0％）の傾向がみられる。このような状況から、高等学校教育のあり方が問題となるとともに、特に大都市圏においては、該当年令人口の急増に伴い、高等学校生徒急増対策が緊急の課題となってきた。

(3) 高等教育に関する制度の整備

(ア) 大学院の制度的な基盤を確立するため、49年6月、大学院設置基準の制定と学位規則の一部改正が行われた。

(イ) 50年4月、短期大学設置基準が制定され、短期大学制度の弾力化が図られた。

(ウ) 第75回国会における学校教育法の一部改正により、51年1月11日から専修学校制度が発足し、従前の各種学校のうち、修業年限1年以上で一定規模以上の組織的な教育を行い、所定の基準に適合するものは、学校教育法上の専修学校となり得ることとなった。

特に、専修学校のうち高等学校卒業程度を入学資格とするものは、専門学校と称することができるものとされ、高等教育機関の一種に加えられることとなったことに留意する必要がある。

(エ) 第75回国会において、私学の教育条件の維持向上等を目的として、私立学校振興助成法が制定された（51年4月1日施行）。なお、私立大学等経常費補助金は、48年度の434億円から50年度1,007億円に拡充されたが、今後の私学助成の拡充とその適切な運用が課題となっている。

(オ) 私立学校振興助成法の制定に伴い、その附則によって私立学校法の一部改正が行われ、私立大学の学部・学科の設置廃止及び私立の収容定員に係る学則の変更が新たに文部大臣の認可事項とされ、また、56年3月31日までの間は、文部大臣は、大学設置審議会及び私立大学審議会の意見を聴いて「特に必要があると認める場合」を除き、私立大学・短期大学の設置、私立大学・短期大学の学部又は学科の設置及び私立大学・短期大学の収容定員の増加に係る学則の変更についての認可は、しないものとする旨が定められた。

II 計画策定の方針

1 昭和48年度以降、以上のような事態の推移があること、及び今後における社会経済の変化、国民の高等教育に対する需要の動向等にはなお予測し難いものがあることを考え、48年度及び49年度懇談会が指摘した全国的、構造的に均衡のとれた高等教育の発展を指向しつつ、61年度を目標年度として、当面、18才人口が増加に転ずる56年度までの間に、今後の高等教育の発展の基盤となる整備を図るこ

とに計画の重点を置くものとする。

2 この場合、大学、短期大学、高等専門学校に限らず、放送大学、大学通信教育、専門学校等をも包含する高等学校卒業後の教育の広がりを通じて、例えば、次のような高等教育全体の構造の柔軟化、流動化を積極的に進めることに特に留意するものとする。

- (1) 短期大学・高等専門学校卒業者の大学への編入学、あるいはこれらの者の大学院における修学について、その機会を保障するよう、技術科学大学の創設など、より積極的、具体的な方途を講ずること
- (2) 放送大学の創設、通信制と夜間制又は昼間制との組合せ、あるいは昼夜開講制等、より弾力的な修学の方式を検討、推進すること
- (3) 一定の限度で、専門学校を含む異なる高等教育機関における修得単位を累積加算する制度の可能性を検討すること
- (4) 単位の相互認定、教員の交流、その他大学間の協力交流をより積極化すること
- (5) 社会人の再就学の機会の拡大、公開講座、その他社会に対する高等教育機関の開放と積極的な活動を促進すること

3 上記1の趣旨により、49年度懇談会報告に従い、計画期間を前期及び後期に区分し、51年度から55年度までを前期の計画期間、56年度から61年度までを後期の計画期間とする。

4 前期の計画期間においては、私立学校振興助成法制定の趣旨、18才人口の推移等にかんがみ、上記1の基盤整備のための高等教育の質的な整備充実に重点を置き、特に次の諸施策を重視するものとする。

- (1) 全国的、構造的に均衡のとれた高等教育の発展を期するため、地方における高等教育の質・量の充実、特に地方における国立大学の計画的な整備を図ること
- (2) 私立の質的な充実を図り、特に平均1.79倍（50年度）の定員超過の現状を是正する方途を講ずること
- (3) 短期大学設置基準の制定の趣旨に沿い、社会の多様な要請に積極的に対応して短期大学の弾力的な発展を図ること

5 後期の計画期間においては、18才人口が増加に転ずることをも考え、国民の要請への適切な対応と高等教育の質的な充実に留意して、計画的な拡充整備を図るものとするが、その具体的な計画は、前期における基盤整備とその実績及び社会的諸事情の変化に応じ、高等教育機関の基本的性格を考え、かつ、高等教育への需要の動向の推移を見定めつつ、適切な時期にあらためて策定するものとする。

6 前期、後期を通じ計画期間中の高等教育の整備の進行状況を的確に把握し、評価を行う体制を確立して、今後における事態の変化と国民の要請に対応し、計画に適切な補正を加える配慮が必要である。

この場合、特に次のような事項に留意するものとする。

(1) 高等教育への進学状況等の全国的及び地域的な推移

① 高等教育機関への進学希望及び進学の状況（専門分野別、男女別、種類別、設置者別）

この場合、進学者の地域的な流動状況に留意すること

② 高等教育機関の収容力（専門分野別、種類別、設置者別）

この場合、大都市への集中の抑制、私立の定員超過率の是正、地方における私立の進出及び国立の計画的整備の進捗状況に留意すること。

③ 高等教育機関卒業者の進路状況

(2) 高等教育全体の構造の柔軟化、流動化の進展

(3) 専修学校制度の整備の進展並びに専修学校（特に専門学校）・各種学校への進学状況及びこれらの収容力の推移

(4) 高等学校の教育課程改訂の動向と高等学校への進学状況及び高等学校卒業者の進路状況の推移

(5) 職業構造、産業構造の変化等に伴う人材需要の動向及び雇用動向

(6) 国土利用に関する諸計画の進捗状況

(7) 経済情勢及び財政事情の推移

7 なお、大学院の拡充整備と高等教育機関の優れた教員を確保することは、高等教育の質的充実を図るに当たっての重要な課題である。大学院の拡充整備については、社会経済の発展と学術研究の進歩に伴い、高度の専門性を備えた職業人の養成と高等教育機関の教育を含め優れた研究者の養成確保の両面にわたって、その重要性がますます増大していくものと思われる。これについては、現在、大学院問題懇談会において、その基本方針につき検討が進められているので、その成果を期待することとしたい。また、高等教育機関の教員の養成確保については、大学院における養成にまつところが大きい。今後における高等教育の多様な発展を図るためには、社会の諸分野の優れた人材との交流、諸外国との交流等を積極的に進める必要がある。

Ⅲ 前期における計画の内容

1 計画期間中に整備を図るべきもの

上記Ⅱの方針に基づき、次に掲げる事項に該当するものについて、以下に示す規模、地域配置等の指標に従い、その計画的実現を図るものとする。

① 計画養成を必要とするもの

医師、歯科医師、看護婦その他の医療技術者、初等教育教員等の養成を目的とするもののほか、新しい学 分野や研究者養成等に係る将来の需要にこたえるもの（国、公、私立を問わないが、医・歯科大学については、原則として私立は予定しない。）

② 地方における国立大学の計画的整備

学部、学科構成の不均衡の是正、学部等の改組その他地域間の収容力格差や専門分野構成の不均衡の是正、地方文化の向上に資するための整備等

③ 私立における、定員超過是正等その質的充実を図るための定員変更その他の整備で、規模の拡大を伴わないもの

④ 公私立の移転、拡充等で、地域間の収容力格差や専門分野構成の不均衡の是正、地方文化の向上に資するもの及び高等教育の発展のために有意義な新しい試みを行おうとするもの

⑤ 社会の多様な要請に積極的に対応して、新しい分野を開拓するなど、学部、学科の改組、転換を図ろうとするもの、特に短期大学の柔軟な対応を期待する。

⑥ 上記Ⅱ、2に述べたような高等教育の構造の柔軟化、流動化の推進に資するもの

2 規模の目途

(1) 前期の計画期間中における高等教育の規模の目途は、下記(2)の大学等の規模及び(3)の専門学校等の規模に示すとおりとする。これによる専門学校等をも含めた55年度の高等教育の規模は、入学者数において800,000人を越え、その18才人口に対する比率は、50%を上回る事となる。

このうち、大学、短期大学及び高等専門学校の入学者数は、約640,000人であり、上記1による基盤整備のための質的な整備充実を図ることを主眼にして、その規模は、50年度に対し、約32,000人の増を見込んでいる。

専門学校等については、その性格上、一応現在の規模を見込むにとどめているが、今後の高等教育の構造の柔軟化、流動化のために、大学等の整備と並んで、これら専門学校等の発展にまつところが大きい。

(2) 大学等の規模

(ア) 大学、短期大学に係る上記1の整備は、計画期間中、次に掲げる規模を目途とし、後記3に示すような地域配置の調整を図りつつ、取り進めるものとする。

(単位 人)

国立	公立	私立	計
10,000	1,500	20,000	31,500

① 国立について

医師、歯科医師、医療技術者、初等教育教員等の計画養成、地方国立大学の計画的整備等のため、従来の実績をも考慮し、年平均2,000人増を目途とする。

なお、この場合の分野別の目途は、次のとおりである。

(単位 人)

医歯・医療技術	教員養成	一般	計
2,900 (5,300)	1,600 (19,400)	5,500 (56,100)	10,000 (80,800)

(注) ()内は、50年度の定員を示す。

② 公立について

看護婦その他の医療技術者の養成、地域の実情に即した専門職業教育、女子教育その他地域の社会的需要への対応を期待するが、小、中、高等学校等の整備等に当たる地方公共団体の財政の現状等を考え、一応、従来の実績である年平均300人増を目途とする。

③ 私立について

① 前記 (I, 2, (1), (キ)) の50年度届出に係る私立の定員増予定数約50,000人のうち、約45,000人は、定員超過の状況を是正するため、施設、設備、教員組織等を整備して、実員と定員との差を縮小するよう定員増を図ろうとするものと考えられるが、これらの定員変更の届出が受理され、かつ、定員変更に伴う新たな実員増を生ずることなくその趣旨どおり51年度の入学者の決定が行われた場合には、50年度の定員超過率 (1.79倍) は、51年度においては1.5倍強に是正されることとなる。

(注) 私立の入学定員に対する実員 (入学者) の倍率は、50年度において下表のような状況にある。

② 一方、過去5年間、私立の規模は、年平均定員増9,000人、実員増25,000人という拡大を続けており、定員超過率は、漸増の傾向にあった。(定員超過率 46年度 大学1.77倍、短期大学1.47倍→50年度 大学1.84倍、短期大学1.70倍)

③ よって、このような定員超過の是正を図ることに計画の重点を置き、50年度までの既設分につ

(50年度)

区 分	入学定員(A)	入学者数(B)	倍 率($\frac{B}{A}$)
大 学	183,729 人	337,790 人	1.84
短 期 大 学	95,520	162,370	1.70
計	279,249	500,160	1.79

いては、計画期間中、定員超過の是正をさらに進めることにより定員超過率を全体として1.5倍以内にとどめ、今後、各学校においていわゆる水増しによる実員増を生ずることのないよう、設置者の自粛を求めつつ、学部、学科の性格に即し、教育研究条件の改善に資するよう所要の措置を講ずるものとする。

① ㉔を前提として、上記1の計画期間中の整備で私立に期待すべきものの規模は、年平均、定員において2,500人増、実員において3,000人増の範囲とする。なお、51年度においては、経過的に学科増設等の届出に伴う実員増を生ずると見込まれるので、このため、別途5,000人程度の増を予定するものとする。

㉔ なお、50年度において、私立には、大学、短期大学を通じ、約11,000人（大学3,000人、短期大学8,000人）の欠員が生じているので、大都市における著しい定員超過の是正を進めることとあいまって、実情に応じ、必要な改善策を講ずることが望ましい。

(イ) 大学、短期大学別の規模の目途は、従来の傾向（I, 2, (1), (イ)）を考え、設定しないこととするが、上記1に掲げた計画期間中の整備の方向に沿った短期大学の対応を特に期待するものとする。

(ウ) 高等専門学校については、質的な充実を図ることとし、規模の拡大は見込まないものとする。

(エ) 上記の規模の目途に従って大学、短期大学の整備が行われた場合の、55年度における大学等への入学者数、18才人口に占める比率等は、次の表のとおりとなる。

なお、55年度の大学等への入学者数（640,000人）は、61年度の18才人口（1,863,000人）に対しては、34.3%に相当する。

(3) 専門学校等の規模

(ア) 上記(2)の大学等の規模の目途は、従来の著しい定員超過を伴う規模の拡大の傾向に対して、是正と抑制を加えようとするものであるが、他面、48年度懇談会報告が指摘したように、高等学校

区 分	全国の18才の人口 (A)	大学等への入学者数(B)	全国18才人口に占める大学等入学者数の比率 $\frac{B}{A}$	国公立対私立の入学者比率
50年度	1,585,000 ^人	608,000 ^人	38.3 [%]	17.5 [%] : 82.5 [%]
55年度	1,589,000	640,000	40.3	18.5 : 81.5

進学率の上昇，その他の高等教育への需要の増加傾向がなお強いことをも考えると，専門学校，大学通信教育，放送大学等上記(2)以外の高等教育機関の整備を併せて促進する必要がある。

(イ) 前記 (I, 2, (1), (ウ)) で述べたように，50年度において高等学校卒業以上を入学資格とする修業年限1年以上の各種学校への入学者数は，158,000人であり，その規模は，55年度の18才人口に対して進学率約10%に相当するが，これらの多くは，その性質上，計画においては自由な進展に委ねるべきものとする。ただし，看護婦その他の医療技術者の計画養成については，従来，相当部分の養成が各種学校により行われている実態（50年度在学者数48,000人）にかんがみ，専門学校等を含め，計画的に実現を図るべきものとして，その規模を検討する必要がある。

(ウ) 大学通信教育への入学者数は，50年度において15,000人（大学10,000人，短期大学5,000人）であり，55年度において進学率約1%に相当する。大学通信教育については，一層の充実が期待されるが，その規模については，一応，50年度の入学者数をそのまま見込むものとする。

(エ) 放送大学の具体的な設置計画は現在検討中であり，整備すべきその規模についても現時点では定め難いので，今後の検討にまつこととする。

3 地域配置計画

(1) 高等教育機関の地域配置における不均衡の是正を図るためには，後期における計画的拡充にまつところが大きであるが，前期においても，その展望の下に，大学等について上記2, (2)に示した規模の目途の範囲内において，できる限り，ブロック単位に計画的な配置を図るものとする。

なお，専門学校等については，その自由な発展を期待する趣旨から，この地域配置計画には含めていない。

(2) ブロックの区分

大学等の計画的配置を考える場合のブロックの区分は，下記①，②に述べることを特に考慮して，次のとおりとする。（各ブロック内の進学者数等については，別添1-1，1-2参照）

① これまでの高等教育の規模の拡大は，大都市圏（京浜・南関東，東海，京阪神・近畿）におい

ブロック名	該 当 都 道 府 県
北 海 道	北海道
東 北	青森, 岩手, 宮城, 秋田, 山形, 福島 (6 県)
関東・甲信越	茨城, 栃木, 群馬, 埼玉, 千葉, 東京, 神奈川, 山梨, 長野, 新潟 (1 都 9 県)
東 海	岐阜, 静岡, 愛知, 三重 (4 県)
北陸・近畿	富山, 石川, 福井, 滋賀, 京都, 大阪, 兵庫, 奈良, 和歌山 (2 府 7 県)
中 国	鳥取, 島根, 岡山, 広島, 山口 (5 県)
四 国	徳島, 香川, 愛媛, 高知 (4 県)
九 州	福岡, 佐賀, 長崎, 熊本, 大分, 宮崎, 鹿児島, 沖縄 (8 県)

て、他の地域をはるかに超えて進行してきたところであるが、上記Ⅰ、2、(2)、(ウ)において示したように、50年度と55年度における18才人口には、地域的にかなりの変動（大都市圏における増、その他の地域における減）が見込まれる。このような18才人口の地域間の変動は、従来の大都市圏における高等教育の規模の拡大の傾向を、より促進する要因となるものと考えられること。

- ② したがって、今後、このような大都市圏における18才人口の増加に伴って予想される高等教育への需要の増大への対応を考慮しつつ、かつ、上記2、(2)の規模の目途の範囲内で、できる限り地域配置の是正を図るためには、京浜・南関東、京阪神・近畿については、これらに隣接する地域をも含めてより広域なブロック区分を想定し、ブロック内における収容力の調整を図る必要があること。

(3) ブロック別の配置計画

各ブロックにおける、18才人口の今後の推移、進学率・収容力等の状況、高等教育に係る地理的、社会的条件等を考慮して、55年度におけるブロックごとの収容力等の一応の目途を次の表のように定める。

ブ ロ ッ ク	進 学 者		進 学 率		収 容 力					国 立 に よ る	拡 充 見 込 数	公 立 に よ る	拡 充 見 込 数
	昭 和 50 年 度 (A)	昭 和 55 年 度 (B)	昭 和 50 年 度 (C)	昭 和 55 年 度 (D)	昭 和 50 年 度 (E)	収 容 率		昭 和 55 年 度 (F)	拡 充 見 込 数 (F-E)				
						昭 和 50 年 度 (E/A)	昭 和 55 年 度 (F/B)						
北 海 道	人 27,000	人 28,000	% 31	% 34	人 20,000 (5,000)	% 75	% 80	人 23,000	人 3,000	人 1,000	人 2,000		
東 北	44,000	46,000	25	30	25,000 (11,000)	56	60	28,000	3,000	1,100	1,900		
関 東・甲 信 越	192,000	208,000	42	42	274,000 (69,000)	143	135	281,000	7,000	2,200	4,800		
東 海	70,000	76,000	42	42	56,000 (15,000)	80	80	61,000	5,000	1,000	4,000		
北 陸・近 畿	125,000	138,000	48	48	137,000 (35,000)	110	104	143,000	6,000	1,700	4,300		
中 国	48,000	45,000	43	44	26,000 (7,000)	55	65	29,000	3,000	1,000	2,000		
四 国	25,000	23,000	38	39	12,000 (5,000)	46	60	14,000	2,000	800	1,200		
九 州	77,000	76,000	30	34	58,000 (11,000)	76	80	61,000	3,000	1,200	1,800		
計	608,000	640,000	38	40	608,000 (158,000)	100	100	640,000	32,000	10,000	22,000		

- (注) ① 55年度における進学者数の目途 640,000 人 (進学率40.3%) のブロック別配分に当たっては、関東・甲信越、東海、北陸・近畿の各ブロックの55年度進学率を50年度と同率と想定し、他のブロックについては、それぞれ1～5%の増を見込むこととした。
- ② このブロック別進学率の想定は、前記した計画策定の方針と規模の目途を前提とするものであって、従来の傾向 (各ブロック年率2～3%の上昇) とは異なるものである。また、ブロックごとの進学率の推移は、政策的に措置し難いものでもあるから、特に大都市圏ブロックにあたっては、実際の進学者数の推移とその地域的分散状況に対する十分な配慮が必要である。
- ③ 各ブロックの収容力については、上記②を考慮しつつ、各ブロックとも少なくともブロック内進学者の60%を当該ブロック内において収容できるようにすることを目途とした。
- ④ このブロック別の計画的配置を進めるに当たっては、各都道府県ごとの進学率、収容力の状況 (別添2-1, 2-2参照) 及び下記(4)に留意するとともに、従来大都市圏において特に著しい高等教育への需要の増加傾向を適切に受け止め、分散させるため、地方にお

ける国立大学の人文社会系学部等の計画的整備の推進、大都市圏における専門学校の整備等を図っていくことが必要である。

- ⑤ ② 進学者数は、大学、短期大学、高等専門学校（第4年次在学者）の合計である。
- ⑥ 50年度収容力(E)の()内は、高等教育レベルの各種学校の入学者数を示す(外数)。
- ⑦ 上記2, (2)に示した規模の目途は31,500人であるが、拡充見込数(F-E)は1,000人を単位として示したため、計32,000人となっている。

(4) 新增設を行わない地域

大学等の新增設を原則として行わない地域を次のとおり設定し、これらの地域においては、実員増を伴わない改組・定員増、夜間学部・学科の設置、現に整備計画進行中のもの等を除き、新增設は一切行わないものとする。ただし、工業(場)等制限区域以外の政令指定都市の区域については、地域の事情に応じた緩和を考慮するものとする。

	工業(場)等制限区域		その他の政令指定都市の区域
	首都圏	近畿圏	
全域	東京都区部、武蔵野市		札幌市、名古屋市、北九州市、福岡市
一部	川口市、三鷹市、横浜市、川崎市	京都市、大阪市、守口市、東大阪市、堺市、神戸市、尼崎市、西宮市、芦屋市	横浜市、川崎市、京都市、大阪市、神戸市の工業(場)等制限区域以外の区域

なお、これらの地域からの大学等の移転について積極的に配慮することが望ましい。

(注) 「工業(場)等制限区域」とは、「首都圏の既成市街地における工業等の制限に関する法律」に規定する「工業等制限区域」及び「近畿圏の既成都市区域における工場等の制限に関する法律」に規定する「工場等制限区域」をいう。

4 私立の大学、短期大学の新增設の認可と前期の計画

前期の計画期間中における大学、短期大学の新增設が、私立学校法附則第13項に定める「特に必要があると認める場合」に該当するか否かの判断に当たっては、私立の大学、短期大学の量的拡大を抑制しようとする法律の趣旨とこのまとめの基本的方針に沿って、上記1に掲げた「計画期間中に整備を図るべきもの」に該当するもの(既に新增設の事前準備が終了しているもので経過的措置を必要とすると認められるものを含む。)のうちから、次の諸点を考慮して、認可すべきものを厳正に選択する

ことが適当である。

- ① 上記2, (2)に掲げた私立の規模を認可に伴う学生増の目途とすること
- ② 上記3に掲げたブロックごとの収容力の目途及び新增設を行わない地域に留意すること
- ③ 専門分野構成における地域間の不均衡の是正に留意すること（別添3-1～3-4参照）
- ④ 学校法人の安定した経営基盤の確保に配慮すること

Ⅳ 後期における規模の目途等

1 昭和61年度における高等教育の規模の目途について、48年度及び49年度懇談会は、いずれも「昭和50年代に到達するであろう進学率40%より低い進学率を昭和60年代当初の指標とすることは、適当でない。」とする原則的な考え方を示している。

2 前記（Ⅱ，5）したように、後期の具体的な計画は、今後における諸般の事情の推移を見定めつつ、適切な時期に策定するものとするが、その際、61年度における高等教育の規模の目途については、あらためて検討することが必要である。

その場合、別添4に掲げた35年度以降の高等教育の規模の拡大の実態を顧み、かつ、次のような要請（49年度懇談会報告）にこたえ得る規模を確保する見地に立って、検討を行うことが必要と思われる。

- ① 我が国の高等教育及び学術研究の質的水準の維持，向上
- ② 計画養成を必要とする分野における人材需要への対応
- ③ 進学率，収容力，専門分野構成等における地域間格差の是正等，今後における高等教育の機会に対する国民の要請への適切な対応
- ④ 地域開発や地方文化の向上への寄与

31. 昭和52年度大学入学者選抜実施要項について（通知）

文 大 大 第 135 号

昭和51年 4 月10日

各国公私立大学長 殿

文部省大学局長 佐 野 文一郎

昭和52年度大学入学者選抜実施要項（以下「実施要項」という。）を別紙のとおり定めましたので、各大学におかれては、これに従い、公正かつ妥当な入学者選抜を実施されるようお願いいたします。

実施要項に関して留意すべき点は、下記のとおりであります。

記

- 1 昭和51年度以降における学力検査実施教科・科目について、5教科原則は維持しながら従来の5教科5科目ないし9科目原則を、必修科目を中心とした5教科5科目ないし6科目原則に改めたのは、調和のとれた人間形成と受験準備の負担軽減を併せ考慮した結果によるものであり、実施教科・科目の決定に当たっては、この趣旨に十分留意し、受験生の負担が過重にならないようにすること。
- 2 出願に必要な書類の提出方法について、実態に沿うよう本年度から各大学・出身学校長が自主的に定めることとしたこと。
- 3 実施要項第8による公表は、別紙様式1及び別紙様式2により、各都道府県の知事及び教育委員会教育長、各指定都市の教育委員会教育長並びに国立大学の大学附属又は学部附属の高等学校長に通知する方法によるものとし、同時に文部省大学課へも報告すること。

別紙様式 1

昭和52年度〇〇大学入学者選抜方法等

選抜方法等	学部(学科・専攻・課程)名	〇 〇 学部		〇〇学部	備考
	〇〇学部(〇〇学科)	〇 科系	〇 科系	〇〇学部	
ア 入学定員の一部分について、出身学校長の推薦に基づき、学力検査を免除し調査書を主たる資料として判定する					
イ 学力検査を課さないで、調査書を主たる資料として判定する					
ウ 学力検査等に先立ち、調査書を主な資料として判定し、この合格者に対して学力検査等を課して最終的に判定する					
エ 調査書に㊸標示を希望する					
オ 調査書に能力・適性等に関する推薦の記入を希望する					
カ 学力検査の一部又は全部を他の大学と共同し、共通の学力検査として実施する					
キ 学力検査を第1次と第2次に分け、第1次学力検査の合格者に対して第2次学力検査を課する					
ク 実技検査を行う					
ケ 面接を行う					
コ 小論文を課する					

記入上の注意

- 「学部(学科・専攻・課程)名」欄には、同一の選抜方法等を実施する学部(学科・専攻・課程)名を列記すること。
同一学部であっても、例えば、文科系の専攻と理科系の専攻が選抜方法等を異にする場合には分けて記入すること。
- 該当する欄には○印を付し、該当しない欄には×印をすること。
- 「備考」欄には、推薦入学募集人員(又は比率)、推薦要件、学力検査等に先立つ調査書による判定の合格予定数(又は比率)、その他受験者の参考となる事項を記入すること。
- ク、ケ、及びコの備考欄には、「例えば、推薦入学志望者について面接を実施する。」等の実施対象等について記入すること。
- 本表に該当する事項が全くない場合は、別紙様式2にその旨注を付すること。

昭和52年度大学入学者選抜実施要項

大学入学者の選抜は、大学教育を受けるにふさわしい能力・適性等を備えた者を公正かつ妥当な方法で選抜するように実施するとともに、入学者の選抜のために高等学校の教育を乱すことのないよう配慮するものとする。

第1 募 集 人 員

各大学で募集する人員は、所定の入学定員によるものとする。

第2 出 願 資 格

大学に入学を志願することのできる者は、次のとおりである。

- 1 高等学校を卒業した者及び昭和52年3月卒業見込みの者
- 2 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び昭和52年3月修了見込みの者
- 3 高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者（別紙1参照）

第3 選 抜 期 日

- 1 入学者選抜の期日は、次により適宜これを定めるものとするが、国立大学（短期大学を除く。）にあつては、別紙2により実施するものとする。
 - (1) 入学者選抜試験期日 昭和52年3月1日から4月15日までの間
 - (2) 入学願書受付期間 入学者選抜試験期日に応じて定める。
 - (3) 合格者の決定発表 昭和52年4月20日まで
- 2 入学定員の一部について、出身学校長の推薦に基づき、学力検査を免除し調査書を主な資料として判定する方法による場合は、判定結果を原則として昭和52年2月20日までに発表するものとし、この期日に応じて入学願書受付期間を適宜定めるものとする。
- 3 学力検査を課さないで調査書を主な資料として判定する方法による場合の入学者選抜の期日は、上記1により定めるものとする。
- 4 学力検査等に先立ち、調査書を主な資料として判定し、この合格者に対し学力検査等を課して最終判定する方法による場合は、調査書を主な資料として判定した結果を原則として学力検査開始日の10日前までに発表するものとする。

第4 選 抜 方 法

- 1 入学者の選抜は、調査書、学力検査、大学が必要に応じて実施する健康診断その他大学が適当と認める資料により、入学志願者の能力・適性等を合理的に総合して判定する方法によるものと

する。

2 上記1の選抜方法のほか、大学の意向によっては、次の選抜方法によることもできる。

(1) 入学定員の一部について、出身学校長の推薦に基づき、学力検査を免除し調査書を主な資料として判定する方法

ア 大学は、能力・適性等に関する推薦の要件を具体的に定め、これを高等学校長に提示して推薦を求めるものとする。

イ 大学は、入学志願者について面接を行い、又は小論文を課することが望ましい。

(2) 学力検査を課さないで調査書を主な資料として判定する方法

大学は、入学志願者について面接を行い、又は小論文を課することが望ましい。

(3) 学力検査等に先立ち、調査書を主な資料として判定し、この合格者に対し学力検査等を課して最終判定する方法

3 大学は、選抜方法に関する研究委員会を設けて調査研究を行い、入学者の選抜に当たっては、その成果を十分に反映させることが望ましい。

第5 調 査 書

1 大学は、入学者選抜の資料として、出身学校長が生徒指導要録等に基づき、かつ調査書作成に関する委員会の審議を経て作成した調査書を提出させるものとする。

調査書の様式、記入上の注意事項等は、別紙による。

2 調査書は、入学志願者の学習成績、健康状況、性格、行動等が記載された重要な資料であるので、入学者の選抜に当たっては、調査書を十分活用することが望ましい。

なお、学力検査を実施する場合、入学志願者が受験する教科・科目以外の教科・科目については、特に調査書の学習成績に留意するものとする。

また、専門教育を主とする学科卒業の入学志願者について、その専門教育が当該学部・学科の教育と密接に関連すると認められる場合には、調査書の専門教育に関する科目の学習成績に留意することが望ましい。

3 調査書に記入される学習成績概評は、高等学校における同一学年生徒全員（ただし、教育課程の異なる類型のある場合は類型別、専門教育を主とする学科の場合は科別）の3か年間（ただし、定時制及び通信制の課程にあつては4か年間）における各教科・科目の評定平均値の平均を表1の区分に従ってA、B、C、D、Eの5段階に分け、その生徒の属する成績段階を示しているものである。

(表1) 学習成績概評

各教科・科目の評定平均値の平均	学習成績概評
5.0 ～ 4.3	A
4.2 ～ 3.5	B
3.4 ～ 2.7	C
2.6 ～ 1.9	D
1.8 以下	E

4 大学は、高等学校長に対し学習成績概評Aに属する生徒のうち、人物、学力ともに特に優秀で、高等学校長が責任をもって推薦できる者については、「学習成績概評」欄に㊸と標示するよう希望することができる。

なお、この場合には「備考」欄にその理由を明示させるものとする。

5 「健康の状況」の欄は、高等学校生徒健康診断票に基づいて記載されるものであり、入学後の保健指導等の参考資料としても併せて活用することが望ましい。

6 大学は、高等学校長に対し当該大学の学部・学科に対する能力・適性等について、特に高等学校長が推薦できる生徒については、その旨を調査書の「備考」欄に記入するよう希望することができる。

7 やむを得ない事由により完全な調査書が得られない場合は、次により措置するとともに、面接によって不足を補う等の配慮が望ましい。

(1) 廃校、被災その他の事情により出身学校長の調査書が得られない場合は、卒業証明書、成績通信簿その他志願者が提出できる書類をもってこれに代えてもよい。

(2) 本人が被災等により上記書類をも整えられない場合は、出身学校所管の教育委員会、知事又は出身学校長が作成したこれに関する証明書を提出させる。ただし、このような証明書を受理した大学は、本人について更に調査をすることが必要である。

(3) 大学入学資格検定等の試験検定の合格者については、当該試験の成績証明書をもって調査書に代えることができる。

第6 学力検査等

1 学力検査

(1) 学力検査は、高等学校学習指導要領に準拠し、高等学校教育の正常な発展の障害とならない

よう十分留意して実施するものとする。

- (2) 大学は、学力検査の一部又は全部を他の大学と共同し、共通の学力検査として実施することができる。
- (3) 大学は、学力検査を第1次と第2次に分け、第1次学力検査の合格者に対して第2次学力検査を課することができる。
- (4) 学力検査は、国語、社会、数学、理科、外国語の5教科について実施することを原則とするが、大学・学部の目的、特色、専門分野等によっては、一部の教科を除き、又は他の教科を加えて実施することができる。
- (5) 各教科における学力検査実施科目等は、次により大学が定める。

国 語 国語は、現代国語、古典Ⅰ甲のうちから1科目又は2科目を出題する。ただし、大学・学部の目的、特色、専門分野等によっては、2科目を出題する場合、古典Ⅰ甲に代えて古典Ⅰ乙を出題することができる。

社 会 社会は、倫理・社会、政治・経済、日本史、世界史、地理A及び地理Bのうちから3科目以上を出題し、1科目を選択解答させる。ただし、大学・学部の目的、特色、専門分野等によっては、2科目を選択解答させ、又は特定の1科目ないし2科目を出題することができる。

数 学 数学は、数学一般又は数学Ⅰを出題する。ただし、大学・学部の目的、特色、専門分野等によっては、数学Ⅰを出題する場合、これに数学ⅡB及び数学Ⅲを加えることができる。なお、数学Ⅲを出題しない場合は、数学ⅡAを加えて数学ⅡBと選択解答させることが望ましい。

理 科 理科は、基礎理科を出題するか、又は物理Ⅰ、化学Ⅰ、生物Ⅰ、地学Ⅰのうちから3科目以上を出題し、1科目を選択解答させる。ただし、大学・学部の目的、特色、専門分野等によっては、前記の科目中基礎理科を除き、2科目を選択解答させ、若しくは特定の1科目ないし2科目を出題し、又は同種のⅠ、Ⅱの科目を合わせて1ないし2を選択解答させ、若しくは特定の1ないし2を出題することができる。

外 国 語 外国語は、英語A又は英語Bを出題するか、又は英話B、ドイツ語、フランス語その他の外国語を出題し、1科目を選択解答させる。

- (6) 商学、工学、農学、水産学、家政学、看護学等に関する大学・学部で、その目的、特色、専

門分野等からみて適当と認められる場合には、前記(4)に掲げる教科の一部に代えて、職業に関する教科を出題し、又は前記(5)の社会、数学又は理科の科目に商業一般、水産一般、家庭一般、看護基礎医学等職業に関する基礎的又は中心的科目を加え、選択解答させることが望ましい。

(7) 学力検査は、次の諸点に留意して、入学志願者の学習能力をできる限り合理的に検出することができるよう出題方針を立てるものとする。

ア 学力検査は、各種の客観式及び記述式の検査方式を適宜組み合わせて実施することが望ましい。

イ 原理的、根本的なものを基礎として、これを運用して解答できるもので、それぞれの科目に関して学理的な適応性を検出できるような問題が望ましく、単なる記憶や知識のみを検出するような問題であってはならない。

ウ 出題に当たっては、1教科内の二つ以上の科目にわたる知識を必要とする問題は避けなければならない。

エ 高等学校の専門教育を主とする学科の卒業者のための上記(6)に示す職業に関する科目の出題に当たっては、専門教育を主とする学科の卒業者が普通教育を主とする学科の卒業者に比べて不利にならないよう、特に考慮するものとする。

(8) 旧教育課程による高等学校卒業者に対して、特に旧教育課程の科目による出題は要しないが、学力検査問題の出題に当たっては、新教育課程による卒業者との間で特に有利・不利が生じないよう配慮することが望ましい。

2 実技検査、面接、小論文等

(1) 実技検査

美術、工芸、音楽、体育等に関する学部・学科（教員養成学部にあつては主専攻）においては、前記1の学力検査のほか、実技に関する検査を課することが望ましい。

(2) 面接と小論文

大学は、志願者に対し面接を行い、又は小論文を課することができる。

第7 健康診断

1 入学志願者の健康状況のは握は、次により行うものとする。

(1) 昭和50年度の高等学校卒業生及び昭和52年3月卒業見込みの者については、調査書の「健康の状況」の記載による。

(2) 昭和49年度以前の高等学校卒業生及び大学入学資格検定合格者等調査書を提出することがで

きない者については、調査書の「健康の状況」欄の記載事項とされている視力、色覚、聴力、結核及びその他の疾病、異常等について医師の作成した健康診断書（様式は特に定めない。）を提出させ、その記載による。

(3) 特定の学部・学科等が必要とする特別の事項に関する検査、異常所見者に対する精密検査等については、必要に応じて大学が実施するものとする。

1 入学者選抜に際して健康診断により不合格の判定を行うについては、疾病など心身の異常のため志望学部・学科等の教育の目的に即した履修に耐えないこと、又は伝染性疾患などにより集団生活に適しないことが、入学後の保健指導等を考慮してもなお明白な場合に限定することが望ましい。

第8 学力検査実施教科・科目等及び選抜方法等の決定・公表

1 大学は、前記第6の1の学力検査実施教科・科目並びに2の実技検査の実施科目、面接の実施及び小論文の出題等について決定し、昭和51年6月1日から7月31日までの期間内に公表するものとする。

2 大学は、次の事項に該当する場合には、それぞれ具体的な取扱いを決定し、上記1で定める期間内に公表するものとする。

(1) 入学定員の一部について、出身学校長の推薦に基づき、学力検査を免除し調査書を主な資料として判定する方法をとる場合

(2) 学力検査を課さないで調査書を主な資料として判定する方法をとる場合

(3) 学力検査等に先立ち、調査書を主な資料として判定し、この合格者に対し学力検査等を課して最終的に判定する方法をとる場合

(4) 調査書に㊤標示を希望する場合

(5) 調査書に能力・適性等についての推薦の記入を希望する場合

(6) 学力検査の一部又は全部を他の大学と共同し、共通の学力検査として実施する場合

(7) 学力検査を第1次と第2次に分け、第1次学力検査の合格者に対して第2次学力検査を課する方法をとる場合

第9 募集要項、出願の手続等

1 募集要項等

(1) 大学は、募集人員、選抜期日、選抜方法、検査場、出願手続、入学検定料その他入学に要する経費等出願に必要な事項を記載した募集要項を発表するものとする。

なお、大学は、入学に要する経費のすべてを募集要項に記載するものとし、これに記載されない寄付金等の納入を条件として入学許可を行うことのないようにするものとする。

- (2) 大学は、当該大学の学部等の教育を受けるにふさわしい者の能力・適性等について、募集要項に具体的に記載することが望ましい。
- (3) 大学は、昭和51年12月25日までに募集要項を発表するものとする。
- (4) 大学は、入学志願者に対し、大学案内等により、学部・学科の組織、特色その他学生生活の概要、諸経費を明らかにすることが望ましい。

2 出願の手続

- (1) 入学志願者は、出願に必要な書類を取りそろえ、志願大学の定める手続により、志願大学へ提出するものとする。

この場合において、出願に必要な書類を出身学校長が取りまとめて志願大学へ提出し、又は、出願に必要な書類のうち出身学校長が作成すべき調査書等のみについて、出身学校長が直接志願大学へ提出することも差し支えない。

- (2) 出願に際して提出する写真は、出願以前3か月以内に撮影したものとする。

第10 注 意 事 項

- 1 身体障害のある入学志願者については、その能力・適性等に応じた学部等への進学のを広げる観点から、受験の機会を確保するよう配慮すること。
- 2 大学は、入学者選抜において出題した学力検査問題等について、支障のない限り、標準的な解答例や出題の意図等を適切な方法により明らかにするよう配慮すること。
- 3 大学のうちには、学生定員を著しく超えて入学させている向きもあるが、学生定員は、学科目又は講座の数、教員組織、施設、設備等を総合的に考慮して定められていることに十分留意すること。
- 4 本要項により実施し難い事情のある大学は、募集要項の発表前に文部省と協議のうえ実施すること。
- 5 募集要項の発表後に、募集要項のとおり実施し難い事態が生じた場合には、事前に文部省と協議のうえ実施すること。

なお、緊急事態の生じたことにより、事前に協議できない場合には、その事態及び措置をすみやかに文部省に報告すること。

別紙 Ⅰ

学校教育法第56条第1項に規定する大学入学に関し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者は、次のとおりである。

- 1 外国において学校教育における12年の課程を修了した者
- 2 文部大臣の指定した者
 - (1) 従前の規定による高等学校高等科又は大学予科の第1学年を修了した者
 - (2) 専門学校本科又は中等学校卒業程度を入学資格とする専門学校予科の第1学年を修了した者
 - (3) 高等師範学校、女子高等師範学校、実業教員養成所又は臨時教員養成所の第1学年を修了した者
 - (4) 師範学校本科(昭和18年勅令第109号施行以前のもをを除く。)又は青年師範学校の第1学年を修了した者及び師範学校予科において4年の課程を修了した者
 - (5) 昭和18年勅令第109号施行以前の師範学校の本科第1部第4学年又は本科第2部第1学年を修了した者、並びに青年学校教員養成所の第1学年を修了した者
 - (6) 修業年限5年の高等女学校卒業程度を入学資格とする高等女学校の専攻科又は高等科の第1学年を修了した者又は修業年限4年の高等女学校卒業程度を入学資格とする高等女学校の専攻科又は高等科の第2学年を修了した者
 - (7) 国民学校初等科修了程度を入学資格とする修業年限5年の実業学校卒業程度を入学資格とする実業学校専攻科の第1学年を修了した者又は国民学校初等科修了程度を入学資格とする修業年限4年の実業学校卒業程度を入学資格とする実業学校専攻科の第2学年を修了した者
 - (8) 大正7年文部省令第3号第2条第2号により指定した学校の第1学年を修了した者(昭和30年3月31日までに修了した者に限る。)
 - (9) 従前の規定による大学において、高等学校高等科又は専門学校本科と同等以上の学校として入学資格を認められた学校の第1学年を修了した者
 - (10) 朝鮮教育令、台湾教育令、在閩東州及び満州帝国臣民教育令又は在外指定学校規則による学校において前各号の一に該当する者
 - (11) 高等学校高等科学力検定試験又は専門学校卒業程度検定試験に合格した者
 - (12) 教育職員免許法(昭和24年法律第147号)による小学校、中学校若しくは高等学校の教諭の普通免許状を有する者又は教育職員免許法施行法(昭和24年法律第148号)により、これらの免許状を有する者とみなされた者(旧教員免許令(明治23年勅令第134号)に基づく旧実業学

校教員検定に関する規定（大正11年文部省令第4号）による実習科目に関する限りの実業学校教員免許状を有する者を除く。）

- (13) 専門学校の別科第1学年を修了した者。但し、中等学校（旧中等学校令第19条の規定によるものを除く。）卒業程度を入学資格とする者に限る。
- (14) 東京盲学校師範部甲種音楽科第1部第1学年、鍼按科第1学年を修了した者及び同校師範部普通科乙種を卒業した者、又は東京ろう啞学校師範部技芸科第1部第1学年を修了した者及び同校師範部普通科乙種を卒業した者
- (15) 各都道府県において行う新制大学の入学資格を認定する試験に合格した者（昭和26年3月31日までの試験に合格した者に限る。）
- (16) 運輸省設置法（昭和24年法律第157号）旧第35条に定める商船学校の席上課程3年修了者
（注） 国立学校設置法による商船高等学校に包括された商船学校席上課程第3学年修了者を含む。
- (17) 旧海軍工廠、旧海軍航空廠、旧海軍技術廠、旧海軍火薬廠、旧海軍施設部、旧海軍燃料廠及び旧海軍工作部（旧海軍工廠等という。以下同じ。）に設置した工員養成所において修業年限2年の補修科を修了した者、旧海軍工廠等に設置した工員教習所において修業年限1年の補修科を修了した者又は旧海軍工廠等に設置した職工教習所において修業年限2年の高等科、修業年限1年の専修科若しくは補修科を修了した者
- (18) 運輸省設置法による海員学校の高等科を卒業し、同法による海技大学の通信教育部の普通科A課程を卒業した者（昭和50年4月1日以降に海技大学の当該課程に入学した者に限る。）
- 3 大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）により文部大臣の行う大学入学資格検定に合格した者及び合格見込みであることが証明される者
- 4 その他大学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

別紙 2

昭和52年度国立大学入学者選抜期日等について

- 1 昭和52年度国立大学の入学者選抜については、第1期、第2期に分けて実施する(別表参照)。
 - (1) 願書受付期間

第 1 期	2月1日(火)から2月10日(木)まで
第 2 期	2月12日(土)から2月21日(月)まで
 - (2) 学力検査開始日

第 1 期	3月3日(木)から
第 2 期	3月23日(水)から
 - (3) 合格者の発表

第 1 期	3月20日(日)まで
第 2 期	4月10日(日)まで
 - (4) 健康診断、面接等についても、学力検査開始日以降に実施するものとする。
 - (5) 第1期に入学者選抜を実施する大学は、第2期に入学者選抜を実施する大学のことを考慮し、特に合格者の発表期日を厳守するものとする。
- 2 第1期に入学者選抜を実施する大学及び第2期に入学者選抜を実施する大学が、昭和52年度大学入学者選抜実施要項第6の1の(2)及び(3)により、共同して共通の第1次学力検査を実施する場合には、共通の第1次学力検査は第1期の期日より実施するものとする。
- 3 第1期、第2期とも入学者が定員に満たない場合には、第2次募集を行うものとする。第2次募集の入学者選抜期日等は、第2期の入学者選抜終了後の期日で適宜各大学で定めて実施するものとする。
- 4 上記により難しい事情のある場合は、事前に文部省と協議すること。

別 表

第 1 期	第 2 期
北海道大学	北海道教育大学, 室蘭工業大学, 小樽商科大学, 帯広畜産大学, 旭川医科大学, 北見工業大学
岩手大学, 東北大学	弘前大学, 宮城教育大学, 秋田大学, 山形大学, 福島大学
筑波大学, 千葉大学, 東京大学, 東京芸術大学, 東京工業大学, 東京水産大学, お茶の水女子大学, 一橋大学	茨城大学, 宇都宮大学, 群馬大学, 埼玉大学, 東 京医科歯科大学, 東京外国語大学, 東京学芸大学, 東京農工大学, 東京商船大学, 電気通信大学, 横 浜国立大学
新潟大学, 富山医科薬科大学, 金沢大学, 浜松医 科大学, 名古屋大学, 三重大学, 滋賀医科大学, 京都大学, 大阪大学, 神戸大学, 奈良女子大学	富山大学, 福井大学, 山梨大学, 信州大学, 岐阜 大学, 静岡大学, 愛知教育大学, 名古屋工業大学, 滋賀大学, 京都教育大学, 京都工芸繊維大学, 大 阪外国語大学, 大阪教育大学, 神戸商船大学, 奈 良教育大学, 和歌山大学
鳥取大学, 島根医科大学, 岡山大学, 広島大学	島根大学, 山口大学
徳島大学, 高知大学	香川大学, 愛媛大学
九州大学, 九州芸術工科大学, 長崎大学, 熊本大 学, 宮崎大学, 琉球大学	福岡教育大学, 九州工業大学, 佐賀大学, 大分大 学, 宮崎医科大学, 鹿児島大学
計34校	計48校

別紙 3

大学入学者の選抜に際して使用される調査書の作成について

1 調査書作成の基本方針

- (1) 調査書は、高等学校生徒指導要録等に基づいて作成するものとする。
- (2) 調査書の作成に当たっては、個人的主観にとらわれたり、特別の作為を加えたりすることのないようにするものとする。
- (3) 調査書は、ホーム・ルーム担任教員等が記入し、関係教員をもって組織した調査書作成に関する委員会の審議を経て、高等学校長が作成し、その責任において、大学に提出されるものとする。

2 調査書の様式、規格及び用紙

調査書は、別紙様式により日本工業規格B 5判(182×257mm)上質紙(90kg程度)とし、表裏の両面を使って作成すること。ただし、複写機等により作成する場合は、B 4縦型表判(257×364mm)複写紙の左右に表裏を複写し、二つ折りとしても差し支えない。

3 記入上の注意

- (1) 上段※印欄は、大学において必要な事項を記入するための欄とし、高等学校では記入しないこと。
- (2) 男女別、全日制・定時制・通信制の課程別、普通科・専門教育を主とする学科の別、入学・編入学・転入学(編入学及び転入学の場合はその学年を記入)の別、卒業・卒業見込みの別の該当事項を○で囲むこと。

なお、専門教育を主とする学科については、農業、水産、工業、商業、家庭、音楽等の別及び各科別を、例えば工業に関する学科の機械科の場合(工・機械)のように、()内に記入すること。

- (3) 「各教科・科目の学習の記録」欄は、高等学校在学中の全学年について、次のように記入すること。

ア 「教科・科目」欄の履修科目名は、生徒指導要録に基づいて記入すること。

なお、空欄不足の場合は、紙をはり足してもよい。

イ 「履修単位数」欄は、当該高等学校において生徒に履修させる単位数を、「修得単位数の計」欄は、修得を認定した学年ごとの単位数の計をそれぞれ記入すること。

なお、卒業見込みの者で、最終学年の修得単位が未決定である場合には、当該学年における

履修単位を修得したものとして計算すること。

ウ 「評定」欄は、5. 4. 3. 2. 1. の5段階で表示すること。

エ 旧教育課程による高等学校卒業者の場合は、次のようにすること。

(ア) 「評定」は、昭和23年以前の学習成績については、教科ごとに秀、優、良、可、昭和24年度以降の分については、目標別に5. 4. 3. 2. 1. 昭和31年度以降の分については、科目別に5. 4. 3. 2. 1. のそれぞれの評語を用いて記入すること。

(イ) 「履修単位数」の計は、昭和40年3月以降の卒業者については、学年ごとの単位数の計を記入すること。

オ 卒業見込みの者で、最終学年の成績が未決定である場合は、直近における成績を総合して、最終学年の成績とすること。

カ 「教科・科目の学習についての所見」欄については、生徒自身について認められた教科・科目の学習における特徴のうち特記すべき事項を記入するものとし、無い場合はその旨明示すること。

(4) 「評定平均値」欄については、次のように記入すること。

ア 各教科の評定平均値は、生徒指導要録に基づき、各教科ごとに各科目の評定の合計数を各教科の評定数で除した数値（小数以下第2位を四捨五入）を記入すること。

なお、例示以外の履修教科は、空欄を利用すること。また、空欄不足の場合は、紙をはり足してもよい。

(計算例)

下記の成績の者の計算例は、次のとおりである。

$$(1) \frac{\text{評定点の合計}}{\text{評定数}} = \frac{5 + 3 + 3 + 4}{4} = \frac{15}{4} = 3.75$$

(2) 小数以下第2位を四捨五入すると、この者の理科の評定平均値は、「3.8」となる。

教科・科目		履修単位数	評定				修の得計単位数
			第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
理科	物理 I	3		5			3
	化学 I	3	3				3
	生物 I	3	3				3
	地学 I	3		4			3

イ 評定平均値の平均は、(4)のアにより算出した各教科の評定平均値の合計数を履修教科数で除した数値（小数以下第2位を四捨五入）を記入すること。

ウ 昭和33年3月以前の卒業者については、評定平均値は記入しないものとする。

(5) 「学習成績概評」及び「成績段階別人数」欄は、次のように記入すること。

ア 「学習成績概評」欄は、高等学校における同一学年生徒全員（ただし、教育課程の異なる類型のある場合は類型別、専門教育を主とする学科の場合は科別）の3か年間（ただし、定時制及び通信制の課程にあっては4か年間）における各教科・科目の評定平均値の平均を次の区分に従って、A、B、C、D、Eの5段階に分け、その生徒の属する成績段階を記入すること。

各教科・科目の評定平均値の平均	学習成績概評
5.0 ~ 4.3	A
4.2 ~ 3.5	B
3.4 ~ 2.7	C
2.6 ~ 1.9	D
1.8 以下	E

イ 大学が希望する場合、学習成績概評Aに属する生徒のうち、人物、学力ともに特に優秀で、高等学校長が責任をもって推薦できる者については、「学習成績概評」欄に㊶と標示することができる。

この場合、高等学校長は「備考」欄にその理由を明示しなければならないものとする。

ウ 「成績段階別人数」欄は、各段階に属する人数とその合計を、「A〇〇人、B〇〇人、C〇〇人、D〇〇人、E〇〇人、合計〇〇人」のように記入すること。なお(5)のアにより、類型別又は科別に記入した場合は、「合計」欄に同一学年生徒の合計数を()内に記入すること。

エ 昭和33年3月以前の卒業者については、学習成績概評及び成績段階別人数は記入しないものとする。

(6) 「出欠の記録」欄は、高等学校生徒指導要録該当欄の記載事項を転記するものとするが、卒業見込みの者の最終学年の欄は、直近の学期末現在における出欠の状況を記入し、その旨を備考欄に明示すること。なお、旧教育課程による高等学校卒業者の場合は、旧生徒指導要録における該当欄のみを記入すること。

(7) 「健康の状況」欄は、次のように記入すること。

- ア 「視力」、「色覚」、「聴力」及び「担当学校医所見」の欄には、それぞれについて高等学校生徒健康診断票の該当欄の最も新しい記載事項を転記すること。
- イ 「結核」の欄には、高等学校生徒健康診断票の該当欄の記載事項を転記すること。
- ウ 「その他の疾病及び異常」の欄には、高等学校生徒健康診断票の該当欄の記載事項及び「心臓の疾病及び異常」等該当欄以外の疾病・異常、各種疾患等に関する記載事項で、特に教育上又は保健指導上必要と認められる事項があれば記入すること。
- エ 「担任教員所見」欄には、高等学校在学中に教育指導上特に支障のあった疾病又は異常についてホーム・ルーム担任教員の所見を記入すること。
- (8) 「各教科以外の教育活動の記録」欄は、生徒の特別教育活動、学校行事などにおける参加、活動状況のうち、特記すべき事項を記入すること。
- なお、旧教育課程による高等学校卒業者の場合は、旧生徒指導要録における「行動及び性格の記録」の「I 事実の記録」欄の記載事項により記入すること。
- (9) 「行動及び性格の記録」欄は、次のように記入すること。
- ア 「評定」欄は、評定項目に従い、学年ごとに生徒指導要録記載のうちA（特にすぐれたもの、又は程度の著しいもの）及びC（特に指導を要するもの）についてのみ記入すること。
- なお、旧教育課程による高等学校卒業者の場合は、旧生徒指導要録により、評定項目を書き換えて記入すること。
- イ 「所見」欄は、A及びCの評定理由、Cの場合の指導方針等の特記すべき事項について記入すること。
- 記入すべき事項が無い場合は、その旨明示すること。
- (10) 「備考」欄には、生徒指導要録の学籍の記録の備考欄及び進路に関する記録欄の記載事項のうち、特に必要と認められる事項等を記入するものとし、無い場合はその旨明示すること。
- なお、大学の希望により当該大学の学部・学科に対する能力・適性等について特に高等学校長が推薦できる生徒についてはその旨記入すること。
- (11) 記載責任者職氏名は、必ず明記し、押印すること。
- なお、記載内容を訂正した場合は、訂正か所に校長の印を押印するとともに、欄外に加除字数を表示すること。また、紙をはり足した場合も、校長の印で割引をとること。

様式(表)

調 査 書

※		※		※		※							
1. ふりがな氏名		昭和 年 月 日生		男・女	現住所	都道府県 市区 町村 丁目 番号							
学校名	国立 公立 私立	高等学校 (分校)			昭和 年 月 入学、編入学、転入学 (第 学年)								
全・定・通		普通・専門 (.)		昭和 年 月 卒業 卒業見込									
2. 各教科・科目の学習の記録													
教科・科目		履修 単位 数	評 定				教科・科目	履修 単位 数	評 定				修得 単位 数計
			第1 学年	第2 学年	第3 学年	第4 学年			第1 学年	第2 学年	第3 学年	第4 学年	
国 語						芸 術							
社 会						外 国 語							
数 学						家 庭							
理 科													
保 健 体 育													
教科・科目の学習に ついての所見								計					
3. 評定平均値		教科	国語	社会	数学	理科	保健 体育	芸術	外国語	家庭		平均	
		平均値											
4. 学習成績概評		成 績 段 階 別 人 数											
段階		A	人	B	人	C	人	D	人	E	人	合計	(人) 人

様式(裏)

※		※				※		※					
5. 出欠の記録						6. 健康の状況							
区分	学年	1	2	3	4	視力	右	・(・)	担当学校医所見				
授業日数							左	・(・)					
出席停止・忌引き等の日数						色覚			担任教員所見				
出席しなければならない日数						聴力	右						
欠席日数							左		担任教員所見				
出席日数						結核							担任教員所見
備考						その他の疾病及び異常			担任教員所見				
7. 各教科以外の教育活動の記録													
8. 行動及び性格の記録	I 評定	項目	学年	1	2	3	4	項目	学年	1	2	3	4
		基本的な生活習慣						寛容					
		自主性						指導性					
		責任感						協力性					
		根気強さ						公正さ					
		創意くふう						公共心					
		情緒の安定											
	II 所見												
9. 備考													
<p>本書の記載事項に誤りがないことを証明する</p> <p>昭和 年 月 日</p> <p>学校名</p> <p>所在地</p> <p>校長名</p> <p style="text-align: center;">⑩ 記載責任者</p>													

32. 進学適性検査・能研テストの家施経過について

進学適性検査の実施経過等について

- 1 昭和21年の米国教育使節団の勧告をもととして同年12月、文部省に委員会が設けられ、昭和22年3月に高等専門学校進学希望者全員を対象として、第1回知能検査が実施された。昭和23年度から29年度までは名称を進学適性検査（以下「進適」という。）に改め、内容も一般知能検査の性質に加え、進学希望者の知的活動の素質面からみて文科、理科のいずれに適するかを検出する内容とし、国公立大学、旧制大学、高等専門学校等高等教育機関の希望者全員を対象に、当該大学等の入試とは切り離して実施された。
- 2 進適実施についての基本的考え方は29年度までは変更はなかった。その内容を要約すれば次のとおりである。
 - (1) 高等教育機関の進学希望者は、進適を必ず受験しなければならないが、国が全国一斉に実施する検査（国立大学受験者は全部これを受験）又は進学希望校自作の検査（主として私立大学志望の場合）のいずれを受験してもよいこととされていた。
 - (2) 進適は入学者選抜試験そのものではなく、選抜に当たっての資料として利用するものであった。
 - (3) 選抜の立場だけでなく、進学指導の立場にも立って行われた。
 - (4) 国が実施する進適の場合は、検査実施に先立って例題を公開し、またその結果は標本抽出により全国成績概評を公表した。
 - (5) 国が行う検査は、文部省に問題作成等の委員会を置き、府県別に進適監理審査会を結成して実施に当たった。審査会は当該県の国立大学に置くこととし、大学長が当該府県の最高責任者となった。一県複数大学の場合は、交替とした。（受験者の状況別記1）
- 3 昭和26年ごろから進適実施の方法やテスト結果等について批判が出るようになった。28年に至り高校長協会はこれを廃止すべしとの議決を行う一方、国立大学協会、日本学術会議においても議論されたが、結局28年12月、文部省に大学、高校、心理学者、学識経験者をもって構成する委員会を設け、進適の存廃について議論した結果、昭和29年度限りで全国一斉に行う進適を廃止することになった。
- 4 進適廃止の理由としては次のようなものがあげられている。
 - (1) 進適の科学的分析研究結果が発表されず、進適の結果に疑問がもたれた。
 - (2) 大学では進適の結果を積極的に利用しなくなり、進適本来の趣旨が減却した。

- (3) 進適のための準備が激しくなり、受験者は学科試験との二重負担となって、高校教育に支障が生ずるとされた。
- (4) 進適実施の予算、とくに実施の謝金が少なく実施上の困難が生じた。
- (5) 国大協、高校長協会からそれぞれ廃止の要望があった。

(別記1) 進適受験者の状況 (国が実施したもの)

年 度	志 願 者 数	受 験 者 数
23	—	137,121
24	126,394	113,087
25	153,104	137,942
26	207,274	192,164
27	272,766	256,186
28	311,957	291,239
29	354,479	341,559

- (注) 1. 24年度にその数が減少しているのは、新制大学への切り替えの事情による。
2. 受験者数が年々増加しているが、その背景として、進適実施当初は公私立大学において自校で問題を作成、実施する大学が多かったが、経費及び問題作成者等の事情から、漸次国で行う進適に合流する大学が年ごとに多くなり、29年度にはほとんど(全大学の98%)の大学が国の進適に合流したという経緯がある。

能研テストの実施経過等について

1 昭和38年1月の大学入学試験の改善に関する中央教育審議会の答申に基づき、大学、高校、文部省の関係者が発起人となって昭和38年1月に財団法人能力開発研究所が設立された。

同研究所は、昭和38年度から43年度までの6年間、大学入学者の選抜と高校の進路指導に役立つ共通テストの開発とその実施及びそれに関する専門的調査研究を行った。(実施状況別記1)

2 文部省では、同研究所の実施するテスト（以下「能研テスト」という。）結果を昭和42年度の大学入学者選抜時から可否の判定に利用できるようにするなど能研テストの利用と研究成果の普及に努めるとともに、同研究所に対しては38年度から43年度まで補助金を交付し、同研究所の開発研究事業を援助した。（能研の収支状況及び補助金交付実績別記2）

3 しかしながら、同研究所の事業の目的に対しては、その発足当初から誤解と偏見に基づく反対運動が日教組を中心に全国的に展開されたことや、大学側が能研テストの活用による選抜方法の改善に極めて消極的であったことなどにより、テスト受験者数は年々減少していった。（能研テストを入学者選抜に活用した大学数及びその利用状況は別記3）

4 同研究所の事業は、その実施するテストが入学者選抜に採り入れられるのでなければ恒常的に実施することは困難なものであり、加えて受験者数の減少による財政上の理由、将来への見通しもはっきりしないなどにより、昭和43年度をもってテスト事業は中止することとなった。

5 能研テストが中止された主な理由としては、次のようなものが指摘される。

- (1) 中教審答申から能力開発研究所の設立までの設立準備期間がなく、また設立年度から直ちに事業が開始されるなど事前準備に十分でない面があった。
- (2) 能研テストの趣旨を周知する広報活動及び各大学、高校等の意見の集約が十分行なわれない面があった。
- (3) 実施機関が財団法人であり、財政上の問題、職員の身分保障の問題等に難点があった。
- (4) 大学側に自からの問題として受けとめる熱意が薄く、能研テストの活用にも消極的であった。
- (5) 反対運動が当時の学園紛争に結びつき、将来への見通しを暗くした。

(別記1) 能研テスト実施状況

ア 受験申込者数、受験者数

	受 験 申 込 者 数						受 験 者 数						
	38年度	39年度	40年度	41年度	42年度	43年度	38年度	39年度	40年度	41年度	42年度	43年度	
学 力 テ ス ト	2年	220,077	150,257	153,298	131,355	90,836	59,398	198,311	133,727	139,101	121,282	82,643	52,238
	3年	145,408	104,278	138,793	113,664	88,407	56,581	124,379	92,912	124,967	101,360	77,136	47,999
	計	365,485	254,535	292,091	245,019	179,243	115,979	322,690	226,639	264,068	222,642	159,779	100,237
進 学 テ ス ト	2年	208,063	257,826	195,878	197,538	154,032	104,593	185,185	232,453	180,957	181,875	143,929	97,258
	3年	110,879	112,190	90,288	92,553	53,287	35,954	95,691	90,424	76,175	76,505	44,254	29,664
	計	318,942	370,016	286,166	290,091	207,319	140,547	280,876	322,877	257,132	258,380	188,183	126,922
職 適 テ ス ト	1年	—	154,863	137,193	122,034	84,727	57,868	—	140,100	126,961	111,911	78,480	53,388
	2年	—	157,297	128,461	124,587	88,506	56,686	—	142,301	118,880	115,169	82,595	52,860
	3年	—	—	15,138	12,970	7,864	4,574	—	—	14,009	10,419	5,756	3,224
	計	—	312,160	280,792	259,591	181,097	119,128	—	282,401	259,850	237,499	166,831	109,472
合計	—	938,711	859,049	794,701	587,859	375,654	—	831,917	781,050	718,521	514,793	336,631	

33. 高等学校学習指導要領抜粋

第1章 総 則

第1節 教育課程の編成

第1款 一般方針

学校においては、法令およびこの章以下に示すところに従い、生徒の人間として調和のとれた育成を旨とし地域や学校の実態および生徒の能力・適性・進路等をじゅうぶん考慮し、課程や学科の特色を生かした教育ができるように配慮して、適切な教育課程を編成するものとする。

第2款 各教科・科目の標準単位数

学校教育法施行規則別表第3に定める各教科に属する科目（以下「各教科・科目」という。）の標準単位数は、次の表のとおりとする。

この表の単位については、1単位時間を50分とし、1個学年35単位時間の授業（通信制の課程においては、これに相当するもの）を1単位として計算するものとする。

各教科	各教科に 属する科目	標準 単位数	各教科	各教科に 属する科目	標準 単位数	
国 語	現 代 国 語	7	理 科	物 理 Ⅱ	3	
	古 典 Ⅰ 甲	2		化 学 Ⅰ	3	
	古 典 Ⅰ 乙	5		化 学 Ⅱ	3	
	古 典 Ⅱ	3		生 物 Ⅰ	3	
社 会	倫 理・社 会	2		生 物 Ⅱ	3	
	政 治・経 済	2		地 学 Ⅰ	3	
	日 本 史	3		地 学 Ⅱ	3	
	世 界 史	3		保健体育	体 育	7～9
	地 理 A	3			保 健	2
	地 理 B	3		芸 術	音 楽 Ⅰ	2
数 学	数 学 一 般	6	音 楽 Ⅱ		2	
	数 学 Ⅰ	6	音 楽 Ⅲ		2	
	数 学 ⅡA	4	美 術 Ⅰ		2	
	数 学 ⅡB	5	美 術 Ⅱ		2	
	数 学 Ⅲ	5	美 術 Ⅲ		2	
	応 用 数 学	6	工 芸 Ⅰ		2	
	基 礎 理 科	6	工 芸 Ⅱ		2	
	物 理 Ⅰ	3	工 芸 Ⅲ		2	

各教科	各教科に 属する科目	標準 単位数	各教科	各教科に 属する科目	標準 単位数
芸 術	書 道 I	2	農 業	作 物	2~10
	書 道 II	2		園 芸	2~10
	書 道 III	2		畜 産	2~12
外 国 語	初 級 英 語	6		土・肥 料	2~4
	英 語 A	9		作 物 保 護	2~4
	英 語 B	15		農 畜 産 加 工	2~4
	英 語 会 話	3		農 業 機 械	2~6
	ド イ ツ 語	15		農 業 施 設	2~4
	フ ラ ン ス 語	15		農 業 経 営	4~10
	外国語に関する その他の科目			農 家 経 営	4~10
家 庭	家 庭 一 般	4		総 合 農 業	12~40
	被 服 I	2~6		野 菜 園 芸	4~12
	被 服 II	2~6		果 樹 園 芸	4~12
	食 物 I	2~6		草 花 園 芸	4~12
	食 物 II	2~6		家 畜 栄 養・飼 料	2~6
	保 育	2~6		家 畜 衛 生	2~6
	家 庭 経 営	2~6		飼 料 作 物	2~8
	被 服 材 料	2~6		栽 桑	2~6
	被 服 管 理	2~6		養 蚕	2~8
	服 飾 デ ザ イ ン	2~16		蚕 体 衛 生	2~4
	服 飾 史	2~6		製 糸・製 織	2~4
	被 服 製 作	6~20		蚕 種 製 造	2~4
	手 芸	2~10		食 品 製 造	6~12
	栄 養	2~6		応 用 微 生 物	3~8
	食 品	2~6		食 品 化 学	2~12
	食 品 衛 生	2~6		製 造 機 器	3~8
	食 物 管 理	2~6		食 品 製 造 衛 生	2~6
	献 立・調 理	6~20		食 品 製 造 経 営	2~4
	集 団 給 食	2~6		測 量	2~10
	公 衆 衛 生	2~6		農 業 土 木 設 計	4~8
	小 児 保 健	4~12		材 料 施 工	3~6
	児 童 心 理	2~6		応 用 力 学	2~5
	児 童 福 祉	2~4		水 理	2~5
	保 育 原 理	2~6		土・土 質	2~4
	保 育 技 術	8~20		農 業 水 利	3~8
	家庭に関するそ 他の科目			農 地 開 発	2~4
				育 林	2~12
				伐 木 運 材	2~8

各教科	各教科に 属する科目	標準 単位数	各教科	各教科に 属する科目	標準 単位数
農 業	砂 防	2～8	工 業	造船工作	2～8
	林業機械	2～6		造船力学	2～6
	測 樹	2～6		金属工業実習	10～20
	林業経営	2～10		金属工業製図	4～8
	林産製造	2～8		金属材料	6～8
	木材加工	2～12		金属加工	6～8
	木材材料	2～8		金属製錬	2～6
	造園設計	4～10		特殊材料	2～4
	造園材料	3～8		金属工業設計	2～4
	造園施工	3～8		電気実習	10～20
	造園管理	2～6		電気製図	4～12
	緑地計画	2～4		電気工学Ⅰ	6～14
	造 園	2～6		電気工学Ⅱ	5～14
	農業一般	2～10		電気工学Ⅲ	5～14
	林業一般	2～10		電気機器	2～6
	総合実習	4～15		発送配電	2～6
	農業に関するその 他の科目			電気応用	2～4
	工 業	機械実習		14～25	電子実習
機械製図		6～12		電子製図	4～8
機械設計		4～8		電子工学Ⅰ	6～14
機械工作		4～8		電子工学Ⅱ	5～10
原 動 機		3～8		電子工学Ⅲ	5～10
計測・制御		2～6		電子応用	2～6
機械材料		2～4		通信機器	2～8
自動車実習		12～20		情報技術実習	14～20
自動車製図		4～8		プログラミング	3～9
自動車設計		3～6		数値計算法	2～6
自動車工作		3～6		システム工学	2～6
自動車構造		4～8		電子計算機	3～6
自動車整備		4～8		プログラム理論	5～10
自動車電気		2～4		工業計測実習	10～20
自動車法規		1～2		工業計測製図	4～8
造船実習		10～20		計測管理	4～8
造船製図		8～15		自動制御	4～9
造船工学		6～12	計測力学	4～7	
造船設計		3～6	計装工事	3～7	
船舶構造・装置		3～8	計測回路	3～6	
		建築実習	7～25		

各教科	各教科に 属する科目	標準 単位数	各教科	各教科に 属する科目	標準 単位数
工 業	建築設計製図	7~25	工 業	工業化学実習	19~28
	建築計画	4~8		化学工業Ⅰ	6~9
	建築構造	4~6		化学工業Ⅱ	3~6
	建築構造設計	4~8		化学工業Ⅲ	3~6
	建築施工	3~6		化学工場	4~6
	建築法規	1~2		化学工業特論	2~6
	建築史	2~3		化学工業安全	2~4
	設備工業実習	9~18		放射化学	2~4
	設備設計製図	9~14		電気化学	2~4
	設備計画	3~6		化学工学実習	20~29
	空気調和設備	4~8		化学工学Ⅰ	4~8
	衛生設備	4~8		化学工学Ⅱ	4~6
	設備機械・電気	3~5		化学工学Ⅲ	3~6
	設備施工	3~5		窯業実習	10~25
	土木実習	6~15		窯業製図	3~6
	土木製図	4~12		窯業原料	2~4
	測 量	2~6		セラミック化学	4~8
	土木応用力学	2~8		窯業操作	4~8
	水 理	2~4		窯業計測	2~6
	土 質	2~4		窯業特論	2~10
	土木計画	2~6		色染化学実習	10~20
	土木設計	2~8		色染化学Ⅰ	3~6
	土木施工	2~8		色染化学Ⅱ	6~8
	地質工学実習	12~15		色染化学Ⅲ	6~10
	地質工学製図	2~4		染色工場	3~6
	地質工学Ⅰ	6~8		染色デザイン	2~4
	地質工学Ⅱ	5~8		繊維工学実習	15~20
	地下資源開発	5~8		繊維工学Ⅰ	4~8
	火 薬	2~4		繊維工学Ⅱ	8~12
	環境工学実習	10~20		繊維工学Ⅲ	4~6
	環境工学製図	2~6		繊維工場管理	2~4
	環境衛生	4~8		繊維デザイン	2~4
	環境計画	3~8		インテリア実習	8~25
環境施設	6~12	インテリア 設計製図	6~20		
水道Ⅰ	2~6	室内計画	2~8		
水道Ⅱ	2~6	室内材料	2~6		
環境衛生処理	2~6	室内装備	2~6		
環境管理	2~6				

各教科	各教科に 属する科目	標準 単位数	各教科	各教科に 属する科目	標準 単位数
工業	家具生産	2～6	商業	商業法規	2～5
	木工機械	2～6		簿記会計Ⅰ	3～5
	塗装・接着	2～6		簿記会計Ⅱ	2～4
	デザイン実習	15～30		簿記会計Ⅲ	2～4
	デザイン製図	2～15		工業簿記	2～4
	デザイン計画	2～6		銀行簿記	2～4
	工業・ 工芸デザイン	2～8		機械簿記	2～5
	ビジュアル デザイン	2～4		税務会計	2～4
	デザイン材料	2～4		経理実践	3～5
	デザイン史	2～4		事務	2～5
	デザイン実務	2～4		事務機械	2～5
	工業管理実習	14～20		事務管理	2～5
	生産技術	8～15		計算実務	2～8
	生産管理	8～15		統計実務	2～4
	工業経営	2～8		経営数学	2～4
	工業概説	2～4		電子計算機一般	2～5
	製図	2～8		プログラミング Ⅰ	3～8
	工学一般	2～6		プログラミング Ⅱ	2～5
	自動車一般	2～6		和文タイプライティング	2～6
	電気一般	2～6		英文タイプライティング	2～6
	機械製作	2～8		速記	2～6
	機械一般	2～6		秘書実務	3～6
	溶接	2～6		事務実践	3～5
	原子工学一般	2～6		商事	2～5
	建築一般	2～4		売買実務	2～5
	土木一般	2～4		商品	2～5
	化学工業一般	2～4		市場調査	2～4
	色染化学一般	2～4		広告	2～5
	繊維工学一般	2～4		商業美術	2～6
	デザイン一般	6～12		商業英語	2～4
	工業英語	2～4		商業英会話	2～6
	工業に関する その他の科目			貿易実務	3～6
	商業一般	3～5		商業実践	3～5
経済	2～4	商業に関する 他の科目			
経営	2～4				

各教科	各教科に属する科目	標準単位数	各教科	各教科に属する科目	標準単位数	
水産	水産一般	2~4	理数	総合数学	13~18	
	漁業	4~10		計算機数学	2	
	海洋・気象	2~4		総合物理	6~9	
	漁船・運用	6~8		総合化学	6~9	
	航海・計器	8~10		総合生物	6~9	
	海事法規	2~4		総合地学	6~9	
	水産法規	2~4		理数に関する その他の科目		
	栽培漁業	4~10		美術	音楽理論	3~9
	資源・漁場	5~7			音楽史	3~6
	漁業経営	6~8			ソルフェージュ	6~12
	操船	4~8			合唱	3~9
	漁獲物処理	2~4			合奏	3~9
	水産増殖	10~15			声楽	2~9
	水産生物	6~8			鍵盤楽器	2~9
	水産土木	2~4	弦楽器		2~9	
	水産製造	8~10	管楽器		2~9	
	水産食品化学	6~10	打楽器		2~9	
	水産食品衛生	3~5	作曲		2~9	
	水産製造機器	6~10	音楽に関する その他の科目			
	漁船機関	10~15	美術		美術理論	3~9
	機械設計工作	6~8			美術史	3~9
	船用電機	4~6			素描	4~12
	電気通信理論	10~12			基本造形	4~12
	無線測定	3~5		彩画A	4~12	
	無線機器	5~7		彩画B	4~12	
	無線通信	8~10		版画	2~6	
	通信法規	4~6		彫刻	4~12	
	海洋実習	2~4		デザインA	4~12	
	総合実習	4~12		デザインB	4~12	
	乗船実習	4~12		製図	2~8	
	水産に関する その他の科目			写真	2~4	
	看護	看護概説		2~4	その他特に 必要な教科 る科目	総合実習
看護基礎医学		4~8		美術に関する その他の科目		
成人看護		6~12	当該教科に關す る科目			
母子看護		2~4				
看護実習		20~27				
看護に関する その他の科目						

備考

- 1 この表に掲げる「外国語に関するその他の科目」、「家庭に関するその他の科目」、「農業に関するその他の科目」、「工業に関するその他の科目」、「商業に関するその他の科目」、「水産に関するその他の科目」、「看護に関するその他の科目」、「理数に関するその他の科目」、「音楽に関するその他の科目」および「美術に関するその他の科目」は、学科の特質、学校や地域の実態などにより、この表に掲げる科目だけではその学校の教育課程を編成しがたい場合に用いるものとする。この場合において、その科目の名称、目標、内容、単位数等については、その科目の属する教科の目標に基づき、その学校の設置者の定めるところによる。
- 2 この表に掲げる「その他特に必要な教科」および「当該教科に関する科目」は、私立学校において宗教教育を行なう場合または学校においてたとえば体育に関する学科を設ける場合などで各学科の目標を達成するために特に必要がある場合に限り用いるものとする。これらの場合において、教科および科目の名称、目標、内容、単位数等については、その学校の設置者の定めるところによる。

第3款 各教科以外の教育活動

各教科以外の教育活動は、ホームルーム、生徒会活動、クラブ活動および学校行事から成るものとする。

第4款 各教科・科目の履修

- 1 次の各教科・科目をすべての生徒に履修させるものとする。
 - (1) 国語のうち「現代国語」および「古典Ⅰ甲」
 - (2) 社会のうち「倫理・社会」および「政治・経済」の2科目ならびに「日本史」、「世界史」および「地理A」または「地理B」のうち2科目
 - (3) 数学のうち「数学一般」または「数学Ⅰ」
 - (4) 理科のうち「基礎理科」1科目または「物理Ⅰ」、「化学Ⅰ」、「生物Ⅰ」および「地学Ⅰ」のうち2科目
 - (5) 保健体育のうち「体育」および「保健」
 - (6) 芸術のうち「音楽Ⅰ」、「美術Ⅰ」、「工芸Ⅰ」および「書道Ⅰ」のうち1科目

教育課程を編成するに当たっては、すべての生徒に履修させる各教科・科目の単位数は、第1節第2款の標準単位数を下らないものとする。

なお、国語のうち「古典Ⅰ乙」を履修する場合には、「古典Ⅰ甲」の履修を要しないものとする。

- 2 普通科における各教科・科目の履修については、上記1のほか次のとおりとする。

- (1) 「体育」について、全日制の課程のすべての男子に履修させる単位数は、11単位を下らないようにすること。
 - (2) 芸術について、すべての生徒に履修させる単位数は、3単位を下らないようにすること。
 - (3) 「家庭一般」は、すべての女子に履修させるものとし、その単位数は、4単位を下らないようにすること。
- 3 専門教育を主とする学科における各教科・科目の履修については、上記1のほか次のとおりとする。
- (1) 職業教育を主とする学科およびその他専門教育を主とする学科（理数に関する学科、音楽に関する学科、美術に関する学科、体育に関する学科など）においては、専門教育に関する各教科・科目について、すべての生徒に履修させる単位数は、35単位を下らないようにすること。ただし、商業に関する学科においては、上記の単位数の中に外国語に属する科目の単位を10単位まで含めることができる。
 - (2) 「家庭一般」は、すべての女子に履修させるものとし、その単位数は、4単位を下らないようにすること。ただし、女子生徒数がきわめて少数である場合など特別の事情がある場合は、この限りでない。
 - (3) 第4款の1のすべての生徒に履修させる科目の内容と同一または類似の内容が専門教育に関する科目の内容に含まれている場合には、上記すべての生徒に履修させる科目を履修した場合と同様の成果を期待することができる限りにおいて、当該専門教育に関する科目を履修することによって、すべての生徒に履修させる科目の内容の一部を省略し、他の部分に重点をおいて履修させることができること。また、同一または類似の内容が多い場合には、上記と同様の成果を期待することができる限りにおいて、すべての生徒に履修させる科目の単位数の一部または全部の履修に替えることができること。

第5款 各教科以外の教育活動の履修

- 1 ホームルームについては、各学年において週当たり1単位時間（1単位時間は、50分とする。以下同じ。）を下らないものとする。ただし、定時制の課程において特別の事情がある場合には、その授業時数の一部を減ずることができる。
- 2 クラブ活動については、原則として、各学年において週当たり1単位時間を下らないものとする。
- 3 生徒会活動および学校行事については、学校の実態に即してそれぞれ適切な授業時数を充てるものとする。

- 4 通信制の課程における各教科以外の教育活動の指導時数については、第3節の2に定めるところによる。

第2節 全日制および定時制の課程における教育課程

第1款 教育課程編成に当たって配慮すべき事項

教育課程を編成するに当たっては、次の事項に配慮するものとする。

1 一般的事項

- (1) 各教科・科目、ホームルームおよびクラブ活動の授業は、全日制の課程においては、年間35週を下らないように計画すること。
- (2) 全日制の課程における各学年の週当たりの授業時数は34単位時間を標準とし、原則として38単位時間をこえないようにすること。

定時制の課程における各学年の授業日数の季節的配分または週もしくは1日当たりの授業時数については、生徒の勤労状況と地域社会の諸事情を考慮して、適切に配当するようにすること。

- (3) 各教科・科目の授業は、1単位について1個学年35単位時間に相当する時間を下らないようにすること。
- (4) 生徒の能力・適性・進路等に応じてそれぞれ適切な教育をほどこすため、必要により、教育課程の類型を設け、そのいずれかの類型を選択して履修させるようにすること。この場合、その類型において履修させることになっている各教科・科目以外の各教科・科目を履修させたり、生徒が自由に選択履修することのできる各教科・科目をも設けるようにすること。
- (5) 定時制の課程の教育課程を編成するに当たっては、生徒の勤労や生活の状況などに即応し、負担過重になることを避け、教育効果を高めるようにすること。

2 普通科において職業に関する各教科・科目を履修させる場合に配慮すべき事項

- (1) 生徒の必要や地域の実態を考慮して、「被服Ⅰ」、「食物Ⅰ」、「保育」、「家庭経営」、「作物」、「園芸」、「畜産」、「農業一般」、「林業一般」、「製図」、「自動車一般」、「電気一般」、「機械一般」、「商業一般」、「簿記会計Ⅰ」、「事務」、「計算実務」、「水産一般」などの科目のうちから適当なものを設け、生徒に履修させることが適当であること。
- (2) 職業に関する各教科・科目に、ある程度まとまった時間を配当することができる場合には、上記(1)の科目以外の各教科・科目を加えるなどして系統的に履修させ、専門的な知識と技術を習得させるように配慮すること。

3 職業教育を主とする学科において配慮すべき事項

職業教育を主とする学科のうちのおもなものの標準的な目標は次のとおりであるから、それぞれの目標を達成するように教育課程を編成する必要があること。

(1) 農業に関するおもな学科の目標

ア 農 業 科

作物（園芸作物を含む。）の栽培，家畜の飼育および農業経営に関する知識と技術を習得させ，農業の経営者・技術者を養成する。

イ 園 芸 科

園芸作物の栽培および農業経営に関する知識と技術を習得させ，園芸を中心とする農業の経営者・技術者を養成する。

ウ 畜 産 科

家畜の飼育および農業経営に関する知識と技術を習得させ，畜産を中心とする農業の経営者・技術者を養成する。

エ 蚕 業 科

蚕の飼育および農業経営に関する知識と技術を習得させ，蚕業を中心とする農業の経営者・技術者を養成する。

オ 食品製造科

農畜産物を中心とする食品の加工および貯蔵に関する知識と技術を習得させ，食品製造に関する業務に従事する技術者を養成する。

カ 農業土木科

土地改良および農地の保全・開発に関する知識と技術を習得させ，農業土木に関する業務に従事する技術者を養成する。

キ 林 業 科

木材の生産，治山治水および林業経営に関する知識と技術を習得させ，林業の技術者を養成する。

ク 木材加工科

木材の加工および林産物の製造に関する知識と技術を習得させ，木材の加工利用に関する業務に従事する技術者を養成する。

ケ 造 園 科

造園植物の育成および造園の設計・施工・管理に関する知識と技術を習得させ，造園に関す

る業務に従事する経営者・技術者を養成する。

コ 生活科

農業および家庭生活に関する知識と技術を習得させ、農家を経営する婦人を養成する。

(2) 工業に関するおもな学科の目標

ア 機械科

機械に関する知識と技術を習得させ、機械工業およびこれに関連する諸分野において、製造、管理、企画、設計、研究、整備、営業などの業務に従事する技術者を養成する。

イ 自動車科

自動車に関する知識と技術を習得させ、自動車工業およびこれに関連する諸分野において、製造、管理、企画、設計、研究、整備、販売、技術サービスなどの業務に従事する技術者を養成する。

ウ 造船科

造船に関する知識と技術を習得させ、造船工業およびこれに関連する諸分野において、建造、修理、企画、設計、管理、研究などの業務に従事する技術者を養成する。

エ 金属工業科

金属に関する知識と技術を習得させ、金属工業およびこれに関連する諸分野において、金属材料の製造、加工、試験、研究などの業務に従事する技術者を養成する。

オ 電気科

電気に関する知識と技術を習得させ、電気機器製造業、電気事業およびその他の電気関係の諸分野において、製造、管理、運用、保守、技術サービスなどの業務に従事する技術者を養成する。

カ 電子科

電子に関する知識と技術を習得させ、電子工業およびこれに関連する諸分野において、製造、管理、運用、保守、技術サービスなどの業務に従事する技術者を養成する。

キ 情報技術科

電子計算機に関する知識と技術を習得させ、電子計算機を利用する工業生産、電子計算機の製造などの諸分野において、情報処理、製造、管理、運用、保守などの業務に従事する技術者を養成する。

ク 工業計測科

工業計測に関する知識と技術を習得させ、計測機器製造業および工業計測の応用される諸分野において、企画、設計、製造、操作、管理などの業務に従事する技術者を養成する。

ケ 建築科

建築に関する知識と技術を習得させ、建築業、建築行政などの諸分野において、建築の設計、施行、監理、指導などの業務に従事する技術者を養成する。

コ 設備工業科

設備工業に関する知識と技術を習得させ、建設業、製造業などの諸分野において、空気調和・給排水衛生設備などの計画、設計、施工、管理、保全などの業務に従事する技術者を養成する。

サ 土木科

土木に関する知識と技術を習得させ、建設業、土木行政などの諸分野において、土木工事の計画、設計、施工、管理、指導などの業務に従事する技術者を養成する。

シ 地質工学科

地質工学に関する知識と技術を習得させ、鉱業、建設業などの諸分野において、地下資源の調査・開発、建造物の基礎工事のための調査・設計・施工などの業務に従事する技術者を養成する。

ス 環境工学科

環境工学に関する知識と技術を習得させ、水道事業、環境保全事業などの諸分野において、調査、計画、設計、施工、管理などの業務に従事する技術者を養成する。

セ 工業化学科

工業化学に関する知識と技術を習得させ、化学工業およびその他の化学を応用する諸分野において、製造、試験、研究、技術サービスなどの業務に従事する技術者を養成する。

ソ 化学工学科

化学工学に関する知識と技術を習得させ、化学工場その他の化学工業関係の諸分野において、装置の運転・管理、研究、技術サービスなどの業務に従事する技術者を養成する。

タ 窯業科

窯業に関する知識と技術を習得させ、窯業およびこれに関連する諸分野において、製造、企画、研究、試験などの業務に従事する技術者を養成する。

チ 色染化学科

染色化学に関する知識と技術を習得させ、染色工業およびこれに関連する諸分野において、製造、企画、試験、研究、検査などの業務に従事する技術者を養成する。

ツ 繊維工学科

繊維工学に関する知識と技術を習得させ、繊維工業およびこれに関連する諸分野において、製造、企画、試験、研究、検査などの業務に従事する技術者を養成する。

テ インテリア科

インテリアに関する知識と技術を習得させ、室内環境の構成、施工などに関する諸分野において、企画、設計、施工、製造などの業務に従事する技術者を養成する。

ト デザイン科

デザインに関する知識と技術を習得させ、産業界などにおけるデザインに関する諸分野において、デザインの制作、研究などの業務に従事する技術者を養成する。

ナ 工業管理科

工業管理に関する知識と技術を習得させ、製造工業の諸分野において、生産の管理に関する業務に従事する技術者を養成する。

(3) 商業に関するおもな学科の目標

ア 商業科

広く産業における商事活動、事務および経営管理に関する知識と技術を習得させ、これらの業務に従事する者を養成する。

イ 経理科

簿記会計および財務に関する知識と技術を習得させ、経理に関する事務に従事する者を養成する。

ウ 事務科

事務およびその管理に関する知識と技術を習得させ、各種の事務に従事する者を養成する。

エ 情報処理科

事務および電子計算機の利用に関する知識と技術を習得させ、情報処理に関する事務に従事する者を養成する。

オ 秘書科

秘書として必要な文書事務、応接などに関する知識と技術を習得させ、秘書の職務またはこれに類する事務に従事する者を養成する。

カ 営業科

販売を中心として、広く商事活動に関する知識と技術を習得させ、売買に関する業務に従事する者を養成する。

キ 貿易科

外国との商取引およびその業務処理に関する知識と技術を習得させ、貿易に関する業務に従事する者を養成する。

(4) 水産に関するおもな学科の目標

ア 漁業科

漁業および漁船の運航に関する知識と技術を習得させ、主として漁船に乗り組んで漁業生産に従事する技術者を養成する。

イ 漁業経営科

沿岸漁場における漁業生産およびその経営に関する知識と技術を習得させ、沿岸漁業や栽培漁業に従事する経営者・技術者を養成する。

ウ 水産増殖科

水産生物およびその増殖に関する知識と技術を習得させ、水産養殖に関する業務に従事する技術者を養成する。

エ 水産製造科

水産物を中心とする食品の製造に関する知識と技術を習得させ、食品製造に関する業務に従事する技術者を養成する。

オ 機関科

漁船機関に関する知識と技術を習得させ、主として漁船に乗り組んで機関の運転管理に従事する技術者を養成する。

カ 無線通信科

無線通信に関する知識と技術を習得させ、漁業局などにおける無線通信業務に従事する技術者を養成する。

(5) 家庭に関するおもな学科の目標

ア 家政科

家庭経営の立場から家庭生活に関する知識と技術を総合的に習得させ、家庭生活に関する仕事に従事する能力を有する者を養成する。

イ 被服科

被服の製作，衣生活の経営などに関する専門的な知識と技術を習得させ，被服に関する仕事に従事する能力を有する者を養成する。

ウ 服飾デザイン科

被服のデザイン，製作などに関する専門的な知識と技術を習得させ，服飾に関する仕事に従事する能力を有する者を養成する。

エ 食物科

調理，食生活の経営などに関する専門的な知識と技術を習得させ，食物に関する仕事に従事する能力を有する者を養成する。

オ 保育科

児童の心身の発達，保育の方法などに関する専門的な知識と技術を習得させ，保育に関する仕事に従事する能力を有する者を養成する。

(6) 看護に関するおもな学科の目標

衛生看護科

看護に関する知識と技術を習得させ，医療，保健の機関などにおいて，看護の仕事に従事する者を養成する。

第2款 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項

- 1 学校においては，各教科・科目，各教科以外の教育活動について相互の関連を図り，全体として調和のとれた具体的な指導計画を作成し，発展的，系統的な指導を行なうものとする。
なお，指導計画の作成に当たっては，この章ならびに第2章以下に示す各教科・科目および各教科以外の教育活動の指導計画の作成に関する事項にじゅうぶん留意するものとする。
- 2 第2章に示す各教科・科目の内容は，特に示す場合を除き標準単位数に基づいて示したものであるが，学校において標準単位数をこえて単位数を配当する場合には，第2章に示した事項に習熟させることをたてまえとする。
- 3 学校においては，第2章以下に示していない事項を加えて指導することもさしつかえないが，その場合には，第2章以下に示している教科および科目または各教科以外の教育活動の目標や内容の趣旨を逸脱したり，生徒の負担過重となることのないようにするものとする。
- 4 第2意に示す各教科・科目の内容に掲げる事項の順序は，特に示す場合を除き，指導の順序を示すものではないので，学校においては各事項のまとめ方や順序にくふうを加え，効果的な指導を行

なうものとする。

- 5 第2章以下に示す各教科・科目および各教科以外の教育活動の内容に関する事項の指導に当たっては、特に示す場合のほか、それぞれの目標および内容の趣旨を逸脱しない範囲内で、生徒の実態を考慮して、重点のおき方に適切なくふうを加え、指導の効果を高めるように努めるものとする。
- 6 第2章に示す職業に関する各教科・科目については、次の事項に配慮するものとする。
 - (1) 職業に関する各教科・科目は、それぞれの各教科・科目の履修に必要な実験・実習などを含めて組織されているものであるから、理論と実際が遊離しないように取り扱うこと。
 - (2) 職業に関する各教科・科目のうち、実習に関する科目の指導に当たっては、関係する各教科・科目と密接な関連を図るとともに、実習を通して必要な技術を総合的に習得させ、勤労についての正しい観念や習慣を養うようにすること。
 - (3) 職業に関する各教科・科目については、現場実習をもって実習に替えることができること。この場合、現場実習は、その各教科・科目の内容に直接関係があり、かつ、その一部としてあらかじめ計画され、教師の指導のもとに行なわれ、また、その成果が教育的に評価できるものであることを要し、その時間数は実習の総時間数の10分の7以内とすること。
 - (4) 家庭および農業に関する各教科・科目の指導に当たっては、ホームプロジェクト（家庭実習）ならびに学校家庭クラブおよび学校農業クラブの活動を活用して、学習の効果をあげるようにすることが望ましいこと。この場合、ホームプロジェクトについては、その科目の授業時数の10分の2以内をこれに充てることができること。
- 7 以上のほか、次の事項について配慮するものとする。
 - (1) 個々の生徒の能力・適性等の的確な把握に努め、その伸長を図り、生徒に適切な各教科・科目や類型を選択させるように指導するとともに、進路指導を適切に行なうこと。特に心身に障害のある生徒については、生徒の実態に即した適切な指導を行なうこと。
 - (2) 教師と生徒および生徒相互の好ましい人間関係を育て、生徒指導の充実を図ること。
 - (3) 教科書その他の教材・教具を活用し、学校図書館を計画的に利用すること。

なお、学校の実態に即して視聴覚教材を適切に選択し、活用して、指導の効果を高めること。
 - (4) 指導の効率を高めるため、教師の協力的な指導が行なわれるようくふうするとともに、生徒の興味や関心をじゅうぶん把握し、自主的、自発的に学習する意欲を高めるように指導すること。
 - (5) 指導の成果を絶えず評価し、指導の改善に努めること。
 - (6) 実験・実習に当たっては、特に安全と保健に留意すること。

第3款 道徳教育

学校における道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行なうことを基本とする。したがって、各教科・科目および各教科以外の教育活動においてそれぞれの特質に応ずる適切な指導を行なわなければならない。

道徳教育の目標は、教育基本法および学校教育法に定められた教育の根本精神に基づく、すなわち、道徳教育は、人間尊重の精神を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、個性豊かな文化の創造と民主的な社会および国家の発展に努め、進んで平和的な国際社会に貢献できる日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養うことを目標とする。

その際、生徒の心身の発達に即応して、特に、自律の精神や社会連帯の精神および責任を重んずる態度や差別のないよりよい社会を実現しようとする態度を養うための指導が適切に行なわれるようにしなければならない。

第4款 体 育

健康で安全な生活を営むのに必要な習慣や態度を養い、心身の調和的発達を図るため、体育に関する指導については、学校の教育活動全体を通じて適切に行なうものとする。特に、体力の向上については、体育および保健の科目の時間はもちろん各教科以外の教育活動においても、じゅうぶん指導するよう配慮しなければならない。

第5款 単位の修得および卒業の認定

- 1 学校は、生徒が学校の定める指導計画に従って各教科・科目を履修し、その成果が教科および科目の目標からみて満足できると認められる場合には、その各教科・科目について履修した単位を修得したことを認定しなければならない。この場合、1科目を2以上の学年にわたって分割履修したときは、学年ごとにその各教科・科目について履修した単位を修得したことを認定するものとする。
- 2 学校においては、卒業までに履修させる各教科・科目およびその単位数ならびに各教科以外の教育活動およびそれらの授業時数に関する事項を定めるものとする。この場合、各教科・科目の単位数の計は、第1節第4款に掲げる各教科・科目の単位数を含めて85単位以上とする。
- 3 学校においては、卒業までに修得させる各教科・科目およびその単位数を定め、校長は、それらの各教科・科目およびその単位を修得した者で、各教科以外の教育活動の成果がその目標からみて満足できると認められるものについて、高等学校の全課程の修了を認定するものとする。この場合、各教科・科目について修得させる単位数の計は、85単位以上とする。

第3節 通信制の課程における教育課程

通信制の課程における教育課程については、下記に定めるところによるほか、第2節（第1款の1ならびに第2款の6の(3)および(4)を除く。）の定めるところによる。

1 添削指導、面接指導および試験

- (1) 各教科・科目の添削指導の回数および面接指導の単位時間数（1単位時間は、50分とする。）の標準は、1単位につき次の表のとおりとすること。

各教科・科目	添削指導（回）	面接指導（単位時間）
国語、社会および数学に属する科目	3	1
理科に属する科目	3	4
保健体育のうち体育	1	8
保健体育のうち保健	3	1
芸術に属する科目	5	4
外国語に属する科目	3	4
専門教育に関する各教科・科目	各教科・科目の必要に応じて2～3	各教科・科目の必要に応じて2～8

- (2) 職業に関する各教科・科目を履修する生徒が、現にその各教科・科目と密接な関係を有する職業（家事を含む。）に従事している場合において、その職業における実務等があらかじめ学校がたてた指導計画に照らして、その各教科・科目の実習として適切なものであると認められるときは、その生徒について、その各教科・科目の面接指導の時間数の10分の3以内の時間数を免除することができること。
- (3) 学校が、その指導計画に、各教科・科目または各教科以外の教育活動について計画的かつ継続的に行なわれるラジオ放送またはテレビ放送をとりいれた場合で、生徒がその放送を視聴し、その成果が満足できると認められるときは、その生徒について、その各教科・科目の面接指導の時間数または各教科以外の教育活動の時間数のうち、ラジオ放送またはテレビ放送についてそれぞれ10分の5以内の時間数を免除することができること。ただし、免除する時間数は、あわせて10分の6をこえることができない。
- (4) 試験は、原則として、1単位当たり1回行なうことが望ましいこと。

2 各教科以外の教育活動

各教科以外の教育活動については、ホームルームおよびクラブ活動を含めて、おのおのの生徒の

卒業までに50単位時間以上指導するものとする。

3 教育課程編成に当たって配慮すべき事項

- (1) 生徒の勤労や生活の状況などに即応し、負担過重になることをさけ、教育効果を高めるようにするものとする。
- (2) 各教科・科目の面接指導および各教科以外の教育活動の指導は、生徒が卒業までに標準として80日間（協力校等における指導日数を含む。）出校して受けられるよう計画するものとする。

34. 米国、英国における大学入学者選抜方式と統一テスト実施機関の概要

(1) 大学入学選抜方式

事 項	米 国	英国 (イングランドとウエールズ)
(1)入学基礎資格	<p>12年の初等・中等教育の課程を修了すること。</p>	<p>GCE試験 (一般修学証書試験……中等教育修了程度の学力を検定する科目別の統一的な試験で、普通レベル [16歳段階]と上級レベル[18, 19歳段階]とに分れる。)の上級レベル2～3科目に合格すること。</p>
(2)大学入学者の選抜方式	<p>大学入学者の選抜方式は次のタイプに大別される。</p> <p>(1)入学試験によらないもの</p> <p>主として州立大学の一部で採用されている。</p> <p>①中等学校で取得すべき単位数や履修すべき教科について一定の条件を設け、入学志願者の中等学校での履修状況や学習成績を審査して、入学者の合否を決定する。</p> <p>②州の認定した中等学校の卒業であれば、原則として入学を許可する。</p> <p>(2) 入学試験によるもの</p> <p>①大学は独自の入学試験を行わずに専門試験機関である大学入学試験委員会 (CEEB) 又は大学テスト協会 (ACT) 等の行う統一テストの成績と中等学校の調査書等を勘案して入学者の合否を判定する。</p>	<p>(1)大学の入学者選抜方式</p> <p>総合大学を中心に設けられた8試験機関が行うGCE試験において受験すべき科目の数及びレベルは、各大学又は学部によって定められるが一般に、最低5～6科目、うち少なくとも2～3科目を上級レベルで合格していることが必要である。</p> <p>合格科目の成績、中等学校の調査書、大学によっては、さらに学部等ごとに実施する独自の試験(面接・筆記試験)の成績等を判定資料として、入学者を決定する。</p> <p>(独自の筆記試験を付加して課すものにオックスフォード、ケンブリッジ大学等がある。)</p> <p>(2)教育カレッジ等の入学者選抜方式</p> <p>GCE試験において5～6科目を普通レベルで合格していることが必要である</p>

事 項	米 国	英国 (イングランドとウェールズ)
<p>(2)大学入学者の選 抜方式。</p>	<p>これに、大学が独自に行う小論文テスト、面接等を加える大学があり、私立大学ではさらに同窓会の推せんが加えられている大学もある。</p> <p>これらの方式を採用する大学には、専任の入学担当官が配置されており、入学者選抜の方針について研究し、選抜業務を遂行するとともに、各中等学校の教育内容や教育水準についての情報収集を行っている。</p> <p>一般的にこの方式を採用している大学が多い。</p> <p>②各大学が独自で入学試験を行うもの</p> <p>この方式を採用している大学は極く一部の私立大学に限られている。</p> <p>(参考)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●カリフォルニア大学 (州立)、ハーバード大学、プリンストン大学等の例 <p>大学入試委員会 (CEE B) の進学適性テストと学力テスト (3科目以上) の受験を必要とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●マサチューセッツ工科大学の例 <p>CEE B の進学適性テストと学力テスト (数学 / 化学又は処理 / 作文又は米国史又は西洋史の3科目) の受験を必要とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ミシガン州立大学の例 	<p>が、近年では、大学と同様に、そのうちの、1～2科目を上級レベルで合格していることが要求されている。このほか、中等学校の調査書を判定資料に加えて、入学者を決定する。</p> <p>(3)大学入試事務を一括処理するための機関</p> <p>総合大学及び教育カレッジへの入学志願者について、出願から決定通知に至るまでの事務処理を一括して行う機関として、大学入試事務統一協議会 (UCCA) と教員養成大学入学者選抜調整機関 (CRCH) がある。</p> <p>これらは入学者の選考には関与せずすべての入学志願者の入学願書を一括受理し、志願者の志望順位により第1志望から第6志望まで、志望校に合格するまで順次入学願書を回付する事務を行う。</p> <p>(参考)</p> <p>近年の後期中等教育進学者の増加に伴い、試験制度全体の改革が検討されている。</p>

事 項	米 国			英国 (イングランドとウエールズ)	
	CEEBの進学適性テストの受験を必要とする。				
(3)大学数, 進学率 等		大学(4年制)	短期大学	大学(学位課程) 1973~74年	
	校 数	1,672	934(1972)	校 数	44
	入 学 者 数	1,757千人(1973)		入 学 者 数	44千人
	該当年令人口 当りの進学率	43.1%(1973)		該当年令人口 当りの進学率	約8%

(2) 統一テストとその実施機関

(ア) 米 国

高等教育機関への入学者選抜のための統一的なテストとしては、

①大学入学試験委員会(CEEB)の大学共通テストプログラム(CEEB-ATP)

②大学テスト協会(ACT)のACT評価プログラム(ACT-APP)がある。

事 項	大学入学試験委員会 (CEEB)	大学テスト協会 (ACT)
(1)統一テストの受験資格	主として大学への進学を希望する中等学校第12学年(18歳)の生徒及び中等学校修了者であるが、第10, 11学年の生徒も受験することができる。	
(2)機関の創立	非営利教育法人 1900年に東部12大学の共通入試テストを行うためにコロンビア大学を中心にして創立。	非営利教育法人 1959年に中西部の公立大学の共通入試テストを行うために、アイオワ大学を中心に創立。
(3)加盟機関数 (テスト結果利用機関)	1975年現在 2,313 (1,041大学[4年制大学の60%] 136短大, 999高校, 66奨学団体等) 機関が加盟	1976年現在 2,576 (大学, 短大, 高校奨学団体等) 機関が加盟[大学は2,000以上](CEEBと重複して加盟している大学が多く、ほとんどの大学がいずれかに加盟している。)
(4)業務の内容	大学共通テストプログラムをはじめ、各種のテストの基本方針の決定と検査のための調査研究を行っている。	大学共通テストであるACT評価プログラムをはじめ各種のテストの問題作成, テストの実施及び調査研究を行っ

事 項	大学入学試験委員会 (CEE B)	大学テスト協会 (ACT)
(4)業務の内容	<p>問題の作成・テストの実施・採点等の実際の業務は、CEE B の監督の下に、1947年に CEE B から独立したテスト専門機関である「教育テストサービス (ETS)」(プリンストン市)が行っている。</p>	<p>ている。 テストの採点・集計等は「ウェスチングハウス・ラーニング社の測定研究センター」(アイオワ市)(WLC-MRC)に委託している。</p>
(5)支部数・職員数	<p>本部：ニューヨーク市 支部：米国内8個所，プエルトリコ1個所 全職員数：約 2,000人(1975) ETS：本部：プリンストン市，支部：パークレイ市 (カリフォルニア) 全職員数：2,000人(1975)</p>	<p>本部：アイオワ市 支部：米国内15個所 本部職員数：約 500人(1975~76) WLC-MRC：アイオワ市 職員数：450人(1976)</p>
(6)財 政	<p>加盟機関の出資金と出版活動，調査研究結果の提供，連邦政府からの委託事業等の収益により運営 収入合計 4,369万ドル (131.1億円) (1975~76)</p>	<p>加盟機関の出資金と出版活動，調査研究結果の提供，連邦政府からの委託事業，テスト事業等の収益により運営収入合計 1,821万ドル(54.6億円) (1975~76)</p>
	<p>(ETS) テストの実施，研究成果の配布等の収入合計5,391万ドル (166億円) (1973~74)</p>	<p>(WLC-MRC) 民間会社のため不明</p>
(7)統一テストの概要 ①テストの種類，科目数，テスト時間	<p>テストはすべてマークシート方式による客観式テスト ○進学適性テスト (SAT) 基礎的な言語表現能力と数理的能力をテストする。テスト時間は 2.5時間 ○学力テスト (ACH)</p>	<p>テストはすべてマークシート方式による客観式テスト ○学力テスト 中等学校における学習の達成度を評価し，大学教育への一般的能力を測定する。</p>

事 項	大学入学試験委員会 (CEE B)	大学テスト協会 (ACT)												
<p>(7)統一テストの概要</p> <p>①テストの種類、科目数、テスト時間</p>	<p>中等学校における学習の達成度を評価する。16科目(客観テスト)テスト時間は、1科目1時間</p>	<p>(CEE BのSATとACHテストの中間的性格で基礎的な面を重視する)</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">科目は英語</td> <td style="text-align: center;">75問</td> <td style="text-align: center;">40分</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">数学</td> <td style="text-align: center;">40問</td> <td style="text-align: center;">50分</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">社会</td> <td style="text-align: center;">52問</td> <td style="text-align: center;">35分</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理科</td> <td style="text-align: center;">52問</td> <td style="text-align: center;">35分</td> </tr> </table>	科目は英語	75問	40分	数学	40問	50分	社会	52問	35分	理科	52問	35分
科目は英語	75問	40分												
数学	40問	50分												
社会	52問	35分												
理科	52問	35分												
<p>②採点とその処理</p>	<p>OSAT, ACHテストとも成績は平均が500点、標準偏差が100点となるような標準得点に換算され、最高800点最低200点の範囲内である。</p> <p>○学力テスト(ACH)の科目間の難易度を調整するため、共通に受けた進学適性テストの成績が利用されてこれを行う。</p> <p>○テストの時期によるテストの困難度の差を調整するため、少くとも約20%は過去に出題した問題を使用する。</p>	<p>学力テストの成績は、科目ごとに素点を標準得点(1~36点)に換算し、4科目の平均点を総合点とする。このほか、パーセンタイル順位によっても表示される。</p> <p>受験の時期による得点の修正を中等学校第12学年(高校3年)の10月受験を基準に行う。</p>												
<p>③テスト問題の作成</p>	<p>問題作成の基本方針はCEE Bの高校大学等の代表者による委員会決定されるが、基本的問題の作成はETS職員と高校・大学の教員(外部委嘱者)によって行われる。問題は設問単位で、予備テスト等を経て作成され、困難度を測定の後蓄積される。</p> <p>試験問題は、これらの蓄積された設問</p>	<p>CEE Bの問題作成と同様に作成される。</p>												

事 項	大学入学試験委員会 (CEE B)	大学テスト協会 (ACT)
③テスト問題の作成	の組合せで作成される。 問題は非公開で、テスト終了後回収されるが、問題例は発表されている。	
④テストの実施等	テストは年6回実施(原則として土曜日) 受験場 4,100 (主として高校) 高校長が試験責任者となり、教員が監督する 受験申込み: 5週間前 基本受験料: 進学適性テスト 6.5ドル 学力テスト(3科目以内) 11ドル	年5回実施(原則として土曜日) 2,800 (主として高校) 高校長が試験責任者となり、教員が監督する。 2カ月前 7.5ドル
⑤延受験者数 (1975~76)	進学適性テスト 1,541千人 学力テスト 327千人	ACTテスト 963千人
⑥テスト成績の報告	テスト終了後、6週間以内に成績を志望大学、本人、在籍高校等に送付される。	テスト終了後、5週間以内に志望大学、6週間以内に本人、在籍高校、奨学団体等に送付される。 テスト受験時に申告した高校の課外活動状況、進路志望等についての分析も同時に送付される。
⑦重複受験	約40%の受験生が進学適性テストを2回受けている(多くは5月と12月)が平均点において15~20点の上昇がみられるが、逆に受験生の35~40%は、2回目の受験の成績が下がっている。 2回受験した場合も両方の成績が報告される。	
⑧身障者のテスト	身体障害者用にテストが準備されており、点字テスト等が行われるが、障害の程度が千差万別であるため、採点基準を同一にすることが困難である。	

(1) 英 国

① GCE試験の性格

Ⓐ GCE試験は、大学等の高等教育機関への入学資格試験であると同時に、一定の職業に対する就職資格の役割をも果している。

Ⓑ GCE試験は、総合大学を中心に設けられた八つの試験機関によつて実施される統一的な学力試験であつて、試験の形式、科目等は試験機関によつて異なるが、国は、教育課程・試験審議会（学校審議会と略称）を通じて、各試験機関が実施する試験の内容及び採点の方法等について全国的見地から調整を行い、また、各試験機関も相互に連絡調整を行つていたので、全国的に同一条件で、資格が認められている。

② GCE試験の受験資格等

Ⓐ 通常、中等学校に5年以上在学し、満16歳に達した者に与えられる。ただし、校長の許可があれば満15歳の生徒でも受験することができる。この試験は主として中等学校在学者を対象にしたものであるが、教育機関に在学していない者も受験できる。

Ⓑ GCE試験の大半の試験科目について普通レベルと上級レベルの二種類の問題が用意される。
 普通レベルの受験………通常、中等学校第5学年終了時（16歳）
 上級レベルの受験………普通レベルの受験後2～3年後（18～19歳）
 特 別 試 験………上級レベルの問題よりも程度が高く、2科目以内が受験でき、大学の優等課程の入学者を選抜する。

③ 試験機関の組織等

Ⓐ 試験機関はケンブリッジ大学、マンチェスター大学等、ロンドン大学、ケンブリッジ大学とオクスフォード大学、オクスフォード大学、ブリストル大学等、ウェールズ大学の7大学等が中心になっている7地方の試験委員会、大学と関連のない試験委員会がロンドンにあり合計8試験委員会である。

Ⓑ ケンブリッジ大学が中心になっている「ケンブリッジ大学地方試験委員会（CULES）」の組織構成を例示すれば次のとおりである。

○常勤職員数：約 300人 臨時職員は夏期約 200人 各期約 100人

○試験を管理する学校試験委員会の構成：19人

（中等学校長 男女各2人，同副校長男女各2人，地方教育当局職員3人，大学関係者）
 5人を含む7人の評議員及び委員長（中等学校長）

○科目別委員会：出題範囲要目を作成し、試験問題の評価を行い、試験委員や調整委員の任命や指導を担当する。科目別委員会は、18おかれ、151人の中等学校教員、60人の大学教員で構成されている。

○試験委員：約 3,900人

○受験者（延数）43.5万人（1970年）

③ 試験科目

① 全国的に通算すると普通レベルで 175種類、上級レベルで 120種類の試験科目があるが、一つの試験機関が用意する試験科目の数は50以上で、その大半について普通レベルと上級レベルの二種類の問題が用意される。

② 試験科目は、古典語、国語、歴史、地理、数学、物理、化学等の基礎的な科目と、木工、金工、被服、手芸、音楽等の技術、技能科目も含まれている。

③ 試験は筆記試験中心で論文式であるが、普通レベルでは、マークシート方式による多肢選択の客観式テストが多く採用されている。一部の科目については口述試験、実技試験が課せられる。

④ 出題と採点は各試験機関ごとに、科目別委員会の下に各試験委員が行う。

④ 科目別の評定

① 普通レベルの各科目の試験は、9段階で評価され、グレード1～6までが合格であり、

② 上級レベルの試験は7段階で評価され、A～Eまでが合格で、一般にEは得点が40～49点である。

③ 特別試験は、秀、優、不合格の3段階である。

④ 平均合格率は普通レベルで約60%、上級レベルで約70%である。

⑤ 試験の時期

① 夏期と冬期の2回行われる。夏期試験は6月または7月、冬期は11～12月又は1月に実施される。冬期試験は、主として、夏期試験の不合格者あるいは病気等の事情により夏期試験を受験できなかった者を対象に行われるが、夏期試験に比して科目数が少ない。

② 冬期試験の科目別平均合格率は、普通レベル、上級レベルとも約50%である。

⑥ 出願、試験の実施、試験官

各地方の試験機関を受験者が任意に選択して出願することができる。ただし、一定数以上まとめて出願すると、その在学している学校が試験場として指定される。

⑥ 試験場となる学校の校長は、試験機関に対して、指示どおり、公正に試験を実施する責任を負い、教員が試験を実施する。試験機関は必要に応じ職員を派遣し、監督する。

⑦ 試験の出願期日と受験料は通常次のとおりである。

出願締切り	夏期試験	2月	
	冬期試験	9月	
受験料等	出願登録料	2.40ポンド	(1976)
	受験料	1科目につき	普通レベル 2.00ポンド
		〃	上級レベル 3.90ポンド

⑧ 受験生は志望大学・学部が要求する科目、レベルを参考にして出願科目を定める。

⑨ 試験結果の処理

試験の結果は、試験機関から、各学校長に対し、その学校に在学する受験者の科目別成績一覧表が送られ、学校長は、教員、受験者に通知する。

合格証書は各試験機関が交付するが、全国的に通用する。

⑩ 合格数

○1974年夏期試験（上級レベル）

総受験数 478,000科目人……………受験者数×科目数

総合格数 330,000科目人

合格率 69.1%

○1973～4年に上級レベル 2科目以上に合格し、大学へ進学した者：44千人

35. 科目別度数分布図

(KONP78) ヲクサ イキウ

キヨウクウ 13^ニ ヲクサ

カ エ ク ヲ ク ト ア ク 7^ニ ヲ ク 7^ニ ア

11/17/76

PAGE 1

カエクマイ
13^ニ

シ^ニキヨウクウ
9819

クイク
91

クイ
65

クイ
56

クイ
47

クイ
13

クイ
56.17

ニクサク

クイ

クイ

1 2 3 4 5
1234567890123456789012345678901234567890

		96 - 100
2	0.02	91 - 95
30	0.31	86 - 90
129	1.31	81 - 85 *
364	3.71	76 - 80 ***
736	7.50	71 - 75 *****
1079	10.99	66 - 70 *****
1372	13.97	61 - 65 *****
1459	14.86	56 - 60 *****
1414	14.40	51 - 55 *****
1204	12.26	46 - 50 *****
975	9.93	41 - 45 *****
607	6.18	36 - 40 *****
292	2.97	31 - 35 **
108	1.10	26 - 30 *
37	0.38	21 - 25
10	0.10	16 - 20
1	0.01	11 - 15
		6 - 10
		0 - 5

1234567890

1234567890

100

67

48

35

5

50.00

1234567890

1234567890

1234567890

1234567890

1

2

3

4

5

12345678901234567890123456789012345678901234567890

2	2.02	96 - 100 **
1	1.01	91 - 95 *
1	1.01	86 - 90 *
5	5.05	81 - 85 *****
8	8.08	76 - 80 *****
4	4.04	71 - 75 ****
3	3.03	66 - 70 ***
7	7.07	61 - 65 *****
10	10.10	56 - 60 *****
4	4.04	51 - 55 ****
8	8.08	46 - 50 *****
7	7.07	41 - 45 *****
13	13.13	36 - 40 *****
6	6.06	31 - 35 *****
7	7.07	26 - 30 *****
3	3.03	21 - 25 ***
6	6.06	16 - 20 *****
1	1.01	11 - 15 *
1	1.01	6 - 10 *
2	2.02	0 - 5 **

000000	000000	000000	000000	000000	000000	000000	000000
100	9310	100	75	61	49	10	61.55

000000	000000	000000	000000	000000	000000	000000	000000
1	2	3	4	5			
1234567890	123456789	01234567890	1234567890	1234567890	1234567890	1234567890	1234567890

100	1.07	96 - 100 *
329	3.53	91 - 95 ***
480	5.16	86 - 90 *****
636	6.83	81 - 85 *****
737	7.92	76 - 80 *****
820	8.81	71 - 75 *****
836	8.98	66 - 70 *****
898	9.65	61 - 65 *****
949	10.19	56 - 60 *****
897	9.63	51 - 55 *****
774	8.31	46 - 50 *****
666	7.15	41 - 45 *****
472	5.07	36 - 40 *****
347	3.73	31 - 35 ***
203	2.18	26 - 30 **
106	1.14	21 - 25 *
40	0.43	16 - 20
19	0.20	11 - 15
1	0.01	6 - 10
		0 - 5

(KDNP78) 2074 1430

93999 19 575

0 E 2 1 7 1 1 2 9 7 0 7 0 2

11/17/76

PAGE 5

042741
2833

5 1772542
6324

7170
90

9 41
52

7270
42

9 43
34

7474
0

7470
43.18

2074

774

7740

774

1

2

3

4

5

12345678901234567890123456789012345678901234567890

96 - 100

91 - 95

86 - 90

81 - 85

76 - 80 *

71 - 75 *

66 - 70 ***

61 - 65 ***

56 - 60 *****

51 - 55 *****

46 - 50 *****

41 - 45 *****

36 - 40 *****

31 - 35 *****

26 - 30 *****

21 - 25 ****

16 - 20 **

11 - 15

6 - 10

0 - 5

10

0.16

26

0.41

75

1.19

82

1.30

251

3.97

227

3.59

536

8.48

544

8.60

897

14.18

697

11.02

1076

17.01

679

10.74

731

11.56

307

4.85

153

2.42

18

0.28

8

0.13

7

0.11

カモクハ
ヒキフ

シラツクシキ
5743

7179
91

9171
62

9272
52

9173
42

7174
0

7175
52.14

ニツク

ヒツ

7176

ヒツ

1

2

3

4

5

12345678901234567890123456789012345678901234567890

3	0.05	96 - 100
22	0.38	91 - 95
72	1.25	86 - 90
166	2.89	81 - 85 *
318	5.54	76 - 80 **
469	8.17	71 - 75 *****
604	10.52	66 - 70 *****
693	12.07	61 - 65 *****
745	12.97	56 - 60 *****
704	12.26	51 - 55 *****
683	11.89	46 - 50 *****
591	10.29	41 - 45 *****
355	6.18	36 - 40 *****
211	3.67	31 - 35 *****
78	1.36	26 - 30 ***
19	0.33	21 - 25 *
2	0.03	16 - 20
2	0.03	11 - 15
6	0.10	6 - 10
		0 - 5

(KDNPT8) 1975-1976

1975-1976

1975-1976

11/17/76

PAGE 7

1975-1976

1975-1976

1975-1976

1975-1976

1975-1976

1975-1976

1975-1976

1975-1976

1975-1976

1975-1976

1975-1976

1975-1976

1975-1976

1975-1976

1975-1976

1975-1976

1975-1976

12345678901234567890123456789012345678901234567890

2	0.15	96 - 100
25	1.86	91 - 95
75	5.59	86 - 90 *
64	4.77	81 - 85 *****
112	8.35	76 - 80 ****
124	9.25	71 - 75 *****
163	12.16	66 - 70 *****
185	13.80	61 - 65 *****
154	11.48	56 - 60 *****
165	12.30	51 - 55 *****
130	9.69	46 - 50 *****
77	5.74	41 - 45 *****
40	2.98	36 - 40 *****
14	1.04	31 - 35 **
6	0.45	26 - 30 *
1	0.07	21 - 25
2	0.15	16 - 20
2	0.15	11 - 15
		6 - 10
		0 - 5

カ E ク ギ
フ ヲ

930

95

62

47

36

0

48.39

ニカスウ

ヒリフ

フカスウ

ヒリフ

1

2

3

4

5

12345678901234567890123456789012345678901234567890

2	0.22	96 - 100
6	0.65	91 - 95
16	1.72	86 - 90
30	3.23	81 - 85 *
56	6.02	76 - 80 ***
60	6.45	71 - 75 *****
76	8.17	66 - 70 *****
77	8.28	61 - 65 *****
79	8.49	56 - 60 *****
88	9.46	51 - 55 *****
116	12.47	46 - 50 *****
93	10.00	41 - 45 *****
87	9.35	36 - 40 *****
59	6.34	31 - 35 *****
44	4.73	26 - 30 *****
26	2.80	21 - 25 *****
11	1.18	16 - 20 **
2	0.22	11 - 15 *
2	0.22	6 - 10
2	0.22	0 - 5

02711
01711

2937

96

67

58

49

0

57.84

1	2	3	4	5
12345678901	2345678901	2345678901	2345678901	2345678901

1	0.03	96 - 100
19	0.65	91 - 95
32	1.09	86 - 90 *
78	2.66	81 - 85 **
132	4.49	76 - 80 ****
218	7.42	71 - 75 *****
360	12.26	66 - 70 *****
411	13.99	61 - 65 *****
422	14.37	56 - 60 *****
433	14.74	51 - 55 *****
313	10.66	46 - 50 *****
231	7.87	41 - 45 *****
148	5.04	36 - 40 *****
68	2.32	31 - 35 **
45	1.53	26 - 30 *
15	0.51	21 - 25
7	0.24	16 - 20
2	0.07	11 - 15
		6 - 10
2	0.07	0 - 5

8E914
71254

9^A23254789
2111

9127
96

9^A1
69

91277
60

9^A13
52

9171
0

7171
60.62

ニ327^A

7171

7127

1

2

3

4

5

12345678901234567890123456789012345678901234567890

1	0.05	96 - 100
		91 - 95
29	1.37	86 - 90 *
73	3.46	81 - 85 ***
154	7.30	76 - 80 *****
204	9.66	71 - 75 *****
281	13.31	66 - 70 *****
312	14.78	61 - 65 *****
339	16.06	56 - 60 *****
282	13.36	51 - 55 *****
211	10.00	46 - 50 *****
128	6.06	41 - 45 *****
63	2.98	36 - 40 **
20	0.95	31 - 35
4	0.19	26 - 30
4	0.19	21 - 25
3	0.14	16 - 20
		11 - 15
		6 - 10
3	0.14	0 - 5

第1号
第2号

第4989号

第100号

第74号

第56号

第38号

第0号

第56.03号

第1号

第2号

第3号

第4号

1

2

3

4

5

12345678901234567890123456789012345678901234567890

155	3.11	96 - 100 ***
213	4.27	91 - 95 ****
247	4.95	86 - 90 *****
287	5.75	81 - 85 *****
305	6.11	76 - 80 *****
292	5.85	71 - 75 *****
337	6.75	66 - 70 *****
318	6.37	61 - 65 *****
362	7.26	56 - 60 *****
339	6.79	51 - 55 *****
340	6.81	46 - 50 *****
378	7.58	41 - 45 *****
357	7.16	36 - 40 *****
292	5.85	31 - 35 *****
255	5.11	26 - 30 *****
197	3.95	21 - 25 ***
132	2.65	16 - 20 **
107	2.14	11 - 15 **
50	1.00	6 - 10 *
26	0.52	0 - 5

1979年4月

1979年4月

1979年4月

1979年4月

1979年4月

1979年4月

1979年4月

1979年4月

1979年4月

1979年4月

1979年4月

1979年4月

1979年4月

1979年4月

1979年4月

1979年4月

1979年4月

1979年4月

7	0.09	96 - 100
67	0.90	91 - 95
79	1.06	86 - 90 *
170	2.28	81 - 85 **
252	3.38	76 - 80 ***
373	5.00	71 - 75 *****
459	6.15	66 - 70 *****
471	6.31	61 - 65 *****
504	6.76	56 - 60 *****
584	7.83	51 - 55 *****
624	8.36	46 - 50 *****
650	8.71	41 - 45 *****
679	9.10	36 - 40 *****
602	8.07	31 - 35 *****
567	7.60	26 - 30 *****
516	6.92	21 - 25 *****
466	6.25	16 - 20 *****
251	3.36	11 - 15 ***
99	1.33	6 - 10 *
41	0.55	0 - 5

12345678901234567890123456789012345678901234567890

04277	94	53	43	34	0	43.96
-------	----	----	----	----	---	-------

1	2	3	4	5
12345678901234567890123456789012345678901234567890				

3	0.07	96 - 100
10	0.23	91 - 95
18	0.42	86 - 90
41	0.96	81 - 85
71	1.66	76 - 80
133	3.11	71 - 75 *
224	5.24	66 - 70 ***
323	7.55	61 - 65 *****
451	10.54	56 - 60 *****
551	12.88	51 - 55 *****
600	14.03	46 - 50 *****
614	14.36	41 - 45 *****
543	12.70	36 - 40 *****
415	9.70	31 - 35 *****
202	4.72	26 - 30 *****
65	1.52	21 - 25 ****
9	0.21	16 - 20 *
2	0.05	11 - 15
2	0.05	6 - 10
2	0.05	0 - 5

8E74I
9072

57 137787878
1725

7177
100

57 11
56

72777
45

57 13
35

71771
0

7177
46.26

77877

7777

77877

7777 1 2 3 4 5
1234567890123456789012345678901234567890

1	0.06	96 - 100
4	0.23	91 - 95
10	0.58	86 - 90
18	1.04	81 - 85 *
37	2.14	76 - 80 **
31	1.80	71 - 75 *
85	4.93	66 - 70 ****
107	6.20	61 - 65 *****
148	8.58	56 - 60 *****
206	11.94	51 - 55 *****
213	12.35	46 - 50 *****
222	12.87	41 - 45 *****
199	11.54	36 - 40 *****
190	11.01	31 - 35 *****
129	7.48	26 - 30 *****
80	4.64	21 - 25 ****
30	1.74	16 - 20 *
11	0.64	11 - 15
1	0.06	6 - 10
3	0.17	0 - 5

89741
4778

90
90

65
65

40
40

32
32

28
28

15
15

34.42

1234567890

1234567890

1234567890

1234567890

1234567890

1234567890

1234567890

1234567890

1234567890

96 - 100
91 - 95
86 - 90
81 - 85
76 - 80
71 - 75
66 - 70

2 2.22
3 3.33
7 7.78
3 3.33
6 6.67
14 15.56
16 17.78
20 22.22
13 14.44
5 5.56
1 1.11

61 - 65 **
56 - 60 ***
51 - 55 *****
46 - 50 ***
41 - 45 *****
36 - 40 *****
31 - 35 *****
26 - 30 *****
21 - 25 *****
16 - 20 *****
11 - 15 *
6 - 10
0 - 5

36. 科目別正答率一覽

S.51.11.24

科目名 \ 正答率	29%以下	30~59%	60%以上
国語	6.9%	34.2%	58.9%
数学一般	30.3%	41.1%	28.6%
数学I	13.8%	30.6%	55.6%
倫理・社会	17.4%	23.9%	58.7%
政治・経済	10.5%	42.1%	47.4%
日本史	18.0%	66.0%	16.0%
世界史	17.9%	38.3%	42.8%
地理A	12.5%	42.5%	45.0%
地理B	25.8%	37.1%	37.1%
基礎理科	32.4%	39.0%	28.6%
物理	5.3%	52.6%	42.1%
化学	10.0%	60.0%	30.0%
生物	15.5%	41.4%	43.1%
地学	21.4%	53.6%	25.0%
英語		52.6%	47.4%

37. 解答別件数表 (例)

(KDNP76) コクサ・イフヨク

※ヨウツク 12th シケン

カイトウノハツ ケンヌウ ヒヨウ

11/14/76

PAGE 24

カネツ=43 ナリ A

1341 ケン

ハ ^o ンゴ ^o ウ	ヒ ^o ヲ	ケツク	ヒリツ
01-01-01	0001	44	3.2
	0002	108	8.0
	0003	27	2.0
	0004	1076	80.2
	0005	86	6.4
02-01	0006	216	16.1
	0007	1059	78.9
	0008	19	1.4
	0009	45	3.3
03-01	0010	135	10.0
	0011	747	55.7
	0012	399	29.7
	0013	55	4.1
04-01	0014	224	16.7
	0015	615	45.8
	0016	203	15.1
	0017	221	16.4
	0018	65	4.8
05-01	0019	104	7.7
	0020	312	23.2
	0021	253	18.8
	0022	385	28.7
	0023	165	12.3
	0024	111	8.2
02-01-01	0025	9	0.6
	0026	1203	89.7
	0027	99	7.3
	0028	28	2.0
	0029	0	0.0
02-01	0030	406	30.2
	0031	265	19.7
	0032	196	11.6
	0033	332	24.7
	0034	161	12.0
03-01	0035	100	7.4
	0036	7	0.5
	0037	99	7.3
	0038	358	26.6
	0039	772	57.5
04-01	0040	208	15.5
	0041	67	4.9
	0042	484	36.0
	0043	475	35.4
	0044	98	7.3
05-01	0045	8	0.5
	0046	1	0.0
	0047	12	0.8
	0048	6	0.4
	0049	1307	97.4
06-01	0050	9	0.6

ハ ^o ンゴ ^o ウ	ヒ ^o ヲ	ケツク	ヒリツ
02-06-01	0051	92	6.8
	0052	119	8.8
	0053	191	14.2
	0054	745	55.5
	0055	60	4.4
	0056	44	3.2
	0057	23	1.7
	0058	34	2.5
	0059	12	0.8
07-01	0060	313	23.3
	0061	362	26.9
	0062	148	11.0
	0063	171	12.7
	0064	23	1.7
	0065	28	2.0
	0066	134	9.9
	0067	71	5.2
	0068	15	1.1
	0069	69	5.1
08-01	0070	0	0.0
	0071	59	4.3
	0072	30	2.2
	0073	103	7.6
	0074	30	2.2
	0075	590	43.9
	0076	468	34.8
	0077	15	1.1
	0078	28	2.0
	0079	8	0.5
09-01	0080	53	3.9
	0081	50	3.7
	0082	211	15.7
	0083	76	5.6
	0084	34	2.5
	0085	25	1.8
	0086	29	2.1
	0087	414	30.8
	0088	15	1.1
	0089	419	31.2
10-01	0090	965	71.9
	0091	41	3.0
	0092	49	3.6
	0093	52	3.8
	0094	29	2.1
	0095	11	0.8
	0096	27	2.0
	0097	68	5.0
	0098	33	2.4
	0099	52	3.8
03-01-01	0100	70	5.2

ハ ^o ンゴ ^o ウ	ヒ ^o ヲ	ケツク	ヒリツ
03-01-01	0101	63	4.6
	0102	649	48.3
	0103	184	13.7
	0104	370	27.5
02-01	0105	113	8.4
	0106	673	50.1
	0107	306	22.8
	0108	128	9.5
	0109	118	8.7
03-01	0110	262	19.5
	0111	222	16.5
	0112	87	6.4
	0113	764	56.9
	0114	1	0.0
04-01	0115	823	61.3
	0116	92	6.8
	0117	147	10.9
	0118	94	7.0
	0119	181	13.4
05-01	0120	213	15.8
	0121	137	10.2
	0122	511	38.1
	0123	32	2.3
	0124	443	33.0
06-01	0125	7	0.5
	0126	43	3.2
	0127	1228	91.5
	0128	58	4.3
07-01	0129	1301	97.0
	0130	20	1.4
	0131	11	0.8
	0132	7	0.5
08-01	0133	121	9.0
	0134	627	46.7
	0135	333	24.8
	0136	261	19.4
09-01	0137	395	29.4
	0138	323	24.0
	0139	394	29.3
	0140	225	16.7
10-01	0141	333	24.8
	0142	98	7.3
	0143	635	47.3
	0144	273	20.3
04-01-01	0145	59	4.3
	0146	83	6.1
	0147	1158	86.3
	0148	35	2.6
02-01	0149	989	73.7
	0150	65	4.8

38. 選抜科目状況表 (得点順)

(KUNPB4)	コクサ ^イ キヨク	キヨクツク	1シ ^シ ケン	センタク	カモク	シ ^{ヨク} キヨク	ヒヨク	(コクツク)	シ ^{ユク}	12/23/76	PAGE:	1					
NO.	コクサ	スク I	スク ハ ^ン	イコ ^ク	ニホクシ	ヒカイシ	チリA	チリB	セイケイ	リフシヤ	フ ^ツ ツリ	カカ ^ク	セイ フ ^ツ	チカ ^ク	キツリカ	ニコス ^ク	ハイキ ^ク
1	##		##	##	##					##	##	##				1	801.00
2	##		##	##					##	##		##		##		1	775.00
3	##		##	##	##		##						##	##		1	742.00
4	##		##	##		##	##				##	##				3	711.67
5	##		##	##		##				##	##			##		1	672.00
6	##		##	##	##	##					##	##	##			1	644.00
7	##	##		##			##			##	##		##			4	634.25
8	##	##		##		##				##	##	##				423	612.29
9	##	##		##		##	##				##	##				225	607.40
10	##	##		##					##	##	##			##		7	592.29
11	##		##	##		##				##	##	##				6	590.67
12	##	##		##		##		##			##	##				193	588.84
13	##	##		##			##		##		##	##				133	585.33
14	##	##		##		##			##		##	##				533	582.70
15	##		##	##		##			##		##	##	##			1	582.00
16	##	##		##		##		##							##	1	582.00
17	##	##		##	##					##	##	##				374	577.73
18	##	##		##	##	##					##	##				1012	571.11
19	##	##		##			##			##	##	##				75	571.08
20	##	##		##		##	##						##	##		51	563.57
21	##	##		##				##	##		##	##	##			3	563.00
22	##	##		##	##	##					##	##		##		38	561.58
23	##	##		##		##	##				##	##	##			18	556.56
24	##	##		##			##			##	##			##		4	552.00
25	##	##		##	##			##			##	##	##			13	544.85

38. 選抜科目状況表 (人数順)

(KDNP84)	コクタイキヨク		キヨウツク	1st	シケン	センタク	カモク	シヨウキヨク	ヒヨク	(ニンズウ)	シユン)	12/23/76	PAGE,	1					
NO.	コク	スウ	I	スコ	ハシ	イコ	ニホシ	セカイシ	チリA	チリB	セイケイ	シケン	フツリ	カカク	セイ	チカク	キリカ	ニホシウ	ハイケン
1	##	##		##	##	##								##	##			1204	530.25
2	##	##		##	##	##							##	##				1012	571.11
3	##	##		##	##						##		##	##				601	538.64
4	##	##		##		##					##		##	##				533	582.70
5	##	##		##	##	##									##	##		441	513.01
6	##	##		##		##					##		##	##				423	612.29
7	##	##		##	##						##		##	##				374	577.73
8	##	##		##	##						##		##	##				336	458.02
9	##	##		##		##		##	##				##	##				225	607.40
10	##	##		##	##						##		##	##				218	478.59
11	##	##		##	##				##				##	##				214	544.45
12	##	##		##		##					##	##	##	##				206	534.43
13	##	##		##		##		##	##				##	##				195	588.84
14	##	##		##	##	##		##					##		##			190	520.22
15	##	##		##		##		##			##		##	##		##		170	507.33
16	##	##		##	##				##				##	##				168	528.49
17	##	##		##	##	##		##					##			##		153	522.47
18	##	##		##	##						##				##	##		149	459.61
19	##	##		##	##			##	##				##	##				136	485.12
20	##	##		##		##		##			##		##	##				135	528.38
21	##	##		##		##			##		##		##	##				133	585.33
22	##	##		##		##		##	##				##	##				116	538.68
23	##	##		##	##						##				##	##		108	488.89
24	##	##		##	##				##				##	##				91	485.82
25	##	##		##		##		##			##				##	##		92	494.06

NO.	ヨク	ス I	ス ハ	イヨ	ニツク	ヒカイ	チリA	チリB	セイタイ	リツキ	フツリ	カカク	ヒ ツク	チカク	キツリカ	ニツク	イキ
26	キ	キ		キ	キ		キ						キ	キ		78	476,83
27	キ	キ		キ				キ	キ		キ	キ				75	527,79
28	キ	キ		キ			キ			キ	キ	キ				75	571,08
29	キ	キ		キ		キ		キ			キ	キ	キ			73	529,44
30	キ	キ		キ		キ			キ				キ	キ		71	490,65
31	キ	キ		キ	キ			キ					キ	キ		59	460,42
32	キ	キ		キ	キ				キ			キ		キ		57	460,65
33	キ	キ		キ					キ	キ		キ	キ			54	475,74
34	キ	キ		キ	キ				キ		キ		キ			52	479,62
35	キ	キ		キ		キ	キ						キ	キ		51	563,57
36	キ	キ		キ			キ		キ		キ	キ	キ			38	520,87
37	キ	キ		キ	キ	キ					キ			キ		38	561,58
38	キ	キ		キ		キ			キ		キ	キ	キ			37	523,84
39	キ	キ		キ		キ			キ			キ		キ		34	493,24
40	キ	キ		キ		キ		キ					キ	キ		34	503,68
41	キ	キ		キ	キ		キ					キ		キ		34	492,56
42	キ	キ		キ				キ		キ	キ	キ	キ			31	540,23
43	キ	キ		キ		キ				キ	キ		キ			30	525,23
44	キ	キ		キ	キ					キ	キ	キ	キ			29	497,83
45	キ	キ		キ	キ				キ		キ			キ		28	494,32
46	キ	キ		キ					キ	キ			キ	キ		24	464,38
47	キ	キ		キ	キ		キ				キ		キ			24	519,46
48	キ	キ		キ	キ					キ		キ		キ		23	489,43
49	キ	キ		キ			キ		キ				キ	キ		22	466,50
50	キ	キ		キ					キ	キ		キ		キ		21	475,90

(KONP84) ヲクノイキヨ

キヨウツク 19* 21* 22*

ヒコダク カモク シ*ヨウキヨウ ヒヨク (ニコス*ウ シ*ゴク)

12/23/76

PAGE: 3

NO.	ヨク	ス I	ス ハ*ン	イヨ*	ニホシ	ヒカイシ	チリA	チリB	ヒイケイ	リコシ*	フ*ツリ	カカ*ク	ヒイ ゴ*ツ	チカ*ク	キリカ	ニコス*ウ	イキヨ
51	**	**		**				**	**			**	**			20	426.15
52	**	**		**		**		**				**	**	**		19	495.89
53	**	**		**		**				**		**	**	**		18	922.56
54	**	**		**		**	**					**	**	**		18	522.22
55	**	**		**		**	**				**		**			18	556.96
56	**	**		**	**	**									**	18	448.11
57	**	**		**					**	**	**		**			17	477.65
58	**	**		**			**			**		**	**			15	447.80
59	**	**		**	**					**	**			**		14	458.57
60	**	**		**	**			**			**		**			13	544.85
61	**	**		**				**	**				**	**		12	433.50
62	**	**		**			**			**			**	**		12	536.50
63	**	**		**				**		**		**	**			11	484.09
64	**	**		**		**			**		**			**		10	514.00
65	**	**		**		**		**	**	**	**		**			10	533.70
66	**	**		**	**			**			**			**		10	444.30
67	**	**		**		**		**	**		**			**		9	504.78
68	**		**	**	**	**					**	**				8	489.63
69	**	**		**				**		**			**	**		8	447.63
70	**	**		**			**		**		**		**			8	517.13
71	**	**		**	**			**			**			**		8	476.25
72	**		**	**	**					**					**	7	459.29
73	**	**		**					**	**	**			**		7	592.29
74	**	**		**		**				**	**			**		7	513.57
75	**	**		**	**				**					**	**	7	414.71

NO.	コクダ	ス I	ス ハ ^イ ン	イコ*	ニコソシ	ヒカイシ	チリA	チリB	ヒケイ	リンシ ^イ	フ ^イ ツリ	カカ ^イ ク	ヒイ フ ^イ ツ	チカ ^イ ク	キリカ	ニコス ^イ ウ	ハイキ
76	**		**	**		**				**	**	**				6	590.67
77	**		**	**		**			**		**	**				6	471.83
78	**		**	**	**				**		**	**				6	466.83
79	**		**	**	**	**								**		6	520.00
80	**	**		**		**				**				**		6	450.33
81	**	**		**	**		**				**			**		6	489.00
82	**		**	**		**		**			**	**				5	496.60
83	**		**	**	**		**							**		5	299.60
84	**	**		**		**			**	**				**		5	400.80
85	**	**		**		**		**	**		**		**	**		5	461.00
86	**	**		**		**	**		**		**			**		5	445.20
87	**	**		**		**	**		**		**	**	**	**		5	438.80
88	**	**		**		**		**	**		**			**		5	427.20
89	**	**		**		**	**	**			**			**		5	543.60
90	**	**		**		**		**	**		**			**		4	478.50
91	**	**		**		**	**		**	**	**		**	**		4	431.25
92	**	**		**		**	**		**	**	**		**			4	634.25
93	**	**		**		**	**		**	**	**			**		4	552.00
94	**	**		**		**	**	**			**			**		4	456.25
95	**		**	**		**			**	**	**			**		3	479.67
96	**		**	**		**			**		**			**		3	520.00
97	**		**	**		**	**		**		**	**				3	711.67
98	**		**	**	**			**			**			**		3	402.33
99	**		**	**	**			**			**	**				3	369.33
100	**	**		**		**		**		**	**		**	**		3	404.67

(KUNPB4) 2024年10月

2024年10月

2024年10月

12/23/76

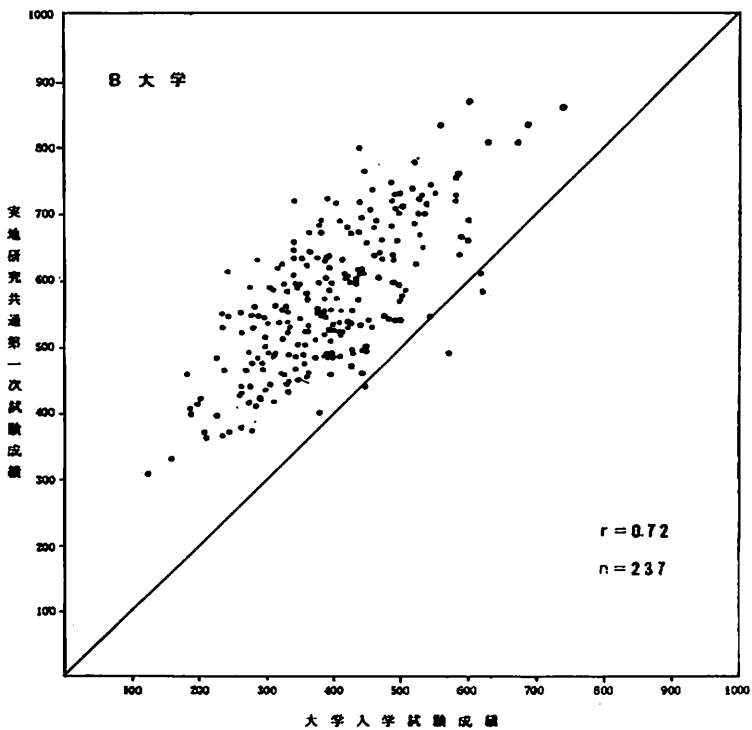
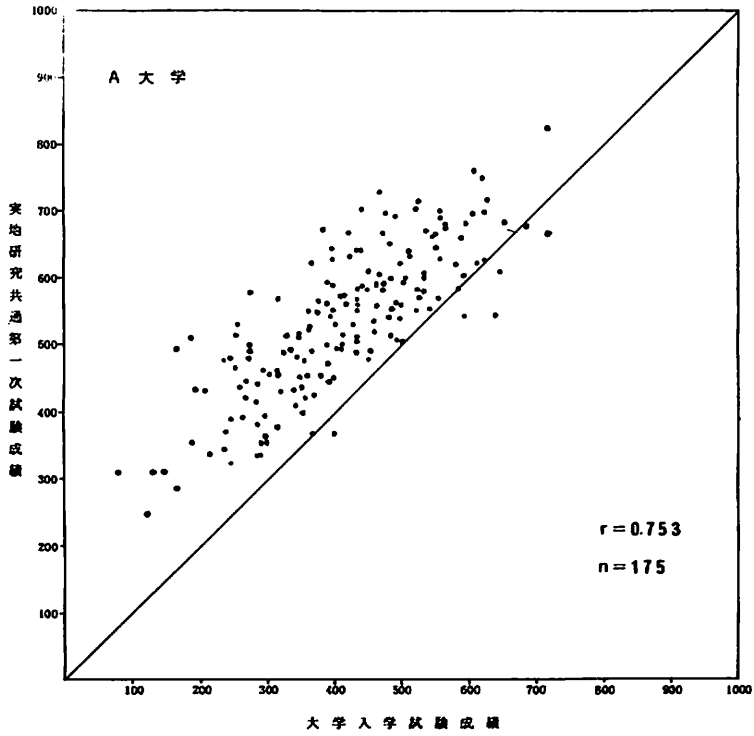
PAGE: 5

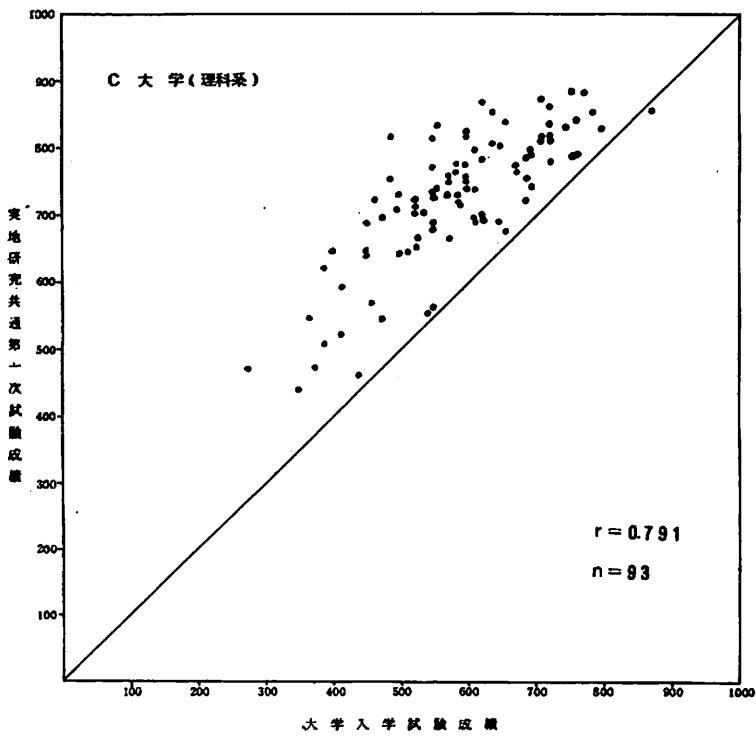
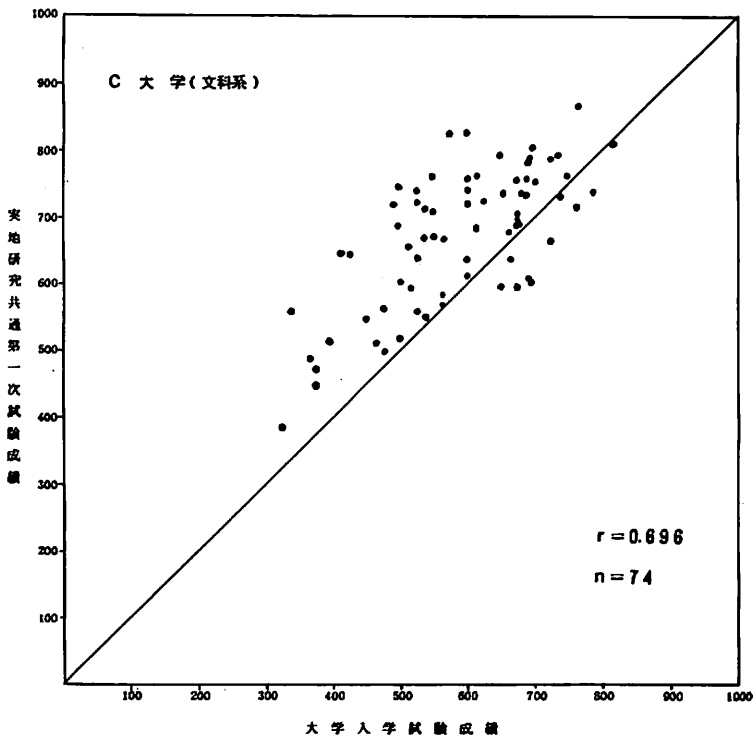
NO.	2024	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
101	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	3	563.00
102	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	3	423.67
103	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	3	502.33
104	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	2	377.50
105	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	2	489.50
106	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	2	402.00
107	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	2	433.50
108	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	2	510.50
109	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	2	537.50
110	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	2	385.00
111	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	2	386.00
112	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	1	381.00
113	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	1	775.00
114	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	1	413.00
115	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	1	534.00
116	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	1	366.00
117	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	1	427.00
118	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	1	473.00
119	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	1	672.00
120	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	1	582.00
121	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	1	450.00
122	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	1	536.00
123	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	1	301.00
124	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	1	801.00
125	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	1	368.00

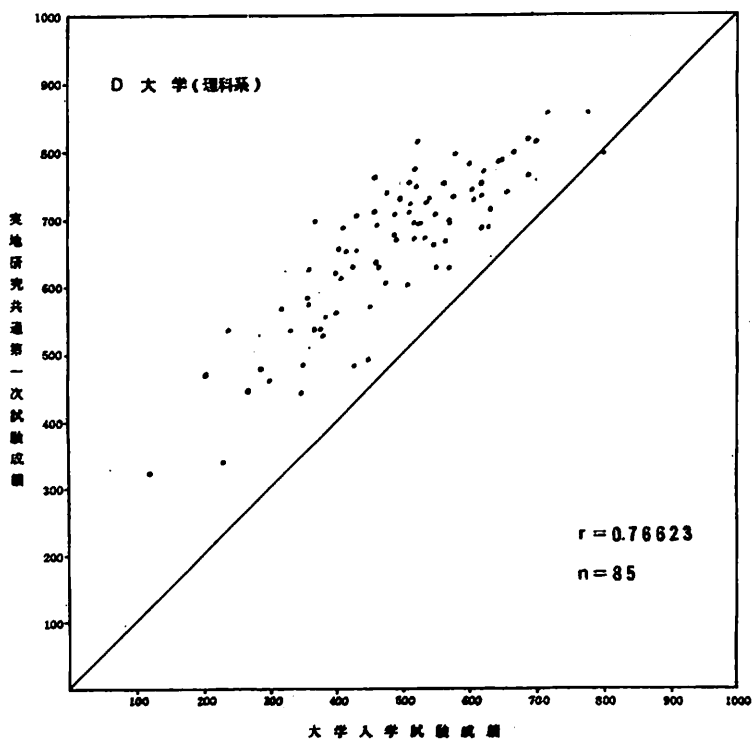
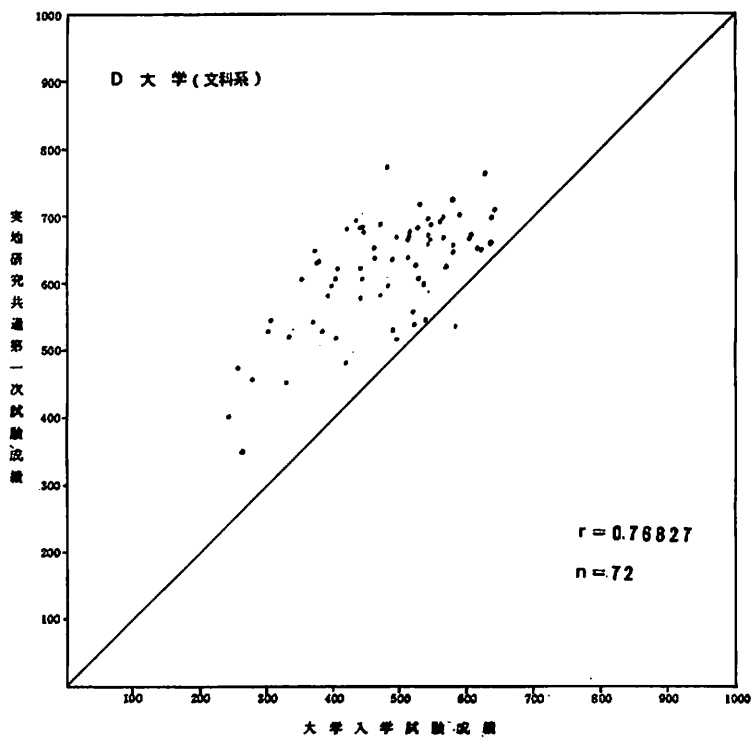
NO.	NO.	NO.	NO.	NO.	NO.	NO.	NO.	NO.	NO.	NO.	NO.	NO.	NO.	NO.	NO.	NO.	NO.
126	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	1	514.00
127	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	1	742.00
128	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	1	644.00
129	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	1	454.00
130	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	1	307.00
131	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	1	582.00
12/23/76	9166	9073	93	9166	5953	5438	1277	879	2785	2000	4894	7338	4215	1705	90	9166	534.88

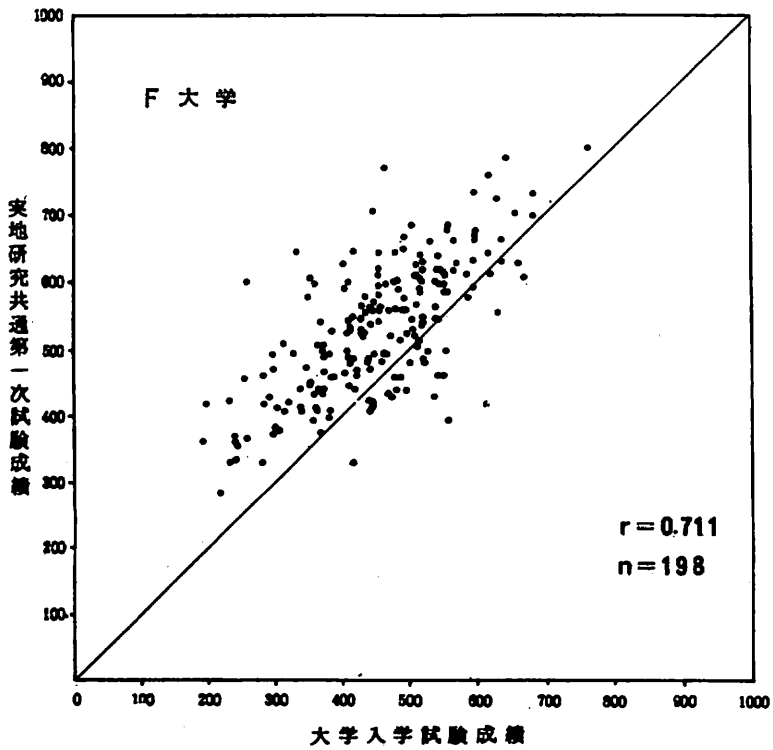
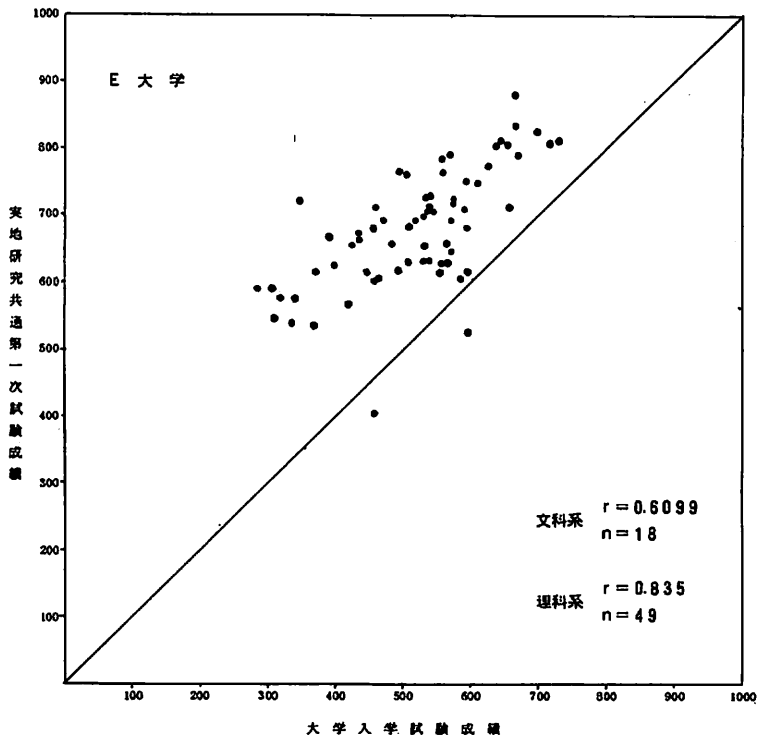
【 参 考 】

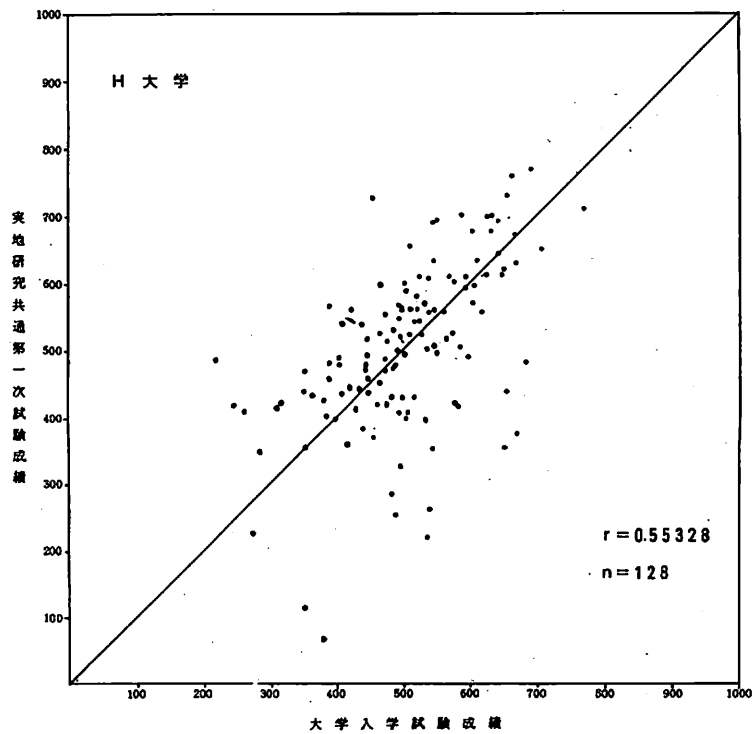
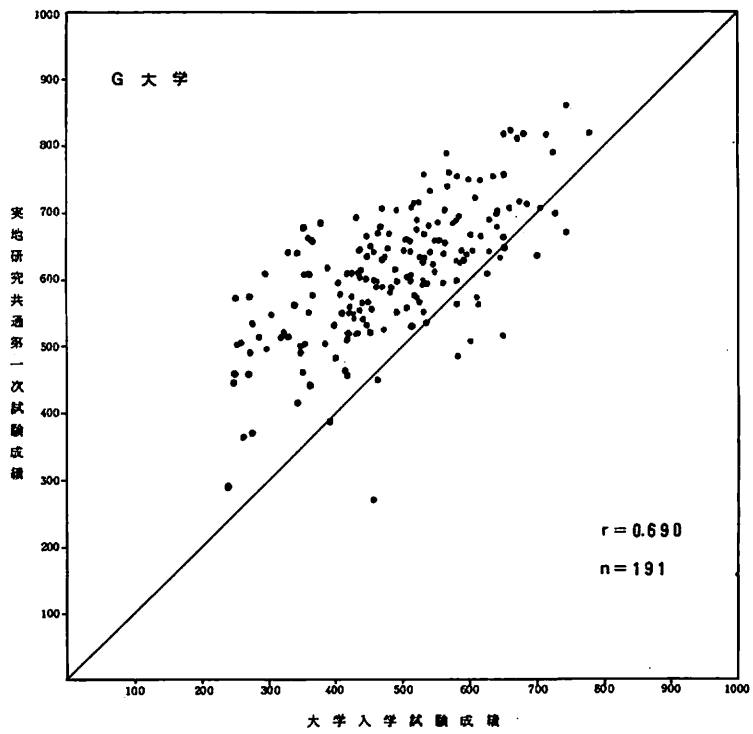
39. 昭和50年度国立大学共通第一次試験（実地研究）
と昭和51年度大学入学試験との成績の相関図











40. 米国におけるテスト結果の一覧

米国大学試験委員会 (CEE B) の進学適性テストの平均点

	Verbal			Mathematical		
	Male	Female	Total	Male	Female	Total
1966-67	463	468	466	514	467	492
1967-68	464	466	466	512	470	492
1968-69	459	466	463	513	470	493
1969-70	459	461	460	509	465	488
1970-71	454	457	455	507	466	488
1971-72	454	452	453	505	461	484
1972-73	446	443	445	502	460	481
1973-74	447	442	444	501	459	480
1974-75	437	431	434	495	449	472
1975-76	433	430	431	497	446	472

*The averages for 1966-67 through 1970-71 are estimates of the averages that would have been reported for college-bound seniors of those years if such reports had been produced.

米国大学試験委員会 (CEE B) の学力テストの平均点

	1972		1973		1974		1975		1976	
	N	AV	N	AV	N	AV	N	AV	N	AV
Average for All Achievement Tests	335	526	294	527	247	533	228	531	228	538
English Composition	313	516	275	517	228	517	212	515	213	532
Mathematics Level I	240	541	211	537	172	545	158	545	158	546
American History and Social Studies	105	492	87	498	71	498	64	494	64	493
Biology	51	535	51	532	46	545	46	544	46	543
French	52	539	47	544	38	560	34	553	31	553
Chemistry	48	568	43	572	37	581	33	569	34	567
Mathematics Level II	n/a		n/a		n/a		29	660	32	665
Spanish	34	530	33	539	28	560	26	544	26	547
Literature	n/a		n/a		n/a		21	522	22	525
Physics	n/a		n/a		n/a		12	601	16	592
German	n/a		n/a		n/a		7	547	6	555
European History and World Cultures	n/a		n/a		n/a		5	521	3	531
Latin	n/a		n/a		n/a		2	514	2	524
Hebrew	n/a		n/a		n/a		1	577	1	579
Russian	n/a		n/a		n/a		0.5	540	1	559

米国大学試験委員会 (CEE) の進学適性テスト (1975~76) の得点分布

SCHOLASTIC APTITUDE TEST (SAT) SCORES

V E R B A L						M A T H						
MALE		FEMALE		TOTAL		MALE		FEMALE		TOTAL		
NUMBER	PCT	NUMBER	PCT	NUMBER	PCT	SCORE	NUMBER	PCT	NUMBER	PCT	NUMBER	PCT
1,265	0	1,199	0	2,464	0	750-800	9,829	2	1,720	0	11,549	1
5,110	1	4,706	1	9,824	1	700-749	19,936	4	6,026	1	25,962	3
11,861	2	11,351	2	23,212	2	650-699	33,059	7	14,326	3	47,385	5
23,728	5	22,736	5	46,464	5	600-649	49,491	10	29,011	6	78,502	8
37,351	8	36,434	7	73,785	7	550-599	60,470	12	45,492	9	105,962	11
62,572	13	62,742	12	125,314	13	500-549	77,743	16	70,967	14	148,710	15
74,022	15	74,933	15	148,955	15	450-499	72,449	15	80,999	16	153,448	15
85,302	17	87,263	17	172,565	17	400-449	59,297	12	77,722	15	137,019	14
84,103	17	87,898	17	172,001	17	350-399	51,160	10	75,638	15	126,798	13
57,576	12	60,221	12	117,797	12	300-349	38,274	8	62,657	12	100,931	10
33,857	7	36,185	7	70,042	7	250-299	18,596	4	32,753	6	51,349	5
17,071	4	19,515	4	37,386	4	200-249	4,315	1	7,846	2	12,161	1
494,626		505,183		999,809		NUMBER	494,619		505,157		999,776	
433		430		431		MEAN	497		446		472	
111		110		110		STD DEV	123		111		120	

SAT-VERBAL SUBSCORES

READING COMPREHENSION						VOCABULARY						
MALE		FEMALE		TOTAL		MALE		FEMALE		TOTAL		
NUMBER	PCT	NUMBER	PCT	NUMBER	PCT	SCORE	NUMBER	PCT	NUMBER	PCT	NUMBER	PCT
1,433	0	1,281	0	2,714	0	75-80	3,032	1	2,892	1	5,924	1
3,303	1	3,028	1	6,331	1	70-74	6,166	1	5,782	1	11,948	1
14,267	3	13,064	3	27,331	3	65-69	14,237	3	13,962	3	28,199	3
24,572	5	23,922	5	48,494	5	60-64	24,999	5	23,913	5	48,912	5
39,706	8	39,841	8	79,547	8	55-59	43,592	9	42,133	8	85,725	9
53,992	11	56,066	11	110,058	11	50-54	63,259	13	60,837	12	124,096	12
73,908	15	76,737	15	150,645	15	45-49	74,962	15	72,695	14	147,657	15
82,581	17	86,277	17	168,858	17	40-44	86,261	17	88,912	18	175,173	18
75,602	15	79,010	16	154,612	15	35-39	70,107	14	73,734	15	143,841	14
73,461	15	75,971	15	149,432	15	30-34	45,788	9	49,185	10	94,973	10
35,878	7	35,307	7	71,185	7	25-29	29,953	6	33,399	7	63,352	6
15,052	3	13,654	3	28,706	3	20-24	31,414	6	36,717	7	68,131	7
493,755		504,158		997,913		NUMBER	493,770		504,161		997,931	
43.2		43.1		43.2		MEAN	43.7		43.1		43.4	
11.2		10.9		11.1		STD DEV	11.9		12.0		12.0	

TEST OF STANDARD WRITTEN ENGLISH (TSWE) SCORES*

SCORE	MALE		FEMALE		TOTAL	
	NUMBER	PCT	NUMBER	PCT	NUMBER	PCT
60+	20,445	4	28,546	6	48,991	5
55-59	50,583	10	64,635	13	115,218	12
50-54	69,994	14	82,884	16	152,878	15
45-49	78,625	16	85,124	17	163,749	16
40-44	78,625	16	78,607	16	157,232	16
35-39	68,172	14	62,331	12	130,503	13
30-34	54,317	11	45,569	9	99,886	10
25-29	34,871	7	27,908	6	62,779	6
20-24	38,151	8	28,563	6	66,714	7
NUMBER	493,783		504,167		997,950	
MEAN	42.1		44.0		43.1	
STD DEV	10.9		10.7		10.8	

* THE TEST OF STANDARD WRITTEN ENGLISH IS IN EXPERIMENTAL USE FOR PURPOSES OF PLACEMENT

米⼤学試験委員会 (CEE B) の学カテスト (1975-76) の得点分⼦

ACHIEVEMENT TEST SCORES

AVERAGE OF SCORES		ENGLISH COMPOSITION		SCORE	MATHEMATICS LEVEL 1		AMERICAN HISTORY	
NUMBER	PCT	NUMBER	PCT		NUMBER	PCT	NUMBER	PCT
2,477	1	5,235	2	750-800	3,997	3	1,079	2
9,095	4	11,193	5	700-749	8,188	5	1,699	3
19,170	8	19,430	9	650-699	15,405	10	3,227	5
31,315	14	28,286	13	600-649	23,911	15	5,231	8
41,241	18	32,035	15	550-599	25,665	16	7,613	12
44,042	19	34,527	16	500-549	30,095	19	10,022	16
38,444	17	31,851	15	450-499	24,442	15	12,035	19
25,910	11	26,133	12	400-449	16,032	10	11,335	18
12,245	5	15,051	7	350-399	8,078	5	7,741	12
3,648	2	6,847	3	300-349	2,268	1	3,543	6
524	0	1,987	1	250-299	239	0	585	1
116	0	221	0	200-249	7	0	29	0
228,227		212,796		NUMBER	158,327		64,139	
538		532		MEAN	546		493	
96		111		STD DEV	101		106	
		507		SAT-V AVG	495		505	
		554		SAT-M AVG	552		539	

BIOLOGY		CHEMISTRY		SCORE	MATHEMATICS LEVEL 2		FRENCH	
NUMBER	PCT	NUMBER	PCT		NUMBER	PCT	NUMBER	PCT
1,661	4	1,787	5	750-800	7,526	23	1,842	6
2,986	6	2,641	8	700-749	5,990	19	2,037	7
4,724	10	3,975	12	650-699	6,549	20	2,605	9
6,120	13	5,116	15	600-649	5,177	16	3,914	13
6,852	15	5,530	16	550-599	3,437	11	4,478	14
7,454	16	5,796	17	500-549	1,377	4	5,277	17
6,585	14	5,077	15	450-499	849	3	5,187	17
4,862	11	3,062	9	400-449	610	2	3,852	12
3,209	7	1,111	3	350-399	389	1	1,136	5
1,290	3	193	1	300-349	205	1	136	0
281	1	6	0	250-299	35	0	0	0
17	0	0	0	200-249	9	0	0	0
46,041		34,294		NUMBER	32,153		31,087	
543		567		MEAN	665		553	
113		104		STD DEV	100		110	
510		531		SAT-V AVG	554		541	
543		616		SAT-M AVG	652		565	

SPANISH		LITERATURE		SCORE	PHYSICS		GERMAN	
NUMBER	PCT	NUMBER	PCT		NUMBER	PCT	NUMBER	PCT
2,388	9	360	2	750-800	1,272	8	625	10
1,691	6	1,078	5	700-749	1,574	10	355	6
2,003	8	2,163	10	650-699	2,202	14	502	8
2,547	10	2,645	12	600-649	2,573	16	779	12
3,132	12	3,157	15	550-599	2,443	16	784	12
3,655	14	3,499	16	500-549	2,544	16	969	15
4,065	16	3,070	14	450-499	1,818	12	995	16
4,259	16	2,519	12	400-449	963	6	819	13
2,166	8	1,785	8	350-399	235	2	437	7
111	0	977	5	300-349	19	0	46	1
2	0	238	1	250-299	1	0	1	0
0	0	32	0	200-249	0	0	0	0
26,019		21,523		NUMBER	15,644		6,312	
547		525		MEAN	592		555	
123		113		STD DEV	103		121	
500		523		SAT-V AVG	535		545	
534		511		SAT-M AVG	644		585	

ACHIEVEMENT TEST SCORES

EUROPEAN HISTORY		LATIN		SCORE	HEBREW		RUSSIAN	
NUMBER	PCT	NUMBER	PCT		NUMBER	PCT	NUMBER	PCT
96	3	24	1	750-800	21	3	80	17
206	6	78	5	700-749	57	8	31	6
288	9	130	8	650-699	119	16	32	7
349	10	176	10	600-649	144	20	39	8
532	16	260	15	550-599	139	19	52	11
541	16	334	20	500-549	101	14	57	12
508	15	299	18	450-499	79	11	59	12
491	15	246	14	400-449	51	7	65	14
242	7	123	7	350-399	10	1	39	8
94	3	26	2	300-349	8	1	21	4
20	1	2	0	250-299	3	0	3	1
0	0	0	0	200-249	0	0	0	0
3,367		1,498		NUMBER	732		478	
531		524		MEAN	579		559	
111		100		STD DEV	97		145	
561		573		SAT-V AVG	545		556	
558		595		SAT-M AVG	567		586	

いずれも米國大学試験委員会 (CEEb) ナショナルレポート1975-76から引用

米国大学テスト協会 (ACT) の共通入試テストの申込用紙

PAGE 2

The ACT Interest Inventory and the Student Profile Section are important parts of the ACT Assessment. The items in each deal with you—your educational interests, goals, plans, and accomplishments.

You should complete the Interest Inventory and the Student Profile Section as carefully and accurately as you can. Much of the information on the Student Profile Reports sent to you and to the colleges you select is based on your responses to these two sections.

It is important that you respond to each question in the Interest Inventory and the Student Profile Section. However, if you do not wish to answer a particular question, you may skip that question.

You should complete all four pages of this folder before you submit it to ACT.

USE A SOFT LEAD PENCIL ONLY

INTEREST INVENTORY

1	2	3	4	5	▶	6	7	8	9	10	▶	11	12	13	14	15	▶	16	17	18	19	20	▶	21	22	23	24	25
00	00	00	00	00		00	00	00	00	00		00	00	00	00	00		00	00	00	00	00		00	00	00	00	00
10	10	10	10	10		10	10	10	10	10		10	10	10	10	10		10	10	10	10	10		10	10	10	10	10
20	20	20	20	20		20	20	20	20	20		20	20	20	20	20		20	20	20	20	20		20	20	20	20	20
30	30	30	30	30		30	30	30	30	30		30	30	30	30	30		30	30	30	30	30		30	30	30	30	30
40	40	40	40	40		40	40	40	40	40		40	40	40	40	40		40	40	40	40	40		40	40	40	40	40
50	50	50	50	50		50	50	50	50	50		50	50	50	50	50		50	50	50	50	50		50	50	50	50	50
60	60	60	60	60		60	60	60	60	60		60	60	60	60	60		60	60	60	60	60		60	60	60	60	60
70	70	70	70	70		70	70	70	70	70		70	70	70	70	70		70	70	70	70	70		70	70	70	70	70
80	80	80	80	80		80	80	80	80	80		80	80	80	80	80		80	80	80	80	80		80	80	80	80	80
90	90	90	90	90		90	90	90	90	90		90	90	90	90	90		90	90	90	90	90		90	90	90	90	90
00	00	00	00	00		00	00	00	00	00		00	00	00	00	00		00	00	00	00	00		00	00	00	00	00
10	10	10	10	10		10	10	10	10	10		10	10	10	10	10		10	10	10	10	10		10	10	10	10	10
20	20	20	20	20		20	20	20	20	20		20	20	20	20	20		20	20	20	20	20		20	20	20	20	20
30	30	30	30	30		30	30	30	30	30		30	30	30	30	30		30	30	30	30	30		30	30	30	30	30
40	40	40	40	40		40	40	40	40	40		40	40	40	40	40		40	40	40	40	40		40	40	40	40	40
50	50	50	50	50		50	50	50	50	50		50	50	50	50	50		50	50	50	50	50		50	50	50	50	50
60	60	60	60	60		60	60	60	60	60		60	60	60	60	60		60	60	60	60	60		60	60	60	60	60
70	70	70	70	70		70	70	70	70	70		70	70	70	70	70		70	70	70	70	70		70	70	70	70	70
80	80	80	80	80		80	80	80	80	80		80	80	80	80	80		80	80	80	80	80		80	80	80	80	80
90	90	90	90	90		90	90	90	90	90		90	90	90	90	90		90	90	90	90	90		90	90	90	90	90

TURN FOLDER TO PAGE 3 ▼



米国大学テスト協会 (ACT) の共通入試申込用紙

PAGE 4 USE A SOFT LEAD PENCIL ONLY

YOUR HOME COUNTY	IS THE ADDRESS OF YOUR PARENTS OR LEGAL GUARDIAN THE SAME AS YOU RECORDED ON PAGE 17 Yes <input type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>	NAME OF PARENT OR LEGAL GUARDIAN Last Name	First Initial Middle Initial
(Bubble grid for data entry)			

SOCIAL SECURITY NUMBER <small>(See Book 1 on Page 7) Repeating for Computer Matching</small>	TEST DATE	TEST CENTER CODES 1st Choice 2nd Choice	FOR OFFICE USE ONLY Do not write in this area.
(Bubble grid for data entry)			

COLLEGE, SCHOLARSHIP, AND AGENCY CODE CHOICES					
Enter the correct code number for each of your college, scholarship, or agency choices in the boxes below. Then, carefully blacken the corresponding oval next to each box containing a number. For the basic test fee of \$7.50, you may send reports to 1, 2, or 3 colleges or agencies. If you indicate 4th, 5th, or 6th choices at this time, the additional fee is \$1.00 for each additional report. Additional reports requested after registration cost \$2.00 each.					
1st Choice	2nd Choice	3rd Choice	4th Choice	5th Choice	6th Choice
(Bubble grid for code choices)					
\$7.50 TOTAL FEES \$ 7.50		\$1.00 For a 4th choice, enter \$1.00		\$1.00 For a 5th choice, enter \$1.00	
		\$1.00 For a 6th choice, enter \$1.00		\$ TOTAL FREE	
The ACT College Planning/Search Book (220 pages \$5.00) will help you discover "What do I want at a college?" and "Which colleges have what I am looking for?" (See Taking the ACT Assessment for more information.) Blacken the appropriate oval. (Enter \$5.00) <input type="checkbox"/> Yes, I want to order this book. <input type="checkbox"/> No, I do not want to order this book.					
Add the fees. Enclose your total payment with this folder. Make your check or money order payable to: ACT REGISTRATION. DO NOT SEND CASH.					

OPEN FOLDER AND CONTINUE REGISTRATION ON PAGE 2



米国大学テスト協会 (ACT) の一般テスト用紙 (裏)

GENERAL ANSWER SHEET TYPE A			
REAR PAGE (SIDE NO. 2)			

TEST C	TEST D	TEST E	TEST F
101 ○○○○○	151 ○○○○○	201 ○○○○○	251 ○○○○○
102 ○○○○○	152 ○○○○○	202 ○○○○○	252 ○○○○○
103 ○○○○○	153 ○○○○○	203 ○○○○○	253 ○○○○○
104 ○○○○○	154 ○○○○○	204 ○○○○○	254 ○○○○○
105 ○○○○○	155 ○○○○○	205 ○○○○○	255 ○○○○○
106 ○○○○○	156 ○○○○○	206 ○○○○○	256 ○○○○○
107 ○○○○○	157 ○○○○○	207 ○○○○○	257 ○○○○○
108 ○○○○○	158 ○○○○○	208 ○○○○○	258 ○○○○○
109 ○○○○○	159 ○○○○○	209 ○○○○○	259 ○○○○○
110 ○○○○○	160 ○○○○○	210 ○○○○○	260 ○○○○○
111 ○○○○○	161 ○○○○○	211 ○○○○○	261 ○○○○○
112 ○○○○○	162 ○○○○○	212 ○○○○○	262 ○○○○○
113 ○○○○○	163 ○○○○○	213 ○○○○○	263 ○○○○○
114 ○○○○○	164 ○○○○○	214 ○○○○○	264 ○○○○○
115 ○○○○○	165 ○○○○○	215 ○○○○○	265 ○○○○○
116 ○○○○○	166 ○○○○○	216 ○○○○○	266 ○○○○○
117 ○○○○○	167 ○○○○○	217 ○○○○○	267 ○○○○○
118 ○○○○○	168 ○○○○○	218 ○○○○○	268 ○○○○○
119 ○○○○○	169 ○○○○○	219 ○○○○○	269 ○○○○○
120 ○○○○○	170 ○○○○○	220 ○○○○○	270 ○○○○○
121 ○○○○○	171 ○○○○○	221 ○○○○○	271 ○○○○○
122 ○○○○○	172 ○○○○○	222 ○○○○○	272 ○○○○○
123 ○○○○○	173 ○○○○○	223 ○○○○○	273 ○○○○○
124 ○○○○○	174 ○○○○○	224 ○○○○○	274 ○○○○○
125 ○○○○○	175 ○○○○○	225 ○○○○○	275 ○○○○○
126 ○○○○○	176 ○○○○○	226 ○○○○○	276 ○○○○○
127 ○○○○○	177 ○○○○○	227 ○○○○○	277 ○○○○○
128 ○○○○○	178 ○○○○○	228 ○○○○○	278 ○○○○○
129 ○○○○○	179 ○○○○○	229 ○○○○○	279 ○○○○○
130 ○○○○○	180 ○○○○○	230 ○○○○○	280 ○○○○○
131 ○○○○○	181 ○○○○○	231 ○○○○○	281 ○○○○○
132 ○○○○○	182 ○○○○○	232 ○○○○○	282 ○○○○○
133 ○○○○○	183 ○○○○○	233 ○○○○○	283 ○○○○○
134 ○○○○○	184 ○○○○○	234 ○○○○○	284 ○○○○○
135 ○○○○○	185 ○○○○○	235 ○○○○○	285 ○○○○○
136 ○○○○○	186 ○○○○○	236 ○○○○○	286 ○○○○○
137 ○○○○○	187 ○○○○○	237 ○○○○○	287 ○○○○○
138 ○○○○○	188 ○○○○○	238 ○○○○○	288 ○○○○○
139 ○○○○○	189 ○○○○○	239 ○○○○○	289 ○○○○○
140 ○○○○○	190 ○○○○○	240 ○○○○○	290 ○○○○○
141 ○○○○○	191 ○○○○○	241 ○○○○○	291 ○○○○○
142 ○○○○○	192 ○○○○○	242 ○○○○○	292 ○○○○○
143 ○○○○○	193 ○○○○○	243 ○○○○○	293 ○○○○○
144 ○○○○○	194 ○○○○○	244 ○○○○○	294 ○○○○○
145 ○○○○○	195 ○○○○○	245 ○○○○○	295 ○○○○○
146 ○○○○○	196 ○○○○○	246 ○○○○○	296 ○○○○○
147 ○○○○○	197 ○○○○○	247 ○○○○○	297 ○○○○○
148 ○○○○○	198 ○○○○○	248 ○○○○○	298 ○○○○○
149 ○○○○○	199 ○○○○○	249 ○○○○○	299 ○○○○○
150 ○○○○○	200 ○○○○○	250 ○○○○○	300 ○○○○○



米国大学テスト協会 (ACT) の共通入試テストの成績等報告 (表)

TRACY ARTHUR C 7852 W 46TH ST WHEAT RIDGE CO 80033	MALE 08/22/58	SOC. SEC. NO.: 392-11-1976 COUNTY: JEFFERSON PHONE NUMBER: 303 468-7982	TYPE OF TESTING: NATL DATE TESTED: 10/76 ED. LEVEL WHEN TESTED: SENIOR	1976-77 	COLLEGE COPY STUDENT PROFILE REPORT
S.S. ATTENDED: 067-890 WHEAT RIDGE SR HS 9505 W 32ND AVE WHEAT RIDGE COLORADO 80033					

SCORES AND PREDICTIVE DATA	SUBJECT AREA	H.S. GRADE	ACT SCORES (OF 32)	ACT NORMS (%ILES)		OVERALL GPA PREDICTIONS					SPECIFIC COURSE PREDICTIONS				
				LOCAL	NATIONAL	NAME OF GROUP	FRESHMAN YEAR	REG. PLAN	ALL PLAN	PROG. PLAN	NAME OF COURSE	FRESHMAN YEAR	GROUP NAME*	ALL RANK	PROG. PLAN
ENGLISH	A	25	83	94	EDUCATION	75/6	S	93	89	FRESHMAN ENGLISH	75/6	1	ALL FRE	89	72
	C	19	38	57	BUS ADMINISTRATION	75/6	S	94	92	COLLEGE ALGEBRA	75/6	1	ALL FRE	15	18
	A	26	73	85	LIBERAL ARTS	75/6	S	74	81	HISTORY	75/6	2	LIBERAL	86	82
	B	22	42	59	ENGINEERING	75/6	S	41	32	CHEMISTRY	75/6	3	ENGINEER	59	68
	B	23	59	74	ALL FRESHMAN	74/5	S	75	80	PSYCHOLOGY	74/5	4	ALL FRE	79	89

DASH (-) INDICATES INFORMATION NOT PROVIDED. RES. (RESEARCH) PLAN: B = BASIC, S = STANDARD. *TRUNCATED FIELD. FOR COMPLETE NAME SEE YOUR PREDICTIONS SHEET.

ADMISSION/EMPLOYMENT DATA	COLLEGE CODE	CHECK	ENTRANCE DATE	FULL TIME	TYPE OF STUDENT	U.S. CITIZEN	RESERVE/OF ADVICE STATE	PHYSICAL HANDICAP	VETERAN	COLLEGE CREDIT	HOUSING PLAN
	0521	1ST	FALL 77	YES	DAY	YES	YES	--	NO	NO	RESID HALL

COLLEGE SELECTION ITEMS BY RANK ORDER							FIELD OF STUDY	OTHER FACTOR
TYPE	STUDENT BODY COMP.	LOCATION	COST	SIZE	FIELD OF STUDY	OTHER FACTOR		
FOURTH	SIXTH	FIFTH	SECOND	THIRD	FIRST	SEVENTH		
PUB 4-YR	COED	COLORADO	UND 1,000	5-10,000				

EDUCATIONAL MAJOR			HOW CERTAIN	DEGREE OBJECTIVE	SELF-ESTIMATE OF COLLEGE G.P.A.
POLITICAL SCIENCE		FAIRLY SURE	PROF LEVEL	3.0-3.4	
FIRST VOCATIONAL CHOICE			HOW CERTAIN	SECOND VOCATIONAL CHOICE	
LAW		VERY SURE	INTERNATIONAL RELATIONS		

SPECIAL EDUCATIONAL NEEDS AND INTERESTS														
INDICATED NEED FOR HELP IN:					INDICATED INTEREST IN:					ADVANCED PLACEMENT IN:				
READING	WRITING	HEARING	VISION	PHYSICAL	ENGLISH	MATH	SCIENCE	SOCIAL STUDIES	ARTS	LANGUAGE	FOREIGN LANG.	COMPUTER	TECHNICAL	OTHER
N	N	N	N	N	Y	Y	Y	Y	N	Y	N	Y	N	N

PLANS TO SEEK FINANCIAL AID: YES	NEEDS HELP TO FIND WORK: YES	HOURS/WEEK: 11-20
---	-------------------------------------	--------------------------

STANDARD SCORE (FOR 50)	BASIC INTEREST AREA	INTEREST INVENTORY										
		5%ILE	10%ILE	25%ILE	50%ILE	75%ILE	90%ILE	95%ILE	99%ILE			
54	SCIENCE	62				X						
57	CREATIVE ARTS	76						X				
56	SOCIAL SERVICE	74							X			
43	BUSINESS CONTACT	25		X								
54	BUSINESS DETAIL	66						X				
50	TECHNICAL	52							X			

MAP OF COLLEGE MAJORS—COORDINATES: **53** **46** WORLD-OF-WORK MAP REGION **12**

HIGH SCHOOL INFORMATION				
TR. H.S. GRAD IN YEAR	SIZE OF SENIOR CLASS	TYPE OF SCHOOL	PERCENT SAME RACE AS STUDENT	TYPE OF PROGRAM STUDIED
1977	200-399	PUBLIC	90%	COLL PREP

SELF-REPORTED RANK: TOP QTR	AND AVERAGE: 3.0-3.4
YEARS CERTAIN SUBJECTS STUDIED AND ADVANCED PLACEMENT IN HIGH SCHOOL	
SUBJECT AREA	YES
ENGLISH	4
MATH	4
SCIENCE	3
SOCIAL STUDIES	3
ARTS	1
LANGUAGE	1
FOREIGN LANG.	0
COMPUTER	0
TECHNICAL	1
OTHER	1

H.S. EXTRACURRICULAR ACTIVITIES AND COLLEGE EXTRACURRICULAR PLANS	
ACTIVITY	H.S.
LEADERSHIP	Y
MUSIC	Y
SPEECH	Y
ART	Y
WRITING	Y
SCIENCE	Y
ATHL.	N
CAMP SERVICE	N
WORK EXP.	N

OUT-OF-CLASS ACCOMPLISHMENTS	
LEADERSHIP	WORK EXP.
HI	HI

BACKGROUND INFORMATION (OPTIONAL)	
ETHNIC BACKGROUND	CAUCASIAN/WHITE
RELIGIOUS PREFERENCE	PROTESTANT
ENG. MOST FREQ. SPOKEN IN HOME	YES

SPECIAL MESSAGES: SOCIAL SECURITY NUMBER NOT REPORTED BY STUDENT. H.S. GRADES FOR TWO OR MORE SUBJECT AREAS NOT REPORTED AND/OR ONE OR MORE SUBJECTS NOT TAKEN. NO PREDICTIVE INFORMATION POSSIBLE.

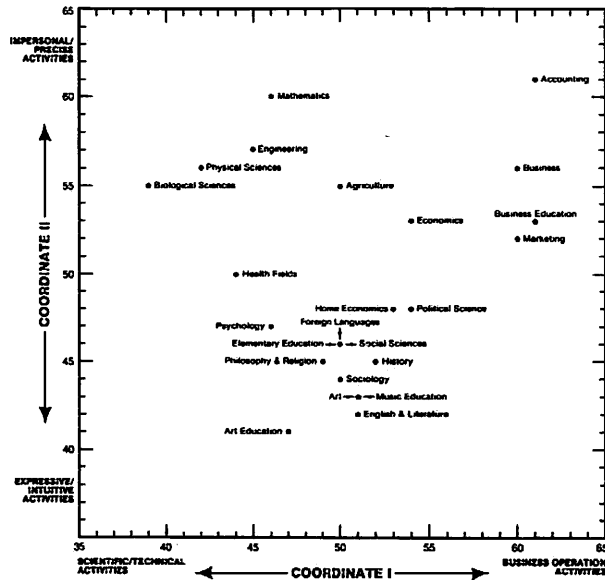
ACT ASSESSMENT STUDENT PROFILE REPORT 1976-77

SIDE 2

CAREER PLANNING AIDS

The Map of College Majors and the World-of-Work Map will help you identify college majors and occupations you may want to learn more about. The booklet, *Planning for College*, shows you in detail how to use these maps. You should read it carefully.

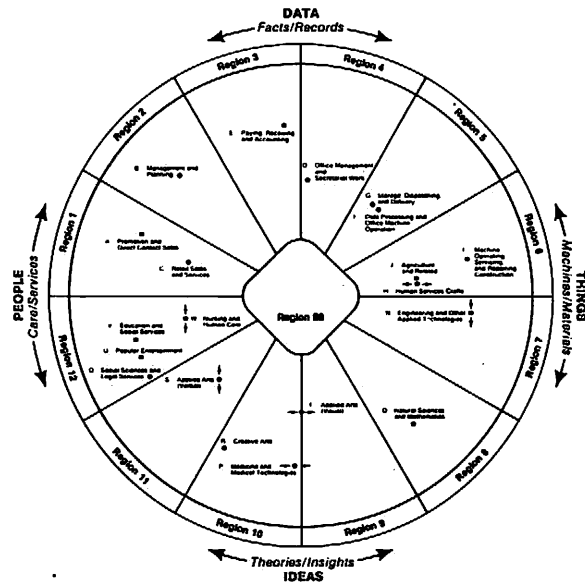
MAP OF COLLEGE MAJORS



HOW TO PLOT YOUR SCORES ON THE MAP OF COLLEGE MAJORS

1. Copy coordinate I _____ and coordinate II _____ from the Interest Inventory section on the reverse side.
2. Locate your score on coordinate I and draw a vertical line from that point to the corresponding point at the top edge of the map. Then locate your score on coordinate II and draw a horizontal line from that point to the corresponding point at the right edge of the map.
3. Make an "X" where the two lines cross. This point shows the location of your interests as compared to those of students in a wide variety of educational majors. The closer you are to a major or group of majors, the more similar your interests are to the interests of successful and satisfied college seniors in that major.

WORLD-OF-WORK MAP



HOW TO USE THE WORLD-OF-WORK MAP

1. Copy your World-of-Work Map Region _____ from the Interest Inventory section on the reverse side.
2. Use your region number to locate your region on the World-of-Work Map. Look at the job families in your region and the adjacent regions.
3. Turn to the Job Family Chart in *Planning for College* for a list of jobs in each job family. Your booklet also suggests several ways you can find out more about these jobs.

**COLLEGE BOARD
SCHOLASTIC APTITUDE TEST
AND TEST OF STANDARD WRITTEN ENGLISH**

SIDE 1

USE A NO. 2 PENCIL ONLY FOR COMPLETING THIS ANSWER SHEET. BE SURE EACH MARK IS DARK AND COMPLETELY FILLS THE INTENDED SPACE. COMPLETELY ERASE ANY ERRORS AND STRAY MARKS.

1. YOUR NAME: (PRINT) LAST FIRST MI
SIGNATURE: DATE: // /
HOME ADDRESS: (PRINT) NUMBER AND STREET
CITY STATE ZIP CODE
CENTER: (PRINT) CITY STATE NUMBER

IMPORTANT: PLEASE FILL IN THESE BOXES EXACTLY AS SHOWN ON THE BACK COVER OF YOUR TEST BOOK.

2. TEST FORM

3. TEST CODE

0	0	0	A	0
1	1	1	0	1
2	2	2	C	2
3	3	3	0	3
4	4	4	E	4
5	5	5	F	5
6	6	6		6
7	7	7		7
8	8	8		8
9	9	9		9

4. REGISTRATION NUMBER
(COPY FROM YOUR ADMISSION TICKET.)

0	0	0	0	0	0	0
1	1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9	9

5. YOUR NAME

FIRST 4 LETTERS OF LAST NAME				FIRST INITIAL	MIDDLE INITIAL
A	A	A	A	A	A
B	B	B	B	B	B
C	C	C	C	C	C
D	D	D	D	D	D
E	E	E	E	E	E
F	F	F	F	F	F
G	G	G	G	G	G
H	H	H	H	H	H
I	I	I	I	I	I
J	J	J	J	J	J
K	K	K	K	K	K
L	L	L	L	L	L
M	M	M	M	M	M
N	N	N	N	N	N
O	O	O	O	O	O
P	P	P	P	P	P
Q	Q	Q	Q	Q	Q
R	R	R	R	R	R
S	S	S	S	S	S
T	T	T	T	T	T
U	U	U	U	U	U
V	V	V	V	V	V
W	W	W	W	W	W
X	X	X	X	X	X
Y	Y	Y	Y	Y	Y
Z	Z	Z	Z	Z	Z

6. DATE OF BIRTH

MONTH	DAY	YEAR
JAN. 0 0 0 0		
FEB. 1 1 1 1		
MAR. 2 2 2 2		
APR. 3 3 3 3		
MAY 4 4 4 4		
JUNE 5 5 5 5		
JULY 6 6 6 6		
AUG. 7 7 7 7		
SEPT. 8 8 8 8		
OCT. 9 9 9 9		
NOV. 0 0 0 0		
DEC. 0 0 0 0		

7. SEX
 MALE
 FEMALE

8. TEST BOOK SERIAL NUMBER

Copyright © 1975 by Educational Testing Service
All rights reserved Princeton, N J 08540
110VV6SP1950

**COLLEGE BOARD
ACHIEVEMENT TESTS**

SIDE 1

USE A NO. 2 PENCIL ONLY FOR COMPLETING THIS ANSWER SHEET. BE SURE EACH MARK IS DARK AND COMPLETELY FILLS THE INTENDED SPACE. COMPLETELY ERASE ANY ERRORS AND STRAY MARKS

1. YOUR NAME: (PRINT) _____ LAST _____ FIRST _____ MI _____
 SIGNATURE: _____ DATE: / /
 HOME ADDRESS: (PRINT) _____ NUMBER AND STREET _____
 _____ CITY _____ STATE _____ ZIP CODE _____
 CENTER: (PRINT) _____ CITY _____ STATE _____ NUMBER _____

IMPORTANT: PLEASE FILL IN THESE BOXES EXACTLY AS SHOWN ON THE BACK COVER OF YOUR TEST BOOK.

2. TEST FORM

3. FORM CODE

0	0	0
1	1	1
2	2	2
3	3	3
4	4	4
5	5	5
6	6	6
7	7	7
8	8	8
9	9	9

4. REGISTRATION NUMBER
 (COPY FROM YOUR ADMISSION TICKET)

0	0	0	0	0	0	0	0
1	1	1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9	9	9

5. YOUR NAME

FIRST 4 LETTERS OF LAST NAME				FIRST INITIAL	MIDDLE INITIAL
A	A	A	A	A	A
B	B	B	B	B	B
C	C	C	C	C	C
D	D	D	D	D	D
E	E	E	E	E	E
F	F	F	F	F	F
G	G	G	G	G	G
H	H	H	H	H	H
I	I	I	I	I	I
J	J	J	J	J	J
K	K	K	K	K	K
L	L	L	L	L	L
M	M	M	M	M	M
N	N	N	N	N	N
O	O	O	O	O	O
P	P	P	P	P	P
Q	Q	Q	Q	Q	Q
R	R	R	R	R	R
S	S	S	S	S	S
T	T	T	T	T	T
U	U	U	U	U	U
V	V	V	V	V	V
W	W	W	W	W	W
X	X	X	X	X	X
Y	Y	Y	Y	Y	Y
Z	Z	Z	Z	Z	Z

6. DATE OF BIRTH

MONTH	DAY	YEAR
JAN.	0	0
FEB.	1	1
MAR.	2	2
APR.	3	3
MAY	4	4
JUNE	5	5
JULY	6	6
AUG.	7	7
SEPT.	8	8
OCT.	9	9
NOV.		
DEC.		

7. SEX
 MALE
 FEMALE

8. TEST BOOK SERIAL NUMBER

Copyright © 1975 by Educational Testing Service
 All rights reserved Princeton, N. J. 08540

110VV65P025

米国大学入試委員会 (CEE B) の学カテスト解答用紙 (裏)

COLLEGE BOARD
ACHIEVEMENT TESTS

SIDE 2

USE A NO. 2 PENCIL ONLY FOR COMPLETING THIS ANSWER SHEET. BE SURE EACH MARK IS DARK AND COMPLETELY FILLS THE INTENDED SPACE. COMPLETELY ERASE ANY ERRORS AND STRAY MARKS.

TEST CODE		ACHIEVEMENT TEST: _____																																																																													
①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨⑩		(PRINT)																																																																													
X	①②③④⑤ Y ⑥⑦⑧⑨⑩																																																																														
Q	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩																																																																														
		23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100

TEST CODE		ACHIEVEMENT TEST: _____																																																																													
①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨⑩		(PRINT)																																																																													
X	①②③④⑤ Y ⑥⑦⑧⑨⑩																																																																														
Q	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩																																																																														
		23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100

TEST CODE		ACHIEVEMENT TEST: _____																																																																													
①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨⑩		(PRINT)																																																																													
X	①②③④⑤ Y ⑥⑦⑧⑨⑩																																																																														
Q	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩																																																																														
		23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100



昭和51年度国立大学共通第一次試験
実地研究試験問題

社 会

倫理・社会

政治・経済

日 本 史

世 界 史

地 理 A

地 理 B

数 学 I

数 学 一 般

理 科

基 礎 理 科

物 理

化 学

生 物 学

地 学

英 語

国 語


実地研究試験問題

社 会

(倫理・社会，政治・経済，日本史，世界史，地理A，地理Bの中から2科目)
を選択。ただし，地理Aと地理Bとで2科目とすることはできない。

昭和51年10月10日 15時10分～17時10分

注 意 事 項

- 1 合図があるまで，この冊子を開いてはいけません。
- 2 本冊子は79ページあります〔倫理・社会3～13ページ，政治・経済14～27ページ，日本史28～39ページ，世界史40～53ページ，地理A54～65ページ，地理B66～79ページ〕。ページの脱落があった場合には申し出て下さい。
- 3 解答用紙には受験番号が印刷してあります。受験票の受験番号と異っている場合には申し出て下さい。また汚れのあった場合には申し出て下さい。
- 4 解答用紙上部の所定欄に氏名と受験番号を記入し，矢印で示した部分に受験番号をマークして下さい。
- 5 解答は指定された解答欄にマークし，その他の部分には何も書いてはいけません。訂正する場合には必ず消しゴムで完全に消し，消しきずはきれいに取り除いて下さい。
- 6 解答用紙は鉛筆(HB)でマークした部分を機械で直接読みとりますから，下記のマークの例を正しく守って下さい。またマークの濃さは，解答用紙下欄にある例を参照して下さい。
(例)  わくの中を正確にぬりつぶして下さい。
- 7 解答用紙を汚したり，折りまげたりしないで下さい。
- 8 本冊子には草稿用紙，解答用紙控が入っているので，適宜利用して下さい。
- 9 本冊子は持ち帰って下さい。

倫理・社会

I 次の文章を読み、下記の問いに答えよ。

前近代社会においては人間は^①基礎的社会集団の中に埋没し、この封鎖的な社会の中であらゆる生活の欲求を満たしていた。すなわち、ここでは数多くの機能が未分化のまま遂行されていたのである。近代社会にはいると、人は土地と **a** 関係から解放され、自由に居所と職業とを選ぶことができるようになった。各種の機能的社会集団が自由につくられ、従来狭い集団内で未分化に遂行されていた諸機能がこれらの集団に譲り渡された。現代へと移るにつれて、機能的社会集団はますますその数を増し、いよいよ巨大化し、社会全体も巨大かつ複雑になってくると、第一次集団に対して第二次集団が優越し、対人関係は **b** されるようになった。

このように現代の巨大化し複雑化した集団、組織、制度の運営が、もはやひとりや少数の人の判断と処置におえなくなったため、秩序よき組織立てが必要となった。秩序よき組織立て——それは何よりも仕事の能率を増進するためである。このため **c** がなされ、各職務の専門化が行われる。分業による専門である。分業化された仕事はさらに **d** されねばならない。現代社会の特性の一つは合理性である。合理的な規則の体系によって職務上の権限がピラミッド型に編成され、この機構の中を上からは命令が絶対的なものとして下り、下においてはこれに対する服従がなされる。しかし、この命令による支配とそれに対する服従には、権限の原則が貫かれており、権限の範囲内で職務が遂行される。ここにおいて仕事は迅速、円滑、的確に遂行され、いかなる巨大かつ複雑な集団においても、そのすみずみまでひとしく公平に処置される。すなわち、このことは、この機構の本来有する「能率増進」という目的に合致するわけである。公平さを期するためには文書による事務処理も必要である。^② 文書主義もまた能率増進の一方法である。

問A 上の文の空欄(**a** ~ **d**)に入れるのに最も適当な語句を下の語群から一つずつ選べ。(選ぶ語句は一回限りとする。)

- | | | | | |
|--------|-------|------|--------|------|
| ア 非人格化 | イ 親密化 | ウ 統合 | エ 職務分担 | オ 努力 |
| カ 目的化 | キ 身分 | ク 財産 | | |

問B (a) 下線部①でいう基礎的社會集團とはどのような集團か。下記の(ア～エ)の中から一つ選べ。

ア 会社 イ 組合 ウ 村落 エ 学校

(b) 上文の内容は、現代社會における巨大な組織の機構と原理を述べたものである。しかし、それには弊害や欠点も伴う。下線部②から生じる文書主義の本質的な弊害や欠点に相当するものを下記の中から一つ選べ。

ア 文書主義の第一条件は字が上手でなければならないということである。字が下手な私は役所の仕事には向かないと思うが、こんな制度はどう考えても矛盾している。

イ 不在中のため受け取れなかった書留便をもらうため郵便局へ行ったが、「本人であることの証明を示してくれ。」といわれた。「この局の通知状をもってきた私が本人だ。」といくらいっても、「身分証明書がなければだめだ。」と応じてくれなかった。本人が本人を証明することがいかに難しいかをはじめて知った。

ウ 書類上のミスが大きな結果を生むことがある。例えば、10月11日(月)開催予定の会合の通知に「日時、10月11日(火)」とうっかり書きちがえたとする。この通知を受けたものはどう判断したらよいか。これは文書主義の欠点である。じゅうぶん注意してこの欠点に陥らないようにすべきである。

エ 私はこの度地方公務員の採用試験を受けたが落第した。他の科目はまあまあ出来たつもりだが、作文がうまく書けなかった。役所の仕事は文書を書くことが主なのかもしれないが、作文で落ちたとはまったく残念だ。

Ⅱ 次の文章を読み、文中の空欄(~)に最もよくあてはまる語句を、それぞれ下記の(ア～シ)の中から一つずつ選べ。(選ぶ語句は一回限りとする。)

工場における機械制生産様式が確立されてくるにしたがって、全産業の中での 部門の比重が高まってきた。産業構造のこの変化は、経済生活の向上をもたらす動きであっただけでなく、このような生産様式の根底をなす能率的、合理的な思考や行動が、 の重視というかたちで、社会生活のすみずみにまで浸透する過程でもあった。これらの歴史上の動向は一般に と呼ばれている。

この動向は、主として工場の集まる地域への人口の大量移動と、長年の伝統や因習とは異なった新しい生活様式の社会的拡散をもたらした。 とは、これら一連の過程を表現する用語である。この過程の中で、社会生活の諸領域は、全体として機能的に密接な関連を有するようになってきた。しかしながら、上に述べた生活空間の拡大と生活組織の複雑化はまた、環境に対する個人の適応能力を弱め、 された個人の無定形な集合としての大衆化状況を引き起す契機を含んでいる。この複雑なメカニズムのもとで、人びとが環境に合理的に適応していくには、そのためのデータおよび手段として、多くの情報の収集、処理、伝達を必要とするが、この側面から見ると、現代社会は、 社会と呼ばれるにふさわしい新しい時代に到達しつつあるといえる。この新しい時代は、単に環境に適応するための便宜だけでなく、疎外化された状況の中で、社会生活における物的諸価値の優越性に対して、人間の立場からその意味を問い直す段階への移行をも示しており、その意味で 社会と等価される側面を持っている。

- | | | |
|-------|--------|-----------|
| ア 原子化 | オ 管理化 | ケ 工業 |
| イ 計画化 | カ 組織化 | コ 農業 |
| ウ 都市化 | キ 脱工業化 | サ マス・メディア |
| エ 情報化 | ク 工業化 | シ テクノロジー |

Ⅲ 次の文章および表の()に、下記の語群からもっとも適当な語を選んで入れよ。

青年は、一般に子供の世界と大人の世界には生まれた(a)であるといわれているが、彼の意識や態度はその時代の空気を反映している。

表に示すように、現代の青年の意識は、第二次世界大戦前の青年にくらべて、大きく変化した。「清く正しく」や(b)という理想主義的で献身的な生き方が著しく(c)し、「のんきにくらす」や(d)という個人主義的な生活態度が目立って(e)している。また、「金持ちになる」や(f)といった功利的な生活態度も人気を失いつつある。

このような変化は、社会の変動が激しく、価値観が(g)し、私生活を尊重する現代の大衆化社会の傾向と無縁ではない。

〔表〕 青年の理想とする生き方 (数字は%)

年 生き方	1931	1940	1953	1958	1963	1968	1973
金持ちになる	19	9	9	12	12	13	9
(f)	9	5	5	2	2	2	3
(d)	12	5	34	38	45	51	53
のんきにくらす	4	1	9	12	15	16	23
清く正しく	32	41	28	26	16	10	6
(b)	24	30	11	8	3	5	2

出典 1931, 1940, 壮丁教育調査

1953~1973 「日本人の国民性」(第1, 2, 3)

〔語 群〕

- | | |
|-------------|------------|
| ア 社会のために | キ 減少 |
| イ 名をあげる | ク 横ばい |
| ウ 趣味にあったくらし | ケ 多様化 |
| エ 家庭の幸福のために | コ 画一化 |
| オ 余暇の充実 | サ マージナル・マン |
| カ 増加 | シ 自我の分裂 |

Ⅳ 次の文章を読み、下の各問に答えよ。

ヘーゲルはいった。「すべての歴史はキリストに向かい；また、キリストから出てきている。この神の子の出現が世界史の枢軸である」と。これに対して、ヤスパースは、この枢軸という言葉を使いながら、世界史がそれを軸として転回する時代を、およそ西暦前500年頃を中心とするその前後300年ほどの間と考え、これを枢軸時代と名づけた。インドでは『ウパニシャッド』が作られ、釈迦が a を説き、中国では b を説く孔子が儒教を創唱し、これを受け継いで孟子や荀子などの儒家、c を説いた老子や真人を説いた荘子の道家、韓非子らの法家など、いわゆる諸子百家が文字通り百家争鳴の観を呈したのがこの時代である。また、ペルシアでは拝火教がおこり、パレスチナでは『旧約聖書』の予言者たちが活躍した。そしてギリシアではホメロスやヘシオドスなどの叙事詩人、タレーヌをはじめとするプロタゴラス、ソクラテス、プラトン、アリストテレスといった哲学者など、雲のごとく天才が輩出されている。インドや中国、それにオリエントや西洋に生れたこれらの天才たちの名前は、たかだか数世紀の間に、それぞれの地域で、ほとんど同時におこった人間精神の偉大な転換を暗示するものである。

問1 上の文章の中の下線部①の意味に最も近い考え方を示すものを次の(ア～オ)の中から一つ選べ。

- ア いずれの時代も神に直結している。神の前には人類のあらゆる世代は等しい権利をもっている。
- イ 自然の歴史は善からはじまる。この歴史は神の業^{わざ}だからである。自由の歴史は悪からはじまる。この歴史は人間の業^{わざ}だからである。
- ウ 地上の国はカインの兄弟殺しとともに始まり、神の国はアベルとともに始まる。カインの悪行はたしかに人間本性の墮落であるが、この悪行は神によって矯正されうる。その神と人間との媒介者がイエスである。
- エ 自然の中に神があるなら、その神はまた歴史の中にもある。神は人類の向うべき目的として人間性を与えることにより、人間を地上の神とした。
- オ すべてのものは永遠に回帰する。人間の全生涯も砂時計のようにいつも再びまわり、また通りすぎる。私は永遠にこの同一の人生に帰ってくるのである。

問 2 上の文章の中の空欄(~)に入れるのに最も適当な言葉を、次の(ア～オ)の中から一つ選べ。

ア 性悪説 イ 仁 ウ 無為自然 エ 無我 オ 兼愛説

問 3 上の文章の下線部分(②～④)に最も深い関係にあるものを、それぞれ次の(ア～オ)の中から一つずつ選べ。

ア 過度を排して、中庸を理想とせよ。

イ 私利私欲を捨てて、無心に帰れ。

ウ 万物の尺度は人間である。

エ 汝みずからを知れ。

オ 汝の味方を愛し、汝の敵を憎め。

V 下のAからEの文章は、自由についてのいろいろな立場（ア～オ）を表現している。（A～E）を（ア～オ）と組み合わせるとすれば、どの組み合わせが最も適当か。

A 『各構成員の身体と財産を共同の力のすべてをあげて守り保護するような結合の一形式を見出すこと。そしてそれによって各人がすべての人びとと結びつきながら、しかも自分自身にしか服従せず、以前と同じように自由であること。』これこそ根本的問題であり、社会契約がそれに解決を与える。

B キリスト者はすべての上に立つ自由な主であって、だれにも従属しない。キリスト者はすべてのものに奉仕する僕しもべであって、だれにも従属している。

C 生きながら死人となりてなりはてて、思いのままにするわざよき。

D 自由は、自然法則に従う意志の特質ではないにしても、だからといって全く無法則なのではなく、むしろ意志の自己自身に対する法則に従う原因性なのである。

E 人間にとって、自己の内にも外にも拠るべき何ものをも持たないことが、かえって自由を意味する。人間の存在は、無を根底にし、無から現実の境位のうちへ投げられた存在として、自由なのである。その自由において、個々の人間は、現実の境位のうちで、彼自身のあり方を選びとる。

ア 主体的実存的自由

イ 市民的自由

ウ 無礙(むげ)自在としての自由

エ 自律としての自由

オ 神への服従がすなわち自由

Ⅶ 次の文章を読み、下の各問に答えよ。

二つの快樂にひとしくなじんでおり、それらをひとしく理解し享受し得る人びとが、彼らのより高等な能力を必要とするような存在様態に、明白な優越性を与えることは、疑い得ない事実である。野獸の快樂を満喫してよろしいという約束の下で、何であれ下等動物に転換されることをいさぎよしとする人間は、ほとんどいないであろう。知的な人間で愚者たることをいさぎよしとする者は、皆無であろう。感受性と良心の持主で、たとえ自らの運に満足する度合が、愚者、しれ者、ないし無頼漢にくらべてはるかに劣るとどんなに説得されようとも、利己的かつ低俗であろうとする者は、皆無であろう。

問 1 本文に表現されている見解は、どのようなものか。(ア～エ)のうちから適当と思うものを一つ選べ。

- ア 人間はだれでも快を求め、不快を避けるという性癖を生れつき持っている。
- イ 快不快の感情には、質的差異があるのであり、人間たるものは質的により高次の快を求めるものである。
- ウ 知的な人間の快樂も、愚者のそれも、快樂という点で何の相違もない。
- エ 人間は快樂を享受するためには、あえて愚者たることを是認する。

問 2 次の文中の空欄(a)と(b)に最もよくあてはまる人名を下のそれぞれに対応する a 群および b 群から一つずつ選べ。

(a)は本文に表現されたような立場の功利主義を主張することによって、快樂苦痛を比較計量できると主張した(b)の功利主義説を修正し、発展させた。

- a ア マキッペリ
- イ カント
- ウ J. S. ミル
- エ ヘーゲル
- b ア ベンサム
- イ アダム・スミス
- ウ デューイ
- エ キルケゴール

Ⅶ 次の文章(A～B)を読み、それぞれ下にかかげた各問に答えよ。

A 鎌倉仏教について、いろいろな見方があるが、例えば、世界の三大宗教に類比する見方では、次のように言う。すなわち、念仏宗は(a)において愛の神への信仰であるキリスト教と類型を同じくし、禅宗は(b)において仏教本来の立場にかえり、法華宗は、(c)においてイスラム教と同じ類型に属している。世界宗教として実現された三つの類型を仏教の地盤のなかから刻み出したことは注目すべきことだというのである。

また、鎌倉仏教を宗教改革と見ることが可能ならば、ルターの信仰に類比することもできよう。(d)は日蓮に、「信仰のみ」と言って(e)は親鸞に、「聖書のみ」と説いて(f)は道元に通じるところがある。

問 1 上文中の(a)～(c)に当てはまる最も適当な文章を(ア～カ)から一つずつ選べ。

- ア 断食などの苦行や、^{正定}禅定によって解脱する点
- イ 経典への絶対的信頼と、意志的・実行的な立場
- ウ 煩悩を肯定し、無為自然に生きる点
- エ 自己を罪惡の存在と自覚し、絶対者に帰依する点
- オ 遊行によって説法し、橋や道路を作って庶民を利する衆生済度の精神
- カ さとりを中心とする覚者の教えという点

問 2 禅宗について該当する文章を(ア～エ)から一つ選べ。

- ア 自力・他力を越えて、ひたすら坐禅に励む。
- イ 世は末法の時代だから易行を選ぶ。
- ウ 自力の心をひるがえして絶対他力に頼む。
- エ 末法の時代に落胆せず聖道門に導かれる。

問 3 上文中の(d)～(f)に当てはまる最も適当な文章を(ア～カ)から一つずつ選べ。

- ア 富める者と貧しい者、僧侶と俗人、そのような区別なく人は救われるとした立場
- イ 世俗的・日常的なことがらよりも、純粋な信仰こそ重要だという見方
- ウ 先師の教えを乗り越えようとした改革者精神
- エ 世俗的権力に対する抵抗
- オ 経典こそすべてであり、それ以外の宗教的儀礼は価値がないと考えた点
- カ 原初の教えを重んじ、それを継承しようとする精神

B 「私が のほかに往生できる方法を知っており、また、経典の言葉などにも精通しているであろうと思っておられるなら、それは大変な間違いというものです。もしそう思われるなら、南都北嶺⁽¹⁾には立派な学僧がたが大勢いらっしゃるから、お会いして往生の要^{かため}をじゅうぶんにお聞きなさい。私にとっては『』して教われるがいい』と教えてくださったよきひとの言葉⁽²⁾を信じる以外はなにもありません。」と師は言われた。

問 1 上文はある書物の一部を口語訳したものである。この書物の著者はだれか。(ア～オ)から一つ選べ。

- ア 栄西の教えを受けた道元
- イ 道元の教えを受けた懷^{えい}辨^{べん}
- ウ 法然の教えを受けた親鸞
- エ 親鸞の教えを受けた唯円
- オ 日蓮の教えを受けた日朗

問 2 文中の に該当する語を(ア～オ)から一つ選べ。

- ア 折伏 イ 唱題 ウ 打坐 エ 念仏 オ 呪文

問 3 文中の下線部分(1)に関係ある宗派はなにか。(ア～オ)から一つ選べ。

- ア 律宗 イ 真言宗 ウ 天台宗 エ 臨済宗 オ 黄檗宗

問 4 文中の下線部分(2)はだれを指すか。(ア～オ)から一つ選べ。

- ア 栄西 イ 最澄 ウ 法然 エ 源信 オ 行基

倫理・社会 解答用紙控

I	A	a	ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ、ク
		b	ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ、ク
		c	ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ、ク
		d	ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ、ク
	B	a	ア、イ、ウ、エ
		b	ア、イ、ウ、エ

V	A	ア、イ、ウ、エ、オ
	B	ア、イ、ウ、エ、オ
	C	ア、イ、ウ、エ、オ
	D	ア、イ、ウ、エ、オ
	E	ア、イ、ウ、エ、オ

II	a	ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ、ク、ケ、コ、サ、シ
	b	ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ、ク、ケ、コ、サ、シ
	c	ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ、ク、ケ、コ、サ、シ
	d	ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ、ク、ケ、コ、サ、シ
	e	ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ、ク、ケ、コ、サ、シ
	f	ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ、ク、ケ、コ、サ、シ
	g	ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ、ク、ケ、コ、サ、シ

VI	1	ア、イ、ウ、エ	
	2	a	ア、イ、ウ、エ
		b	ア、イ、ウ、エ

III	a	ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ、ク、ケ、コ、サ、シ
	b	ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ、ク、ケ、コ、サ、シ
	c	ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ、ク、ケ、コ、サ、シ
	d	ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ、ク、ケ、コ、サ、シ
	e	ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ、ク、ケ、コ、サ、シ
	f	ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ、ク、ケ、コ、サ、シ
	g	ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ、ク、ケ、コ、サ、シ

VII	1	a	ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ	
		b	ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ	
		c	ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ	
	A	2		ア、イ、ウ、エ
		3	d	ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ
	e		ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ	
	f		ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ	
	B	1	ア、イ、ウ、エ、オ	
		2	ア、イ、ウ、エ、オ	
		3	ア、イ、ウ、エ、オ	
		4	ア、イ、ウ、エ、オ	

IV	1	①	ア、イ、ウ、エ、オ
	2	a	ア、イ、ウ、エ、オ
		b	ア、イ、ウ、エ、オ
		c	ア、イ、ウ、エ、オ
	3	②	ア、イ、ウ、エ、オ
		③	ア、イ、ウ、エ、オ
		④	ア、イ、ウ、エ、オ

政治・経済

I 次の文章を読み、下線の部分に関する以下の設問(1)～(7)に答えよ。

国家の政治は、いうまでもなく公益つまり国民の利益のために行われるものであって、君主やその他の政権担当者の個人的利益のために行われるものであってはならない。しかしまた、専制君主制のもとであれ独裁制のもとであれ、およそ政治が、なんらかの形で公益のためという口実なしに行われた例は、まず存在しない。たとえ公益のためであっても、政治は、法というあらかじめ定められた一般的なルールに従わずに行われてはならない。近代法治主義とはまずこのように、政治の行われる一般的なルールを定めることによって、国家権力をしぼることを目的とするものである。

(1)
あらかじめルールを定めるということだけならばしかし、歴史上どのような専制君主も独裁者も、数多くのルールをみずから定めていた、ということができよう。しかしこれらの場合には、そのルールは、一方的に国民をしぼるだけのものであったり、また、その内容をいつでも、自分が政治を行って行くうえで好都合なように変えうるものであったので、国家権力をしぼるという目的のためにはきわめて不十分なものであった。一定のルールによって国家権力をしぼるためには、そのルールを独立の裁判所が公正に適用するということもさることながら、何よりもまず、ルールの制定自体が、政権担当者以外の者の手に委ねられていなければならない。歴史上、君主に代表される行政権に対抗して国民を代表する議会が立法権を獲得したのは、一つには、このような意味をもつものであった。こうして近代法治主義は、民主主義と結びつく。

政治における民主主義の実現ということは、古くてまた新しい問題である。歴史的にみれば何よりもまず、近代市民革命によって専制君主の絶対的権力を打倒し、国民主権の原則をかかげたことが、その第一の実現過程であったといえよう。国民がすべての国家権力の源となり、議会の定める法律が政治の根本的なルールであるということになれば、民主主義は制度上完全に実現されたようにみえる。法律を厳格に守ることが、とりもなおさず民主主義を守り、かつ法治主義に忠実であるかのように思われる。だが本当にそうであろうか。

議会は国民の代表者によって成るが、国民全員によって成るわけではない。議会の意思は国民の意思を代表するが、国民の意思それ自体ではない。こうして、政治に民主主義をより徹底して実現するためには、国民に、その代表者を通してだけでなく、政治に直接参加する途を開くことが必要だ、という考え方が出てくることになる。現代の巨大な国家において

は直接民主制を全面的に採用することは不可能であるにしても、議会制民主主義の機能を補正するものとして、さまざまな形で直接民主制の要素が制度上も導入される場合が少なくない。また、国民の日常生活に密接に関係した地方自治の分野では、国政の場合にくらべてその⁽⁵⁾ような制度がより多くとり入れられる傾向があり、さらにまた、最近における各種の住民運動のひろがりに見られるように、地域住民の、行政への直接的参加ということが、強い要求として主張されるようになってきている。

では、ある決定が国民の総意にもとづくものだけということになれば、それはどのような内容のものであっても、全国民を拘束すべきものなのだろうか。政治の問題、行政の問題を関係者の大衆討議によって決めることがもし可能であるとするならば、政治・行政は、そのようにして行われさえすれば、それで充分なのであろうか。近代法治主義はしかし、そのようには考えない。人間の尊厳をふみにじるような行為が、国民の総意の名のもとに行われうることは、今世紀の歴史においてもナチズムの例がすでにこれを示すところである。民主的正当性ということ、近代政治にとって不可欠の要請であるが、しかしそれは、政治にあらゆることを許すものではない。近代法治主義の理念によれば、たとえ公益の名によろうとも侵されえぬと同様、たとえ国民の総意にもとづくものであるとしても侵してはならないところの、個人の尊厳と自由とが存在するのである。基本的人権とはまさにこのようなものにほかならないのであって、国民の代表である国会の定めた法律が憲法に照らして無効とされることがあるのも、このためである。法治主義は形式的法治主義にとどまってはならず、⁽⁶⁾実質的法治主義でなければならない、ということがいわれるのは、このようなことを意味している。⁽⁷⁾

設 問

- (1) この意味での法治主義にふさわしいものを、次のなかから一つ選べ。
- a 大災害が生じたので、首相の命令で、被災地以外の地域の住民から、救援のための物資を強制的に調達すること。
 - b 兇悪犯罪がふえてきたので、警視總監の命令で、夜間の外出をいっさい禁止すること。
 - c 社会に迷惑をおよぼした者を、その行為を処罰する法律がないので、処罰しないこと。
 - d ある行為が社会に迷惑をかけたことが明らかとなったので、それを処罰する法律をあとから作り、さかのぼって処罰すること。

(2) 独立の裁判所が公正な裁判をするという目的にとって、ふさわしくないものを次のなかから一つ選べ。

- a 判決の内容が政権担当者の方針と合わなくても、裁判官は罷免されることはない。
- b 裁判官は、裁判に際し、法律の意味について判断に迷うときは、法務大臣の意見に従う。
- c 裁判官は、その法律を適用すると国の利益に支障をきたすと考える場合でも、法と良心のみに従って判決を下す。
- d どのように重大な事件であっても、下級裁判所の裁判内容を上級裁判所が指導するようなことはしない。

(3) このような制度のあり方を主張したのは次のどれか。a～dおよびア～エの両方について最も適当なものを一つずつ選べ。

- | | | | | |
|-----------|---|---|---|---------|
| a アダム・スミス | } | の | } | ア 権力分立論 |
| b ルソー | | | | イ 社会契約説 |
| c リンカーン | | | | ウ 平等主義 |
| d ロック | | | | エ 予定調和説 |

(4) 歴史上このような例として最も典型的なものを、次のなかから一つ選べ。

- a フランス革命
- b アメリカ南北戦争
- c マグナ・カルタの成立
- d 明治維新

(5) このような制度としてわが国で採用されているものを、次のなかから一つ選べ。

- a 国会議員のリコール(解職請求)
- b 憲法改正についてのレファレンダム(国民投票)
- c 法律の制定についてのイニシアチブ(国民発案)
- d 内閣総理大臣のリコール(解職請求)

(6) このような目的のために現在わが国で採用されている制度を、次のなかから一つ選べ。

- a 違憲の疑いがある法律について国会が再審議する。
- b 法律が違憲かどうかを裁判所が審査する。
- c 違憲の疑いがある法律は、国民投票にかける。
- d 違憲の疑いがある法律は、内閣の判断で執行を拒否する。

(7) この文章でいう実質的法治主義の考え方にふさわしいものを、次のなかから一つ選べ。

- a 国会の満場一致で成立した法律によるならば、非常識な言論は禁止できる。
- b 明らかに個人の尊厳をふみにじるような法律であっても、国会の定めたものである以上は無条件で従うべきである。
- c だれが見ても死刑に価すると思われる兇悪犯罪を犯した者についてであっても、正規の裁判手続をへずにこれを処罰することを認めるような法律は、無効である。
- d 世論の圧倒的な支持がある場合には、政府を批判するような新聞記事は、法律で禁止できる。

II 次の文章を読み、下の設問(1)～(10)に答えよ。

今日の国際社会の原型は17世紀のヨーロッパに成立した。それは原則として独立、平等の⁽¹⁾

(2) { a 連邦国家 c 帝国 e 平和国家 } を単位とする社会であり、個人を単位と

する国内社会と種々の点で異なっている。この国際社会において非ヨーロッパ地域、特にアジア・アフリカの大多数の諸国民は長い間独立の主体として認められず、特に19世紀後半以後激しくなった列強の対外膨脹の結果、植民地、保護国等の従属的地位におかれるようになった。⁽³⁾

第二次大戦後、これらの諸国民は(4) { a 四つの自由の原則 c 民族自決の原則 }
 { b 立憲主義の原則 d 近代市民革命 }
 e 社会主義革命 } により次々に独立を達成し、今日主に国際連合を舞台に、従来の欧米先進国中心の国際秩序のあり方に強い批判を加えている。⁽⁵⁾

日本は明治維新以後、急速に近代化を進め、アジア唯一の先進国として国際社会の一員となり、さらに列強の一角を占めてその国際的地位を高めた。しかしながら、これは他のアジア諸国民の犠牲のうえに達成されたものであり、そのような日本の姿勢は第二次大戦の敗戦により根本的な反省を迫られた。日本国憲法が(7) { a 基本的人権の尊重 c 国民主権の原理 }
 { b 国際協調主義 d 法の支配 }
 e 議院内閣制 } をうたっているのは、ひとつにはこの反省に立脚している。しかし、戦後の国際社会が激しい変化をとげつつあるなかで、日本の対外政策の具体的なあり方に関してはさまざまな問題が残されている。サンフランシスコ平和条約に対してソ連は調印しなかったし、代表権問題をめぐって議論のあった中国は会議に招請されなかったため、これら両国との平和条約の締結は今日も未解決の課題として残っている。経済面における国際協力についても、経済援助の支出総額ではこの数年間の平均をとれば国際的な目標である

日本は明治維新以後、急速に近代化を進め、アジア唯一の先進国として国際社会の一員となり、さらに列強の一角を占めてその国際的地位を高めた。しかしながら、これは他のアジア諸国民の犠牲のうえに達成されたものであり、そのような日本の姿勢は第二次大戦の敗戦により根本的な反省を迫られた。日本国憲法が(7) { a 基本的人権の尊重 c 国民主権の原理 }
 { b 国際協調主義 d 法の支配 }
 e 議院内閣制 } をうたっているのは、ひとつにはこの反省に立脚している。しかし、戦後の国際社会が激しい変化をとげつつあるなかで、日本の対外政策の具体的なあり方に関してはさまざまな問題が残されている。サンフランシスコ平和条約に対してソ連は調印しなかったし、代表権問題をめぐって議論のあった中国は会議に招請されなかったため、これら両国との平和条約の締結は今日も未解決の課題として残っている。経済面における国際協力についても、経済援助の支出総額ではこの数年間の平均をとれば国際的な目標である

日本国憲法が(7) { a 基本的人権の尊重 c 国民主権の原理 }
 { b 国際協調主義 d 法の支配 }
 e 議院内閣制 } をうたっているのは、ひとつにはこの反省に立脚している。しかし、戦後の国際社会が激しい変化をとげつつあるなかで、日本の対外政策の具体的なあり方に関してはさまざまな問題が残されている。サンフランシスコ平和条約に対してソ連は調印しなかったし、代表権問題をめぐって議論のあった中国は会議に招請されなかったため、これら両国との平和条約の締結は今日も未解決の課題として残っている。経済面における国際協力についても、経済援助の支出総額ではこの数年間の平均をとれば国際的な目標である

をうたっているのは、ひとつにはこの反省に立脚している。しかし、戦後の国際社会が激しい変化をとげつつあるなかで、日本の対外政策の具体的なあり方に関してはさまざまな問題が残されている。サンフランシスコ平和条約に対してソ連は調印しなかったし、代表権問題をめぐって議論のあった中国は会議に招請されなかったため、これら両国との平和条約の締結は今日も未解決の課題として残っている。経済面における国際協力についても、経済援助の支出総額ではこの数年間の平均をとれば国際的な目標である

国際社会が激しい変化をとげつつあるなかで、日本の対外政策の具体的なあり方に関してはさまざまな問題が残されている。サンフランシスコ平和条約に対してソ連は調印しなかったし、代表権問題をめぐって議論のあった中国は会議に招請されなかったため、これら両国との平和条約の締結は今日も未解決の課題として残っている。経済面における国際協力についても、経済援助の支出総額ではこの数年間の平均をとれば国際的な目標である

ても、経済援助の支出総額ではこの数年間の平均をとれば国際的な目標である

(8) { a 国家予算 c 輸出入総額 }
 { b 国民総生産 d 工業生産額 } の1%に近い実績をあげているものの、内容的には

(9) { a 直接投資 c 延払い輸出信用 }
 { b 政府開発援助 d 民間証券投資 } の割合が低く、開発途上国からの批判を受け

ている。⁽¹⁰⁾

設問

(1) この時代に登場した国際社会のあり方に対応し、そこから生ずる争いの解決を目指して著わされた書物はどれか。著者と書名を選べ。

a	マキアベリ	}	の	}	ア	君主論
b	グロチウス				イ	共産党宣言
c	マルクス				ウ	永久平和のために
d	カント				エ	戦争と平和の法

(2) a～eのなかから最も適当な語を選べ。

(3) この歴史的現象をさすため一般に用いられている語として最も適当なものを次から選べ。

- a 全体主義 b 独裁主義 c 帝国主義 d 民族主義 e 軍国主義

(4) a～eのなかから最も適当な語を選べ。

(5) 次の機関のなかで本文に述べた動きの中心となっているものを選べ。

- a 安全保障理事会 b 国際司法裁判所 c 経済社会理事会
d 信託統治理事会 e 総会

(6) 次のなかから本文に述べた動きとして適当なものを二つ選べ。

- a 国連第15回総会で植民地独立付与宣言が採択され、植民地独立委員会が同宣言にもとづいて活動を進めている。
b 経済開発協力機構(OECD)は、国際経済の発展、調整活動に従事している。
c 1968年、核拡散防止条約が62カ国の参加を得て調印され、戦後軍縮史に重要な一歩をしるした。
d 国連貿易開発会議(UNCTAD)は国際貿易のさまざまな面に検討を加え、勧告を行っている。

(7) a～eのなかから最も適当な語を選べ。

(8) a～dのなかから最も適当な語を選べ。

(9) a～dのなかから最も適当な語を選べ。

(10) この他、日本がいわゆる南北問題に関連して近年直面している課題を次のなかから二つ選べ。

a 原子力平和利用

b 一次産品の価格と数量の安定化

c 鯨の捕獲高の制限

d 特恵貿易の拡大

e 多国籍企業の不正行為の防止

Ⅲ 次にあげる(1)～(4)の各語句を説明するものとして、最も適切なものを、それぞれの語句ごとに a～e のなかから一つずつ選べ。

(1) GATT

- a 金貨を本位貨幣とし、中央銀行券など他の通貨を金貨に兌換できることを定めている貨幣制度。19世紀初頭にイギリスで確立され、19世紀後半から20世紀初頭にかけて各国に普及した。
- b 為替の安定と自由の確保を通じて、国際経済の発展を図る目的から、第二次大戦後に創設された国際通貨制度。
- c 加盟国の経済復興や産業開発に資するための国際投資を増進する目的から、第二次大戦後に創設された国際金融機関。
- d 貿易の自由化と拡大を図るべく、関税率の引下げや貿易制限の撤廃などを目的として、第二次大戦後に米英など23カ国によって結ばれた国際協定。
- e 1962年の通商拡大法にもとづき、同年の国連総会で米国のケネディ大統領によって提案された関税一括引下げ交渉。1967年に妥結し、1968年から順次実施された。

(2) 産業別組合

- a 同一産業部門に属する労働者を、職種にとらわれることなく、非熟練労働者をも含めて組織した労働組合。19世紀末以降に発展した。
- b 同一職種の熟練労働者を中心に組織した労働組合。生産過程の機械化が充分には進まず、熟練労働者にたいする依存がある程度大きかった19世紀半ばに、イギリスで支配的であった。
- c 雇主にたいして、組合員以外の者の雇用を認めないことを原則とする労働組合。19世紀半ばのイギリスで支配的であった。
- d だれを雇用するかは雇主の自由とするが、雇用された者はすべて組合員となり、また、組合を除名された者は解雇されることを原則とする労働組合。
- e 一企業・一工場を単位とするところの、わが国に特有な形態の労働組合。

(3) マニファクチュア

- a 封建社会にみられた同職手工業者の排他的な団体。団体構成員である親方が、職人や徒弟を集め、生産技術を伝承しつつ、注文にもとづく生産を行った。

- b 商人資本が、手工業的小生産者に原料や道具などを前貸して生産を行わせ、生産物の販売は商人資本が一手に引受けて行う制度。
- c 商人資本が、手工業的小生産者に原料や道具などを購入するための資金を前貸して生産を行わせ、生産物の販売は商人資本が一手に引受けて行う制度。
- d 多勢の手工業的労働者を単一の工場に集め、分業にもとづく協業を行う制度。生産過程が細分され、労働者それぞれが一部の工程だけを担当するようになったために、労働の生産力は増進したが、部分的にはなお熟練労働者が必要であった。
- e 産業革命によって出現した機械制大工場。生産過程が機械を中心に編成されたために、熟練労働者は相対的に減少し、労働の生産力はいちじるしく増進した。

(4) 夜警国家

- a 国内的には労資対立が、国際的には帝国主義的対立が尖鋭化したために、警察や軍備の増強に力を注ぐようになった国家。19世紀後半以降に支配的になった。
- b 治安警察が一国の政治の全領域を支配しているような全体主義国家。17～18世紀のヨーロッパにおける国家のあり方を批判して、ラッサールがこのように名づけた。
- c 経済活動は個人の自由な利益追求を通じて営まれるべきであり、国家は経済活動に介入することなく、その役割を国防や治安の維持に限定すべきであるとした国家。
- d 経済活動を個人の自由な利益追求にゆだねるのではなく、さまざまな経済政策を通じて国民経済の健全な発展を図るような国家。
- e 社会保障制度によって国民の最低生活水準を保障し、完全雇用政策によって失業を防ぎ、さらに教育・文化・生活環境など国民の福祉の増進を図るような国家。

IV 次の設問A, Bに答えよ。

A 次の文章を読み、下の設問1～6に答えよ。

市場が完全に競争的な状態にある場合には、商品の価格と取引量は需要と供給の関係によって定まる。需要曲線の形⁽¹⁾および供給曲線の形は、商品の性格によって少しずつ異なるが、一般的には、供給側の条件が一定なら、需要量が増えると価格は上昇し、需要側の条件が一定なら、供給量が増えると価格は低下する。⁽²⁾各経済主体は、このような市場における価格の変動を指針として、生産や消費などの経済活動を行い、その結果として需要と供給の不均衡は是正される。⁽³⁾

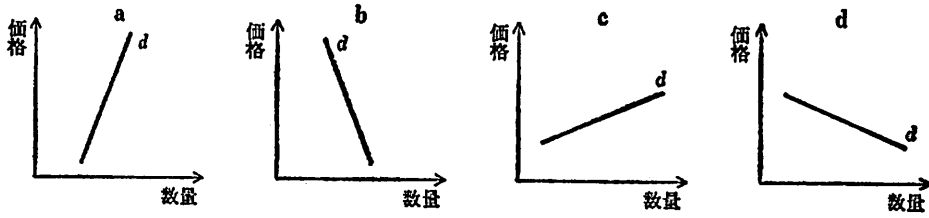
しかし現実の日本経済は、このような需要と供給の純粋なメカニズムだけで成り立っているのではない。すなわち、商品市場においては、少数の大企業の間で価格や生産量について協定が結ばれたり、暗黙の合意が成立して、価格が著るしく下方硬直性を示すことがあるので、⁽⁴⁾その弊害を除くために独占禁止政策が行われている。金融市場においても、利子率は政策的に運用されているし、外国為替市場における為替相場は、現行の (5) の下でも完全に自由な変動にゆだねられてはいない。労働市場においては、労使間の交渉能力の不均衡を是正するために、労働組合の活動が保障されており、労働条件の下限は法律によって規定されている。⁽⁶⁾ こんにちでは、経済運営に果すべき政府の役割が非常に大きいのである。

設 問

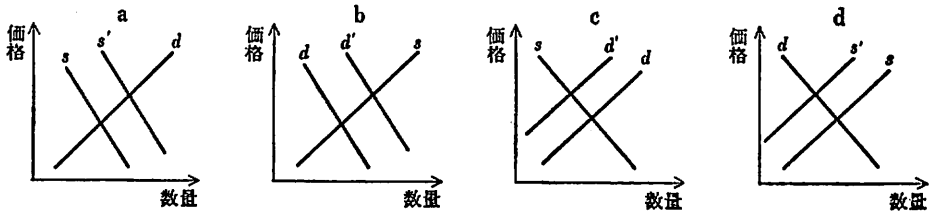
1 下線部(1)のための条件として重要なものを下のa～dのなかから選べ。

- a 売手も買手も多数いること
- b 売手が多数で、買手が少数であること
- c 売手も買手も少数であること
- d 売手が少数で、買手が多数いること

2 下線部(2)の需要曲線の形は、生活必需品とぜいたく品とは異なっている。生活必需品は、価格のいかにかわからず、常にある程度の量を購入する必要があるのに対し、ぜいたく品の需要は価格の変化に伴って大きく変わるからである。次図a～dのなかから、生活必需品の需要曲線として最もふさわしいものを選べ。ただし、単純化のため、需要曲線は直線dで示してある。



3 下線部(3)の文章の内容を、需要曲線と供給曲線および両曲線のうちどちらか一方の移動によって図示するとどのようになるか。次図 a～d のなかから最も適当なものを選び。ただし、両曲線は単純化のために直線で示してある。また、 d は需要曲線、 s は供給曲線を意味し、 d' 、 s' は移動した各曲線を示すものとする。



4 下線部(4)のような行為をなんというか。下の a～d のなかから選べ。

- a カルテル b 管理価格制 c トラスト d 再販売価格維持制

5 空欄(5)に入れるのに適当なものを、下の a～d のなかから選べ。

- a 金本位制 b 固定相場制 c 変動相場制 d 金為替本位制

6 下線部(6)の目的をもつ法律を、下の a～d のなかから選べ。

- a 労働組合法 b 生活保護法 c 労働関係調整法 d 労働基準法

B 次の文章中の(1)~(11)の〔 〕のなかには、それぞれ複数の語句 a~d がある。文脈のなかで最も適当なものを一つ選べ。

1 こんにちわが国の市中銀行は、たんに(1) $\left\{ \begin{array}{ll} \text{a} & \text{土地購入資金} & \text{c} & \text{運転資金} \\ \text{b} & \text{機械購入資金} & \text{d} & \text{信用貨幣} \end{array} \right\}$ の提供

供という商業金融だけでなく(2) $\left\{ \begin{array}{ll} \text{a} & \text{信用貨幣} & \text{c} & \text{配当金支払資金} \\ \text{b} & \text{設備資金} & \text{d} & \text{在庫投資資金} \end{array} \right\}$ の提供という

産業金融をも行っているが、このことはわが国の金融構造の一つの特質である。これ

は、わが国の(3) $\left\{ \begin{array}{ll} \text{a} & \text{金利政策} & \text{c} & \text{銀行の信用創造機能} \\ \text{b} & \text{労働市場} & \text{d} & \text{証券市場} \end{array} \right\}$ が未発達なこと、および

企業の(4) $\left\{ \begin{array}{ll} \text{a} & \text{成長速度} & \text{c} & \text{内部蓄積} \\ \text{b} & \text{生産性} & \text{d} & \text{経営規模} \end{array} \right\}$ が充分でないことと関連がある。

このように(5) $\left\{ \begin{array}{ll} \text{a} & \text{長期資金} & \text{c} & \text{営業資金} \\ \text{b} & \text{短期資金} & \text{d} & \text{借入金返済資金} \end{array} \right\}$ が、市中銀行の貸出によって

まかなわれる方式は、しばしば間接金融方式とよばれる。このような金融方式が日銀貸

出に支えられた市中銀行の(6) $\left\{ \begin{array}{ll} \text{a} & \text{支店網拡大} & \text{c} & \text{オーバーローン} \\ \text{b} & \text{金利競争} & \text{d} & \text{選別融資} \end{array} \right\}$ を伴って、日

本経済の高度成長を促進してきた事実は否定できない。

2 こんにちの財政は、国民から租税をとり、これを公共の支出にあてるところにその基本的な役割をもつものであるが、もちろん、租税のほかに官公事業の収入などもその財源となる。また歳出をまかなうだけの収入が不足する場合には、公債を発行して借入金によってこれをまかなうこともある。

さらに財政は、一国の所得分布の不均衡を是正する機能をもっている。すなわち

(7) $\left\{ \begin{array}{ll} \text{a} & \text{付加価値税} & \text{c} & \text{財産税} \\ \text{b} & \text{累進課税} & \text{d} & \text{所得政策} \end{array} \right\}$ によって高額所得層ほど所得税率が高くなって

いるのは、このような狙いからきている。その反面零細所得層に対する

(8) $\left\{ \begin{array}{ll} \text{a} & \text{雇用促進} & \text{c} & \text{国民年金の給付} \\ \text{b} & \text{間接税の免除} & \text{d} & \text{社会保障} \end{array} \right\}$ も同様の目的をもつものといえる。

また財政は、一国の資本蓄積率を高め、経済成長を促進する出費ならびに施策を行ってきたといえる。たとえば、重要基幹産業において減価償却率を普通以上に高めようとする特別償却制度や、若干の重要産業について非課税の準備金の設定を認める制度は、

企業の(9) $\left\{ \begin{array}{ll} \text{a 内部蓄積} & \text{c 利益率} \\ \text{b 生産性} & \text{d 成長率} \end{array} \right\}$ を高めるように企業課税を減免する措置といえる。

なお財政は、(10) $\left\{ \begin{array}{ll} \text{a 社会政策} & \text{c 土地政策} \\ \text{b 金融政策} & \text{d 人口政策} \end{array} \right\}$ と呼応して、随時適切な景気循環政策を行うことができる。不況時には、税率を切り下げ、財政支出の増加によって一国の購買力を引き上げ、景気が過熱のときには、財政支出をおさえ、税率を高めて購買力を抑制することにより、景気循環の波をゆるやかにする効果をうむことができるであろう。

このほか、中央政府は(11) $\left\{ \begin{array}{ll} \text{a 専売納付金} & \text{c 教育費} \\ \text{b 土木費} & \text{d 地方交付税交付金} \end{array} \right\}$ などの配分により、地域間の所得格差に伴って発生する各都道府県の税負担力の差など、地方財政支出の格差を調整する役割をはたしている。

政治・経済 解答用紙控

I														
(1)	caa	eba	cca	eda	(2)	caa	eba	cca	eda					
(3)	caa	eba	cca	eda	cca	eba	cca	eda	(4)	caa	eba	cca	eda	
(5)	caa	eba	cca	eda	(6)	caa	eba	cca	eda	(7)	caa	eba	cca	eda

II															
(1)	caa	eba	cca	eda	cca	eba	cca	eda	(2)	caa	eba	cca	eda	cca	
(3)	caa	eba	cca	eda	cca	eba	cca	eda	(4)	caa	eba	cca	eda	cca	
(5)	caa	eba	cca	eda	cca	eba	cca	eda	(6)	caa	eba	cca	eda	cca	
(8)	caa	eba	cca	eda	(9)	caa	eba	cca	eda	(10)	caa	eba	cca	eda	cca

III											
(1)	caa	eba	cca	eda	cca	(2)	caa	eba	cca	eda	cca
(3)	caa	eba	cca	eda	cca	(4)	caa	eba	cca	eda	cca

IV																
A				B												
1	caa	eba	cca	eda	I	(1)	caa	eba	cca	eda	2	(7)	caa	eba	cca	eda
2	caa	eba	cca	eda		(2)	caa	eba	cca	eda		(8)	caa	eba	cca	eda
3	caa	eba	cca	eda		(3)	caa	eba	cca	eda		(9)	caa	eba	cca	eda
4	caa	eba	cca	eda		(4)	caa	eba	cca	eda		(10)	caa	eba	cca	eda
5	caa	eba	cca	eda		(5)	caa	eba	cca	eda		(11)	caa	eba	cca	eda
6	caa	eba	cca	eda		(6)	caa	eba	cca	eda						

日 本 史

I 次の文章(1)～(5)のアンダーラインを引いた箇所^(ア)に誤りのあるものは、その符号をマークせよ。まったく誤りのない場合は、符号^(イ)をマークせよ。ただし、各文章に誤りのある場合、その箇所は一か所である。

- (1) 宋書倭国伝によると、倭の五王の一人である倭王興(雄略天皇)は、順帝の昇明2(478)年^(ア)に南朝の宋へ使を派遣して、高い称号をえようとした。これは、中国皇帝の権威をかりて、朝鮮半島の諸国にたいする政治的立場を維持することを意図したものと思われる。
- (2) 聖徳太子は622年に遣隋使として小野妹子を派遣したが、翌年、隋の煬帝は答礼使として裴世清を遣わしてきた。わが国はその帰国にあたって、再び小野妹子を派遣するとともに、高向玄理・南淵請安らの留学生・留学僧を隋に送ったが、彼らの長期にわたる留学でえた新知識は、後の国政改革に大きな役割をはたした。
- (3) 大宝律令では、中央集権体制の一環として、都を中心とした数か国を畿内とし、中央と地方とを緊密にむすびつけるために、畿内から地方諸国の国府をつなぐ幹線道路が整備された。そして、原則として約16 kmごとに宿が設けられ、緊急の連絡など公務によって役人がこれを利用した。
- (4) 律令の制定から長い年月を経た9世紀になると、律令を補足・改訂した臨時の単行法令である格や、律・令・格の施行細則を定めた式が累積したので、これらを整理・分類して政務に資するために、延暦・貞観・延喜の三回にわたって、格式の編さんが行なわれた。これを三代格式という。
- (5) 969年、藤原氏は、左大臣源高明(醍醐天皇の皇子)が、為平親王擁立の陰謀に加わったとして、これを失脚させた。この安和の変の後、政界での藤原氏の地位はほぼ確立し、以降、藤原氏による摂政・関白はおおむね常置の職となった。

- (6) 平氏が政権をにぎると、武力を背景にして専制的な傾向を示すようになり、旧貴族勢力の反感が高まった。そして1177年、白河上皇の近臣藤原成親や僧俊寛らは、京都鹿ヶ谷の山荘にしばしば会合して、平氏打倒の計画を練ったが、未然に発覚して失敗した。
- (7) 6代將軍足利義持は、將軍権力の強化を意図して、強引に専制的な政治を行なった。このためようやく著しくなった守護領国の独立化傾向と矛盾し、以前から反目していた鎌倉府との対立が激化した。將軍は1438年、鎌倉公方にたいする討伐軍を派遣し、翌年、鎌倉公方足利持氏を自殺させた。
- (8) 1632年に將軍徳川家光が世を去ると、由井正雪らの牢人が反乱をくわだてたが、陰謀は未然に発覚した。その後、幕府は牢人の任用を奨励したり、子のない大名が危篤にのぞんで養子を願い出る末期養子制を緩和したりして、牢人対策を進めることになった。
- (9) 6代將軍徳川家宣によって登用された儒者新井白石は、儒教の精神にもとづいて儀式・典礼を正し、將軍の權威を高めることに意を用いるとともに、貨幣を改鑄してその品位を高め、貿易収支を改善するために海舶互市新令(長崎新令)を出して、長崎貿易に制限を加えた。
- (10) 1808年、イギリスの軍艦フエートン号が、このころ敵対関係にあったフランスの商船を追って、長崎港に入港して乱暴する事件がおこった。その後も対外問題が多く、幕府は1825年に異国船打払令(無二念打払令)を出すにいたった。

II 次の(A)～(D)の史料を読み、それぞれの問いに答えよ。

(A) 鎌倉元のごとく柳營(幕府)たるべきか、他所たるべきや否やの事。

右、漢家・本朝、上古の儀、遷移多く、羅縷にいとまあらず。季世にいたり、煩擾あるによつて、移徙容易ならざるか。なかんづく鎌倉郡は、文治に右幕下、始めて武館を構へ、承久に義時朝臣、天下を併呑す。武家に於いては、もつとも吉土といふべきか。ここに祿多く権重く、驕を極め欲を恣にし、悪を積みて改めず。果して滅亡せしめをはんぬ。たとひ他所たりといへども、近代覆車の轍を改めざれば、傾危何の疑あるべきや。(中略)然らば居処の興廢は、政道の善悪によるべし。これ人の凶は宅の凶にあらざるの謂なり。但し、諸人もし遷移せんと欲すれば、衆人の情に随ふべきか。(「建武式目」)

問(1) 右幕下とはだれを指すか。次の中から選べ。

ア 源実朝 イ 北条時政 ウ 足利基氏 エ 源義家 オ 源頼朝

問(2) この文章では、幕府の設置について、どのような意見を述べているか。次の中から正しいものを一つ選べ。

- ア 幕府をもとどおり鎌倉に置くのがよいと述べている。
- イ 幕府を鎌倉以外の場所に移すのがよいと述べている。
- ウ 幕府を京都に置くのがよいと述べている。
- エ 幕府をどこに置くべきかについて、断定的な結論を述べていない。
- オ 幕府を存続させるか、廃止するかについては、衆人の意見によるべきだ、と述べている。

問(3) 建武式目を定めたのはだれか。次の中から選べ。

ア 足利尊氏 イ 北畠親房 ウ 足利義満 エ 二条良基
オ 後醍醐天皇

問(4) 建武式目に関する次の文章のうち、正しいものを一つ選べ。

- ア 建武式目には年中行事に関する規定が多い。
- イ 建武式目は御成敗式目に対する追加として出された。
- ウ 建武式目が出された結果、御成敗式目は行なわれなくなった。
- エ 建武式目には建武新政の基本方針が示されている。

オ 建武式目が出されてのちも、武家の基本法はやはり御成敗式目であった。

問(5) 建武式目が出されて2年後におこった事件を、次の中から一つ選べ。

- ア 足利尊氏が建武政府にそむいた。
- イ 足利尊氏が征夷大將軍となった。
- ウ 楠木正成が戦死した。
- エ 後醍醐天皇が吉野にのがれた。
- オ 南北朝が合一した。

(B)一 在々の百姓等、田畠を打捨て、或いはあきない、或いは賃仕事に罷り出る輩（たから）これあらば、そのものの事は申すに及ばず、地下中御成敗たるべし。(下略)

一 侍・小者によらず、其主に暇を乞はず罷り出る輩、一切拘（こ）召抱（め）ふべからず。能々相改め、請人をたて置くべき事。(下略)

問(6) これは、秀吉が出したいわゆる身分法令(身分統制令)の第2条、第3条である。第1条の条文を下記の中から選べ。

- ア 諸国の百姓、刀・脇指（わきさし）・弓・やり（然）・てつはう（總）、其外武具のたぐひ所持候事、堅く御停止候。(下略)
- イ 奉公人・侍・中間（いんげん）・小者・あらし子に至る迄、(中略)新儀に町人・百姓に成り候者これあらば、其町中地下人（町）として相改め、一切をくべからず。(下略)
- ウ 文武弓馬之道、専ら相（あ）嚙（む）むべき事。
- エ 民は国之本也。御代官之面々常に民之辛苦を能く察し、飢寒等（うれ）之愁（れ）これなき様に申付らるべき事。

問(7) この法令が出された年代について、下記の中から正しいものを一つ選べ。

- ア 本能寺の変の翌年
- イ 秀吉が関白になった年
- ウ バテレン追放令が出された年
- エ 秀吉が小田原の北条氏を滅ぼした翌年
- オ 慶長の役がはじまった年

- (C)一 百姓之食物常々雜穀を用ふべし。八木(米)は糞りに食はざる様に申聞かすべき事。
 一 五穀之費に成り候間、たばこ之儀、当年より本田畑・新田畑共一切つくるまじき事。
 一 田畑永代之売買仕るまじき事。(1643年「土民仕置覚」より)

問(8) 田畑の永代売買が禁止された根本の理由は何か。下記の中から、もっとも適当なものを一つ選べ。

- ア 土地売買に関する農民の間の争いが増加したため。
 イ 農地を手ばなして、村を出ていく農民がふえたため。
 ウ 本百姓の没落によって、年貢の徴収が減ることを防ぐため。
 エ 寄生地主・小作関係が発達してきたため。

問(9) たばこ作付の禁止にもかかわらず、その後たばこをはじめ、綿・なたねなどの商品作物の栽培や、それらの加工業も発達し、各地に特産物がふえた。江戸時代の地域特産物について、下記のうち誤っているものを一つ選べ。

- ア 出羽の紅花 イ 桐生の絹織物 ウ 尾張の毛織物 エ 備前の藁草
 オ 阿波の藍

問(10) 百姓がみだりに食べられないものとされた米の生産もふえたが、それには江戸中期の農業技術の発達が注目される。当時の技術向上の要因として適当でないものを、下記の中から一つ選べ。

- ア 備中鋤 イ 千齒こき ウ 千石とおし エ 刈敷
 オ 千鋤

(D) 謹テ按ズルニ、国ニ財政アルハナホ人ニ氣脈アルガゴトシ。氣脈通ゼズ死亡随テ至ル。財政整理セズ国家衰頽必ズ随フ。豈安寧幸福ヲ期スルニ違アラシヤ。故ニ方今ノ急要ハ貨幣運用ノ機軸ヲ定メ、正貨ヲ蓄積シテ紙幣償還ノ元資ヲ充塞セシメ、物産ヲ興隆シテ輸入ヲ制スルノ目的ヲ立テザルベカラズ。貨幣運用ノ機軸ヲ定ムルトハ何ゾヤ。日本帝國中央銀行ヲ設立スル、コレナリ。(1881年9月、松方正義「財政議」)

問(11) この時期に財政整理を必要とした経済的事情は何か。下記の中から、もっとも適当なものを一つ選べ。

- ア 紡績業を中心に恐慌がおこった。

- イ 輸出が活況を呈し、貿易収支が大幅に黒字になった。
- ウ 米作が不振で、租税滞納者が増大した。
- エ 不換紙幣が濫発され、インフレーションがおこった。
- オ 金融が悪化し、物価が低落した。

問(12) この時期の正貨は、1871年に定められた1円金貨を原貨とするものである。これを定めた法令の名称は何か。下記の中から、もっとも適当なものを一つ選べ。

- ア 貨幣法 イ 新貨条例 ウ 正貨条例 エ 金本位制
- オ 銀本位制

問(13) この時期の紙幣の多くは、国の許可を得て設立された民間経営の銀行が発行したものである。この銀行をふつう何というか。下記の中から一つ選べ。

- ア 私立銀行 イ 国立銀行 ウ 特殊銀行 エ 為替会社
- オ 兌換銀行

問(14) この建議にいう日本帝国中央銀行には、結局どのような名称がつけられたか。下記の中から一つ選べ。

- ア 中央銀行 イ 日本銀行 ウ 帝国銀行 エ 日本興業銀行
- オ 日本勸業銀行

問(15) 松方正義はまもなく大蔵卿に就任し、強力な財政整理を断行するが、その結果どのようなことがおこったか。下記の中から、もっとも適当なものを一つ選べ。

- ア インフレーションがおこり、都市中心の好景気がつづいた。
- イ 金融が悪化し、生糸の暴落もあって、農村とくに養蚕地帯が不況におちいった。
- ウ 軽工業を中心に産業革命が進行し、農村地帯も生糸輸出が好況で活況を呈した。
- エ 重工業の育成がはかられ、官営八幡製鉄所が設立された。
- オ 恐慌がおこって、鋳工業生産は激減し、中小企業の倒産があいついだ。

Ⅲ 次の(A)～(B)の文章を読み、それぞれの問いに答えよ。

(A) 1890年、わが国で最初の衆議院議員総選挙が行なわれたが、その後における選挙制度の変遷のあとをみると、普通選挙の実施、婦人参政権の実現など、国民の参政権の拡大がみられる。

問(1) 1890年当時、衆議院議員の選挙資格は直接国税15円以上を納める25歳以上の男子にかぎられていたので、第1回の総選挙で選挙権を行使できたのは、国民の一部にすぎなかった。それは当時の人口のおよそ何パーセントにあたるか。下記の中から正しいものを一つ選べ。

ア 約1% イ 約2% ウ 約5% エ 約10% オ 約20%

問(2) 大正デモクラシーの風潮の高まりとともに、普通選挙運動も活発になり、1925年には普通選挙法が公布された。その間の動きや普通選挙法の公布をめぐる次の各文のうち、誤っているものを一つ選べ。ただし、文中の年代はすべて正しい。

ア 1919年、原内閣は、普通選挙実現の声におされて、財産による選挙権の制限を、直接国税3円以上を納めるものに引下げた。

イ 新婦人協会を中心に婦人運動も高まり、1922年、治安警察法の一部が改正され、婦人の政治集会への参加が認められた。

ウ 1925年、普通選挙法が成立し、選挙権における財産上の制限が撤廃され、満20歳以上の男子に選挙権が与えられた。

エ 普通選挙法の制定をみたのは、1924年の第2次護憲運動の結果成立した、加藤高明を首班とする護憲三派内閣のときであった。

問(3) わが国の国政選挙で、女性がはじめて選挙権を行使したのはいつか。下記の中から正しい年代を選べ。

ア 1928年 イ 1945年 ウ 1946年 エ 1947年 オ 1952年

(B) 日本の資本主義の発展は、政治・社会の面でも注目すべき変化をひきおこし、いくつかの画期をつくりだしている。日清戦争後の数年も、そうした画期の一つである。

問(4) 次に列挙した政治史上の出来事のうち、1900年以外の年におこったのはどれか。

下記の中から一つ選べ。

- ア 伊藤博文らによって立憲政友会が組織された。
- イ 大隈重信を首班として、最初の政党内閣である憲政党内閣が生まれた。
- ウ 軍部大臣を現役の大將・中將にかぎることを明文化した。
- エ 治安警察法を制定し、労働争議や小作争議を取りしめることにした。

問(5) 日清戦争後、資本主義列強の進出に対して、アジアの民族運動の新たな高まりがみられた。次の諸事件のうち、1900年、日本からも出兵して、列強の軍隊とともにその鎮圧にあたったのはどれか。正しいものを一つ選べ。

- ア 五・四運動 イ 義和団の乱 ウ 三・一運動 エ 辛亥革命
- オ 東学党の乱

問(6) このころから労働運動も本格的に進められるようになり、これにともなって社会主義運動もおこってきた。1901年につくられたわが国最初の社会主義政党はどれか。

下記の中から正しいものを一つ選べ。

- ア 労働農民党 イ 日本共産党 ウ 革新倶楽部 エ 社会民主党
- オ 日本社会党

(C) 日本における近代的な学問の研究には、明治のはじめわが国に招かれた外国人学者が大きく貢献したが、明治も20年代にはいると、日本人学者による自主的な研究も進み、また、義務教育も急速に普及して、学問研究の基礎がきざされた。

問(7) 明治のはじめ日本に招かれた外国人学者のうち、日本の医学の進歩に貢献したのはどれか。下記の人物の中から一名選べ。

- ア クラーク イ フェノロサ ウ ベルツ エ シーボルト
- オ ボアソナード

問(8) 1890年、教育勅語が発布されると、保守的感情や国家主義思想をもつ人びとを勇気づけ、その影響はひとり教育界にとどまらず、ひろく社会に及んだ。このような動きを示すと考えられる事例を、下記の文章の中から一つ選べ。

- ア 政府の教育政策がいちだんと国家主義的方向に転じ、森有礼文部大臣によって学校令がしかれ、国家本位の教育がすすめられた。

- イ 三宅雪嶺・志賀重昂らは政教社を組織し、雑誌「日本人」を創刊して、国粹保存のよりどころとした。
- ウ 福沢諭吉は「脱亜論」を唱えて政府の対外政策を支持し、朝鮮や中国への日本の勢力拡大を主張した。
- エ フランス民法を範として編さん公布された民法は、日本固有の家族制度を無視し、忠孝の道徳をこわすものだと非難がさらに強まり、その施行が延期された。

問(9) わが国の義務教育が6年制になったのはいつか。下記の中から正しいものを一つ選べ。

- ア 帝国議会開設の年 イ 日清戦争の直後 ウ 日露戦争後まもなく
- エ 第一次世界大戦中 オ 昭和のはじめごろ

(D) 1929年、この国からはじまった恐慌は、たちまち資本主義諸国にひろがり、世界恐慌となって人びとを震撼させ、経済的苦境を戦争によって打開しようとする動きもあられ、世界の各地に第二次世界大戦の火種が作りだされた。

問(10) 上の文中のこの国とはどこか。下記の中から正しいものを一つ選べ。

- ア イギリス イ ソ連 ウ ドイツ エ アメリカ オ フランス

問(11) この恐慌がはじまって数年もたたないうち、日本では、1924年以來つづいてきた政党内閣が中絶し、ふたたび軍人や官僚が内閣を組織するようになった。政党内閣を中絶させる直接的なきっかけとなった事件はなにか。下記の中から、もっとも適当なものを一つ選べ。

- ア 二・二六事件 イ 満州事変の勃発 ウ 五・一五事件
- エ 張作霖爆死事件 オ 国際連盟脱退

問(12) 1931年に起こされた満州事変も、第二次世界大戦の火種のひとつとみられる。それは、第一次世界大戦後の国際関係の一時的妥協として結ばれた、ある外交上の取りきめへの直接的な武力による挑戦と考えられたからである。その外交上の取りきめとはなにか。下記の中から正しいものを一つ選べ。

- ア 石井・ランシング協定 イ 四か国条約 ウ 不戦条約
- エ 日満議定書 オ 九か国条約

(E) 第二次世界大戦後に実施された農地改革は、長年にわたって日本の農民を苦しめ、大正ごろからその矛盾を大きくしていた寄生地主制を基本的に消滅させ、日本農業の近代化への道をきり開いたものであった。

問13 明治の末期、貧農のみじめな生活を、自然の推移と農村行事とを背景に克明にえがきだした文学作品「土」の作者はだれか。下記の中から正しいものを一名選べ。

- ア 石川啄木 イ 島崎藤村 ウ 田山花袋 エ 長塚節
オ 国木田独歩

問14 第一次世界大戦での日本の工業の発展と、他方での農業の停滞との矛盾が、1918年の米騒動をひき起こした一つの原因と考えられるが、米騒動が最初に起こったのはどこか。下記の中から正しいものを一つ選べ。

- ア 福岡県の炭坑地帯 イ 大阪市の工業地帯 ウ 富山県の漁村地帯
エ 福島県の農村地帯 オ 新潟県の大地主制地帯

問15 農地改革について述べた次の文章のうち、誤っているものを一つ選べ。

- ア 不在地主の貸付地は、すべて無償で耕作農民に明け渡された。
イ 在村地主の貸付地は、一定の面積を残して、耕作者に安く売り渡された。
ウ 農地改革は山林の所有や水利権におよばず、不徹底な面を残した。
エ 小作料はすべて金納に改められ、その率も引下げられた。

Ⅳ 次の文章(A)～(E)の空欄(1)～(10)に該当するものを、下の事項群の中から一つずつ選べ。ただし、一つの事項の使用は一回にかぎる。

(A) 〔1〕のような文芸が庶民の間に普及した背景には、惣とよばれる村単位の自治的なまとまりの成立と、上層農民の富裕化があった。〔2〕によって信者の結集をはかった一向宗が発展したことも、このような村の動きと密接な関係をもっている。

(B) 説話集〔3〕には、地方や庶民の話が多数収録されている。〔4〕には、今様などの庶民的な歌謡が収められている。また、民衆の芸能として生まれた田楽や猿楽が、貴族の間でよろこばれるようになったのも同じころのことである。

(C) 一般に御伽草子の名でよばれる、物ぐさ太郎・〔5〕などの作品は、民間に伝えられた説話類を原型として生まれたものである。これらは、当時の庶民の心情や生活を知るための好史料であり、また、後世の〔6〕などに大きな影響を与えた。

(D) 庶民生活のようすを伝える当時の史料の少ない中で、今日正倉院に収蔵されている〔7〕が、地方庶民の家族関係や奴婢のことなどを明細に記しているのは、非常に貴重である。また、〔8〕に収められた仏教説話には、そのころの庶民の生活や心情をうかがわせるものがある。

(E) 〔9〕と賦算を主要な布教方法とした時宗の僧は、集団で全国を遍歴し、庶民の集まる市場などを布教の場とした。その状況を描いた〔10〕は、当時の庶民の風俗をよくあらわしている。

- | | | | | |
|--------------|-----------|----------|---------|--------|
| ア 俳諧 | イ 連歌 | ウ 狂歌 | エ 仮名草子 | オ 浮世草子 |
| カ 今昔物語集 | キ 沙石集 | ク 日本霊異記 | ケ 古今著聞集 | |
| コ 竹取物語 | サ 閑吟集 | シ 文正草子 | ス 梁塵秘抄 | |
| セ 尾張国郡司百姓等解文 | ソ 石山寺縁起絵巻 | タ 一遍上人絵伝 | | |
| チ 法然上人絵伝 | ツ 座禅 | テ 講・寄合 | ト 加持祈禱 | |
| ナ 願念仏 | ニ 写経 | ヌ 一味神水 | ネ 戸籍 | ノ 木簡 |

日本史 解答用紙控

I	(1)	ア
	(2)	イ
	(3)	ウ
	(4)	エ
	(5)	オ
	(6)	カ
	(7)	キ
	(8)	ク
	(9)	ケ
	(10)	コ

II	(A)	(1)	ア
		(2)	イ
		(3)	ウ
		(4)	エ
		(5)	オ
	(B)	(6)	カ
		(7)	キ
	(C)	(8)	ク
		(9)	ケ
		(10)	コ
	(D)	(11)	サ
		(12)	シ
		(13)	ス
		(14)	セ
		(15)	ソ

III	(A)	(1)	ア
		(2)	イ
		(3)	ウ
	(B)	(4)	エ
		(5)	オ
		(6)	カ
	(C)	(7)	キ
		(8)	ク
		(9)	ケ
	(D)	(10)	コ
		(11)	サ
		(12)	シ
	(E)	(13)	ス
		(14)	セ
		(15)	ソ

IV	(1)	ア
	(2)	イ
	(3)	ウ
	(4)	エ
	(5)	オ
	(6)	カ
	(7)	キ
	(8)	ク
	(9)	ケ
	(10)	コ

世界史

I 次の文章A、Bを読み、下線部に関連する問(1)～(10)に答えよ。

A 古代ローマ人ははじめ、先進異民族の支配下にあったが⁽¹⁾、やがて前6世紀末には独立して、共和政を樹立した。共和政の初期は貴族の力が強く、平民は身分的不平等の是正をもとめて貴族と争い、その過程で平民の権利を守る制度や法律がしだいに整えられた⁽²⁾。前3世紀前半までにイタリア半島をほぼ征服し終えたローマ人は、ついでポエニ戦争をおこない⁽³⁾、やがて前2世紀半ばまでには、地中海の覇権を獲得することになった。しかしその一方で国内でも、奴隷制による大土地所有が発展して貧富の対立が激化し、グラックス兄弟による改革運動のあと⁽⁴⁾、ローマ社会ははげしい内乱の時代⁽⁵⁾に突入した。

問(1) この先進異民族を次にあげた1～6のうちから一つ選べ。

- | | | | |
|----------|---------|--------|----------|
| 1 ラテン人 | 2 ゲルマン人 | 3 ケルト人 | 4 フェニキア人 |
| 5 エトルリア人 | 6 ドーリア人 | | |

問(2) 平民の身分的不平等が是正される過程についての次の文1～5のうち、正しいものを一つ選べ。

- 1 前5世紀初めには、統領(コンスル)のうち1名が平民から選出されることになった。
- 2 前4世紀半ばには、最古の成文法としての十二表法が制定された。
- 3 前4世紀後半には、平民の利益を守る護民官の制度が設けられた。
- 4 前3世紀前半には、平民会の決議が元老院の承認なしに国法として認められることになった。
- 5 前3世紀前半には、統領が2名とも平民から選出されることになった。

問(3) この時期のローマに関する次の文1～5のうち、正しいものを一つ選べ。

- 1 アフリカ北岸では、都市国家シラクサを完全に滅ぼした。
- 2 この戦争中におこったスパルタクスの奴隷反乱のため、社会的に動揺した。
- 3 東方のヘレニズム世界では、マケドニア王国を滅ぼし、ギリシア諸国をその支配下においた。
- 4 この戦争を遂行するため、イタリアに住むすべての自由民に市民権をあたえた。
- 5 アクティウムの戦いに勝ったため、ポエニ戦争の勝利は決定的になった。

問(4) グラックス兄弟の企てた改革に関する次の文1～5のうち、正しいものを一つ選べ。

- 1 大土地所有の解体、奴隷制の廃止を含む急進的な社会改革。
- 2 没落農民の支持を背景に、独裁官の地位を獲得した上での社会改革。
- 3 没落農民と都市の貧民を私兵とした武力蜂起による政治改革。
- 4 大土地所有者の土地を制限し、自作農民を育成しようとする改革。
- 5 三頭政治の専制と腐敗を正そうとする政治改革。

問(5) 下記1～6のうち、ローマ共和政末期の内乱に関係のないものを一人選べ。

- | | | |
|------------|----------|----------|
| 1 オクタヴィアヌス | 2 トラヤヌス | 3 クラッス |
| 4 ブルートゥス | 5 アントニウス | 6 ポンペイウス |

B ヘレニズム諸国を征服したローマは、共和政末期から帝政の時期を通じて、西アジア世界と接触を深めることになった。ローマがまず対立したパルティアは、それまで東方に⁽⁶⁾あったギリシア勢力を東西に分断する⁽⁷⁾かたちで発展し、隊商貿易のルートを抑えて強大になった国である。のちこれに代っておこったササン朝ペルシアも、⁽⁸⁾パルティア時代の首都をそのまま引きつ⁽⁹⁾いだ。ササン朝の時代には、その⁽¹⁰⁾宗教や美術にみるように、伝統的なイラン民族文化の復活とならんで国際的影響のいちじるしい独自の文化が発達した。

問(6) パルティアについての次の説明文1～5のうち、正しいものを一つ選べ。

- 1 前3世紀中ごろ、イラン南部におこった定住民の国である。
- 2 前2世紀中ごろ、イラン南部におこった遊牧民の国である。
- 3 前3世紀中ごろ、イラン北部におこった遊牧民の国である。
- 4 中国の史書には「波斯」と記され、前3世紀中ごろ、小アジアにおこった遊牧民の国である。
- 5 中国の史書には「大宛」と記され、前3世紀はじめ、小アジアにおこった定住民の国である。

問(7) パルティアの発展によって東西に分断されたギリシア勢力のうち、東にのこった国は何というか。またそれはほぼどの地域にあったか。次のイ群(1～4)およびロ群(1～5)の中から正しいものを一つずつ選べ。

- [イ群] 1 シリア王国 2 パクトリア王国 3 ソグディアナ王国
4 フェルガナ王国

- 〔ロ群〕 1 シル川流域 2 ヴォルガ川流域 3 インダス川流域
4 ティグリス川流域 5 アム川流域

問(8) ササン朝ペルシアについての次の説明文1～6のうち、正しいものを一つ選べ。

- 1 ローマとはげしく争い、やがて東ローマ帝国と覇を競うにいたった。
- 2 東ローマ帝国と争ったため、西ローマ帝国やエジプトに接近した。
- 3 東方ではヴァルダナ朝を破って領土を拡大した。
- 4 宗教上の問題からマウルヤ朝とすどく対立した。
- 5 アルサケス朝の復興をその目標とした。
- 6 セレウコス朝の後継者をもって任じた。

問(9) その都市を次の1～6のうちから一つ選べ。

- 1 サマルカンド 2 アンティオキア 3 ペルセポリス 4 バビロン
- 5 セレウキア 6 クテシフォン

問(10) イラン民族の宗教についての次の説明文1～5のうち、正しいものを一つ選べ。

- 1 マニ教はパルティアの国教として行われ、広く東西に普及した。
- 2 ゴロアスター教はササン朝では異端として禁圧されたが、中国では「祆教」とよばれて広く行われた。
- 3 マニ教はキリスト教・ゴロアスター教・ヒンドゥー教などの融合により成立した。
- 4 ゴロアスター教はササン朝で国教として重んじられたが、のちイスラム化が進むにつれて衰えた。
- 5 マニ教はササン朝で異端として迫害され、その経典『アヴェスタ』も今日ほとんど伝存しない。

Ⅱ A 次の文章を読み、下線部に関連する問(1)～(3)に答えよ。

前5世紀の中葉をすぎると、周の権威はまったくなくなり、諸国は富国強兵に努めて、⁽¹⁾
互いに争った。やがて、秦がもっとも強大となり、前3世紀の後半に中国全土の統一に成
功した。しかし、その秦もわずか10余年で滅び、⁽²⁾漢がこれに代った。漢では武帝の時代
が最盛期で、しきりに周辺の諸民族を討ち、領土を拡大したが、そのために財政が窮乏し、
種々の経済政策を行った。⁽³⁾

問(1) 富国強兵策によって強大となった国々を戦国の七雄と呼ぶ。下記の1～7から七雄
に数えられない国を一つ指摘せよ。

- 1 燕 2 晋 3 韓 4 秦 5 魏 6 楚 7 斉

問(2) この時期の政策や事件について述べた下記の1～5の文章のうち、誤りを含むもの
を一つ指摘せよ。

- 1 李斯の献策に基づいて全国に郡県を置き、役人を派遣して治めさせた。
- 2 地域によって違っていた文字や度量衡を統一した。
- 3 匈奴などの遊牧民族に備えて万里の長城を修築した。
- 4 董仲舒の献策に従って思想の統一を図り、始皇帝を批判した学者たちを穴埋めに
したといわれる。
- 5 始皇帝が死ぬと、陳勝・呉広らが兵を挙げ、これが導火線となって劉邦・項羽ら
が各地で反乱を起した。

問(3) 下記の1～4の政策のうちから、この時の経済政策ではないものを一つ指摘せよ。

- 1 郡国に均輸官を置き、各地の特産物を徴収して、これを不足している地方に転売
し、物価の調整と国庫の増収を図る。
- 2 農作物の植付け時に低利資金を貸し付け、収穫時に返済させる。
- 3 各地から納められた物資を貯蔵し、価格が高騰すると売り出し、下落するとさら
に買い入れて、物価の調整と国庫の増収を図る。
- 4 塩や鉄などを専売にする。

B 次の問(4)～問(6)の文章はいずれも a～d の4節から成っているが、誤りを含む節がある。各問につき一つずつ指摘せよ。

問(4)

- a 司馬遷は太古から漢の武帝時代までの歴史書『史記』を著わし、
- b 班固はこれにならって前漢一代の歴史書『漢書』を作った。
- c その後、両書の体裁が正史の範例となったが、
- d 宋の司馬光の『資治通鑑』はこれらとは異なる紀伝体である。

問(5)

- a 大秦王安敦の使者と称する者が3世紀半ばころ後漢を訪れた。
- b 安敦はローマ皇帝マルクス＝アウレリウス＝アントニヌスのことといわれている。
- c 使者の来航はオリエント地方と東南アジアとを結ぶ海路によったもので、
- d 法顕もこの海路でインドから帰国した。

問(6)

- a 則天武后が一時政権を奪ったのち、混乱期を経て玄宗が即位した。
- b 玄宗は諸民族に備えて辺境に節度使を置くとともに、
- c 府兵制を採用するなどの諸改革を行ったので、
- d その治世は開元の治と称せられる。

Ⅲ 西洋の中世史に関するA～Eの問題に答えよ。

A 西ヨーロッパ中世の封建制度について、その特色をもっともよく示す文を二つ選べ。

- 1 主君は家臣に封土を授けて一方的な服従を誓わせ、二人以上の主君に仕えることを禁じていた。
- 2 主君と家臣は封土の授受を仲介として、保護と奉仕の双務的な関係を結んでいた。
- 3 国家権力は分散しており、国王の命令はその直接の家臣にしか及ばなかった。
- 4 貴族のほか中流市民が武器を自弁して重装歩兵として活躍し、国政に参加していた。
- 5 国王は多くの官僚と常備軍をかかえ、諸侯の上に立つ高い権威と強い権力を保持していた。

B 西ヨーロッパ中世中ころの荘園制度について、その特色を示す文を二つ選べ。

- 1 領主は広大な直営農場を賦役農民を使って経営し、生産物を市場に販売して巨利を博していた。
- 2 農民は主として貨幣地代を納め、経済的に独立し、自営できるものが多かった。
- 3 多くの農民は領主の直営地での賦役と、貨幣または生産物による貢納の義務を負っていた。
- 4 多くの農民は領主の裁判権や警察権に服し、移動の自由をもっていなかった。
- 5 領主や地主は羊を飼うため、農民の保有地をとりあげて牧場にきりかえた。

C 西ヨーロッパの中世都市について、その特色を示す文を二つ選べ。

- 1 多くの都市は自治権を獲得しており、農民のなかには自由を求めて都市に逃げこむものも現われた。
- 2 多くの都市の法律・制度は、保護者たる国王の厳重な統制のもとに定められていた。
- 3 都市の資本家は多くの賃金労働者を雇ってマニユファクチュア(工場制手工業)とよばれる経営形態を発展させていた。
- 4 首都を中心に、敵対する都市を打倒し、友好的な都市とは同盟を結んで自治を許し、全国の統治が固められていた。
- 5 都市内でははじめ商人ギルドが発達したが、やがて同職ギルドが成長し市政に参加するようになった。

D 西ヨーロッパ中世末期の社会について、その特色を示す文を二つ選べ。

- 1 国王の支持のもとに、領主は農民の賦役を強化して広大な土地を経営し、農奴制を完成させた。
- 2 ペストが流行し、農村人口が減少したため領主経済は危機におちいり、そのため封建反動を強行する領主があらわれ、しばしば農民のはげしい抵抗をうけた。
- 3 王侯が領域の政治的統合をおしすすめ、新しい租税を要求したため、地方の領主や都市は課税同意権を主張して、身分制議会を認めさせた。
- 4 国王は全国を多くの伯領に分け、さらに巡察使を派遣して監督を強化し、領域の政治的統合をおしすすめた。
- 5 国王は全国を州に分け、知事を任命して中央集権制をしき、国道を設け、駅伝制を整え、貨幣の統一をはかった。

E 東ローマ(ビザンティン)帝国について述べた次の文のうちより、正しいものを二つ選べ。

- 1 4世紀にゲルマン諸民族の侵入にあい、広い領土を奪われたため、帝国は急速に衰えはじめた。
- 2 皇帝は国政を、コンスタンティノーブル大主教は教会をそれぞれ統括し、2つの権威が並立していた。
- 3 皇帝は国政と教会とを統括して絶大な権力を握っていた。
- 4 7世紀には軍管区(テマ)制がしかれ、土地を与えて自由農民を育成し、これを兵士として利用する政策がとられた。
- 5 13世紀はじめ、十字軍のコンスタンティノーブル占領により、東ローマ帝国の地にエルサレム王国がつけられた。

Ⅳ 17世紀から19世紀にかけてのヨーロッパやアメリカについて、下記①～③のそれぞれの問いに答えよ。

(1) 次の項目1～8について、イギリス名誉革命に該当するものはaを、アメリカ独立革命に該当するものはbを、フランス大革命に該当するものはcを、またいずれにも該当しないものはdを、それぞれマークせよ。

- 1 議会のなかに政治的立場を異にする宗教上の両派の争いがあった。
- 2 封建的特権の廃止を宣言した。
- 3 『コモン=センス』が世論を高めるのに大いに貢献した。
- 4 議会は権利の請願を可決し、国王に認めさせた。
- 5 国王の処刑がなされた。
- 6 国王の交代がなされた。
- 7 いわゆる恐怖政治が行われた。
- 8 革命によって議会主権が確立し、やがて責任内閣制が始められた。

(2) 次の文A～Dの()内に、各語群からもっとも適当なものを選び、かつ各文節1～4のうち、本文との関連において誤っているものをそれぞれ一つずつ指摘せよ。

A イギリス本国の重商主義政策に対して、新大陸における13植民地の不満は久しかったが、()戦争終了ころまで、13植民地は本国に公然とは反抗しなかった。

〔語群〕 1 三十年 2 七週間 3 七年 4 百年

〔文節〕

- 1 反抗しなかった理由の一つは、本国の重商主義政策がかならずしも厳重ではなかったためである。
- 2 反抗しなかった理由の一つは、植民地での戦争で、植民地側が本国の援助を必要としたためである。
- 3 反抗しなかった理由の一つは、13植民地の利害がかならずしも共通ではなく、一致して反抗できなかったためである。
- 4 反抗しなかった理由の一つは、ヨーロッパ列強やインディアンが、ことごとく本国に味方していたためである。

B とくに1765年の()法に対して植民地側は、「代表なくして課税なし」のスローガンを掲げて取消しを要求し、急進分子は都市で暴動をおこした。

〔語群〕 1 印紙 2 穀物 3 茶 4 ホームステッド 5 砂糖

〔文節〕

- 1 ほとんどの住民が反対したばかりではなく、植民地側の最初の組織的反抗運動としても注目される。
 - 2 このときボストンの急進分子がおこなったのが、有名な茶会事件である。
 - 3 上記のスローガンは、本国にも共鳴者があられ、本国は翌年この法を撤回した。
 - 4 この法の撤回後も本国は、植民地への課税権そのものは主張しつづけた。
- C 1776年大陸会議は、主に()が起草した「……すべての人は平等に造られ……一定の奪い難い権利を付与され……」という宣言を発した。

〔語群〕 1 ジェファソン 2 ジャクソン 3 ペイン
4 ラファイエット 5 ロック 6 ワシントン

〔文節〕

- 1 この宣言は、上記の権利のなかに、「自由・所有権・安全および圧制への抵抗権の含まれることを信ずる」とした。
 - 2 この宣言は、啓蒙思想の自然権理論に立脚し、近代的民主主義政治の基本原則を示すものとされている。
 - 3 この宣言はまた、国王の悪政を列挙して、独立運動の正当性を表明したものであった。
 - 4 この宣言の目的は、植民地内の反対勢力を抑え、また外国の援助を得ることにあった。
- D 『法の精神』の著者()は三権分立の必要を説いたが、合衆国憲法はこの原理を具現し、共和政に基づく連邦国家を実現させた。

〔語群〕 1 ヴォルテール 2 ディドロ 3 モンテスキュー
4 ルソー 5 モンテーニュ

〔文節〕

- 1 この憲法制定前には、旧13植民地はゆるやかに結合しているだけで、政治的・経済的困難がつづいた。
- 2 この憲法は独立宣言とともに、旧13植民地内部における急激な社会改革を推進することをめざしていた。
- 3 この憲法には、強力な中央政府が必要であると主張したひとびとの意向が反映されていた。
- 4 この後も、憲法に批判的な一派と憲法を支持する一派との争いがあり、それが政党の基となった。

(3) 次の文A～Cを読み、下線部に関連する問いに答えよ。解答は設問ごとに列挙してある事項や人名のなかから、もっとも適切なものを一つずつ選べ。

A ナポレオンは大陸封鎖令(ベルリン勅令)を^(a)発し、産業革命により飛躍的に増産されたイギリス商品を大陸から締め出そうとしたが、大陸諸国も経済的に大打撃をうけて、彼に対する反感が^(b)かえって増大した。

問(a) この勅令はイギリスの屈服をめざしたが、そのほかに何を目的としたか。

- | | |
|------------------|---------------|
| 1 フランス産業のための市場確保 | 2 ロシアの穀物の販路拡大 |
| 3 アメリカとの通商禁止 | 4 ドイツ関税同盟の阻止 |

問(b) 大陸封鎖令を無視してイギリスと通商したため、ナポレオンが征服しようとした国はどこか。

- | | | |
|----------|---------|-------|
| 1 オーストリア | 2 オランダ | 3 ナポリ |
| 4 プロシア | 5 ポーランド | 6 ロシア |

B ナポレオン戦争中、^(c)イギリスがアメリカの通商を妨害したため米英戦争がおこったが、その結果かえって、合衆国は自国産業の発達を^(d)うながすこととなった。

問(c) この戦争にあたって合衆国はどのような態度をとろうとしたか。

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1 中立政策 | 2 イギリスと同盟 | 3 フランスと同盟 |
| 4 プロシアと同盟 | 5 イギリスを敵視 | |

問(d) このときとくに発達した産業は何か。

- | | | |
|--------|--------|-------|
| 1 金属工業 | 2 造船業 | 3 鉄鋼業 |
| 4 木綿工業 | 5 化学工業 | |

C ナポレオンのヨーロッパ支配は、同時に自由に対する意識を目ざめさせ、民族意識の覚醒を^(e)うながすことになった。とりわけプロシアでは近代化が進められ、それとともに民族精神の高揚がはかられた。

問(e) このとき、農奴制廃止や行政改革などの近代化を推進した人物は誰か。

- | | | |
|----------|---------|--------------------|
| 1 シュタイン | 2 ビスマルク | 3 フレデリック(フリードリヒ)2世 |
| 4 ライブニッツ | 5 サヴィニー | |

問(f) 「ドイツ国民に告ぐ」という有名な講演をして、愛国心を喚起したのは誰か。

- | | | | |
|--------|-------------------|-----------|---------|
| 1 ヘーゲル | 2 フィヒテ | 3 シラー | 4 サヴィニー |
| 5 カント | 6 ウィリアム(ヴィルヘルム)1世 | 7 ハルデンベルク | |

V 次の文章を読んで、下線をほどこした部分についての問いに答えよ。

明末から清初にかけては、多くのヨーロッパ人が中国に来航し、その結果、主としてキリスト教宣教師を通じて、中国文化とヨーロッパ文化との交流^(a)がみられた。しかし雍正年間、キリスト教の布教を禁止する勅令^(b)がだされて以来、両者の文化的交流はしだいにとだえる方向にむかった。

アヘン戦争以前の清国は一種の鎖国体制をとっており、広東貿易の名でよばれているように、外国人との取引は広州1港に限定され、しかも中国の側からいえば、朝貢というわくの中で、それを容認していたにすぎなかった。

18世紀以後の広東貿易^(c)において、もっとも大きな位置をしめていたのはイギリスであり、その国内における茶需要の急激な増大によって、中国からの茶の輸入量が激増した。これに対しイギリス側は、中国に対する有力な輸出品目をもたなかったため、その結果として、大量の銀が中国に流入した^(d)。

19世紀中葉、武力侵略によって、中国を世界の資本主義体制の中にひきだしたのはイギリスであった。イギリスはアヘン戦争^(e)によって、5港を開港させ^(f)、これまでの広東貿易の閉鎖性^(g)を打破することに成功した。

しかし、その後の事態はかならずしもイギリスを満足させる方向には進行せず、大きな期待をよせていた対中国輸出も思わしいのびをみせなかった。そのため、イギリスは第二次アヘン戦争(アロー戦争)をおこし、再度、出兵を強行すること^(h)によって、天津条約・北京条約⁽ⁱ⁾を結び、より有利な条件を獲得した。

第二次アヘン戦争においてイギリスと共同歩調をとったフランスは、インドシナ半島^(j)で急速に勢力をのびし、やがてヴェトナムを保護国とした。そのためヴェトナムに対する宗主権を主張する清国と対立するにいたった。清仏戦争に勝利したフランスは、ヴェトナムに対するフランスの保護権を清国に承認させ、ついで、これらの地域をあわせて、フランス領インドシナ連邦をつくりあげた^(k)。

北方からの脅威はロシアによってもたらされた。すでに17世紀後半になると、中国とロシアは国境を接するにいたり、ネルチンスク条約^(l)やキャフタ条約は、中国からいえば、北からのロシアの侵略をくいとめるためのものであった。その後ロシアは、太平天国の建国や第二次アヘン戦争の勃発による清の混乱に乗じてアイグン条約をむすび、さらにイギリス・フランス連合軍の北京侵攻を利用して、北京条約^(m)をむすぶことに成功した。

問(a) 文化交流の例として、次の1～5のうち誤っているものを一つ指摘せよ。

- 1 皇輿全覽図はマテオ＝リッチがつくった中国最初の世界地図である。
- 2 中国の儒学や文学は、ヴォルテールなどの啓蒙思想家に影響をあたえた。
- 3 第二次アヘン戦争のとき焼失した円明園はフランスのヴェルサイユ宮殿を模してつくられた。
- 4 清代考証学勃興の背景にヨーロッパ思想の影響を指摘する説がある。
- 5 フランスでは17～18世紀ころ、中国風の陶器が多数つくられた。

問(b) 布教禁止の直接の契機として適当と思われるものを、次の1～5のうちから一つ選べ。

- 1 日本の鎖国
- 2 フランス東インド会社の成立
- 3 典札問題
- 4 オランダの台湾占領
- 5 白蓮教徒の反乱

問(c) 18世紀末の広東貿易において、イギリス側による対中国正規輸出品目に入らないものを1～4から一つ選べ。

- 1 綿花
- 2 アヘン
- 3 香料
- 4 毛織物

問(d) 銀の流入量の増大は、中国にどのような影響をおよぼしたか。次の1～4から一つ選べ。

- 1 経済に活気をもたらした。
- 2 経済に混乱をもたらした。
- 3 租税が現物納から銀納に切りかえられた。
- 4 紙幣が使われなくなった。

問(e) アヘン戦争の結果、アヘン問題は怎么样了か。次の1～4から正しいものを一つ選べ。

- 1 南京条約で、中国へのアヘン輸出は公認された。
- 2 南京条約で、中国へのアヘン輸出は禁止され、問題は解決した。
- 3 南京条約には、アヘンについての取りきめはない。
- 4 南京条約で、中国へのアヘン輸出は禁止されたが、実際には以後もふえつづけた。

問(f) 開港された5港の中に入らないものを次の1～6から一つ選べ。

- 1 福州
- 2 広州
- 3 廈門(アモイ)
- 4 寧波(ニンポー)
- 5 杭州
- 6 上海

問(g) 広東貿易の閉鎖性の一つに公行の存在がある。そのとりあつかいはどうなったか。
正しいものを1～4から一つ選べ。

- 1 南京条約にもとづき廃止された。
- 2 南京条約によって廃止がきまったが、実際の廃止は天津条約までもちこされた。
- 3 南京条約にはこれに関する規定はない。
- 4 20世紀になって、不平等条約撤廃の交換条件としてその廃止が実現した。

問(h) 時を同じくして、中国出兵を遅らせねばならない事情がイギリス側におこった。
それは何か。1～5から一つ選べ。

- 1 クリミア戦争
- 2 第二次ビルマ戦争
- 3 チャーティスト運動
- 4 セポイの反乱
- 5 第二次選挙法改正

問(i) 天津・北京両条約によってイギリス・フランスが獲得した権利にかぞえられないものを、次の1～5から一つ選べ。

- 1 天津の開港
- 2 開港地に限定したキリスト教の布教
- 3 九龍半島のイギリスへの割譲
- 4 中国全土の外国貿易への開放
- 5 外国公使の北京駐在

問(j) フランスがインドシナ半島へ進出する契機となったといわれるものは何か。もっとも適当なものを次の1～5から選べ。

- 1 ブルボン王朝の復活
- 2 アメリカの独立
- 3 フランス革命
- 4 ナポレオン戦争
- 5 プラッシーの戦い

問(k) フランス領インドシナ連邦が成立した年を次の1～5から選べ。

- 1 1862年
- 2 1874年
- 3 1884年
- 4 1887年
- 5 1894年

問(l)(m) ネルチンスク条約・北京条約の主たる内容は何か。次の1～5からそれぞれ一つ選べ。

- 1 ウスリー江以東の沿海州全域をロシア領とする。
- 2 アルグン川・スタノヴォイ山脈(外興安嶺)を国境とする。
- 3 アムール川(黒龍江)以北をロシア領とする。
- 4 モンゴル方面における境界を定める。
- 5 新疆方面における国境を定める。

世界史 解答用紙控

I					
A	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	e1>e2>e3>e4>e5>e6>	e1>e2>e3>e4>e5>	e1>e2>e3>e4>e5>	e1>e2>e3>e4>e5>	e1>e2>e3>e4>e5>e6>
B	(6)		(7)		
	e1>e2>e3>e4>e5>	(γ)	(α)		
		e1>e2>e3>e4>	e1>e2>e3>e4>e5>		
	(8)	(9)	(10)		
e1>e2>e3>e4>e5>e6>	e1>e2>e3>e4>e5>e6>	e1>e2>e3>e4>e5>			

II			
A	(1)	(2)	(3)
	e1>e2>e3>e4>e5>e6>e7>	e1>e2>e3>e4>e5>	e1>e2>e3>e4>
B	(4)	(5)	(6)
	eα>eβ>eγ>eδ>	eα>eβ>eγ>eδ>	eα>eβ>eγ>eδ>

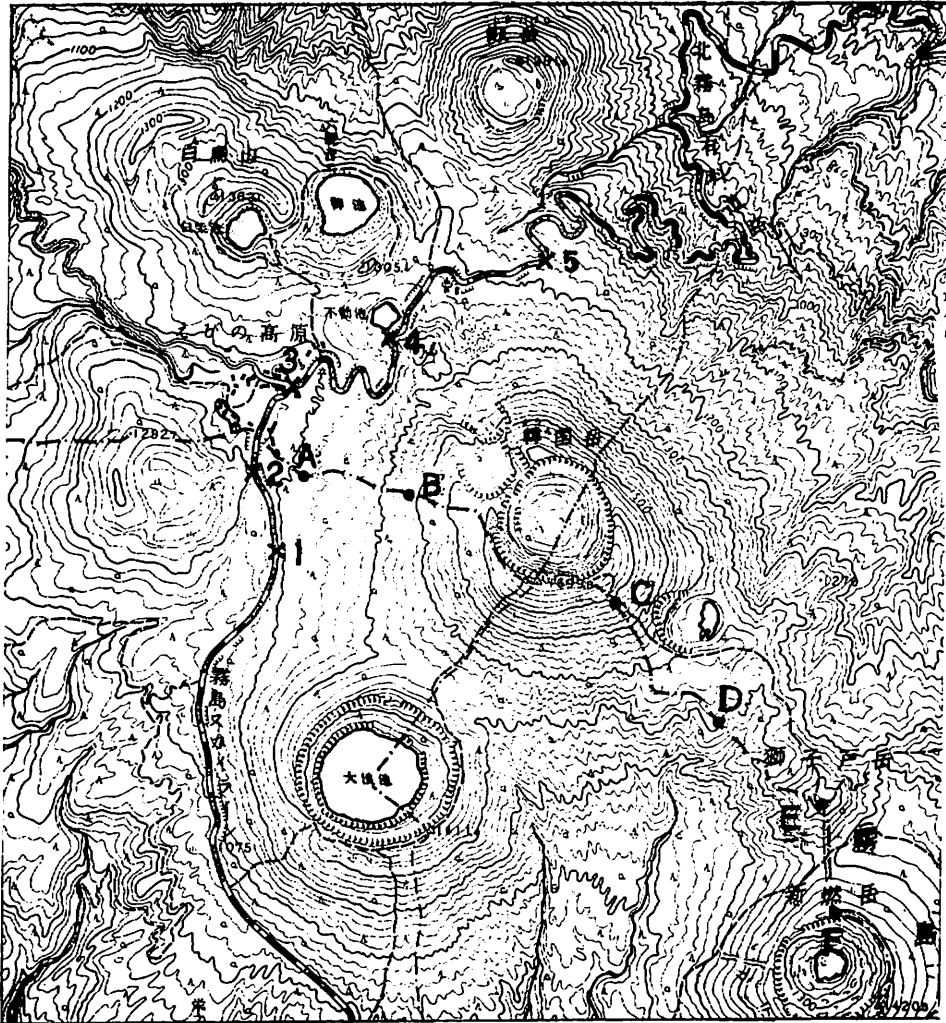
III				
A	B	C	D	E
e1>e2>e3>e4>e5>	e1>e2>e3>e4>e5>	e1>e2>e3>e4>e5>	e1>e2>e3>e4>e5>	e1>e2>e3>e4>e5>

IV					
(1)	1	2	3	4	
	eα>eβ>eγ>eδ>	eα>eβ>eγ>eδ>	eα>eβ>eγ>eδ>	eα>eβ>eγ>eδ>	
	5	6	7	8	
eα>eβ>eγ>eδ>	eα>eβ>eγ>eδ>	eα>eβ>eγ>eδ>	eα>eβ>eγ>eδ>		
(2)		A	B	C	D
	語群	e1>e2>e3>e4>	e1>e2>e3>e4>e5>	e1>e2>e3>e4>e5>e6>	e1>e2>e3>e4>e5>
	文節	e1>e2>e3>e4>	e1>e2>e3>e4>	e1>e2>e3>e4>	e1>e2>e3>e4>
(3)	A		B		
	(a)	(b)	(c)	(d)	
	e1>e2>e3>e4>	e1>e2>e3>e4>e5>e6>	e1>e2>e3>e4>e5>	e1>e2>e3>e4>e5>	
	C				
(e)	(f)				
e1>e2>e3>e4>e5>	e1>e2>e3>e4>e5>e6>e7>				

V				
(a)	(b)	(c)	(d)	(e)
e1>e2>e3>e4>e5>	e1>e2>e3>e4>e5>	e1>e2>e3>e4>	e1>e2>e3>e4>	e1>e2>e3>e4>
(f)	(g)	(h)	(i)	(j)
e1>e2>e3>e4>e5>e6>	e1>e2>e3>e4>	e1>e2>e3>e4>e5>	e1>e2>e3>e4>e5>	e1>e2>e3>e4>e5>
(k)	(l)	(m)		
e1>e2>e3>e4>e5>	e1>e2>e3>e4>e5>	e1>e2>e3>e4>e5>		

地 理 A

I 下図は、国土地理院発行の地形図（昭和43年編集）の一部を、そのままの大ききで示したものである。この地形図を見て、次の〔1〕～〔5〕の間に答えよ。



〔1〕 自動車道路（北霧島有料道路～霧島スカイライン）の最高地点（峠）を、図中に1～5の数字で示した箇所のうちから一つ選べ。

II 次の〔1〕・〔2〕の問いに答えよ。

〔1〕 第1表・第2表を参考にして、下記の(1)～(4)の短文中下線をほどこした誤りの箇所を正しくなおすために最も適切な語をそれぞれの短文のあとにある語群から一つ選べ。また、(5)の問いにも答えよ。

(1) 日本の第二次世界大戦前(1934～36年平均)における貿易を輸出入別・品目類別ならびに地域別にみると、輸出総額では繊維製品が、輸入総額では繊維原料がそれぞれ第1位を占めており、輸出入とも中南アメリカとの関連が最も深かった。

0. アフリカ 1. アジア 2. 北アメリカ 3. ヨーロッパ 4. ソ連

(2) 1965年、1970年ならびに1975年の日本の貿易を輸出入別・品目類別ならびに地域別にみると、輸出総額では繊維製品が、輸入総額では繊維原料がその割合をそれぞれ急減させているが、1975年における北アメリカの日本の貿易に占める割合は、第二次世界大戦前(1934～36年平均)のものとはほぼ同じであった。

0. アフリカ 1. アジア 2. 中南アメリカ 3. ヨーロッパ 4. ソ連

(3) 1934～36年平均、1965年、1970年ならびに1975年の日本の貿易を品目類別にみると、魚介類・鉄鋼のように第二次世界大戦前(1934～36年平均)においては輸出品であったものが、1970年から輸入品になったものもあった。

0. 木材 1. 船舶 2. 石炭 3. 機械類 4. 下線のある語を削除

(4) 1934～36年平均、1965年、1970年ならびに1975年の日本の貿易の地域別動向をみると、EFTA以外とはいずれも拡大する傾向にあった。1970年と1975年のEFTAとの貿易は、輸出において微増、輸入において減少の状態にあった。この原因の一つは、1973年にイギリスならびにフィンランドの二か国がEFTAを脱退して、アイルランドとともにECに加盟したことにあった。

0. イギリスならびにアイスランド 1. アイスランドならびにデンマーク

2. イギリスならびにスウェーデン 3. デンマークならびにイギリス

4. ノルウェーならびにスウェーデン

(5) 第1表の空白箇所(A)に該当する語を一つ選べ。

0. パルプ 1. がん具 2. テープレコーダー

3. 有機薬品 4. 石油

第1表 日本の貿易の年次別品目別構成

1966, 1971, 1976年版日本国勢図会より、加筆のうえ作成

輸 出	年次		年次		1975年	
	品目別	1934 ~ 36年平均	品目別	1965年		
		百万円		億円	億円	*... (1965年の品目別輸出額の上位第7位までに達せず)
	繊維製品	1,410	機械類	6,822	23,125	38,187
	機械類	120	鉄鋼	4,645	10,237	30,165
	魚介類	70	自動車	*	**	18,392
	鉄鋼	58	船舶	2,565	4,898	17,803
	(以下省略)		繊維製品	5,694	8,667	11,043
			精密機械	873	2,261	5,420
			金属製品	*	2,569	5,346
			魚介類	830	**	***
	計×	2,455	計×	30,426	69,524	165,443

輸 入	年次		年次		1975年	
	品目別	1934 ~ 36年平均	品目別	1965年		
		百万円		億円	億円	****... (1965年の品目別輸入額の上位第7位までに達せず)
	繊維原料	1,069	(A)	4,707	10,028	62,334
	機械類	143	石炭	973	3,636	10,246
	石油	140	機械類	2,437	7,458	9,082
	鉄くず	77	木材	1,773	5,695	7,768
	ゴム	60	鉄鉱石	1,885	4,350	6,518
	パルプ	56	砂糖	****	****	4,992
	大豆	52	繊維原料	3,051	3,466	4,520
	石炭	50	魚介類	****	942	3,554
	計×	2,489	計×	29,408	67,972	171,697

第2表 日本の貿易の年次別・地域別動向

1966, 1971, 1976年版日本国勢図会より、加筆のうえ作成

輸 出	年次		1965年	1970年	1975年
	地域	1934 ~ 36年平均			
		百万円	十億円	十億円	十億円
	アジア	1,262	989	2,172	6,078
	ヨーロッパ	262	406	1,088	2,587
	うち EC	107	175	469	1,683
	うち EFTA	140	166	380	426
	北アメリカ	520	970	2,341	3,654
	中南アメリカ	108	176	427	1,413
	アフリカ	188	294	512	1,648
	オセアニア	91	146	289	682
	ソ連	24	61	123	482
	計	2,455	3,042	6,952	16,544

輸 入	年次		1965年	1970年	1975年
	地域	1934 ~ 36年平均			
		百万円	十億円	十億円	十億円
	アジア	900	983	1,999	8,414
	ヨーロッパ	314	274	747	1,367
	うち EC	163	141	402	1,000
	うち EFTA	134	109	270	230
	北アメリカ	869	980	2,336	4,183
	中南アメリカ	70	255	494	748
	アフリカ	86	127	396	688
	オセアニア	225	235	652	1,422
	ソ連	26	86	173	347
	計	2,489	2,940	6,797	17,169

〔2〕 下記の(1)～(5)の短文には、それぞれ二つずつ空白箇所がある。それらの空白箇所のうち、A～Eには該当する国名を、a～eには鉱産物名を下記の語群からそれぞれもとめ、各短文が正しく表現されるような記号の組み合わせを示す番号を下欄から一つ選べ。

記 号 の	イ	ハ	ロ	ホ	ニ	チ	ト	ヘ	ト	ヘ
組 み 合 わ せ	カ	ワ	ワ	ヲ	リ	ヨ	ヨ	ヌ	タ	ル
答 え の 番 号	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9

- (1) < A >の首都は33° 27'S, 70° 40'Wの位置にある。この国のほぼ中央にある首都の南東方ならびに砂漠気候を示す北部には、かつて外国資本によって開発の推し進められた≪ a ≫の大鉱山があり、その輸出によってこの国の国民経済がささえられてきた。
- (2) < B >の首都は6° 18'N, 10° 47'Wの位置にある。1847年の独立宣言で知られるこの国の国民経済は、久しくプランテーション経営に依存したゴムの輸出によってささえられてきた。しかし、近年では、首都の北方に産出する≪ b ≫によって、この国の貿易における輸出品目別の順位は大きく変わった。
- (3) < C >の首都は32° 54'N, 13° 11'Eの位置にある。この国の農耕地はごくわずかで、その分布も海岸と内陸のオアシスとに限られている。このため、≪ c ≫の輸出がはじまる1961年までは、世界で最も貧しい国の一つであるといわれてきた。
- (4) < D >の首都は18° 00'N, 76° 50'Wの位置にある。この国の国民経済は、久しくプランテーション経営に依存するさとうとバナナの輸出によってささえられてきた。しかし、1952年に≪ d ≫の開発が推し進められてから、この鉱産物の輸出によって、しだいに、国の経済力をましつつある。
- (5) < E >の首都は3° 09'N, 101° 43'Eの位置にある。この国の国民経済は、植民地時代に開発された半島部西海岸地方にいちじるしく発達しているゴム園と、半島西部の砂礫堆積物中などから採掘された≪ e ≫とに依存してきた。

- | | | | |
|----------|----------|-----------|---------|
| イ. マレーシア | ロ. ベネズエラ | ハ. リベリア | ニ. チリ |
| ホ. ザイール | ヘ. ジャマイカ | ト. リビア | チ. イラン |
| リ. 銅 | ヌ. ニッケル鉱 | ル. ボーキサイト | ヲ. ウラン鉱 |

フ. 鉄鉱石 ガ. 寸寸鉄 三. 石油 女. 石炭

（以下は極く淡く、ほとんど不可読な印刷文字が繰り返されています。内容は不明です。）

Ⅲ 次の〔1〕・〔2〕の問いに答えよ。

〔1〕 下記の(1)~(5)の短文の〈 〉にあてはまる最も適切な語を、それぞれの短文のあとにある語群から一つ選べ。

(1) 〈 〉の図法では、周辺部がいちじるしく拡大されてあらわされるが、図上の任意の2点を直線で結べば、それが両地点間の地球表面上における最短経路をさすという特徴をもっている。

0. グード 1. サンソン 2. 心射 3. ボンス 4. メルカトル

(2) 地球表面は陸半球と水半球とに分けることができる。前者の中心をロンドン付近にしたとき、陸と海との比は47：53になるのに対し、〈 〉付近を中心とした後者のばあいには、その比はおおよそ1：10になる。

0. モーリシャス諸島 1. ニューゼーランド 2. ハワイ諸島
3. ソロモン諸島 4. ガラバゴス諸島

(3) カスピ海の北西岸から黒海北岸にかけての地方は、世界の穀倉として知られているが、降水量はすくなく、かつ、中央アジアから吹きよせる〈 〉によって、しばしば、はげしいかんばつがおこる地域もある。

0. 偏西風 1. 季節風 2. ハリケーン 3. 熱風 4. 台風

(4) 立地から工業の種類を大別すると、資源型・交通型ならびに市場型の三つに分けられる。〈 〉・農業機械工業などは代表的な市場型工業の好例である。

0. 印刷工業 1. 製鉄工業 2. 窯業 3. パルプ工業 4. 造船工業

(5) 「水を治めるものは国を治める」とは中国の諺である。1949年の建国以降、中華人民共和国も治水に力を注ぎ、その最初の国家的事業が〈 〉の開発であった。

0. チャン川(長江・揚子江) 1. チュー川(珠江) 2. ホワイ川(淮河)
3. リヤオ川(遼河) 4. 黄河

〔2〕 下記の短文中のA~Eの()内にあるそれぞれの語群から、最も適切な語の一つ選べ。

世界の総人口は、国連の推計によれば1970年7月で A (0. 約20億人 1. 約28億人 2. 約36億人 3. 約44億人)に達し、1年間に約7,100万人も増加している。世界人口の増加率が高いのは、第二次世界大戦後、世界的に死亡率が低下したこと、B(0. アジア 1. ヨーロッパ 2. 北アメリカ 3. ソビエト連邦)・アフリカならびにラテンアメリカの国々で依然として高い出生率がみられることなどと大きく関係している。

日本の総人口は、総理府統計局の推計によれば、1971年10月1日現在で、おおよそ1億600万人であり、1970年10月1日現在のものにくらべるとC(0. 約69万人 1. 約129万人 2. 約189万人 3. 約249万人)増加したことになり、これは1975年10月1日現在のD(0. 横浜市 1. 京都市 2. 札幌市 3. 千葉市)の総人口より約5万人多い数値である。また、この1年間の都道府県別人口の増減をみると、E(0. 東京都 1. 愛知県 2. 鹿児島県 3. 高知県)・北海道などはいちじるしい社会減を示しながらも、総人口ではなお、増加あるいは停滞の状態にある。

IV 次の文章中下線をほどこした箇所について、下記の〔1〕～〔10〕の問いに答えよ。

羊は、世界の各地で飼育されているが、紡績用の上質羊毛の生産地域はかなり偏在している。ヨーロッパは、三圃式農業の伝統もあって、牧羊もさかんであったが、毛用種よりも肉用種が多くなると、人口のすくない新大陸やアフリカ南部がかわって重要性をもつようになった。オーストラリアは、世界の羊毛生産量の約29パーセント(1973年)を占め、南西部や南東部山地の西側には牧羊がとくによく発達している。1796年には、スペインの高原で育成された優秀品種が南アフリカから導入された。その後には、かんばつや野うさぎの被害もあったが、給水設備が整い、ヨーロッパの市場へ供給されるようになって、着実に発展した。ニュージーランドでは、北島・南島とも牧羊がさかんである。とくに、南島においては風の影響をうけて、脊梁山脈の東側と西側とでは気候にいちじるしい差がみられ、毛羊はおもに東側で飼育されている。アルゼンチン・ウルグアイのパンパも牧羊に利用され、アメリカ合衆国のグレートプレーンズの西部でも大規模に牧羊が行なわれている。しかし、アメリカ合衆国の羊毛生産量は、自国の需要を満たす量には達していない。南アフリカ共和国の高原地方も、生産地域の一つになっている。ソ連ではカスピ海北方のステップで飼われ、その羊毛生産量(1973年)はオーストラリアについている。

羊毛工業は綿工業にくらべて、多様な製品を少量ずつ産出するほうがのぞましいので、概して、その規模は小さく、伝統的なものが多い。フランドル地方から職人を受け入れたイギリスの羊毛工業は、その最高の技術を誇っているが、産業革命の後には、ペニン山脈の東側の地域に集中し、その原料も国外から大量に運ばれてくるようになった。アメリカ合衆国では、ニューイングランドがその中心になっている。

〔1〕 この農業形態の中で、牧羊と最も関連の深い語を語群から一つ選べ。

0. 冬作穀物 1. 夏作穀物 2. 休閑地 3. まわりの森林地域

〔2〕 この山地の東側に最も多く飼育されている家畜名を語群から一つ選べ。

0. うし 1. うま 2. やぎ 3. ぶた

〔3〕 この品種を何というか。最も適切な語を語群から一つ選べ。

0. リンカーン 1. コリデール 2. メリノ 3. ホルスタイン

〔4〕 どのような方法で給水しているか。最も適切な語を語群から一つ選べ。

0. ダム 1. 溜池 2. 掘抜き井戸 3. スプリンクラー

〔5〕 この島において、ひつじ以外で最も多く飼育されている家畜名を語群から一つ選べ。

0. うし 1. うま 2. やぎ 3. すいぎゅう

〔6〕 この風を何というか。最も適切な語を語群から一つ選べ。

0. 偏西風 1. 季節風 2. 貿易風 3. 極風

〔7〕 この地域を牧羊地として開拓した人々は何とよばれているか。最も適切な語を語群から一つ選べ。

0. メスチゾ(メスティソ) 1. ボーア 2. エスキモー 3. インディオ

〔8〕 この地方は、現在、おもに何という国に属しているか。最も適切な語を語群から一つ選べ。

0. イタリア 1. オランダ 2. ベルギー 3. 西ドイツ

〔9〕 この地域を何というか。最も適切な語を語群から一つ選べ。

0. ヨークシャー 1. スコットランド 2. ウェールズ 3. ランカシャー

〔10〕 この地域の中心都市を何というか。最も適切な語を語群から一つ選べ。

0. ニューヨーク 1. シカゴ 2. オタワ 3. ボストン

V 次の文章をヒントにして、下記の〔1〕～〔5〕の問いに答えよ。

変化に富んだ自然環境に適應しながら、人間は生活を営んできた。しかし、科学技術の急速な発展に伴って、地球表面上の起伏・植生・土壌ほか大気に至るまで、その性格をすこしずつ変えつつあり、地域によっては環境を構成する諸要素間に不均衡が生じ、人間の生活に重大な影響がもたらされている。

もともと、自然は、ある程度までの復元能力と自浄能力をもっているが、これらの能力を越えた人間の自然への働きかけが、自然環境を加速度的に悪化させている。現代において、自然との調和がさげばれているゆえんもここにある。

〔1〕 近年、さほど大きな降雨ともおもえないのに、市街地内を流れる中小河川が氾濫し、しばしば水害をもたらすようになったといわれている。下記の語群はその原因と思われるものであるが、一つだけ関連のない語が含まれている。それを選べ。

0. 河道の暗渠化 1. 自然的な遊水池の縮小 2. ビルディングの高層化
3. 河道の直線化

〔2〕 近年、地盤の沈下現象が日本各地で生じるようになり、防災面で大きな問題になっている。その原因として最も適切な語を語群から一つ選べ。

0. 地下水の塩水化 1. 地下水の過剰揚水 2. 浸透雨水の量的増大
3. 海面上昇

〔3〕 近年、東京・大阪・四日市・ニューヨーク・ロサンゼルスなどの都市で、問題になっている都市内部の大気汚染と最も関連の深い語を語群から一つ選べ。

0. 燃焼熱 1. 亜硫酸ガス 2. 大型廃棄物 3. 気温の逆転

〔4〕 瀬戸内海汚染がさげばれて、その対策がいろいろ講じられてきたが、汚染の程度はなお深化しているといわれている。下記の語群はその原因と思われるものであるが、一つだけ関連のない語が含まれている。それを選べ。

0. 急激に拡大した海岸の埋立 1. 養殖海域の拡大 2. 大量のし尿投棄
3. 大量の工場排水の流入

〔5〕 アメリカ合衆国でよく発達している等高線耕作は、何を防ぐことをおもな目的としているか。最も適切な語を語群から一つ選べ。

0. 土壌侵食 1. 山崩れ 2. 水の流出 3. 鉄砲水

地理 A 解答用紙控

I	(1)	◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷◁5▷
	(2)	◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷
	(3)	◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷
	(4)	◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷◁5▷
	(5)	◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷◁5▷◁6▷

IV	(1)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷
	(2)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷
	(3)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷
	(4)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷
	(5)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷
	(6)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷
	(7)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷
	(8)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷
	(9)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷
	(10)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷

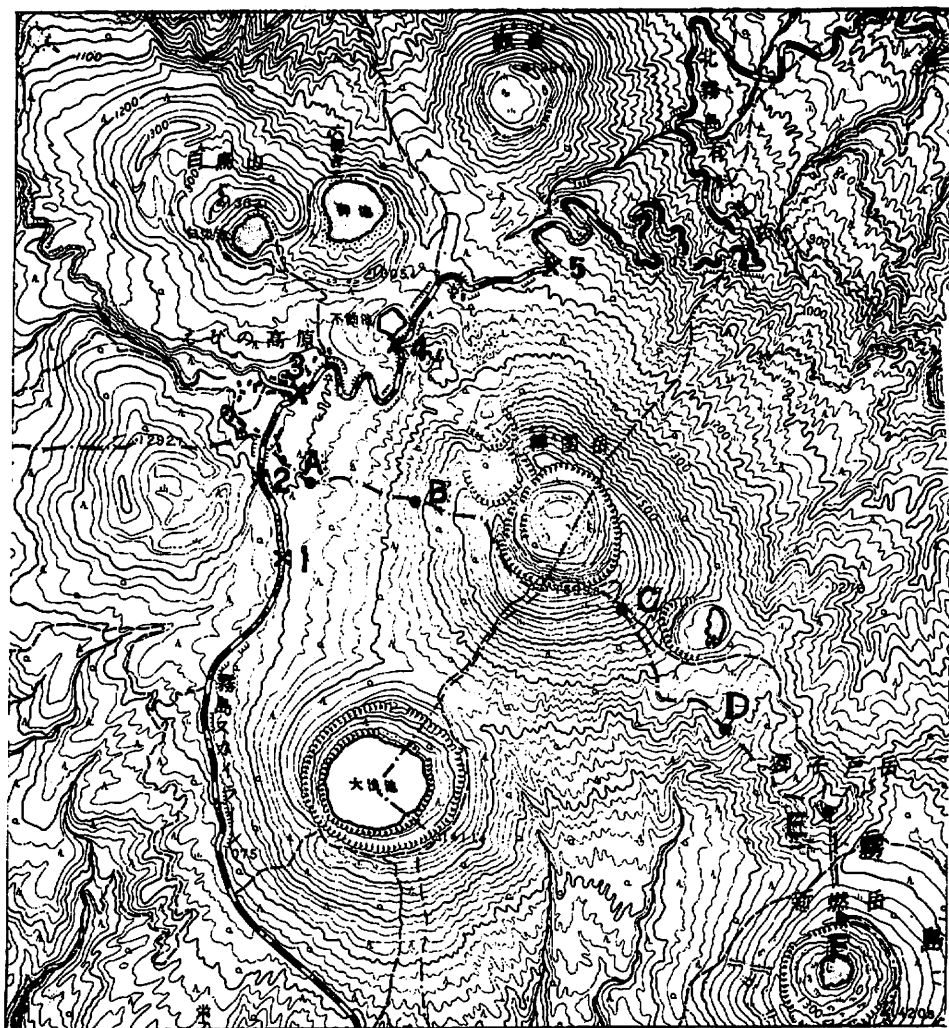
II	(1)	(1)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷
		(2)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷
		(3)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷
		(4)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷
		(5)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷
	(2)	(1)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷◁5▷◁6▷◁7▷◁8▷◁9▷
		(2)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷◁5▷◁6▷◁7▷◁8▷◁9▷
		(3)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷◁5▷◁6▷◁7▷◁8▷◁9▷
		(4)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷◁5▷◁6▷◁7▷◁8▷◁9▷
		(5)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷◁5▷◁6▷◁7▷◁8▷◁9▷

V	(1)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷
	(2)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷
	(3)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷
	(4)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷
	(5)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷

III	(1)	(1)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷
		(2)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷
		(3)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷
		(4)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷
		(5)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷
	(2)	A	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷
		B	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷
		C	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷
		D	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷
		E	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷

地 理 B

1 下図は、国土地理院発行の地形図（昭和43年編集）の一部を、そのままの大きさに示したものである。この地形図を見て、次の〔1〕～〔5〕の問いに答えよ。



〔1〕 自動車道路（北霧島有料道路～霧島スカイライン）の最高地点（峠）を、図中に1～5の数字で示した箇所のうちから一つ選べ。

〔2〕 下記の短文中にある()内の語句のうち、それぞれ適当なものを求め、短文が正しく表現されるような記号の組み合わせを示す番号を下欄から一つ選べ。

(a. 御池 b. 白柴池)の湖面の高度は、(c. 御池 d. 白柴池)のものよりも高いので、もし、(e. 御池 f. 白柴池)の湖面の水位が上昇してあふれるとすれば、その水は、(g. 御池 h. 白柴池)へ流れこむ。

- | | |
|------------|------------|
| 1. a・d・e・h | 2. b・c・f・g |
| 3. a・d・f・g | 4. b・c・e・h |

〔3〕 ^{こしやだけ} 飯岳山頂にある三角点と、御池・不動池の間にある独立標高点との間の実際の距離はいくらか。次のうち、最も近いものを一つ選べ。

- | | | | |
|-----------|-------------|-------------|-------------|
| 1. 約800 m | 2. 約1,800 m | 3. 約3,500 m | 4. 約7,000 m |
|-----------|-------------|-------------|-------------|

〔4〕 下記の短文中にある()内の語句のうち、それぞれ適当なものを求め、短文が正しく表現されるような記号の組み合わせを示す番号を下欄から一つ選べ。

えびの高原の南西方には、直径(a. 約200 m b. 約700 m c. 約1,000 m d. 約1,500 m)の火口がある。この火口内に降った雨水は、(e. 北西部 f. 北東部 g. 南東部 h. 南西部)にある低所から火口外へ流出する。

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1. a・g | 2. b・f | 3. b・g | 4. c・e | 5. d・h |
|--------|--------|--------|--------|--------|

〔5〕 図中にある県境は、おおよそ分水界にそっているが、一部分にはそうでない区間もある。下記のうちで、二区間ともに分水界にそっていないものを一つ選び番号で答えよ。

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1. A～BとB～C | 2. A～BとC～D | 3. A～BとD～E |
| 4. C～DとD～E | 5. C～DとE～F | 6. D～EとE～F |

II 次の〔1〕・〔2〕の問いに答えよ。

〔1〕 第1表・第2表を参考にして、下記の(1)～(4)の短文中下線をほどこした誤りの箇所を正しくなおすために最も適切な語をそれぞれの短文のあとにある語群から一つ選べ。また、(5)の問いにも答えよ。

(1) 日本の第二次世界大戦前(1934～36年平均)における貿易を輸出入別・品目類別ならびに地域別にみると、輸出総額では繊維製品が、輸入総額では繊維原料がそれぞれ第1位を占めており、輸出入とも中南アメリカとの関連が最も深かった。

0. アフリカ 1. アジア 2. 北アメリカ 3. ヨーロッパ 4. ソ連

(2) 1965年、1970年ならびに1975年の日本の貿易を輸出入別・品目類別ならびに地域別にみると、輸出総額では繊維製品が、輸入総額では繊維原料がその割合をそれぞれ急減させているが、1975年における北アメリカの日本の貿易に占める割合は、第二次世界大戦前(1934～36年平均)のものとはほぼ同じであった。

0. アフリカ 1. アジア 2. 中南アメリカ 3. ヨーロッパ 4. ソ連

(3) 1934～36年平均、1965年、1970年ならびに1975年の日本の貿易を品目別にみると、魚介類・鉄鋼のように第二次世界大戦前(1934～36年平均)においては輸出品であったものが、1970年から輸入品になったものもあった。

0. 木材 1. 船舶 2. 石炭 3. 機械類 4. 下線のある語を削除

(4) 1934～36年平均、1965年、1970年ならびに1975年の日本の貿易の地域別動向をみると、EFTA以外とはいずれも拡大する傾向にあった。1970年と1975年のEFTAとの貿易は、輸出において微増、輸入において減少の状態にあった。この原因の一つは、1973年にイギリスならびにフィンランドの二か国がEFTAを脱退して、アイルランドとともにECに加盟したことにあった。

0. イギリスならびにアイスランド 1. アイスランドならびにデンマーク
2. イギリスならびにスウェーデン 3. デンマークならびにイギリス
4. ノルウェーならびにスウェーデン

(5) 第1表の空白箇所(A)に該当する語を一つ選べ。

0. パルプ 1. がん具 2. テープレコーダー
3. 有機薬品 4. 石油

第1表 日本の貿易の年次別品目別構成

1966, 1971, 1976年版日本国勢図会より, 加筆のうえ作成

輸 出	年次	1934 ~ 36年平均	年次	1965年	1970年	1975年	*...{1965年の品目別輸出額の上 位第7位までに達せず **...{1970年の品目別輸出額 の上位第7位までに達せず ***...{1975年の品目別輸出額 の上位第8位までに達せず 計×...その他も含めた合計
	品目類	品目類	品目類	品目類	品目類	品目類	
		百万円		億円	億円	億円	
	繊維製品	1,410	機械類	6,822	23,125	33,187	
	機械類	120	鉄鋼	4,645	10,237	30,165	
	魚介類	70	自動車	*	**	18,392	
	鉄鋼	58	船舶	2,565	4,898	17,803	
	(以下省略)		繊維製品	5,694	8,667	11,043	
			精密機械	873	2,261	5,420	
			金属製品	*	2,569	5,346	
			魚介類	830	**	***	
	計×	2,455	計×	30,426	69,524	165,443	

輸 入	年次	1934 ~ 36年平均	年次	1965年	1970年	1975年	****...{1965年の品目別輸入額 の上位第7位までに達せ ず *****...{1970年の品目別輸入 額の上位第8位までに 達せず 計×...その他も含めた合計
	品目類	品目類	品目類	品目類	品目類	品目類	
		百万円		億円	億円	億円	
	繊維原料	1,089	(A)	4,707	10,023	62,334	
	機械類	143	石炭	973	3,636	10,246	
	石油	140	機械類	2,437	7,453	9,082	
	鉄くず	77	木材	1,773	5,695	7,768	
	生ゴム	60	鉄鉱石	1,885	4,350	6,518	
	パルプ	56	砂糖	****	*****	4,992	
	大豆	52	繊維原料	3,051	3,466	4,520	
	石炭	50	魚介類	****	942	3,554	
	計×	2,489	計×	29,408	67,972	171,697	

第2表 日本の貿易の年次別・地域別動向

1966, 1971, 1976年版日本国勢図会より, 加筆のうえ作成

輸 出	年次	1934 ~ 36年平均	1965年	1970年	1975年
	地域	百万円	十億円	十億円	十億円
	アジア	1,262	989	2,172	6,078
	ヨーロッパ	262	406	1,088	2,587
	EC	107	175	469	1,683
	うち EFTA	140	166	380	426
	北アメリカ	520	970	2,341	3,654
	中南アメリカ	108	176	427	1,413
	アフリカ	188	294	512	1,648
	オセアニア	91	146	289	682
	ソ連	24	61	123	482
	計	2,455	3,042	6,952	16,544

輸 入	年次	1934 ~ 36年平均	1965年	1970年	1975年
	地域	百万円	十億円	十億円	十億円
	アジア	900	983	1,999	8,414
	ヨーロッパ	314	274	747	1,367
	EC	163	141	402	1,000
	うち EFTA	134	109	270	230
	北アメリカ	869	980	2,336	4,183
	中南アメリカ	70	255	494	748
	アフリカ	86	127	396	688
	オセアニア	225	235	652	1,422
	ソ連	26	86	173	347
	計	2,489	2,940	6,797	17,169

〔2〕 下記の(1)～(5)の短文には、それぞれ二つずつ空白箇所がある。それらの空白箇所のうち、A～Eには該当する国名を、a～eには鉱産物名を下記の語群からそれぞれもとめ、各短文が正しく表現されるような記号の組み合わせを示す番号を下欄から一つ選べ。

記号の 組み合わせ	イ カ	ハ ワ	ロ ワ	ホ ヲ	ニ リ	チ ヨ	ト ヨ	ヘ ヌ	ト タ	ヘ ル
答えの番号	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9

- (1) < A >の首都は33° 27'S, 70° 40'Wの位置にある。この国のほぼ中央にある首都の南東方ならびに^{さばく}砂漠気候を示す北部には、かつて外国資本によって開発の推し進められた< a >の大鉱山があり、その輸出によってこの国の国民経済がささえられてきた。
- (2) < B >の首都は6° 18'N, 10° 47'Wの位置にある。1847年の独立宣言で知られるこの国の国民経済は、久しくプランテーション経営に依存したゴムの輸出によってささえられてきた。しかし、近年では、首都の北方に産出する< b >によって、この国の貿易における輸出品目別の順位は大きく変わった。
- (3) < C >の首都は32° 54'N, 13° 11'Eの位置にある。この国の農耕地はごくわずかで、その分布も海岸と内陸のオアシスとに限られている。このため、< c >の輸出がはじまる1961年までは、世界で最も貧しい国の一つであるといわれてきた。
- (4) < D >の首都は18° 00'N, 76° 50'Wの位置にある。この国の国民経済は、久しくプランテーション経営に依存するさとうとバナナの輸出によってささえられてきた。しかし、1952年に< d >の開発が推し進められてから、この鉱産物の輸出によって、しだいに、国の経済力をましつた。
- (5) < E >の首都は3° 09'N, 101° 43'Eの位置にある。この国の国民経済は、植民地時代に開発された半島部西海岸地方にいちじるしく発達しているゴム園と、半島西部の^{さばく}砂礫堆積物中などから採掘された< e >とに依存してきた。

- | | | | |
|----------|----------|-----------|---------|
| イ. マレーシア | ロ. ベネズエラ | ハ. リベリア | ニ. チリ |
| ホ. ザイール | ヘ. ジャマイカ | ト. リビア | チ. イラン |
| リ. 銅 | ヌ. ニッケル鉱 | ル. ボーキサイト | ヲ. ウラン鉱 |

ワ. 鉄鉱石

カ. すす鉱

ヨ. 石油

タ. 石炭

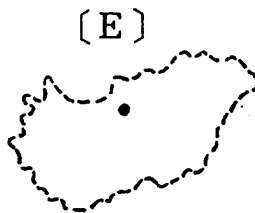
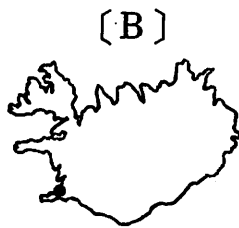
Ⅲ 次の〔1〕～〔5〕の短文には、それぞれ、下線をほどこした箇所が三つあり、それらに、①、②、④の番号を付してある。これらの中には、内容が誤っているものもある。例にならって誤っている箇所の番号の和を示す数字で答えよ。

〔例〕 ①だけ誤りのばあい… 1, ①と②が誤りのばあい… 3, ②と④が誤りのばあい… 6,
三か所とも誤りのばあい… 7, 三か所とも正しいばあい… 0

- 〔1〕 ナイル川のデルタ地帯は、人口密度がきわめて高く、1 km² あたり 400 人以上におよんでいる。それは、この地帯が①温暖多雨な住みやすい気候に恵まれているからである。この地帯では、ナイル川から水を引いて②集約的な農業がいとなまれており、米・わた・小麦・とうもろこしなどが栽培される。近年ではしだいに工業化も進んできている。住民の大部分は、信仰の深い④カトリック教徒であり、宗教は生活のすみずみにまで大きな影響を与えている。
- 〔2〕 ブラジルは、南アメリカで最大の面積と人口を有する国である。住民は、人種的には多様であるが、言語としては①おもにスペイン語を用いている。世界第 1 位を占めるコーヒーのほかに、わた・さとうきび・だいずなどが栽培され、②農民は自作農が主体をなす。また、④鉄鉱資源にも恵まれ、鉄鋼生産高は南アメリカ第 1 位である。
- 〔3〕 カナダは、世界第 2 位の面積をもつ国であるが、人口はおおよそ 2,200 万人にすぎない。住民は大部分が英語を用いるが、①東部のケベック州ではフランス語を用いる住民が多く、これら二つの言語がカナダの公用語となっている。1885 年の大陸横断鉄道の完成を契機として、内陸部でも農業が飛躍的に発達した。内陸部におけるもっとも重要な農産物は②小麦であり、カナダは世界のおもな小麦輸出国となっている。地下資源も豊富で、とくに、ニッケル鉱は、世界産出量の約 38 % (1972 年) を占める。④貿易相手国としては、アメリカ合衆国がもっとも多く、第二次世界大戦後、この国との経済的な結びつきが強まっている。
- 〔4〕 タイでは、ほかのインドシナ半島諸国と同じく、米作が農業の中心をなしている。①高温多雨の気候に恵まれ、大部分の水田で米の二期作が行なわれる。かつては米が輸出の大部分を占めていたが、近年ではその他の輸出品も増加し、いまでは②生ゴムが米とならぶ重要な輸出品となっている。住民の大部分は、熱心な④仏教徒であり、きびしい戒律を守って生活している。
- 〔5〕 スウェーデンは、①国土の大部分が冷帯に属し、冬の寒さはきびしいが、国内の資源を活かして工業化が進められ、世界でも進んだ工業国の一つとなっている。②資源として重要なのは、石炭と鉄鉱石と水力である。鉄鉱石は、おもに④北部のキルナとエリパレで採掘され、国内鉄鋼業の原料となるほか、外国へも輸出される。

IV 下図は、ある五つの国のおおまかな輪郭を縮尺不同で示したものである(実線は海岸線あるいは湖岸線を、破線は陸上の国境線を、●印は首都の位置をそれぞれ示している)。下記の〔A〕～〔E〕にそれぞれ該当する内容をⅠ群・Ⅱ群から選び、正しい記号の組み合わせを示す番号を下欄から一つ答えよ。

記号の組み合わせ	a 二	b ハ	c ニ	d ホ	e ハ	a イ	b ホ	c イ	d ロ	e ロ
答えの番号	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9



Ⅰ群

- a. この国の中央部を北から南へ国際河川が貫流し、この河川以東の平野にはブスタと呼ばれる草原が広がっており、耕地化されているところが多い。
- b. この国の経済は、石油産業と農牧業に依存している。国土の大部分は乾燥した高原であり、盆地では人工灌漑施設を利用して小麦・わたなどが栽培されている。
- c. この国では、氷河が発達しており、火山の活動も活発である点で、世界でも特異な存在である。南および西の沿岸部は、北大西洋海流の影響を受け、海洋性気候を示す。
- d. この国の西側は、強力な寒流に洗われており、大部分が雨の少ない乾燥地域である。大山脈の東側は、セルパと呼ばれる熱帯雨林となっている。
- e. この国の東岸は、南東貿易風が年中吹きつける。夏季には、サイクロンがしばしば襲来し、多くの降水量をもたらす。

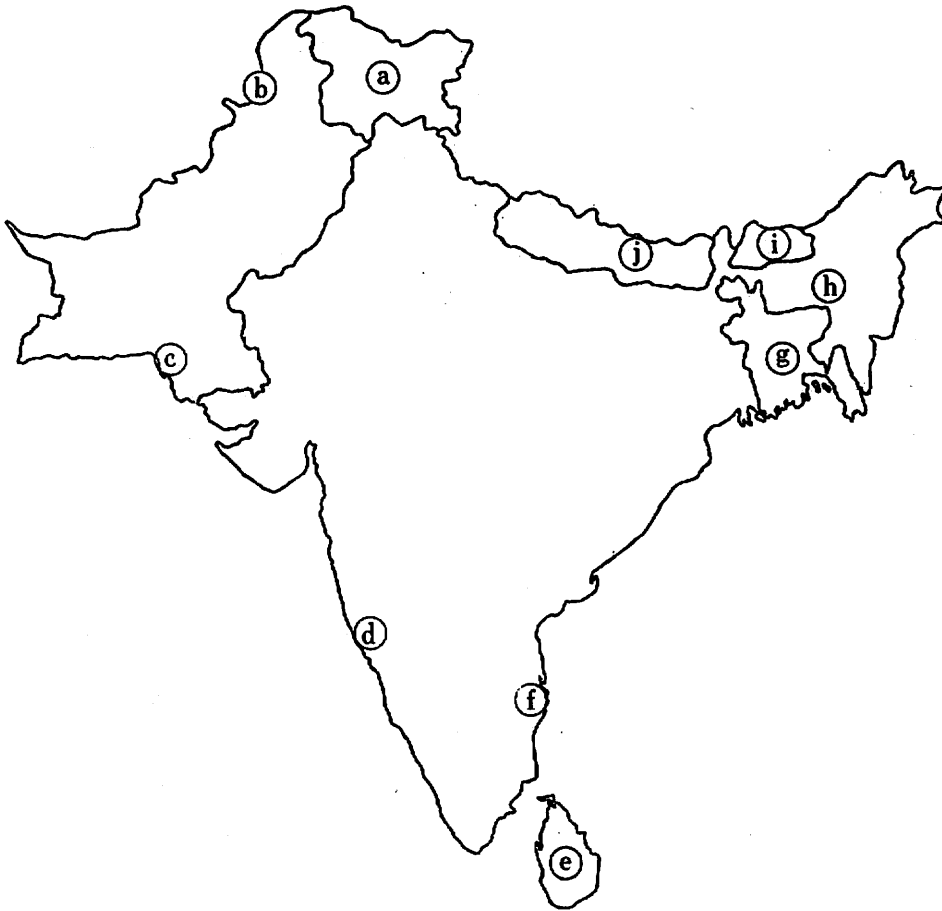
II 群

- イ. 大陸性気候, マジャール族, ポーキサイト, 小麦
- ロ. 魚粉, 銅鉱, スペイン語, リャマ
- ハ. モザンビーク海流, 米, コーヒー, マライ族
- ニ. 白夜, フィヨルド, たら, 地熱利用
- ホ. イスラム教, カナート, 大土地所有制, じゅうたん

草 稿 用 紙

V 次の〔1〕・〔2〕の問いに答えよ。

〔1〕 下記の(イ)～(ホ)の短文の内容と最も関連のある語を語群(A～J)から、それらの位置を図上の㉔～㉑からそれぞれ求め、正しい記号の組み合わせを示す番号を下欄から一つ選べ。



- (イ) パンジャブ北部にあるこの時は、他の諸地方からインドへの海上交通が開かれるまでは、ヨーロッパや西アジア地方とインドとを結ぶ文化交流の重要な門戸であった。
- (ロ) 西ゴーツ(西ガーツ)山脈を東側に控えるこの地域の一画は、近世初頭以来、ポルトガルによって領有されてきたが、1961年にインド政府はこれを武力によって接収した。鉄鉱石の産地として有名である。
- (ハ) ヒマラヤ山脈南斜面にある標高約1,400 mの小盆地にあるこの都市は、国境に位置するエベレスト山をはじめ世界の高峰を有する国の首都である。
- (ニ) かつて、首都であったこの都市は、現在でもこの国最大の都市である。綿工業を中心とする軽工業が集中しており、大貿易港がある。
- (ホ) ベンガル湾に面するこの国土の大半は、二大河川の沖積低地で、大小無数の水路が網をめぐらし、夏の雨期には、河川の自然氾濫はんらんによってかなりの地域が冠水する。

語群

- A. マドラス B. ゴア C. パングラデシュ D. カトマンズ
 E. アッサム F. カシミール G. カラチ H. ダージリン
 I. スリランカ J. カイバー

(イ)	記号の組み合わせ	D b	D i	E a	F h	H i	H j	J b	J i
	答えの番号	0	1	2	3	4	5	6	7
(ロ)	記号の組み合わせ	A d	A f	B d	B f	C g	C h	E b	I f
	答えの番号	0	1	2	3	4	5	6	7
(ハ)	記号の組み合わせ	D i	D j	E j	F a	F h	H h	H i	J a
	答えの番号	0	1	2	3	4	5	6	7
(ニ)	記号の組み合わせ	A c	A f	B f	C g	F b	G c	G g	I e
	答えの番号	0	1	2	3	4	5	6	7
(ホ)	記号の組み合わせ	C c	C e	C g	E e	G c	H f	I e	I g
	答えの番号	0	1	2	3	4	5	6	7

〔2〕 下記の(1)~(5)の短文の〈 A 〉ならびに〈 B 〉の箇所に最も適切な語句をそれぞれの短文のあとにある語句群から選び、正しい記号の組み合わせを示す番号を下欄から一つ選べ。

記 号 の	a	a	a	b	b	b	c	c	c
組 み 合 わ せ	d	e	f	d	e	f	d	e	f
答 え の 番 号	0	1	2	3	4	5	6	7	8

- (1) アラスカは、幅 100 km にも満たない海峡を隔ててソビエト連邦のチュコト（チュクチ）半島に対しては、アラスカの南西端では、アラスカ半島が南西方向へ突き出し、その延長には〈 A 〉がカムチャツカ半島の方へ延びている。アラスカ本土・〈 A 〉・ソビエト連邦領土などに囲まれた海域は〈 B 〉と呼ばれる。
- a. アリューシャン列島 b. 千島列島 c. 北極海諸島
d. 東シベリア海 e. オホーツク海 f. ベーリング海
- (2) ポーフォート海に面するアラスカ北岸地区は〈 A 〉気候を示すが、アラスカ湾に面するアラスカ南岸の地域は〈 B 〉の影響を受けて比較的温暖で、冬季においても港は凍結しない。
- a. 大陸性 b. 氷 雪 c. ツンドラ
d. カリフォルニア海流 e. 千島海流 f. 北太平洋海流
- (3) アラスカは、1867年にアメリカ合衆国が〈 A 〉から購入したもので、1958年にアメリカ合衆国で49番目の州として、ハワイ〈 B 〉、州に昇格した。
- a. ソビエト連邦 b. カナダ c. ロシア
d. に先がけて e. と同時に f. に次いで
- (4) アラスカ最大の河川は〈 A 〉であり、この川の流域にある〈 B 〉地方は、かつてゴールド・ラッシュでにぎわったことがある。
- a. ユーコン川 b. マッケンジー川 c. コロンビア川
d. クロンダイク e. シトカ f. ノーススロープ
- (5) アラスカ最大の都市である〈 A 〉は、アメリカ合衆国本土・ヨーロッパ・アジアなどを結ぶ国際航空路の重要な中継地点である。この〈 A 〉につぐアラスカ第2の都市〈 B 〉は、いまや、アラスカ中央を南北に貫通する石油のパイプライン建設などで活況を呈している。
- a. ダッチハーバー b. アンカレジ c. ジュノー
d. フェアバンクス e. ノーム f. バロー

地理 B 解答用紙控

I	(1)	◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷◁5▷
	(2)	◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷
	(3)	◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷
	(4)	◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷◁5▷
	(5)	◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷◁5▷◁6▷

IV	(A)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷◁5▷◁6▷◁7▷◁8▷◁9▷
	(B)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷◁5▷◁6▷◁7▷◁8▷◁9▷
	(C)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷◁5▷◁6▷◁7▷◁8▷◁9▷
	(D)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷◁5▷◁6▷◁7▷◁8▷◁9▷
	(E)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷◁5▷◁6▷◁7▷◁8▷◁9▷

II	(1)	(1)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷
		(2)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷
		(3)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷
		(4)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷
		(5)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷
	(2)	(1)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷◁5▷◁6▷◁7▷◁8▷◁9▷
		(2)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷◁5▷◁6▷◁7▷◁8▷◁9▷
		(3)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷◁5▷◁6▷◁7▷◁8▷◁9▷
		(4)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷◁5▷◁6▷◁7▷◁8▷◁9▷
		(5)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷◁5▷◁6▷◁7▷◁8▷◁9▷

V	(1)	(イ)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷◁5▷◁6▷◁7▷
		(ロ)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷◁5▷◁6▷◁7▷
		(ハ)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷◁5▷◁6▷◁7▷
		(ニ)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷◁5▷◁6▷◁7▷
		(ホ)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷◁5▷◁6▷◁7▷
	(2)	(1)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷◁5▷◁6▷◁7▷◁8▷
		(2)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷◁5▷◁6▷◁7▷◁8▷
		(3)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷◁5▷◁6▷◁7▷◁8▷
		(4)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷◁5▷◁6▷◁7▷◁8▷
		(5)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷◁5▷◁6▷◁7▷◁8▷

III	(1)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷◁5▷◁6▷◁7▷
	(2)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷◁5▷◁6▷◁7▷
	(3)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷◁5▷◁6▷◁7▷
	(4)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷◁5▷◁6▷◁7▷
	(5)	◁0▷◁1▷◁2▷◁3▷◁4▷◁5▷◁6▷◁7▷


実地研究試験問題

数 学

(数学一般の受験を申請したものは数学一般を解答し、
それ以外のもは数学Ⅰを解答すること。)

昭和51年10月10日 12時30分～14時30分

注 意 事 項

- 1 合図があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 2 本冊子は39ページあります〔数学一般3～22ページ、数学Ⅰ23～39ページ〕。ページの脱落等があった場合には申し出て下さい。
- 3 解答用紙には受験番号が印刷してあります。受験票の受験番号と異っている場合には申し出て下さい。また汚れのあった場合には申し出て下さい。
- 4 解答用紙上部の所定欄に氏名と受験番号を記入し、矢印で示した部分に受験番号をマークして下さい。
- 5 解答は指定された解答欄にマークし、その他の部分には何も書いてはいけません。訂正する場合には必ず消しゴムで完全に消し、消しくずはきれいに取り除いて下さい。
- 6 解答用紙は鉛筆(HB)でマークした部分を機械で直接読みとりますから、下記のマークの例を正しく守って下さい。またマークの濃さは、解答用紙下欄にある例を参照して下さい。
(例)  わくの中を正確にぬりつぶして下さい。
- 7 解答用紙を汚したり、折りまげたりしないで下さい。
- 8 本冊子には計算用紙、解答用紙控が入っているので、適宜利用して下さい。
- 9 本冊子は持ち帰って下さい。

数 学 一 般

〔注 意〕

解答の作成にあたって、表紙の注意の他に、下記の事項を正しく守れ。

I 数学一般を解答するものは、あらかじめ申請したものにかぎる。

数学 I の問題は 23 ページ以下に印刷してある。

II 問題の選択について

問題は全部で 8 題ある。このうち、

問題 I ～問題 IV の 4 題は共通問題、

問題 V ～問題 VIII の 4 題は選択問題

である。選択問題の中から 2 題を選び、共通問題 4 題とあわせて、6 題について解答せよ。

III 解答用紙の記入の方法について

1 得られた答が解答欄にないときは、※の位置にマークせよ。

2 分数の形で答えるときは、既約分数の形にして答えよ。

I 次の にあてはまる数値を求めよ。

1) $\sin\theta - \cos\theta = \frac{1}{2}$ のとき

$$(\sin\theta + \cos\theta)^2 = \frac{\text{ア}}{\text{イ}}$$

2) 500 の約数(1 および 500 を含む)は 個ある。

3) 3つの同好会がある。その会員の集合をそれぞれA, B, Cとすると、Aは5人、Bは4人、Cは7人の会員からなり、AとBに共通な会員が3人、A, B, Cすべてに共通な会員が2人いるという。

このとき、 $(A \cup B) \cap C$ が x 人、 $A \cup B \cup C$ が y 人からなるとすれば、 x および y のとり得る範囲はそれぞれ

$$\text{エ} \leq x \leq \text{オ}$$

$$\text{カ} \leq y \leq \text{キ}$$

である。

計 算 用 紙

Ⅱ 次の にあてはまる数値を求めよ。

1) 三角形 ABC において、 $AB = 3 + \sqrt{3}$ 、 $AC = 2\sqrt{3}$ 、 $BC = \sqrt{6}$ である。

C から AB へ下した垂線の足を H とするとき

$$AH = \boxed{\text{ア}}, \quad CH = \sqrt{\boxed{\text{イ}}}$$

2) A を中心として C を通る円の内部と、B を中心として C を通る円の内部との共通部分の面積は

$$\frac{\boxed{\text{ウ}}}{\boxed{\text{エ}}} \pi + \boxed{\text{オ}} \sqrt{3} + \boxed{\text{カ}}$$

である。

計 算 用 紙

Ⅲ 次の にあてはまる数値を求めよ。

xy 平面上に 2 つの放物線

$$y = x^2 - 4x + 3 \quad \dots\dots(1)$$

$$y = x^2 - 2x + 5 \quad \dots\dots(2)$$

がある。点 P が x 軸上を動くとき、 P を通り y 軸に平行な直線と放物線(1)、(2)との交点をそれぞれ A 、 B とする。

1) P の座標を $(p, 0)$ とすると、点 A における放物線(1)の接線の方程式は

$$y = (\text{ア} p + \text{イ})x + \text{ウ} - p^2$$

であり、点 B における放物線(2)の接線の方程式は

$$y = (\text{エ} p + \text{オ})x + \text{カ} - p^2$$

である。

2) この 2 つの接線の交点の y 座標は、 p の値が のとき最大となり、その最大値は である。

計算用紙

IV 次の にあてはまる数値を求めよ。

A, B, C, Dの4人の間で投票をおこなう。各人が自分以外の1人に投票する確率は
いずれも $\frac{1}{3}$ とする。(各人は自分自身には投票しない。)

1) 4人とも1票ずつを得る確率は $\frac{\text{ア}}{\text{イ}}$ である。

2) 2票を得る者が2人出る確率は $\frac{\text{ウ}}{\text{エ}}$ である。

3) Aがただ1人の最高得票者となる確率は $\frac{\text{オ}}{\text{カ}}$ である。

計 算 用 紙

V 集合

$$M = \{(x, y) \mid x, y \text{ は } 1 \text{ から } 5 \text{ までの整数}\}$$

の要素 (x, y) に対し、次の条件 $p_i (i = 1, 2, 3, 4, 5)$ および $q_j (j = 1, 2, 3, 4, 5)$ を考える。

$$p_i : i - \frac{3}{2} < x < i + \frac{1}{2}$$

$$q_j : j - \frac{3}{2} < y < j + \frac{1}{2}$$

また、条件 r, s について「 r または s 」、「 r かつ s 」および「 r でない」をそれぞれ $r \vee s$, $r \wedge s$ および \bar{r} で表すことにする。このとき

- 1) 条件

ア

 \wedge

イ

 できる M の部分集合は $\{(3, 1), (3, 2), (4, 1), (4, 2)\}$,
 条件

ウ

 \wedge

エ

 できる M の部分集合は $\{(1, 2), (1, 3)\}$,
 条件

オ

 \wedge

カ

 できる M の部分集合は $\{(1, 1)\}$,
 条件

キ

 \wedge

ク

 できる M の部分集合は $\{(3, 1), (3, 2), (3, 3), (3, 4), (3, 5)\}$ である。

上の

--

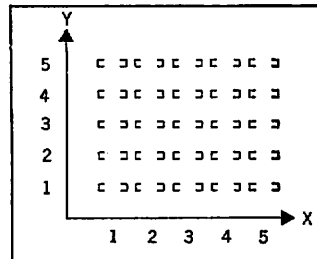
 にあてはまる条件を次の(1)~(10)から選び番号で答えよ。

- (1) p_1 (2) p_2 (3) p_3 (4) p_4 (5) p_5
 (6) q_1 (7) q_2 (8) q_3 (9) q_4 (10) q_5

2) 条件

$$[(p_3 \wedge q_3) \vee (p_5 \wedge q_5)] \wedge (\bar{p}_4 \vee \bar{q}_4)$$

をみたす M のすべての要素の位置にマークせよ。



(下書き用グラフ)

計 算 用 紙

VI 次の にあてはまる数値を求めよ。

$$1) \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ -2 & 4 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \text{ア} \\ \text{イ} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 5 \\ 2 \end{pmatrix}$$

2) 点 (x, y) が直線 $y = mx$ 上にあるとき

$$\begin{pmatrix} 1 & 1 \\ -2 & 4 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} x' \\ y' \end{pmatrix}$$

によって得られる点 (x', y') もまたこの直線上にあるという。このような直線は2つあつて、

$$y = \text{ウ} x$$

および

$$y = \text{エ} x$$

である。

3) 点 (x, y) が、2)で求めた直線上にあるときは、それぞれ

$$\begin{pmatrix} 1 & 1 \\ -2 & 4 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} = \text{オ} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$$

および

$$\begin{pmatrix} 1 & 1 \\ -2 & 4 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} = \text{カ} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$$

が成り立つ。

計 算 用 紙

Ⅶ 次の にあてはまる数値を求めよ。

ある工場では、A、B 2種の製品を生産している。製品A、Bを1kg生産するのに要する電力量と労力および1kgあたりの利益は右の表の通りである。

製 品	電 力 (kW時)	労 力 (人日)	利 益 (万円)
A	8	2	6
B	2	8	10

この工場の1日の電力供給量および労力の限度はそれぞれ21kW時および19人である。また、製品Bの最大生産能力は1日あたり5kgである。

- このとき、利益を最大にするには、1日あたりAを kg, Bを kg 生産すればよい。
- 工程改善により、Aの利益は1kgあたり7万円になることが見込まれる。ただし、Bの利益は変わらない。そのとき、利益を最大にするには、1日あたりAを kg, Bを kg 生産すればよく、利益は1日あたり 万円増加する。

計 算 用 紙

Ⅷ 次の にあてはまる数値を求めよ。

下の流れ図で表されるプログラムがある。データ

L : 6, 3, 4, 9, 1, 0, 2, 5, 1, 4, 1, 0

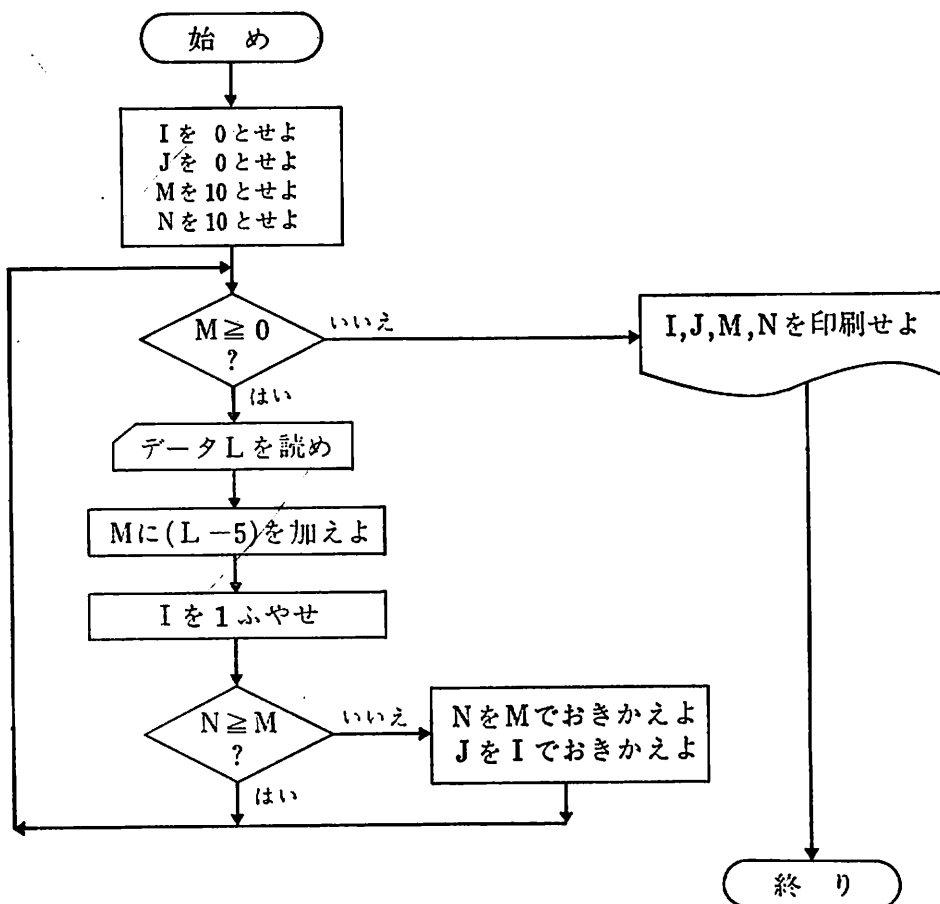
をこの順に入力するとき

1) I = 3 となったときの M の値は ア

2) 計算が終了したときの I, J, M, N の値はそれぞれ

イ, ウ, エ, オ

である。



ただし $A \geq B$ は A と B とを比較して、 $A \geq B$ のときは「はい」、そうでないときは「いいえ」の矢印の方に進むことを意味する。

計 算 用 紙

計 算 用 紙

数 学 I

〔注 意〕

- I 数学一般の問題は3ページから18ページに印刷してある。
- II 解答用紙の記入の方法について
 - 1 得られた答が解答欄にないときは、※の位置にマークせよ。
 - 2 分数の形で答えるときは、既約分数の形にして答えよ。

I 次の にあてはまる数値を求めよ。

1) $\sin \theta - \cos \theta = \frac{1}{2}$ のとき

$$\sin^3 \theta - \cos^3 \theta = \frac{\text{ア}}{\text{イ}}$$

2) 放物線 $y = x^2 - 2mx + 2m + 3$ は、 m の値にかかわらず、定点 $(\text{ウ}, \text{エ})$ を通る。

3) $y = \frac{1}{9}x^2 + 2$ および $6 < x + y \leq 20$ をみたす整数の組 (x, y) の個数は オ である。

計 算 用 紙

II 次の にあてはまる数値を求めよ。

1) 2つの円

$$x^2 + y^2 = 6 \quad \dots\dots(a)$$

$$x^2 + y^2 + 6\sqrt{3} = 2(3 + \sqrt{3})x \quad \dots\dots(b)$$

の交点のうち、第1象限にあるものは $(\sqrt{\text{ア}}, \sqrt{\text{イ}})$ である。

2) 円(a)で囲まれる部分をA, 円(b)で囲まれる部分をBとすると、 $A \cap B$ の面積は

$$\frac{\text{ウ}}{\text{エ}} \pi + \text{オ} \sqrt{3} + \text{カ}$$

である。

計 算 用 紙

Ⅲ 次の にあてはまる数値を求めよ。

xy 平面からそれ自身への、2つの写像 f, g を次のように定める。

$$f: (x, y) \longrightarrow (y, -x)$$

$$g: (x, y) \longrightarrow (x-4, y+2)$$

f と g の合成写像(写像 f をおこなったあと、写像 g をおこなったもの)を $g \circ f$ で表す。

このとき

1) 点 $(-2, 5)$ は $g \circ f$ によって点 (,) にうつる。

2) 点 (,) は $g \circ f$ によってそれ自身にうつる。

3) 直線 $y = x + 2$ の上の点は $g \circ f$ によって直線 $y =$ $x +$ の上の点にうつる。

計 算 用 紙

IV 次の にあてはまる数値を求めよ。

A, B, C, Dの4人の間で投票をおこなう。各人が自分以外の1人に投票する確率はいずれも $\frac{1}{3}$ とする。(各人は自分自身には投票しない)

1) 4人とも1票ずつを得る確率は $\frac{\text{ア}}{\text{イ}}$ である。

2) 2票を得る者が2人出る確率は $\frac{\text{ウ}}{\text{エ}}$ である。

3) Aがただ1人の最高得票者となる確率は $\frac{\text{オ}}{\text{カ}}$ である。

計 算 用 紙

V 次の にあてはまる数値または記号(a, b, c, s, t のいずれか)を選べ。

長さが等しく互いに垂直な方向を持つベクトル \vec{a}, \vec{b} と三角形 ABC があって

$$\vec{AB} = s \vec{a}, \quad \vec{AC} = t \vec{a} + \vec{b} \quad (s, t \text{ は実数})$$

が成り立つものとする。

1) このとき

$$\vec{c} = -\vec{a} + \text{ア} \vec{b} \quad \text{および} \quad -\vec{c}$$

は \vec{AC} と長さが等しく、 \vec{AC} と垂直な方向をもつ。

2) 辺 AB の垂直二等分線上の点 P について

$$\vec{AP} = -\frac{1}{2} \vec{AB} + \text{イ} \vec{c}$$

となる実数 x がある。また、辺 AC の垂直二等分線上の点 Q について

$$\vec{AQ} = -\frac{1}{2} \vec{AC} + \text{ウ} \vec{c}$$

となる実数 y がある。

3) したがって、点 R が上の 2 つの垂直二等分線の交点 ($\triangle ABC$ の外心) であれば

$$\vec{AR} = -\frac{s}{2} \vec{a} + \frac{\text{エ} \left(\text{オ} - \text{カ} \right) + \text{キ}}{2} \vec{b}$$

計 算 用 紙

VI a は 1 より大きい定数とし、2つの関数

$$f(x) = \frac{1}{2}(a^x + a^{-x}), \quad g(x) = \frac{1}{2}(a^x - a^{-x})$$

を考える。次の(ア)~(カ)の各式について、それをみたす実数 x の個数を求めよ。ただし、その式が恒等式のときは、記号 A の位置にマークせよ。

(ア) $f(-x) = -f(x)$

(イ) $g(-x) = g(x)$

(ウ) $g(-x) = -g(x)$

(エ) $f(x) = 2$

(オ) $g(2x) = 2f(x)g(x)$

(カ) $g(2x) = 4g(x)$

計 算 用 紙

計 算 用 紙

計 算 用 紙

計 算 用 紙


実地研究試験問題

理 科

(基礎理科の受験を申請したものは基礎理科1科目のみ解答し、それ以外のものは、
物理、化学、生物、地学の中から2科目を選択して解答すること。)

昭和51年10月11日 9時15分～11時15分

注 意 事 項

- 1 合図があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 2 本冊子は55ページあります〔物理4～11ページ、化学12～19ページ、生物20～27ページ、地学28～37ページ、基礎理科38～51ページ〕。ページの脱落等があった場合には申し出て下さい。
- 3 解答用紙には受験番号が印刷してあります。受験票の受験番号と異っている場合には申し出て下さい。また汚れのあった場合には申し出て下さい。
- 4 解答用紙上部の所定欄に氏名と受験番号を記入し、矢印で示した部分に受験番号をマークして下さい。
- 5 解答は指定された解答欄にマークし、その他の部分には何も書いてはいけません。訂正する場合には必ず消しゴムで完全に消し、消しくずはきれいに取り除いて下さい。
- 6 解答用紙は鉛筆(HB)でマークした部分を機械で直接読みとりますから、下記のマークの例を正しく守って下さい。またマークの濃さは、解答用紙下欄にある例を参照して下さい。
(例)  わくの中を正確にぬりつぶして下さい。
- 7 解答用紙を汚したり、折りまげたりしないで下さい。
- 8 本冊子には草稿用紙、解答用紙控が入っているので、適宜利用して下さい。
- 9 本冊子は持ち帰って下さい。

草稿用紙

物 理

I 水平な地面上に静止していたエレベーターが、鉛直に一定の加速度 a で上昇しはじめた。時間 t_0 後に、エレベーター上から、水平な床に平行に速度 v_0 で、質量 m の小球が投げ出された。次の問の答として適当なものを解答群の中から一つ選べ。

(1) 小球の初速度の地面に対する仰角を θ とすれば、 $\tan \theta$ はいくらか。

- ア 0 イ $\frac{a}{v_0}$ ウ $\frac{at_0}{v_0}$ エ $\frac{v_0}{a}$ オ $\frac{v_0}{at_0}$
 カ $-\frac{a}{v_0}$ キ $-\frac{at_0}{v_0}$ ク $-\frac{v_0}{a}$ ケ $-\frac{v_0}{at_0}$ コ その他

(2) 小球を投げ出した時、エレベーターは地面からどれだけの高さまで昇っているか。

- ア $\frac{1}{2} \frac{v_0^2}{g}$ イ $\frac{1}{2} \frac{v_0^2}{a}$ ウ $\frac{1}{2} gt_0^2$ エ $\frac{1}{2} at_0^2$ オ $\frac{1}{2} (a-g)t_0^2$
 カ $\frac{1}{2} (a+g)t_0^2$ キ $v_0 t_0$ ク at_0^2 ケ $v_0 t_0 - \frac{1}{2} gt_0^2$ コ その他

(3) 小球が通過する道すじで、最も高い点の高さは地面からどれだけか。

- ア $\frac{1}{2} \frac{a^2 t_0^2}{g}$ イ $\frac{1}{2} \frac{v_0^2}{g}$ ウ $\frac{1}{2} at_0^2$
 エ $\frac{1}{2} a \left(1 + \frac{g}{a}\right) t_0^2$ オ $\frac{1}{2} a \left(1 - \frac{g}{a}\right) t_0^2$ カ $\frac{1}{2} a \left(1 + \frac{a}{g}\right) t_0^2$
 キ $\frac{1}{2} a \left(1 - \frac{a}{g}\right) t_0^2$ ク $\frac{1}{2} gt_0^2$ ケ $v_0 t_0 - \frac{1}{2} gt_0^2$
 コ その他

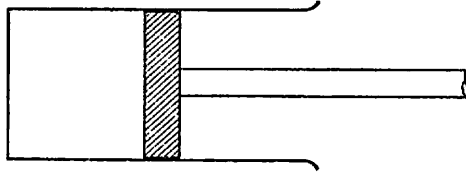
(4) この最も高い点の地面からの高さを h とすると、小球が地面に到達する時の速度の大きさはいくらか。

- ア $\sqrt{2gh}$ イ $\sqrt{2gh + a^2 t_0^2}$ ウ $\sqrt{2gh - a^2 t_0^2}$ エ $\sqrt{2gh - v_0^2}$
 オ $\sqrt{2gh + v_0^2}$ カ $\sqrt{2gh + at_0}$ キ $\sqrt{2gh - at_0}$ ク $\sqrt{2gh + v_0}$
 ケ $\sqrt{2gh} - v_0$ コ その他

(5) この小球が、なめらかな地面ではねかえるとき、小球に作用した力積の大きさはいくらか。ただし、地面とは弾性衝突をする。

- ア $\sqrt{2m^2 gh}$ イ $\sqrt{8m^2 gh}$ ウ $\sqrt{m^2 (2gh + v_0^2)}$
 エ $\sqrt{4m^2 (2gh + v_0^2)}$ オ $\sqrt{2m^2 gh} + mv_0$ カ $\sqrt{8m^2 gh} + 2mv_0$
 キ $\sqrt{4m^2 (2gh + a^2 t_0^2)}$ ク $\sqrt{4m^2 (2gh - a^2 t_0^2)}$ ケ $\sqrt{8m^2 gh} + 2mat_0$
 コ その他

II 図のように水平に置かれた円筒の中へなめらかに動くピストンを差しこみ、一定量の気体を閉じこめて、その圧力が大気圧とつり合うようにした。閉じこめた気体の質量を M 、温度を T_0 とし、大気圧を P_0 、ピストンの断面積を S とする。次の問の答として適当なものを解答群の中から一つ選べ。



(1) 外との熱の出入を断って、ピストンを距離 l だけ押し、気体を圧縮した後の気体の温度を T_1 とし、また、ピストンを最初の位置から距離 l だけ引いて、気体を膨張させた後の気体の温度を T_2 とする。次のどの関係が正しいか。

- ア $T_2 < T_0 < T_1$
- イ $T_1 < T_0 < T_2$
- ウ $T_1 = T_2 = T_0$
- エ $T_0 < T_1 = T_2$
- オ $T_1 = T_2 < T_0$
- カ $T_0 < T_1 < T_2$
- キ $T_2 < T_1 < T_0$
- ク その他

(2) 次に、円筒のまわりを熱源でゆっくり加熱したら、気体の圧力と大気圧とがつり合いを保ちながら、気体が膨張し、ピストンが距離 L だけ動いた。次のどの記述が正しいか。

- ア 気体が $P_0 L$ だけ外へ仕事をする。
- イ 気体が $P_0 L$ だけ外から仕事をされる。
- ウ 気体が $P_0 S L$ だけ外へ仕事をする。
- エ 気体が $P_0 S L$ だけ外から仕事をされる。
- オ 気体が $\frac{1}{2} P_0 S L^2$ だけ外へ仕事をする。
- カ 気体が $\frac{1}{2} P_0 S L^2$ だけ外から仕事をされる。
- キ その他

(3) 設問(2)の操作におけるこの気体の比熱を c とする。この操作で気体の温度が T_0 から T_3 になった。この間に熱源から気体へ入った熱量はいくらか。

ア $\frac{T_3 - T_0}{c}$

イ $\frac{M(T_3 - T_0)}{c}$

ウ $\frac{ML(T_3 - T_0)}{c}$

エ $c(T_3 - T_0)$

オ $cM(T_3 - T_0)$

カ $cML(T_3 - T_0)$

キ その他

Ⅲ 一端を閉じたガラス管の管口で、振動数 500 Hz のおんさを振動させる。音速は 340 m/s として、次の間に最も適当な答を解答群の中から選べ。

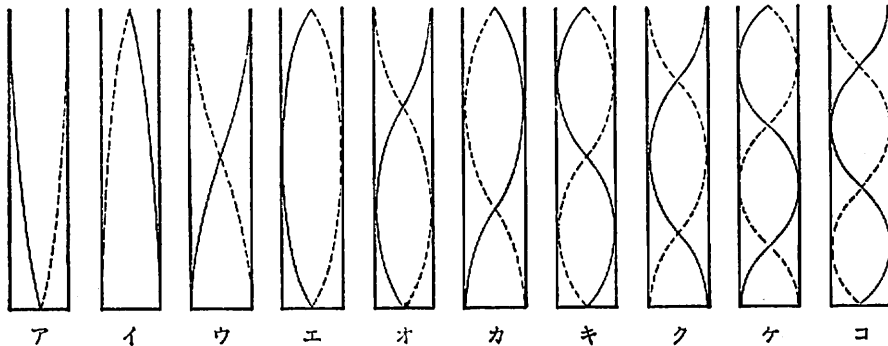
(1) このおんさの発する音波の波長は何 cm か。

- | | | | | |
|--------|-------|-------|-------|-------|
| ア 14.7 | イ 34 | ウ 50 | エ 68 | オ 147 |
| カ 160 | キ 340 | ク 500 | ケ 840 | コ その他 |

(2) 次にあげる長さ(単位 cm)のガラス管のうち、おんさと共鳴するものはどれか。

- | | | | | |
|------|------|------|------|------|
| ア 29 | イ 34 | ウ 40 | エ 46 | オ 51 |
| カ 56 | キ 62 | ク 68 | ケ 73 | コ 78 |

(3) 設問(2)で選んだガラス管内の気柱の振動のようすは、下の図の中のどれで表わされるか。



(4) 設問(3)で選んだ図で、気柱の振動のようすが実線の状態から点線の状態にかわるまでに何秒かかるか。ただしこの図は媒質の各点の変位が最大の状態を示しているものとする。

- | | | | | |
|--------------------|--------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| ア $\frac{1}{2000}$ | イ $\frac{1}{1000}$ | ウ $\frac{1}{500}$ | エ $\frac{1}{250}$ | オ $\frac{1}{100}$ |
| カ $\frac{1}{50}$ | キ $\frac{1}{10}$ | ク 1 | ケ 10 | コ 100 |

IV(A) 図Aのように、容量 C_1 , C_2 のコンデンサーと起電力 E の電池をつなぐ。コンデンサーは接続の前には帯電していなかったものとして、次の問の答を解答群Aの中からそれぞれ一つ選べ。

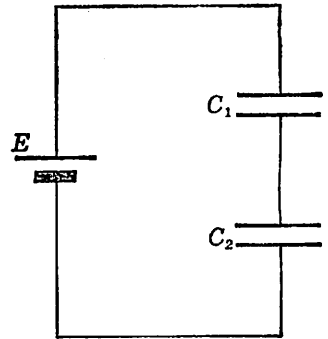


図 A

- (a) C_1 のコンデンサーにかかる電圧はいくらか。
- (b) C_2 のコンデンサーにかかる電圧はいくらか。
- (c) コンデンサーにたくわえられる全エネルギーはいくらか。

解答群 A

ア $\frac{C_1}{C_2}E$ イ $\frac{C_2}{C_1}E$ ウ $\frac{C_1}{C_1+C_2}E$ エ $\frac{C_1+C_2}{C_1}E$ オ $\frac{C_2}{C_1+C_2}E$
 カ $\frac{C_1+C_2}{C_2}E$ キ $\frac{C_1C_2}{C_1+C_2}E^2$ ク $\frac{1}{2}\frac{C_1C_2}{C_1+C_2}E^2$ ケ $\frac{1}{2}(C_1+C_2)E^2$
 コ $\frac{1}{2}\left(\frac{1}{C_1} + \frac{1}{C_2}\right)E^2$

(B) 次の図Bのように、容量が C_1 , C_2 , C_3 のコンデンサーと起電力が E_1 , E_2 の電池を接続する。コンデンサーには図に示すように電気がたくわえられ、その電気量をそれぞれ Q_1 , Q_2 , Q_3 とする。

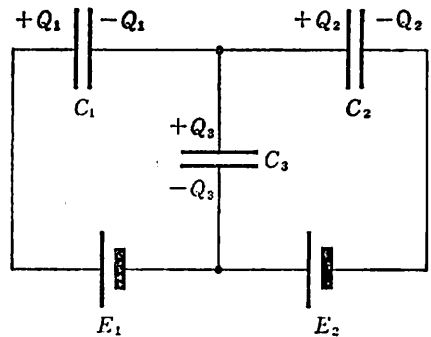


図 B

- (1) 接続の前にはコンデンサーは帯電していなかったとすれば、帯電量の間になり立つ関係式を次の解答群 B₁ の中から一つ選べ。

解答群 B₁

ア $Q_1 + Q_2 + Q_3 = 0$ イ $-Q_1 + Q_2 + Q_3 = 0$
 ウ $Q_1 - Q_2 + Q_3 = 0$ エ $Q_1 + Q_2 - Q_3 = 0$

- (2) 次の式の の中に入れる答を(イ)のそれぞれについて、解答群 B₂ の中から二つずつ選べ。

(イ) 図Bで $E_1C_1C_3$ をまわる道筋に沿って電圧の変化を考えると

+ = E_1

(ロ) 同じく $E_2C_3C_2$ の道筋を考えると

+ = E_2

解答群 B₂

$$\begin{array}{l} \text{ア } \frac{Q_1}{C_1} \quad \text{イ } -\frac{Q_1}{C_1} \quad \text{ウ } C_1 Q_1 \quad \text{エ } -C_1 Q_1 \quad \text{オ } \frac{Q_2}{C_2} \quad \text{カ } -\frac{Q_2}{C_2} \\ \text{キ } C_2 Q_2 \quad \text{ク } -C_2 Q_2 \quad \text{ケ } \frac{Q_3}{C_3} \quad \text{コ } -\frac{Q_3}{C_3} \quad \text{サ } C_3 Q_3 \quad \text{シ } -C_3 Q_3 \end{array}$$

- (3) $C_1 = 6 \times 10^{-7}$ フアラド, $C_2 = 3 \times 10^{-7}$ フアラド, $C_3 = 10^{-7}$ フアラド, $E_1 = 15$ ボルト, $E_2 = 10$ ボルトとすれば Q_3 の値はいくらか。答を $x \times 10^y$ クーロンの形にしたとき, 解答群 B₃ の中からもっとも適当な x および y の値を選べ。

解答群 B₃

ア	1	イ	2	ウ	3	エ	4	オ	5	カ	6	キ	7
ク	8	ケ	9	コ	0	サ	-1	シ	-2	ス	-3	セ	-4
ソ	-5	タ	-6	チ	-7	ツ	-8	テ	-9	ト	-14		

草 稿 用 紙

物理 解答用紙控

I	(1)	正しくなく、誤りがある
	(2)	正しくなく、誤りがある
	(3)	正しくなく、誤りがある
	(4)	正しくなく、誤りがある
	(5)	正しくなく、誤りがある

II	(1)	正しくなく、誤りがある
	(2)	正しくなく、誤りがある
	(3)	正しくなく、誤りがある

III	(1)	正しくなく、誤りがある
	(2)	正しくなく、誤りがある
	(3)	正しくなく、誤りがある
	(4)	正しくなく、誤りがある

IV	A	(a)	正しくなく、誤りがある	
		(b)	正しくなく、誤りがある	
		(c)	正しくなく、誤りがある	
	B	(1)	正しくなく、誤りがある	
		(2)	(い)	正しくなく、誤りがある 二箇所記入
			(ろ)	正しくなく、誤りがある 二箇所記入
		(3)	x	正しくなく、誤りがある 二箇所記入
y	正しくなく、誤りがある 二箇所記入			

化 学

I 解答は、それぞれの問について(A)~(F)のうちから最も適当なものを一つ選べ。

問 1 次の物質のうち、水の中に保存しなければならないものはどれか。

- (A) 五酸化リン(五酸化二リン) (B) カーバイド (C) 金属マグネシウム
(D) 黄リン (E) 酸化カルシウム (F) 金属ナトリウム

問 2 次の化学式で表される物質をブンゼンバーナーで700~800℃に加熱した場合、分解して発生する気体がH₂Oだけであるような物質はどれか。

- (A) Na₂CO₃ · 10 H₂O (B) CuSO₄ · 5 H₂O (C) NaOH
(D) NaHCO₃ (E) (NH₄)₂SO₄ (F) H₂SO₄

問 3 次の操作で、酸素を発生するのはどれか。

- (A) 塩化ナトリウムに濃硫酸を加えて熱する
(B) 硫化鉄に塩酸を加える
(C) 過酸化水素水に二酸化マンガンを加える
(D) 希硝酸に銅片を加える
(E) 二酸化マンガんに濃塩酸を加えて熱する
(F) 水酸化ナトリウムの水溶液にアルミニウム片を加える

問 4 (i)~(iv)の記述のうちから、正しいものだけを選び出した組合せはどれか。

- (i) ミョウバンAlK(SO₄)₂ · 12H₂O を水に溶かした溶液は中性である。
(ii) 水素イオン濃度が10倍になると、pHの値は1だけ小さくなる。
(iii) 酢酸CH₃COOHの水溶液を水で薄めると、溶液中の酢酸イオンの濃度と酢酸分子の濃度の比[CH₃COO⁻]/[CH₃COOH]は大きくなる。
(iv) 純水のpHの値は一定で、温度が変わっても変化しない。

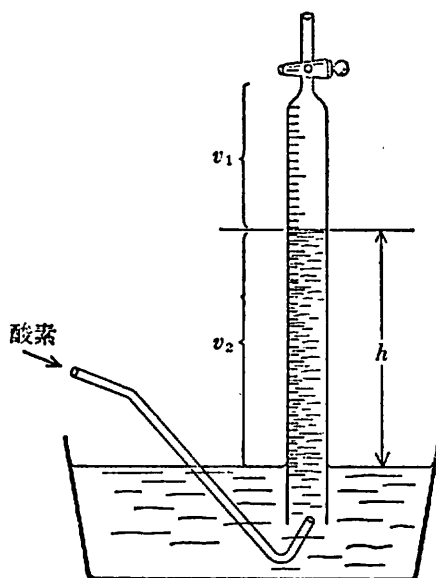
- (A) (i)と(ii) (B) (i)と(iii) (C) (i)と(iv)
(D) (ii)と(iii) (E) (ii)と(iv) (F) (iii)と(iv)

問 5 次の反応のうち、酸化還元反応でないものはどれか。

- (A) $2\text{Na} + 2\text{H}_2\text{O} \longrightarrow 2\text{NaOH} + \text{H}_2$
- (B) $2\text{KI} + \text{Br}_2 \longrightarrow 2\text{KBr} + \text{I}_2$
- (C) $\text{N}_2 + 3\text{H}_2 \longrightarrow 2\text{NH}_3$
- (D) $2\text{H}_2\text{S} + \text{SO}_2 \longrightarrow 3\text{S} + 2\text{H}_2\text{O}$
- (E) $[\text{Ag}(\text{NH}_3)_2]\text{Cl} + 2\text{HNO}_3 \longrightarrow \text{AgCl} + 2\text{NH}_4\text{NO}_3$
- (F) $\text{Fe} + 2\text{HCl} \longrightarrow \text{FeCl}_2 + \text{H}_2$

問 6 右の図のようにして酸素を水上置換で集めた。水上にたまった酸素のモル数を求めるのに、次の量のうち必要でないものの組合せはどれか。

- v_1 …… 気体の体積
- v_2 …… 水柱の体積
- h …… 水柱の高さ
- p_1 …… 外気圧
- p_2 …… 水蒸気圧
- T …… 温度
- w …… 酸素の溶解度



- (A) p_1 と v_2
- (B) p_1 と w
- (C) v_2 と w
- (D) h と p_2
- (E) p_2 と v_2
- (F) T と h

問 7 電池についての次の記述のうち、正しくないものはどれか。

- (A) 2種類の金属を組み合わせて電池をつくるとき、イオン化傾向の差が大きいほど、起電力は大きい。
- (B) 2種類の金属を両極とした電池では、イオン化傾向が大きい方の極が正極になる。
- (C) 鉛蓄電池では、放電するにしたがい硫酸の濃度は減少する。
- (D) 鉛蓄電池の正極は、酸化剤としてのはたらきももっている。
- (E) 鉛蓄電池が放電する反応は、発熱反応である。
- (F) 電池を放電させた場合、正極では還元反応が起こり、負極では酸化反応が起こる。

問 8 次の表は、反応物質も生成物質もすべて気体であるような化学反応の平衡状態が、温度および圧力によってどのように変わるかを、平衡混合物中に含まれる生成物質の分圧で示したものである。

気体平衡混合物中に含まれる生成物質の分圧		10	50	100
全 圧 (atm)				
分 圧 200 °C (atm) 400 °C		5.07	37.2	81.5
		0.385	7.65	25.1

この反応についての次の記述のうち、正しいものはどれか。

- (A) この反応は発熱反応で、反応が進んでも気体分子の数は変化しない。
- (B) この反応は吸熱反応で、反応が進んでも気体分子の数は変化しない。
- (C) この反応は発熱反応で、反応が進むと気体分子の数は増加する。
- (D) この反応は吸熱反応で、反応が進むと気体分子の数は増加する。
- (E) この反応は発熱反応で、反応が進むと気体分子の数は減少する。
- (F) この反応は吸熱反応で、反応が進むと気体分子の数は減少する。

問 9 実在気体は理想気体と違って、厳密にはボイル・シャルルの法則に合わない。その理由について考察した次の記述のうち、正しいものはどれか。

- (A) 実在気体は、ごくわずかではあるが器壁との間で化学反応を起こして平衡状態になり、圧力や温度を変えると平衡が移動するが、理想気体ではこのような反応を無視しているため。
- (B) 実在気体の分子は空間を飛び回っているが、理想気体では、気体分子は空間を飛び回っていないと仮定しているため。
- (C) 実在気体の分子も理想気体の分子も空間を飛び回っているが、実在気体の分子は、分子どうしがひんぱんに衝突しているのに対し、理想気体では分子どうしの衝突を無視しているため。
- (D) 理想気体の分子の平均速度は、温度が変わらなければ分子の質量が違っていても変わらないが、実在気体では、質量の小さい分子ほど平均速度が大きい。
- (E) 実在気体では、その種類によって分子の大きさが違うが、理想気体では、その種類にかかわらず、すべての分子が一定の大きさをもっていると仮定しているため。
- (F) 実在気体では、分子どうしの間にある種の力がはたらいているが、理想気体では分子どうしの間を力を無視しているため。

II

問 1 CO_2 (気体), H_2O (気体), およびメタン CH_4 (気体)の生成熱を, それぞれ 94, 58, および 18 kcal/mol とすると, メタンの燃焼熱は何 kcal/mol か。

答の数値は, 解答例にならって, 100 の位(a), 10 の位(b), 1 の位(c)の数字を, それぞれぬりつぶして示せ。

解答例 : 62 kcal/mol の場合

(a)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(b)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(c)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9

問 2 次の (i)~(iii) に該当するものをそれぞれ, (A)~(G) の物質のうちから選べ(正答は一つずつとは限らない)。

(i) 一定量の水にいくらでも溶け, 飽和溶液をつくらないもの

(ii) 水に溶かすと, コロイド溶液になるもの

(iii) 成分元素の種類が最も少ないもの

(A) カゼイン(タンパク質の 1 種)

(B) 酢酸

(C) ベンゼン

(D) エチルアルコール(エタノール)

(E) ブドウ糖(グルコース)

(F) セルロース

(G) メタン

III 試薬①~⑥と器具⑦~⑮のうち適当なものを使って、食用酢[†]の中に含まれている酸の規定度を求める手順を、(i)~(vi)に示した。

- 〔試薬〕 ① 0.100 N 硝酸銀水溶液 ② 0.100 N シュウ酸水溶液
③ 約 0.1 N 水酸化ナトリウム水溶液 ④ フェノールフタレイン溶液
⑤ メチルオレンジ溶液 ⑥ リトマス溶液

- 〔器具〕 ⑦ てんびん ⑧ スタンド(クランプ付) ⑨ ビュレット
⑩ メスシリンダー ⑪ メスフラスコ ⑫ 滴下漏斗 ⑬ 漏斗
⑭ ビベット(ホールビベット) ⑮ 三角フラスコ

〔手順〕

- (i) 食用酢を正確に 5 倍に薄め、この薄めた溶液中の酸の規定度を求めるために、まず滴定に使う の規定度を正確に求める。
(ii) そのため、一定体積の を を用いて正確にはかりとり、三角フラスコに入れる。
(iii) をスタンドにとりつけて垂直に保ち、その中に を入れる。
(iv) 三角フラスコにはかりとった溶液に、指示薬として を 1~2 滴加えて滴定する。滴定の終点は、指示薬の変色により確かめる。
(v) 次に、同様にして 5 倍に薄めた食用酢の水溶液を一定体積だけ正確にはかりとって三角フラスコに入れ、 により滴定する。
(vi) (v)で求めた酸の規定度を 5 倍する。

問 1 ~ に入れる適当な語を、①~⑮から選べ。

問 2 (iv)の指示薬の変色を表すものは、次のうちどれか。

- (ア) 赤色から黄色 (イ) 赤色から青色 (ウ) 赤色から無色 (エ) 青色から赤色
(オ) 青色から無色 (カ) 無色から青色 (キ) 無色から赤色 (ク) 黄色から赤色

問 3 (ii)の操作ではかりとった量が 20.00 ml, (iv)の滴定に要した溶液の量が 19.05 ml, (v)の操作ではかりとった量が 20.00 ml, (v)の滴定に要した溶液の量が 24.00 mlであったとする。もとの食用酢の中の酸の規定度(N)は、次の値のうちどれに最も近いか。

- (A) 0.079 (B) 0.095 (C) 0.105 (D) 0.126 (E) 0.395
(F) 0.630 (G) 0.950 (H) 1.05

計 算 用 紙

計 算 用 紙

化学 解答用紙控

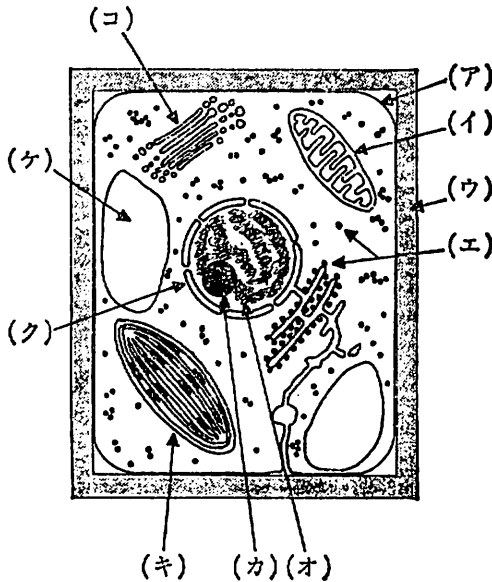
I	問 1	「A」	「B」	「C」	「D」	「E」	「F」
	問 2	「A」	「B」	「C」	「D」	「E」	「F」
	問 3	「A」	「B」	「C」	「D」	「E」	「F」
	問 4	「A」	「B」	「C」	「D」	「E」	「F」
	問 5	「A」	「B」	「C」	「D」	「E」	「F」
	問 6	「A」	「B」	「C」	「D」	「E」	「F」
	問 7	「A」	「B」	「C」	「D」	「E」	「F」
	問 8	「A」	「B」	「C」	「D」	「E」	「F」
	問 9	「A」	「B」	「C」	「D」	「E」	「F」

II	問 1	(a)	「0」	「1」	「2」	「3」	「4」	「5」	「6」	「7」	「8」	「9」
		(b)	「0」	「1」	「2」	「3」	「4」	「5」	「6」	「7」	「8」	「9」
		(c)	「0」	「1」	「2」	「3」	「4」	「5」	「6」	「7」	「8」	「9」
	問 2	(1)	「A」	「B」	「C」	「D」	「E」	「F」	「G」			
		(2)	「A」	「B」	「C」	「D」	「E」	「F」	「G」			
		(3)	「A」	「B」	「C」	「D」	「E」	「F」	「G」			

III	問 1	(a)	「1」	「2」	「3」	「4」	「5」	「6」	「7」	「8」	「9」	「0」	「1」	「2」	「3」	「4」	「5」
		(b)	「1」	「2」	「3」	「4」	「5」	「6」	「7」	「8」	「9」	「0」	「1」	「2」	「3」	「4」	「5」
		(c)	「1」	「2」	「3」	「4」	「5」	「6」	「7」	「8」	「9」	「0」	「1」	「2」	「3」	「4」	「5」
		(d)	「1」	「2」	「3」	「4」	「5」	「6」	「7」	「8」	「9」	「0」	「1」	「2」	「3」	「4」	「5」
		(e)	「1」	「2」	「3」	「4」	「5」	「6」	「7」	「8」	「9」	「0」	「1」	「2」	「3」	「4」	「5」
	問 2	「7」	「1」	「7」	「2」	「7」	「7」	「7」	「7」	「7」	「7」	「7」					
	問 3	「A」	「B」	「C」	「D」	「E」	「F」	「G」	「H」								

生 物

I 下図は、いくぶん原形質分離をおこしている植物細胞の薄い切片について、電子顕微鏡で観察される構造を模式的に描いたものである。この図に関する下記の問題に答えよ。



(1) (ア)~(オ)の矢印で示されている部分の名称を下記の語群から選べ。

- | | | |
|-------------|------------|--------|
| 1 液 胞 | 2 核 膜 | 3 ゴルジ体 |
| 4 細胞板 | 5 細胞壁 | |
| 6 細胞膜(原形質膜) | 7 仁 | |
| 8 染色体(染色質) | 9 中心体 | |
| 10 紡錘体 | 11 ミトコンドリア | |
| 12 葉緑体 | 13 リボゾーム | |

(2) 次の a ~ e の事項と特に密接に関係しているものを、上の(1)の語群のなかから選べ。

- | | |
|------------------|-----------|
| a クエン酸回路(クレブス回路) | b 明反応 |
| c タンパク質合成 | d 木化(木質化) |
| e 半透性 | |

(3) (2)にあげた a ~ e の各事項と特に密接に関係している事項を下記の語群から選べ。

- | | | |
|----------|-------------------|--------|
| f アミノ酸 | g アントシアン(アントシアニン) | h 道管細胞 |
| i インシュリン | j 酸素呼吸 | k 膨 圧 |
| m 独立栄養 | n 従属栄養 | l 窒素同化 |
| | o 光周性 | |

II 次の文(A~C)の空欄に入れる適切な語を、 内に指定してある I または II の語群から選べ。

A ^(a) I が、エンドウについて行った交配実験の結果をまとめ、遺伝要素を推定したのは1865年のことであった。この研究の価値は長い間認められなかったが、1900年に至りド=フリース等によってその重要性が認められ、その後の遺伝学発展のきっかけとなった。1920年代には、シ₂ウジ₂ウバエ突然変異体の遺伝分析に基づいて^(b) I が遺伝子説を発表し、また、マラーはX線による突然変異の誘起に成功するなど、遺伝子の存在はますます確実なものと思われるようになった。40年代には^(c) I 等がアカバソカビなどの生化学的変異の研究から1遺伝子・1酵素説を唱え、遺伝子の働きの重要な一面を強調した。そして、50年代にはついに遺伝物質 DNA の分子構造が^(d) I 等によって明らかにされた。しわになる種子、緑色のまゝの子葉、草たけの低いエンドウなどの形質を発現するものとなり、それらを子孫に伝えるものとして1865年に推定された要素は、わずか^(e) II 種類のヌクレオチド(デオキシリボヌクレオチド)から成る高分子物質 DNA であったのである。

B イネのデンプンにはうるち性ともち性がある。^(a) 胚乳ではうるち性遺伝子が優性として働くので、この遺伝子があればうるち性のデンプンがつくられる。また、花粉の中でも若干のデンプンがつくられているので、ヨウ素反応によってうるち性かもち性を識別できる。花粉の場合は、そのもっている遺伝子によってつくられるデンプンの性質がきまるのである。いま、うるちイネ(純系)ともちイネ(純系)を交配して雑種第一代をつくり、その花粉をヨウ素反応で調べるならば、うるち性を示す花粉ともち性を示す花粉の比は^(a) II 対1になり、また、この雑種第一代のイネを自家受粉させると、うるち性の種子ともち性の種子が^(b) II 対1の比で得られるであろう。

C 両親の血液型がB型とAB型であったA型の人が、AB型の人と結婚した場合、その子供に出現するA型、B型、AB型の理論比は^(a) II 対^(b) II 対1である。

- 語群 I
- | | | | |
|-------------|----------|--------------|--------|
| 1 シュワン | 2 ビードル | 3 パスツール | 4 ワトソン |
| 5 ブフナー | 6 シュペーマン | 7 モーガン(モルガン) | |
| 8 ランドシュタイナー | 9 メンデル | 10 スタンリー | |

- 語群 II
- | | | | |
|-----|-----|-----|-----|
| ア 1 | イ 2 | ウ 3 | エ 4 |
| オ 5 | カ 6 | | |

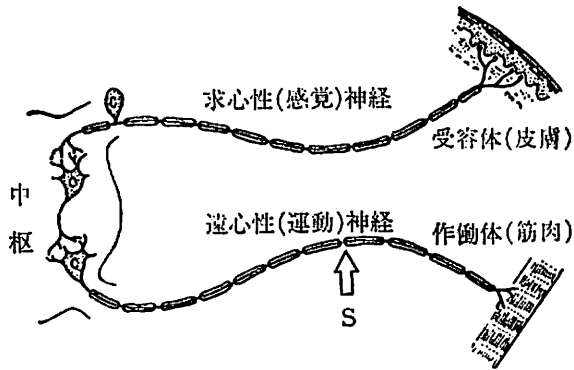
Ⅲ A つぎの現象ア～オのそれぞれに関与するホルモンを語群〔A〕から、またそのホルモンを生産する器官または組織を語群〔B〕から一つずつ選べ。

- ア 食事のあと一時的に上昇した血糖量は、やがて正常のレベルにもどる。
- イ 激しい運動をすると肝臓のグリコーゲン分解が促進される。
- ウ オタマジャクシから脳下垂体を除去するといつまでも変態しない。
- エ 水を多量にのんでも血液中の塩濃度は変わらない。
- オ 驚いたり緊張したりすると心臓のはく動が高まったり、血管が収縮したりする。

- 〔A〕
- | | | |
|-----------------|-----------------|----------|
| 1 アセチルコリン | 2 アドレナリン | 3 インシュリン |
| 4 チロキシン(サイロキシン) | 5 アラタ体ホルモン | 6 パラトルモン |
| 7 オーキシン | 8 無機質(鉱質)コルチコイド | |

- 〔B〕
- | | | |
|---------|--------------|---------|
| 1 交感神経 | 2 副交感神経 | 3 すい臓 |
| 4 甲状腺 | 5 副甲状腺(上皮小体) | 6 副じん髄質 |
| 7 副じん皮質 | 8 脳下垂体中葉 | |

B 図はヒトの神経細胞の連絡の一例である。次の各文の内容の正誤を判定し、正しいものは□○□, 誤りのあるものは□×□にマークせよ。



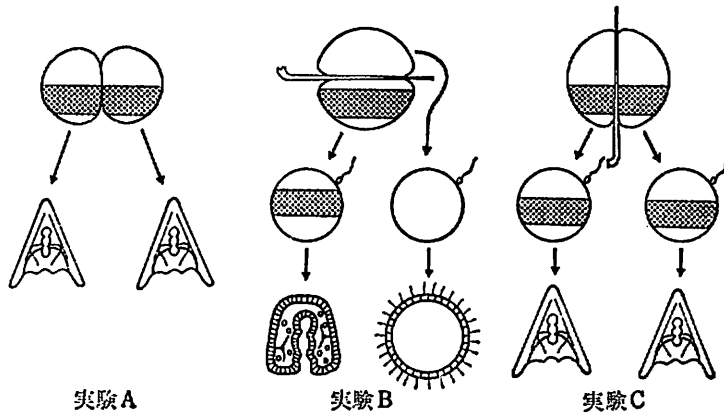
- ア 図のS点で神経を刺激すると、神経に生じた興奮は、この点から筋肉に向かう方向にだけ伝わり、筋肉が収縮する。
- イ 神経の興奮は、刺激点Sから両方向に伝わる。このため一方では筋肉が収縮し、もう一方の皮膚では痛みを感じる。
- ウ 興奮は刺激点Sから両方向に伝わるが、筋肉と逆方向に伝わったものは、途中のある点で消滅する。
- エ シナプスでは、つねに神経細胞どうしの原形質がつながっているので、興奮が伝わって行くことができる。
- オ 同じ強さの刺激を与えても、刺激点Sと筋肉の距離が近いほど、筋肉は強く収縮する。
- カ S点に加えられた刺激が強いほど、神経の1回の興奮も大きくなり、したがって筋肉も強く収縮する。
- キ 受容体のある皮膚を、いろいろな強さで刺激すると、それに応じて感覚神経に生ずる興奮の1回ごとの大きさが変わる。
- ク 神経繊維を伝わる興奮の大きさは、刺激の強弱に関係なく、つねに一定である。
- ケ 興奮のさいには、神経細胞の膜のイオン透過性が急に变化して、 K^+ イオンが細胞内に流れ込む。
- コ 興奮として神経を伝わる電気的变化を、活動電位(活動電流)という。

IV A ウニ卵について行われた次の実験A～Cを図を参照しながらよく読み、問に答えよ。図中、点であらわしてある部分は植物半球に分布する色素粒を示す。

実験A 受精卵が2細胞期になったとき二つの割球をひき離して飼育したところ、それぞれ小形ながら正常なブルテウス幼生になった。

実験B ガラス針を使って未受精卵を赤道面で二つに分け、それぞれに精子をかけると、動物極側に由来するものは胞胚期に発生が止まり、植物極側に由来するものは胚期に達し不完全ながら骨片や間充織を形成した。

実験C ガラス針を使って未受精卵を動植物極を通る軸に沿って二つに分け、それぞれに精子をかけると、小形ながら正常なブルテウス幼生になった。



問 つぎの文章ア～クのうち、上の実験結果の解釈として正しいものは□○□、誤りのあるものは□×□、この実験結果から正誤の判定ができないものは□△□にそれぞれマークせよ。

ア ウニ卵は核相がnでも2nでも正常な幼生をつくる。

イ ウニ卵は精子なしでも発生を開始する。

ウ ウニ卵の動物半球には中胚葉性、内胚葉性の器官をつくる能力がない。

エ ウニ卵の植物半球は内胚葉性器官をつくるが、中胚葉性器官をつくる能力はない。

オ 胚の形成能力は受精時の卵核の位置によって決まる。

カ 胚の形成能力を支配する要因は主として細胞質にある。

キ 正常な幼生に発生するためには色素粒が含まれることが必要である。

ク 正常な幼生に発生するためには動物極側と植物極側の細胞質を含むことが必要である。

B 次の文の空欄に入れる適切な語を、下の語群から一つずつ選べ。

コケ植物やシダ植物では無性世代と有性世代が交互に現われる。コケ植物の緑色の植物体は^(a) [] 世代でその核相は^(b) [] である。この植物体はシダ植物の^(c) [] に相当するものである。コケ植物でもシダ植物でも減数分裂は^(d) [] がつくられるとき行われる。シダ植物と種子植物の生活史を比較すると、種子植物の^(e) [] 世代にあたる部分は著しく退化していることがわかるが、胚珠の中でつくられる^(f) [] 胚嚢細胞はシダ植物の^(g) [] に相当し、胚嚢はシダ植物の^(h) [] にあたるものと考えられる。

- | | | | | |
|---------|----------|------|-------|--------|
| 1 栄養体 | 2 原糸体 | 3 有性 | 4 無性 | 5 前葉体 |
| 6 単相(n) | 7 複相(2n) | 8 胞子 | 9 遊走子 | 10 配偶子 |

計 算 用 紙

生物 解答用紙控

I	(1)	ア	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13
		イ	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13
		ウ	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13
		エ	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13
		オ	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13
		カ	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13
		キ	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13
		ク	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13
		ケ	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13
		コ	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13
	(2)	a	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13
		b	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13
		c	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13
		d	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13
		e	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13
(3)	a	f a e g h a e i a e j a e k a e l a e m a e n a e o a	
	b	f a e g h a e i a e j a e k a e l a e m a e n a e o a	
	c	f a e g h a e i a e j a e k a e l a e m a e n a e o a	
	d	f a e g h a e i a e j a e k a e l a e m a e n a e o a	
	e	f a e g h a e i a e j a e k a e l a e m a e n a e o a	

III	A	ア	(A) 1 2 3 4 5 6 7 8	(B) 1 2 3 4 5 6 7 8	
		イ	(A) 1 2 3 4 5 6 7 8	(B) 1 2 3 4 5 6 7 8	
		ウ	(A) 1 2 3 4 5 6 7 8	(B) 1 2 3 4 5 6 7 8	
		エ	(A) 1 2 3 4 5 6 7 8	(B) 1 2 3 4 5 6 7 8	
		オ	(A) 1 2 3 4 5 6 7 8	(B) 1 2 3 4 5 6 7 8	
		B	ア	○	×
			イ	○	×
			ウ	○	×
			エ	○	×
			オ	○	×

II	A	a	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
		b	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
		c	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
		d	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
	B	a	ア イ ウ エ オ カ キ ク ケ コ
		b	ア イ ウ エ オ カ キ ク ケ コ
	C	a	ア イ ウ エ オ カ キ ク ケ コ
		b	ア イ ウ エ オ カ キ ク ケ コ

IV	A	ア	○	×	△
		イ	○	×	△
		ウ	○	×	△
		エ	○	×	△
		オ	○	×	△
		カ	○	×	△
		キ	○	×	△
	B	ク	○	×	△
		a	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10		
		b	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10		
		c	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10		
		d	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10		
		e	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10		
		f	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10		
		g	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10		

地 学

I A, B, C, Dの4種類の岩石がある。それぞれについて観察された事項は次のとおりである。

A 暗灰色で石基と斜長石、輝石、カンラン石の斑晶からなり、斑状組織を示しており、比重は3.0であった。

B 径約1/2mm程度の小さい鉱物片、岩石片の粒からなり、粒の形は丸みをおびたものが多い。鉱物の中では石英が多く、野外の露頭では顕著な層理が認められた。

C 平行にうすくはげやすい性質(片理)が認められ、おもに石英、斜長石、黒雲母、白雲母からなり、石ボクも含まれていた。

D 数mm程度の大きさのほほ粒のそろった角ばった結晶の集合からなり、一様な組織の白っぽい岩石で、おもに石英、カリ長石、斜長石、黒雲母からなる。無色鉱物に比較し有色鉱物の量は少ない。比重は2.7であった。

1から5までの次の各問に答えよ。

1 A, B, C, Dの岩石は、それぞれ次のどの岩石の分類に入るか。

- ア 深成岩
- イ 火山岩(噴出岩)
- ウ たい積岩
- エ 変成岩

2 Dについて、岩石の分類を決定した理由として、次のうち適当なものを一つえらべ。

- ア 有色鉱物の量が少ない。
- イ 石英とカリ長石を含んでいる。
- ウ 数mm程度の大きさのほほ粒のそろった角ばった結晶の集合で、一様な組織である。
- エ 比重が2.7で白っぽい岩石である。

3 Aの化学組成をDと比較したときの顕著な差異として、次のうち適当なものを一つえらべ。

- ア カリウムの含有量が多い。

- イ ナトリウムの含有量が多い。
 - ウ アルミニウムの含有量が多い。
 - エ 鉄、マグネシウムの含有量が多い。
- 4 A、Dの岩石中に含まれている斜長石のCa含有量を比較した場合について、次のうち適当なものを一つえらべ。
- ア Aの方がDより多い。
 - イ AとDとは同じである。
 - ウ Aの方がDより少ない。
 - エ Aの方がDより多いことも少ないこともある。
- 5 B、C、Dの岩石中に含まれている石英の成り方として、次のうちから適当なものをそれぞれ一つずつえらべ。
- ア 溶液中から沈でんした。
 - イ マグマが冷却され結晶してできた。
 - ウ もとの岩石を構成していたものが岩石の風化によってくだかれ、水によってはこぼれて沈積した。
 - エ 再結晶作用によってできた。

II 次の図は地形および地質を示す断面図である。A層はまだ固まらないやわらかい地層で、そのなかにはマンモス象、B層には有孔虫のレビドシクリナと巻貝のピカリア、C層にはハチノスサンゴとクサリサンゴ、D層には三角貝などの化石がそれぞれ含まれている。またC層は接触変成作用を受けている。この図から判断して、1から5までの間に答えよ。

1 A層の分布しているところには、低い方からa、b、cの3つの段丘がある。段丘の形成された順序を古いものから新しいものへ順にならべたとき、正しい順序は次のアからオまでのうちどれか。一つをえらべ。ただし段丘は地盤の隆起だけによって形成されたものと考えよ。

ア a—b—c

イ b—a—c

ウ c—a—b

エ c—b—a

オ b—c—a

2 他の場所でB層に石油が含まれていることがわかった。この図のなかで、石油が含まれている可能性の高い部分はアからオまでのうちのどれであろうか。適当なものを一つえらべ。

3 図に示された地層や岩石のできた順序を、古いものから新しいものへ順にならべたとき、次のアからオまでのうちどれが正しいか。一つをえらべ。

ア C—D—E—B—A

イ C—E—D—B—A

ウ D—C—E—B—A

エ B—A—C—E—D

オ C—E—A—B—D

4 次の説明文アからオのうち正しいものはどれか。一つをえらべ。

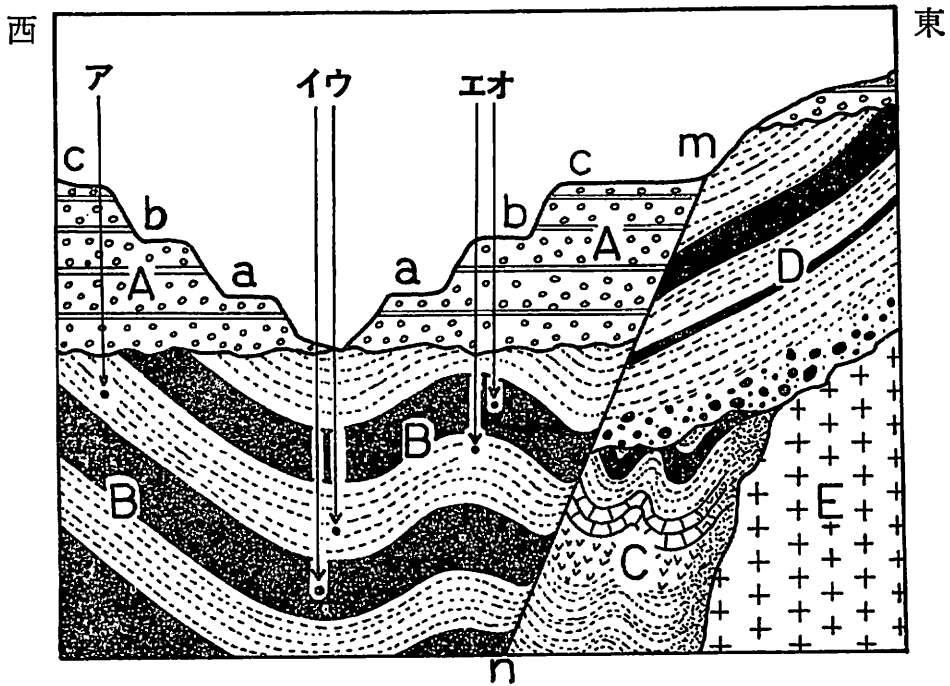
ア クサリサンゴは古生代の示準化石(標準化石)で、日本では最古の化石の一つである。









イ B層のしゅう曲とa、b、cの段丘とは、同じ時代に、同じ原因で形成された。

- ウ D層のレキ岩にEのカコウ岩のレキが含まれることはありえない。
- エ 三角貝は新生代の示準化石(標準化石)で、日本では各地から発見されている。
- オ B層からはアンモナイトが発見される可能性が高い。

5 図のm-n線を境として、その西側の地層と東側の地層とはどのような関係にあるか。
アからエまでのうち正しいものはどれか。一つをえらべ。

- ア 逆断層で接している。
- イ 正断層で接している。
- ウ 整合である。
- エ 不整合である。



 デイ岩	 セツカイ岩
 サ岩	 ギョウカイ岩
 固まってい ない レキ岩	 カコウ岩
 レキ岩	 変成岩

Ⅲ 次の各文の を埋めるのに適当なものを、それぞれ下に示された語群または数値群から一つずつえらべ。

1 大気において、乾燥した空気塊が周囲の空気と混じらないで上昇すると、 A するため空気塊の温度は下がり、その割合は 100 m につき約 1℃である。いま、その空気塊の湿度が 100 % のときは、 B するので、温度の下がり方は 100 m につき約 0.5℃となる。

- ア 水蒸気が凝結
- イ 水蒸気が赤外線を吸収
- ウ 断熱膨脹
- エ 雲が赤外線を射出
- オ 雨滴が蒸発
- カ 雨滴が日射を吸収
- キ 雲が日射を反射

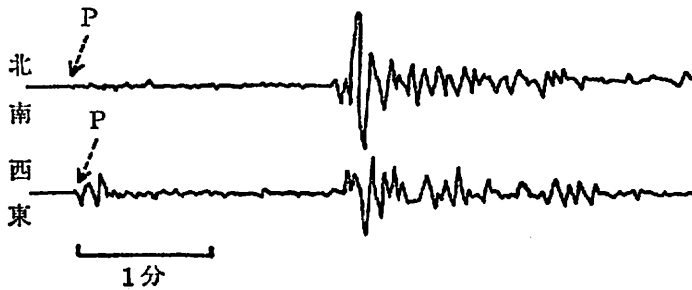
2 地球が自転しているために、地球上を水平に運動する物体には、北半球では A にみかけの力が加わる。黒潮のような定常的な流れは、一般にコリオリの力(転向力)と圧力傾度力がつり合った地衡流をなしている。したがって、たとえば四国沖で黒潮をはさんだ陸側と沖側の水位を比べると B 。

- ア 運動を加速する向き
- イ 運動の方向に直角右向き
- ウ 運動を減速する向き
- エ 運動の方向に直角左向き
- オ 沖側の方が水位が低くなっている
- カ 沖側の方が水位が高くなっている
- キ 沖側と陸側の水位は全く等しい
- ク 沖側と陸側の水位は規則的に高低が入れかわっている

3 オーロラ(極光)が地球の高緯度地方に多く見られる理由は、太陽から飛来する荷電粒子等(プラズマ)が、 によって高緯度地方に導かれ、そこで地球大気圏に突入して、高層大気を光らせるためである。

- ア 地球の重力
- イ 地球のコリオリの力
- ウ 宇宙の電場
- エ 地球の磁場
- オ 月の引力

4 ある地震を、ある地震観測所で観測して、東西・南北の地動に関して図のような記録を得た。記録からこの地震の初期微動継続時間(P～S時間)は、約 **A** 秒であることがわかり、したがって震源までの距離は約 **B** kmと推定される。なお、記録の下段に1分間の長さが示してある。



- ア 30
- イ 120
- ウ 200
- エ 400
- オ 700
- カ 1000
- キ 1400

Ⅳ 次のそれぞれの問について答えをえらべ。

1 ア～オの文のなかで正しいものはどれか。

ア フーコーの振り子を地球の赤道上で振らせると、その振動面は回転しない。

イ 外惑星の会合周期は、太陽から遠い惑星のものほど長い。

ウ ケプラーの第1法則とは、「惑星の公転軌道はだ円で、太陽はその中心にある」という法則である。

エ 月は自転していない。

オ 金星には満ち欠けの変化は見られない。

2 ショオマッセ彗星は1968年に太陽の近くを通過した。観測によるとこの彗星の軌道はだ円で、長半径は約4天文単位である。次に太陽に近づくのはいつか。

ア 1970年 イ 1972年

ウ 1974年 エ 1976年

オ 1978年

3 地球から見た太陽と金星の間の角は、地球と金星との相対位置によって変化する。観測によると、その最大値は約 45° である。これから太陽と金星の距離を求めると、約何天文単位になるか。

ア 0.3天文単位 イ 0.4天文単位

ウ 0.5天文単位 エ 0.6天文単位

オ 0.7天文単位

4 見かけの等級が1等である恒星を2倍の距離においたとすると、およそ何等星に見えるか。

ア -0.5等星 イ 0等星

ウ 0.5等星 エ 1等星

オ 1.5等星 カ 2等星

キ 2.5等星

5 シリウスの年周視差は $0.''37$ である。一方シリウスの主星と伴星（シリウスは2つの恒星が互いに公転し合っている連星である）の軌道の見かけの半径は、約 $7.''5$ であることが観測から知られている。これは約何天文単位であるか。

- ア 5天文単位 イ 10天文単位
- ウ 20天文単位 エ 40天文単位
- オ 80天文単位

6 ア～オの文のなかで正しくないものはどれか。

- ア 主系列星では、質量の大きい恒星ほど光度が大きい。
- イ 質量の大きい恒星の寿命は、小さい恒星の寿命より長い。
- ウ 太陽をはじめ主系列星のエネルギーは、水素の熱核融合反応によって放たれる。
- エ 表面温度(色)が同じ恒星では、スペクトル型(分光型)もほぼ同じである。
- オ 白色わい星の平均密度は、太陽の平均密度よりはるかに大きい。

草 稿 用 紙

地学 解答用紙控

I	1	A	ア	イ	ウ	エ
		B	ア	イ	ウ	エ
		C	ア	イ	ウ	エ
		D	ア	イ	ウ	エ
	2		ア	イ	ウ	エ
	3		ア	イ	ウ	エ
	4		ア	イ	ウ	エ
	5	B	ア	イ	ウ	エ
		C	ア	イ	ウ	エ
		D	ア	イ	ウ	エ

IV	1	ア	イ	ウ	エ	オ		
	2	ア	イ	ウ	エ	オ		
	3	ア	イ	ウ	エ	オ		
	4	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
	5	ア	イ	ウ	エ	オ		
	6	ア	イ	ウ	エ	オ		

II	1	ア	イ	ウ	エ	オ
	2	ア	イ	ウ	エ	オ
	3	ア	イ	ウ	エ	オ
	4	ア	イ	ウ	エ	オ
	5	ア	イ	ウ	エ	

III	1	A	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	
		B	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	
	2	A	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク
		B	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク
	3		ア	イ	ウ	エ	オ			
	4	A	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	
		B	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	

基礎理科

I 太陽光のはたらきとエネルギーの変換に関して、次のA~Cの(1)から(7)までの各問に答えよ。

A 下の図1は地球全体の大気上端ならびに地表面におけるエネルギーの収支状態を、図2は地球の各緯度における大気上端のエネルギーの収支状態を、いずれも一年間の平均値で示したものである。

図 1

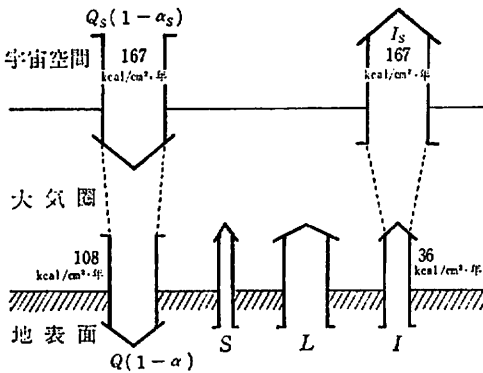
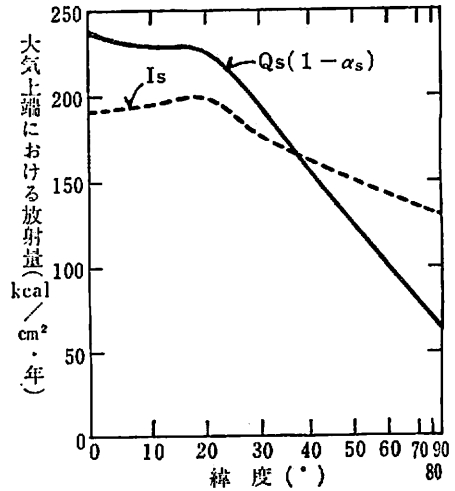


図 2



[図中の記号の説明]

$Q_s(1-a_s)$: 大気上端に入射する正味の太陽放射量 (Q_s : 大気上端に入射する太陽放射量 ; a_s : 大気上端における反射率)

I_s : 大気上端から宇宙空間に放出される赤外放射量

$Q(1-a)$: 地表面に入射する正味の太陽放射量 (Q : 地表面に入射する太陽放射量 ; a : 地表面における反射率)

I : 地表面から大気に放出される正味の赤外放射量 ([地表面から大気に放出される赤外放射量] - [大気から地表面に放出される赤外放射量])

S : 空気の垂直混合に伴い、地表面から大気に供給される熱量 (これを顕熱という。)

L : 水分の蒸発に伴い、地表面から大気に供給される熱量 (これを潜熱という。)

(1) 顕熱 S と潜熱 L の比はボーエン比といい、地球全体では $S/L = 0.2$ である。

(a) 図1中の S の熱量(単位は $\text{kcal}/\text{cm}^2 \cdot \text{年}$)はいくらか。答えは、数値のみを、例えば25

の場合には右図のように該当する位の欄

ごとに数字の「」をマークして示せ。

10位	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5	<input type="checkbox"/> 6	<input type="checkbox"/> 7	<input type="checkbox"/> 8	<input type="checkbox"/> 9
1位	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5	<input type="checkbox"/> 6	<input type="checkbox"/> 7	<input type="checkbox"/> 8	<input type="checkbox"/> 9

(b) 図1中のLの熱量(単位は kcal/cm²・年)はいくらか。答えは、I・(1)・(a)の例にならって、数値のみを示せ。

(2) 1gの水が蒸発するには、約600 calの熱量が必要である。図1で、一年間に平均して、地表面から蒸発する水の厚さ(単位はcm)は、次のアからキまでのどれに最も近いのか。

ア 10 イ 30 ウ 60 エ 100 オ 300 カ 600
キ 1,000

(3) 図2のように、大気上端における各緯度のエネルギー収支は、緯度35°付近を境として、吸収される太陽放射量と放出される赤外放射量が低緯度地方と高緯度地方では逆の関係になっている。この不均衡は、実際には、大気や海洋の運動によって低緯度地方から高緯度地方へエネルギーが輸送されることでつぐなわれている。いま、大気の組成や地表面の状態はそのまま、大気や海洋の運動によるエネルギー輸送がないものとするれば、地球の温度はどのようになるか。次のアからオまでの記述の中から、正しいものを一つ選べ。

ア 時間の経過に伴い、低緯度地方は次第に加熱され、高緯度地方は次第に冷却されるので、低緯度地方と高緯度地方の温度差は無限に大きくなる。

イ 大気や海洋の運動によるエネルギー輸送がなくても、大気・海洋・地中の熱伝導によって熱エネルギーが低緯度地方から高緯度地方へ輸送されるので、地球の温度はほとんど変化しない。

ウ 低緯度地方におけるエネルギーの過剰と高緯度地方におけるエネルギーの不足を解消するためには、低緯度地方はより多量の赤外放射を、高緯度地方はより少量の赤外放射を放出する必要がある。従って、低緯度地方は冷却されて低温に、高緯度地方は加熱されて高温になる。

エ 各緯度について、吸収される太陽放射量と放出される赤外放射量はつり合わなければならないので、低緯度地方は現在よりかなり高温に、高緯度地方は現在よりかなり低温になる。

オ 大気上端におけるエネルギー収支は地表面や大気の温度とは直接には関係がなく、熱伝導や対流による大気の垂直混合の違いにより、低緯度地方と高緯度地方の温度差は、現在より大きくなることも小さくなることもある。

B 1モルのブドウ糖と6モルの酸素と6モルの水が反応して、6モルの二酸化炭素と12モルの水ができるとき、688 kcalのエネルギーが放出される。従って、光合成で1モルのブドウ糖が作られるには、理論上少なくとも688 kcalのエネルギーがあたりなければならない。計算の都合で、仮にこのエネルギーを720 kcalとして、次の(4)と(5)の文中の(a)~(c)の に当てはまる数値またはそれに最も近い数値を、自然数で示せ。答えは、I・(1)・(a)の例にならしてしるせ。

(4) ブドウ糖1モルの分子数を 6.0×10^{23} 、1ジュールを0.24 calとすれば、ブドウ糖1分子をつくるには、 (a) $\times 10^{-$ (b) ジュールのエネルギーが必要である。

(5) 光は光子という粒子の集団的な流れと考えられる。振動数 ν の光を構成する光子1個のもつエネルギーは $h\nu$ であたえられる。 h はプランクの定数で、その値は 6.6×10^{-34} ジュール・秒である。また、波長 λ の光の振動数 ν は $\nu = c/\lambda$ であたえられる。 c は真空中の光の速さで、その値は 3.0×10^8 m/秒である。いま、ある植物に波長が 6.6×10^{-7} mの赤色光を照射して光合成を行わせたとき、エネルギーはすべて光によってあたえられ、かつあたえられた光エネルギーのすべてがブドウ糖をつくるのに使われるものとするれば、ブドウ糖1分子をつくるには、およそ (c) 個の光子が必要である。

C 自然界の現象はいろいろなエネルギーの変換を伴うが、エネルギーの総和はいつも一定に保たれる。エネルギーには、次のアからオまでのいろいろのかたちがある。

- ア 力学的エネルギー イ 熱エネルギー ウ 化学エネルギー
エ 電気エネルギー オ 光エネルギー

(6) エネルギーのかたちの変換を ① \longrightarrow ② で示した場合、次の(a)~(e)の現象について、①および②のエネルギーに該当するものを、それぞれ上のアからオまでの中から選べ。

- (a) 高温物体の発光 (b) 台風の発生 (c) 石油の燃焼
(d) 光合成 (e) 電池による電流

(7) ナイアガラの滝の落差を H メートルとし、毎秒 M トンの水が落下しているものとする。

(a) 滝つぼに落下したときの水の運動エネルギーは毎秒何ジュールか。下のアからケまでの中から選べ。

(b) この運動エネルギーがすべて熱エネルギーに変わるものとするれば、毎秒何 kcal の熱量が発生するか。次のアからケまでの中から最も近いものを選べ。

- ア $9.8MH$ イ M^2H ウ $9.8 \times 10^3 MH$ エ $4.2MH$ オ $41.2MH$
カ $2.4 \times 10^3 MH$ キ MH^2 ク $2.4MH$ ケ $4.2 \times 10^3 MH$

計 算 用 紙

II 物質の構成と反応に関して、次のAとBの(1)から(6)までの各問いに答えよ。

A 炭素には、ダイヤモンドと黒鉛(セキボク; グラファイト)の二つのかたちのものがある。ダイヤモンドは無色で熱や電気を導かないが、黒鉛は黒色で熱や電気を導く。また、ダイヤモンドの密度は黒鉛の密度よりも著しく大きい。

(1) ダイヤモンドと黒鉛のような関係にある物質は一般に何と総称されているか。その用語を、下のアからネまでの漢字を組み立てて答えよ。答えは、解答用紙の第1字~第5字の欄について、それぞれ該当する□□をマークせよ。なお、余った欄はマークしないこと。

ア 位 イ 異 ウ 化 エ 間 オ 極 カ 金 キ 結 ク 元
ケ 原 コ 合 サ 子 シ 射 ス 重 セ 性 ソ 素 タ 族
チ 属 ツ 体 テ 中 ト 同 ナ 非 ニ 物 ヌ 分 ネ 放

(2) 下のアからオまでの炭素化合物の中から、次の(a)および(b)に該当するものを、それぞれ一つずつ選べ。

(a) ダイヤモンド中の炭素原子に似た状態の炭素原子を含んでいるもの

(b) 黒鉛中の炭素原子に似た状態の炭素原子を含んでいるもの

ア 一酸化炭素 イ 二酸化炭素 ウ メタン エ アセチレン
オ ベンゼン

(3) 黒鉛にある触媒を加え、密閉した容器中で、適当な条件をあたえて強熱すると、黒鉛はダイヤモンドに変化する。この方法は、黒鉛 \rightleftharpoons ダイヤモンド の化学平衡とその移動に関する知識に基づいている。次のアからエまでは、この平衡に対する圧力の影響に関する記述であるが、正しいものを一つ選べ。

ア この平衡は圧力を高くするほど右辺に移動する。

イ この平衡は圧力を低くするほど右辺に移動する。

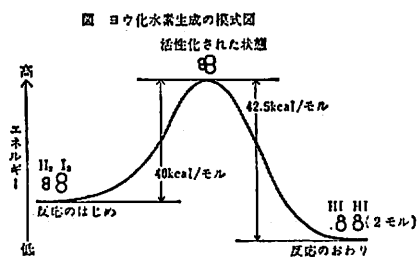
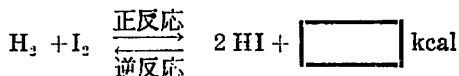
ウ この平衡は圧力の影響をほとんど受けない。

エ この平衡が圧力によってどの方向に移動するかは、触媒の種類によってきまる。

B 化学反応がおこるのは、分子と分子が衝突し、かつ、衝突した二つの分子の運動エネルギーがじゅうぶんに大きく、二つの分子がこの運動エネルギーを消費して、一定の高さのエネルギーをもった活性化状態をこえることができる場合である。図(次ページ)は水素とヨウ素からヨウ化水素が生成する化学反応について、このことを模式的に示したものである。この化学反応について、次の(4)から(6)までの文章中の に、下のアからスマ

の中から適切な数値または文を選んで入れよ。

- (4) この化学反応の正反応と逆反応は、次の熱化学方程式で示される。



- (5) この化学反応を密閉した容器中で行うと、正反応と逆反応の速さが等しくなったところで平衡に達する。

(a) 平衡状態のとき、温度をさらに低くすると、

(b) 平衡状態のとき、さらに圧力を加えると、

- (6) 水素1モルとヨウ素1モルの結合エネルギー(解離エネルギー)の総和は、ヨウ化水素2モルの結合エネルギー(解離エネルギー)より (a) kcal だけ (b) 。

ア 2.5 イ 5.0 ウ 20 エ 21.25 オ 40 カ 42.5

キ 発熱する ク 吸熱する ケ 化学反応は正方向に進む コ 化学反応は逆方向に進む

シ 大きい ス 小さい

Ⅲ 万有引力と惑星の運動に関して、次のAとBの(1)から(7)までの各問いに答えよ。

A 水平な地面の一点から、一定の初速度で斜めに打ち上げた物体が、地面に落ちたところまでの距離は、打ち上げる方向が水平と45度の角をなすときに最大となる。その最大距離 l は初速度 v とその場所の重力の加速度 g があたえられれば、 $l = Av^m g^n$ であらわされる。次の(1)から(3)までの文章中の(a)~(g)の に当てはまる数値または式を、下のアからシまでのの中から選べ。

- (1) 長さの単位を k 倍に変えると、 l 、 v 、 g の数値は、いずれも (a) 倍になる。

従って、 $m + n =$ (b) である。

- (2) 長さの単位をもとに戻し、時間の単位を k 倍に変えると、 v の数値は (c) 倍に、

g の数値は (d) 倍になる。 l の数値は変わらない。従って、 $m + 2n =$ (e) である。

- (3) (1)と(2)から、 $m =$ (f)、 $n =$ (g) がえられる。

ア k イ k^2 ウ $1/k$ エ $1/k^2$ オ -1 より小 カ -1

キ 0 ク 1 ケ 2 コ 3 サ 4 シ 4 より大

B 太陽系の惑星は太陽のまわりを公転している。

(4) 火星と木星とは、太陽を中心としてそれぞれ半径が1.5および5天文単位(1天文単位は地球の軌道半径)の円軌道上を公転するものとし、また火星と木星の半径はそれぞれ地球の0.5倍および10倍とする。火星と木星を地球に最も近いときに観測すれば、木星の大きさ(視直径)は火星の大きさの何倍か。次のアからカまでの中から選べ。

- ア 2.5倍より小 イ 2.5倍 ウ 5倍 エ 7.5倍 オ 10倍
カ 10倍より大

(5) 小惑星のケレスは、半径2.8天文単位の円軌道上を公転している。その周期は何年か。答えは、四捨五入で小数第1位まで計算し、I・(1)・(a)の例にならって数値のみを示せ。

(6) 彗星は強い放射や引力をうけて分裂または崩壊することがある。毎秒80 kmの速さで進んでいる彗星が同じ重さの2個の彗星に分裂し、そのうちの1個が毎秒40 kmの速さで運動するようになったとすれば、その運動エネルギーはもとの親彗星の何分の1か。答えは、I・(1)・(a)の例にならって、分母の数値のみを示せ。

(7) 地球の公転軌道はわずかにだ円形で、地球は1月のはじめに太陽に最も近づく。このため、「惑星と太陽とを結ぶ線分が等しい時間に描く面積は惑星ごとに一定である。」というケプラーの第2法則によって、春分、夏至、秋分、冬至の間の日数はわずかに異なる。次のアからエまでの各期間を、短いものから順に配列せよ。

- ア 春分—夏至 イ 夏至—秋分 ウ 秋分—冬至 エ 冬至—春分

IV 地球の進化に関して、次のAとBの(1)から(3)までの各問いに答えよ。

A 地球上の地質現象は、いろいろな原因によって長い年月をへて形成されたものである。

(1) 次の(a)から(e)までの各事項と最も関係の深いものを、下のアからケまでの中から一つずつ選べ。

- (a) 褶曲山脈 (b) 準平原 (c) 三角州 (d) カルデラ (e) 海岸段丘
ア 火山作用 イ 隆起 ウ 侵食作用 エ 沈降 オ 造山作用
カ たい積作用 キ 風化作用 ク 變成作用 ケ 続成作用

B 地球上の地質現象がいつおこったかを知ることは、地球の歴史を解明する手がかりとなる。地層が重なりあっているとき、「古い地層ほど新しい地層の下位にある。」という法則がある。また、地理的に離れた地域間の地層や岩石を比較することも必要で、これにはある特定の時代のみ繁栄した生物の化石が用いられる。このような研究方法によって地層の上下関係や異同が解明され、地質時代が区分されていく。しかし、このような方法

計 算 用 紙

は、化石の産出が極めて少ない時代や化石のない火成岩・変成岩などには適用されない。

④ 一方、放射性同位元素の崩壊が地球の歴史の時計となるという考えが今世紀初頭にだされ、年代の具体的な数値があたえられるようになった。これは、放射性同位元素の半減期(原子 N 個が自然崩壊して $N/2$ 個になる時間)は常に一定であるという事実に基づく方法である。

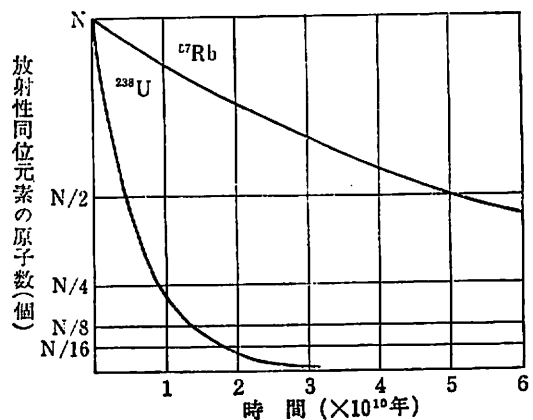
(2) 上記の文章中の下線を付した ①～⑤ の文に関連ある (a) から (e) までの記述中の に当てはまる語句を、下のアからヒまでの漢字の中から 2 字を選んでつくれ。答えは、解答用紙の第 1 字と第 2 字の欄について、それぞれ該当する をマークせよ。

- (a) ①の法則を地層 の法則という。
- (b) ②の化石を 化石という。
- (c) ③の時代区分を 年代という。
- (d) ④の時代は先カンブリア時代の原生代と 代である。
- (e) ⑤に基づいて決定される年代を 年代という。

ア	為	イ	階	ウ	基	エ	期	オ	滅	カ	古	キ	三	ク	四
ケ	示	コ	始	サ	質	シ	重	ス	準	セ	新	ソ	人	タ	生
チ	絶	ツ	相	テ	層	ト	対	ナ	段	ニ	断	ヌ	地	ネ	中
ノ	半	ハ	標	ヒ	累										

(3) 下の図は、放射性同位元素 ^{87}Rb , ^{238}U の崩壊曲線を示したものである。

- (a) ^{238}U の半減期 (単位は年) を、下のアからクまでのなかから選べ。
- (b) ^{87}Rb は崩壊して安定な ^{87}Sr となる。いま、ある岩石中の ^{87}Rb と ^{87}Sr の原子数比は $^{87}\text{Rb} : ^{87}\text{Sr} = 3 : 1$ であった。測定時点におけるこの岩石の年齢(単位は年)は、次のアからクまでのどれに最も近いか。ただし、 ^{87}Sr はすべて ^{87}Rb の崩壊によって生じたものとする。



- | | | | | | | | |
|---|-----------------|---|--------------------|---|--------------------|---|--------------------|
| ア | 3×10^9 | イ | 1.25×10^9 | ウ | 2×10^9 | エ | 4.5×10^9 |
| オ | 5×10^9 | カ | 1×10^{10} | キ | 2×10^{10} | ク | 5×10^{10} |

V 生物の生活活動に関して、次のAとBの(1)から(3)までの各問いに答えよ。

A 細胞の細胞質は細胞膜でつまれている。

(1) ある植物細胞を、 20°C で0.2モルの硝酸カリウムの希薄溶液に浸したら、20分後に原形質分離が観察されたが、さらに24時間後には再びもとの状態にもどっていた。次のアからエまではこの現象の起因に関する記述であるが、記述中から最も確からしいものを一つ選べ。

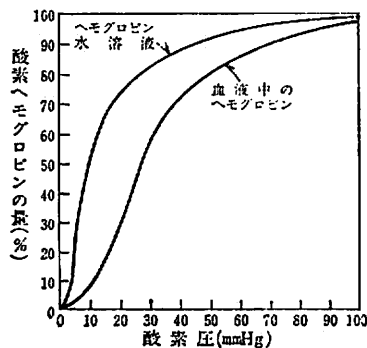
- ア 細胞が死んだため、細胞膜の半透性の性質が失われて外液が浸入した。
- イ 外液中の物質が細胞のはたらきで分解されたため、外液の濃度が低下して吸水がおこった。
- ウ 外液中の物質が徐々に細胞内に透過したため、細胞の吸水力が増して水が浸入した。
- エ 細胞を長時間溶液に浸したため、細胞膜が伸長した。

(2) 次の文章中の下線を付した①～⑥の語句または文の正誤を判定せよ。答えは、正しいものは[○]に、誤っているものは[×]にマークせよ。

ヤリイカの神経細胞の軸索に微小電極をそう入して静止電位を測定すると、外側を負(-)にして約60 mVの電位差がえられる。これは細胞膜の半透性の性質によるもので、①神経細胞の細胞膜は、②呼吸などでえたATPを用いて、③細胞内の一価のイオンを低濃度から高濃度の方向に運ぶはたらきがあり、このイオンの細胞内外における濃度差は④細胞が死んでも失われない。

B ヒトの赤血球にふくまれるヘモグロビンは、分子状の酸素と結合して酸素ヘモグロビンになる。この結合は極めて弱く、酸素圧の低いところでは、たやすく酸素が放出される(解離)。このよ

うなヘモグロビンと酸素との結合様式は血液の酸素運搬に極めて適している。右の図は、この関係を示す曲線(酸素解離曲線)で、血液から抽出した純粋のヘモグロビンの水溶液と血液中のヘモグロビンとについて、 38°C で測定した結果を示したものである。また、血液中にふくまれる塩類などを透析によって除去したとき、その酸素解離曲線は図中の純粋のヘ



ヘモグロビン水溶液の酸素解離曲線に近似のものとなった。なお、一酸化炭素は酸素よりも約 300 倍も強力にヘモグロビンと結合して一酸化炭素ヘモグロビンになり、一酸化炭素圧が低くなっても容易に解離しないことが知られている。

(3) 次のアからオまでの記述は、上記の実験のみに基づいて推測されることがらをしるしたものであるが、正しいと思われるものは[○]に、誤りと思われるものは[×]に、正誤の判定ができないものは[△]に、マークせよ。

ア 血液中のヘモグロビンの酸素解離曲線が、純粋のヘモグロビンの水溶液のそれよりも右方へ移動し、かつゆるやかなS字状曲線となるのは、血液中にふくまれる塩類などの作用による。

イ 純粋のヘモグロビンの水溶液の酸素解離曲線が、酸素圧の低いところで急に立ち上がるS字状曲線となるのは、ヘモグロビンの分子量が大きいためである。

ウ 血液は、純粋のヘモグロビン水溶液よりも肺胞(酸素圧: 100 mmHg)から組織(酸素圧: 約 30 mmHg)へ酸素を運搬する能力が大きい。

エ 純粋のヘモグロビンの水溶液および血液中のヘモグロビンの酸素解離曲線は、二酸化炭素が存在すると、二酸化炭素の圧力の上昇に伴って右方に移動する。

オ 血液中のヘモグロビンの一酸化炭素解離曲線は、血液中のヘモグロビンの酸素解離曲線のようにゆるやかなS字状曲線になる。

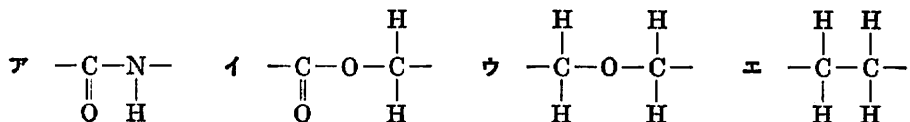
VI 生命の起源と生物進化に関して、次のAとBの(1)から(4)までの各問いに答えよ。

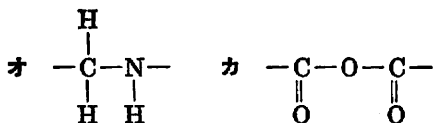
A 地球上に最初に出現した生物体は、地球の進化に伴い、原始海洋中に生じたものとされているが、それにはいろいろの化合物が関係している。

(1) 水は、比熱が大きく生物体内の温度保持に適し、アミノ酸・タンパク質などの体物質と結合して生物体の機能を円滑にする。このような水の特性は水分子間の結合に起因するが、その結合を次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア イオン結合 イ 共有結合 ウ 金属結合 エ 水素結合

(2) タンパク質は、多数のアミノ酸が脱水縮合してできた高分子化合物である。そのアミノ酸どうしの化学結合を、次のアからカまでの中から一つ選べ。





(3) 最初に出現した生物体は、生理機能と増殖機能をもつとともに環境適応性もち、生物進化を導く物質系であったと推定される。これらの特性の発現を支配している物質を、次のアからサまでの中から一つ選べ。

- | | | | | |
|---------|---------|-------|----------------|--------|
| ア RNA | イ ATP | ウ 抗体 | エ 助酵素
(補酵素) | オ 脂質 |
| カ 炭水化物 | キ タンパク質 | ク DNA | ケ ビタミン | コ ホルモン |
| サ 無機化合物 | | | | |

B 生物は、上記の(3)の特性を示しつつ、現在にいたるまで生命を受け継いでいる。

(4) 生物は、種として個体群をつくり、多くは有性生殖によって次代をつくっていく。個体群で交配が自由に行われるものとして、有性生殖で生命を続けることと最も関係の深い事項を、次のアからカまでの中から一つ選べ。

- | | | | |
|------------|---------|----------|--------|
| ア 隔離 | イ 環境適応性 | ウ 個体数の増加 | エ 自然選択 |
| オ 生物体の調節作用 | カ 突然変異 | | |

計 算 用 紙

計 算 用 紙

計 算 用 紙

計 算 用 紙


計 算 用 紙

実地研究試験問題

英語

昭和51年10月11日 12時15分～13時55分

注意事項

- 1 合図があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 2 本冊子は15ページあります。ページの脱落等があった場合には申し出て下さい。
- 3 解答用紙には受験番号が印刷してあります。受験票の受験番号と異っている場合には申し出て下さい。また汚れのあったときは申し出て下さい。
- 4 解答用紙上部の所定欄に氏名と受験番号を記入し、矢印で示した部分に受験番号をマークして下さい。
- 5 解答は指定された解答欄にマークし、その他の部分には何も書いてはいけません。訂正する場合には必ず消しゴムで完全に消し、消しきずはきれいに取り除いて下さい。
- 6 解答用紙は鉛筆(HB)でマークした部分を機械で直接読みとりますから、下記のマークの例を正しく守って下さい。またマークの濃さは、解答用紙下欄にある例を参照して下さい。
(例)  わくの中を正確にぬりつぶして下さい。
- 7 解答用紙を汚したり、折りまげたりしないで下さい。
- 8 本冊子には草稿用紙、解答用紙控が入っているので、適宜利用して下さい。
- 9 本冊子は持ち帰って下さい。
- 10 聞きとりテストは13時30分に開始します。

英 語

I 次の英文(1)~(30)のそれぞれの空白に入れるのもっとも適した語または語群を、それぞれの文の下に示した1~4の中から1つずつ選べ。

- (1) He had no _____ to become a great scholar.
 (1. belief 2. convenience 3. decline 4. desire)
- (2) Many people set their _____ in life while they are young.
 (1. goal 2. hand 3. score 4. watch)
- (3) There have been price increases in almost all _____ recently.
 (1. account 2. cash 3. goods 4. merchants)
- (4) He had a lot of _____ before the operation.
 (1. display 2. pain 3. performance 4. portion)
- (5) It was a low _____ radio and didn't work well.
 (1. majority 2. minority 3. quality 4. quantity)
- (6) I had to sign a _____ for the parcels that came today.
 (1. payment 2. post 3. receipt 4. symbol)
- (7) He is not _____ enough to be a good driver.
 (1. careless 2. cautious 3. familiar 4. inferior)
- (8) He left suddenly, after an _____ message from his wife.
 (1. absent 2. aware 3. equal 4. urgent)
- (9) Her hands were red and _____ from doing so much housework.
 (1. grand 2. modest 3. rough 4. violent)
- (10) Mother was _____ to meet the new teacher.
 (1. delightful 2. eager 3. effective 4. innocent)
- (11) Mr. Hill was _____ to reach them by phone, so he went to their house.
 (1. helpful 2. likewise 3. possible 4. unable)
- (12) Everyone worked together to _____ the puzzle.
 (1. confess 2. deal 3. lock 4. solve)
- (13) The dog _____ the meat from the bone it was chewing.
 (1. denied 2. mistook 3. tore 4. wove)

- (14) The tide _____ out twice in twenty-four hours.
(1. escapes 2. files 3. flows 4. melts)
- (15) If a business is to succeed, it must be _____ efficiently.
(1. gone 2. put 3. run 4. set)
- (16) I know you can _____ him for transportation.
(1. apply for 2. make up 3. rely on 4. tear along)
- (17) You will have to get dinner _____ yourself this evening.
(1. after 2. for 3. from 4. with)
- (18) He was proud _____ himself for having done so well.
(1. for 2. in 3. of 4. to)
- (19) He is not accustomed _____ the climate here.
(1. by 2. for 3. to 4. with)
- (20) We stayed at the party _____ five o'clock.
(1. at 2. before 3. for 4. until)
- (21) Do you think he will recover _____ his illness soon?
(1. about 2. from 3. since 4. within)
- (22) Don't keep pets _____ you can care for them.
(1. no more than 2. otherwise 3. unless 4. whereas)
- (23) _____ you get to school, I'll be in Kyoto.
(1. By the time 2. In what way 3. Let alone 4. Whatever)
- (24) _____, she looks just like my sister.
(1. At a distance 2. Back and forth 3. Behind appearances
4. In time)
- (25) She is _____ her mother.
(1. almost as tall as 2. almost tall as 3. as almost tall as
4. as tall as almost)
- (26) He goes fishing every Sunday _____ the weather is fine.
(1. in spite of 2. nevertheless 3. regardless of
4. whether or not)
- (27) Don't blame me _____.
(1. for what happened 2. from one to the other
3. getting it right 4. out of order)

(28) They got their mother _____ some sandwiches.

- (1. pack 2. packed 3. to be packed 4. to pack)

(29) I was busy _____ the piano.

- (1. for practicing 2. in practice 3. to practice 4. practicing)

(30) They'd been given up _____ when the plane discovered them.

- (1. for lost 2. of note 3. overturned 4. themselves up)

II 次の(1)~(6)において、(a)(b)それぞれの()内の1~5の語または語群を並べかえると、(a)(b)いずれか一方は上の文と大体同じ意味を表わす文となる。その場合、3番目と5番目にはそれぞれ何番と何番をおけばよいか。なお、文頭におくべき語も小文字にしてある。(a)(b)のいずれを選んだかは示す必要はない。

(1) I had a nice chat with him.

=(a) (1. him 2. I 3. with 4. enjoyed 5. talking).

=(b) (1. with 2. I 3. a bit 4. him 5. quarrelled).

(2) Can I depend on you to find a good date for the party?

=(a) May (1. you 2. I 3. of the date 4. inform
5. of the party)?

=(b) Will (1. to have 2. you 3. the party 4. when
5. decide)?

(3) He had no trouble in understanding my intention.

=(a) He (1. could 2. what 3. meant 4. easily grasp 5. I).

=(b) He (1. me 2. no difficulty 3. persuading 4. had 5. in).

(4) You cannot expect me to lend you money again.

=(a) It is (1. to 2. for you 3. impossible 4. me 5. lend)
money again.

=(b) It is (1. to expect 2. you 3. to lend 4. unreasonable
5. me) money again.

(5) He died last week but he won't be missed.

=(a) He died last week but (1. didn't know 2. anyone 3. that
4. dead 5. he was).

=(b) He died last week but (1. his absence 2. no 3. regret
4. will 5. one).

(6) She is beyond the doctor's help.

=(a) She is so (1. she does not 2. the doctor's help 3. that
4. need 5. healthy).

=(b) She is so (1. her life 2. cannot save 3. the doctor 4. ill
5. that).

Ⅲ 次の(1)~(6)において、(a)(b)それぞれの()内の1~5の語または語群を並べかえると、(a)(b)いずれか一方は上の文に応じた対話文となる。その場合、3番目と5番目とはそれぞれ何番と何番をおけばよいか。なお、文頭におくべき語も小文字にしてある。

(a)(b)のいずれを選んだかは示す必要はない。

(1) "How long have you been here, John?"

(a) "(1. before 2. had 3. five days 4. I came 5. passed) here."

(b) "(1. I've 2. last 3. here 4. since 5. been) Tuesday."

(2) "Do you mind lending the book to me?"

(a) "Yes, I (1. useful 2. hope 3. will be 4. for you 5. it)."

(b) "No, you (1. keep 2. you like 3. may 4. as long as 5. it)."

(3) "I saw you at the movies last night."

(a) "Really? (1. there 2. I 3. were 4. you 5. didn't know)."

(b) "Really? (1. why 2. and said 3. you came to me 4. hello 5. that's)."

(4) "Mother, I'd prefer this dress."

(a) "It's not a good choice. (1. older than 2. it makes 3. are 4. you look 5. you really)."

(b) "It's not a good choice. (1. it 2. better than 3. the 4. seems 5. others)."

(5) "Tom is never late for school, is he?"

(a) "No. (1. time 2. comes to school 3. he 4. on 5. never), though."

(b) "No. (1. used 2. come late 3. to school 4. he 5. to), though."

(6) "These roses are very beautiful and smell sweet. Why don't you take them home with you?"

(a) "(1. it's very kind 2. you 3. of 4. to give them 5. to me)."

(b) "(1. because 2. to do so 3. very much 4. I'd 5. like)."

IV 次の英文を読み、下の(1)～(6)の問いの答えとして、本文の内容にもっともよく合っているものを、それぞれの問いの下に示した1～4の中から1つずつ選べ。

One of the interesting things we observe in nature is the manner in which a forest comes into being. One type of forest the early colonists found in North America was made up largely of white pine and hemlock trees. These trees had "taken over" the area and, except for fallen needles, the forest floor was largely bare.

White pine and hemlock trees do not grow as fast as many other species, but they grow to be quite tall. They also can survive in moderately shaded places. They must, however, have a fairly moist soil. The colonists found pine and hemlock forests in many portions of the northeastern area of the United States, where the environment favored their existence.

What happens when the trees of such a forest are cut down? Does a new forest of white pine and hemlock start growing again? Not at all. Rather, a long succession begins. During the first two or three years, the ground is largely covered with weeds. Here and there grasses begin to appear. Time passes, and young trees begin to rise above the grasses and weeds. These young trees are a mixture of various species such as maples and poplars. Young white pines and hemlocks are also growing, but more slowly.

After 10 to 15 years the fast-growing trees and bushes shade the area. The weeds and grasses gradually disappear because they can no longer get the sunlight necessary for growth. The trees are in competition with one another for this all-important sunlight. The young white pines and hemlocks survive because they can get along with only a little sunlight.

Forty or fifty years later the young forest is still a mixture of tree species. Here and there, white pines and hemlocks can be seen. These trees slowly begin to win out in the competition. Their success is due to two factors. First, they are adapted to the existing conditions of life, and second, they finally tower above their competitors, and these competitors cannot bear the shaded conditions in which they now live.

A hundred years, or perhaps 150 years later, the original forest is restored. This can only happen, however, if man does not interfere with the succession, and if the environment does not undergo considerable change. Then, once again, the white pines and hemlocks rule the forest, which may appear much as it did years before.

- (1) 北アメリカで初期の開拓者が見つけたストロブまつ (white pine) やアメリカつが (hemlock) の森の様子で正しいのはどれか。
1. 地面が雑草でおおわれていた。
 2. いろいろな植物が調和を保ちながら共存していた。
 3. ストロブまつやアメリカつが以外にはほとんど何も生えていなかった。
 4. ストロブまつやアメリカつがにまじって、かえで (maple) やポプラ (poplar) の木が茂っていた。
- (2) ストロブまつやアメリカつがに共通する生態的特徴として正しいのはどれか。
1. 非常に速く成長する。
 2. 湿った土地には育たない。
 3. 背があまり高くはならない。
 4. 日のあまりあたらないところでも育つ。
- (3) ストロブまつやアメリカつがの森の木が切られたとき、はじめに姿を現わすのは何か。
1. 雑草。
 2. かん木。
 3. かえでやポプラの若木。
 4. ストロブまつやアメリカつがの若木。
- (4) ストロブまつやアメリカつがの勝利が決定的となるのはどの時期か。
1. 5年以内。
 2. 15年以内。
 3. 50年以内。
 4. 50年以後。
- (5) その勝利の要因として正しいのはどれか。
1. 虫害に対して比較的強い。
 2. 下草のおかげで地面の乾燥が防げる。
 3. 競争相手が日陰になり、成長できなくなる。
 4. 成長速度がゆるやかで、その間に強じんな生命力を養うことができる。
- (6) この英文は何について述べたものか。
1. 環境保護の必要性。
 2. 森が生成される過程。
 3. 森と人間とのかかわりあい。
 4. 北アメリカにおける植物の分布。

V 次の英文を読み、下の(1)~(6)のそれぞれの書き出しを完成するために、本文の内容にもっともよく合っているものを、それぞれの書き出しの下に示した1~4の中から1つずつ選べ。

There are a great many careers in which the increasing emphasis is on specialization. You find these careers in engineering, in production, in statistical work, and in teaching. But there is an increasing demand for people who are able to take in a great area at a glance, people who perhaps do not know too much about any one field. There is, in other words, a demand for people who are capable of seeing the forest rather than the trees, of making general judgments. We can call these people "generalists". And these "generalists" are particularly needed for positions in administration, where it is their job to see that other people do the work, where they have to plan for other people, to organize other people's work, to begin it and judge it.

The specialist understands one field; his concern is with technique and tools. He is a "trained" man; and his educational background is properly technical or professional. The generalist — and especially the administrator — deals with people; his concern is with leadership, with planning, and with direction giving. He is an "educated" man; and the humanities are his strongest foundation. Very rarely is a specialist capable of being an administrator. And very rarely is a good generalist also a good specialist in a particular field. Any organization needs both kinds of people, though different organizations need them in different proportions. It is your task to find out, during your training period, into which of the two kinds of jobs you fit, and to plan your career accordingly.

Your first job may turn out to be the right job for you — but this is pure accident. Certainly you should not change jobs constantly or people will become suspicious of your ability to hold any job. At the same time you must not look upon the first job as the final job; it is primarily a training job, an opportunity to understand yourself and your fitness for being an employee.

- (1) There is an increasing demand for
 1. specialists.
 2. generalists.
 3. generalists who are also good specialists.
 4. specialists who are also good generalists.
- (2) The specialist is
 1. a man whose job is to train other people.
 2. a man who has been trained in more than one field.
 3. a man who can see the forest rather than the trees.
 4. a man whose concern is mainly with technical or professional matters.
- (3) The administrator is
 1. a specialist.
 2. a "trained" man.
 3. an "educated" man.
 4. a man who is more a specialist than a generalist.
- (4) Any organization needs
 1. both generalists and specialists.
 2. more specialists than generalists.
 3. more generalists than specialists.
 4. as many specialists as generalists.
- (5) During your training period, it is important
 1. to try to be a generalist.
 2. to choose a profitable job.
 3. to find an organization which fits you.
 4. to decide whether you are fit to be a specialist or a generalist.
- (6) A man's first job
 1. is the right job for him.
 2. should not be regarded as the final job.
 3. should be changed or people will become suspicious of his ability.
 4. seems to be wrong for him at first but it turns out to be the right job.

VI (聞きとりのテスト)

次の(1)~(10)のそれぞれについて、放送による問いを聞き、その答えとしてもっとも適したものを、それぞれの1~4の中から1つずつ選べ。

- (例) 1. We mix red and yellow.
2. We mix yellow and blue.
3. We mix orange and red.
4. We mix red and blue.
- (1) 1. She likes it fried.
2. She likes it boiled.
3. She likes it roasted.
4. She likes it any way at all.
- (2) 1. It will be hiking.
2. It will be boating.
3. It will be swimming.
4. It will be skating.
- (3) 1. She will wear the red dress.
2. She will wear the blue dress.
3. She will wear the green dress.
4. She will wear the yellow dress.
- (4) 1. Sam does.
2. Jim does.
3. Harry does.
4. No one does.
- (5) 1. He will cut it in halves.
2. He will cut it in thirds.
3. He will cut it in fourths.
4. He will cut it in shapes.
- (6) 1. They were married in 1917.
2. They were married in 1925.
3. They were married in 1951.
4. They were married in 1970.

- (7) 1. There are 10 shoes.
2. There are 20 shoes.
3. There are 40 shoes.
4. There are 50 shoes.
- (8) 1. It was yellow.
2. It was green.
3. It was blue.
4. It was red.
- (9) 1. It would be blown to the east.
2. It would be blown to the west.
3. It would be blown to the north.
4. It would be blown to the south.
- (10) 1. It is overhead.
2. It is to the east.
3. It is to the west.
4. It is setting.

草 稿 用 紙

英語 解答用紙控

I	(1)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷	(16)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷
	(2)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷	(17)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷
	(3)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷	(18)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷
	(4)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷	(19)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷
	(5)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷	(20)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷
	(6)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷	(21)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷
	(7)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷	(22)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷
	(8)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷	(23)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷
	(9)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷	(24)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷
	(10)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷	(25)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷
	(11)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷	(26)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷
	(12)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷	(27)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷
	(13)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷	(28)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷
	(14)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷	(29)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷
	(15)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷	(30)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷

IV	(1)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷
	(2)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷
	(3)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷
	(4)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷
	(5)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷
	(6)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷

V	(1)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷
	(2)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷
	(3)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷
	(4)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷
	(5)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷
	(6)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷

II		3 番 目	5 番 目
	(1)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷◁5▷	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷◁5▷
	(2)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷◁5▷	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷◁5▷
	(3)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷◁5▷	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷◁5▷
	(4)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷◁5▷	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷◁5▷
	(5)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷◁5▷	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷◁5▷
	(6)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷◁5▷	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷◁5▷

VI (聞きとりのテスト)	(例)	◁1▷▷2▷▷3▷▷ 4▷
	(1)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷
	(2)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷
	(3)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷
	(4)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷
	(5)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷
	(6)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷
	(7)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷
	(8)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷
	(9)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷
	(10)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷

III		3 番 目	5 番 目
	(1)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷◁5▷	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷◁5▷
	(2)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷◁5▷	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷◁5▷
	(3)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷◁5▷	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷◁5▷
	(4)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷◁5▷	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷◁5▷
	(5)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷◁5▷	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷◁5▷
	(6)	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷◁5▷	◁1▷▷2▷▷3▷▷4▷◁5▷

放送について、次の問に
マークで答えなさい。

- よく聞こえた……………1
- やや聞こえにくかった………2
- 聞こえにくかった………3

◁1▷	◁2▷	◁3▷
-----	-----	-----

[VI] 「聞きとりのテスト」 (スクリプト)

このプリントには、「聞きとりのテスト」問題として、テープに録音された音声をそのまま文字化したものと、大体の所要時間を示しています。従って、2度読まれている場合は、同じものを2度示し、また、問題や空白を含めた時間も示しています。

ただ今から、聞きとりのテストをいたします。 VI. 「聞きとりのテスト」のところを開きなさい。

テスト問題は、(1) から (10) までの10問あり、それぞれの問題は、1つのパラグラフとそれについての問いからできています。その問いの答としてもっとも適したものを、問題用紙に印刷された1から4までの答の中から選んで答えなさい。どの問題も2度ずつ読まれ、そのあと、約15秒間の空白をおきます。

では、まず、問題の例を聞いて下さい。

Example.

If we mix red and blue we will get purple. If we mix red and yellow we will get orange. We want to paint the front door purple. What colors will we have to mix to get purple?

Listen again.

If we mix red and blue we will get purple. If we mix red and yellow we will get orange. We want to paint the front door purple. What colors will we have to mix to get purple?

(空白 約15秒)

この問題例では、解答欄に示してあるように、4が正解となります。なお、問題用紙に印刷された答にしるしをつけておいて、あとで一括して解答用紙に記入しても結構です。

これでテストの方法がわかったと思いますので、問題に入ります。

- (1) The whole family likes chicken. Mother likes it roasted, Father likes it fried, Susan likes it boiled and Tom likes it any way at all. How does Susan like it?

Listen again.

The whole family likes chicken. Mother likes it roasted, Father likes it fried, Susan likes it boiled and Tom likes it any way at all. How does Susan like it?

(空白 約15秒)

- (2) Ken's hobbies are skating in the winter, swimming in the summer, and boating and hiking in the spring. It is winter now. What will Ken's hobby be?

Listen again.

Ken's hobbies are skating in the winter, swimming in the summer, and boating and hiking in the spring. It is winter now. What will Ken's hobby be?

(空白 約15秒)

- (3) Mary has two party dresses. The long one is blue and the short one is yellow. All the girls are wearing long dresses. What color dress will Mary wear?

Listen again.

Mary has two party dresses. The long one is blue and the short one is yellow. All the girls are wearing long dresses. What color dress will Mary wear?

(空白 約15秒)

- (4) Jim puts sugar in his coffee before he puts in the milk. Sam does just the opposite. Harry uses neither milk nor sugar. Who puts the milk in before the sugar?

Listen again.

Jim puts sugar in his coffee before he puts in the milk. Sam does just the opposite. Harry uses neither milk nor sugar. Who puts the milk in before the sugar?

(空白 約15秒)

- (5) If he cuts the paper in half, it is too big; if in fourths, it is too small; if in thirds, it is the wrong shape. The wrong shape will be all right. In how many pieces will he cut the paper?

Listen again.

If he cuts the paper in half, it is too big; if in fourths, it is too small; if in thirds, it is the wrong shape. The wrong shape will be all right. In how many pieces will he cut the paper?

(空白 約15秒)

- (6) The Smiths celebrated their 25th wedding anniversary in 1976. When were they married?

Listen again.

The Smiths celebrated their 25th wedding anniversary in 1976. When were they married?

(空白 約15秒)

- (7) Marian is having a birthday party today. She has invited her friends to come. The children took off their shoes and left them in the front hall. There are 20 children at the party. How many shoes are in the hall?

Listen again.

Marian is having a birthday party today. She has invited her friends to come. The children took off their shoes and left them in the front hall. There are 20 children at the party. How many shoes are in the hall?

(空白 約15秒)

- (8) As Henry was driving up to the traffic light it was yellow. By the time he got to it, the light had changed, and he had to stop the car. What color was the traffic light when Henry got to it?

Listen again.

As Henry was driving up to the traffic light it was yellow. By the time he got to it, the light had changed, and he had to stop the car. What color was the traffic light when Henry got to it?

(空白 約15秒)

- (9) There are only a few clouds in the sky. The sun is shining brightly. The wind is blowing from the east. There is smoke rising from the chimneys. In what direction would the smoke be blown?

Listen again.

There are only a few clouds in the sky. The sun is shining brightly. The wind is blowing from the east. There is smoke rising from the chimneys. In what direction would the smoke be blown?

(空白約 15秒)

- (10) Andrew has gone outside to play. It is very hot and he must wear his hat. While he is outside, his shadow is the shortest it can be. Where is the sun?

Listen again.

Andrew has gone outside to play. It is very hot and he must wear his hat. While he is outside, his shadow is the shortest it can be. Where is the sun?

(空白 約15秒)

以上で、「聞きとりのテスト」をおわります。

(全所要時間： 12分)

(5) 傍線部 e はどう読むか。次の 1~6 のうち、書き下し文としてもっとも適当なものを一つ選べ。

- 1 利百ならざるに、法を変へず。功十ならざるに、器を易へず。
- 2 利百ならざるに、法を変へざるか。功十ならざるに、器を易へざるか。
- 3 利百ならずんば、法を変へず。功十ならずんば、器を易へず。
- 4 利百ならずして、法を変へず。功十ならずして、器を易へず。
- 5 利百ならざれども、法を変へじ。功十ならざれども、器を易へじ。
- 6 利百ならざれども、法を変へざらんや。功十ならざれども、器を易へざらんや。

(6) 次にあげる人物 1~6 のうち、法を変えない立場をとったとされている人物については A の方に、法を変える立場をとったとされている人物については B の方に、それぞれマークせよ。

- | | | | | | |
|--------|--------|--------|------|------|------|
| 1 殷の紂王 | 2 周の武王 | 3 斉の桓公 | 4 孝公 | 5 甘竜 | 6 杜染 |
|--------|--------|--------|------|------|------|

(7) 衛鞅が特に強調しようとしているのは、どのようなことか。次の 1~6 のうち、正しいもの二つを選べ。番号の順にマークすること。

- 1 疑行無名、疑事無功。
- 2 愚者闇於成事、知者見於未萌。
- 3 論至徳者不和於俗、成大功者不謀於衆。
- 4 苟可以強國、不法其故、苟可以利民、不循其礼。
- 5 常人安於故俗、學者溺於所聞。
- 6 治世不一道、便國不法古。

(8) 本文が載せられている『史記』は、誰によって著わされた書物か。次の 1~8 のうち、正しいものを選べ。

- | | | | | | | | |
|----------|----------|----------|-------|------|-------|------|----------|
| 1 孔子(孔丘) | 2 孟子(孟軻) | 3 荀子(荀況) | 4 司馬遷 | 5 韓愈 | 6 柳宗元 | 7 蘇軾 | 8 朱子(朱熹) |
|----------|----------|----------|-------|------|-------|------|----------|

(1) 傍線 a の「議」はどういう意味か。次の 1~6 のうち、もっとも適当なものを一つ選べ。

- 1 主張する
- 2 支持する
- 3 調査する
- 4 攻略する
- 5 非難する
- 6 同盟する

(2) 傍線部 b はどういう意味か。次の 1~6 のうち、もっとも適当なものを一つ選べ。

- 1 他人に対して高慢な行動をするものは世間から排斥され、自分ひとり目立とうとするものは民衆から侮られる。
- 2 他人より高い地位につこうとするものは世間から非難され、自分ひとり知名の士になりたいと考えるものは民衆から侮られる。
- 3 他人に損害を与える行動に出るものは世間から排斥され、自分ひとりの孤高な生活を願うものは民衆から侮られる。
- 4 他人よりまさろうとあくせくするものは世間から非難され、自分ひとり知ったかぶりをするものは民衆から侮られる。
- 5 他人よりすぐれた行動をするものは世間から非難され、独創的な卓見のあるものは民衆から侮られる。
- 6 他人より高潔な行動をするものは世間から排斥され、自分ひとりの狭い見識しか持たないものは民衆から侮られる。

(3) 空欄

にはどのような語を入れたらよいか。次の 1~6 のうち、もっとも適当なものを一つ選べ。

- 1 雖^レ然^キ ヘキリト
- 2 而^レ後^ニ ム
- 3 既^ニ而^{シテ} ニシテ
- 4 是^ヲ以^テ ヲ
- 5 何^ヲ以^テ ヲ
- 6 何^レ為^ス ニシテ

(4) 傍線 c・d の「聖人」は、それぞれのどのような理想人物として述べられているか。次の 1~6 のうち、もっとも適当なものを一つずつ選べ。

- 1 聖人は大衆の意見に耳を傾けるものだ。
- 2 聖人は従来やり方に従って教え導くものだ。
- 3 聖人は人びとを教え導くものだ。
- 4 聖人は無為自然を尊ぶものだ。
- 5 聖人はこの上なく高い徳をそなえたものだ。
- 6 聖人は従来やり方にとらわれないで実利を優先させるものだ。

而霸^{タリ}。知者^ハ作法^リ、愚者^ハ制焉^{セラル}。賢者^ハ更^カ礼^ヲ、不肖者^ハ拘^{セラルト}焉[。]「杜摯^ト曰^{ハク}、「利^ニ

不^レ百、不^レ變^レ法。功不^レ十、不^レ易^レ器。法^レ古無^ク過、循^レ礼無^{シト}邪。」衛鞅^{ハク}曰^{ハク}、「治^{ムルハ}

世不^レ一^ニ道、便^レ国不^レ法^ラ古。故湯武不^レ循^レ古而王^{タリ}、夏殷不^レ易^レ礼而亡^{ボウブ}。

反^{スルニ}古者不^レ可^{カラ}非^{トス}而循^フ礼者不^レ足^{ラトスルニ}多^ク。孝公^{ハク}曰^{ハク}、「善^{シト}。」以^テ衛鞅^ヲ為^シ左庶

長^{トフヒニム}、卒^ニ定^ム變^レ法^ノ之^ノ令^ヲ。

〔注〕 ○衛鞅―姓は公孫、名は鞅。衛の公孫の出身なので衛鞅といい、商の地に封ぜられたので商君・商鞅とも呼ばれた。○「不^レ法^ニ其^レ故^ニ」・「安^ニ於^テ故^ニ俗^ニ」―この場合の「故」はいずれも「故習」の「故」と同じ意味。○甘竜・杜摯―いずれも孝公の臣。○三代―夏・殷・周の三王朝をさす。○五霸―春秋時代の五人の覇者(斉の桓公・晋の文公・秦の穆公・宋の襄公・楚の荘王)のこと。○湯武―殷の湯王と周の武王。それぞれ殷・周創業の天子。○夏殷―夏の桀王と殷の紂王。それぞれ夏・殷亡国の天子。○左庶長―官名。

V 次の文章は『史記』商君列伝の一節であって、初期の法家に属する思想家衛鞅（？）——前三三八）が秦に遊説し、孝公（前三六一—三三八在位）に用いられるようになったときのことを記している。これを読んで、後の問に答えよ。（設問のついで送り仮名を省いたところがある。）

孝公既用^ニ衛鞅^ヲ、鞅欲^{スル}變^{セント}法^ヲ、恐^ル天下^ノ議^ヲ己^ヲ。衛鞅曰、「疑行無^ク名、

疑事無^ク功。且夫有^ニ高^キ人之行^者、固見^レ非^ニ於世^ニ有^ニ独^ル知之慮^者、必

見^レ敖^ニ於民^ニ。愚者闇^ニ於成事^ニ、知者見^ニ於未萌^ニ。民不^レ可^ニ与^ル慮^ヲ始^シ、而可^ニ

与^ニ樂^ヲ成^ル。論^ニ至德^者、不^レ和^セ於俗^ニ、成^ニ大功^者、不^レ謀^ニ於衆^ニ。□^c聖人苟^ハ

可^ニ以強^ク國^ヲ、不^レ法^ニ其故^ノ、苟可^ニ以利^ス民^ヲ、不^レ循^ニ其礼^ニ。孝公曰、「善。」甘竜

曰、「不^レ然^ラ。聖人^ハ不^レ易^カ民^ヲ、而教^ヘ知者^ハ、不^レ變^ゼ法^ヲ、而治^ム。因^リ民^ニ、而教^{フル}者^ハ、不^レ

勞^セ而成功^シ、緣^レ法^ニ而治^ム者、吏習^ヒ而民安^レ之^ニ。」衛鞅曰、「竜之所^ハ言^フ、世俗

之言^也。常人安^ニ於故俗^ニ、學者溺^ニ於所^ニ聞^ク。以^テ此^ノ兩者^ヲ居^リ官^ニ守^ル法^ヲ

可^也。非^ズ所^ニ与^ル論^ニ於法^ノ外^ニ也。三代不^レ同^レ礼^ヲ、而王^{タリ}五霸^ハ不^レ同^レ法^ヲ

草
稿
用
紙

- 3 よいことがつきつきに生じてくることを念願しながら
- 4 ひどいことをしないかといつも心配ばかりしながら
- 5 へんなふうに思わないでほしいと心の中で祈りながら

- (7) 女主人公に一貫した心情・言動の基調を、もっともよく表わしている言葉を、次の1～5のうちから一つ選べ。
- 1 おほつかなし
 - 2 言ひちぎる
 - 3 思ひやる
 - 4 わびし
 - 5 さすらふ

- (8) 本文は大和物語の一節である。作品としての性格上もっとも共通性の多いものを、次の1～5のうちから一つ選べ。
- 1 栄花物語
 - 2 源氏物語
 - 3 伊勢物語
 - 4 平家物語
 - 5 竹取物語

- (1) a～iは登場人物に付けた記号であるが、次の1～5の組み合わせのうち、同一人物と思われるものを一つ選べ。
- | | |
|---|-----|
| 1 | bとh |
| 2 | aとf |
| 3 | dとe |
| 4 | aとg |
| 5 | bとi |

- (2) 空欄 にどのような語を入れたらよいか。次の1～5のうち、もっとも適当なものを一つ選べ。
- | | | | | | | | | | |
|---|-------|---|------|---|------|---|------|---|-------|
| 1 | いとほしき | 2 | いたはし | 3 | 心やすき | 4 | をかしき | 5 | あはれなれ |
|---|-------|---|------|---|------|---|------|---|-------|

- (3) 波線部A「心ともえやらす」とはどういう意味か。次の1～5のうち、もっとも適当なものを一つ選べ。

- | | |
|---|-----------------------|
| 1 | 自分の気持が燃えあがらないので |
| 2 | 自分勝手に手紙を出すわけにもいかず |
| 3 | 自分の一存で人を派遣することもできないので |
| 4 | 自分の気持をどう晴らしようもなく |
| 5 | 気持を先方に通ずることもできないので |

- (4) 「ひとりして」の歌には「かけことば」の修辞法が一箇所用いられている。それはこの歌の何句目か。

- | | | | | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| 1 | 第一句 | 2 | 第二句 | 3 | 第三句 | 4 | 第四句 | 5 | 第五句 |
|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|

- (5) 波線部B「え知らざらむ」および波線部D「言ひければ」の主語はそれぞれ何か。問(1)のa～iの記号を用いて、それぞれ一つ選べ。ただし同一人物が二つ以上の記号を有する場合は、アルファベット順で上位の記号だけを指摘すること。

- (6) 波線部C「うたであるさまにもこそあれと念じつつ」の解釈として、次の1～5のうち、もっとも適当なものを一つ選べ。
- | | |
|---|-----------------------------|
| 1 | むしろひどい有様でいてくれるほうがよいとさえ望みながら |
| 2 | まずいことになると思いがまんしながら |

IV 次の文章を読み、後の問に答えよ。

津の國の難波^はのわたりに、家して住む人ありけり。あひ知りて年ごろありける。女^aも男^bもいとげすにはあらざりけれど、年ごろわたらひなどいともわろくなりて、家もこぼれ、使ふ人などもとくある所にいきつつ、ただふたり住みわたるほどに、さすがにげすにしあらねば、人に雇はれ使はれもせず、いとわびしかりけるままた、思ひわづらひて、ふたり言ひけるやう、「なほいとかうわびしうてはえあらじ」、男は「かくはかなくてのみいますかめる見すては、いづちもいづちもいくまじ」、女は「男をすてはいづちかいかむ」とのみ言ひわたりけるを、男「おのれはとてもなくても経^なむ。女のかく若きほどにかくてあるなむ、いと 。京^cのぼりて宮仕へをせよ。よろしきやうにもならば、われをもとぶらへ。おのれも人のごとくもならば、かならずたづねとぶらはむ」など、泣く泣く言ひちぎりて、たよりの人に言ひつきて、女は京に來にけり。さしはへいづこともなくて來たれば、このつきて來し人のもとにあて、いとあはれと思ひやりけり。前に荻^もすすきいと多かる所になむありける。風など吹けるに、かの津の國を思ひやりて、いかであらむなど、かなしくてよみける、

ひとりしていかにせましとわびつればそよとも前の荻ぞこたふる

となむひとりごちける。さてとかう女さすらへて、ある人^dのやむごとなき所に宮仕へしたり。さて宮仕へしありくほどに、装束^{まゐら}きよげにし、むつかしきことなどもなくてありければ、いとよげに顔かたちもなりにけり。かかれど、かの津の國をかた時も忘れず、いとあはれと思ひやりけり。たより人に文つけてやりたりければ、「さいふ人も聞こえず」など、いとはかなく言ひつつ來けり。わがむつまじう知れる人もなかりければ、心^Aともえやらす、いとおぼつかなく、いかがあらむとのみ思ひやりけり。

かかるほどに、この宮仕へする所の北^fの方うせたまうて、これかれある人を召し使ひたまひなどするうちに、この人を思うたまひけり。思ひつきて妻^めになりけり。思ふこともなくめでたげにてあたるに、ただ人しれず思ふことひとつなむありける。いかにしてあらむ、あしうてやあらむ、よくてやあらむ、わが在り所^Bもえ知らざらむ、人をやりてたづねさせむとすれど、うたてわがを^hと聞きて、うたてあるさまにもこそあれと念じつつありわたるに、なほいとあはれにおほゆれば、をどこに言ひけるやう、「津の國といふ所のいとをかしかなるに、いかで難波^はに祓^{はら}しがてらまからむ」と言ひければ、「いとよきこと。われももろともだ」と言ひければ、「そこにはなものしたまひぞ。おのれひとりまからむ」と言ひて、いでたぢていにけり。

〔注〕 *げす―身分の低い者。 *とく―財産。 *とてもなくても―どうにでもして。 *さしはへ―特別に。

4 自然主義作家として、田舎の生活の貧しさを描いて、社会的な告発の気持をこめようとした。

(5) 次の(ア)(イ)において、「明星」にもっとも関係の深いものをそれぞれ1〜5のうちから一つ選べ。

(ア) 思潮

- 1 自然主義
- 2 理想主義
- 3 浪漫主義
- 4 写実主義
- 5 古典主義

(イ) 作品

- 1 みだれ髪
- 2 赤光あかひかり
- 3 道程
- 4 月に吠えるおぼろげ
- 5 わがひとに与ふる哀歌

(3) 次の(ア)～(ウ)の間に対して、それぞれ1～4のうちからもっとも適当なものを一つ選べ。

(ア) 傍線部⑧はなぜ「しみじみと胸に泌みた」のか。

- 1 自分にそういう経験があり、その気持がよくわかったから。
- 2 自分に経験はないが、その「歌の心」が悲しいほどわかったから。
- 3 今の自分の環境とその歌の世界とが不思議に似ていたから。
- 4 今夜、石川と議論し感情がたかぶっていたから。

(イ) 傍線部⑨「湧いて来る思いを味わうべく余儀なくされた」とはどういう意味か。

- 1 おさえてもおさえても湧きあがってくる自分の感情を喜びとともに味わった。
- 2 つぎつぎと湧きあがってくる思いに抗しきれず、それに流されてしまった。
- 3 自分とその歌の世界とのへだたりを思い、ついつい湧きあがってくる悲しみにやむをえずしたがいながら味わった。
- 4 つぎつぎと湧きあがってくる思いをかみしめざるをえなかった。

(ウ) 傍線部⑩で、二時になっても、「床の中に眼を大きく明いて居た」のはなぜか。

- 1 雨滴と天井を渡る鼠の音に眠れないままに、自分の人生の行くすえを思いわずらって。
- 2 「明星」の世界に憧れ、かえりみておのれの世界の寂しさに耐えきれないで。
- 3 おのれの中にある才能を思い、「明星」などを中心とする中央の世界に憧れて。
- 4 老いた両親や自分の現状、行くすえなどに思いをはせ、耐えきれなくなり。

(4) 本文は田山花袋の小説「田舎教師」の一節である。傍線部1～5のような部分で、作者は何を表わしたかったのか。次の1～4のうち、もっとも適当なものを一つ選べ。

- 1 田舎教師である主人公清三の気がつかない生活の暗さやわびしさを描き出したかった。
- 2 主人公清三が憧れている文学の世界のはなやかさが、きわめて遠いものであることを印象づけたかった。
- 3 自然主義作家田山花袋として、自然や人事をできるだけありのままに描き出したかった。

いつまで憶れて居たってしかたがない。「もう寝よう」と思って、起き上って、暗い洋燈^{ランプ}を手にして、父母の寝て居る夜着の櫃^このところを
 通って、厠^{かみ}に行った。手を洗おうとして雨戸を一枚明けると、縁側に置いた洋燈がくっきりと闇を照らして、濡^ぬれた南天の葉に雨の降りか
 かるのが光って見えた。

障子を閉^たてる音に母親が眼を覚まして、

と言^いって、寝返りをして、

C

で、蒲団^{ふとん}の中に入って、洋燈をフッと吹き消した。

(1) 空欄 **A** にはどのような語を入れたらよいか。次の1~4のうち、もっとも適当なものを一つ選べ。

- 1 あまつさえ 2 かててくわえて 3 さらぬだに 4 のみならず

(2) 空欄 **B** および **C** をうずめるために、次の1~8の会話文を二通りの会話に組みたて、それぞれ正しい順序で答えよ。
 は五つ、**C** には四つ入る。(ただし、会話文中、一つだけは二回使用する) **B** に

- 1 「二時が今鳴った」
- 2 「今、寝るところなんだ」
- 3 「あゝ」
- 4 「清三かえ」
- 5 「早くお寝よ……明日が眠いよ」
- 6 「二時……もう夜が明けてしまっじゃないか。お寝よ」
- 7 「もう何時だえ」
- 8 「まだ寝ずに居るのかえ」

Ⅲ 次の文章を読み、後の問に答えよ。

夜はもう十二時を過ぎた。雨滴の音はまだして居る。ときどきザッと降って行く氣勢も聞き取られる。城址の沼のあたりで、むぐりの鳴く声が寂しく聞こえた。

一室には三つ床が敷いてあった。小さい丸鬚と禿げた頭とが床を並べてそこに寝て居た。母親はついさきほどまで眼を覚まして居て、「明日眠いから早くおやすみよ」と幾度となく言った。「ランプを枕元につけて置いて、つい寝込んでしまうと危ないから」とも忠告した。その母親も寝てしまつて、父親の躰に交じつて、微かな呼吸がスウスウ聞こえる。

らずに居たので、ホヤが半分ほど黒くなって、光線が厭に赤く暗い。清三は借りて来た「明星」をほとんどわれを忘れるほど熱心に読み耽った。

榕それも梅もさなりき白かりきわが罪問はぬ色桃に見る

わが罪問わぬ色桃に見る、桃に見る、あの赤い桃に見ると歌った心がしみじみと胸に沁み込んだ。不思議なようでもあるし、不自然のようにも考えられた。またこの不思議な不自然なところに新しい泉が滾々として湧いて居るようにも思われた。色桃に見ると四の句と五の句を分けたところに言うに言われぬ匂いがあるようにも思われた。かれは一首ごとに一頁ごとに本を伏せて、湧いて来る思いを味わうべく余儀なくされた。この瞬間には昨夜役場に寝た侘しさも、彌勒から羽生まで雨にそぼぬれて来た辛さも全く忘れて居る。ふと石川と今夜議論をしたことを思い出した。あんな粗い感情で文学などをやる気が知れぬと思った。それに引きかえて、自分の感情のかく鮮やかに新しい思潮に触れ得るのをわれと自ら感謝した。渋谷のさびしい奥に住んで居る詩人夫妻の侘住居のことなどを想像して見た。なんだか悲しいようにもあれば、羨ましいようにもある。かれは歌を読むのをやめて、体裁から、組み方から、表紙の絵から、すべて新しい匂いに満たされたその雑誌に憧れ渡った。

時計が二時を打つても、かれはまだ床の中に眼を大きく明いて居た。鼠の天井を渡る音が騒がしく聞こえた。

雨は降ったり舞ったりして居た。人の心を他界に誘うようにザッとさびしく降って通るかと思うと、びしょびしょと雨滴の音が軒の樋を伝って落ちた。

草
稿
用
紙

(5) 傍線部d「真の遠方への感覚」と同じ意味のものは、以下につづく次の語句の中のどれか。もっとも適当なものを一つ選べ。

- 1 遙かなもの
- 2 遠い地平
- 3 不可視の美
- 4 きこえざる音楽
- 5 人間の視覚と聴覚

(6) 全文の要旨として、もっとも正しいと思われるものを、次の文の中から一つ選べ。

1 人間は、「立つ」ことによって大地との和解を喪失したが、それを代償として、真の遠方への感覚を獲得することができた。

2 「立つ」ことは人間の重心を高くし、四足の動物のように重心の低いものにくらべて、行動力がいちじるしくそこなわれることになった。

3 人間が大地への強い憧憬を持っているのは、「立つ」こと、「歩む」こと以前に、「横たわる」状態があったからである。

4 人間は、「立つ」ことによって手を解放した結果、合理主義や科学を獲得することができた。

5 人間は、「立つ」ことによって得た自由を、「歩み」や舞踏によって、より確実なものにすることができた。

茫とした大荒と無限の宇宙を前にして、人間の観るものは貧しいが、しかしあらゆる方向に人間は生きることが出来る。立つことは眼と耳とを地からひきはなし、^d真の遠方への感覚とする。人間の視覚と聴覚とは、身辺のものから人をかりたてて、遙かなものへとおしやり、遠い地平から何万光年の星々の光に至り、さらに不可視の美を見たり、きこえざる音楽を聴く意味深いものとする。

〔注〕 *太母―万物を産み出す根源。 *大荒―そら、虚空などのこと。

- (1) 文中の空欄 イ から ホ までに、次の語のうちから適當なものを選んで入れよ。ただし、同一語を二度使ってはいけな
- い。
- 1 もともと 2 しかし 3 ましてや 4 かつ 5 そして

(2) 文中の A ↓ B ↓ C の組み合わせを①とし、D ↓ E の組み合わせを②とする。①および②に入れるものとして、次のそれぞれの組み合わせのうち、どれがもっとも適當か。一つを選べ。

- ① 1 「傾く」↓「歩む」↓「立つ」 2 「立つ」↓「傾く」↓「歩む」 3 「立つ」↓「移ろう」↓「歩む」
- 4 「歩む」↓「立つ」↓「傾く」 5 「立つ」↓「傾く」↓「動く」
- ② 1 過去↓現在 2 過去↓未来 3 現在↓過去
- 4 現在↓未来 5 未来↓過去

(3) 傍線部 a「それ」および c「そこ」は、それぞれ次のどの語句を受けるか。もっとも適當なものを一つ選べ。

- | | | | | | |
|---|----------|-----------|--------|--------|----------|
| a | 1 罪障への自由 | 2 人生の虚実の相 | 3 立つこと | 4 手の解放 | 5 浄土への思慕 |
| c | 1 舞踏 | 2 運動 | 3 表現 | 4 空間 | 5 人間 |

(4) 傍線部 bにもっとも近い説明は、文中の傍線部 1 から 4 までのうちのどれか。もっとも適當なものを一つ選べ。

II 次の文章を読み、後の問に答えよ。

何よりも人間の自然としての「立つ」ことは、常に一切の哀愾を収めた世界に対するひとつの抵抗である。人間を取りかこむものろの対象は、人間よりはるかに安らかに、地の上に横たわっている。名園のひとつの石を前にした時、われわれが感じるのはそのもつ安定感によって心を洗われることである。

「運命の歌」にあるように、「されどわれらに与えられたるは、いかなる場所にも休らざる事」なのである。「立つ」人間には、浄土への思慕はあっても、悉皆、安らいというものはない。人生の虚実の相を前にして、平安の内に「立場」を維持することを学ばねばならないのである。立つことによって人間は手を解放し、

人間には、冷たい太母としての大地へのあらがいがたい憧憬があり、交情がある。

A ことは人間を地よりひきはなし、あらゆるものに対して距離をとらせ、その相互の関係を探ねる合理主義を与えた。科学はこ

こにはじめて可能になる。しかし他方、人間はたえず直立しているだけで、

られ、心のかすかな通いもできなくなる印象を与えてしまう。およそすべての現象、天地の消息ですら、常に

うか。立ちながらも、事物や他者に

拡大し、

ことが出来る。その行人の愛情は、移ろうものであるから、そのまま人間のもろさである。中国の儒者が「多感をおそれず、愛感をおそれる」

と戒めているところであろう。

「立つ」ことの内に得られた自由は「歩み」の内に拡げられる。しかしその自由とともに、転落の脅威も育つ。人間は片足で立っただけでも

よろめいてしまう。動物の四足は安定がよく、重心が低い。走っている犬でも、虎でも、その重心は安定している。歩む人間は身体が前方

へ傾き、未来へと振られる形で動く。重心は一瞬失われるが、転倒がはじまるうというその瞬間に前方に足が伸ばされ、ささやかな過去が

生まれる。人間の歩みはいわば信用の上になりたつ運動である。ためらうものは身体の動きをとめようとすし、信ずるものは足下を気に

せず歩みをなめらかにすすめ、

しげもなく振りまき、自由な躍動の内に均衡を保っている運動とその表現に、驚嘆のまなざしをおくる。

「立つ」人間には多くの空間がひらかれる。人間は、人生観、世界観というように、文字通り人生や世界をそこで「観る」のである。生の蒼

草
稿
用
紙

(4) 次のうちで、点線部、同一律による逆説に当たる例は○の方に、それ以外のものは×の方にそれぞれマークせよ。

- 1 タダほど高いものはない
- 2 急いいては事をし損じる
- 3 負けるが勝
- 4 沈黙は金
- 5 悪いやつほどよく眠る
- 6 かわいさ余あって憎にくみが百倍

(5) 空欄 内に入れるべき文として、次の1〜4のうち、もっとも適当なものを一つ選べ。

- 1 この性格は近代主義者にとどまらず、古典主義者にとってもきわめて肝要なものである。
- 2 この性格は近代芸術にかぎらず、ある程度まで芸術に普遍的なものである。
- 3 この性格は近代性に不可欠な前提であるのみならず、また伝統性にとっても欠くことのできぬものである。
- 4 この性格は逆説的な表現の如何いかんにかかわらず、古今を通じて動かしがたい芸術性を含むものである。

(6) この文章全体で、作者がもっとも力点を置いている問題は何か。次の1〜5のうち、正しいと思うものを一つ選べ。

- 1 ことばと神
- 2 自然の造型力
- 3 教養の意味
- 4 近代芸術と伝統
- 5 芸術における自然

たった。芸術上の伝統とは、この過剰の芸術が、想像の働く以前に自然を規定してかかることであり、近代芸術とは、かく芸術性の高度の造型性を獲得せんとする芸術である。かかるとき、近代主義とは伝統であるという同一律による逆説を弄するの大胆すぎるとしても、すくなくとも伝統は、近代性にとって不可欠な前提であることは認めてもらえらると思ふのである。

しかも、。たとえば蕪村という存在は、芭蕉という伝統性に対する近代性であったことは説明をくり返すまでもあるまい。蕪村の想像に浮かんだ影像は、かれの芭蕉に対する教養——この教養という字をあまり理知的な意味で解さないように——に支配されたるうが、この影響物をさらに逆に己が教養で再建したところに、かれの創造性があるのだ。

(1) 傍線部 a ~ g と同一の漢字を使うものを、次の各群中から一つずつ選べ。

<p>e</p> <table border="0" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr> <tr><td>動物のキ</td><td>犯罪の謀キ</td><td>一時の便キ</td><td>金のキ</td></tr> </table>	4	3	2	1	動物のキ	犯罪の謀キ	一時の便キ	金のキ	<p>a</p> <table border="0" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr> <tr><td>受験対サク</td><td>圧サク</td><td>興味サク</td><td>性的倒サク</td></tr> </table>	4	3	2	1	受験対サク	圧サク	興味サク	性的倒サク	<p>b</p> <table border="0" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr> <tr><td>服シ</td><td>シ</td><td>利シ</td><td>シ</td></tr> <tr><td>シ</td><td>シ</td><td>シ</td><td>シ</td></tr> <tr><td>シ</td><td>シ</td><td>シ</td><td>シ</td></tr> <tr><td>シ</td><td>シ</td><td>シ</td><td>シ</td></tr> </table>	4	3	2	1	服シ	シ	利シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	<p>c</p> <table border="0" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr> <tr><td>謀ホ</td><td>ホ</td><td>ホ</td><td>ホ</td></tr> <tr><td>ホ</td><td>ホ</td><td>ホ</td><td>ホ</td></tr> <tr><td>ホ</td><td>ホ</td><td>ホ</td><td>ホ</td></tr> <tr><td>ホ</td><td>ホ</td><td>ホ</td><td>ホ</td></tr> </table>	4	3	2	1	謀ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ																			
4	3	2	1																																																																											
動物のキ	犯罪の謀キ	一時の便キ	金のキ																																																																											
4	3	2	1																																																																											
受験対サク	圧サク	興味サク	性的倒サク																																																																											
4	3	2	1																																																																											
服シ	シ	利シ	シ																																																																											
シ	シ	シ	シ																																																																											
シ	シ	シ	シ																																																																											
シ	シ	シ	シ																																																																											
4	3	2	1																																																																											
謀ホ	ホ	ホ	ホ																																																																											
ホ	ホ	ホ	ホ																																																																											
ホ	ホ	ホ	ホ																																																																											
ホ	ホ	ホ	ホ																																																																											
<p>f</p> <table border="0" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr> <tr><td>無事セ</td><td>セ</td><td>セ</td><td>事</td></tr> <tr><td>イ</td><td>イ</td><td>イ</td><td>イ</td></tr> <tr><td>イ</td><td>イ</td><td>イ</td><td>イ</td></tr> <tr><td>イ</td><td>イ</td><td>イ</td><td>イ</td></tr> </table>	4	3	2	1	無事セ	セ	セ	事	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	<p>g</p> <table border="0" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr> <tr><td>金テ</td><td>宿テ</td><td>弱</td><td>点</td></tr> <tr><td>キ</td><td>テ</td><td>点</td><td>テ</td></tr> <tr><td>を</td><td>キ</td><td>を</td><td>キ</td></tr> <tr><td>射</td><td>を</td><td>指</td><td>石</td></tr> <tr><td>と</td><td>打</td><td>テ</td><td>を</td></tr> <tr><td>め</td><td>倒</td><td>キ</td><td>う</td></tr> <tr><td>た</td><td>した</td><td>された</td><td>が</td></tr> </table>	4	3	2	1	金テ	宿テ	弱	点	キ	テ	点	テ	を	キ	を	キ	射	を	指	石	と	打	テ	を	め	倒	キ	う	た	した	された	が	<p>d</p> <table border="0" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr> <tr><td>ヨ</td><td>憲</td><td>ヨ</td><td>建</td></tr> <tr><td>ウ</td><td>法</td><td>ウ</td><td>築</td></tr> <tr><td>疑</td><td>ヨ</td><td>電</td><td>ヨ</td></tr> <tr><td>者</td><td>ウ</td><td>気</td><td>ウ</td></tr> <tr><td></td><td>護</td><td></td><td>式</td></tr> </table>	4	3	2	1	ヨ	憲	ヨ	建	ウ	法	ウ	築	疑	ヨ	電	ヨ	者	ウ	気	ウ		護		式
4	3	2	1																																																																											
無事セ	セ	セ	事																																																																											
イ	イ	イ	イ																																																																											
イ	イ	イ	イ																																																																											
イ	イ	イ	イ																																																																											
4	3	2	1																																																																											
金テ	宿テ	弱	点																																																																											
キ	テ	点	テ																																																																											
を	キ	を	キ																																																																											
射	を	指	石																																																																											
と	打	テ	を																																																																											
め	倒	キ	う																																																																											
た	した	された	が																																																																											
4	3	2	1																																																																											
ヨ	憲	ヨ	建																																																																											
ウ	法	ウ	築																																																																											
疑	ヨ	電	ヨ																																																																											
者	ウ	気	ウ																																																																											
	護		式																																																																											

(2) 二重傍線部「意識の中にある自然」を1、それと対照的な「意識の外にある自然」を2とすれば、傍線部イ ~ ホの「自然」は、それぞれどちらに属するか。正しいと思ふ方にマークせよ。

(3) 波線部に「ことばは……人為的なものとなった」とあるが、この場合の「人為」と対立的な関係にある語を本文中から選ぶとすれば、次のうちではどれがもっとも適当か。

- 1 太初
- 2 伝統
- 3 讃歌
- 4 神(自然)
- 5 一回性

国 語

I 次の文章を読み、後の問に答えよ。

近代人は己がサク乱にいや気がさすと、よくことも無げに「自然に還れ」を口にす。しかもそれはなかなか実現されない。それほどわれわれは、文化の虚シクに骨の髄まで腐ってしまったのか。否、あり様は、われわれは還ろうにもそのかみの自然を持たないのだ。自然はかつてあったように、粗野ホン放な外敵でもなければ、温ヨウをもって迎えてくれる旧知でもない。かれは寸断され、馴化されて、われわれの教養の中に、形を変えてはいつているのだ。かかるとき、自然に還れというスローガンは、見失った己が姿にあこがれ呼ぶ文化人のわびしいわめき声に外ならない。

かくて近代芸術とは、外に出て自然を格好な容器に生態のまま捕えてくるのではなく、自己の中にある自然に向かって、こちらはただその適切な名で呼びさすだけで、あとは先方にその昔のありし姿を語らせることである。なぜなら、自然を語るわれわれは、あまり多くのことばを持ち過ぎていて、かえってそこに形象を喚び起こす力がなく、むしろわれわれの意識の中にある自然に適当な刺激を与えて、それみずからの造型力の働くにまかせた方が、セイ妙にしてテキ確な影像が得られるのだ。マチスの絵を見たまえ。あれは印象派がその前代にあつて光線の色彩的分析を完成し、外光を絵画的教養の中に完全に捕ええたからこそ可能なのだ。すなわち、かれの絵の持つ単純な色彩のどぎつい対象や形象のデフォルマシオン(変形)は、自然から直接に得たというよりも、印象派の手法の完璧の中から汲み出した自然であつて、しかもかれにとっては、その方が生の自然よりもより自然なのだ。かれの創造性は、教養の中にこの自然を発見するところにある。

こう書いてきて、自分で気がつくのだ。すなわち、わたしがここいらで述べている教養とは、伝統によってわれわれの中に獲得された自然に外ならないと。

太初にことばがあつた。そしてことばは、神(自然)とともにあつたのだ。そのとき、ことばとは神に対する讃歌であり、それでよかったのだ。しかるに、新なる朝ごとに新なる神が生まれて——じつはそんな気がして——、讃歌が朝ごとにくり返されねばならなくなつたとき、ことばはようやく芸術という一回性の範疇を帯び、したがって人為的なものとなつた。そして天才の努力のおかげで、人類は朝ごとの讃歌にこと欠かかなかったが、時に新な神を発見せぬ朝もあるままに、芸術はようやくその始原的な要求に対して過剰な状態を呈するに

国語 解答用紙控

I	(1)	a	1>2>3>4>
		b	1>2>3>4>
		c	1>2>3>4>
		d	1>2>3>4>
		e	1>2>3>4>
		f	1>2>3>4>
	(2)	イ	1>2>
		ロ	1>2>
		ハ	1>2>
	(3)	ニ	1>2>
		ホ	4>2>
	(4)	1	1>2>3>4>5>
		2	1>2>3>4>5>
		3	1>2>3>4>5>
		4	1>2>3>4>5>
		5	1>2>3>4>5>
6		1>2>3>4>5>	
(5)		1>2>3>4>	
(6)		1>2>3>4>5>	

III	(1)	A	1>2>3>4>
		D	1>2>3>4>5>6>7>8>
			1>2>3>4>5>6>7>8>
	(2)	D	1>2>3>4>5>6>7>8>
			1>2>3>4>5>6>7>8>
		C	1>2>3>4>5>6>7>8>
			1>2>3>4>5>6>7>8>
	(3)	(7)	1>2>3>4>
		(4)	1>2>3>4>
	(4)	(7)	1>2>3>4>5>
		(4)	1>2>3>4>
	(5)	(7)	1>2>3>4>5>
		(4)	1>2>3>4>5>

IV	(1)		1>2>3>4>5>
	(2)		1>2>3>4>5>
	(3)	A	1>2>3>4>5>
	(4)		1>2>3>4>5>
	(5)	B	a>b>c>d>e>f>g>h>i>j>
		D	a>b>c>d>e>f>g>h>i>j>
	(6)	C	1>2>3>4>5>
	(7)		1>2>3>4>5>
(8)		1>2>3>4>5>	

II	(1)	イ	1>2>3>4>5>
		ロ	1>2>3>4>5>
		ハ	1>2>3>4>5>
		ニ	1>2>3>4>5>
		ホ	1>2>3>4>5>
	(2)	㊶	1>2>3>4>5>
		㊷	1>2>3>4>5>
	(3)	a	1>2>3>4>5>
		c	1>2>3>4>5>
	(4)	b	1>2>3>4>
	(5)	d	1>2>3>4>5>
	(6)		1>2>3>4>5>


V	(1)	a	1>2>3>4>5>6>
	(2)	b	1>2>3>4>5>6>
	(3)		1>2>3>4>5>6>
	(4)	c	1>2>3>4>5>6>
		d	1>2>3>4>5>6>
	(5)	e	1>2>3>4>5>6>
	(6)	1	A>B>
		2	A>B>
		3	A>B>
		4	A>B>
		5	A>B>
		6	A>B>
	(7)		1>2>3>4>5>6>
		1>2>3>4>5>6>	
(8)		1>2>3>4>5>6>7>8>	

実地研究試験問題

国語

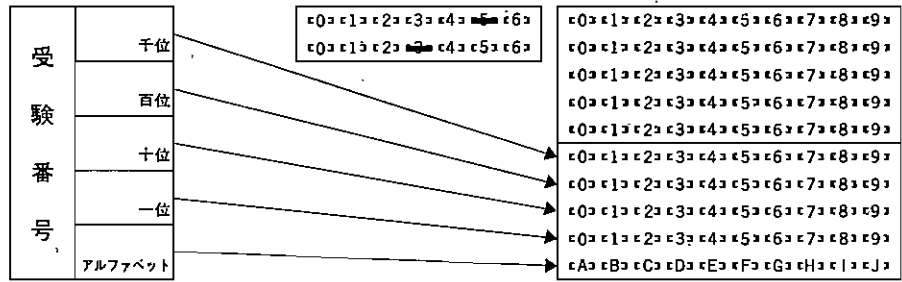
昭和51年10月10日 9時30分～11時30分

注意事項

- 1 合図があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 2 本冊子は、23 ページあります。ページの脱落等があった場合には申し出て下さい。
- 3 解答用紙には受験番号が印刷してあります。受験票の受験番号と異っている場合には申し出て下さい。また汚れのあった場合には申し出て下さい。
- 4 解答用紙上部の所定欄に氏名と受験番号を記入し、矢印で示した部分に受験番号をマークして下さい。
- 5 解答は指定された解答欄にマークし、その他の部分には何も書いてはいけません。訂正する場合には必ず消しゴムで完全に消し、消しきずはきれいに取り除いて下さい。
- 6 解答用紙は鉛筆(HB)でマークした部分を機械で直接読みとりますから、下記のマークの例を正しく守って下さい。またマークの濃さは、解答用紙下欄にある例を参照して下さい。
(例)  わくの中を正確にぬりつぶして下さい。
- 7 解答用紙を汚したり、折りまげたりしないで下さい。
- 8 本冊子には草稿用紙、解答用紙控が入っているので、適宜利用して下さい。
- 9 本冊子は持ち帰って下さい。

生物解答用紙

氏名 (カタカナ)	
--------------	--



〔注意事項〕

1. 氏名はカタカナで受験番号は算用数字とアルファベットで記入して下さい。
2. 受験番号はさらに所定欄に正しくマークして下さい。受験番号マーク欄の上段部分は受験者に関係ありません。
3. 解答には必ずHBの黒色鉛筆を使用し、所定の欄に間違いにマークして下さい。その他には何も書いてはいけません。

I	(1)	ア	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13
		イ	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13
		ウ	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13
		エ	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13
		オ	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13
	(2)	カ	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13
		キ	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13
		ク	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13
		ケ	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13
		コ	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13
	(3)	a	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13
		b	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13
		c	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13
		d	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13
		e	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13

III	A	ア	(A) 1 2 3 4 5 6 7 8	(B) 1 2 3 4 5 6 7 8
		イ	(A) 1 2 3 4 5 6 7 8	(B) 1 2 3 4 5 6 7 8
		ウ	(A) 1 2 3 4 5 6 7 8	(B) 1 2 3 4 5 6 7 8
		エ	(A) 1 2 3 4 5 6 7 8	(B) 1 2 3 4 5 6 7 8
		オ	(A) 1 2 3 4 5 6 7 8	(B) 1 2 3 4 5 6 7 8
		B	ア	<input type="checkbox"/>
	イ		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	ウ		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	エ		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	オ		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	カ		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	キ		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	ク		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	ケ		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

4. 解答を訂正する場合は必ず消ゴムで完全に消し、消くずはきれいに取り除いて下さい。
5. 解答用紙を汚したり、折りまげたりしないで下さい。

II	A	a	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	
		b	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	
		c	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	
		d	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	
		e	ア イ ウ エ オ カ	
	B	a	ア イ ウ エ オ カ	
		b	ア イ ウ エ オ カ	
		C	a	ア イ ウ エ オ カ
			b	ア イ ウ エ オ カ

IV	A	ア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		イ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		ウ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		エ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		オ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		カ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	B	キ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		ク	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		a	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10		
		b	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10		
		c	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10		
		d	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10		
		e	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10		
		f	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10		
		g	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10		

マークの濃さは次の通りです。

- ……適当な濃さ
- ……うすい

